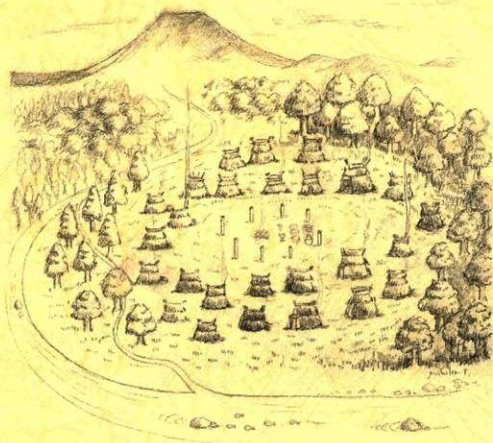


酒呑場遺跡 (第1・2次)

SAKENOMIBA SITE

—酪農試験場増・改築工事に伴う発掘調査報告書—
(遺溝編)



1997.3

山梨県教育委員会
山梨県農務部

酒呑場遺跡 (第1・2次)

SAKENOMIBA SITE

— 酪農試験場増・改築工事に伴う発掘調査報告書 —
(遺溝編)

1997.3

山梨県教育委員会
山梨県農務部



酒呑場遺跡近景（北から）



酒呑場遺跡近景（南から市街地を含む）



彩色土器（G-46グリット出土）

序

本書は、県農務部酪農試験場新・改築工事に先立って1995・1996年度の両年にわたって行われた、山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条に所在する酒呑場遺跡の発掘調査報告であります。

酒呑場遺跡が初めて注目され出したのは、1930（昭和6）年に山梨懸より刊行された『史跡名勝天然記念物調査報告』第五輯に記載されたのが始まりで、翌昭和7年には北巨摩郡教育會郷土研究部によって考古学的研究方法にのっとり、遺跡を実地調査した調査報告書である『先史原始時代調査』が刊行されるなど、北巨摩地方における郷土教育および文化財保護意識を高揚するといった大きな役割を果たした遺跡であることに注目しなければなりません。また今回ここに報告する調査地点の南側緩傾斜地には、1940（昭和15）年に大山史前学研究所の大山柏氏の他、長坂町出身者である井出左重氏らによって『長坂上条遺跡』として調査されました。これは本県初の学術的発掘調査で、以後これに続く韮崎市の坂井遺跡の調査などに影響を与え、学史的且つ学術的に重要な位置を占めています。

さて本遺跡が位置する八ヶ岳南麓には、旧石器時代以降の各時代において数多くの遺跡が認められる地域であります。その中でもここに報告する酒呑場遺跡の調査は、ほんの一部分に過ぎなかったのですが、当初の予想を覆して縄文時代前期から後期、古墳時代前期の集落跡が認められ、200軒近い住居跡が発見されました。特に中期では環状に遺構が巡る大規模な遺構群と共に、活発な交流や社会構造を考える上で貴重な多数の遺物が発見されるなど、拠点的や集落様相が見受けられ、八ヶ岳を中心に発展を遂げた中部山岳地帯の縄文文化の解明に大きな意味合いを持つ成果を挙げることとなりました。幸い遺跡の位置する地帯の大部分が県有地となっているため、当面の間破壊は免れることと思いますが、残された部分を如何に後世に無傷で伝えていくかが今後の大きな課題と考えております。また今後の調査研究により、本遺跡の全貌が徐々にでも解明されることに期待したいと思います。今回の調査成果が研究の一助となれば幸甚であります。本書を学習や研究の資料としてご利用くださいますようお願いいたします。

最後に報告書を刊行するにあたり、発掘調査や、その後の整理作業に深いご理解を頂いた県農務部農業技術課、ご協力頂いた県酪農試験場、長坂町当局、並びに直接従事された方々に対し、深甚なる謝意を表する次第であります。

1997年3月





山梨県埋蔵文化財センター

所長 大塚 初重

例 言

1. 本報告書は、農務部酪農試験場新・改築工事に先立って、1994（第1次調査）・1995年度（第2次調査）に行った酒呑場遺跡の発掘調査報告書（遺構編）である。
2. 本報告書は野代幸和が編集した。執筆分担は下記のとおりである。
第Ⅰ章、第Ⅱ章の第4節、第Ⅲ～Ⅴ章を野代幸和（調査研究第一課）が、第Ⅱ章の第1～3節を中澤信忠（明治大学学生）が行った。また、自然科学分析で委託した部分については、執筆者を文頭に示した。
3. 分析依頼・委託した部分については、脂肪の分析を(株)ズコーシャ総合科学研究所に、リン酸の分析を県酪農試験場に依頼し、その結果は付編1・2を中野益男（帯広畜産大学）、中野寛子、長田正宏（ズコーシャ総合科学研究所）、付編3を小泉伊津夫（県酪農試験場）が執筆した。
4. 遺物の接合、復元、実測、トレースおよび図版作成にいたる過程において、下記の方々の協力を得た。
平 重蔵・平美与枝・小林裕子・石原 恵・浅野由美子・菊島慶子（遺物の復元・接合）高野真寿美・澤登由美・土屋道子・深沢聡美（実測・トレース・図版作成）
5. 遺跡の写真撮影は、それぞれの年度の発掘担当者が撮影した。
6. 図版中の土器写真は、小川忠博（写真家）が撮影した。
7. 調査の図面・写真・遺物は山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。

凡 例

1. 掲載した図面の縮尺は、原則として、住居跡は60分の1、土坑は30分の1および60分の1、溝・ピット群などは120分の1、特殊な遺構および遺物はこの限りではない。
2. 遺構番号は命名した順番については1次～4次調査の結果をふまえて行ったため、便宜上とうしナンバーで記した。このため、本文中でもこれに従って途中からの番号が記されていることについて了承して頂きたい。
3. B区の一部とC区では、遺構密度が高い関係から、主に遺物を多く伴うといった特徴がある土坑を通し番号で表示し、遺物をほとんど伴わないなどといった性格不明の土坑については、グリッド単位で番号を表示した。また、紙数の都合上すべての遺構に関して図版化できなかったことについて了承して頂きたい。
4. 遺構平面図のスクリーンは次のとおりである。
粘土  ・焼土  ・炭化物  ・貼床 
5. 遺構平面図のインレタは次のとおりである。
●土器・▲石器・△石・■炭化物・◇骨・◆鉄製品
6. 観察表内の時期の表示は、中・中越式、諸・諸磯式、五・五領ヶ台式または五領ヶ台併行式、猪・猪沢式、新・新道式、藤・藤内式、井・井戸尻式、曾・曾利式、称・称名寺式の略称である

目 次

序		
例言		
凡例		
目次		
挿図目次		
表目次		
第Ⅰ章	調査・整理経過	1
第1節	調査・整理日程	1
第2節	調査・整理組織	2
第3節	調査・整理作業方法	4
第Ⅱ章	環境と研究史	5
第1節	地理的環境	5
第2節	歴史的環境	5
第3節	研究略史	7
第4節	基本土層	9
第Ⅲ章	調査概要と遺構	10
第1節	A区の調査概要	10
第1項	住居跡	10
第2項	掘立柱建物跡	25
第3項	竪穴状遺構	26
第4項	土坑	27
第5項	配石遺構・集石遺構	37
第6項	小ピット群	44
第7項	溝	44
第8項	戦時遺構	45
第2節	B区の調査概要	46
第1項	住居跡	46
第2項	土坑・グリッド土坑	66
第3節	C区の調査概要	72
第1項	住居跡	73
	・(縄文時代)	73
	・(古墳時代)	169
第2項	掘立柱建物跡	181
第3項	土坑・グリッド土坑・ピット群	183
第4項	集石遺構・野外炉	194
第4節	D区の調査概要	196
第1項	住居跡	196
第2項	掘立柱建物跡	210
第3項	土坑	213
第4項	野外埋裏	217
第5項	溝	217
第5節	E区の調査概要	218
第1項	住居跡	218
第2項	土坑	218
第3項	野外埋裏	227
第6節	F区の調査概要	229
第1項	住居跡	229
第2項	土坑・ピット群・集石遺構	229
第7節	G区の調査概要	231
第1項	住居跡	231
第2項	土坑	235
第3項	溝	235
第8節	H区の調査概要	236
第1項	住居跡	236
第2項	土坑	237
第Ⅳ章	酒呑場遺跡の概観と集落変遷	237
第1節	集落と住居の特徴	237
第2節	住居の時期変遷	240
第Ⅴ章	まとめ	242
附編		
1	酒呑場遺跡から出土した配石遺構に残存する脂肪の分析	243
2	酒呑場遺跡から出土した遺物・遺構に残存する脂肪の分析	249
3	酒呑場遺跡土坑可給態リン酸測定結果について	255

挿 図 目 次

第 1 図	調査区設定図	4
第 2 図	遺跡位置図	6
第 3 図	大山氏発掘地点全体図	7
第 4 図	大山氏発掘地点近景	7
第 5 図	酒呑場遺跡立地地形および大山氏発掘地点	8
第 6 図	基本土層	9
第 7 図	A区住居跡位置図	10
第 8 図	A区第1号住居跡(1)	12
第 9 図	A区第1号住居跡(2)	13
第 10 図	A区第2号住居跡	14
第 11 図	A区第3・12号住居跡	15
第 12 図	A区第4・8号住居跡、A・B・C-I-2グリッド	16
第 13 図	A区第5・6・7号住居跡	18
第 14 図	A区第9・10・16号住居跡	20
第 15 図	A区第11・14・15号住居跡	22
第 16 図	A区第13号住居跡	23
第 17 図	A区掘立柱建物跡	25
第 18 図	A区竪穴状遺構	27
第 19 図	A区土坑(1)	32
第 20 図	A区土坑(2)	33
第 21 図	A区土坑(3)	34
第 22 図	A区土坑(4)	35
第 23 図	A区土坑(5)	36
第 24 図	A区第1号配石遺構	38
第 25 図	A区第2号配石遺構	39
第 26 図	A区第3号配石遺構(1)	40
第 27 図	A区第3号配石遺構(2)	41
第 28 図	A区第4号配石遺構	42
第 29 図	A区第5・6号配石遺構・第1号集石・C-Iグリッド・ピット10	43
第 30 図	A区溝	45
第 31 図	B区住居跡位置図	46
第 32 図	B区第1・13号住居跡	55
第 33 図	B区第2・10号住居跡	56
第 34 図	B区第3・4・7号住居跡	57
第 35 図	B区第5・17・21号住居跡	58
第 36 図	B区第5・21号住居	59
第 37 図	B区第6・11・12号住居跡	60
第 38 図	B区第8・15号住居跡	61
第 39 図	B区第9・18号住居跡	62
第 40 図	B区第14・19号住居跡	63
第 41 図	B区第20号住居跡	64
第 42 図	B区第16・22・23号住居跡	65
第 43 図	B区土坑・G-9・10グリッド	70
第 44 図	B区D・E・F-10・11グリッド	71
第 45 図	C区住居跡位置図(縄文時代)	72
第 46 図	C区第1・2号住居跡(1)	74
第 47 図	C区第1・2号住居跡(2)	75
第 48 図	C区第3・9・89・109号住居跡(1)	77
第 49 図	C区第3・9・89・109号住居跡(2)	78
第 50 図	C区第4・4'号住居跡(1)	79
第 51 図	C区第4・4'号住居跡(2)	80
第 52 図	C区第5号住居跡	82
第 53 図	C区第6号住居跡	83
第 54 図	C区第7・10号住居跡(1)	84
第 55 図	C区第7・10号住居跡(2)・第8号住居跡	85
第 56 図	C区第11・16・18号住居跡	87
第 57 図	C区第12・73号住居跡	88
第 58 図	C区第13号住居跡(1)	89
第 59 図	C区第13号住居跡(2)	90
第 60 図	C区第14・14'号住居跡(1)	91
第 61 図	C区第14・14'号住居跡(2)	92
第 62 図	C区第15号住居跡(1)	93
第 63 図	C区第15号住居跡(2)	94

第 64 図	C区第19・21・26・27号住居跡(1)	96
第 65 図	C区第19・21・26・27号住居跡(2)	97
第 66 図	C区第20・30号住居跡(1)	98
第 67 図	C区第20・30号住居跡(2)	99
第 68 図	C区第22号住居跡	101
第 69 図	C区第23・24・25号住居跡	102
第 70 図	C区第28・29号住居跡	105
第 71 図	C区第31・32・110号住居跡(1)	106
第 72 図	C区第31・32・110号住居跡(2)	107
第 73 図	C区第34号住居跡	109
第 74 図	C区第35・68号住居跡	110
第 75 図	C区第36号住居跡	111
第 76 図	C区第37・39・98号住居跡(1)	113
第 77 図	C区第37・39・98号住居跡(2)	114
第 78 図	C区第37・39・98号住居跡(3)	115
第 79 図	C区第38・42・44～47号住居跡	117
第 80 図	C区第38・46・47号住居跡炉・第40・40号住居跡	118
第 81 図	C区第41号住居跡(1)	119
第 82 図	C区第41号住居跡(2)	120
第 83 図	C区第43号住居跡	122
第 84 図	C区第48・97号住居跡(1)	124
第 85 図	C区第48・97号住居跡(2)	125
第 86 図	C区第49・50号住居跡	127
第 87 図	C区第52・102号住居跡	128
第 88 図	C区第53号住居跡	130
第 89 図	C区第54・59号住居跡(1)	132
第 90 図	C区第54・59号住居跡(2)	133
第 91 図	C区第55・56号住居跡	134
第 92 図	C区第57・81～83・86・87・94・95号住居跡(1)	135
第 93 図	C区第57・81～83・86・87・94・95号住居跡(2)	136
第 94 図	C区第58号住居跡	137
第 95 図	C区第60・61号住居跡	138
第 96 図	C区第62・69号住居跡	140
第 97 図	C区第63～66号住居跡(1)	141
第 98 図	C区第63～66号住居跡(2)	142
第 99 図	C区第67号住居跡	144
第100 図	C区第70～72号住居跡	146
第101 図	C区第74・75号住居跡(1)	147
第102 図	C区第74・75号住居跡(2)	148
第103 図	C区第76・77号住居跡	149
第104 図	C区第78号住居跡(1)	151
第105 図	C区第78号住居跡(2)・第80号住居跡	152
第106 図	C区第79号住居跡	153
第107 図	C区第84・84・85・88・90・町7号住居跡(1)	156
第108 図	C区第84・84・85・88・90・町7号住居跡(2)	157
第109 図	C区第91号住居跡(1)	160
第110 図	C区第91号住居跡(2)	161
第111 図	C区第92号住居跡(1)	162
第112 図	C区第92号住居跡(2)	163
第113 図	C区第93・96号住居跡	164
第114 図	C区第99～101号住居跡(1)	167
第115 図	C区第99～101号住居跡(2)	168
第116 図	C区住居跡・掘立柱建物跡位置図(古墳時代)	169
第117 図	C区第17号住居跡	171
第118 図	C区第17号住居跡遺物及び炭化材出土状況	172
第119 図	C区第33号住居跡	172
第120 図	C区第103・104号住居跡	174
第121 図	C区第105・106号住居跡	176
第122 図	C区第107・108号住居跡	177
第123 図	C区第1～3号掘立柱建物跡	182
第124 図	C区土坑(1)	187
第125 図	C区土坑(2)	188
第126 図	C区土坑(3)	189
第127 図	C区土坑(4)	190
第128 図	C区土坑(5)	191
第129 図	C区土坑(6)	192

第130図	C区土坑(7)	193
第131図	C区土坑(8)・グリッド土坑ほか	194
第132図	C区グリッド土坑(集落中心部)	195
第133図	D区住居跡位置図	196
第134図	D区第1・1号住居跡	197
第135図	D区第2号住居跡	198
第136図	D区第3号住居跡	200
第137図	D区第4号住居跡	201
第138図	D区第5号住居跡	202
第139図	D区第6号住居跡	204
第140図	D区第7号住居跡	205
第141図	D区第8号住居跡	206
第142図	D区第9・10号住居跡	207
第143図	D区第11・12号住居跡	208
第144図	D区第1号掘立柱建物跡	210
第145図	D区土坑(1)	211
第146図	D区土坑(2)	212
第147図	D区土坑(3)	213
第148図	D区溝	217
第149図	E区住居跡位置図	218
第150図	E区第1号住居跡	219
第151図	E区土坑(1)	226
第152図	E区土坑(2)	227
第153図	E区第1号埋壘とその周辺	228
第154図	F区遺構配置図及び主な遺溝	230
第155図	G区遺構配置図(1)	233
第156図	G区遺構配置図(2)	234
第157図	H区遺構配置図	236
第158図	酒呑場遺跡A区・B区・C区住居跡分布図	238
第159図	酒呑場遺跡C区・D区住居跡分布図	239
第160図	酒呑場遺跡時期別住居跡分布図	241

表 目 次

第1表	A区住居跡一覧表	24
第2表	A区掘立柱建物跡一覧表	26
第3表	A区土坑一覧表	27
第4表	A区配石遺構一覧表	44
第5表	B区住居跡一覧表	54
第6表	B区土坑・グリッド土坑一覧表	66
第7表	C区住居跡一覧表	178
第8表	C区掘立柱建物跡一覧表	181
第9表	C区土坑一覧表	183
第10表	D区住居跡一覧表	209
第11表	D区掘立柱建物跡一覧表	210
第12表	D区土坑一覧表	214
第13表	D区野外埋壘観察表	217
第14表	E区住居跡一覧表	218
第15表	E区土坑一覧表	219
第16表	E区野外埋壘一覧表	225
第17表	F区住居跡一覧表	229
第18表	F区土坑一覧表	229
第19表	F区ピット一覧表	231
第20表	F区集石遺構一覧表	231
第21表	G区住居跡一覧表	232
第22表	G区グリッド土坑一覧表	235
第23表	H区住居跡一覧表	236
第24表	H区土坑一覧表	237

第Ⅰ章 発掘調査および整理経過

第1節 調査・整理作業日程

農務部酪農試験場の新・改築工事予定となっている酒香場遺跡について、具体的な工事計画が農務部農業技術課より提出された。これにより開発関係部局である同課と同酪農試験場、総務部営繕課、教育委員会学術文化課と同埋蔵文化財センターの5者との協議結果、計画変更は不可能となったため、やむを得ず直接工事によって影響を受ける部分の、記録保存を目的とした調査を実施することとなった。その実施については、学術文化課と農業技術課との協議の結果、本館および車庫の建設を予定する部分から調査を実施することが決定した。第1次調査は法的手続きの後、1994(平成6)年9月1日から発掘調査が開始された。本書はその第1・2次の調査報告である。

・1994年度の調査としては、約1,500㎡を対象として実施した。

第1次調査は現建物の解体撤去立会いの後、1994年9月1日～1月10日に実施した。調査地区は、本館建設予定地(A区)と車庫などの建設予定地(B区)を対象に行った。

A区の調査対象面積は約800㎡で、調査期間は9月1日～12月22日である。本区は飼料庫などが存在し、遺構の遺存状態が危惧されていたが部分的な破壊はあるものの、基礎が浅く予想以上に良好な状況であった。発見された遺構は、縄文時代前期から後期にかけての住居跡16軒、土坑・配石・集石など約400基のほか、縄文時代に極めて近い時期と考えられる溝跡などが発見できた。またこれらの遺構に伴って、数多くの土器や石器も出土しているが、その中でも特筆すべきものに、ヒスイ製大珠、土偶などがある。

B区の調査対象面積は約700㎡で、調査期間は11月1日～1月10日である。本区は飼料調整室などが存在し、A区と同様部分的な破壊はあるものの、基礎が浅く予想以上に良好な状況であった。発見された遺構は、縄文時代前期から中期にかけての住居跡21軒、土坑・集石など約250基が発見された。またこれらの遺構に伴って、数多くの土器や石器も出土している。その中でも、特筆すべきものにヒスイ半製品、白色顔料が塗布された土偶などがある。

・1995年度の調査としては、立会い調査部分を含めて約5,600㎡を対象として実施した。

第2次調査は、牛舎の新築であるC区を除いたその他の調査区において現建物の解体撤去立会いの後、1995年4月14日～18日にC区において、120㎡の試掘調査を実施した。この結果 遺構密度が大変高いことが判り、調査方針を再考するに至った。調査は1995年4月17日～12月17日に実施した。調査地区は、肉用・哺育育成牛舎(C区)、飼料庫(D区)、糞実調整作業室(E区)、浄化処理施設(F・G区)といった以上のような各建設予定地に設定した。

C区は調査対象面積は約3,200㎡で、調査期間は4月25日～11月28日である。本区は畑地であったため、残存状況は良好と考えていたが、戦時中に掘られたものと考えられるドラム罐埋設穴が縦横に数本認められ、遺構を破壊していた。発見した遺構は縄文時代前期～中期の住居跡で、台地の縁辺に沿って環状に配置する全体の6分の1程度と考えられる面積の中に99軒、(改築含まない)前期～中期にかけての土坑およびピット群が約2400基、古墳時代前期の住居跡11軒、掘立柱建物跡3基が存在した。遺物では、多量の土器・石器が出土している。特に耳飾り、ペンダントなどの装飾品のほか、土偶94点、土鈴20点、各種土製品が出土している。

D区は調査対象面積は約500㎡で、調査期間は9月18日～11月14日である。本区には井戸・肉牛舎が存在し、ゴミ穴など部分的な破壊はあるものの良好な状況であった。発見した遺構は縄文時代前期～中期にかけての10軒の住居跡で、台地縁辺の東向き緩傾斜地に沿って分布を示す。また該期の土坑約330基のほか、古墳時代前期の住居跡3軒、掘立柱建物跡1基、近世の溝1条である。遺物は全体的に少なめであったが、縄文時代前期の耳飾り、丸玉などのペンダント類が出土している。

E区は調査対象面積は約230㎡で、調査期間は9月6日～10月16日である。本区は砂利が敷かれ、構内道路となっていたが、旧建物の基礎などや攪乱が多く存在し、あまり良好な状況ではなかった。発見した遺構は縄文時代前期の土坑群とピットを主体に約550基、住居跡は古墳時代前期のものが1軒のみ認められただけである。遺物では前期～中期にかけての土器類が発見され、特に赤漆と黒漆を施した彩色土器が目を引き、他にも耳飾りなどが出

土している。

F区の調査対象面積は約30㎡で、調査期間は10月18日～10月26日である。本区は砂利が敷かれ、構内道路となっていたため、良好な状態であった。発見した遺構は縄文時代前期の住居跡1軒、前期～中期の土坑とピット群約30基である。

G区の調査対象面積は約160㎡で、調査期間は11月2日～11月10日である。本区は砂利が敷かれ、構内道路となっていたため、良好な状態であった。発見した遺構は縄文時代中期の住居跡4軒、前期～中期の土坑とピット群約80基である。

H区の調査対象面積は約30㎡で、調査期間は12月4日～12月6日である。本区は空地となっていたが、産業廃棄物が埋められているなど攪乱が多かった。このような悪条件にもかかわらず縄文時代前期の住居跡1軒、該期と考えられる土坑4基が認められた。

B区追加の調査対象面積は約150㎡で、調査期間は11月28日～12月5日である。本区は砂利が敷かれ、構内道路となっていたため良好と考えていたが、ゴミ穴等で攪乱され部分的に破壊されていた。発見された遺構は縄文時代前期の住居跡2軒、該期の土坑・ピット群など80基が認められた。

その他排水管・ハンドホールなど埋設箇所は面積に限られているため、随時立会い調査で対応した。

以上のような工程で発掘調査を実施した。

平成7年9月9日に啓蒙普及活動を目的として、C区を中心とした現地説明会を実施、100名近い見学者が訪れ好評であった。

整理作業は、平成8年1月10日～3月26日、4月8日～平成9年3月25日において、県庁里吉別館内の埋蔵文化財センター分室において実施した。

第2節 調査・整理組織

調査主体 山梨県教育委員会

調査機関 山梨県埋蔵文化財センター

所長 大塚初重

次長 三科英訓(平成6年度)

徳阪 忠(平成7～8年度)

埋蔵文化財指導幹 森 和敏

調査研究課長 田代 孝(平成6年度)

調査研究第一課長 森 和敏(平成7～8年度)

調査研究第二課長 田代 孝(平成7～8年度)

調査担当者

(試掘調査)

平成7年度 [C区] 野代幸和 (文化財主事)
村松佳幸 (非常勤嘱託)

(発掘調査)

平成6年度 [A区] 山本茂樹 (主任文化財主事)
野代幸和 (文化財主事)

[B区] 森原明廣 (文化財主事)

宮里 学 (文化財主事)

平成7年度 [C～H区] 野代幸和 (文化財主事)
村松佳幸 (非常勤嘱託)

[C区一部] 山本茂樹 (主任文化財主事)

川手昌英 (文化財主事)

(立会い調査)

平成7年度〔上下水道〕 山本茂樹（主任文化財主事）
〔上水道・電気〕 野代幸和（文化財主事）
村松佳幸（非常勤嘱託）

（整理作業）

平成7年度 野代幸和（文化財主事）
村松佳幸（非常勤嘱託）

平成8年度 野代幸和（文化財主事）

作業員・整理員

（平成6年度）作業員

篠原かつみ、清水仁子、渡辺早月、小林明美、須田きく子、大柴富子、小尾トヨ子、田中玲子、向井祐子、小尾優美、進藤ますじ、平嶋弘子、石川昭江、大柴欣子、小野俊美、平出欣一、平出幸子、小林 宏、小林立枝、小林としえ、八巻重子、清水珠意、高橋純子、名取初子、宮久保朝乃、山崎泰明（長坂町）千野松代、千野あやめ、浅川民子、浅川茂子、浅川保代、山中敏夫（大泉村）五味ゆき子、保坂実香子、三井栄子（菰崎市）池谷和代子（中道町）小林美紀、向井袈裟春、西脇誠（甲府市）白川 綾（奈良大学史学科学生）

（平成7年度）作業員

白川 綾（当センター調査員）井富保仁、平嶋純一、平嶋弘子、八巻重子、平出欣一、平出幸子、山崎美美子、渡辺早月、小林明美、須田きく子、大柴富子、小尾トヨ子、田中玲子、内藤陽一、小林 宏、小林立枝、小林としえ、名取初子、高橋純子、小山羊子、佐々木晴海、田中博雄、山坂千恵子、清水珠意、橋本 結、橋本 舞（長坂町）千野松代、千野あやめ、浅川民子、浅川茂子、浅川保代、山中敏夫（大泉村）八巻久子、日向たまの、酒巻正道（高根町）高市雅司、川崎東洋雄、大嶋貴實、大嶋むら子、窪田満子、秋山なを子、小林善子（白州町）猿田定雄、高野五十八（武川村）壺屋てる子、伊藤杉子、三井幸子、河手寿子（須玉町）清水貞子、三井喜満、小泉 隼、三塚てつ子、石渡節子、筒井つや子、入戸野 宏、橋本隆廣、篠原啓子、清水小春、皆川和歌子、遠藤 勝、奥水たつ子、篠原源一、鈴木幸雄、清水みゆき（明野村）清水澄夫、大柴欣子、保坂実香子、守屋敏子、須賀富雄、新藤すみ江、戸島義和（菰崎市）保坂 睦（敷島町）北村春美（三珠町）渡辺旭光、荒木正命、内田元三（甲府市）斉藤欣延、稲田望子（奈良大学文化財学科学生）

（平成7年度）整理員

白川 綾（当センター調査員）平嶋純一、平嶋弘子（長坂町）平美与枝、向井袈裟春、金杉玲子（甲府市）矢崎米子、萩原光代（中道町）小林よ志子（三珠町）雨宮洋子（一宮町）

（平成8年度）整理員

平重蔵（当センター調査員）向井袈裟春、望月芳郎、小林裕子、青柳 清、平美与枝、石原 恵、内藤由紀子、土屋道子、高野真寿美、宮坂晴幸、森田良子、堀口恵子、金杉玲子（甲府市）矢崎米子、萩原光代、出月遊亀子、出月満子江、長田可祝、古屋茂子（中道町）小林よ志子、塩島富美子、雨宮一二三（三珠町）中込よしミ（豊富村）渡辺かほる（境川村）深沢聡美（八代町）岩間友子（御坂町）浅野由美子、菊島慶子、岩間佳子（石和町）澤登由美（山梨市）原田みゆき（鵜沢町）

協力機関

県農務部農業技術課、同酪農試験場、県総務部営繕課、県立考古博物館、長坂町教育委員会、長坂町役場、(財)帝京大学山梨文化財研究所、(バ)リノ・サーヴェイ(株)、(株)スゴージャ、(株)バスコ、新成田総合社、山梨日日新聞社、(株)山本建設、(株)奥水建設、(財)中村電気商会、アクティオ甲信(株)、東益測量

協力者

国立歴史民族博物館 永島正春、同 西本豊弘、奈良県立権原考古学研究所 室賢照子、吉田 格、(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団 浜野美代子、(財)栃木県文化振興事業団 上野修一、(財)かながわ考古学財団 天野賢一、長坂町教育委員会 小宮山隆、大泉村教育委員会 伊藤公明、明野村教育委員会 佐野 隆、武川村教育委員会

竹田真人、松本市立考古博物館 小原 稔、小川忠博、加藤三千雄、(財)帝京大学山梨文化財研究所 鈴木 稔・
 榑原功一、奥山和久、パリオ・サーヴェイ(株) 辻本裕也、(財)印旛郡市文化財センター 松田富美子、市立岡谷美
 術考古館 両角加代子、福井県埋蔵文化財調査センター 白川 綾、酪農試験場 本田幸和・小林久法・高橋徹
 一・小泉伊津夫、(株)山本建設 小林一広

発掘調査特別参加

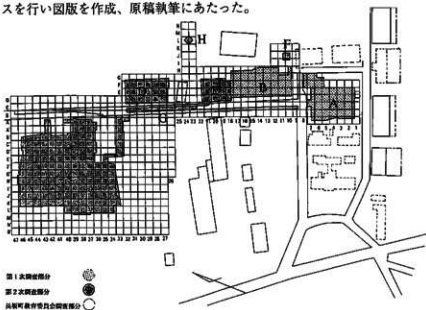
私立山梨英和中・高等学校郷土史研究同好会

第3節 調査・整理事業方法

前述のとおり農務部酪農試験場の新・改築事業に先立ち、具体的な工事計画が農務部農業技術課より提出され
 たことが、本調査に至る経過となった。予定地は戦前から周知される酒呑場遺跡であったが、昭和20年代に建築
 された試験場施設が現存しているため、遺構の遺存状況は良くないものと考えていたが、県教育委員会学術文化
 課による試掘調査で、建物の基礎が浅く住居跡などの遺構の存在が認められたことから、新・改築工事予定地内
 すべてを対象に2カ年に分割して発掘調査を実施することとなった。8箇所にわたる調査区全体の面積は約7,000
 ㎡が対象となった。

まず調査区の設定で第1次調査に至っては、1994年度工事分の調査面積約1,500㎡内に5mのグリッドを設定し、
 西から東へA・B・C…のアルファベットを、南から北へ1・2・3…の算用数字を付した。第2次調査では、残りの約
 5,500㎡に第1次調査で設定した5mのグリッドを延長して行われたが、アルファベットのA・B・C…と設定した方
 向とは反対側の西側に広がりを見せたため、…C・B・A・A・B・C…といったようにダッシュをつけて表示した。
 グリッドの方向性は、調査区設定の関係から公共座標の北ののっていないため、三角点「反田」および「長坂中
 学」から国土座標を測量し、I・J・44・45グリッドが $X=-20162.650m$ 、 $Y=-11681.126m$ 、I・J・34・35グリッド
 は $X=-20204.634m$ 、 $Y=-11653.998m$ の値を得ていることを記しておく。調査は、表土から確認面までを重機に
 よって排土作業を行い、その後作業員による遺構確認を実施した。表土は浅かったが攪乱が少ない上、高密度で
 遺構に認められ、遺存状況も良好であった。

整理事業については、遺物が第1・2次調査から箱数(40ℓ)にして約900箱にのぼり、人海作戦で洗浄作業を行い、
 次いで注記作業を機械化することによってスピードアップを計った。これと並行して、分類・記録・拓本・接合・復
 元作業を実施し、土器に関しては復元完了のものから実測用ならびに報告書掲載用の約400個体について写真撮
 影後、実測を行った。その他の遺物でも科学的分析などを行った後、実測可能なものについて、随時実施してい
 った。遺構については、実測図面の調整を行いつつそのデータをカード化し、原稿執筆用の基礎資料とした。こ
 の後、随時トレースを行い図版を作成、原稿執筆にあたった。



第1図 調査区設定図

第Ⅱ章 環境と研究史

第1節 地理的環境

長坂町は、山梨県北西部の南八ヶ岳に属する、権現岳(標高2,786m)を頂点とする扇状の、雄大なスロープである南麓地域に位置する。赤岳(標高2,899m)を主峰とする八ヶ岳は、地質時代の第三紀末から第四紀洪積世にかけて噴出し、長期にわたる火山活動により、東、西、南の各方角の山麓になだらかな洪積台地を形成した。それは小河川により浸食を受け、下がっていくにしたがって、山間部と平野部の交通・交易の障害となっている。このような台地上に位置する酒呑場遺跡は、南に向かって並行して流れる大深沢川と宮川に解析された南北に長狭な舌状台地上に占地する。位置的には、JR中央本線長坂駅を南に約1.25kmの県道沿いにある、酪農試験場と農業試験場敷地内に存在し、北方には八ヶ岳、西方には甲斐駒ヶ岳、北岳、東方は茅ヶ岳、南方は富士山を望むことができる。標高は690～710mを測り、南西から北東にかけて谷頭が入り込み、馬蹄形状をなしている。また、東、南、北の三方はかなり比高差のある小盆地状の低地帯が取り囲み、市街から望むと半島状につきだした景観をもつ。

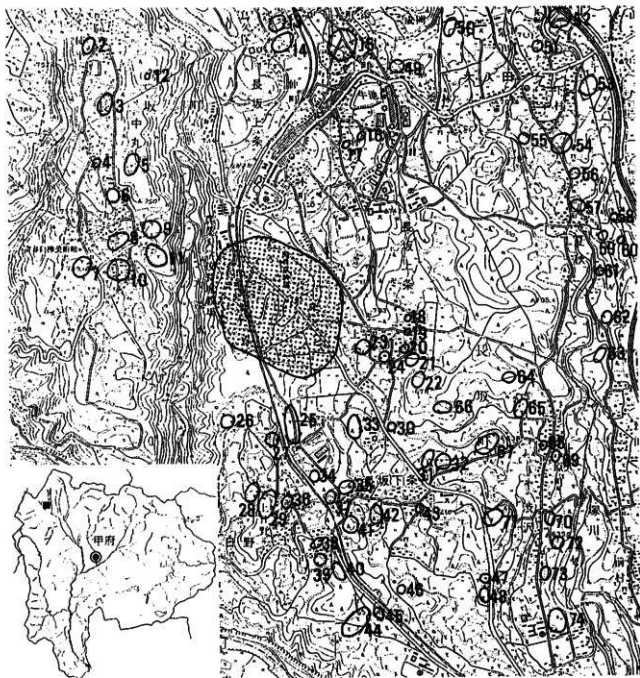
第2節 歴史的環境

八ヶ岳南麓の豊かな自然環境は、原始時代から今日までの人々の生活を育み、生活適地として長期間利用されてきた。本遺跡周辺もその例外にもれることなく、数多くの遺跡が存在している(第2図参照)。

旧石器時代では、昭和初期に長坂町小尾平遺跡(2)での発見例が知られるが、隣町の高根町丘の公園遺跡群では、ナイフ型石器などがまとまって出土している。

縄文時代を概観すると、南麓では草創期の遺跡が4カ所知られ、高根町丘の公園第5遺跡および丘の公園第14遺跡では、尖頭器や搔器などの石器が出土している。また長坂町中込遺跡では爪形文の土器片2点、明野村神取遺跡では微隆起線文の土器片や石器が出土している。早期の遺跡は、末葉の隆帯文系土器を伴出する一宮町釈迦堂遺跡群や神取遺跡で住居跡が確認されている。県北西部でも断片的な資料であるが、20を越える遺跡で早期の遺物が発見されている。特に押型文系土器や条痕文系土器を伴う遺跡が割合に確認されているが、熱系文系土器や沈線文系土器の遺物があまり知られていないのが特徴である。中込遺跡では絡糸体圧痕文土器が出土している。前期では御坂町花鳥山遺跡が学史的・資料的に良く知られているが、北巨摩郡では本遺跡(1)をはじめ大泉村天神遺跡や甲ヶ原遺跡、寺所遺跡の諸磯b・c式期の大規模集落が報告され、縄文時代中期の巨大遺跡群の形成を方向づけるものとして注目される。中期では、長坂町の本遺跡(1)・柳坪遺跡(52)・頭無遺跡、大泉村の甲ヶ原遺跡・寺所遺跡、高根町の海道前C遺跡、韮崎市の坂井遺跡などの大規模集落がみられる。その中でも柳坪遺跡は、計三次の発掘調査がおこなわれ、その内容および規模から長坂町を代表する遺跡と考えられ、特に曾利式土器の編年研究に一石を投じている。また興味深い例として長坂町の小屋敷遺跡では、出土例が少ない末葉段階の関東系土器である加曾利EIV式がまとまって出土し、住居を伴わずに墓坑群のみが展開する特異な性格を持つ遺跡がある。また、従来からあまり知られていなかった当地域の後・晩期の遺跡も、園場整備事業の進展に伴い発見された大泉村金生遺跡の発掘調査の成果から明らかとなり、継続性を持ったこの集落が、八ヶ岳南麓における活動拠点の一つであったものと考えられる。高根町では遺構を伴うものとして後期の川又坂上・日影田遺跡、晩期の青木遺跡が知られる。長坂町では後期前半の遺構を伴う酒呑場遺跡(1)、さらに次節で詳しく述べるが酒呑場遺跡の南側の台地下に広がる部分(長坂上條遺跡)に配石遺構が確認され、遺物がまとまって出土している。また晩期の資料が、健康村遺跡(5)からも出土している。

続く弥生時代は、敷島町金の尾遺跡、甲西町村前東遺跡、中込町東山北遺跡などの集落跡が盆地部で確認されている。韮崎市の宮の前遺跡で前期の水田跡が確認されている。長坂町においては、柳坪遺跡、東原遺跡、頭無遺跡から遺物が出土しているが、酒呑場遺跡を中心とした周辺には小盆地状の地形が広がり、前期条痕文土器が



第2図 遺跡位置図

- | | | | |
|-------------|--------------|-------------|----------------|
| 1、酒呑場・長坂上条 | 20、中村 | 39、上日野 | 58、大々神十三塚・大々神A |
| 2、小尾平 | 21、鋪田 | 40、上日野A | 59、大々神 |
| 3、間の原 | 22、長坂氏屋敷跡 | 41、新居 | 60、治郎田 |
| 4、和手 | 23、中反 | 42、上松氏屋敷跡 | 61、榎木 |
| 5、新宿区健康村 | 24、西村 | 43、相吉・相吉屋敷跡 | 62、塚川・柳坪 |
| 6、腰巻 | 25、反田 | 44、上日野B | 63、古屋敷 |
| 7、清春白樺美術館南 | 26、池之平北 | 45、上日野C | 64、大久保 |
| 8、居久保 | 27、池之平昭和堤北 | 46、清水頭北 | 65、寺前 |
| 9、城山上北 | 28、池之平A | 47、下屋敷北 | 66、和田 |
| 10、細久保 | 29、池之平B | 48、下屋敷 | 67、西屋敷 |
| 11、城山上・中丸城址 | 30、藤塚 | 49、曲田 | 68、洗沢・上町 |
| 12、中丸・藤塚 | 31、龍角西 | 50、久保池 | 69、原町北 |
| 13、鳥久保 | 32、龍角 | 51、柳坪南 | 70、原町 |
| 14、高松 | 33、北村東 | 52、柳坪B | 71、山本 |
| 15、大林 | 34、北村北 | 53、石原田北 | 72、上久通北 |
| 16、上町 | 35、北村・三井氏屋敷跡 | 54、石原田南 | 73、上久通 |
| 17、上町南 | 36、向井丹下屋敷跡 | 55、塚原 | 74、農業高校前 |
| 18、東村 | 37、西久保 | 56、城山神社前 | |
| 19、東村B | 38、田中氏屋敷跡 | 57、上ノ屋敷 | |

採集できる点などを踏まえると、集落跡および水田跡の存在も示唆される。

古墳時代は、中道町の鏡子塚古墳に代表される古墳群は主に盆地部に集中し、北巨摩地方では葦崎市後田遺跡や坂井南遺跡、長坂町北村遺跡(35)や木遺跡、柳坪遺跡などの集落跡を主体とする遺跡が存在する。

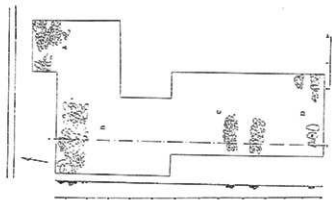
奈良時代の遺跡は確認されていないが、平安時代になると集落遺跡が増加し、鍛冶遺構の集中分布地域の一つとして認識されている。また、長坂町一帯は『和名類聚抄』に記載されている「巨麻郡速見郷」の推定地とされ、平安時代の生産・流通における重要な地域であり、次の中・近世に続く勢力基盤の形成の萌芽がみられる。それを裏付けるかのように、長坂町およびその周辺には多くの城址、館址が残っている。大泉村には、逸見清光の居城と伝えられる谷戸城が存在し、長坂町内にも、中丸城址、長坂氏屋敷、三井氏屋敷など詳細は不明だが、中世の遺跡・遺物が多く、中世史研究のうえで極めて重要な位置を占める。ちなみに酒呑場遺跡の南側斜面部で地下式坑と考えられる遺構や五輪塔の分布が確認されている。

第3節 研究略史

酒呑場遺跡の名称が初めて登場したのは、1931年(昭和6年)の山梨県刊行『史跡名勝天然記念物調査報』第五輯であり、発見遺物の石鏃、磨製石斧、磨石といった石器が図示された。その後は、1932年(昭和7年)に北巨摩郡教育会郷土研究部による『先史原始時代調査』、そして1935年(昭和10年)に仁科義男による『甲斐の先史並原始時代調査』に掲載されている。

本格的な発掘調査は、1940年(昭和15年)に大山史前学研究所の大山柏、竹下作治の他、長坂町出身の井出佐重氏によって「長坂上条遺跡」として行われた。発掘地点は、東西にはしる灌漑用水の南に位置する小尾庄四郎氏所有の畑地で、四カ所の試掘坑を設け、発掘成果を検討しながら徐々に広げていき、最終的に南北11m、東西6mの調査区になった。調査成果は、1941年(昭和16年)『史前学雑誌』第13号第3号に山梨懸北巨摩郡日野春村長坂上条遺跡として報告され、当地域で発見例の少ない縄文時代後・晩期を中心とすることが判明した。「石塊群」とされる配石遺構や、土器は加曾利B式、安行I・II式、清水天王山式、佐野式などの後期に属するもの、大洞式系の佐野式、氷式など晩期に属するものが出土している。石器類では、石鏃、石錐、打製石斧、磨製石斧、磨石、石剣、石冠、石皿など、土製品では土鍋、滑車製耳飾が出土している。以上のように縄文時代後期から晩期の遺跡と認識されながら、1984年(昭和59年)の圃場整備事業によって南側部分が未調査のまま破壊されてしまったことは非常に残念なことである。

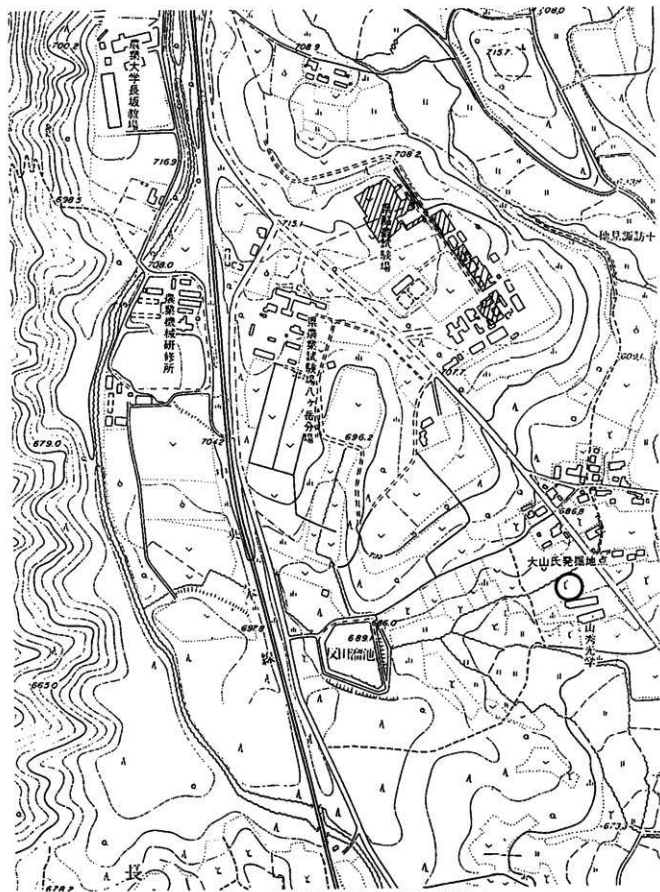
今回報告する1994・1995(平成6・7)年の調査成果は、酒呑場遺跡のほんの一部分であるが、縄文時代前期後半から後期前半に至る集落跡が確認され、1940年の大山柏氏らの調査した地点とあわせて考えると、地形的には大きく台地部と低地部で分けることができる。酒呑場遺跡そのものも西側に広がりを見せており、舌状台地全域ならびに小盆地状を呈する低地部分にいたるまでを同一遺跡と認識してよいものと思われるため、この2つの遺跡を



第3図 大山氏発掘地点全体図



第4図 大山氏発掘地点近景



第5図 酒呑場遺跡立地地形および大山氏発掘地点

個別の遺跡として線引きするのは不可能と考えられる¹⁾。その根拠として、航空写真による地表面の観察および表面採集、これまでの発掘調査の成果を踏まえて縄文時代の遺構の広がりやを推定するならば、台地部において早期から後期に至る馬蹄形に広がる居住域と祭祀の場を伴う墓域、そして両側の台地に挟まれた低地部にその生産・加工作業域が広がる。そして南側緩斜面から低地部においては後・晩期の居住域と祭祀の場を伴う墓域の存在が想定されるためである。

註

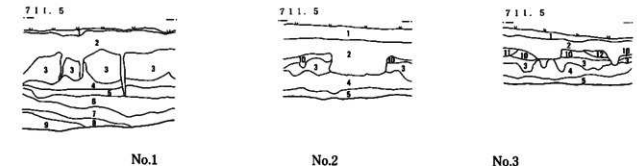
(1)米田明調「中期後半土器の諸問題」『柳坪遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告第13集 山梨県教育委員会(1986)

(2)長坂町教育委員会小宮山隆氏の御教示による。現在整理作業中。

(3)野代幸和「山梨県長坂町長坂上条遺跡と酒呑場遺跡における学史的・学術的意義と関連性について」考古学論究第4号(1996)

第4節 基本土層

基本土層はすべてC区のもので、NO.1はのB'-37グリット(南壁)から、NO.2はのG'-45グリット(北壁)、NO.3はE'-46(北壁)グリットである。これらは旧石器時代の遺物の分布を探るべく深堀り調査を行った際に図化したものであるが、結局旧石器時代の資料は得ることができなかった。基本層序(第6図)に示したが、ほぼ平坦な台地状の地形であるため、全体的に大きな変化は認められない。第2層のような覆土を持つ遺構は希で、全体的に風成堆積によるローム化が著しく、遺構の確認に大変苦慮した。



- | | |
|--|--|
| <p>基本土層</p> <p>1-黒褐色土層 黄土 (11Y 1/1)</p> <p>2-黒褐色土層 (11Y 1/3)</p> <p>3-黄褐色土層 ハードローム (11YR 1/3) 赤色スコリア・炭化物・灰白色粘土粒 少量含む</p> <p>4-灰白色土層 (11YR 1/3) 火山ガラス・礫石少量含む</p> <p>5-黄褐色土層 ハードローム (11YP 1/3) 暗褐色礫石・白色礫石少量含む</p> <p>6-にじみ黄褐色土層 ハードローム (11YR 4/3) 白色礫石少量含む</p> | <p>7-褐色土層 ハードローム (11YR 4/3) 暗褐色礫石少量、白色礫石・赤色スコリア少量含む、3cm程度の小石、灰白色土層入</p> <p>8-褐色土層 ハードローム (11YR 4/3) 灰白色スコリア少量含む、中粒粘質</p> <p>9-暗褐色土層 ハードローム (11YR 1/3) 赤色スコリア多量、灰白色スコリア少量含む、粘質あり</p> <p>10-明灰褐色土層 ソフトローム (11YR 4/4) 灰白色スコリア少量混入</p> <p>11-褐色土層 (11YR 4/3) 炭化物少量、灰白色スコリア少量含む</p> <p>11-淡灰褐色土層 (5Y 1/3) 炭化物少量、灰白色スコリア少量含む</p> |
|--|--|

第6図 基本土層 (S=1/80)

第三章 調査概要と遺構

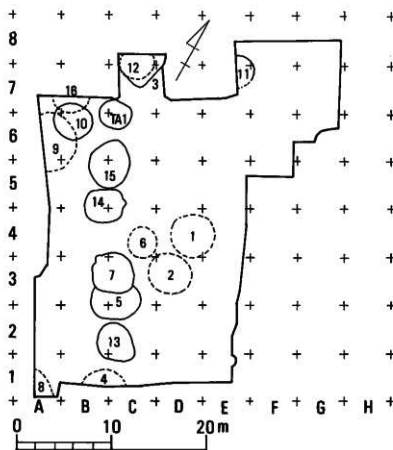
第1節 A区の調査概要

本区は8つの区の中で最も南に位置している。調査面積は約800㎡である。

発見された遺構は、住居跡が縄文時代前期後半の諸磯a式期2軒、同諸磯b式期2軒、同不明1軒、中期後半曾利Ⅰ式期1軒、同曾利Ⅱ式期1軒、同曾利Ⅲ式期2軒、同曾利Ⅳ式期5軒、同曾利ⅣorⅤ式期1軒、後期初頭称名寺Ⅰ式期1軒の合計16軒である。縄文時代中期後半の曾利式期の掘立柱建物5軒、前期後半の諸磯b式期の竪穴状遺構1基、土坑は縄文時代前期後半の諸磯a式期から後期初頭の称名寺式期に属するものが366基、前期後半の諸磯式期と中期後半の曾利式期に属する配石遺構6基、後期前半の加曾利BⅠ式期の集石遺構1基、中期後半の曾利式期と考えられるピット群、縄文時代の所産と考えられる溝1条が認められる。時期的に大別すると縄文時代前期後半の諸磯期、中期後半の曾利期、後期前半の称名寺期の3期にわたって、集落が営まれていることが理解できる。

第1項 住居跡

諸磯期や曾利期の第9・10号住居跡のようにしっかりした構造を維持するものは少なく、半数のものは他の遺構との切り合いなどで施設やプランが破壊されており不明な点が多い。全体的には重複関係にあるものは少ないようである。特殊なものとしては、第1号住居跡から廃絶後に造られた、立石を伴う埋堦が検出されている。第3号住居跡は、本遺跡 唯一の後期に属するものである。第14号住居跡は、配石遺構との重複関係から住居として認識して良いものか微妙である。



第7図 A区 住居跡位置図

第1号住居跡(第8・9図)

(位置)調査区の中央東側、D・E-4グリッドに位置している。

(重複・改築)なし。

(形態・規模)形態は不整形円形を呈するものと考えられ、長径は推定で5.38m、短径は4.70mを測る。本跡に伴って存在を示す遺構から、その性格を単純に住居として捉えるか、墓として位置づけるか解釈に戸惑っているが、ここでは住居跡として認識した。

(壁・周溝)壁は土層断面で38cmを測るが、エレベーションの部分ではほとんど残っていない。周溝はない。

(柱穴)柱穴と考えられるものに、ピット2・3・5・6・10・11・12があり、深さは20～30cmを測る。配列が一般的なものとは異なっている。

(炉)不明。

(埋蔵)A土坑(232×150×26cm)の上部より発見されたもので、正位に配置される。時期的には住居跡の覆土の上部に存在するため、本住居より新しいものと考えられることができる。底部に穿孔はない。

(埋葬施設)3基程度の土坑が重複するB土坑(229×135×63cm)上より発見されたもので、土器類が多く出土している。中でも、最も深い掘り込みを持つものには立石を伴うものがあり、これは墓を意味するものと考えられる。

(時期)縄文時代中期後半の曾利Ⅲ式期。

(出土遺物)埋蔵や本跡に伴うであろう立石付近からまとまった状態で土器が発見されている。

第2号住居跡(第10図)

(位置)調査区の中央南寄り、C-3、D-3・4グリッドに位置している。

(重複・改築)なし。

(形態・規模)形態は不整形円形を呈するものと考えられ、長径は4.60m、短径は4.09mを測る。

(壁・周溝)壁は、最大で約15cmを測る。周溝は南側に単独で存在し、幅は30cm、深さは30cm程度を測る。

(柱穴)主柱穴と考えられるものは壁沿いに6本認められ、深さはそれぞれ20cmを測る。

(炉)不明。

(時期)縄文時代前期後半の諸磯b式期。

(出土遺物)覆土がほとんど残っていなかったため、量的にはとても少なかった。耳飾りが1点出土している。

第3号住居跡(第11図)

(位置)調査区の北端中央、C・D-7・8グリッドに位置している。

(重複・改築)縄文時代前期の住居跡である第12号住居跡と重複している。ピット配列から改築の可能性もある。

(形態・規模)西側1/2程度が、調査区外に位置している。形態は方形を呈している。規模は現存値で長径4.50m、短径3.70mを測る。南東部に白色粘土の貼床が、212×160cmの範囲で認められる。

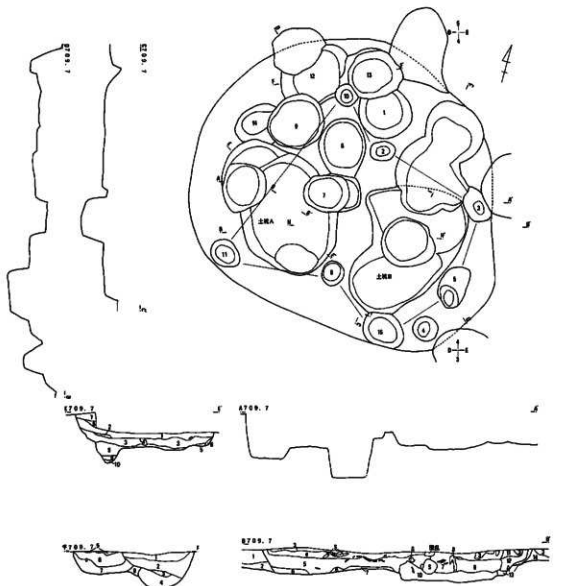
(壁・周溝)壁はほぼ直に立ち上がり、最大で42cmを測る。周溝はない。

(柱穴)柱穴と考えられるものは5本で、各ピットの規模は以下のとおりである。ピット1は径40.0×28.0、深さ78.8cm、ピット2は径45.0×39.0、深さ62.2cm、ピット3は径29.0×25.0、深さ54.7cm、ピット4は径37.0×32.0、深さ44.7cm、ピット5は径50.0×45.0、深さ39.2cmを測る。

(炉)住居跡の南部に地床炉の可能性のある焼土の広がり認められ、規模は南側のものが径120×34cm、北側のものは42×38cmを測る。

(時期)縄文時代後期初頭の称名寺Ⅰ式期。

(出土遺物)深鉢形土器の破片などが出土している。



1住 土坑A

- 1-暗褐色土層 (鉄化物堆積、1~2m大のロームブロック少量含む)
- 2-茶褐色土層 (5m大のロームブロック少量含む)
- 3-暗褐色土層 (鉄化物・5m~1m大のロームブロック少量含む、黒褐色土ブロック混入、1・5層より薄い)
- 4-黒褐色土層
- 5-暗褐色土層 (5m大のロームブロック少量含む、3層より薄い)
- 6-暗茶褐色土層 (1・5・6層より薄い)
- 7-暗茶褐色土層 (暗褐色土層混入)
- 8-暗褐色土層
- 9-黒褐色土層
- 10-暗茶褐色土層

1住 ビット17・3B

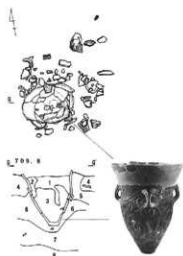
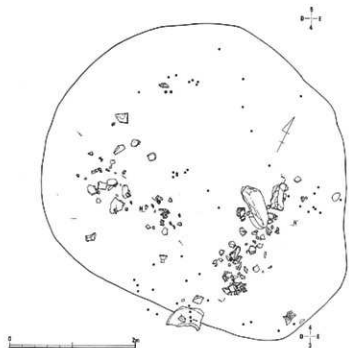
- 1-暗茶褐色土層 (黒褐色土層混入)
- 2-暗褐色土層 (黒褐色土層混入)
- 3-暗褐色土層 (2層より薄い)
- 4-暗褐色土層 (5m大のロームブロック少量含む)
- 5-黒褐色土層
- 6-暗茶褐色土層 (5m大のロームブロック少量含む、暗褐色土層混入)
- 7-暗褐色土層 (2~5m大のロームブロック少量含む)
- 8-茶褐色土層 (暗褐色土層混入)

1住

- 1-黒褐色土層 (黒褐色土層混入)
- 2-暗茶褐色土層 (黒褐色土層混入)
- 3-暗褐色土層
- 4-黒褐色土層 (5m大の塊少量含む、黒褐色土層混入)
- 5-暗茶褐色土層 (黒褐色土層混入)
- 6-暗茶褐色土層 (鉄化物少量含む、黒褐色土層混入、5層より薄い)
- 7-暗茶褐色土層 (黒褐色土層混入)
- 8-茶褐色土層
- 9-暗茶褐色土層 (黒褐色土層混入)
- 10-暗茶褐色土層 (鉄化物少量含む、9層より薄い)
- 11-黒褐色土層
- 12-暗茶褐色土層 (黒褐色土層混入)
- 13-茶褐色土層
- 14-茶褐色土層 (黒褐色土層混入)

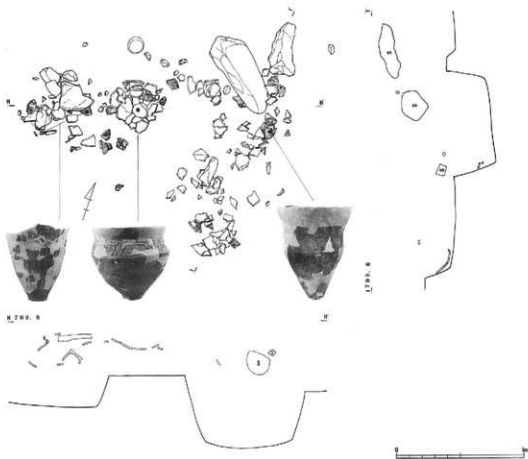


第8図 A区 第1号住居跡 (1)

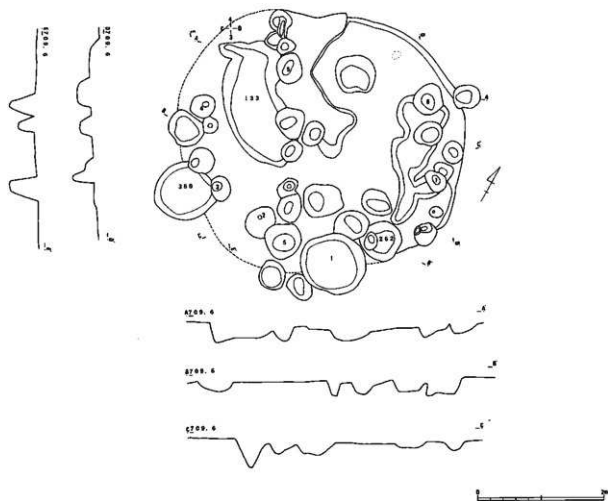


1 住居壁

- 1- 赤褐色土層 (黒褐色土層入)
- 2- 赤褐色土層
- 3- 暗茶褐色土層 (2~3m大のロームブロック少量含む)
- 4- 赤褐色土層 (2~3m大のロームブロック、3m大の礫少量含む)
- 5- 暗茶褐色土層 (1~2m大の礫少量含む、黒褐色土層入、3~6層より薄い)
- 6- 暗茶褐色土層 (5m大のロームブロック、1~2m大の礫少量含む)
- 7- 暗茶褐色土層 (2~5m大のロームブロック、1~2m大の礫少量含む)
- 8- 赤褐色土層 (5m~10m大のロームブロック少量含む、暗茶褐色土層入)



第9図 A区 第1号住居跡 (2)



第10図 A区 第2号住居跡

第4号住居跡(第12図)

(位置)調査区の南端、B・C-1グリッドに位置している。

(重複・改築)なし。

(形態・規模)南側約1/2が調査区外に位置する。形態は円形を呈するものと考えられ、規模は推定で5mを測るものと思われる。

(壁・周溝)壁・周溝は存在しない。

(柱穴)主柱穴と考えられるものが3基認められる。ピット1は径30.0×30.0、深さ50.0cm、ピット2は径70.0×50.0、深さ51.9cmを測るが、ピット3は第4号土坑と切り合い規模は不明である。

(炉)住居跡のほぼ中央と考えられる部分に、一部石組みが破壊された石囲炉が存在する。規模は径103cmで、深さが23.5cmを測る。

(時期)縄文時代中期後半の曾利Ⅰ式期。

(出土遺物)覆土はほとんど残っていなかったが、遺構確認中に遺物がまがまが出土した。炉の北側から横位の深鉢形土器が出土した。

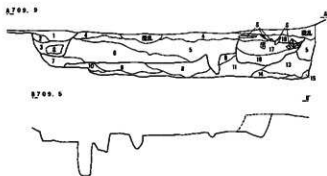
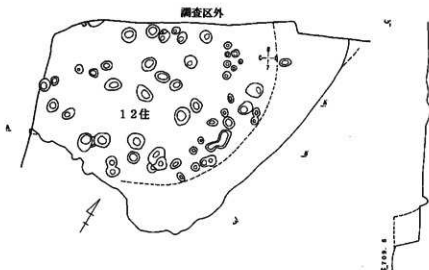
第5号住居跡(第13図)

(位置)調査区の中央南西側、B・C-2・3グリッドに位置している。

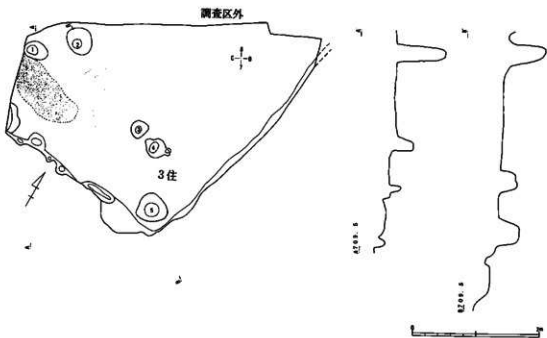
(重複・改築)縄文時代前期の第7号住居跡と重複している。

(形態・規模)形態は東西に長い楕円形を呈し、長径は5.30m、短径は3.70mを測る。

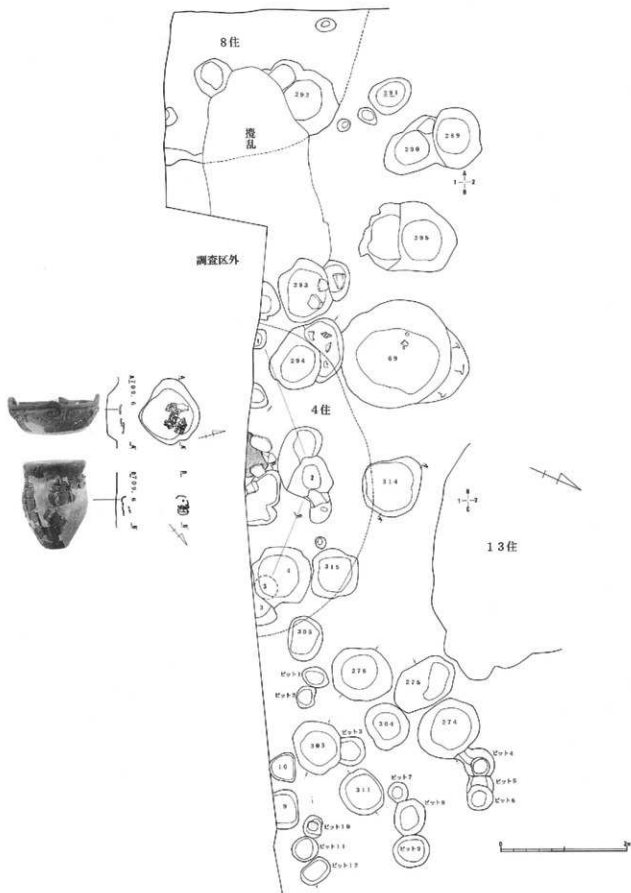
(壁・周溝)壁は急で、深さは最大で17cmを測る。周溝は存在しない。



- 12住
- 1-暗褐色土層 (粘土質少量含む)
 - 2-暗褐色土層 (粘土少量含む)
 - 3-暗褐色土層 (1cm大のロームブロック少量含む)
 - 4-暗茶褐色土層
 - 5-高茶褐色土層 (粘土・炭化物少量含む)
 - 6-高褐色土層 (粘土・炭化物・1~2cm大のロームブロック少量含む)
 - 7-高茶褐色土層 (粘土炭化物少量含む)
 - 8-高褐色土層 (1cm大のロームブロック多量含む)
 - 9-暗褐色土層 (2~3cm大のロームブロック少量含む)
 - 10-高茶褐色土層 (粘土・2cm大のロームブロック少量含む)
 - 11-暗褐色土層 (粘土・炭化物少量・2cm大のロームブロック多量含む)
 - 12-暗褐色土層 (2cm大のロームブロック多量含む)
 - 13-暗褐色土層 (炭化物少量・1cm大のロームブロック多量含む)
 - 14-暗茶褐色土層 (2cm大ロームブロック少量含む)
 - 15-暗褐色土層
 - 16-暗褐色土層
 - 17-高褐色土層 (炭化物・5cm大のロームブロック少量含む)
 - 18-高褐色土層 (炭化物・1cm大のロームブロック少量含む)



第11図 A区 第3・12号住居跡



第12図 A区 第4・8号住居跡、A・B・C-1.2グリッド

(柱穴)主柱穴と考えられるものは6本で、ビット1は径31.0×28.0、深さ28.1cm、ビット2は径33.0×27.0、深さ21.6cm、ビット3は径31.0×26.0、深さ17.4cm、ビット4は径31.0×25.0、深さ33.2cm、ビット5は径45.0×45.0、深さ37.7cm、ビット6は径37.0×33.0cm、深さは不明、を測る。

(炉)不明であるが、第7号住居跡に隣接する落ち込みが炉の可能性はある。焼土などは認められなかったが、形態的には地床炉となり、規模は径112×74cmで、深さが5cm程度を測る。

(時期)縄文時代中期後半の曾利Ⅳ式期。

(出土遺物)南側のビット3付近から土偶が、また第7号住居跡内より石棒の破片が出土しているが、これは本跡に伴うものと考えられる。全体的に遺物量は少ない。

第6号住居跡(第13図)

(位置)調査区の中央付近、C-3グリッドに位置している。

(重複・改築)なし。

(形態・規模)炉のみの確認のため、形態・規模については不明である。

(壁・周溝)不明。

(柱穴)土坑との切り合いのため、不明である。

(炉)石囲炉と考えられるが、石組が残るのは南側だけである。規模は径100×100cm、深さが40cmを測る。内部に焼土が見られる。

(時期)縄文時代中期後半の曾利Ⅲ式期。

(出土遺物)土器が炉の周辺から、少量出土したにすぎない。

第7号住居跡(第13図)

(位置)調査区の中央南西寄り、B・C-3・4グリッドに位置している。

(重複・改築)縄文時代中期の第5号住居跡と重複している。

(形態・規模)形態は不整形円形を呈するものと考えられ、長径は4.25m、短径は4.00mを測る。ビットの途切れた東側が入口部と考えられる。

(壁・周溝)壁はやや急な立ち上がりを示し、深さが24cm程度を測ることができる。周溝は存在しない。

(柱穴)主柱穴と補助柱穴との区別はできないが、ビット1は径50.0×45.0、深さ28.5cm、ビット2は径40.0×34.0、深さ23.7cmを測り、主柱穴と考えられる形態を示す。全体的には補助柱らしい小ビットが、壁沿いに巡っている。

(炉)住居跡の西側に地床炉が認められ、規模は径35.0×25.0cmの範囲で、焼土が広がる。

(時期)縄文時代前期後半の諸磯b式期。

(出土遺物)遺物は破片類を中心に出土している。特殊なものとしては、小型磨製石斧がある。

第8号住居跡(第12図)

(位置)調査区の南端、A-1グリッドに位置している。

(重複・改築)なし。

(形態・規模)住居跡の3/4が調査区外に位置し、北側は攪乱を受け、その大部分が溝に切られている。形態は円形を呈するものと考えられ、長径は現存値で約3.10m、短径も現存値で2.50mを測る。

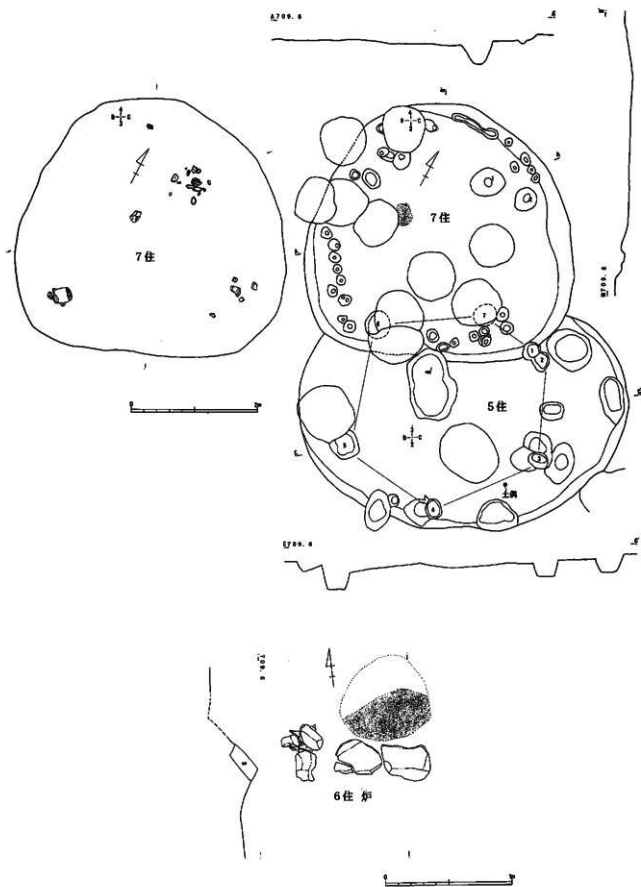
(壁・周溝)壁は東部のセクション面で急な立ち上がりを示し、約15cmを測る。周溝は存在しない。

(柱穴)柱穴と考えられるものは2本で、遺構どうしの切り合いからその正確な規模は不明である。

(炉)不明である。

(時期)縄文時代中期後半の曾利ⅣないしⅤ式期。

(出土遺物)本跡に伴うものはほとんど認められなかった。



第13图 A区 第5·6·7号住居跡

第9号住居跡(第14図)

(位置)調査区の中央北西端、A・B-5・6グリッドに位置している。

(重複・改築)第10号住居跡と重複している。

(形態・規模)住居跡の西側約1/2が調査区外に位置し、中心部は溝に切られている。形態は円形を呈し、径は5.50mを測る。

(壁・周溝)壁はセクションで20cmを測り、立ち上がりは急である。周溝は、南東部の入口部と考えられる付近が途切れる以外は巡っており、幅は20~35cm、深さは10~15cmを測る。

(柱穴)主柱穴と考えられるものは、3本存在する。ピット1は径52.0×48.0、深さ74.0cm、ピット2は径52.0×48.0、深さ67.9cm、ピット3は径42.0×40.0、深さ50.5cmを測る。

(炉)石囲炉が、住居跡の北寄りに見られる。115×95cm(掘り方148×135cm)で、深さが32cmを測る。規模が大きく、良好な状態で発見された。

(時期)縄文時代中期後半の曾利Ⅱ式期。

(出土遺物)中心部が溝によって切られていることと、覆土がほとんど残っていないため遺物は少なかった。しかし、調査区との境に面した部分で、底部が残っていない大型の深鉢形土器が出土している。

第10号住居跡(第14図)

(位置)調査区の中央北西端、A・B-6・7グリッドに位置している。

(重複・改築)第9・16号住居跡と重複している。

(形態・規模)住居跡の西側が、溝に切られている。形態は円形を呈し、長径は推定で4.00m、短径は3.90mを測る。

(壁・周溝)壁はセクションで20cmを測り、立ち上がりは急である。周溝は、南部の入口部と考えられる付近と第9号住居跡との重複部分で途切れる以外は巡っており、幅は15~35cm、深さは5cmを測る。

(柱穴)主柱穴と考えられるものは、6本存在する。ピット1は径26.0×25.0、深さ37.8cm、ピット2は径33.0×25.0、深さ30.4cm、ピット3は径20.0×19.0、深さ41.5cm、ピット4は径30.0×26.0、深さ22.4cm、ピット5は径27.0×20.0、深さ43.9cm、ピット6は径35.0×28.0、深さ26.5cmを測る。

(炉)住居跡の東寄りに石囲炉が見られるが、石組みは西側しか残っていない。75×70cm(掘り方129×80cm)で、深さが35cmを測る。本住居跡の規模にしては、立派なものである。

(埋甕)炉とは反対側に位置する入口部にあたる周溝内に、径が31×30cmで、深さが21cmを測る掘り方に、底部が穿孔された正位の深鉢形土器が埋設されていた。

(時期)縄文時代中期後半の曾利Ⅳ式期。

(出土遺物)全体的に覆土がほとんど残っていないため、遺物は点在する程度で少なかった。

第11号住居跡(第15図)

(位置)調査区の北端東寄り、E-7グリッドに位置している。

(重複・改築)なし。

(形態・規模)西側の約1/2が調査区外に位置する。形態は楕円形を呈するものと考えられ、径は推定で3.60mを測る。

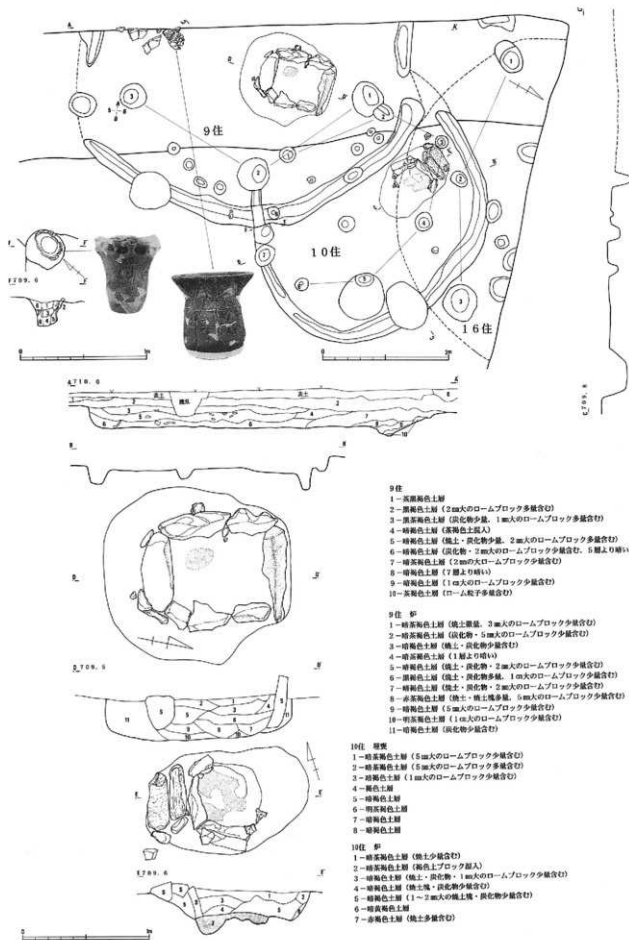
(壁・周溝)壁は、最大で20cmを測る。周溝は存在しない。

(柱穴)主柱穴と考えられるものは2本存在し、ピット1は径45.0×38.0、深さ42.6cm、ピット2は径43.0×36.0、深さ30.9cmを測る。その他のものは、補助柱穴と考えられる。

(炉)調査区との境に位置し、住居跡のほぼ中央部に地床炉が存在する。規模は長径が推定で90cm、短径は70cm、深さは10cmを測り、中心部に焼土が集中している。

(時期)縄文時代前期後半の諸磯a式期。

(出土遺物)炉の周辺から土器がまとめて出土している。



9住

- 1-灰黒褐色土層
- 2-黒茶褐色土層 (2cm大のロームブロック多量含む)
- 3-黒茶褐色土層 (炭化物少量, 1cm大のロームブロック多量含む)
- 4-暗褐色土層 (高砂土層入)
- 5-暗褐色土層 (粘土・炭化物少量, 2cm大のロームブロック多量含む)
- 6-暗褐色土層 (炭化物・2cm大のロームブロック少量含む, 5層より薄い)
- 7-暗茶褐色土層 (2cm大のロームブロック少量含む)
- 8-暗褐色土層 (7層より薄い)
- 9-暗褐色土層 (1cm大のロームブロック少量含む)
- 10-灰褐色土層 (ローム粒子多量含む)

9住 炉

- 1-暗茶褐色土層 (粘土多量, 3cm大のロームブロック少量含む)
- 2-暗茶褐色土層 (炭化物・5cm大のロームブロック少量含む)
- 3-暗褐色土層 (炭化物少量含む)
- 4-暗茶褐色土層 (1層より薄い)
- 5-暗褐色土層 (粘土・炭化物・2cm大のロームブロック少量含む)
- 6-暗褐色土層 (粘土・炭化物多量, 1cm大のロームブロック少量含む)
- 7-暗褐色土層 (粘土・炭化物・2cm大のロームブロック少量含む)
- 8-赤茶褐色土層 (粘土・焼土多量, 5cm大のロームブロック少量含む)
- 9-暗褐色土層 (5cm大のロームブロック少量含む)
- 10-暗茶褐色土層 (1cm大のロームブロック少量含む)
- 11-暗褐色土層 (炭化物少量含む)

10住 埋蔵

- 1-暗茶褐色土層 (5cm大のロームブロック少量含む)
- 2-暗茶褐色土層 (5cm大のロームブロック多量含む)
- 3-暗褐色土層 (1cm大のロームブロック少量含む)
- 4-黒色土層
- 5-暗褐色土層
- 6-暗茶褐色土層
- 7-暗褐色土層
- 8-暗褐色土層

10住 炉

- 1-暗茶褐色土層 (粘土少量含む)
- 2-暗茶褐色土層 (粘土上ブロック層入)
- 3-暗褐色土層 (粘土・炭化物・1cm大のロームブロック少量含む)
- 4-暗褐色土層 (粘土・炭化物少量含む)
- 5-暗褐色土層 (1~2cm大の焼土塊・炭化物少量含む)
- 6-暗茶褐色土層
- 7-暗褐色土層 (粘土多量含む)

第14図 AIX 第9・10・16号住居跡

第12号住居跡(第11図)

(位置)調査区の北端、C・D-7・8グリッドに位置している。

(重複・改築)縄文後期の第3号住居跡と重複する。

(形態・規模)北側の約1/2が調査区外に位置している。形態は円形を呈しているものと考えられ、規模は推定で長径4mを測るものと想定される。

(壁・周溝)壁は遺構の重複関係で残っていないが、セクションから深さが55cm程度存在していたものと考えられる。周溝は存在しない。

(柱穴)配列が明確でなく主柱穴と補助柱穴の区別はできない。全体的に小型のピットが分布しているが、深さが20~70cmと多様化している。

(炉)不明。

(時期)縄文時代前期後半の諸磯a式期。

(出土遺物)第3号住居跡に破壊されているせいか、破片類が主体である。

第13号住居跡(第16図)

(位置)調査区の南側、B・C-1・2グリッドに位置している。

(重複・改築)なし。

(形態・規模)形態は円形を呈するものと考えられ、規模は長径で4.25m、短径は3.65mを測る。

(壁・周溝)壁は東側で、土坑と切り合い確認できなかったが、全体的に良好な状態であり、深さは最大で24cmを測る。周溝は土坑との切り合い部分が切断されているが、この部分が入口部と想定され、その他の部分ではよく残っている。規模は幅15~30cm、深さ15cmを測ることができる。

(柱穴)主柱穴は4本と考えられる。ピット2は径33.0×33.0、深さ55.3cm、ピット3は径37.0×29.0、深さ50.6cm、ピット6は径27.0×27.0、深さ46.4cm、ピット9は径35.0×28.0、深さ56.7cmを測り、これらが主柱穴と考えられる。その他のものは補助柱穴と考えられ、深さは20cm程度を測ることができる。

(炉)住居跡の中央西寄りに石囲炉が良好な状態で発見できた。規模は長径90×短径85cm、深さは47cmを測り、住居跡の規模に比べて立派である。

(時期)縄文時代中期後半の曾利IV式期。

(出土遺物)入口部と考えられる付近から深鉢形土器や小型鉢土器などといったものと共に、多量の遺物が出土している。

第14号住居跡(第15図)

(位置)調査区の中央東寄り、B・C-4・5グリッドに位置している。

(重複・改築)なし。

(形態・規模)形態は隅丸方形を呈するものと考えられ、長径は3.63m、短径は3.36mを測る。住居跡として認識してよいか微妙である。

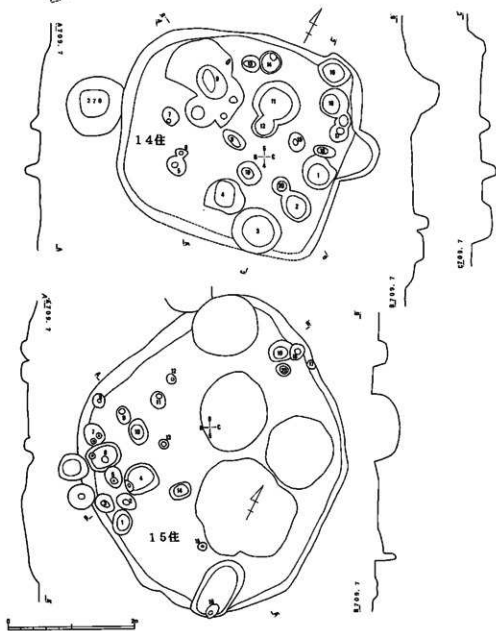
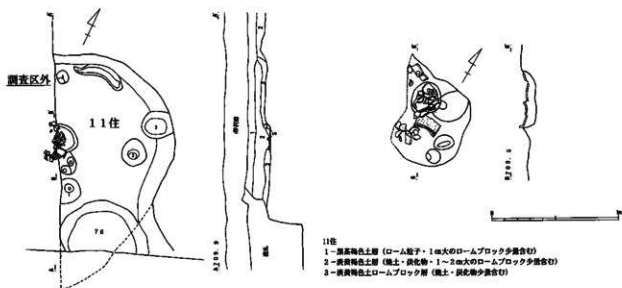
(壁・周溝)壁はしっかりした立ち上がり認められ、深さが18cmを測る。周溝は存在しない。

(柱穴)主柱穴と考えられるものは4本である。ピット5は径33.0×27.0、深さ25.0cm、ピット8は径56.0×39.0、深さ27.6cm、ピット16は径48.0×46.0、深さ33.9cm、ピット20は径31.0×28.0、深さ23.5cmを測り、これらは主柱穴と考えられる。

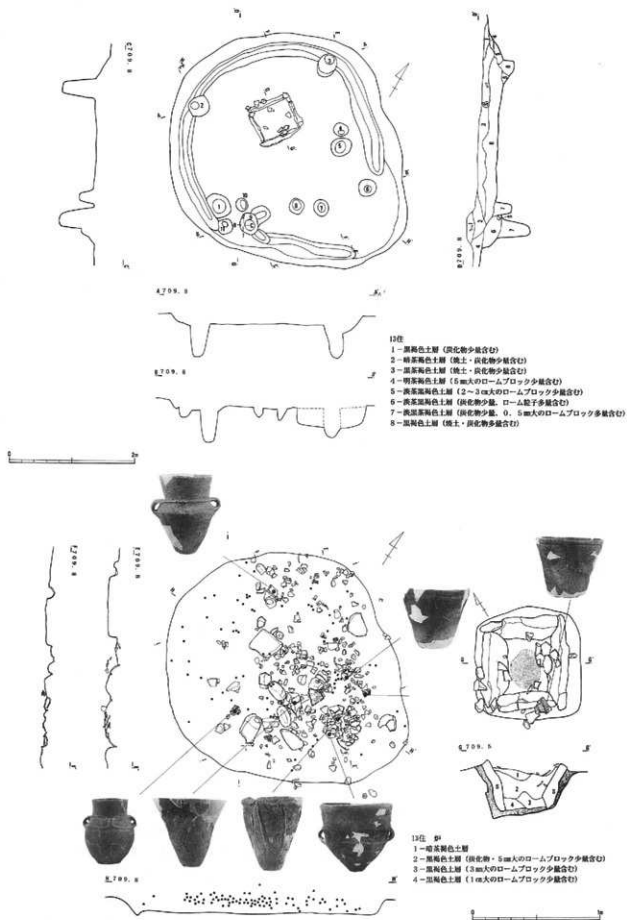
(炉)不明。

(時期)縄文時代中期後半の曾利IV式期。

(出土遺物)南端で土器と石器が数点出土した程度で、遺物はとても少ない。



第15図 A区 第11・14・15号住居跡



第16図 A区 第13号住居跡

第15号住居跡(第15図)

(位置)調査区の中央西寄り、B・C-5・6グリッドに位置している。

(重複・改築)なし。

(形態・規模)第4号配石と切り合っているため、正確な形態や性格、施設などについてはわからない点が多いが、現状では形態は不整楕円形を呈し、規模は長径5.30m、短径4.26mを測る。

(壁・周溝)壁は最深部で約23cmを測る。周溝は存在しない。

(柱穴)主柱穴と補助柱穴の区別はできないが、柱穴と考えられるものは西側に集中し、深さは10~40cmを測るピットが20基存在する。

(炉)不明。

(時期)縄文時代前期後半の諸磯式期と考えられる。

(出土遺物)遺物は非常に少ない。

第16号住居跡(第14図)

(位置)調査区の北西端、A・B-6・7グリッドに位置している。

(重複・改築)第10号住居跡と重複する。

(形態・規模)北側約2/3は調査区外に位置している。形態は円形を呈するものと考えられ、径は推定で5.50mを測る。

(壁・周溝)壁はセクションで約4cmを測ることができる。周溝は存在しない。

(柱穴)主柱穴は3本確認できた。ピット1は径39.0×34.0、深さ20.3cm、ピット2は径26.0×23.0、深さ24.5cm、ピット3は径58.0×56.0、深さ25.5cmを測る。

(炉)調査区外に存在するものと思われる。

(時期)縄文時代中期後半の曾利Ⅳ式期。

(出土遺物)覆土がほとんど残っていないため、遺物はとても少ない。

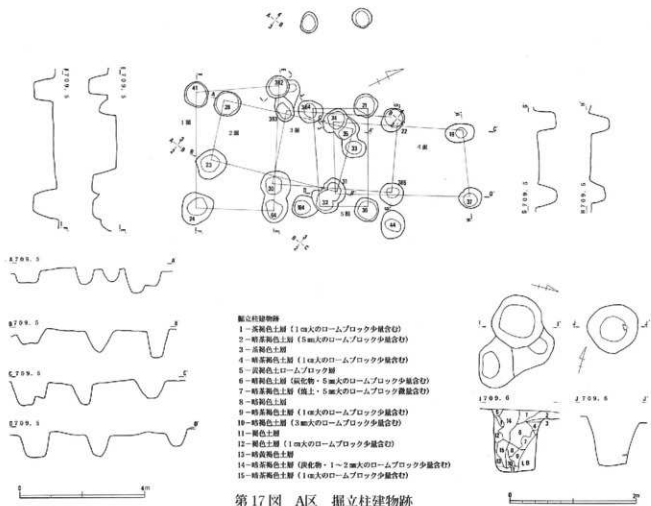
第1表 A区住居跡一覧表

() は現存値および推定値

図版番号	接続	位 置	重複・改築	平面形	長径(m)	短径(m)	深さ(cm)	炉	主柱穴	時代・時期	備 考
第8・9図	1	D・E-4	なし	不整楕円	(5.38)	4.70	38.0	—	—	縄文中期曾Ⅱ	埋蔵と立石を伴う土坑と重複し、築削の要案。
第10図	2	C-3、D-3・4	なし	不整円	4.60	4.09	15.0	—	6	縄文前期諸b	一部調査区外。
第11図	3	C・D-7・8	12住と重複改築?	方	(4.50)	—	42.0	地床	—	縄文後期称Ⅰ	深鉢形土器出土。約半分が調査区外。
第12図	4	B・C-1	なし	円	(5.00)	—	—	石囲	3	縄文中期曾Ⅳ	土器と石棒が出土。
第13図	5	B・C-2・3	7住と重複	楕円	5.30	3.70	17.0	—	3	縄文中期曾Ⅳ	柁の跡確認。
第13図	6	CB・C-3	なし	不明	—	—	—	石囲	1	縄文中期曾Ⅲ	小型磨製石斧出土。
第13図	7	B・C-3・4	5住と重複	不整円	4.25	4.00	24.0	地床	2	縄文前期諸b	大部分が調査区外。
第12図	8	A-1	なし	円	(3.10)	(2.50)	15.0	—	2	縄文中期曾Ⅳ	大型深鉢が出土。約半分が調査区外。
第14図	9	A・B-5・6	10住と重複	円	5.50	—	20.0	石囲	3	縄文中期曾Ⅱ	入口部に正位の埋蔵。
第14図	10	A・B-6・7	9・16住と重複	円	(4.00)	3.90	20.0	添石	6	縄文中期曾Ⅳ	柁周辺で土器が出土。約半分が調査区外。
第15図	11	F-7	なし	円	(3.60)	—	20.0	地床	2	縄文前期諸a	一部調査区外。
第11図	12	C・D-7・8	3住と重複	円	(4.00)	—	55.0	不明	—	縄文前期諸a	深鉢形・鉢形土器などの遺物が多数出土。
第16図	13	B・C-1・2	なし	円	4.25	3.65	24.0	石囲	4	縄文中期曾Ⅳ	住居として認識してよいか微妙。
第15図	14	B・C-4・5	なし	隅丸方	3.63	3.36	18.0	不明	4	縄文中期曾Ⅳ	配石遺構と重複。
第15図	15	B・C-5・6	なし	不整楕円	5.30	4.26	23.0	—	2	縄文前期諸	約半分が調査区外。
第14図	16	A・B-6・7	10住と重複	円	(5.50)	—	4.0	不明	3	縄文中期曾Ⅳ	

第2項 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡（第17図）は、調査区中央西寄りのA-3、B-2・3、C-3・4グリッドに集中して、5基認めることができた。時期的にはすべて縄文時代に属し、中期後半の曾利式期に位置づけられるものである。



第1号掘立柱建物跡

(位置) 調査区の中央西側、A-3、B-2・3グリッドに位置している。

(重複・改築) 第2・3号掘立柱建物跡、第5号住居跡と重複している。

(形態・規模) 南西部が溝に切られている。形態は東西に主軸を持つ長方形を呈している。規模は長径4.65m、短径3.35mを測る。

(柱穴) 柱穴は4本で、24・41・64・382土としてものが該当する。深さは80~90cmを測る。

(時期) 縄文時代中期後半の曾利Ⅲ式期。

第2号掘立柱建物跡

(位置) 調査区の中央西寄り、B-2・3、C-3グリッドに位置している。

(重複・改築) 第1・3・4・5号掘立柱建物跡、第7号住居跡と重複している。

(形態・規模) 西部が溝に切られている。形態は北東から南西に主軸を持つ長方形を呈している。規模は長径が4.90m、短径は2.90mを測る。

(柱穴) 柱穴は4本で、23・28・31・35土が該当する。深さは70~80cmを測る。南側は浅い。

(時期) 縄文時代前期後半の曾利Ⅳ式期。

第3号掘立柱建物跡

(位置) 調査区の中央西寄り、B・C-3グリッドに位置している。

(重複・改築) 第1・2・4・5号掘立柱建物跡、第7号住居跡と重複している。

(形態・規模) 形態は、北東から南西に主軸を持つ長方形を呈している。規模は長径4.75m、短径3.00mを測る。

(柱穴) 柱穴は4本で、22・33・383・385土が該当する。深さは75～90cmを測る。

(時期) 縄文時代中期後半の曾利Ⅳ式期。

第4号掘立柱建物跡

(位置) 中央西寄り、B-3、C-3・4グリッドに位置している。

(重複・改築) 第2・3・5号掘立柱建物跡、第7号住居跡と重複している。

(形態・規模) 形態は、南北に主軸を持つ長方形を呈している。規模は長径5.00m、短径3.00mを測る。

(柱穴) 柱穴は4本で、19・31・34・37土が該当する。深さは55～80cmを測る。

(時期) 縄文時代中期後半の曾利Ⅳ式期。

第5号掘立柱建物跡

(位置) 調査区の中央西寄り、B・C-3グリッドに位置している。

(重複・改築) 第2・3・4号掘立柱建物跡、第7号住居跡と重複している。

(形態・規模) 形態は東西に主軸を持つ長方形を呈している。規模は長径4.10m、短径は2.60mを測る。

(柱穴) 柱穴4本で、21・32・36・384土が該当する。深さは70～75cmを測る。

(時期) 縄文時代中期後半の曾利Ⅲ式期。

第2表 A区掘立柱建物跡一覧表

図版番号	座標	位置	重複・改築	平面形	長径(m)	短径(m)	柱穴(本)	時代・時期	備考
第17図	1	A-3、B-2・3	2・3掘と5住と重複	長方	4.65	3.35	4	縄文中期曾Ⅱ	溝に切られる。
第17図	2	B-2・3、C-3	1・3・4・5掘と7住と重複	長方	4.90	2.90	4	縄文中期曾Ⅳ	溝に切られる
第17図	3	B・C-3	1・2・4・5掘と7住と重複	長方	4.75	3.00	4	縄文中期曾Ⅳ	
第17図	4	B-3、C-3・4	2・3・5掘と7住と重複	長方	5.00	3.00	4	縄文中期曾Ⅳ	
第17図	5	B・C-3	2・3・4掘と7住と重複	長方	4.10	2.60	4	縄文中期曾Ⅱ	

第3項 竪穴状遺構

ここでは住居状の形態をとるが、炉や主柱穴などの主要施設を持たないものを竪穴状遺構とした。確認できたのは1基で、調査区北部の住居跡が密集する地帯に存在する。

第1号竪穴状遺構 (第18図)

(位置) 調査区北側のB・C-6・7グリッドに位置している。

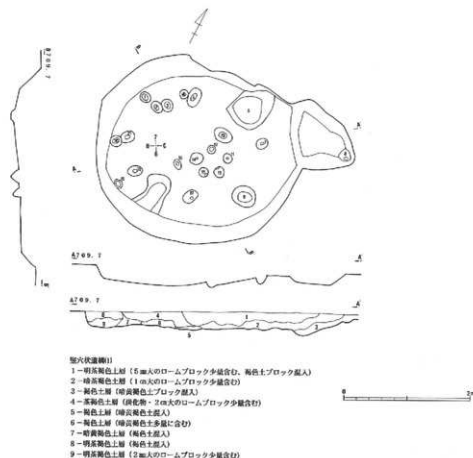
(重複) なし。

(形態・規模) 不整形円形を呈している。規模は長径3.70m、短径3.00m、深さは最大で41cmを測る。

(ピット) 床面には径が10～70cm大の大小のピット21基が不規則に分布しているが、多くのものが径10～20cm大で、深さが10～20cmと小規模のものが多く、柱穴を意味しているものは少ないように感じられる。

(時期) 縄文時代前期後半の諸磯b式期。

(出土遺物) 土器片が主体である。



第18図 A区 竪穴状遺構

第4項 土坑 (第19~23図)

384基中18基は掘立柱建物跡などの柱穴に変更したため、土坑として認識できるものは366基である。時期的には約30%に当たるものは不明で、約50%に当たる半数以上が縄文時代前期の諸磯期に属するものである。

特筆すべきものを以下に挙げる。67土 (第20図) では内面が赤彩され、底部に炭化物が付着した浅鉢形土器が逆位出土した。この土器は口辺部が約1/3程度欠失しており、所謂墓坑とされるものに特徴が似ている。69土 (第20図) は、覆土に多量の炭化材と炭化物が含まれていた。114~116土 (第21図) は同一の遺構の可能性があり、板状の礫が積み重ねられているなどから土坑とは分離させた配石遺構とした方がよいようである。遺物は、50cm大の礫に隣接して深鉢形土器の胴上部破片が出土している。215土は坑底部から翡翠製の大珠が出土し、やはり墓と考えられる。254土 (第22図) からは、有孔浅鉢形土器がやはり逆位で出土しており、墓坑とされるものであろう。第1号配石遺構から出土した小型有孔浅鉢形と同様に口縁部が、意図的に破壊された状況が確認できる。第2号配石遺構に隣接する269土 (第22図) の覆土からは、骨片状のものが出土している。283土 (第23図) はやや変形した袋状土坑であるが、その性格は不明である。311・340・352土 (第21図) からは深鉢形土器がそれぞれ出土しているが、311・352土は横位に、340土は逆位で潰れた状態である。

第3表 A区土坑一覧表

() は現存値および推定値

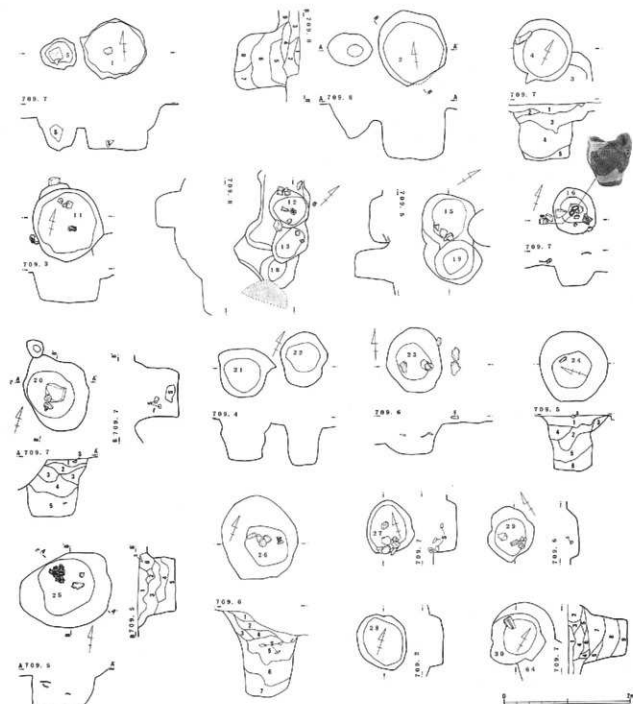
坑別位	置長径(cm)	廻径(cm)	深さ(cm)	形 態	立ち上がり	時 期	備 考
1 D-3	106.0	100.0	48.8	円急	円急	曾Ⅲ	246土を切る。
2 D-2	114.0	113.0	65.0	円急	円急	諸b	337土と切り合う。
3 C-1	(85)	(83)	(46)	不整	急	曾Ⅲ	4土に切られる。南側は調査区外。
4 C-1	103.0	95.0	67.2	不整	急	曾Ⅲ	3土を切る。
5 C-3	60.0	57.0	49.8	不整	急	曾Ⅲ	2(石)
6 D-1・2	140.0	90.0	36.7	楕円急	楕円急	曾Ⅳ	8土と切り合い、332土を切る。
7 D-1	77.0	45.0	34.3	楕円急	急	曾?	
8 D-1	195.0	95.0	33.4	不整	緩やか	中Ⅲ	6土と切り合う。

坑別	位置	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	形態	立ち上がり	時期	備	考
9	C-1	62	40	20.4	隅丸方急		諸b	両側に調査区外。	
10	C-1	47.0	40.0	34.3	楕円急		諸b		
11	A-5	113.0	110.0	62.1	円急		曾Ⅱ	溝と切り合う。壁土を含む。	
12	B-4	75.0	60.0	75.8	円急		曾Ⅱ	13土と切り合う。17土に切られる。	
13	B-4	80.0	48.0	37.2	楕円急		曾Ⅱ	12土と切り合う。18土に切られる。	
14	C-4	60.0	70.0	25.4	円やや急		諸b	14土に切られ。19土と切り合う。	
15	C-4	74.0	74.0	31.8	円緩やか		曾Ⅰ・Ⅱ	15土と切り。19土と切り合う。	
16	B-4	75.0	70.0	9.5	楕円緩やか		曾Ⅱ	曾Ⅰの唐草文系小形跡と加曾ⅠE系土器が取出	
17	B-4	90.0	60.0	53.3	円急		曾Ⅳ	溝に切られ。小形跡。12土を切る。	
18	B-4	60.0	45.0	25.5	不整楕やか		曾Ⅳ	13土を切る。腹上に壁土多量混入。	
19	C-4	92.0	71.0	65.4	楕円急		諸b?	4層に変更。71土と切り合う。	
20	B-3	126.5	100.0	64.0	不整円急		曾Ⅴ	溝に切られる。谷底より板状跡が出土。貯蔵穴?	
21	B-3	87.0	80.0	98.9	不整円急		曾Ⅴ	5層に変更。7土を切る。	
22	B-C-3-4	87.0	60.0	77.6	不整急		曾Ⅳ・Ⅴ	3層に変更。	
23	B-3	102.0	85.0	52.4	楕円急		曾Ⅳ	2層に変更。	
24	B-2	110.0	107.0	88.7	円急		曾Ⅱ	1層に変更。	
25	B-2	147.0	117.0	63.0	楕円やや急		曾Ⅱ	70土を切り。71土と切り合う。小形跡出土。	
26	A-2	132.0	120.0	134.0	円急		諸b	47土と溝に切られ。58土を切る。	
27	B-4	84.0	80.0	27.2	不整楕やか		諸b		
28	B-3	92.0	80.0	30.7	楕円急		曾Ⅳ	2層に変更。	
29	B-3	87.0	65.0	24.0	不整楕やか		曾Ⅱ	溝に切られる。	
30	B-3	112.0	88.5	92.4	不整急		曾Ⅳ・Ⅴ	3層に変更。64土を切る。	
31	B-3	57.0	57.0	69.4	不整急		曾Ⅱ	2層に変更。32土と切り合う。	
32	B-3	87.0	58.0	104.3	楕円急		曾Ⅴ	5層に変更。31土と切り合う。	
33	B-3	76.0	64.0	65.4	楕円やや急		諸b	35土に切られる。7土のがを切る。	
34	B-3	74.0	69.0	74.5	円急		諸b?	4層に変更。35土と切り合う。	
35	B-3	84.0	67.0	49.7	不整急		諸b	33・34土に切られる。	
36	C-3	75.0	70.0	63.3	円やや急		曾Ⅳ・Ⅴ	5層に変更。77土内。	
37	C-3	70.0	65.0	61.3	円急		諸b?	4層に変更。	
38	B-3	105.0	100.0	—	円やや急		曾Ⅳ		
39	A-3	100.0	60.0	36.7	不整楕やか		諸b	溝に切られる。	
40	C-3	83.0	72.0	15.0	円緩やか		諸b	77土内に変更。	
41	A-3	85.0	85.0	89.2	円急		曾Ⅱ	1層に変更。50土を切る。溝内。	
42	A-B-5	97.0	103.0	70.1	円急		諸b	溝に切られ。46土と切り合う。	
43	B-2	113.5	82.0	24.2	不整楕やか		諸b	溝に切られる。	
44	A-3	91.0	78.0	74.1	楕円急		諸b	77土内。	
45	D-2	47.0	44.0	36.9	円急		諸b	266土と切り合う。	
46	A-B-5	84.0	55.0	73.8	不整楕やか		諸b	溝と42土に切られる。	
47	A-3	73.0	26.0	26.7	不整楕やか		曾Ⅴ	溝に切られ。26・48土を切る。	
48	A-2-3	87.5	74.0	41.5	不整急		曾Ⅱ	溝と47土に切られ。49土と切り合う。	
49	A-3	84.0	(55)	29.9	不整円緩やか		曾Ⅱ	溝に切られ。48・50土と切り合う。	
50	A-3	140.0	78.0	22.9	不整楕やか		諸b	溝に切られ。41・47土と切り合う。	
51	B-4	64.0	60.0	53.7	円急		諸b	溝に切られる。	
52	A-B-4	88.0	85.0	26.7	円急		諸b	溝に切られ。60土と切り合う。	
53	B-3	56.0	55.0	23.3	円緩やか		諸b	溝に切られる。	
54	A-B-4	48.0	45.0	16.4	円急		諸b	溝に切られる。	
55	A-2	(48)	(40)	16.3	楕円急		諸b	溝と切り合う。西側に調査区外。	
56	A-2	(50)	(46)	13.7	楕円急		諸b	溝と切り合う。約半分が調査区外。	
57	A-2	(73)	(40)	13.6	楕円緩やか		諸b	約半分が調査区外。	
58	A-2	65.0	55.0	21.2	楕円緩やか		諸b	溝と26土に切られる。	
59	A-4	82.0	(37)	48.0	不整楕やか		諸b	一部調査区外。	
60	A-4	55.0	35.0	1.9	不整急		諸b	溝と52土と切り合う。	
61	A-B-4-5	118.0	80.0	82.5	楕円急		曾Ⅱ	62土と切り合う。中層に壁土多量。	
62	B-4	82.0	63.0	31.3	楕円やや急		諸b	溝と61土と切り合う。多数出土している。	
63	B-4	43.0	42.0	10.6	不整急		諸b	溝に切られる。	
64	B-3	100.0	72.0	88.4	円急		曾Ⅱ	1層に変更。30土と切り合う。土器が出土。51のピットに変更。	
65									
66	B-2-3	42.0	35.0	—	円不明			51土内。	
67	B-2	75.0	59.0	41.0	不整急		曾Ⅳ	墓か?内面に赤彩された浅鉢の完形が逆位で出土。	
68	A-B-2	103.0	102.0	55.3	円やや急		諸b	溝に切られる。	
69	B-1	215.0	165.0	95.6	楕円やや急		曾Ⅴ	72土を切る。炭化材・炭化物を多量に含む。	
70	B-2	87.0	77.0	64.4	不整やや急		諸b	25土に切られる。	
71	B-2	110.0	102.0	19.3	不整やや急		諸b	25土と切り合う。	
72	B-1-2	92.0	72.0	45.0	不整やや急		諸b	69土と切られる。	
73	B-2	97.0	89.0	33.3	不整楕やか		諸b		
74	F-7-8	175.0	164.0	45.0	円やや急		諸b	80・93土と切り合う。	
75	F-7	200.0	110.0	43.4	円緩やか		諸b	戦時遺構に切られる。坑底が東側で落ち込む。	
76	F-7	130.0	(60)	29.5	円急		諸b	11土を切る。	
77	A-2-3	172.0	(84)	13.6	楕円やか		諸b	約半分が調査区外。ピット状の落ち込みを持つ。	
78	E-F-8	(104)	(85.0)	57.0	不整急		諸b	79・92土と切り合い。戦時遺構に切られる。	
79	E-8	(155)	(100)	42.9	楕円緩やか		諸b	78土と切り合い。戦時遺構に切られる。	
80	F-8	140.0	70.0	32.3	長楕円緩やか		諸b	74・81土と切り合う。	
81	E-8	200.0	(70)	32.9	楕円緩やか		諸b	80・92土と切り合い。戦時遺構に切られる。	
82	F-G-7	85.0	50.0	43.0	楕円緩やか		諸b		
83	F-G-7	70.0	44.0	29.3	楕円緩やか		諸b		
84	F-7	83.0	50.0	30.5	円緩やか		諸b		
85	F-7	70.0	50.0	27.8	楕円緩やか		諸b		
86	F-7-8	74.0	70.0	22.4	円緩やか		諸b		
87	F-G-8	110.0	73.0	29.5	不整やや急		諸b		
88	G-8	82.0	67.0	36.5	楕円やや急		諸b	107土を切る。	
89	G-8	94.0	50.0	22.9	楕円急		諸b	90土と切り合う。戦時遺構に切られる。	
90	F-9	(160)	(65)	17.3	不整急		諸b	一部風丸。	
91	F-8	120.0	(55)	15.3	不整やや急		諸b	一部風丸。	
92	F-8	50.0	40.0	37.4	円急		諸b	78・81土と切り合う。	
93	F-7-8	110.0	95.0	31.1	不整楕やか		諸b	74土と切り合う。	
94	F-8	100.0	70.0	44.8	楕円緩やか		諸b	一部風丸。	
95	F-7	50.0	50.0	26.7	楕円やや急		諸b		
96	C-8	40.0	34.0	36.9	円緩やか		諸b		
97	F-G-6	134.0	97.0	57.6	円緩やか		諸b	東側に小ピット。	
98	F-6	80.0	65.0	32.7	楕円やや緩やか		諸b	104土と切り合う。	
99	F-6	37.0	26.0	20.7	楕円やや急		諸b	104土と切り合う。	
100	F-7	70.0	(45)	47.3	隅丸方緩やか		諸b	戦時遺構に切られる。	
101	F-6	92.0	78.0	34.0	楕円緩やか		諸b	102・228土と切り合う。	
102	E-F-6	131.0	87.0	32.3	不整楕やか		諸b	101・228土と切り合う。	

識別位	置長(cm)	埋深(cm)	深さ(cm)	形態	立ち上がり	時期	備考
103 F-6	117.0	84.0	32.6	楕円	やや急	諸b	104土に切られる。
104 F-6・7	210.0	170.0	37.6	不整	やや緩やか	曽Ⅱ	88・90・167・179土などと切り合う。
105 G-7・8	130.0	(85)	37.2	楕円	緩やか	諸b	段がある。一部復乱。
106 G-8	70.0	50.0	24.0	楕円	やや急	諸b	89・90土に切られる。
107 G-8	95.0	85.0	44.8	楕円	緩やか	諸a	88土に切られる。
108 F-8	105.0	88.0	33.0	楕円	急	諸a	南側に小ピット。
109 E-6・7	80.0	75.0	—	円	急	—	—
110 E-6	90.0	80.0	32.5	楕円	緩やか	諸a	—
111 C-4	130.0	105.0	30.0	不整	急	曾V	—
112 C-4	92.0	57.0	55.0	楕円	急	—	—
113 C・D-4	165.0	132.0	62.8	不整	緩やか	曽Ⅱ	6位の柱穴の可能性あり。111土と切り合う。
114 E・F-6	321.0	(208)	20.0	不整	緩やか	諸a	115・116・159土を切る。板状礎を作る。
115 E・F-6	95.0	85.0	33.8	不整	緩やか	諸a	114・159土を切られる。板状礎を作る。
116 E・F-6	207.0	(110)	17.2	不整	やや緩やか	諸a	114土を切られる。配石遺構で急の可能性あり。
117 E-5・6	155.0	150.0	29.2	円	緩やか	諸b	118土と切り合う。
118 E-5	125.0	95.0	31.0	不整	緩やか	諸b	117・119・121土と切り合う。
119 E-5	85.0	57.0	24.1	不整	緩やか	諸b	118・120・136土と切り合う。
120 E-6	195.0	130.0	31.8	楕円	緩やか	諸a・b	119・190土と切り合う。
121 E-6	82.0	70.0	39.2	楕円	緩やか	諸b	118・138土と切り合う。
122 E-4	54.0	36.0	14.2	楕円	緩やか	諸a・b	129土と切り合う。
123 E-4・5	100.0	90.0	16.2	不整	急	諸b	154土と切り合う。
124 E-4	(110)	(75)	23.0	不整	やや急	諸a	154・157土に切られる。
125 E-5	(129)	95.0	26.2	楕円	緩やか	諸a	136・157土に切られる。
126 E-4・5	138.0	123.0	46.7	不整	緩やか	諸a	133土と切り合う。
127 E-4	70.0	52.0	29.0	不整	円	諸b	—
128 E-4	70.0	58.0	86.6	不整	やや急	諸b	129・187土と切り合う。
129 E-4	45.0	40.0	14.0	円	急	—	122・127・128・166土などと切り合う。
130 E-6	103.0	90.0	32.1	円	緩やか	諸a	—
131 E-5	80.0	65.0	32.9	円	急	諸b	—
132 B-6	80.0	58.0	41.0	不整	急	諸b	10f内。
133 C・D-3	200.0	85.0	28.0	不整	緩やか	諸b	2f内。
134 B-6	72.0	59.0	59.8	円	急	諸b	9f土と切り合う。
135 B-6	80.0	70.0	37.0	不整	やや急	諸b	10f内。坑底より礫が出土。
136 E-5	(99)	80.0	27.7	楕円	緩やか	諸b	119・125土と切り合う。一部調査区外。
137 E-5	45.0	35.0	—	楕円	急	諸b	190土と切り合う。
138 E-5・6	72.0	70.0	21.0	円	緩やか	諸b	121・139土と切り合う。
139 E-6	105.0	(69)	26.1	不整	円	株Ⅰ	138・153・352・353土を切る。
140 D-6	118.0	37.0	28.5	不整	緩やか	諸b	145・157土と切り合う。
141 D-6	66.0	57.0	20.0	楕円	緩やか	第Ⅱ	142・245土と切り合う。
142 D-6	52.0	50.0	25.1	円	緩やか	—	141・143土と切り合う。跡状。
143 D-6	65.0	60.0	13.4	楕円	急	諸b	142・144土と切り合う。
144 D-6	68.0	50.0	42.6	楕円	やや急	諸b	143・145土と切り合う。
145 D-6	100.0	78.0	35.3	楕円	緩やか	諸b	140・144土と切り合う。
146 D-6	82.0	68.0	34.0	楕円	緩やか	諸b	375土と切り合う。
147 D-6	78.0	68.0	32.1	不整	緩やか	諸b	200土と切り合う。礫多数出土。
148 D-6	95.0	42.0	13.1	楕円	急	曾Ⅱ	209土と切り合う。
149 D・E-6	80.0	62.0	24.0	楕円	緩やか	諸a	—
150 D・E-7	76.0	66.0	32.8	楕円	緩やか	諸b	戦時遺構と切り合う。
151 E-5	105.0	92.0	33.6	楕円	やや急	諸b	—
152 E-5	127.0	118.0	—	楕円	不明	諸b	158土と切り合う。
153 E-4・5	68.0	60.0	32.9	不整	急	諸b	126・154土と切り合う。
154 E-4・5	95.0	78.0	61.0	不整	緩やか	諸b	123・124・153土と切り合う。
155 D-6	67.0	60.0	30.5	円	緩やか	諸b	—
156 D-7	98.0	93.0	30.5	楕円	緩やか	諸b	—
157 E-5	84.0	65.0	86.6	楕円	急	諸b	124・125土と切り合う。
158 E-5	130.0	90.0	57.7	楕円	緩やか	諸b	152土と切り合う。
159 F-5・6	86.0	82.0	76.1	円	急	諸a	115土と切り、114土と切り合う。
160 B-6	140.0	92.0	78.8	不整	急	諸b	—
161 E-6	120.0	85.0	35.0	楕円	やや急	諸b	153・234・340・352土と切り合う。
162 E-6	187.0	130.0	37.0	楕円	緩やか	曾Ⅱ	340土と切り合う。
163 D-6	72.0	62.0	33.4	楕円	緩やか	—	—
164 D-5	33.0	25.0	33.0	楕円	緩やか	—	174・190土と切り合う。
165 E-4	(110)	(78)	36.6	不整	やや急	諸b	127・186・191土と切り合う。
166 E-4	111.0	88.0	99.3	不整	急	諸b	104土と切り合う。
167 F-6	90.0	70.0	29.0	楕円	緩やか	—	—
168 C-6・7	105.0	85.0	26.2	不整	緩やか	—	152と切り合う。ピットがある。
169 D-5・6	120.0	117.0	46.8	不整	緩やか	諸a	—
170 D-5・6	90.0	(75)	30.0	不整	緩やか	諸b	157・172土と切り合う。
171 D-5	(115)	102.0	25.6	不整	緩やか	株Ⅰ	172・175・210土を切る。
172 D-5	200.0	20.0	40.0	不整	急	諸b	170・171・173土を切り合う。
173 D-5	133.0	113.0	34.2	不整	北傾	株Ⅰ	172土と切り合い、173土を切る。
174 D-5	145.0	112.0	31.2	不整	緩やか	諸b	164土と切り合い、174土に切られる。
175 D-5	150.0	102.0	—	不整	緩やか	諸b	171土に切られ、210・287土と切り合う。
176 D-3	47.0	43.0	31.9	円	急	—	254土と切り合う。
177 E-6	45.0	40.0	35.0	円	急	諸b	—
178 F-6	45.0	40.0	47.1	円	急	株Ⅰ	ピット状。
179 F-6・7	36.0	35.0	—	円	急	—	104土と切り合う。
180 F-7	85.0	(46)	41.8	円	緩やか	諸b	戦時遺構に切られる。
181 F-6・7	43.0	40.0	26.0	円	緩やか	曾Ⅱ	104土、戦時遺構と切り合う。
182 F-7	65.0	(30)	23.5	隅丸方急	—	曾Ⅱ	104土、戦時遺構と切り合う。
183 E-7	70.0	45.0	48.6	不整	急	—	103・223土と切り合う。
184 C-3	115.0	75.0	17.8	不整	急	—	5f位の急の可能性あり。
185 E-4	80.0	(36)	24.5	不整	急	諸b	約半分が調査区外。ピットあり。
186 E-4	50.0	35.0	14.9	円	やや急	諸b	127・129・186・191土と切り合う。
187 E-4	45.0	(32)	16.9	楕円	やや急	諸a	128・129土に切られる。
188 C-6	80.0	70.0	41.9	不整	緩やか	諸b	189土に切られる。
189 E-5	110.0	80.0	34.1	不整	急	五Ⅱ	103・228土を切る。
190 E-5	125.0	110.0	89.7	不整	やや急	諸b	120・137・164土と切り合う。貯蔵穴?
191 E-4	95.0	(60)	15.1	円	急	諸b	165土に切られ、187土を切る。
192 F-6	120.0	82.0	29.1	不整	やや急	諸b	195土と切り合う。ピットあり。
193 F-6	195.0	154.0	42.0	不整	緩やか	諸b	194・195・343土と切り合う。
194 F-6	117.0	108.0	35.0	不整	やや急	諸b	193・196・196土と切り合う。
195 F-6	145.0	81.0	37.0	不整	緩やか	諸b	192・194土と切り合う。
196 E-F-6	180.0	80.0	33.1	不整	緩やか	—	194・197・228土と切り合う。

探検位	置	長さ(cm)	間隔(cm)	深さ(cm)	形	築立上がり	時	期	備	考
197	E-6	100.0	60.0	23.1	不整	緩やか	諸b		196・198土と切り合う。	
198	E-6	67.0	60.0	59.7	円	やや急	諸a		197・226・342・373土に切られる。	
199	C-D-6	220.0	110.0	41.1	不整	緩やか	諸a		374土と切り合う。ビット状3基。	
200	C-D-7	165.0	140.0	35.8	不整	緩やか	諸a		ビットあり。	
201	C-7	65.0	48.0	41.1	不整	やや急	諸b			
202	C-D-7	136.0	55.0	80.7	不整	緩やか	諸a		ビットが2基。	
203	C-7	140.0	80.0	35.7	不整	緩やか	諸a		204土を切る。ビットあり。	
204	C-7	100.0	104.0	37.5	不整	緩やか	諸a		203・206・376・377土と切り合う。	
205	C-7	48.0	45.0	44.3	円	やや急	諸b			
206	C-7	190.0	130.0	23.8	不整	急	諸b		204・207・12土と切り合う。小窓穴状。	
207	C-7	85.0	80.0	29.2	円	急	諸b		12土と関係か?	
208	C-7	70.0	60.0	35.0	楕円	緩やか	諸b		ビットあり。	
209	D-7	135.0	146.0	56.8	不整	緩やか	諸b		147・148・235土と切り合う。ビット。	
210	C-D-5	92.0	80.0	65.0	不整	やや急	諸b		171・175・211土と切り合う。小ビット。	
211	C-5	200.0	142.0	65.5	不整楕円	緩やか	曾V		210土を切る。	
212	E-4	70.0	30.0	8.4	不整	緩やか	諸b		11土、213土に切られる。	
213	E-4	100.0	75.0	27.9	円	やや緩やか	諸b		11土、212土に切られる。	
214	B-4	126.0	80.0	25.8	不整	緩やか	諸b		147・148・235土と切り合う。	
215	D-4・E-4・5	140.0	106.0	35.0	楕円	北縁近く、南縁	曾?		213・286・310土と切り合う。小ビット。	
216	D-4・5	120.0	70.0	26.8	不整	緩やか	曾?		210土と切り合う。	
217	D-7	90.0	70.0	37.9	円	緩やか	諸b		218・219土と切り合う。一部調査区外。	
218	D-7	95.0	75.0	47.7	円	やや急	諸b		217・219土と切り合う。	
219	D-6・7	105.0	75.0	36.4	不整	緩やか	諸b		217・218土と切り合う。	
220	D-6・7	67.0	64.0	30.4	円	緩やか	諸b		221土と切り合う。	
221	D-6	70.0	55.0	22.1	不整	緩やか	諸b		220・222土と切り合う。2基の上か?	
222	D-6	78.0	68.0	22.8	円	やや急	諸b		221土を切る。	
223	E-F-6・7	(160)	(100)	27.8	不整	やや急	諸b		183・224・225土、戦時遺構と切り合う。	
224	E-6・7	105.0	95.0	34.1	円	急	諸b		223・225土と切り合う。	
225	E-6	(115)	(65)	20.5	不整	急	諸b		102土など5處と切り合う。	
226	E-6	65.0	65.0	25.8	楕円	やや急	諸a		102・225土と切り合う。	
227	C-5	102.0	87.0	44.4	不整	緩やか	諸a		39型、365土に切られる。ビット状張り出し。	
228	E-F-7	103.0	45.0	35.2	楕円長方	やや急	諸b		101・102・196土に切られる。	
229	D-E-7	80.0	65.0	40.5	不整	急	諸b		231土と切り合う。	
230	E-5・6	110.0	60.0	32.3	不整	急	諸b		231土と切り合う。ビット状。	
231	D-6	55.0	50.0	108.5	楕円	北縁近く、南縁	諸b			
232	D-6	77.0	70.0	31.6	不整	円	急		234土と切り合う。	
233	D-E-5	65.0	64.0	24.8	不整	急	諸b		161・233・353土と切り合う。	
234	D-E-5・6	100.0	60.0	65.3	不整	急	諸b		209・236土を切る。	
235	C-6	95.0	85.0	18.4	不整	緩やか	諸?		235・237土に切られる。	
236	C-6	130.0	120.0	20.9	楕円	緩やか	曾IV		236土を切る。	
237	C-6	95.0	75.0	19.3	楕円	緩やか	曾IV		189・209・239土と切り合う。	
238	C-5・6	110.0	65.0	29.4	楕円	緩やか	諸b		189・238・240土と切り合う。	
239	C-5	92.0	90.0	29.8	不整	円縁近く、南縁	諸b		239・241土と切り合う。	
240	C-5	92.0	90.0	24.8	不整	急	諸b		240・244土に切られる。	
241	C-5	70.0	55.0	7.8	不整	急	諸a		50土に切られる。	
242	D-4	130.0	50.0	47.2	不整	方不明	諸b		141・56土と切り合う。ビット状。	
243	D-4	85.0	65.0	47.0	不整	やや急	諸b		241・359土と切り合う。	
244	C-6	85.0	35.0	42.7	不整	不明	曾IV		248・301土を切る。	
245	D-5	153.0	152.0	44.1	不整	円	不明			
246	D-5	75.0	65.0	37.0	楕円	急	諸b		245土に切られ、287土と切り合う。	
247	D-4・5	50.0	45.0	37.7	円	急	諸b		264・345土と切り合う。	
248	D-5	117.0	95.0	34.8	楕円長方	やや緩やか	諸b		袋状、貯蔵穴か?	
249	C-5	(50)	70.0	25.8	楕円	円	諸b		252土と切り合い、253土を切る。	
250	C-4	100.0	80.0	52.0	楕円	オーバーハング	曾V		251土と切り合う。	
251	E-2	90.0	(110)	87.1	不整	急	諸b		251土に切られる。	
252	E-2	110.0	88.0	92.0	不整	方やや急	曾V		176・254土と切り合う。浅鉢逆位で出土。	
253	E-2	105.0	83.0	62.0	楕円	急	諸b		368土と切り合う。	
254	D-3	145.0	100.0	36.1	不整	楕円	曾IV		257土、4型と切り合う。	
255	D-1	97.0	77.0	83.3	楕円	急	諸b		256土を切る。	
256	B-C-6	85.0	83.0	106.3	円	急	諸b		259土に切られる。	
257	B-C-6	120.0	78.0	18.2	不整	緩やか	曾IV		258土を切る。	
258	C-6	55.0	50.0	15.9	円	緩やか	諸b			
259	C-6	60.0	38.0	37.5	楕円	やや急	曾IV			
260	C-6	53.0	45.0	16.8	楕円	緩やか	諸b			
261	C-6	55.0	50.0	16.0	楕円	緩やか	諸b			
262	D-3	65.0	62.0	23.8	円	緩やか	諸b		21E、264土と切り合う。	
263	D-E-3	171.0	126.0	66.8	不整	急	諸b		316土と切り合う。貯蔵穴?	
264	D-3	80.0	—	—	不整	緩やか	曾IV		1・254・262土に切られる。	
265	D-2	95.0	90.0	23.5	不整	緩やか	曾IV		336土と切り合い、338土を切る。	
266	C-D-2	190.0	133.0	46.5	楕円	緩やか	諸b		45・324土と切り合う。	
267	C-3・3	95.0	80.0	71.8	楕円	急	諸b		5E土に切られる。	
268	C-3	70.0	58.0	37.6	楕円	急	曾IV		5E内。	
269	B-4	118.0	87.0	24.6	不整	急	曾II		262、270土と切り合う。骨片状のものが出土。	
270	B-5	100.0	93.0	36.6	円	緩やか	諸b		209土に切られる。	
271	C-2・3	95.0	92.0	43.1	円	急	曾III		種が多数出土。	
272	C-2	100.0	85.0	44.9	不整	急	曾III		5E土と切り合う。	
273	C-1・2	152.0	146.0	40.0	不整	急	曾IV		13E内。	
274	C-1	100.0	80.0	48.1	楕円	急	諸a		ビットあり。	
275	C-1	102.0	67.0	30.5	楕円	北縁、南縁	曾IV			
276	C-1	93.0	82.0	25.5	不整	円	急			
277	C-6	68.0	67.0	15.6	楕円	急	諸?			
278	C-6	94.0	75.0	24.5	不整	急	諸b		256土を切り、257土に切られる。	
279	B-6	90.0	57.0	37.1	不整	緩やか	諸b		壁穴状の落ち込みと接触する。	
280	C-4	105.0	90.0	52.8	不整	緩やか	曾?		182土を切る。種が多数出土。	
281	B-4	80.0	70.0	47.0	不整	急	諸a		281土に切られる。中央と西側にビット。	
282	B-4	110.0	83.0	54.6	不整	急	諸a		38E、38Fに切られ、284土と切り合う。袋状。	
283	C-D-4	162.0	119.0	53.2	楕円	オーバーハング	五目		283土に切られる。	
284	D-4	80.0	75.0	61.0	不整	やや急	諸b		異形。	
285	B-6	90.0	42.0	31.0	不整	急	諸b		215土に切られ、214・310土と切り合う。	
286	E-4	114.0	104.0	48.6	不整	急	諸b		175・248土と切り合う。	
287	D-5	130.0	97.0	33.4	不整	やや急	諸b		302土に切られ、316土と切り合う。	
288	D-E-2	186.0	125.0	23.3	楕円	急	諸b		289土、1溝と切り合う。	
289	A-1・E-3	100.0	75.0	68.5	楕円	やや急	諸b		290土と切り合う。	
290	A-1	110.0	65.0	53.6	不整	やや急	諸b			

坑番号	位置	置長(m)	置径(m)	深さ(m)	形態	立ち上がり	時期	備考
291	A-1	65.0	55.0	37.8	不整円	急	諸b	溝と切り合う。
292	A-1	100.0	75.0	59.1	不整	不明		1.丘と溝に切られる。
293	B-1	120.0	95.0	84.0	不整	急	曾IV	294土と切り合う。一部擾乱。
294	B-1	127.0	90.0	65.8	不整	急	曾IV	4付内。293土と切り合う。
295	B-1	148.0	108.0	47.8	不整	やや急	諸b	南側にテラス状の落ち込み。
296	D-4	—	62.0	43.0	不整	やや急	諸b	南側にピット状の落ち込み。
297	E-1	110.0	82.0	39.3	不整	急	曾IV	南側にテラス状の落ち込み。一部調査区外。
298	E-1	105.0	100.0	75.1	円	急	諸b	南側に小ピット。
299	E-1	125.0	120.0	13.7	楕円	緩やか	諸b	306土と切り合う。
300	E-1	85.0	(25)	47.2	不整	急	諸a	一部調査区外。
301	D-5	130.0	92.0	58.4	不整	急	諸a	245土と6配に切られる。
302	D-E-3-4	130.0	75.0	33.5	不整	やや緩やか	曾IV	1丘と288土を切る。
303	C-1	85.0	77.0	33.5	円	やや急	曾IV	北側にピット。
304	C-1	75.0	70.0	18.9	不整円	緩やか	諸b	
305	C-1	67.0	55.0	25.7	楕円	急		
306	E-1	85.0	74.0	17.0	不整	急		299土と切り合う。
307	E-1	55.0	45.0	43.9	不整	急	諸b	306・308土を切る。
308	E-1	70.0	68.7	70.0	不整円	やや急	曾IV	307・309土を切る。
309	E-1	(35)	30.0	25.8	楕円	緩やか		308土に切られる。一部調査区外。
310	E-4	80.0	70.0	31.8	楕円	やや急		214・328土と切り合う。
311	C-1	72.0	68.0	16.4	円	やや急	曾III	浮体群。礫が横役に付着。ピット群内。
312	E-1・2	95.0	90.0	48.0	不整	急	諸b?	
313	E-2・3	137.0	137.0	90.5	不整	急		335土と切り合う。一部調査区外。
314	B-C-1	105.0	94.0	21.7	不整	やや緩やか		4丘と切り合う。
315	C-1	87.0	79.0	15.0	不整	緩やか		4丘と切り合う。
316	D-3	58.0	32.0	16.0	不整	緩やか		263・288土と切り合う。東西に横長。
317	E-3	60.0	51.0	46.5	不整	急	諸b	318土を切る。
318	E-3	192.0	151.0	43.1	不整	やや急		317土に切られる。板状の礫が出た。
319	E-3	95.0	90.0	35.5	円	急	曾?	
320	E-3	48.0	48.0	27.5	円	急	諸a	
321	D-E-3	95.0	85.0	20.3	不整	緩やか		坑底にピット3箇所。
322	C-D-1	57.0	52.0	17.7	円	緩やか	諸a	367土と切り合う。
323	E-2	106.0	95.0	49.2	楕円	やや急		325土と切り合う。
324	D-2	85.0	80.0	17.5	不整	緩やか		266土と接触。小ピット群内に存在。
325	E-2・3	137.0	323.0	13.0	不整	急	曾V	320・323土と切る。
326	E-3	110.0	100.0	39.8	不整	急		355・356土と切り合う。上部テラス状。
327	E-4	112.0	70.0	30.4	不整	急	諸b	328土と切り合う。
328	E-4	75.0	55.0	40.0	楕円	急		310・327土と切り合う。
329	D-E-1	90.0	77.0	44.6	不整	やや急	諸b	330土と切り合う。段差あり。
330	D-E-1	60.0	50.0	19.0	楕円	緩やか		321・329土と切り合う。
331	D-1	71.0	60.0	23.1	不整円	緩やか		330土と切り合う。一部擾乱。
332	D-1・2	(140)	110.0	21.6	不整	緩やか	諸b	6丘に切られる。
333	E-2	85.0	70.0	37.7	不整円	緩やか	諸b	334土に切られる。
334	E-2	85.0	—	53.1	楕円	やや急		333・334土と切り合う。
335	E-2	45.0	43.0	33.2	円	やや急		313・334土と切り合う。
336	D-2	113.0	—	35.5	不整	不明	曾?	265土と切り合い。338土を切る。
337	D-2	58.0	50.0	38.7	円	緩やか		2土と切り合う。
338	D-2	85.0	65.0	23.8	不整	緩やか		285・336土に切られる。ピット状。
339	C-6	125.0	85.0	43.4	不整円	やや急	諸b	374土と切り合う。
340	E-6	140.0	(67)	32.0	不整	やや急	曾I・II	162・352土と切り合う。
341	E-6	105.0	93.0	27.5	円	緩やか	諸b	
342	E-6	76.0	60.0	31.1	不整	緩やか		198・373土と切り合う。
343	F-6	107.0	90.0	25.3	不整	緩やか	諸b	193土と切り合う。
344	E-6	53.0	30.0	55.0	楕円	急		141土に切られる。
345	D-6	70.0	70.0	24.6	円	緩やか	諸b	
346	D-6	120.0	95.0	28.0	楕円	緩やか	諸b	
347	D-6	111.0	58.0	21.5	長楕円	やや急		双円状。
348	D-6	55.0	53.0	42.7	円	やや急		ピット状。
349	D-6	85.0	83.0	28.2	円	急		
350	E-7	70.0	(38)	—	円	急	諸b	戦時遺構に切られる。
351	D-6	67.0	65.0	35.7	円	緩やか		149土と接触。
352	E-6	140.0	90.0	38.9	不整	緩やか		139土・4配4溝と切り合う。小型深鉢輪状で出。
353	E-6	—	(60)	10.0	不整	緩やか		199・161・234・352土と切り合う。
354	D-E-6	92.0	71.0	37.5	楕円	やや急		326土と切り合う。
355	E-3・4	85.0	75.0	45.6	円	やや急		326土と切り合い。一部調査区外。
356	E-3	72.0	(42)	23.9	円	急		
357	E-3	65.0	62.0	23.3	円	やや急	曾II	
358	E-3	(105)	85.0	40.3	楕円	やや急	諸b	一部調査区外。
359	C-6	145.0	90.0	28.5	不整	緩やか		326土と切り合う。小ピットが付属する。
360	C-3	55.0	40.0	16.0	不整楕円	緩やか		
361	C-3	107.0	65.0	57.0	不整	急		テラス状の落ち込みあり。
362	C-4	65.0	65.0	22.6	不整円	やや急		243土と切り合う。
363	C-4	50.0	45.0	26.5	円	急		
364	C-5	150.0	—	—	不整	やや急		349・359土と切り合う。
365	C-6	95.0	77.0	19.7	不整	緩やか		227・249・3配と切り合う。
366	E-2	153.0	85.0	30.7	不整	緩やか		6配と隣接。東と南側にピット。
367	C-D-1	92.0	55.0	24.6	不整	緩やか		322土と切り合う。
368	D-1	—	92.0	20.2	不整	やや急		255土と切り合う。
369	E-2	65.0	55.0	23.9	楕円	やや急		370土と隣接。
370	E-2	(75)	70.0	24.9	不整	やや急		一部調査区外。
371	E-2	100.0	70.0	40.4	不整	緩やか		372土と切り合う。
372	E-2	50.0	40.0	30.4	楕円	やや急		371土と切り合う。
373	E-6	90.0	58.0	13.1	不整	緩やか		198・342土と切り合う。
374	C-D-6	105.0	105.0	28.7	円	緩やか		199・339土と切り合う。坑底に小ピット。
375	C-D-6	100.0	78.0	26.9	楕円	緩やか		146土と切り合う。
376	C-7	65.0	55.0	32.9	不整	急		204土と切り合う。
377	C-7	80.0	47.0	27.4	不整	急		12丘。204・376土と切り合う。
378	C-7	50.0	42.0	15.3	楕円	緩やか		377土に切られる。
379	B-5	75.0	45.0	21.1	楕円	急		小ピットが盛中。
380	C-3	90.0	89.0	36.1	不整楕円	やや急		2丘と切り合う。
381	D-2・3	68.0	55.0	31.6	楕円	緩やか	曾III	
382	B-3	85.0	82.0	96.0	円	急	曾IV・V	1掘ピットに突貫。
383	B-3	77.0	58.0	62.0	楕円	やや急	曾IV・V	1掘ピットに突貫。
384	B-3	80.0	78.0	77.0	円	急	曾III	5掘ピットに突貫。



- 22土
 1- 黄褐色土層 (残土・炭化物少量含む)
 2- 灰褐色土層 (残土多量、1~2m大のロームブロック少量含む)
 3- 赤褐色土層 (炭化物少量含む)
 4- 黄褐色土層 (残土・炭化物少量含む)
 5- 硬質褐色土ロームブロック層
 6- 黄褐色土層 (炭化物、2~2m大のロームブロック少量含む)
 7- 黄褐色土層 (炭化物、4~5m大のロームブロック少量含む)
 8- 硬質褐色土ロームブロック層
 9- 硬質黄褐色土層

- 24土
 1- 黄褐色土層
 2- 黄褐色土層 (残土・炭化物少量、ローム粒子、1~2m大のロームブロック多量含む)
 3- 硬質褐色土ロームブロック層
 4- 黄褐色土層 (ローム粒子少量含む)
 5- 黄褐色土層 (5~6m大のロームブロック多量含む)
 6- 黄褐色土層 (炭化物少量含む)

- 26土
 1- 黄褐色土層
 2- 黄褐色土層 (炭化物少量含む)
 3- 黄褐色土層 (ローム粒子多量含む)
 4- 黄褐色土層 (炭化物少量、ローム粒子少量含む)
 5- 黄褐色土層 (残土・炭化物、ローム粒子多量含む)
 6- 黄褐色土層 (残土・炭化物、2~3m大のロームブロック少量含む)
 7- 黄褐色土層 (残土・炭化物、2~3m大のロームブロック少量含む)

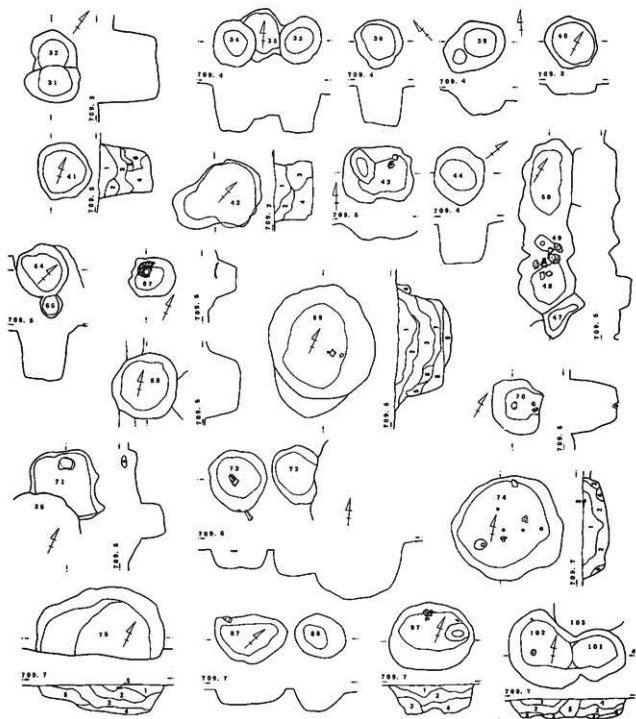
- 4土
 1- 硬質褐色土層 (炭化物少量、1m大のロームブロック少量含む)
 2- 硬質褐色土層 (炭化物少量、ローム粒子多量含む)
 3- 黄褐色土層 (炭化物、5m大のロームブロック多量含む)
 4- 黄褐色土層 (炭化物、1~2m大のロームブロック少量含む)
 5- 硬質褐色土層 (炭化物少量含む)

- 25土
 1- 黄褐色土層
 2- 黄褐色土層 (残土・炭化物少量含む)
 3- 黄褐色土層 (炭化物少量、5m~1m大のロームブロック少量含む)
 4- 黄褐色土層 (残土・炭化物少量、5m~1m大のロームブロック多量含む)
 5- 黄褐色土層 (炭化物少量含む)
 6- 黄褐色土層 (炭化物少量含む)

- 30土
 1- 硬質褐色土層
 2- 硬質褐色土層 (1層より中層含む)
 3- 黄褐色土層
 4- 硬質土層 (3m大のロームブロック少量含む)
 5- 硬質褐色土層 (10m~1m大のロームブロック少量含む)
 6- 硬質土層 (1m大のロームブロック少量含む)
 7- 硬質土層 (5m大のロームブロック少量含む)

- 28土
 1- 黄褐色土層 (残土・炭化物少量含む)
 2- 硬質褐色土層 (残土・炭化物少量含む)
 3- 硬質褐色土層 (残土・炭化物少量含む)
 4- 黄褐色土層 (炭化物、1~2m大のロームブロック少量含む)
 5- 黄褐色土層 (炭化物少量、2~3m大のロームブロック中多量含む)

第19図 A区 土坑 (1)



- 41土
 1-暗赤褐色土層 (黄土・炭化物・1~2cm大のロームブロック少量含む)
 2-暗赤褐色土層 (1~2cm大のロームブロック少量含む)
 3-暗赤褐色土ロームブロック層 (炭化物少量含む)
 4-暗赤褐色土ロームブロック層
 5-暗赤褐色土層
 6-暗赤褐色土ロームブロック層 (炭化物少量含む)

- 42土
 1-黄褐色土層 (炭化物少量, 1cm大のロームブロック多量, 基褐色土混入)
 2-暗褐色土層 (1cm大のロームブロック少量含む)
 3-基褐色土層 (炭化物中量多量, 2cm大のロームブロック少量含む)
 4-暗赤褐色土層 (炭化物少量, 2cm大のロームブロック多量含む)

- 75土
 1-基褐色土層 (黄土・炭化物・炭化物少量含む)
 2-暗赤褐色土層 (黄土・炭化物少量含む)
 3-基褐色土層 (黄土・炭化物少量含む)
 4-暗赤褐色土ロームブロック層
 5-暗赤褐色土層 (1~2cm大のロームブロック少量含む)

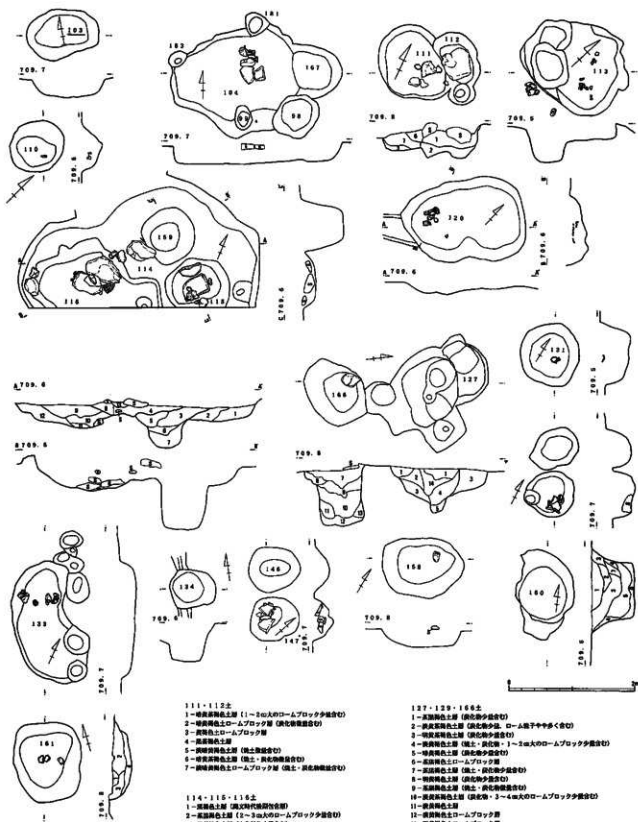
- 74土
 1-基褐色土層 (黄土・炭化物少量含む)
 2-基褐色土層 (炭化物少量, ローム粒子多量含む)
 3-暗赤褐色土層 (炭化物少量混入)
 4-暗赤褐色土ロームブロック層

- 97土
 1-基褐色土層
 2-暗赤褐色土層 (炭化物少量含む)
 3-基褐色土層 (4~5cm大のロームブロック少量含む)
 4-暗赤褐色土層 (黄土・炭化物少量含む)

- 101・102土
 1-基褐色土層 (黄土・炭化物・1~2cm大のロームブロック少量含む)
 2-暗赤褐色土層 (黄土・炭化物少量含む)
 3-基褐色土ロームブロック層 (炭化物少量含む)
 4-暗赤褐色土ロームブロック層 (炭化物少量含む)
 5-暗赤褐色土層 (黄土少量含む)

- 69土
 1-基褐色土層 (黄土・ローム粒子少量含む)
 2-暗赤褐色土層 (ローム粒子少量含む)
 3-暗赤褐色土層 (黄土・炭化物・ローム粒子少量含む)
 4-暗赤褐色土層
 5-暗赤褐色土ロームブロック層
 6-暗赤褐色土層
 7-暗赤褐色土層 (黄土・炭化物少量含む)
 8-暗赤褐色土ロームブロック層 (黄土・炭化物少量含む)
 9-暗赤褐色土ロームブロック層

第20図 A区 土坑 (2)



- 105 上
1-黄褐色土層
2-黄褐色土層 (炭化物層を含む)
3-黄褐色土層
4-灰褐色土ロームブロック層 (炭化物層を含む)

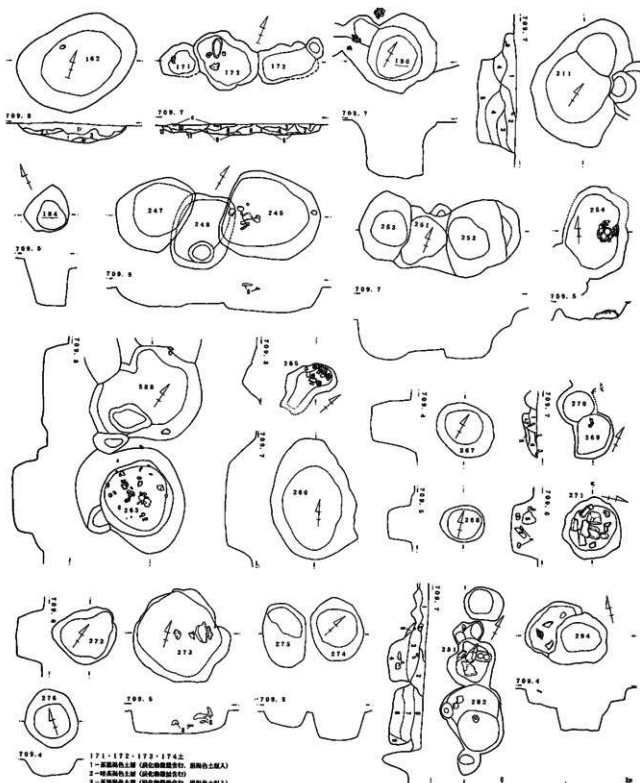
- 111・112 上
1-黄褐色土層 (1~2m大のロームブロック少量含む)
2-黄褐色土ロームブロック層 (炭化物層を含む)
3-黄褐色土ロームブロック層
4-黄褐色土層
5-黄褐色土層 (炭土・炭化物を含む)
6-黄褐色土層 (炭土・炭化物層を含む)
7-黄褐色土ロームブロック層 (炭土・炭化物層を含む)

- 114・115・116 上
1-黄褐色土層 (溝状時代の埋存物)
2-黄褐色土層 (2~3m大のロームブロック少量含む)
3-黄褐色土層 (白色炭化物少量含む)
4-黄褐色土層 (炭化物土・ローム層)
5-黄褐色土ロームブロック層
6-黄褐色土層
7-黄褐色土ロームブロック層
8-黄褐色土層
9-黄褐色土層 (炭土・炭化物少量含む)
10-黄褐色土層 (ローム層少量含む、赤褐色土層入)
11-黄褐色土層 (炭化物・ローム層少量含む)
12-黄褐色土ロームブロック層 (炭化物層を含む)
13-黄褐色土層 (2~3m大のロームブロック少量含む)
14-黄褐色土層
15-黄褐色土層 (炭土・炭化物層を含む)

- 127・129・166 上
1-黄褐色土層 (炭化物少量含む)
2-黄褐色土層 (炭化物少量、ローム層中多量含む)
3-黄褐色土層 (炭化物少量含む)
4-黄褐色土層 (炭土・炭化物、1~2m大のロームブロック少量含む)
5-黄褐色土層 (炭化物少量含む)
6-黄褐色土ロームブロック層
7-黄褐色土層 (炭土・炭化物少量含む)
8-黄褐色土層 (炭化物少量含む)
9-黄褐色土層 (炭土・炭化物層を含む)
10-黄褐色土層 (炭土・炭化物層を含む)
11-黄褐色土層
12-黄褐色土ロームブロック層
13-黄褐色土ロームブロック層
14-黄褐色土層

- 159 上
1-黄褐色土層 (炭化物・ローム層少量含む)
2-黄褐色土層 (炭土・炭化物層、ローム層中多量含む)
3-黄褐色土層 (炭土・炭化物層、ローム層中多量含む)
4-黄褐色土層
5-黄褐色土層 (炭土・炭化物少量、1~2m大のロームブロック少量含む)
6-黄褐色土層 (炭化物層、5m~1m大のロームブロック少量含む)
7-黄褐色土層 (炭土・炭化物層少量含む)

第21図 A区 土坑 (3)



- 171・172・173・174止
- 1-黒炭褐色土層 (炭化物少量含む、黒褐色土層入)
 - 2-赤褐色土層 (炭化物少量含む)
 - 3-黒褐色土層 (炭化物少量含む、黒褐色土層入)
 - 4-硬質褐色土層 (2~4cm大のロームブロック少量含む)
 - 5-赤褐色土層 (炭化物少量含む)
 - 6-硬質褐色土層 (炭化物少量含む)
 - 7-黒褐色土層 (炭化物少量含む)
 - 8-赤褐色土層
 - 9-硬質褐色土層 (炭化物少量含む、黒褐色土層入)
 - 10-硬質褐色土層
 - 11-赤褐色土層
 - 12-赤褐色土層ロームブロック
- 211止
- 1-黒褐色土層 (炭化物 1~2cm大のロームブロック少量含む)
 - 2-赤褐色土層 (炭化物少量含む)
 - 3-硬質褐色土層 (炭化物少量含む)
 - 4-黒褐色土層 (炭化物 5cm×1cm大のロームブロック少量含む)
 - 5-黒褐色土層 (粘土・炭化物 1~3cm大のロームブロック少量含む)
 - 6-硬質褐色土層ロームブロック

- 281・282止
- 1-赤褐色土層 (炭化物少量含む)
 - 2-黒褐色土層 (粘土・炭化物少量、5cm大のロームブロック少量含む)
 - 3-黒褐色土層 (粘土・炭化物少量含む)
 - 4-黒褐色土層 (粘土・炭化物少量含む)
 - 5-赤褐色土層 (炭化物少量含む)
 - 6-赤褐色土層 (粘土・炭化物少量含む)
 - 7-黒褐色土層 (粘土・炭化物 1~3cm大のロームブロック少量含む)
 - 8-黒褐色土層 (粘土・炭化物少量含む)
 - 9-赤褐色土層ロームブロック
- 182止
- 1-黒褐色土層 (炭化物 1~2cm大のロームブロック少量含む)
 - 2-赤褐色土層 (炭化物少量含む)
 - 3-赤褐色土層 (炭化物少量含む)
 - 4-赤褐色土層 (炭化物少量含む)

- 289・270止
- 1-黒褐色土層 (炭化物少量含む)
 - 2-赤褐色土層 (炭化物少量含む)
 - 3-硬質褐色土層 (炭化物少量含む)
 - 4-硬質褐色土層 (炭化物少量含む)
 - 5-硬質褐色土層 (炭化物少量含む)

第22図 A区 土坑 (4)

第5項 配石遺構・集石遺構

・配石遺構

縄文時代前期後半諸磯b式期と中期後半の曾利式期に属するものが、合計6基認められる。土坑として取り上げられたもの一部にも配石遺構と考えても良さそうなものもあったが、ここでは確認面から確認できたもののみを扱うことにした。当時の標高は、配石から想定すると709.60～709.70m付近であったものと考えられる。

第1号配石遺構（第24図）

（位置）調査区南東部のD・E-2グリッドに位置している。

（重複）なし。

（形態・規模）最も大きな1土を中心に土坑が1基ずつ存在し、東部には小ピット密集して11基認められる。配石は確認当初、1土と小ピット上に存在していたが、坑内まで認められたのは1土のみである。この1土では確認面から坑底まで、50～75cm大の石が上層部に棒状の礫、下層部に板状の礫が合計4個積み上げるように配置されている。確認面などで把握した掘り込みの範囲は3.23×2.10mで、1土は径1.55×1.33m、深さ0.43m、2土は径1.10×0.98、深さ0.53m、3土は径0.83×0.73、深さ0.39mを測る。周辺の小ピットについては径0.20～0.60mで、深さは0.10～0.55mを測ることができる。

（時期）縄文時代前期後半の諸磯b式期。

（出土遺物）1土の配石下の坑底より小型有孔浅鉢形土器が出土している。

（備考）付近の254土からも諸磯b式期の有孔浅鉢形土器が逆位で出土しており、墓域の存在が示唆される。板状の石を配置する特徴から、諸磯a式期に属する116土の形態と類似している。

第2号配石遺構（第25図）

（位置）調査区西部のA・B-4グリッドに位置している。

（重複）曾利Ⅱ式期とした第269号土坑と切り合う。

（形態・規模）双円状で北西から南東にかけて主軸を持つ。配石は覆土上層の確認面で認められたのみで、10cm大の円礫と20～45cm大の板状礫、そして磨石などで構成される。配石の範囲は1.30×0.72mで、土坑は長径1.72、短径1.26mと1.17m、深さが0.55mと0.98mを測る。

（時期）縄文時代中期後半の曾利Ⅲ式期。

（出土遺物）6層上部より赤彩された脚付鉢の脚部が出土している。

（備考）本配石は脂肪酸分析の結果、再葬墓と考えられる結果を得ている。隣接する269土とは時期が異なるが、骨片と考えられるものが出土しており、居住域に混在した墓域の存在を認めることができる。覆土では、上層部では焼土、炭化物の混入が認められ、火を伴った祭祀的行為が実施された可能性がある。下層部ではロームブロックが混在しており、穴を掘った後、早い時期に埋め戻しの行為が実施されたことを意味するものと考えられる。

第3号配石遺構（第26・27図）

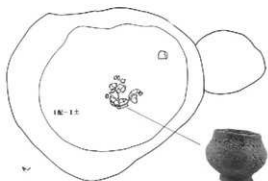
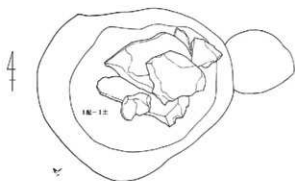
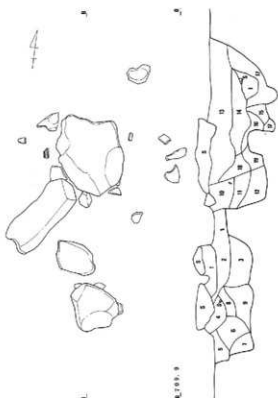
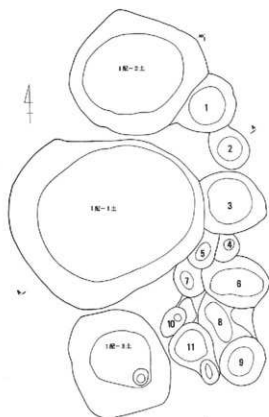
（位置）調査区中央北寄りのC-4・5グリッドに位置している。

（重複）第227・283・365号土坑と切り合う。

（形態・規模）掘り込みは不整形で、北西から南東にかけて主軸を持つ。規模は4.65（土坑を含めない）と3.65）×2.80m、深さは0.73mを測る。配石は主に覆土上層の確認面で認められ、南西から北東にかけて主軸を持ち、25～45cm大の円礫と35～85cm大の板状の石、石皿片などで構成される。配石の範囲は1.90×1.10mで、東側の覆土中には立石もあり石棺状を呈している。配石の南側に土坑が3基認められるが、本遺構に伴うものかはっきりしない。1土は径1.32×1.07m、深さが1.25m、2土は径0.82×0.60m、深さが0.48m、3土は径0.70m、深さが0.60mを測る。

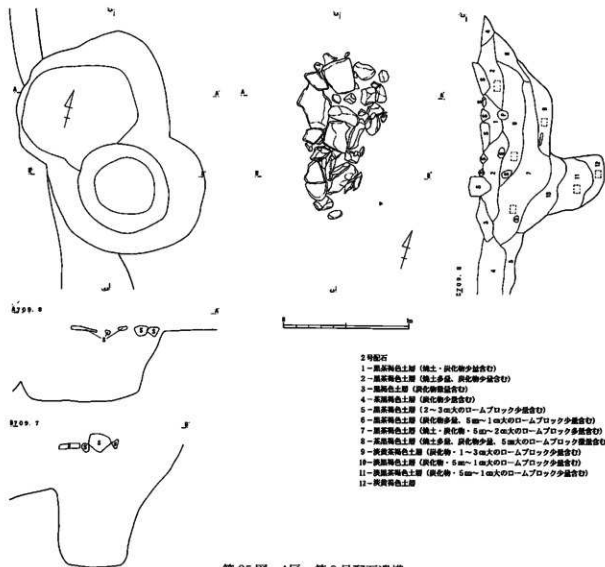
（時期）縄文時代前期後半の諸磯b式期。

（出土遺物）土器片が少量出土したのみである。



- 1 片配石-1土
- 1-1 赤褐色土層 (炭化物少量含む)
- 2-1 赤褐色土層 (炭化物微量、5m大のロームブロック少量含む)
- 3-1 赤褐色土層 (炭化物微量、1~2m大のロームブロック少量含む)
- 4-1 赤褐色土層
- 5-1 赤褐色土層 (炭化物微量含む)
- 6-1 赤褐色土層 (炭化物・5m大のロームブロック少量含む)
- 7-1 赤褐色土層
- 8-1 赤褐色土層
- 9-1 赤褐色土層 (1~3m大のロームブロック少量含む)
- 10-1 赤褐色土層 (炭化物少量含む、黒褐色土層)
- 11-1 赤褐色土層 (白色炭物・1~2m大のロームブロック少量含む)
- 12-1 赤褐色土層 (5m大のロームブロック少量含む)
- 13-1 赤褐色土層 (粘土・炭化物少量含む)
- 14-1 赤褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む、12層より細かい)
- 15-1 赤褐色土層
- 16-1 赤褐色土層 (炭化物微量含む)
- 17-1 赤褐色土層 (炭化物微量含む)
- 18-1 赤褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 19-1 赤褐色土層 (炭化物少量、1m大のロームブロック少量含む)

第24図 A区 第1号配石遺構



- 2号配石
- 1-黒灰褐色土層 (焼土・炭化物少量含む)
 - 2-黒灰褐色土層 (焼土多量、炭化物少量含む)
 - 3-黒褐色土層 (炭化物微量含む)
 - 4-黒褐色土層 (炭化物少量含む)
 - 5-黒灰褐色土層 (2~3m大のロームブロック少量含む)
 - 6-黒灰褐色土層 (炭化物多量、5m~1m大のロームブロック少量含む)
 - 7-黒灰褐色土層 (焼土・炭化物・5m~2m大のロームブロック多量含む)
 - 8-黒褐色土層 (焼土多量、炭化物少量、5m大のロームブロック微量含む)
 - 9-黒灰褐色土層 (炭化物・1~3m大のロームブロック少量含む)
 - 10-黒灰褐色土層 (炭化物・5m~1m大のロームブロック少量含む)
 - 11-黒灰褐色土層 (炭化物・5m~1m大のロームブロック少量含む)
 - 12-黒褐色土層

第25図 A区 第2号配石遺構

(備考) 本配石は脂肪酸分析の結果、第2号配石遺構と同様に墓と考えられる結果を得ている。範囲に関しては明確にできなかった。

第4号配石遺構 (第28図)

(位置) 調査区北東部のB・C-5・6グリッドに位置している。

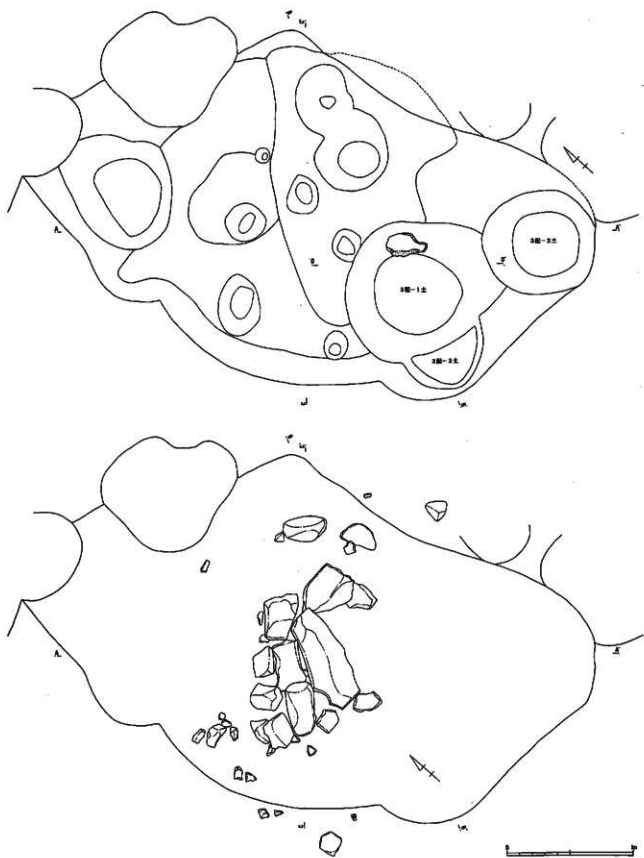
(重複) 第15号住居跡を切る。2・5土は直接伴わない可能性がある。

(形態・規模) 全体的な掘込みは不整形円形で、北西から南東にかけて主軸を持つ。規模は3.20×2020m、深さは0.40mを測る。配石は覆土上層の確認面で認められ、102×68cm大の板状の石を中心にして、南西部にくぐの字に棒状の石が組まれ、石皿などが混在し構成している。配石下と周辺には5基の土坑が存在するが、1・3・4土以外は直接伴わない可能性が高い。1土は径1.23×1.11m、深さが0.42m、3・4土は径1.74×1.38m、深さが0.40mを測る。

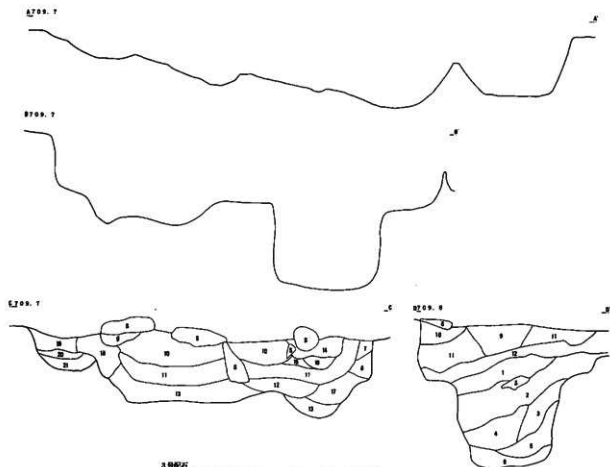
(時期) 縄文時代前期後半の諸磯b式期。

(出土遺物) 1土からは石皿片や土器片に伴って、多量の焼土・炭化物が見られた。配石下の3・4土からは土器片類しか認められなかった。

(備考) 第15号住居跡については、実際住居跡として認識するための説得材料に乏しいため、時間的にはほぼ同時期と考えられる本遺構と関連性を考えていく必要があるかもしれない。



第26图 A区 第3号配石遺構 (1)



3号配石

- 1-赤黄茶褐色土層 (炭化物微量、1㎡大のロームブロック少量含む)
- 2-暗黄茶褐色土層 (炭化物、3~5㎡大のロームブロック少量含む)
- 3-赤黄茶褐色土層 (3~5㎡大のロームブロック少量含む)
- 4-暗黄茶褐色土層 (2~3㎡大のロームブロック少量含む)
- 5-赤黄茶褐色土層 (5㎡~2㎡大のロームブロック少量含む)
- 6-暗黄茶褐色土層 (5㎡大のロームブロック少量含む)
- 7-赤黄茶褐色土層 (粘土層を含む)
- 8-暗黄茶褐色土層 (炭土・炭化物微量を含む)
- 9-赤黄茶褐色土層 (炭化物微量を含む)
- 10-暗黄茶褐色土層 (炭化物少量を含む)
- 11-赤黄茶褐色土層 (炭化物微量を含む)
- 12-赤黄茶褐色土層 (2~3㎡大のロームブロック少量含む)
- 13-赤黄茶褐色土層 (2~3㎡大のロームブロック少量含む)
- 14-暗黄茶褐色土層
- 15-暗黄茶褐色土層
- 16-赤黄茶褐色土層 (炭化物微量を含む)
- 17-赤黄茶褐色土層 (炭化物、2~3㎡大のロームブロック少量含む)

第27図 A区 第3号配石遺構 (2)

第5号配石遺構 (第29図)

(位置) 調査区中央北寄りのC・D-4・5グリッドに位置している。

(重複) 第242・243・283・284・301号土坑と切り合っている。

(形態・規模) 掘込みは不整形円形で、東西に主軸を持つ。規模は2.67×1.65m、深さは0.53cmを測る。坑底部に土坑状の落ち込みがある。配石は覆土上層の確認面で認められ、1.07×0.47mの範囲に20~50cm大の板状の石などで構成されている。

(時期) 縄文時代中期後半の曾利Ⅲ式期。

(出土物) 配石下の第2層より小型浅鉢が出土した。その他は破片類である。

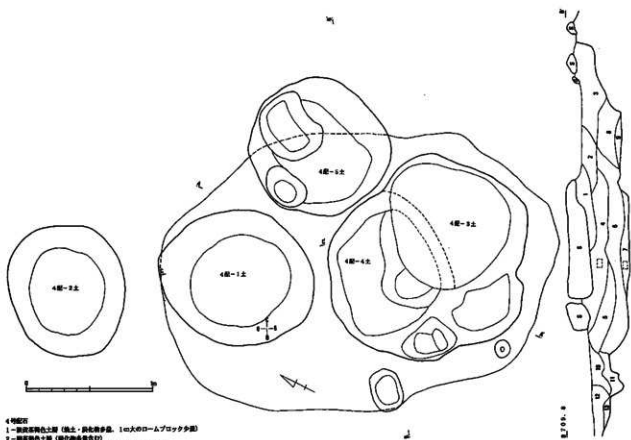
(備考) 他の遺構との切り合いが多かったにもかかわらず、良好な状態で検出することができた。

第6号配石遺構 (第29図)

(位置) 調査区南側、C-2グリッドに位置している。

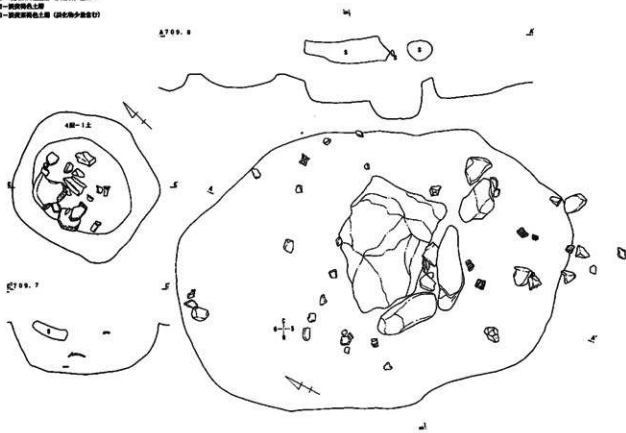
(重複) なし。

(形態・規模) 掘込みは不整形で、南北に主軸を持つ。規模は1.75×1.18m、深さは0.45mを測る。坑底部に土坑状

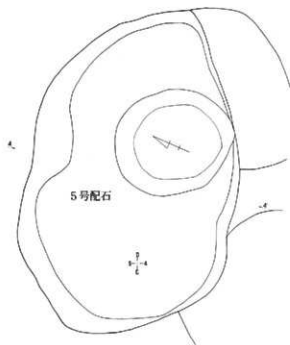


4号区

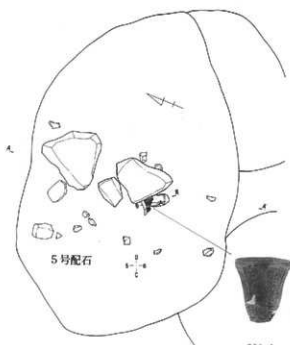
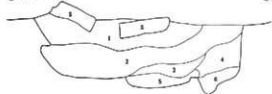
- 1-黄褐色土層 (粘土・炭化物多量, 1m大のロームブロック少量)
- 2-黄褐色土層 (炭化物多量含む)
- 3-黄褐色土層 (2-3m大のロームブロック多量含む)
- 4-黄褐色土層 (粘土・炭化物, 1-2m大のロームブロック少量含む)
- 5-黄褐色土層 (粘土・炭化物, 5m大のロームブロック少量含む, 4層より厚い)
- 6-黄褐色土層 (粘土・炭化物, 1m大のロームブロック少量含む)
- 7-黄褐色土層 (炭化物多量, 1m大のロームブロック少量含む)
- 8-黄褐色土層
- 9-黄褐色土層 (炭化物多量含む)
- 10-黄褐色土層 (粘土・炭化物多量, 1m大のロームブロック少量含む)
- 11-黄褐色土層 (炭化物少量含む)
- 12-黄褐色土層
- 13-黄褐色土層 (炭化物少量含む)



第28図 A区 第4号配石遺構



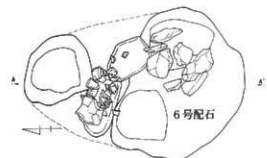
A 299. 8



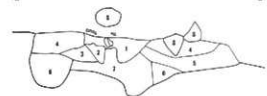
A 299. 4

5号配石

- 1-黄茶褐色土層
- 2-黄茶褐色土層 (5m大のロームブロック少量含む)
- 3-赤褐色土層
- 4-暗褐色土層 (10m大のロームブロック少量含む)
- 5-黄茶褐色土層
- 6-暗褐色土層



A 299. 8



6号配石

- 1-黄茶褐色土層 (5m~10m大のロームブロック少量含む)
- 2-黄茶褐色ロームブロック層
- 3-黄茶褐色土層 (5m大のロームブロック少量含む)
- 4-黄茶褐色土層 (粘土・炭化物・5m大のロームブロック少量含む)
- 5-茶褐色土層 (粘土・炭化物・5m大のロームブロック少量含む)
- 6-黄茶褐色土層 (2~5m大のロームブロック少量含む)
- 7-黄茶褐色土ロームブロック層



A 299. 8



C-1グリッドピット



A 299. 8



第29図 A区 第5・6号配石遺構・第1号集石・C-1グリッドピット10

の落ち込みが2箇所ある。配石は覆土上層の確認面で認められ、1.17×0.57mの範囲に15～50cm大の礫で構成されている。

(時期) 縄文時代中期後半の曾利Ⅳ式期。

(出土遺物) 配石上部から土器片が集中して出土した。

(備考) 上層部は破壊され、全体的な範囲は確定できなかった。

第4表 A区配石遺構一覧表

図版番号	経緯	位置	平面形	掘り方の規模(m)	配石の規模(m)	遺物	時代・時期	備考
第24図	1	D-E-2	不整	3.21×2.10×0.55	1.72×0.94	配石下より小型鉢	縄文前期 諸b	I16土と類似。墓の可能性あり。
第25図	2	A-B-4	双円	1.72×1.26×0.98	1.30×0.72	赤彩脚付鉢の脚部	縄文中期 曾Ⅱ	放射性分析の結果、墓の可能性が高い。
第26・27図	3	B-C-3	不整	4.65×2.80×0.73	1.90×1.10	石皿片など。	縄文前期 諸b	放射性分析の結果、墓の可能性が高い。
第28図	4	B-C-5・6	不整楕円	3.20×2.20×0.40	1.27×1.00	石皿片など。	縄文前期 諸b	
第29図	5	C-D-4・5	不整楕円	2.67×1.65×0.53	1.07×0.47	配石下より小型鉢	縄文中期 曾Ⅱ	
第29図	6	C-2	不整	1.75×1.18×0.45	1.17×0.57	配石上より土器片	縄文中期 曾Ⅱ	

・集石遺構

縄文時代後期と考えられるものが1基認められた。本遺構は第13号住居跡と重複して確認されたため、切り合いがはっきりせず、掘り込みも確認することができなかった。ここで配石に対して、集石としたのは前者のものに対して、小型の礫を中心に規則性を持たない分布を示していたため分類した。

第1号集石遺構 (第29図)

(位置) 調査区南部のB・C-2グリッドに位置している。

(重複) 第13号住居跡の上に築かれている。

(形態・規模) 黒褐色土上に存在したため、全体的にプランははっきりしない。石の分布は東西方向に主軸を持つ。5～20cm大の礫を中心に磨石などを混えて構成されている。範囲は1.38×0.50mを測る。

(時期) 縄文時代後期前半の加曾利B1式期。

(出土遺物) 土器片を少量。磨石などの石器類が出土した。

第6項 小ピット群

C・D-1-2グリッドに存在する小規模の穴を、ピット群としてとらえることにした。密集するが配置に規則性がなく、また遺物も出土しないといった例が多く性格を考える上で難解である。しかし、特筆すべきものにC-1グリッドの第10号ピット(第29図)は、規模が18×16cmの径の円形を呈し、深さが10cmを測るが、そのピット内にささるように直立して石棒が出土した。石棒は先端部が欠失しているが、その欠失面には凹石状の敲打痕が見られる。

第7項 溝

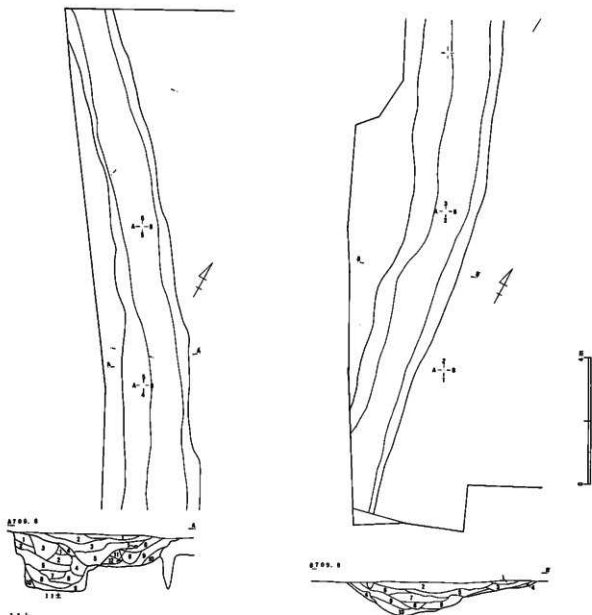
確認されたのは1条(第30図)である。

(位置) 調査区東側のA-1～6、B-2～6グリッドに位置している。

(形態・規模) 北西部から南部にかけて弓状に流れ、調査区外に抜けている。覆土は自然堆積している。底には円礫の類や砂といった河川などといった常時水が流れていたような痕跡は認められなかった。規模は調査区西側縁に沿って認められるため、長さは約30m、幅は1.60～2.50m、深さは24～50cmを測る。

(時期) 覆土の状態と包含された遺物が縄文時代中期後半までの資料に限定されることから縄文時代中期後半の曾利式期以降の縄文時代の所産と考えられる。

(出土遺物) 縄文時代前期後半の諸磯式、中期後半の曾利Ⅱ～Ⅴ式の土器片と、石器類が出土している。



- 11土
- 1-赤褐色土層 (黄土・炭化物微量、ローム粒子多量含む)
 - 2-赤褐色土層 (黄土・炭化物微量含む)
 - 3-赤褐色土層 (黄土・炭化物、1~2m大のロームブロック少量含む)
 - 4-赤褐色土層 (黄土・炭化物、5m大のロームブロック少量含む)
 - 5-赤褐色土層 (黄土・炭化物中等多く含む)
 - 6-赤褐色土層 (黄土・炭化物中等多く含む)
 - 7-赤褐色土層 (黄土・炭化物少量含む)
 - 8-赤褐色土層 (黄土・炭化物少量含む)
 - 9-赤褐色土層 (黄土・炭化物、ローム粒子少量含む)
 - 10-赤褐色土層 (黄土・炭化物少量含む)

- 10土
- 1-赤褐色土層
 - 2-赤褐色土層 (褐色土ブロック多量を含む)
 - 3-赤褐色土層
 - 4-赤褐色土層
 - 5-赤褐色土層 (褐色土ブロック層)
 - 6-赤褐色土層 (褐色土ブロック層、2層よりやや厚い)
 - 7-赤褐色土層 (2層よりやや厚い)
 - 8-赤褐色土層 (7層よりやや厚い)
 - 9-赤褐色土層 (褐色土層、5層より明るく7層より厚い)
 - 10-赤褐色土層 (褐色土・褐色土ブロック層)
 - 11-赤褐色土層 (1~2m大のロームブロック少量含む、赤褐色土層)
 - 12-赤褐色土層 (5m大のロームブロック少量含む)

第28図 A区 溝

第8項 戦時遺構

調査区の北端E~G-7、E~G-8グリットに南西から北東方向にトレンチ状の穴が存在する。E~G-7グリットに位置するものは、規模が幅約2m、深さ約2mを測り、壁部に杭または棒材、角材などと推定できる腐食木が刺さった状態で検出されたが、坑底部や覆土からはなにも発見できなかった。太平洋戦争中には本遺跡の北側低地に、荊崎市から長坂町に至る七里ヶ岩周辺から学童動員によって採集された松の根から造る松根油精製所が存在したため、これらをドラム缶に詰め備蓄した貯蔵施設と考えられる。またこの貯蔵物に関しては、聞き取り調査から、メチルアルコール等も存在したとのことである。貯蔵方法については、ドラム缶を横に寝かせて、三段に積み重ねていたとのことである。

第2節 B区の調査概要

本区はA区の北側に位置している。面積は約700㎡である。

発見された遺構は、住居跡が縄文時代前期前半の中越式期1軒、後半の諸磯a式期2軒、同諸磯b式期6軒、中期後半曾利Ⅰ式期4軒、同曾利Ⅱ式期3軒、同曾利Ⅲ式4軒、同曾利Ⅳ式期2軒、同曾利Ⅴ式期1軒の合計23軒である。土坑は、縄文時代前期後半の諸磯a式期から後期初頭の称名寺式期に属するものが33基認められる。このほか戦時遺構が2基存在する。時期的に大別すると縄文時代前期前半の中越期、同後半の諸磯期、中期後半の曾利期の3期にわたって、集落が営まれていることが理解できる。このほか戦時遺構と考えられるものが2基認められる。

第1項 住居跡

曾利期の住居跡は掘り込みが浅いなどといった条件が悪く、遺存状況があまり良くない。全体的には大部分のものが重複関係にあるが、改築の痕跡ほとんど見られない。形態としては円形もしくは楕円形を基調とするが、前期の大型住居を思い起こさせるような隅丸長方形を呈した第9号住居跡のようなものがある。遺物では、諸磯期の第2号住居跡からは、骨片並びに炭化物が多量に出土したほか、曾利期の住居跡ではその約4割に当たる5軒（第3・4・8・16・17号住居跡）から埋甕が伴っていた。第8号住居跡の覆土からは翡翠製大珠の未製品と考えられるものが発見された。

第1号住居跡（第32図）

（位置）調査区の南側、E・F-11・12グリッドに位置している。

（重複・改築）なし。

（形態・規模）形態は円形を呈するものと考えられ、長径は推定で4.90m、短径は4.60mを測る。

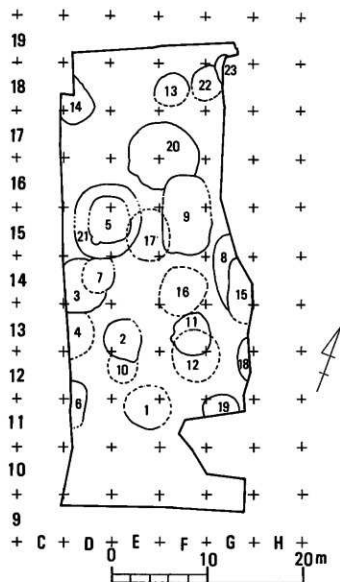
（壁・周溝）壁は、南側で約10cmを測るが、その他の部分では残っていない。周溝はない。西側が柱の間隔が広いので、入口部と想定される。深さは10cm程度である。

（柱穴）ピット1は径55.0×50.0、深さ25.8cm、ピット2は径48.0×38.0、深さ50.9cm、ピット3は径55.0×45.0、深さ50.9cm、ピット4は径68.0×58.0、深さ31.6cm、ピット5は径65.0×50.0、深さ42.2cmを測り、これら5本が主柱穴と考えられる。

（炉）不明。

（時期）縄文時代中期後半の曾利Ⅰ式期。

（出土遺物）覆土が残っていないためあまり多くないが、ほぼ全面に分布している。土偶が1点出土している。



第31図 B区 住居跡位置図

第2号住居跡 (第33図)

(位置) 調査区の中央西寄り、E-F-11・12グリッドに位置している。

(重複・改築) 第10号住居跡と重複あり、第2号住居跡の方が古い。

(形態・規模) 北側部分が攪乱を受けている。形態は円形を呈するものと考えられ、長径は4.80m、短径は4.15mを測る。

(壁・周溝) 壁は、最大で37cmを測る。周溝は東側と西側に分離して存在し、溝内には小ピットが認められる。幅は15～20cm、深さは5～10cm程度を測る。

(柱穴) 柱穴と考えられるものは8本確認できるが、深さが一定でないので主柱穴との区別はできない。ピット1は径25.0×25.0、深さ50.2cm、ピット2は径38.0×24.0、深さ11.2cm、ピット3は径23.0×20.0、深さ12.5cm、ピット4は径26.0×24.0、深さ8.5cm、ピット5は径33.0×27.0、深さ52.7cm、ピット6は径28.0×25.0、深さ41.2cm、ピット7は径30.0×25.0、深さ16.0cm、ピット5は径28.0×26.0、深さ23.5cmを測る。

(炉) 住居跡の中央北寄りに、地床炉が認められる。規模は径約69×64cmで、深さが23.5cmを測る。

(時期) 縄文時代前期後半の諸磯a式期。

(出土遺物) 中心部から多くの土器類と共に、骨片・炭化物が発見されている。ミニチュア土器が出土している。

第3号住居跡 (第34図)

(位置) 調査区の中央西側、D-13・14グリッドに位置している。

(重複・改築) 縄文時代前期の住居跡である第7号住居跡を切り、中期の第4号住居跡に切られる。

(形態・規模) 西側1/4程度が、調査区外に位置している。形態は円形を呈している。規模は長径5.50mを測る。

(壁・周溝) 壁はほぼ直に立ち上がり、最大で32cmを測る。周溝は北西部と南部で断続的に認められ、幅は30cm弱で、深さは10cm程度を測る。

(柱穴) 主柱穴は実際には8本程度存在するものと考えられるが、確認できたのは6本である。ピット1は径50.0×35.0、深さ56.3cm、ピット2は径50.0×40.0、深さ65.8cm、ピット3は径48.0×43.0、深さ59.2cm、ピット4は径45.0×40.0、深さ38.6cm、ピット5は径46.0×40.0、深さ48.8cm、ピット6は径60.0×53.0、深さ72.7cmを測る。その他の小ピットについては、補助柱穴などといった用途が考えられる。またピットの間隔と炉の配置からピット1と2の間が入口部と想定される。

(炉) 住居跡の北西部に地床炉が認められ、規模は推定で径67.0×55.0cmの範囲で焼土が認められ、掘り込みが5cmを測る。

(埋壘) 住居跡の北西部で、炉の北側に存在する。土器は正位に置かれ、径は約20cm、掘り方の範囲は32×26cmで、15cmの掘り込みを持ち、底部が穿孔される。

(時期) 縄文時代中期後半の曾利I式期。

(出土遺物) ほぼ全面にわたって深鉢などの土器類が出土している。土偶1点発見されている。

第4号住居跡 (第34図)

(位置) 調査区の中央西側、D-12・13グリッドに位置している。

(重複・改築) 第3号住居跡と重複し、本住居跡が切っている。

(形態・規模) 約1/2が調査区外に位置し、形態は円形を呈するものと考えられ、規模は推定で長径5.50m、短径は現存値で2.85mを測る。

(壁・周溝) 壁・周溝は存在しない。

(柱穴) 未確認で配列は不明である。

(炉) 住居跡のほぼ中央に石囲い炉が存在し、規模は長径95×短径88cmで、深さが35cmを測る。炉の上層より土器の底部が出土している。

(埋壘) 第3号住居跡内に存在している。土器は(4-1壘)正位におかれ、その径は約30×40cmを測る。胴下部から底部にかけてと、口縁部が確認できなかった。

(時期) 縄文時代中期後半の曾利Ⅲ式期。

(出土遺物) 覆土が残っていないので、とても少なかった。

第5号住居跡 (第35・36図)

(位置) 調査区の中央北西側、D・E-15・16グリッドに位置している。

(重複・改築) 縄文時代中期の第17・21号住居跡と重複している。

(形態・規模) 住居跡の中央部分が戦時遺構によって東西に擾乱を受けている。形態はほぼ円形を呈するものと考えられ、長径は4.90m、短径は4.40mを測る。

(壁・周溝) 壁は21柱によって上層部が削平されているが、緩やかな立ち上がりが僅かに認められ、深さが5～20cm程度を測る。周溝は存在しない。

(柱穴) 南北に1本ずつ発見できた。ビット1は径70.0×53.0、深さ66.0cm、ビット2は径50.0×(30)、深さ57.5cmを測り、これらは主柱穴と考えられる。

(炉) 擾乱部に存在したものと考えられる。不明。

(時期) 縄文時代前期後半の諸磯b式期。

(出土遺物) 21柱に切られている割には、多くの遺物が出土している。特に北白川下層系の土器類や丸玉の出土は興味深いものである。

第6号住居跡 (第35図)

(位置) 調査区の南西側、D-11・12グリッドに位置している。

(重複・改築) 重複なし。

(形態・規模) 住居跡の西側2/3程度が調査区外に位置する。形態は楕円形を呈するものと考えられ、長径は5.50mを測る。

(壁・周溝) 壁は南側が土坑で破壊されているが、最深部で28cmを測る。周溝は存在しない。

(柱穴) 壁に沿った部分で、径約20cm、深さ3～10cmを測る小ビットが巡っている。主柱穴と考えられるものとの区別は不可能である。

(炉) 住居跡の中央部分に、地床炉と考えられる焼土の広がり2箇所確認できる。南側に位置するものは径30.0×23.0cmを測る。北側に存在するものは掘り方の径が65.0×31.0cm、深さは約5cmを測り、内部に焼土が見られる。

(時期) 縄文時代前期後半の諸磯a式期。

(出土遺物) 土器が炉の周辺から少量出土したにすぎないが、管玉片が南部に位置する板状の礫を伴った土坑状の落ち込みから出土している。

第7号住居跡 (第34図)

(位置) 調査区の中央西寄り、D・E-14グリッドに位置している。

(重複・改築) 南側部分で第3号住居跡と重複している。

(形態・規模) 形態はやや方形がかった円形を呈するものと考えられ、長径は推定で4.10m、短径は3.50mを測る。北側の一部が擾乱を受けている。

(壁・周溝) 壁は3柱と切り合う部分以外には残っており、深さが27cm程度を測ることができる。周溝は存在しない。

(柱穴) 主柱穴は5本で、ビット1は径40.0×34.0、深さ39.5cm、ビット2は径(45)×45.0cm、深さ42.5cm、ビット3は径48.0×35.0、深さ45.5cm(最深部で65.5cm)、ビット4は径39.0×38.0、深さ45.5cmを測る。その他壁沿いに巡る小ビットについては、補助柱穴などといった用途が考えられる。

(炉) 住居跡の西側に石囲炉が認められ、規模は径約90.0×85.0cmで、深さは58.0cmを測る。炉の切り合い関係から3柱より本住居跡の方が新しいようである。

(時期) 縄文時代中期後半の曾利Ⅰ式期。
(出土遺物) 遺物は3柱との重複部分に集中している。

第8号住居跡 (第38図)

(位置) 調査区の中央西寄り、G-14・15グリッドに位置している。
(重複・改築) 南東部で第15住居跡と重複しているが、本住居跡の方が新しい。
(形態・規模) 住居跡の東側半分以上が調査区外に位置している。形態は楕円形を呈するものと考えられ、長径は現存値で約8m、短径も現存値で3.60mを測る。
(壁・周溝) 壁はやや急な立ち上がりを示し、25cm程度を測る。周溝は存在しない。
(柱穴) 柱穴と考えられるものは3本である。ピット1は径100.0×70.0、深さ51.1cm、ピット2は径100.0×75.0、深さ81.0cm、ピット3は径90.0×83.0、深さ51.3cmを測る。
(炉) 調査区壁に面する付近に、地床炉と考えられる焼土広がり認められた。規模は北側のものが径78.0×72.0cm、南に位置するものは径71.0×67.0cmを測る。
(時期) 縄文時代中期後半の曾利Ⅲ式期。
(埋蔵) 南西部において、3基確認されている。第1号埋蔵は径65×47cm、深さ22cmの掘り方に胴下部が欠失した径45cmの深鉢形土器が埋設される。第2・3号埋蔵は長径120cmの掘り方が存在したものと考えられ、口縁部と底部が欠失した径33cmと径23cmの土器が埋設される。
(出土遺物) 遺物はあまり多くなく雑類が散在しているが、土偶が3点出土している。

第9号住居跡 (第37図)

(位置) 調査区の中央北寄り、F-15・16グリッドに位置している。
(重複・改築) 17・20柱と重複している。20柱を切っている。
(形態・規模) 住居跡の北側部分が、戦時遺構と考えられるもので攪乱を受けている。形態は隅丸長方形を呈し、長径は8.20m、短径は5.15mを測る。
(壁・周溝) 壁は北側で25cm、南側で44cmを測るが、立ち上がりは緩やかである。周溝は北部から西北部と攪乱部分で認められない。なお溝内には小ピットが存在し、幅は最大で70cm、深さは40cmを測る。
(柱穴) 柱穴と考えられるものは、10本程度存在する。このうちピット1は径47.0×34.0、深さ18.0cm、ピット2は径43.0×37.0、深さ64.0cm、ピット3は径40.0×32.0、深さ48.0cm、ピット4は径40.0×35.0、深さ40.0cmを測り、主柱穴と考えられる。
(炉) 地床炉と考えられる焼土の広がり、住居跡の中央付近に3箇所見られる。北側に位置するものから55×33、42×40、96×42cmの範囲で広がっている。
(時期) 縄文時代中期後半の曾利Ⅲ式期。
(出土遺物) 切り合いが多いためまとまった遺物の出土は見られなかったが、翡翠製の玉珠か玉斧の未製品が出土している。

第10号住居跡 (第33図)

(位置) 調査区の中央南側、D・E-12グリッドに位置している。
(重複・改築) 2柱と重複している。
(形態・規模) 形態は円形を呈するものと考えられ、長径は推定で3.30m、短径は3.10mを測る。
(壁・周溝) 壁は残っていない。周溝も存在しない。
(柱穴) 柱穴は5本存在するものと考えられるが、確認できたのは4本で、この内ピット3は土坑と重複しているので規模は現存値である。ピット1は径49.0×45.0、深さ29.7cm、ピット2は径42.0×23.0、深さ15.9cm、ピット3は径72.0×68.0、深さ62.3cm、ピット4は径58.0×43.0、深さ21.1cmを測り、これらが主柱穴と考えられる。
(炉) 中央北西寄りに石囲炉が存在する。径57cm×55cm、深さ30cmを測る。

(時期) 縄文時代中期後半の曾利Ⅴ式期。
(出土遺物) 覆土が残っていないため、とても少なかった。

第11号住居跡 (第37図)

(位置) 調査区の中央東寄り、F-12-13、G-13グリッドに位置している。
(重複・改築) 第12号住居跡と重複あり、本住居跡が切っている。
(形態・規模) 形態は円形を呈するものと考えられ、長径は4.42m、短径は3.60mを測る。
(壁・周溝) 壁は、最大で24cmを測る。周溝は存在しない。
(柱穴) 柱穴と考えられるものに205・206・214土があるが、深さが一定でないので主柱穴との区別はできない。
(炉) 不明。
(時期) 縄文時代中期後半の曾利Ⅳ式期。
(出土遺物) 12住と重複する部分に集中している。北東部に板状の礫が出土している。

第12号住居跡 (第37図)

(位置) 調査区の中央東寄り、F・G-12・13グリッドに位置している。
(重複・改築) 第11号住居跡に切られている。
(形態・規模) 複数の土坑が混在する。形態は円形を呈しているものと考えられ、規模は推定で長径5.20m、短径は4.90mを測る。
(壁・周溝) 壁は残っていない。周溝は存在しない。
(柱穴) 主柱穴は5本存在するが、深さが一定ではない。ピット1は径62.0×43.0、深さ38.2cm、ピット2は径45.0×40.0、深さ54.9cm、ピット3は径85.0×70.0、深さ68.4cm、ピット4は径—×53.0、深さ91.4cm、ピット5は径55.0×50.0、深さ17.0cmを測る。ピットの間隔と炉の位置からピット1と2の間が入口部と想定される。
(炉) 住居跡の南よりに石囲炉が認められ、その北側部分の配石が破壊されているが、周辺に散在する石が恐らく炉に伴うものであろう。規模は推定で径110cmの範囲で、10cm程度の掘込みが認められる。
(煙竈) 住居跡の南部のプランざりざりのライン付近で、深鉢形土器が胴上部が出土していることから、場合によるとこれが煙竈の可能性がある。範囲は40×30cmである。
(時期) 縄文時代中期後半の曾利Ⅲ式期。
(出土遺物) 覆土が残っていないため少ないが、深鉢形土器などが出土している。

第13号住居跡 (第32図)

(位置) 調査区の北側、E・F-18グリッドに位置している。
(重複・改築) なし。
(形態・規模) 焼土の分布が北と南西部において2箇所で見られる。形態は円形を呈するものと考えられ、規模は長径で3.85m、短径は3.20mを測る。
(壁・周溝) 壁は南側では削平され確認できなかったが、北側は残っており最大で7cmを測る。周溝は存在しない。
(柱穴) 主柱穴は4本と考えられ、ピット1は径43.0×32.0、深さ60.0cm、ピット2は径40.0×30.0、深さ43.7cm、ピット3は径24.0×17.0、深さ39.0cm、ピット4は径39.0×26.0、深さ54.2cmを測る。この他壁沿いに小ピットが巡っているが、これらは補助柱穴と考えられる。ピット3・4の入口部と考えられる地点には、小礫が集中する。
(炉) 住居跡のほぼ中央に地床炉が存在し、規模は長径75×短径65cmを測る。
(時期) 縄文時代前期後半の諸磯b式期。
(出土遺物) 炉付近と249土と重複する部分に集中している。

第14号住居跡 (第40図)

(位置) 調査区の北西端、D・E-17-18グリッドに位置している。

(重複・改築) なし。

(形態・規模) 住居跡の西側約1/3が調査区外に位置している。形態は隅丸長方形に近い形を呈するものと考えられ、長径は推定で4.70m、短径は3.70mを測る。

(壁・周溝) 壁はしっかりした立ち上がりが認められ、深さが15～30cm程度を測る。周溝は南北に存在し、幅は12～36cm、深さは10～20cmを測る。

(柱穴) 南北に1本ずつ発見できた。ピット1は径70.0×53.0、深さ66.0cm、ピット2は径50.0×(30)、深さ57.5cmを測り、これらは主柱穴と考えられる。

(炉) 住居のほぼ中央付近に地床炉が存在し、一部が調査区外に位置している。プラン周辺には焼土が残っている。径は85×80cm、深さ19.6cmを測る。

(時期) 縄文時代前期後半の諸磯b式期。

(出土遺物) 遺物は少ないが、土製円盤が出土している。

第15号住居跡 (第38図)

(位置) 調査区の東側、G-13・14グリッドに位置している。

(重複・改築) 重複関係が認められ、本住居跡の上に第8号居跡住が乗るような形で存在する。

(形態・規模) 住居跡の東側2/3程度が調査区外に位置し、南側が堅穴状の掘り込みと切り合っている。形態は楕円形を呈するものと考えられ、長径は推定で5.90mを測る。

(壁・周溝) 壁は南側が別の遺構と切り合っているが、西側の最深部で約40cmを測る。周溝は存在しない。

(柱穴) 確認できた主柱穴は2本で、その総数は4本と推定される。ピット1は径61.0×35.0、深さ60.0cm、ピット2は径48.0×38.0cm、深さ54.0cmと測り、主柱穴と考えられる。また壁に沿った部分で、深さが10～20cmを測る小ピットが巡っており、補助柱穴と考えられる。

(炉) 不明である。

(時期) 縄文時代前期後半の諸磯b式期。

(出土遺物) 多量の土器の破片類が出土している。

第16号住居跡 (第42図)

(位置) 調査区の中央西寄り、F-13・14グリッドに位置している。

(重複・改築) なし。多数の土坑と切り合う。

(形態・規模) 形態は楕円形を呈し、長径は推定で5.50m、短径は4.80mを測る。

(壁・周溝) 壁は残っていない。周溝は西側のみに残っており、幅が25～30cm、深さが20cm程度を測る。

(柱穴) 主柱穴は4本で、南側の入口部に2本の補助柱穴が存在する。ピット1は径推定で50.0、深さ57.2cm、ピット2は径60.0×40.0、深さ56.1cm、ピット3は補助柱穴で径45.0×32.0、深さ37.5cm、ピット4は径52.0×48.0、深さ66.9cm、ピット5は径60.0×50.0、深さ65.7cmを測る。

(炉) 住居跡の北寄りに集石が認められる地床炉が認められ、規模は径125.0×110.0cmで、深さは51.4cmを測る。

(埋壘) 入口部と考えられる付近で、2基確認されている。第1号埋壘は径25×22cm、深さ30cmの掘り方に径20cmの底部が穿孔された深鉢形土器が埋設される。第2号埋壘は径33×32cm、深さ36cmの掘り方に径25cmを測る底部が穿孔された深鉢形土器が埋設される。

(時期) 縄文時代中期後半の曾利IV式期。

(出土遺物) 土坑との切り合いが多く、遺物は埋壘の他に3個体の深鉢形土器が出土しているが、その他のものについては伴出関係は不明である。第95号土坑から出土している土器も、本住居に伴う可能性がある。

第17号住居跡 (第35図)

(位置) 調査区の中央、E・F-14・15グリッドに位置している。

(重複・改築) 東側で第9号住居跡、西側で第5・21号住居跡と重複しているが、時期的には第5・21号住居跡より新

しく、第9号住居跡より古い。

(形態・規模) 住居跡の東西両側が別の住居跡に切られており、周溝のみが僅かにプランの名残りを留めている。形態は円形を呈するものと考えられ、長径は5.50m、短径は5.40mを測るものと推定される。

(壁・周溝) 壁は残っていない。周溝は住居の入口部と想定される北側部分に認められ、その規模は15～25cmの幅で、深さ15cmを測る。

(柱穴) 柱穴と考えられるものは4本であるが、5本存在した可能性がある。ピット1は径75.0×65.0、深さ42.0cm、ピット2は径58.0×44.0、深さ43.2cm、ピット3は径83.0×80.0、深さ60.2cm、ピット4は径87.0×80.0、深さ60.0cmを測る。

(炉) 住居のほぼ中央に位置する157土が、埋燵炉の可能性ある。掘り方の規模は、径が45.0×40.0、深さが67.6cmを測り、形態的にはピット状を呈する。

(埋燵) 北部の周溝の途切れた間の入口部と想定される部分で確認された。埋燵は径50cm、深さ40cmの掘り方に底部穿孔の鉢形土器が埋設される。

(時期) 縄文時代中期後半の曾利Ⅲ式期。

(出土遺物) 覆土が残っていないため、遺物の量は少なかった。土甕が出土している。

第18号住居跡 (第39図)

(位置) 調査区の南東部、C-12・13グリッドに位置している。

(重複・改築) 改築が行われている。

(形態・規模) 住居跡の東側2/3程度が、調査区外に位置している。形態は円形を呈するものと考えられ、外側住居の現存値は4.65m、内側の住居の現存値は3.20mを測る。

(壁・周溝) 壁は15～25cmを測り、立ち上がりは急である。周溝は新・旧2本巡っており、外側の新住居のものは幅が25～60cm、深さが10～25cm、内側の旧住居のものは幅が22～40cm、深さが20cmを測る。

(柱穴) 新住居に伴うと考えられる主柱穴が、2本認められる。ピット1は径75.0×43.0、深さ75.5cm、ピット2は径70.0×45.0、深さ87.7cmを測る。

(炉) 調査区外に存在するものと思われる。

(時期) 縄文時代前期後半の諸磯b式期。

(出土遺物) 覆土がほとんど残っていないため、とても少なかった。

第19号住居跡 (第40図)

(位置) 調査区の南東部、F-11、G-11・12グリッドに位置している。

(重複・改築) なし。

(形態・規模) 住居跡の南側1/3程度が、調査区外に位置している。形態は円形を呈するものと考えられ、径は東西で3.65mを測る。

(壁・周溝) 壁は20cm程度を測り、立ち上がりは北側で急、東西では緩やかである。周溝は北端のみに存在し、幅が20cm、深さが5cmを測る。

(柱穴) 発見できなかった。

(炉) 発見できなかった。

(時期) 縄文時代中期後半の曾利Ⅳ式期。

(出土遺物) 覆土内から発見された遺物は数点で、とても少ない。

第20号住居跡 (第41図)

(位置) 調査区の北側、E・F-16・17グリッドに位置している。

(重複・改築) 第9号住居跡と重複している。

(形態・規模) 形態は楕円形を呈するものと考えられ、長径は7.50m、短径は6.90mを測り、大型の住居である。

(壁・周溝) 壁は西側で15cm、東で5cmを測る。周溝は南端で確認でき、最大値は幅が60cm、深さは23cmを測る。
(柱穴) 主柱穴は7本存在し、ピット1は径70.0×60.0、深さは1cm、ピット2は径60.0×52.0、深さ80.0cm、ピット3は径55.0×50.0、深さ55.0cm、ピット4は径58.0×45.0、深さ1cm、ピット5は径65.0×50.0、深さは72.3cm、ピット6は径55.0×40.0、深さ80.0cm、ピット7は径64.0×54.0、深さ80.0cmを測る。深さが不明なものについては、80cm程度を測るようである。

(炉) 中央北寄りに、石囲炉が存在する。水道の配管で南側の配石が破壊されているが、全体的に良く残っている。径120.0cm×103.0cm、深さ25cmを測る。炉内からは、土器片がややまとまって出土した。

(時期) 縄文時代中期後半の曾利Ⅱ式期。

(出土遺物) 覆土が残っていなかったため、遺物はとても少ない。

第21号住居跡 (第35図)

(位置) 調査区の中央北西寄り、D・E-15・16グリッドに位置している。

(重複・改築) 第5・17号住居跡と重複あり、本住居跡が集るっている。中央部が攪乱を受けている。

(形態・規模) 形態は隅丸がかった円形を呈し、長径は8.45m、短径は6.90mを測り、大型の住居である。

(壁・周溝) 壁は、東側で31.5cm、西側で57.5cmを測る。周溝は存在しない。

(柱穴) 柱穴と考えられるものが7本存在するものと考えられ、この内5本が確認できた。ピット1は径49.0×45.0、深さは68.5cm、ピット2は径30.0×28.0、深さ53.8cm、ピット3は径56.0×50.0、深さ47.0cm、ピット4は径35.0×30.0、深さ38.0cm、ピット5は径60.0×43.0、深さは47.8cmを測る。その他のものは、補助柱穴と考えられる。

(炉) 不明。

(時期) 縄文時代中期後半の曾利Ⅰ式期。

(出土遺物) 土器は、破片類が中心に出土した。157土は17柱の炉としたが、野外埋壘の可能性はある。

第22号住居跡 (第42図)

(位置) 調査区の北端、F・G-18グリッドに位置している。

(重複・改築) 第23号住居跡と重複あり、本住居が切られている。

(形態・規模) 形態は不整隅九方形を呈し、規模は推定で長径3.90m、短径は3.50mを測る。南側1/3程度の範囲が攪乱を受けている。

(壁・周溝) 壁は10cm程度である。周溝は北側で確認され、幅50.0cm、深さ21.7cmを測る。

(柱穴) 壁沿いにピットが見られるが、主柱穴と補助柱穴の区別は出来ない。柱穴と考えられるものの深さは20～30cmを測る。

(炉) 住居跡の中心部と見られる部分に、地床炉が存在する。焼土の範囲は長径85.0cm、短径55.0cmで広がりを見せ、3cm程度の窪みが認められる。

(時期) 縄文時代前期初頭の中越式期。

(出土遺物) 土器片などが少量出土している。

(土層説明)

- 1-黒茶褐色土層 (炭化物少量含む)
- 2-暗茶褐色土層 (焼土・炭化物少量含む)
- 3-淡黄褐色土層 (炭化物・ローム粒子多く含む)
- 4-淡褐色土層 (焼土・炭化物・ローム粒子・5mm～1cmロームブロック少量含む)
- 5-暗黄茶褐色土層
- 6-淡黒茶褐色土層 (焼土微量、炭化物・ローム粒子・1cm大ロームブロック少量含む)
- 7-黒茶褐色土層 (焼土・炭化物・ローム粒子微量含む、5mm～2cm大ロームブロック少量含む)
- 8-暗茶褐色土層 (焼土・炭化物微量含む)
- 9-茶黒褐色土層 (焼土・炭化物・1cm大ロームブロック少量含む)
- 10-淡黄褐色土層 (炭化物・ローム粒子多く含む)

- 11-淡黒茶褐色土層（焼土・炭化物微量、ローム粒子・5mm～1cm大ロームブロック少量含む）
 12-黒褐色土層（焼土少量、炭化物・ローム粒子微量含む、古墳時代の土坑）
 13-暗褐色土層（焼土微量、炭化物・ローム粒子・5mm～1cm大ロームブロック少量含む）
 14-淡褐色土層（焼土・炭化物微量、2～10cm大ロームブロック少量含む）

第23号住居跡（第40図）

（位置）調査区の北端、G-18・19グリッドに位置している。

（重複・改築）第24号住居跡と重複あり、本住居が切る。

（形態・規模）3/4以上が調査区外に位置している。形態はほぼ円形を呈するものと考えられ、規模は現存値で3.30mを測る。

（壁・周溝）壁は最大で14cmを測る。周溝は西側で認められ、幅が25～30cm、深さは10～15cmを測る。

（柱穴）主柱穴の総数は不明であるが、周溝に隣接し、上部で石が見られるピットは主柱穴と考えられ、規模は径が45.0cm、深さ56.1cmを測る。その他、周溝内とその周辺には深さが10～15cmを持つ小ピットが存在する。

（炉）調査区外に存在するものと考えられる。

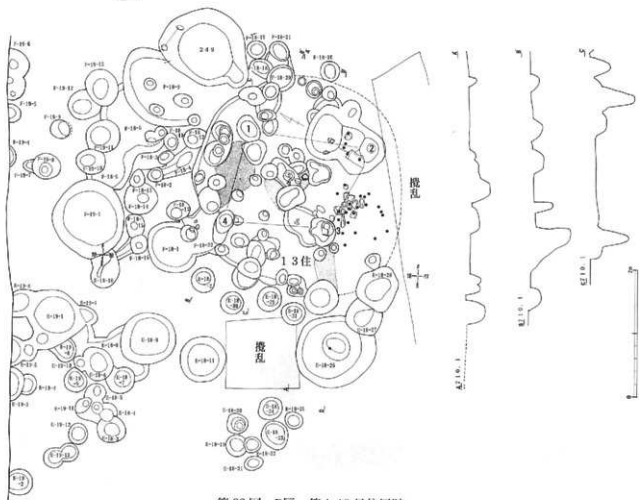
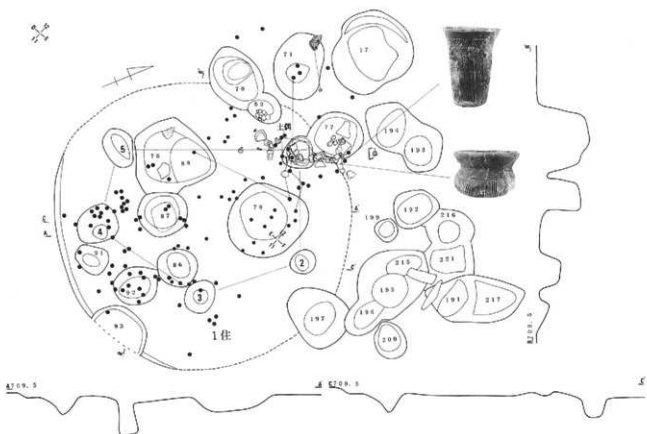
（時期）縄文時代前期後半の踏碇b式期。

（出土遺物）土器片を主体に、少量出土している。

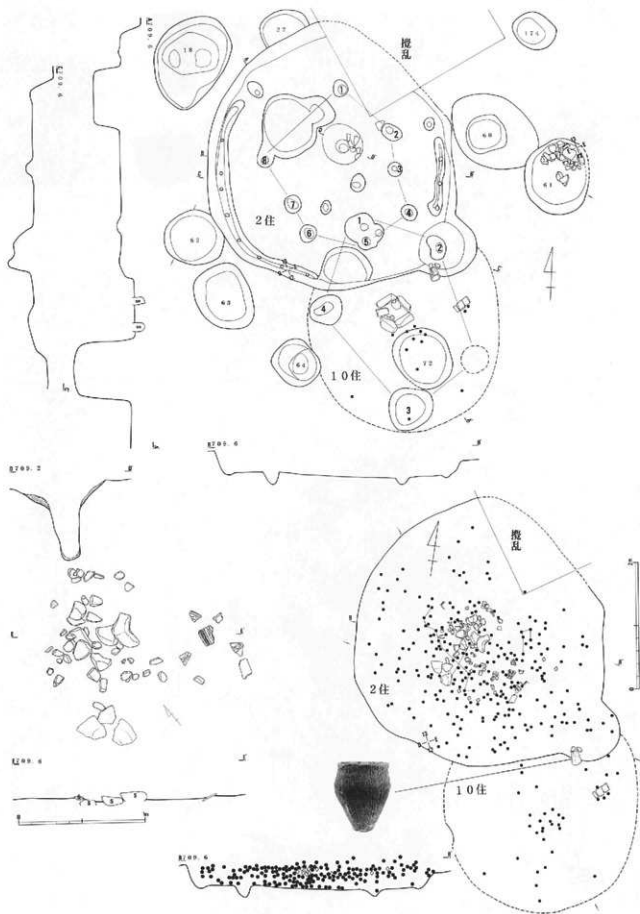
第5表 B区住居跡一覧表

（ ）は現存値および推定値

図版番号	図略	位置	重複・改築	平面形状	長径(m)	短径(m)	深さ(cm)	炉	主柱穴	時代・時期	備	考
第32図	1	E-F-11-12	なし	円	4.90	4.60	10.0	—	5	縄文中期 曾Ⅰ	土器が1点出土している。	
第33図	2	E-F-11-12	10住と重複	円	4.80	4.15	37.0	地床	8	縄文前期 諸a	一部覆瓦。骨片・炭化物多量。	
第34図	3	D-13-14	4-7住と重複	円	5.50	—	32.0	地床	6/8	縄文中期 曾Ⅰ	伊の北側に埋没。一部調査区外、丸瓦と点土	
第34図	4	D-12-13	3住と重複	円	5.50	(2.85)	—	石囲	—	縄文中期 曾Ⅱ	北縁縁辺部に埋没。一部調査区外。	
第35-36図	5	D-E-15-16	17-21住と重複	円	4.90	4.40	20.0	—	2	縄文前期 諸b	一部覆瓦。	
第37図	6	D-11-12	なし	楕円	5.50	—	28.0	地床	—	縄文前期 諸a	一部調査区外。菅玉片1点点土	
第34図	7	D-E-14	3住と重複	円	(4.10)	3.50	27.0	石囲	5	縄文中期 曾Ⅰ	一部覆瓦	
第38図	8	G-14-15	15住と重複	楕円	(8.00)	(3.60)	25.0	地床	3	縄文中期 曾Ⅱ	土器3点、埋没3基出土。一部調査区外。	
第39図	9	F-15-16	17-20住と重複	隅丸長方	8.20	5.15	44.0	地床	4	縄文中期 曾Ⅱ	一部覆瓦。翡翠製大珠未製品が出土	
第33図	10	D-E-12	2住と重複	円	(3.30)	3.10	—	石囲	4	縄文中期 曾V		
第37図	11	F-2-13、G-13	12住と重複	円	4.42	3.60	24.0	—	—	縄文中期 曾Ⅳ		
第37図	12	F-G-12-13	11住と重複	円	(5.20)	4.90	—	石囲	5	縄文中期 曾Ⅲ		
第32図	13	E-F-18	なし	円	3.85	3.20	7.0	地床	4	縄文前期 諸b	一部覆瓦。	
第40図	14	D-E-17-18	なし	隅丸長方	(4.70)	3.70	30.0	地床	2	縄文前期 諸b	一部調査区外。	
第38図	15	G-13-14	8住と重複	円	(5.90)	—	40.0	—	2	縄文前期 諸b	一部覆瓦と調査区外。	
第42図	16	F-13-14	なし	楕円	(5.50)	4.80	—	地床(礎石)	4	縄文中期 曾Ⅳ	人口部に埋没2基。	
第35図	17	E-F-14-15	5-9-21住と重複	円	5.50	5.40	—	埋没?	4	縄文中期 曾Ⅲ	人口部に埋没1基。一部覆瓦。土器出土。	
第39図	18	C-12-13	改築あり	円	外4.65	内3.20	25.0	—	外2	縄文前期 諸b	一部調査区外。	
第40図	19	F-11、G-11-12	なし	円	—	(3.65)	20.0	—	—	縄文中期 曾Ⅱ	一部調査区外。	
第41図	20	E-F-16-17	9住と重複	楕円	7.50	6.90	15.0	石囲	7	縄文中期 曾Ⅱ		
第36図	21	D-E-15-16	5-17住と重複	円	8.45	6.90	58.0	—	7	縄文中期 曾Ⅰ	157土は野外埋没か?一部覆瓦。	
第42図	22	F-G-18	23住と重複	不規則長方	(3.90)	3.50	10.0	地床	—	縄文前期 中越	一部覆瓦。	
第42図	23	G-18-19	24住と重複	円	—	(3.30)	14.0	—	1	縄文前期 諸b	大部分が調査区外。	



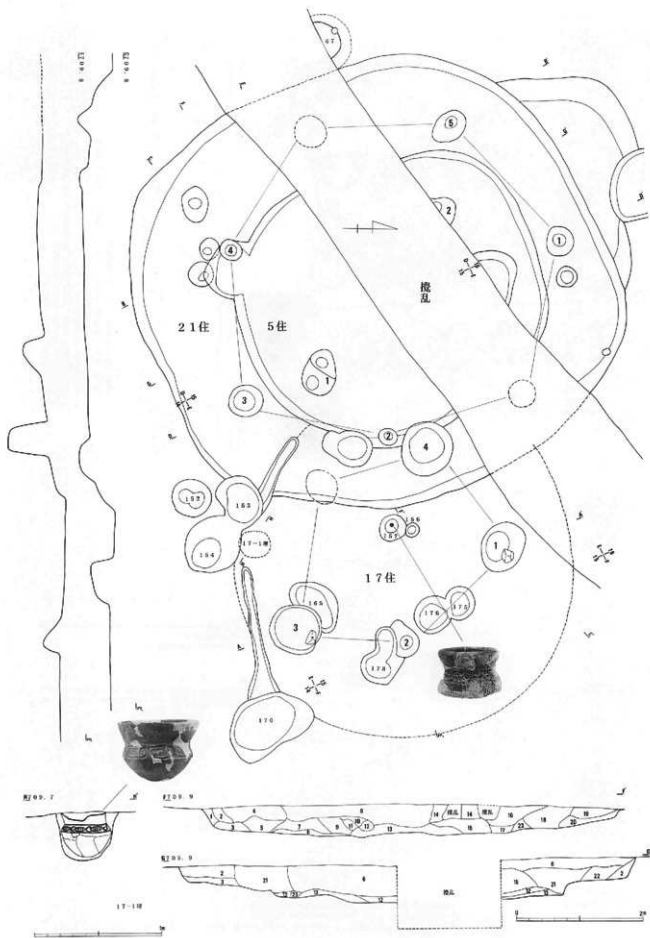
第32图 B区 第1·13号住居跡



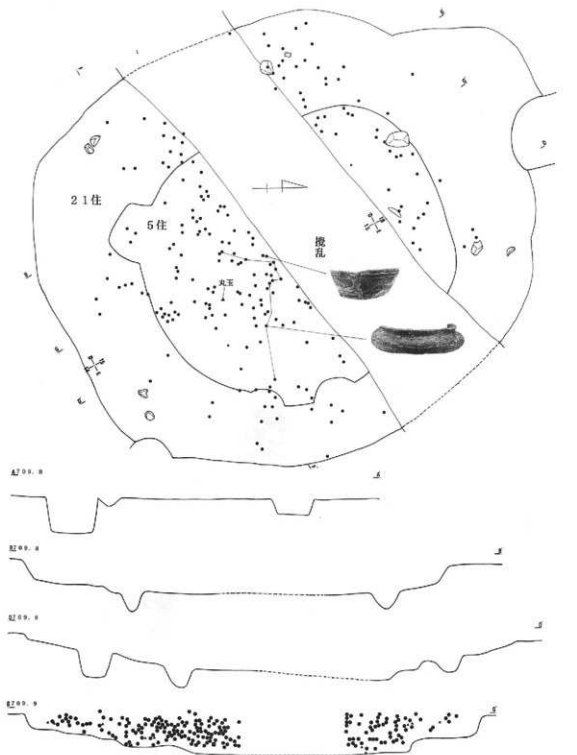
第33图 B区 第2·10号住居跡



第34図 B区 第3・4・7号住居跡



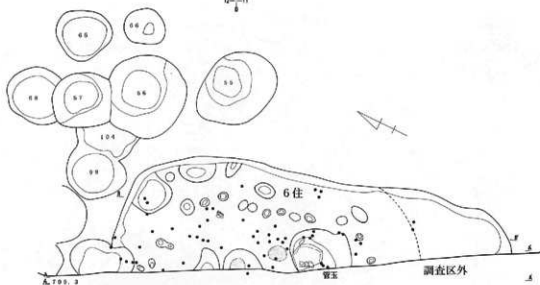
第35图 B区 第5-17-21号住居跡



- | | |
|------------------------------------|-------------------------------------|
| 5-21住 | 12-褐色土層 (3m大のロームブロックやや多く含む) |
| 1-褐色土層 | 13-褐色土層 (ローム粒子多量含む) |
| 2-褐色土層 | 14-褐色土層 (炭化物・ローム粒子・1m大のロームブロック少量含む) |
| 3-褐色土層 (ローム粒子少量含む) | 15-暗褐色土層 |
| 4-暗褐色土層 | 16-暗褐色土層 (ローム粒子少量含む) |
| 5-暗褐色土層 (ローム粒子少量含む) | 17-暗褐色土層 (ローム粒子やや多く含む) |
| 6-黒褐色土層 (粘土・炭化物少量、ローム粒子やや多く含む) | 18-黒褐色土層 (ローム粒子少量含む) |
| 7-褐色土層 (3m大のロームブロック少量含む) | 19-暗褐色土層 |
| 8-暗褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む) | 20-褐色土層 |
| 9-褐色土層 (粘土・炭化物、2m大のロームブロック少量含む) | 21-暗褐色土層 (ローム粒子やや多く含む) |
| 10-黒褐色土層 (粘土・炭化物少量、ローム粒子多量含む) | 22-暗褐色土層 (ローム粒子少量含む) |
| 11-暗褐色土層 (ローム粒子多量・2m大のロームブロック少量含む) | 23-黄褐色土層 (ローム粒子) |



第36図 B区 第5・21号住居跡

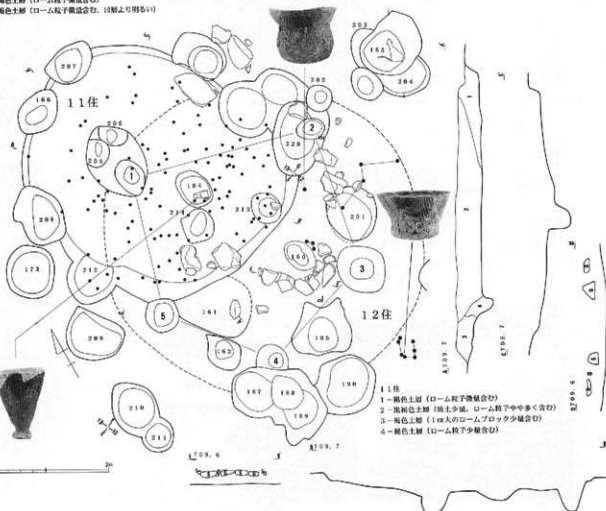


6住

- 1-黒褐色土層
- 2-褐色土層
- 3-暗褐色土層 (ローム粒子少量含む)
- 4-黒褐色土層 (ローム粒子微量含む)
- 5-褐色土層 (ローム粒子少量含む)
- 6-黄褐色土層
- 7-黒褐色土層 (ローム粒子少量含む)
- 8-暗褐色土層 (ローム粒子微量含む)
- 9-黒褐色土層 (粘土層を含む)
- 10-黒褐色土層 (ローム粒子微量含む)
- 11-黒褐色土層 (ローム粒子微量含む、10層より明5%)

A. 109. 3

B. 109. 3



- 1-褐色土層 (ローム粒子微量含む)
- 2-黒褐色土層 (粘土少域、ローム粒子中々多く含む)
- 3-褐色土層 (10mのロームブロック少量含む)
- 4-黒褐色土層 (ローム粒子少量含む)

C. 109. 6

D. 109. 7

E. 109. 4

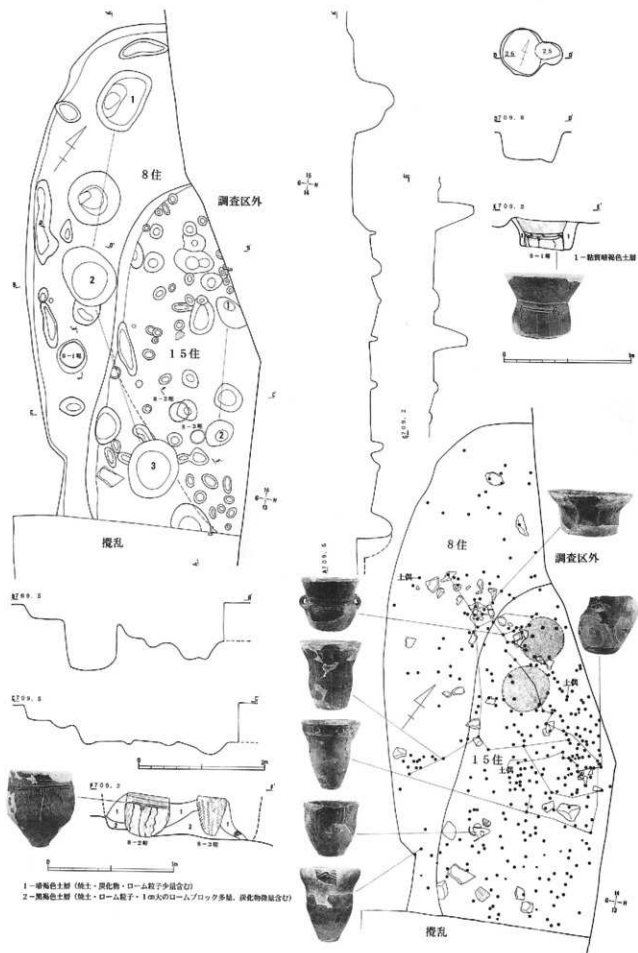
A. 109. 7

B. 109. 7

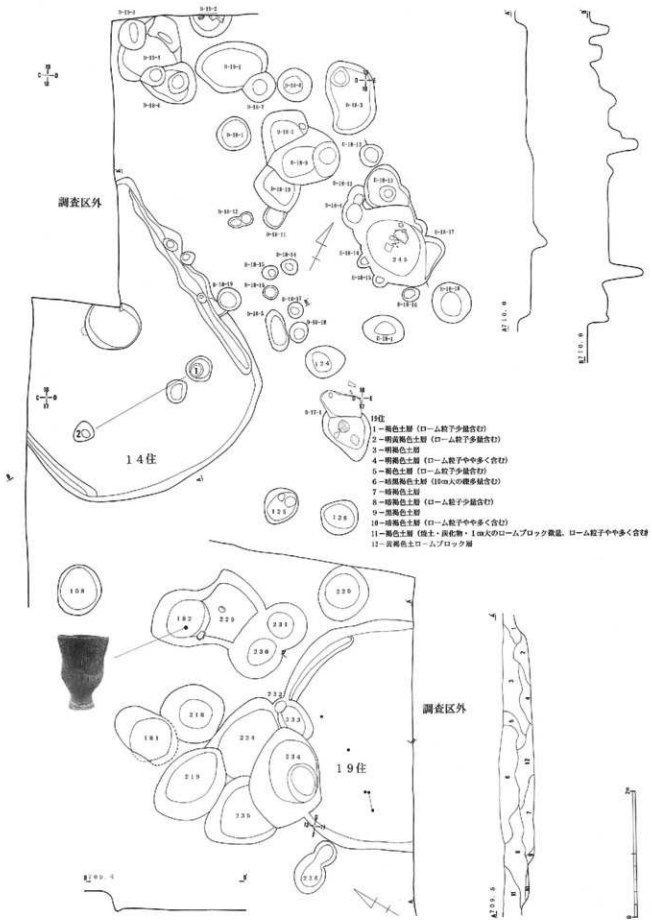
C. 109. 6

D. 109. 6

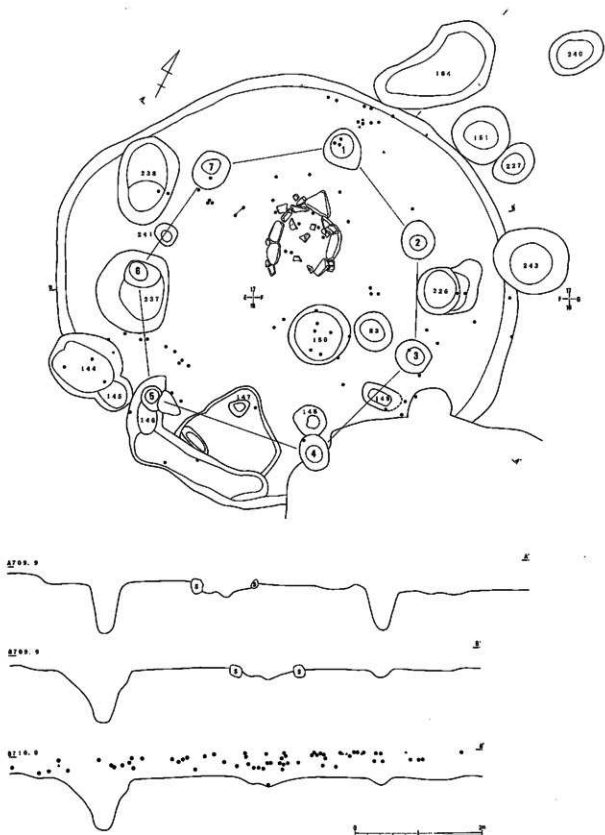
第37図 B区 第6・11・12号住居跡



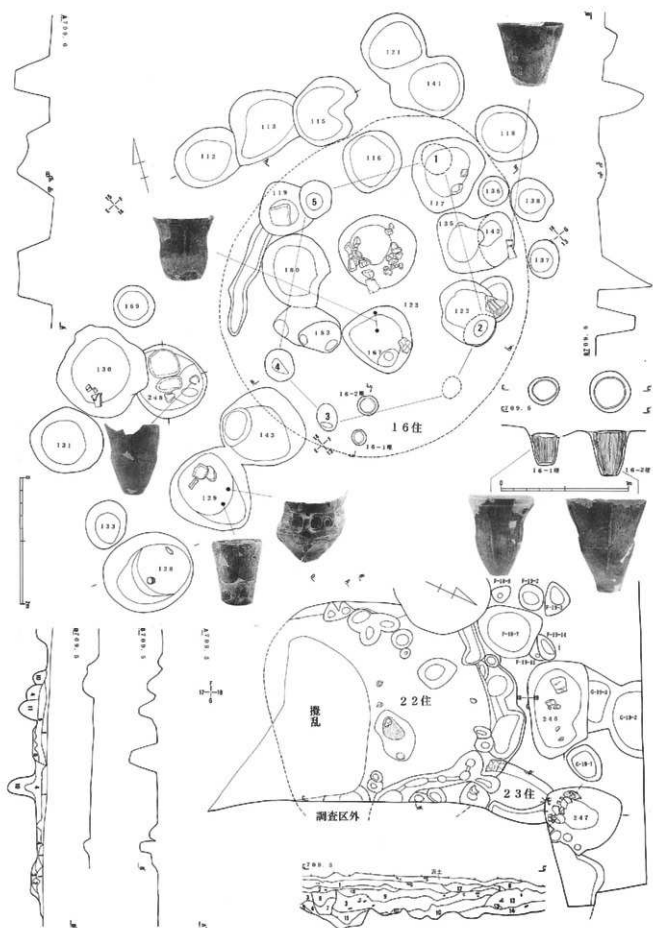
第38図 B区 第8・15号住居跡



第40図 B区 第14・19号住居跡



第41图 B区 第20号住居跡



第42图 B区 第16·22·23号住居跡

第2項 土坑・グリッド土坑 (第43~44図)

357基中26基は住居跡などの柱穴に変更したため、土坑として認識できるものは331基である。時期的には約40%に当たるものは不明で、約40%に当たるものが縄文時代前期の諸磯期に属するものである。

特筆すべきものを以下に挙げる。74土から白色顔料が胴部施された土偶が出土している。128土からの石棒の先端部が正位で出土しており、祭祀的な影響が窺える。33・129・130・132・155・182・212土はそれぞれ属する時期は異なるが、深鉢形土器などが出土している。その中でも155土については、通常浅鉢形土器に見られる口辺部欠失させるパターンに類似性が求められ興味深い。201土の坑底部からは多量の粘土が発見され、貯蔵施設と考えられる。164・247土に諸磯b式期のもので、多数の礫を伴って深鉢の胴上部のみが出土している。248土は大小の台石状のものが南北に並び、その東側に底部穿孔の深鉢が正位で出土している。249土からは覆土層から多量の小礫と土器片類が出土している。

グリッド土坑として取り上げたものは、小ピットを含めて108基である。その大部分のものについては遺物を伴うことがなく明確な時期は限定することはできないが、周辺の遺構と覆土の状況からその多くが縄文時代前期諸磯b式期に属するものと考えられる。

第6表 B区土坑・グリッド土坑一覧表 (土坑)

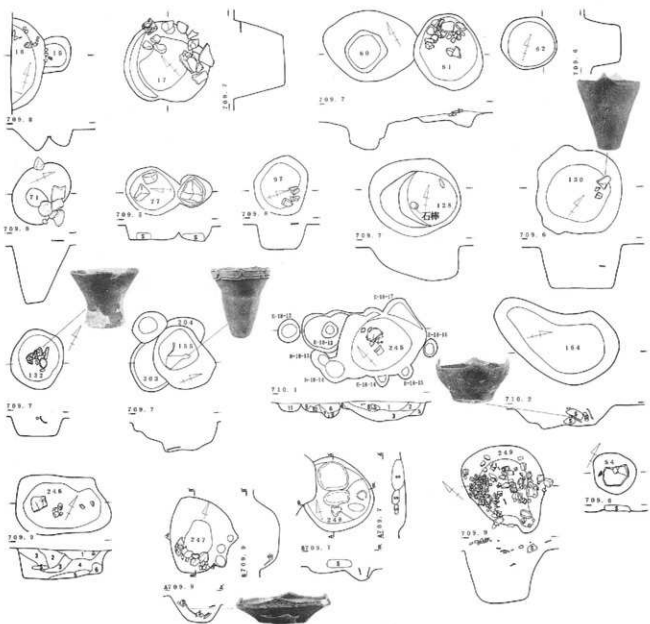
() は現存値および推定値

坑別	位	置長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形態	立ち上がり	時期	備	考
1	E-10	90.0	(74)	15.1	不整円	急	諸b	10・38土を切る。	
2	D-10	(65)	51.0	18.0	楕円	中	期	11土と切り合う。	
3	E-10	65.0	51.0	29.0	不整楕円	急	II	30・31土を切る。	
4	D-10	40.0	37.0	11.0	楕円	急			
5	E-11	120.0	84.0	26.5	楕円	急		1往と隣接する。	
6	E-10	(110)	71.5	7.5	不整円	急	諸a	24土を切る。	
7	E-10	113.0	86.0	14.5	不整楕円	やや急	諸a	坑底に2基のピットを持つ。	
8	E-10	92.0	81.0	21.5	円	急	曾I	31土を切り、33土と切り合う。	
9	D-10	127.0	(102)	37.0	楕円	急	諸a	北部が覆土され、14・51土と切り合う。	
10	D-E-10	(116)	70.0	113.2	不整楕円	やや急	諸a	11土に切られ、11・34土と切り合う。	
11	D-10	(138)	95.0	62.5	楕円	急	諸a	2土に切られ、10・34土と切り合う。	
12	D-10	(58)	59.0	49.0	楕円	急	曾II	13土を切る。	
13	D-10	(55)	49.0	30.0	円	急	諸a	12土に切られ、14土と切り合う。	
14	D-10	(90)	(75)	31.0	不整円	急	諸a	9・13・49・51土と切り合う。	
15	D-10	(64)	58.0	29.4	不整円	急	曾I	16土に切られる。	
16	D-10	(300)	(300)	25.4	円	急	諸a		
17	E-12	123.0	82.5	37.2	不整円	急	曾I	21土に切られる。	
18	D-E-13	149.0	107.0	37.2	楕円	やや急	曾II	北寄り小ピットが1基。	
19	D-E-10	(96)	84.0	42.0	円	緩やか	諸a	24土と切り合う。	
20	D-10	58.0	50.0	41.0	楕円	急	諸a	坑底が凸凹で、36土と切り合う。	
21	D-10	98.0	(93)	87.0	不整円	急	曾b	23土を切り、53土と切り合う。	
22	E-13	77.0	71.0	37.0	円	急	曾I	2往を切る。	
23	D-10	90.0	(90)	87.0	不整円	急	前周	21土に切られる。	
24	D-10	(115)	106.0	—	楕円	不明	諸a	6・7土に切られ、19土と切り合う。	
25	G-14	45.0	32.0	47.8	楕円	急	諸a	8往と24土に切られる。	
26	G-14	75.0	70.0	40.4	円	急	曾II	8往に切られ、25土を切る。	
27	F-16	—	—	—	不明	不明	諸a	住居跡に切られ位置不明。	
28	G-16	62.0	44.0	37.9	楕円	急	諸a	9往に切られる。	
29	E-11	110.0	103.0	28.6	円	やや急	諸a	30土を切る。	
30	E-10-11	142.0	(135)	26.9	円	緩やか	諸a	3土に切られ、29・31土と切り合う。	
31	E-10	116.0	81.0	97.0	不整円	急	諸a		
32	E-10	(89)	76.0	26.0	楕円	やや急	諸a		
33	E-10	(109)	103.0	63.8	楕円	急	曾I	8土と切り合う。	
34	D-E-10	(97)	96.0	45.8	円	急	諸a	10・11土に切られる。	
35	D-10	90.0	78.0	65.2	円	急	諸a	19土と切り合う。	
36	D-10	(64)	55.0	32.0	不整円	やや急	諸a	20土と切り合う。	
37	D-10	97.0	95.0	16.5	円	急	諸a	16往と切り合う。	
38	E-10-11	142.0	133.0	22.9	不整円	急	諸a	1・39土に切られる。	
39	E-11	121.0	(120)	12.8	円	急	諸a	38~41土を切る。	
40	D-E-11	127.0	97.0	62.8	楕円	急	諸b	39土に切られる。	
41	E-11	101.0	94.0	19.0	円	やや急	諸a	39・40土に切られる。	
42	G-9-10	130.0	113.0	29.7	不整円	急	諸b		
43	G-10	167.0	132.0	44.0	楕円	急	諸b	坑底の北西端にピットを持つ。	
44	G-9-10	124.0	115.0	30.5	円	急	諸b	坑底の北西端にピットを持つ。	
45	F-10	165.0	119.0	19.9	不整楕円	急	諸a	坑底の北西端にピットを持つ。	
46	E-10	(103)	91.0	32.1	円	緩やか	諸a	47土と切り合う。	
47	E-10	88.0	77.0	31.6	円	急	諸a	46・48土と切り合う。	
48	E-10	(95)	76.0	37.1	不整円	やや急	諸a	47土と切り合う。	
49	D-10	105.0	93.0	45.8	不整円	やや急	諸a	13・14土を切る。	
50	D-10	45.0	41.0	57.5	楕円	やや急			
51	D-10	85.0	56.0	63.1	不整楕円	急			
52	D-10	67.0	63.0	18.1	円	やや急			
53	D-10	137.0	90.0	43.7	楕円	やや急			
54	D-11	73.0	64.0	—	円	急	諸a	21土と切り合う。	
55	D-12	141.0	106.0	56.5	楕円	やや急	曾V	板状の石が存在する。	
56	D-12	132.0	128.0	47.8	不整円	やや急	曾V	57土に切られる。	
57	D-12	90.0	86.0	46.6	不整円	やや急	曾V	56土を切る。	
58	D-13	96.0	83.0	37.4	円	急	諸b	3往に切られ、74土と切り合う。	
59	E-13-14	95.0	83.0	17.6	楕円	急	諸a	3往と132土に切られる。	
60	E-13	(153)	110.0	41.0	楕円	緩やか	諸a	61土に切られる。	
61	E-12	120.0	113.0	22.0	円	やや急	諸a	60土を切る。礫が多数出土している。	

採掘位	位置長(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形態	立ち上がり	時期	備考
62	D-13	85.0	80.0	54.0	円急	管V	63土を切る。
63	D-12-13	(250)	171.0	—	楕円(不明)	楕b	62土に切られる。
64	D-12	81.0	65.0	25.8	円急	楕b	10f土に切られ、東側にビットあり。
65	D-12	88.0	79.0	30.1	円急	管IV	
66	D-12	66.0	55.0	36.6	円急		
67	D-15	(60)	31.0	—	円急	管I	57土に切られる。
68	D-12	104.0	84.0	64.6	楕円急	管I	東状土状、南側部分が粗乱されている。
69	E-12	(60)	44.0	51.4	楕円急	管I	70土と切り合う。1住に伴うものか?
70	E-12	(105)	76.0	27.6	楕円急	管I	69土と切り合う。ビットあり。
71	E-12	106.0	75.0	100.0	楕円急	楕a	
72	E-12	101.0	85.0	39.1	楕円急	管IV・V	
73	欠番	—	—	—	—	—	—
74	D-13・14	72.0	66.0	57.0	円急	楕b	10f住の柱穴に隣接。
75	欠番	—	—	—	—	—	10f住の柱穴に変更。
76	E-11・12	137.0	109.0	69.5	不整楕円急	管III	1住を切り、88土と切り合う。
77	E-12	(93)	74.0	24.4	円急	楕b	1住の柱穴に切られる。坑底部から礫が出土。
78	欠番	—	—	—	—	—	1住の柱穴に変更。
79	E-11・12	128.0	114.0	26.4	円急	管I	10住の柱穴に変更。
80	欠番	—	—	—	—	—	20f内。
81	F-16	55.0	47.0	10.0	円緩やか	管III	20f住の柱穴に変更。
82	欠番	—	—	—	—	—	20f内。
83	F-16	61.0	55.0	10.0	円急	楕b	3住に切られ、西側が調査区外に位置している。
84	D-13・14	(130)	100.0	—	楕円(不明)	楕b	1住の柱穴に変更。
85	欠番	—	—	—	—	—	92土と切り合う。
86	E-11	65.0	59.0	48.2	円急	楕b	1住、76土・88土に切られる。
87	E-11	75.0	65.0	45.9	不整楕円急	管III	1住内、76土と切り合う。
88	E-11・12	(85)	(80)	83.8	不整円急	管III	1住の柱穴に変更。
89	欠番	—	—	—	—	—	1住の柱穴に変更。
90	欠番	—	—	—	—	—	1住の柱穴に変更。
91	E-11	53.0	40.0	23.0	楕円急	管III	1住内。
92	E-11	75.0	57.0	40.7	不整楕円急	管III	1住内、86土と切り合う。
93	E-11	98.0	(90)	20.0	円急	管III	9住と切り合う。
94	F-15	40.0	27.0	33.6	楕円急	管III	9住に切られる。
95	F-15	75.0	75.0	65.2	不整楕円急	管III	97土と切り合う。
96	D-12	(59)	48.0	32.4	不整楕円急	管V	96・105土を切る。
97	D-12	53.0	42.0	42.0	円急	管V	104土を切る。
98	D-12	(97)	85.0	36.3	不整楕円急	管V	
99	G-16	76.0	73.0	24.0	円急	管V	
100	G-15	57.0	48.0	49.0	楕円急		
101	G-15	47.0	40.0	44.5	円急		
102	G-15	98.0	68.0	65.9	不整楕円急	楕b	56土と切り合い、98土に切られる。
103	G-15	86.0	75.0	44.0	円急	楕b	96・97土に切られ、西側が調査区外。
104	D-12	(109)	89.0	40.9	不整楕円急	楕a	107土と切り合う。
105	D-12	(200)	113.0	33.7	不整楕円急	楕b	106土と切り合う。
106	F-12	83.0	69.0	42.8	楕円急	楕a	
107	D-12	91.0	61.0	22.0	不整楕円急	管III	
108	D-17	76.0	70.0	12.8	円急	管III	
109	D-16	—	—	—	不明	楕c	不明。
110	D-16	—	—	—	不明	楕c	不明。
111	D-16	—	—	—	不明	楕c	不明。
112	F-14	(106)	85.0	32.5	楕円急	楕c	113土に切られる。
113	F-14	(138)	103.0	29.5	不整楕円急	楕II	112土と切り、115土と切り合う。
114	F-14・15	77.0	74.0	15.1	円緩やか	楕b	9住に切られる。
115	F-14	101.0	100.0	48.0	不整楕円急	楕b	16住と113土と切り合う。
116	F-14	100.0	75.0	18.8	円急	楕b	16住に切られる。
117	F-17	125.0	102.0	60.8	不整楕円急	管III	16住に切られる。
118	G-14	101.0	84.0	19.2	円急	楕b	16住に切られる。
119	F-14	91.0	(85)	50.0	円急	楕b	16住に切られる。
120	欠番	—	—	—	—	—	16住のがに変更。
121	F・G-14	110.0	103.0	26.8	円急	管III	141土と切り合う。
122	F-13・14	104.0	80.0	55.2	不整楕円急	管III・楕II	16住に切られる。
123	F-14	113.0	99.0	14.0	不整楕円急	管III	16住に切られ、坑底にビットを持つ。
124	D-18	64.0	51.0	26.0	不整楕円急	楕a	
125	D-17	61.0	53.0	11.0	楕円急	楕c	ビットを2基持つ。
126	D-17	63.0	58.0	10.0	円急	楕b	
127	D-13	84.0	69.0	91.0	不整楕円急	楕b	4住に切られる。
128	E-13・14	143.0	120.0	53.9	楕円急	管IV	石種の塊が出土。
129	E-13・14	137.0	122.0	82.0	不整楕円急	管IV・V	143土を切る。
130	E-14	143.0	140.0	81.2	不整楕円急	管IV	248土と切り合う。小型深鉢形土器が出土。
131	E-14	115.0	103.0	80.8	楕円急	楕b	130土に切られる。
132	D-13・14	91.0	77.0	39.8	楕円急	楕b	59土を切る。
133	E-14	80.0	64.0	65.0	楕円急	楕b	
134	E-14	65.0	60.0	61.0	円急	楕b	7住に切られる。
135	F-14	103.0	(75)	86.5	不整楕円急	管III	16住内、142土と切り合う。
136	F-14	49.0	48.0	21.4	円急	管III	16住内。
137	F-13・14	61.0	49.0	33.1	楕円急	管IV	16住と切り合う。
138	F・G-14	70.0	64.0	31.9	円急	楕	16住と切り合う。
139	D-13	68.0	63.0	64.0	不整楕円急	楕b	
140	欠番	—	—	—	—	—	16住の柱穴に変更。
141	F・G-14	117.0	95.0	32.4	不整楕円急	楕b	121土と切り合う。
142	F-14	80.0	62.0	27.6	不整楕円急	楕b	16住内、135土と切り合う。
143	E-16	130.0	(121)	57.0	円緩やか	楕b	129土に切られる。
144	E-16	114.0	(100)	18.0	楕円緩やか	楕b	20住、145土と切り合う。
145	E-16	(65)	55.0	11.0	円緩やか	楕b	20住、144土と切り合う。
146	E-16	(110)	48.0	23.0	楕円緩やか	楕b	20住の層間に切られる。
147	E-16	(168)	(109)	18.0	不整方楕円急	楕b	20住の層間に切られる。
148	F-16	55.0	48.0	23.0	円緩やか	管III	20住の柱穴に切られる。
149	F-16	(61)	36.0	17.0	楕円緩やか	楕b	20住内。
150	F-16	103.0	91.0	56.0	円急	楕b	20住内。
151	F-17	91.0	90.0	—	円不明	管I	20住に切られ、277土と切り合う。
152	E-14	63.0	56.0	49.0	楕円急	楕b	
153	E-14	87.0	81.0	17.0	楕円急	楕II	154土を切る。
154	E-17	97.0	90.0	41.0	円急	管IV	153土に切られる。
155	G-12	105.0	80.0	48.9	楕円急	管I	203・204土と切り合う。深鉢形土器が出土。

採掘位	位置	直径(cm)	埋込(cm)	深さ(cm)	形態	立ち上がり	時期	備	考
156	E-15	24.0	20.0	28.5	円	急			17住内。157土を切る。
157	E-15	41.0	38.0	68.0	円	急			156土に切られる。17住の伊が21住の埋塞。
158	欠番						中期		17住の柱穴に変更。
159	欠番						曾?		17住の柱穴に変更。
160	F-12	60.0	38.0	44.0	楕円	急			12住内。
161	F-12	(130)	(80)	—	楕円	不明			12住に切られる。
162	F-12	73.0	46.0	66.3	不整楕円	急			12住内。
163	欠番						諸b		12住の柱穴に変更。
164	F-13	201.0	110.0	18.0	不整楕円	緩やか			20住に切られる。深井上半部の内部に搬入。
165	E-15	91.0	60.0	19.0	楕円	急			17住の柱穴に切られる。
166	F-13	79.0	53.0	49.0	楕円	不明			11住内。
167	F-13	148.0	123.0	—	楕円	不明			122土と切り合う。
168	欠番								122住の柱穴に変更。
169	E-14	64.0	63.0	39.0	円	やや急			
170	F-14	143.0	83.0	25.0	楕円	急			
171	欠番						曾Ⅲ		17住と切り合う。
172	欠番								16住の柱穴に変更。
173	F-13	85.0	75.0	39.3	円	急			16住の柱穴に変更。
174	F-13	70.0	55.0	37.2	円	急			16住の柱穴に変更。
175	E-15	53.0	(48)	41.6	円	急			176土を切る。
176	E-15	60.0	57.0	49.0	円	急			176土に切られる。
177	欠番						曾Ⅲ		17住の柱穴に変更。
178	E-15	92.0	34.0	18.0	不整楕円	緩やか			177土と切り合う。
179	欠番						曾Ⅳ		12住の柱穴に変更。
180	F-14	125.0	103.0	25.0	不整楕円	緩やか			16住内。
181	G-12	(104)	70.0	70.0	楕円	やや急			218土に切られる。
182	G-12	96.0	88.0	44.0	円	やや急			299土と切り合う。脚付小型鉢形土器出土。
183	欠番						曾Ⅴ		16住の柱穴に変更。
184	F-13	65.0	50.0	20.0	楕円	やや急			11住内。脚付小型鉢形土器出土。
185	F-12	103.0	72.0	41.6	不整円	やや急			12住内。
187	F-12	79.0	(78)	55.7	円	急			12住の柱穴と188土と切り合う。
188	F-12	(96)	(51)	73.0	円?	急			187・189土と切り合う。
189	F-12	100.0	75.0	46.3	不整	急			188土と切り合う。
190	F-12	96.0	(95)	32.0	不整	急			189土と切り合う。
191	F-12	76.0	70.0	70.0	不明	急			217土と切り合う。坑底部より噴出土。
192	F-12	72.0	58.0	58.0	円	急			216土に切られる。
193	F-12	73.0	(64)	38.0	円	急			194土と切り合う。
194	F-12	(95)	74.0	71.0	円	急			193土と切り合う。袋状土坑。
196	F-11	(87)	100.0	87.0	不明	急			196・215土と切り合う。
197	F-11	103.0	88.0	89.0	楕円	急			195土と切り合う。
198	欠番						曾Ⅰ		1住と切り合う。
199	F-12	42.0	38.0	9.0	円	やや急			1住の柱穴に変更。
200	F-11	60.0	50.0	14.4	円	緩やか			
201	G-12	85.0	75.0	3.6	円	緩やか			袋状土坑。粘土が出土。
202	G-13	46.0	44.0	23.0	円	緩やか			228土と切り合う。
203	G-13	(105)	79.0	11.0	楕円?	不明			155土と切り合う。
204	G-13	(63)	(46)	61.0	楕円	急			155土と切り合う。
205	F-13	44.0	37.0	58.0	円	急			11住内。206土を切る。
206	F-13	48.0	31.0	51.0	楕円	急			11住内。205土に切られる。
207	F-13	77.0	56.0	8.0	楕円	緩やか			11住に切られる。
208	F-13	102.0	68.0	31.0	楕円	急			11住に切られる。
209	F-13	89.0	75.0	18.8	不整楕円	やや急			
210	F-12	95.0	65.0	53.0	楕円	急			
211	F-12	(60)	50.0	15.0	円?	急			210土と切り合う。
212	F-13	(103)	78.0	40.0	不明	やや急			11住と切り合う。脚付深鉢形土器出土。
213	F-13	21.0	19.0	22.0	円	やや急			
214	F-13	57.0	56.0	6.0	円	緩やか			
215	F-12	(75)	(50)	77.0	楕円	急			195土と切り合う。袋状土坑。
216	F-12	77.0	(60)	90.1	楕円	急			192土を切り、211土と切り合う。
217	F-12	(100)	70.0	33.0	楕円?	急			191土と切り合う。
218	G-12	99.0	92.0	50.0	円	やや急			181土を切る。
219	G-12	139.0	(95)	57.0	楕円	急			
220	G-11	87.0	76.0	44.0	円	急			東端が調査区外。
221	F-12	(80)	(70)	(37)	不明	急			191・215・216土と切り合う。
222	G-13	—	—	—	不明	不明			不明。
223	欠番						曾Ⅲ・Ⅳ		18住の柱穴に変更。
224	F-17	69.0	61.0	—	円	不明			20住の柱穴に変更。
225	欠番						諸a		
226	F-17	110.0	67.0	—	不整	不明			
227	F-17	71.0	53.0	—	楕円	不明			
228	G-13	116.0	85.0	41.3	楕円	緩やか			151土と切り合う。
229	G-12	(121)	(114)	61.8	楕円	急			12住の柱穴と202土と切り合う。
230	G-12	(95)	80.0	52.0	楕円	やや急			182・230・231土と切り合う。
231	G-12	(80)	70.0	79.0	楕円	急			229・231土と切り合う。
232	G-12	(25)	(20)	4.5	円	緩やか			229・230土と切り合う。
233	G-12	70.0	35.0	32.8	楕円	急			232土と切り合い、234土に切られる。
234	G-12	203.0	119.0	121.0	不整円	やや急			19住に切られる。
235	G-12	(115)	105.0	40.0	不整	急			234土に切られる。
236	F-11	89.0	32.0	56.0	不整	急			
237	E-17	131.0	113.0	—	円	不明			20住内。北部にビットあり。
238	E-17	140.0	88.0	—	楕円	不明			20住に切られる。
239	欠番						諸b		20住の柱穴に変更。
240	F・G-17	(90)	(65)	—	楕円	不明			
241	E-17	37.0	29.0	—	円	不明			
242	欠番								20住内。
243	F-17	119.0	102.0	—	円	不明			20住の柱穴に変更。
244	E-18	(125)	90.0	31.6	不整楕円	緩やか			20住と切り合う。
245	E-18	174.0	90.0	42.0	不整楕円	緩やか			不明。
247	G-19	115.0	107.0	54.9	不整	急			E-18-13-15土、17土などと切り合う。
248	E-14	75.0	57.0	8.2	楕円	やや急			G-19土と切り合う。
249	E-18	150.0	115.0	84.0	不整	急			南東部が調査区外。深鉢形土器の口縁が逆位で出土。
							曾Ⅴ		130土と切り合う。40cm大の円礫出土。
							諸b		22住、9土などと切り合う。小礫多数出土。

	土坑番号	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	形態	立ち上がり	時期	備考
1	D-19-1	115.0	79.0	21.6	不整削り	やや急		D-18-7土と切り合う。
2	D-19-2	65.0	—	32.6	円?	急		北西部が調査区外。
3	D-19-3	46.0	45.0	22.6	円	急		D-19-4土と切り合う。
4	D-19-4	123.0	80.0	40.2	楕円	急		D-18-6・D-19-3土と切り合う。
5	D-19-5	155.0	54.0	35.9	楕円	急		
6	D-18-2	110.0	75.0	23.3	不整削り	やや急		D-18-9土と切り合う。
7	D-18-3	115.0	73.0	19.9	不整削り	急		北西部にビットあり。
8	D-18-4	71.0	(40)	17.2	楕円	急		245土とD-19-13切り合う。
9	D-18-5	68.0	30.0	19.6	楕円	急		
10	D-18-6	90.0	55.0	29.8	不整削り	急		D-19-4土と切り合う。中央と西部にビット。
11	D-18-7	50.0	43.0	25.5	楕円	急		D-19-1土と切り合う。
12	D-18-8	55.0	54.0	25.5	円	急		
13	D-18-9	116.0	74.0	35.9	不整削り	急		D-18-2・10土と切り合う。東部にビット。
14	E-18-10	(80)	72.0	13.1	楕円	急		D-18-9・11土と切り合う。
15	D-18-11	(40)	30.0	15.6	不整削り	急		D-18-10土と切り合う。
16	D-18-12	40.0	15.0	17.8	不整削り	急		2基の土坑が合体。
17	D-18-13	(40)	26.0	11.5	楕円?	急		D-18-4・E-18-13土と切り合う。
18	D-18-14	27.0	24.0	31.7	円	急		
19	D-18-15	25.0	23.0	22.1	円	急		
20	D-18-16	25.0	23.0	19.5	円	急		
21	D-18-17	25.0	24.0	29.8	円	急		
22	D-18-18	32.0	30.0	26.8	円	急		
23	D-18-19	38.0	36.0	24.4	円	急		14土と切り合う。
24	D-17-1	60.0	65.0	9.0	不整削り	緩急		現土を伴う。野外か?
25	E-19-1	83.0	87.0	18.5	不整削り	急		E-19-5土と切り合う。
26	E-19-2	(48)	41.0	14.2	楕円?	急		北西部が調査区外。
27	E-19-3	50.0	(50)	13.3	円?	急		E-19-4土と切り合う。北西部が調査区外。
28	E-19-4	(34)	34.0	11.4	不整削り	急		E-19-5土と切り合う。
29	E-19-5	(73)	34.0	13.4	不整削り	急		2基の土坑が合体。北端が調査区外。
30	E-19-6	(60)	45.0	15.7	楕円	急		E-19-1土と切り合う。
31	E-19-7	(35)	34.0	10.6	楕円	急		E-19-2土と切り合う。
32	E-19-8	(54)	30.0	11.2	楕円?	急		E-19-1土と切り合う。
33	E-19-9	(39)	38.0	21.8	円	急		E-19-10土と切り合う。
34	E-19-10	25.0	(20)	2.5	円?	緩		E-18-6・E-19-9土と切り合う。
35	E-19-11	(38)	31.8	16.9	楕円	急		E-18-4・5土と切り合う。筑底部のビット。
36	E-19-12	33.0	30.0	16.9	円	急		
37	E-19-13	58.0	30.0	18.8	不整削り	急		2基の土坑が合体。
38	E-19-14	46.0	42.0	32.4	不整削り	急		
39	E-19-15	38.0	35.0	21.4	円	急		
40	E-19-16	40.0	(40)	14.4	円	急		E-18-1土と切り合う。
41	E-19-17	(38)	(35)	21.1	不整削り	急		E-18-3・E-19-11土と切り合う。
42	E-19-18	36.0	29.0	19.9	不整削り	急		E-19-5土と切り合う。
43	E-19-19	56.0	(50)	13.8	不整削り	急		E-18-7・8・E-19-10土と切り合う。
44	E-19-20	43.0	42.0	13.4	長楕円	急		E-18-6・8土と切り合う。
45	E-19-21	(120)	(75)	14.8	不整削り	急		E-18-6・9土と切り合う。
46	E-19-22	92.0	81.0	22.5	円	急		E-18-2土と切り合う。
47	E-19-23	(70)	42.0	21.8	不整削り	急		E-19-1土と切り合う。
48	E-19-24	75.0	70.0	18.9	楕円	急		北端が傾乱。
49	E-19-25	39.0	38.0	14.9	円	急		E-19-13土と切り合う。
50	E-19-26	(86)	70.0	21.9	不整削り	急		245土と切り合う。筑底中央にビット。
51	E-19-27	(30)	25.0	9.0	不整削り	急		245土と切り合う。
52	E-19-28	(29)	25.0	13.0	円	急		245土と切り合う。
53	E-19-29	30.0	26.0	9.8	楕円	急		245土と切り合う。
54	E-19-30	(80)	(45)	24.7	楕円	急		
55	E-19-31	63.0	62.0	39.0	円	急		
56	E-19-32	35.0	33.0	8.2	円	急		E-18-22土と切り合う。
57	E-19-33	35.0	33.0	20.8	円	急		筑底にビット。
58	E-19-34	33.0	31.0	9.2	楕円	急		
59	E-19-35	26.0	24.0	10.3	円	急		E-18-19土と切り合う。
60	E-19-36	49.0	41.0	14.1	円	急		
61	E-19-37	42.0	33.0	17.8	楕円	急		
62	E-19-38	29.0	26.0	15.5	楕円	急		
63	E-19-39	132.0	107.0	21.3	円	急		E-18-27土と切り合う。中央付近にビット。
64	E-19-40	55.0	(48)	11.5	楕円	急		E-18-26・28土と切り合う。
65	E-19-41	71.0	62.0	30.3	不整削り	急		E-18-27土と切り合う。
66	E-19-42	43.0	37.0	14.6	円	急		
67	E-19-43	35.0	32.0	20.4	円	急		
68	E-19-44	37.0	34.0	30.3	円	急		西端が傾乱。
69	F-19-1	122.0	112.0	36.2	円	急		E-18-5・10土と切り合う。
70	F-19-2	44.0	37.0	36.3	円	急		
71	F-19-3	50.0	36.0	8.3	不整削り	緩急		
72	F-19-4	(40)	(40)	14.8	円	急		北西部が調査区外。
73	F-19-5	(30)	(28)	15.8	円	急		北西部が調査区外。
74	F-19-6	82.0	(40)	27.5	不整削り	緩急		北西部が調査区外。
75	F-19-7	20.0	18.0	6.2	楕円	急		249土と切り合う。
76	F-19-8	48.0	41.0	42.6	円	急		中央付近にビット。
77	F-19-9	30.0	29.0	23.5	円	急		築状土坑。
78	F-19-10	41.0	42.0	11.5	楕円	急		F-18-5・F-19-11土と切り合う。
79	F-19-11	58.0	50.0	9.8	円	急		F-18-5・F-19-5土と切り合う。
80	F-19-12	(60)	45.0	8.8	円	急		F-18-6・F-19-13土と切り合う。
81	F-19-13	59.0	48.0	20.0	円	急		F-18-6・F-19-12土と切り合う。
82	F-19-14	45.0	43.0	23.8	楕円	急		F-18-6・F-19-13土と切り合う。
83	F-19-15	(30)	30.0	10.0	円?	急		F-18-7・F-19-14土と切り合う。
84	F-18-1	80.0	(75)	11.6	円	急		F-18-2土と切り合う。
85	F-18-2	24.0	21.0	11.6	楕円	急		F-18-4土と切り合う。
86	F-18-3	24.0	18.0	13.9	不整削り	急		F-18-4土と切り合う。
87	F-18-4	(55)	(40)	11.0	不整削り	急		F-18-2・3・11土と切り合う。
88	F-18-5	(80)	(80)	16.1	円?	急		F-19-1・10・11土と切り合う。
89	F-18-6	(115)	(105)	12.5	円?	急		F-18-6土と切り合う。
90	F-18-7	95.0	78.0	19.8	不整削り	急		249土と切り合う。
91	F-18-8	30.0	25.0	16.5	不整削り	急		E-18-6土と切り合う。
92	F-18-9	155.0	138.0	13.8	不整削り	急		249土と切り合う。筑底に4つのビット。
93	F-18-10	32.0	30.0	21.0	円	急		13位と切り合う。
94	F-18-11	30.0	32.0	14.2	楕円	急		F-18-6土と切り合う。
95	F-18-12	40.0	40.0	9.0	楕円	急		13位とF-18-14土と切り合う。
96	F-18-13	26.0	23.0	13.3	不整削り	急		F-18-4・14土と切り合う。
97	F-18-14	55.0	50.0	22.1	円	急		F-18-13・14土と切り合う。
98	F-18-15	35.0	28.0	35.1	楕円	急		F-18-6・16土と切り合う。
99	F-18-16	30.0	26.0	19.7	円	急		F-18-15土と切り合う。
100	F-18-17	36.0	30.0	37.1	円	急		F-18-22土と切り合う。
101	F-18-18	43.0	38.0	16.5	楕円	急		13位。F-18-20土と切り合う。
102	F-18-19	28.0	28.0	15.3	円	急		22位。F-18-18土と切り合う。
103	F-18-20	(47)	38.0	6.3	楕円?	急		13位。F-18-18・19・21土と切り合う。
104	F-18-21	36.0	27.0	29.2	楕円	急		22位。F-18-20土と切り合う。
105	F-18-22	(85)	80.0	18.9	不整削り	急		13位。F-18-1・17土と切り合う。
106	F-19-1	60.0	45.0	10.9	不整削り	急		246土と切り合う。
107	F-19-2	120.0	(120)	23.2	円	急		G-19-13土と切り合う。
108	F-19-3	111.0	(70)	30.9	不整削り	急		246土・G-19-12土と切り合う。

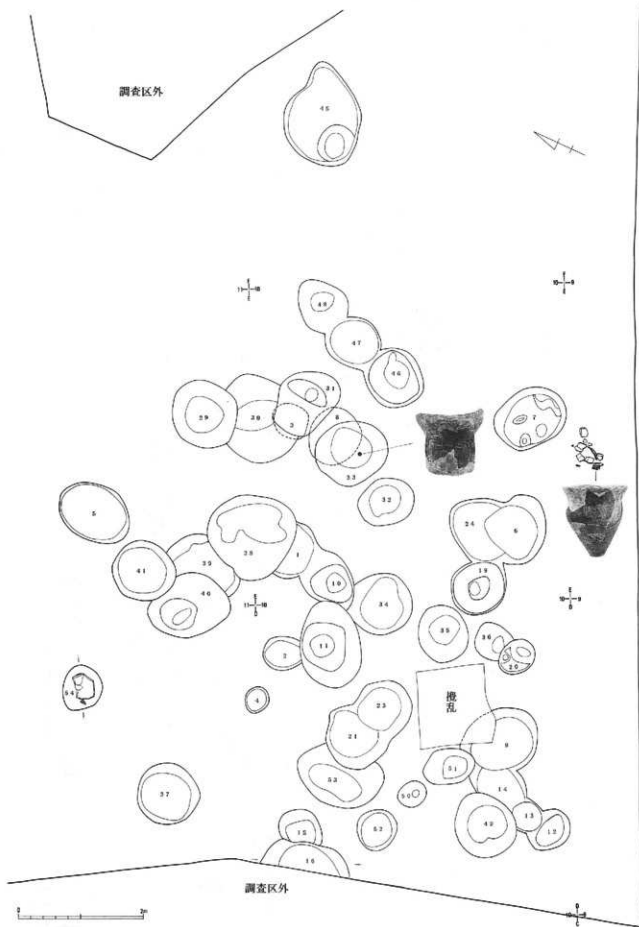


- 245土坑
 1-黄褐色土層(炭化物・ローム粒子微量。5mm-1cm大のロームブロック少量含む)
 2-灰茶褐色土層(粘土・炭化物微量含む)
 3-灰褐色土層(粘土・ローム粒子・5mm大のロームブロック微量含む)
 4-黄褐色土層(炭化物・ローム粒子微量含む)
 5-暗黄褐色土層(炭化物微量含む)
 6-灰茶褐色土層(炭化物少量・1cm大ロームブロック微量含む)
 7-暗褐色土層
 8-淡黄褐色土層(炭化物微量含む)
 9-暗茶褐色土層(炭化物少量含む)
 19-灰褐色土層
 11-暗黄褐色土層

- 246土
 1-灰茶褐色土層(粘土・炭化物少量含む)
 2-灰褐色土層(粘土・炭化物・ローム粒子・5mm-1cm大ロームブロック少量含む)
 3-灰褐色土層(粘土・炭化物・炭化物少量。1cm大ロームブロックやや多く含む)
 4-灰褐色土層(粘土・炭化物・炭化物。1-3cm大ロームブロック少量含む)
 5-黄褐色土層(炭化物微量。ローム粒子少量含む)
 6-灰褐色土層(粘土・炭化物微量含む)

調査区外

第43図 B区 土坑・G-9-10 グリッド



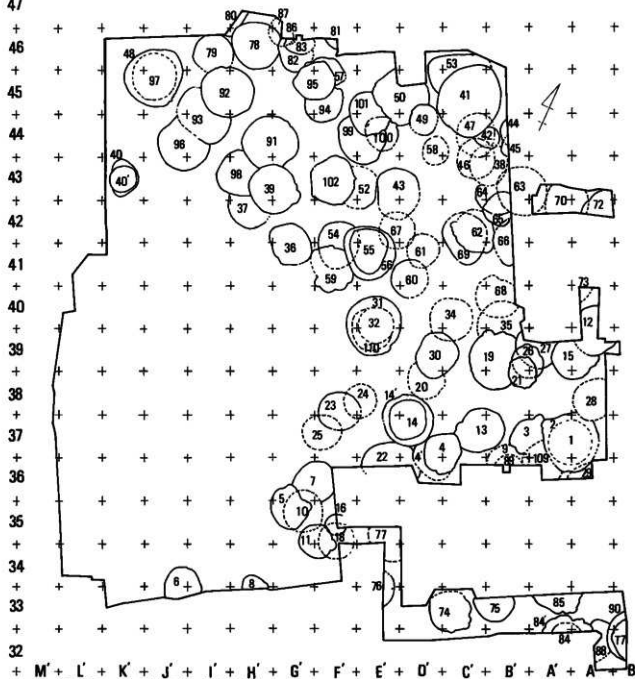
第44図 B区 D・E・F-10-11グリッド

第3節 C区の調査概要

本区は8つの区の中で最も北に位置している。調査面積は約3200㎡である。

発見された遺構は、住居跡が縄文時代前期前半の中越式期1軒、同後半の諸磯b式期1軒、中期前半の五領ヶ台Ⅱ式期11軒、同貉沢式期18軒、同新道式期9軒、同藤内Ⅰ式10軒、同藤内Ⅱ式期8軒、同藤内Ⅲ式期不明2軒、同井戸尻Ⅰ式期2軒、同井戸尻Ⅱ式期7軒、同井戸尻Ⅲ式期(Ⅱ～Ⅲ式期を含む)22軒、同井戸尻式期不明3軒、中期後半の曾利Ⅰ式期1軒、同曾利Ⅳ式期2軒、同曾利Ⅴ式期3軒、縄文時代時期不明3軒、古墳時代前期初頭11軒の合計114軒である。また縄文時代中期前半のもので改築があるものは10軒を数える。古墳時代前期初頭の掘立柱建物跡が9軒、土坑は(柱穴状のものも含む)縄文時代前期後半の諸磯b式期から中期後半の曾利Ⅴ式期に属するものが約2400基、中期後半の曾利式期に属する野外炉1基、中期前半の井戸尻式期に属すると考えられる集石遺構1基、戦時遺構と考えられるものは6基認められる。時期的に大別すると縄文時代前期の中越期・諸磯期、中期の五領ヶ台期、貉沢期、新道期、藤内期、井戸尻期、曾利期の8期にわたって、集落が営まれていることが理解できる。特に五領ヶ台から井戸尻式期に関しては、環状化した集落の一部を垣間見ることができる。

47



第45図 C区 住居跡位置図(縄文時代)

第1項 住居跡

(縄文時代)

調査区北側部分の台地縁辺部に住居跡が集中していることが全体図(第43図)を見ると理解できるが、この居住域は環状に広がる集落の一部で、時期的には中期前半の五領ヶ台式から井戸尻式期に位置づけられるものである。またこれとは別に調査区の南部に散在する住居跡は、主に台地の南側に広がる中期後半に位置づけられるものである。このように中期を主体とする集落跡が交わるように存在する状況がわかる。

第24・25号住居跡のように柱穴しか確認できず円形柱穴列遺構状のものや、第89号住居跡のように黒色土層中に構築されたため、炉穴しか確認できなかったものもあるが、発見された住居跡の大部分のものについては良好な状態で検出することができた。しかし攪乱や遺構どうしの切り合いなどといった重複関係から施設やプランが破壊されているものも多い。

特色あるものについて以下に述べる。遺物の出土状況では、第1・41・48・78号住居跡で覆土から多量の遺物が出土する井戸尻パターンで示している。また若干規模は落ちるがそれでも遺物が多く出土したものに、第3・11・12・15・19・60・79・95号住居跡を挙げることができる。異系統土器の伴出関係では、第9号住居跡から焼町類型の土器が、第27・32・74・101号住居跡から平出Ⅲ類A系土器、第48号住居跡からは蓮華文を持つ新崎式系土器が在地の土器に混じって出土している。施設的な面では、炉の上に土器を伏せたり祭祀的な行為が窺えるものに、第4・40・79・101・102号住居跡がある。土偶や石棒を伴う屋内配石が確認できるものに第48・91号住居跡を挙げることができる。

第1号住居跡 (第46・47図)

(位置) 調査区の東側、A・A'-37グリッドに位置している。

(重複・改築) 第2号住居跡と重複する。第3・28・29・109号住居跡と切り合う。

(形態・規模) 形態は楕円形を呈するものと考えられ、長径は推定で6.00m、短径は4.50mを測る。本跡は第2号住居跡の内側に構築されている。中央部分に攪乱が見られる。

(壁・周溝) 壁は土層断面で33cmを測るが、第2号住居跡を切って構築されているため、平面的には確認できない。周溝はない。

(柱穴) 主柱穴と考えられるものは7本存在するものと考えられるが、攪乱と土坑との切り合いにより4本しか確認できなかった。ピット1は径47.0×38.0、深さ74.0cm、ピット2は径79.0×40.0、深さ57.5cm、ピット4は径42.0×37.0、深さは49.5cm、ピット5は径58.0×52.0、深さ72.0cmを測る。

(炉) 住居のほぼ中央部に石囲炉が存在し、規模は径が68.0×65.0、深さ31.5cmを測る。また炉の周辺には、焼土が144.0×89.0cmの範囲に広がっている。炉の北側には埋壘が存在する。

(時期) 縄文時代中期前半の藤内Ⅱ式期。

(出土遺物) 中央付近から多量の土器が集中して出土している。遺物は主に覆土中であり、井戸尻パターンの様相を示している。土器が約20個体の他、土偶が3点出土している。

第2号住居跡 (第46・47図)

(位置) 調査区の東側、A・A'-37グリッドに位置している。

(重複・改築) 第1号は住居跡と重複する。第3・28・29・109号住居跡と切り合う。

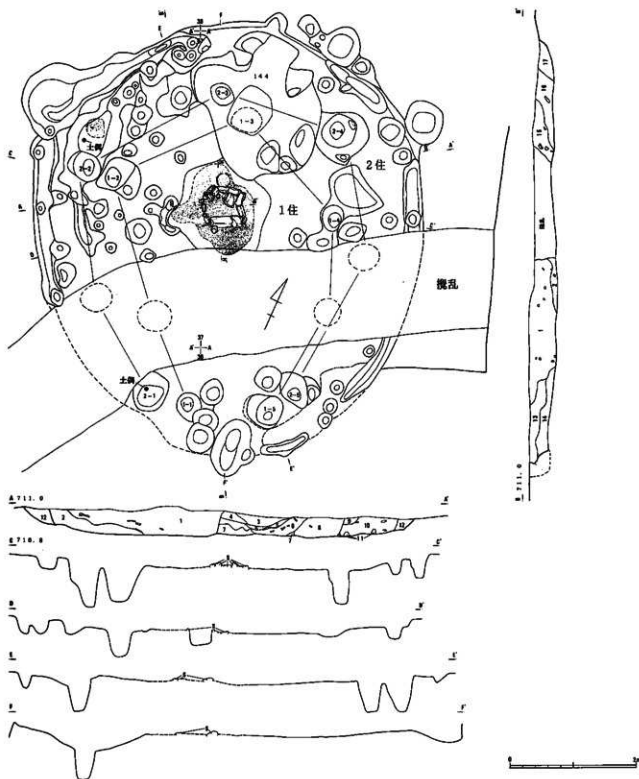
(形態・規模) 形態は楕円形を呈し、南側が入口部と考えられる。規模は長径6.86m、短径は6.19mを測る。中央部分に攪乱が見られる。

(壁・周溝) 壁は17.5～32.5cmを測る。周溝は断続的に存在し、幅は20～30cm、深さは10～20cm程度を測る。

(柱穴) 主柱穴と考えられるものは7本存在するものと考えられるが、確認できたのは5本である。ピット1は径64.0×50.0、深さ66.0cm、ピット2は径53.0×40.0、深さ63.0cm、ピット3は径42.0×32.0、深さ48.5cm、ピット4は径57.0×50.0、深さは78.5cm、ピット5は径65.0×44.0、深さ65.0cmを測る。

(炉) 第1号住居跡により破壊されているため不明。

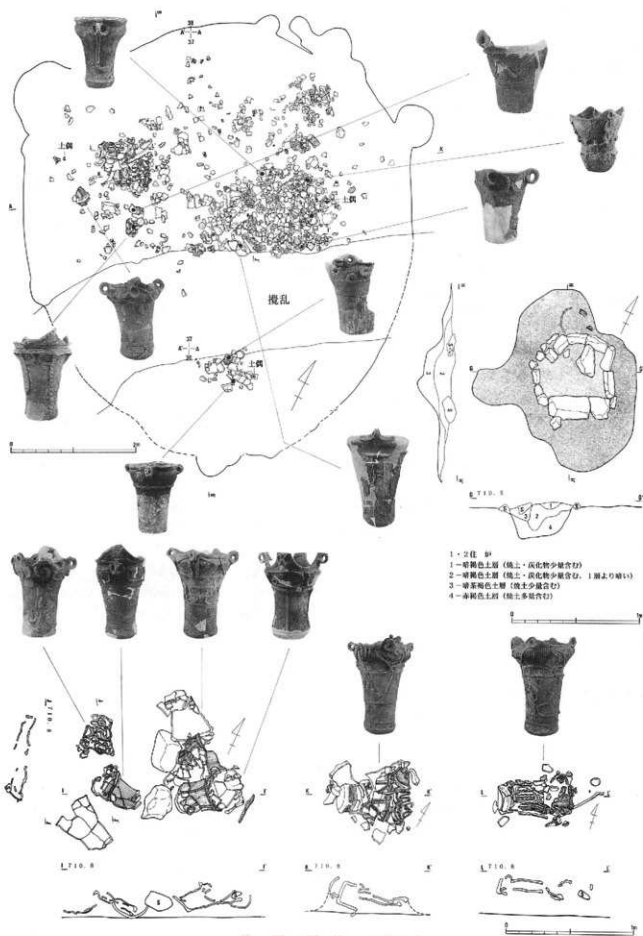
(時期) 縄文時代中期前半の藤内Ⅰ式期。



- 1・2住
 1-暗褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック多量含む)
 2-暗褐色土層 (炭化物少量、1m大のロームブロック多量含む)
 3-茶褐色土層 (1m大のロームブロック多量含む、茶褐色土層入)
 4-暗茶褐色土層 (3m大のロームブロック少量含む、茶褐色土層入)
 5-暗茶褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む)
 6-暗褐色土層 (粘土・5m大のロームブロック少量含む)
 7-茶褐色土層 (1m大のロームブロック多量含む)
 8-暗褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
 9-暗茶褐色土層 (炭化物少量含む)
 10-暗茶褐色土層 (1~5m大のロームブロック少量含む、暗褐色土層入)

- 11-黄褐色土層
 11-明茶褐色土層 (5m大のロームブロック少量含む)
 11-暗褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
 11-暗褐色土層 (炭化物・5m大のロームブロック少量含む、11層より明るい)
 11-暗褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
 11-暗褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む、11層より明るい)
 11-暗褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む、11層より明るい)

第46図 C区 第1・2号住居跡(1)



(出土遺物) 第1号住居跡と重複しているため、ほとんど遺物は残っていない。ピット1内と、ピット2の北側に位置する焼土集中部分から土偶が出土している。

第3号住居跡 (第48図)

(位置) 調査区の東側、A・B'-37グリッドに位置している。

(重複・改築) 第1・2・9・109号住居跡と切り合っている。

(形態・規模) 形態は円形を呈しているものと考えられる。規模は推定で長径4.65m、短径4.60mを測る。東部が擾乱を受けている。入口は南側と推定される。

(壁・周溝) 壁は緩やかに立ち上がり、北側で25cmを測る。周溝状のものが北側で不規則に残っており、幅20cm、深さ15cmを測る。

(柱穴) 柱穴と考えられるものは4本である。ピット1は径36.0×30.0、深さ42.0cm、ピット2は径25.0×25.0、深さ45.0cm、ピット3は径57.0×37.0、深さ49.0cm、ピット4は径25.0×22.0、深さ65.1cmを測る。

(炉) 住居跡のほぼ中央に地床炉が認められ、規模は径120×100cm、深さ40cmを測る。

(時期) 縄文時代中期前半の猪沢式期。

(出土遺物) 深鉢形土器などが4個体の他、白色顔料が塗布された土偶が1点出土している。

第4号住居跡 (第50・51図)

(位置) 調査区の中央東側、C・D'-37グリッドに位置している。

(重複・改築) 第4号住居跡と重複する。第13・14号住居跡と接触する。

(形態・規模) 形態は不整形円形を呈するものと考えられ、規模は長径4.93m、短径4.02mを測る。入口部は南側と推定される。

(壁・周溝) 壁は急に立ち上がり、20～33cmを測る。周溝は南側の入口部と考えられる部分が切れる他、断続的存在し、幅10～20cm、深さ5～10cmを測る。

(柱穴) 主柱穴は5本認められる。ピット1は径70.0×55.0、深さ47.5cm、ピット2は径50.0×47.0、深さ70.3cm、ピット3は径50.0×45.0、深さ60.7cm、ピット4は径71.0×40.0、深さ58.8cm、ピット5は径55.0×53.0、深さ50.0cmを測る。

(炉) 住居跡のほぼ中央付近に地床炉(I-I')が存在する。規模は径73×63cm、深さ25cmを測る。

(埋壘) 北西部に野外埋壘(L-L')が存在する。土坑状の掘り方の中に径45cm×深さ32cmの掘り込みがあり、ここに深鉢形土器の胴部が埋設されている。またこの上部からは、横位の深鉢形土器が出土している。

(時期) 縄文時代中期前半の藤内I式期。第4号住居跡より古い。

(出土遺物) 大部分が第4号住居跡に伴っているものと考えられる。

第4号住居跡 (第50・51図)

(位置) 調査区の中央東側、C・D'-37グリッドに位置している。

(重複・改築) 第4号住居跡と重複している。第14号住居跡と接触する。

(形態・規模) 形態は円形を呈し、規模は推定で長径が5.40m、短径は4.75mを測る。

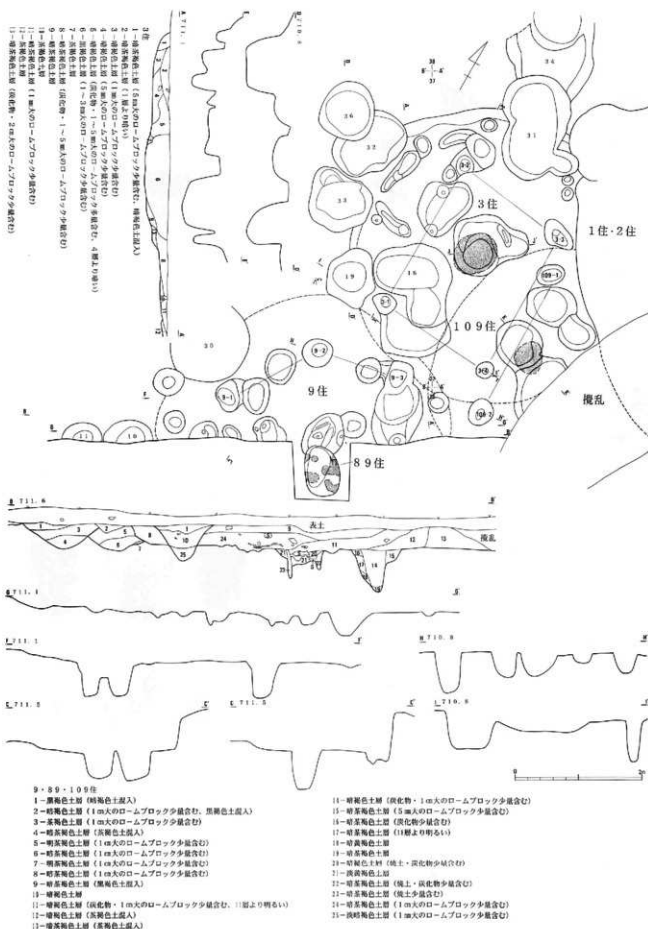
(壁・周溝) 壁はセクション面で30cmを測る。周溝は南部で部分的に残り、幅20cmで、深さ5cmを測る。

(柱穴) 主柱穴と考えられるものは5本で、ピット6は径61.0×53.0、深さ46.4cm、ピット7は径23.0×22.0、深さ72.2cm、ピット8は径71.0×55.0、深さ46.3cm、ピット9は径45.0×37.0、深さ42.0cm、ピット10は径62.0×55.0、深さ40.3cmを測る。

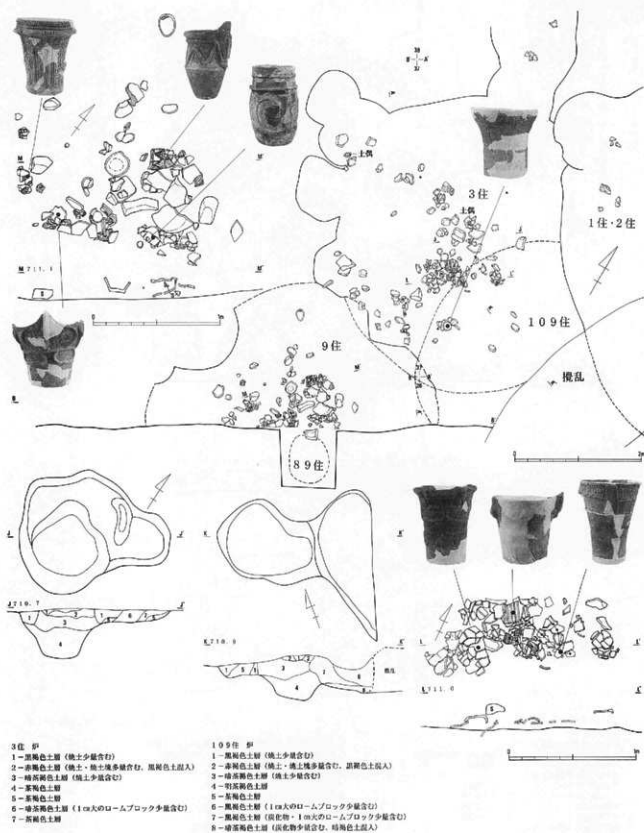
(炉) 中央北寄りに埋壘炉が存在する。掘り方の規模は径103×100cm、焼土の分布が70×60cmの範囲で見られ、深鉢の口縁部のみが埋設されている。

(時期) 縄文時代中期前半の藤内I式期。第4号住居跡より新しい。

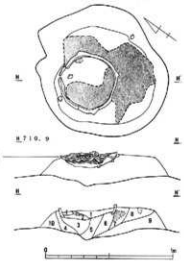
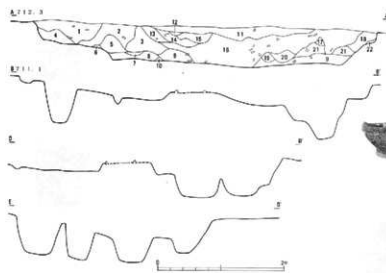
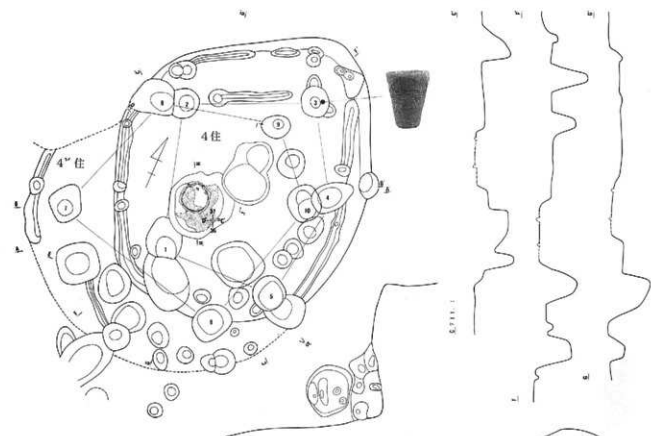
(出土遺物) 炉の周辺に遺物が集中している。ピット1上(J-J')からは深鉢が、板状礫によって潰された状態で出



第48図 C区 第3・9・89・109号住居跡(1)



第49図 CIX 第3・9・89・109住居跡(2)



4・4'住

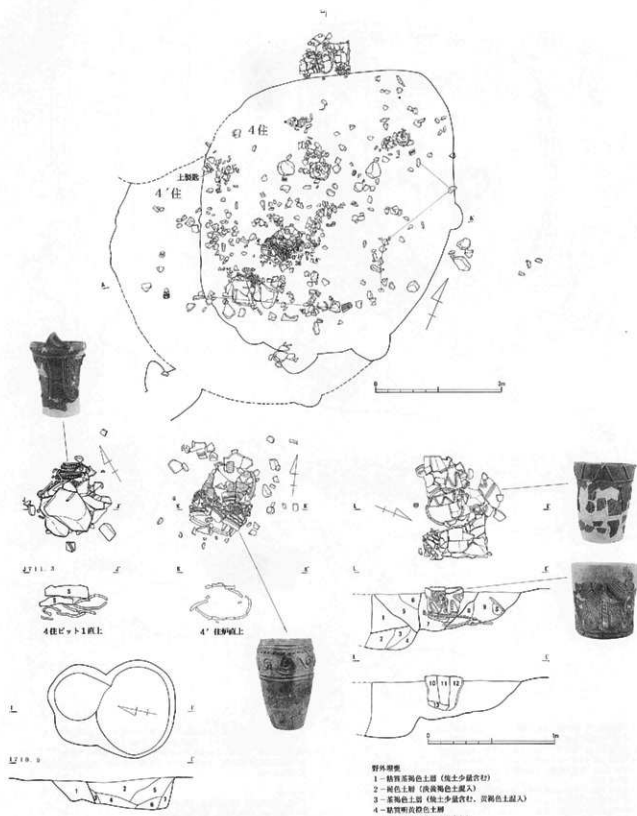
- 1-暗茶褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック多量含む)
- 2-暗茶褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック多量含む)
- 3-暗茶褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック多量含む)
- 4-暗褐色土層 (1m~5m大のロームブロック多量含む)
- 5-暗褐色土層 (炭化物多量, 1m大のロームブロック少量含む)
- 6-茶褐色土層
- 7-茶褐色土層 (1~5m大のロームブロック多量含む)
- 8-暗茶褐色土層 (炭化物・1~3m大のロームブロック多量含む)
- 9-暗茶褐色土層 (炭化物・1m~1m大のロームブロック多量含む)
- 10-茶褐色土層 (3m大のロームブロック少量含む)
- 11-暗茶褐色土層 (炭化物少量, 1m大のロームブロック少量含む)
- 12-暗茶褐色土層
- 13-暗茶褐色土層
- 14-暗茶褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 15-暗褐色土層 (炭化物少量含む)
- 16-暗褐色土層 (粘土・炭化物多量含む)
- 17-暗茶褐色土層 (炭化物少量含む)

- 18-暗茶褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む, 1層より薄い)
- 19-暗茶褐色土層 (炭化物・1~5m大のロームブロック多量含む)
- 20-暗褐色土層 (炭化物・2m大のロームブロック少量含む, 1層より薄い)
- 21-暗茶褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む, 1層より薄い)
- 22-茶褐色土層

4住 中

- 1-暗茶褐色土層 (粘土多量, 炭化物少量含む)
- 2-茶褐色土層 (粘土多量, 炭化物少量含む)
- 3-暗茶褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 4-茶褐色土層 (粘土・1m大のロームブロック少量含む)
- 5-暗茶褐色土層 (粘土・1m大のロームブロック少量含む)
- 6-茶褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 7-茶褐色土層 (粘土多量含む, 6層より薄い)
- 8-茶褐色土層 (粘土多量, 炭化物少量含む)
- 9-茶褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 10-暗茶褐色土層 (粘土・1m大のロームブロック少量含む)

第50図 C区 第4・4'号住居跡(1)



- 4'住
- 1- 赤褐色土層 (粘土・炭化物・5m人のロームブロック多量含む)
 - 2- 赤褐色土層 (粘土・炭化物・5m~1m人のロームブロック多量含む)
 - 3- 赤褐色土層 (粘土・1m人のロームブロック少量含む)
 - 4- 赤褐色土層 (粘土少量、炭化物・1m人のロームブロック多量含む)
 - 5- 赤褐色土層 (粘土少量、炭化物・5m~1m人のロームブロック多量含む)
 - 6- 赤褐色土層 (粘土・炭化物・1m人のロームブロック少量含む)
 - 7- 赤褐色土層 (1m人のロームブロック少量含む)

- 野外発掘
- 1- 赤褐色土層 (粘土少量含む)
 - 2- 褐色土層 (赤褐色土層入)
 - 3- 赤褐色土層 (粘土少量含む、赤褐色土層入)
 - 4- 赤褐色土層
 - 5- 褐色土層 (粘土少量含む)
 - 6- 赤褐色土層
 - 7- 赤褐色土層 (炭化物少量含む)
 - 8- 赤褐色土層 (炭化物土層入)
 - 9- 赤褐色土層 (明褐色土層入)
 - 10- 赤褐色土層 (明褐色土層入)
 - 11- 赤褐色土層 (炭化物少量含む)
 - 12- 赤褐色土層
 - 13- 赤褐色土層 (炭化物少量含む、明褐色土層入)

第51図 C区 第4'号住居跡(2)

土しており、特殊な遺構の可能性もある。また炉の上部(K-K)から深鉢が横位で出土しており、これは炉の使用を完了する際の儀式的なものとして捉えられよう。土製匙が出土。

第5号住居跡（第52図）

（位置）調査区の南側、G-35・36グリッドに位置している。

（重複・改築）第7・10号住居跡と重複する。

（形態・規模）形態は楕円形を呈するものと考えられる。規模は長径が5.20m、短径は推定で4.10mを測る。複数の土坑に切り込まれている。

（壁・周溝）壁はやや急で、深さは最大で27cmを測る。周溝は西側に残り、幅30cmで、深さ17cmを測る。

（柱穴）支柱穴と考えられるものは4本であるが、規模が一定でないため確証がない。ピット1は径45.0×45.0、深さ70.0cm、ピット2は径が不明で、深さ18.4cm、ピット3は径が不明で、深さ50.6cm、ピット4は径50.0×44.0、深さ28.4cmを測る。

（炉）石囲炉と考えられるが、石組が外され配列が不規則である。規模は径102×90cm、深さが46.4cmを測る。内部に焼土が、59×57cmの範囲に見られる。

（時期）縄文時代中期後半の曾利Ⅳ式期。

（出土遺物）ピット1の北側から台石が出土しているが、土器は破片資料が主体である。

第6号住居跡（第53図）

（位置）調査区の南端、I・J-33・34グリッドに位置している。

（重複・改築）なし。

（形態・規模）形態は円形を呈するものと考えられ、長径は4.45m、短径は現存値で1.55mを測る。南側約1/3が調査区外。

（壁・周溝）壁はやや急な立ち上がりを示し、深さが17cmを測ることができる。周溝は西部で切れる以外は全周し、幅20～30cm、深さ5～18cmを測る。

（柱穴）確認した支柱穴は5本である。ピット1は径69.0×63.0、深さ80.0cm、ピット2は径71.0×47.0、深さ59.0cm、ピット3は径64.0×53.0、深さ76.9cm、ピット4は径65.0×60.0、深さ74.2cm、ピット5は径40.0×(22)、深さ49.0cmを測る。

（炉）地床炉が認められ、規模は径155×115、深さは37cmを測る。台石状のものが存在する。

（時期）縄文時代中期後半の曾利Ⅰ式期。

（出土遺物）遺物は炉周辺から破片類を中心に出土している。

第7号住居跡（第54・55図）

（位置）調査区の南側、F・G-36グリッドに位置している。

（重複・改築）第5・10号住居跡と重複する。

（形態・規模）住居跡の一部が調査区外に位置する。形態は円形を呈するものと考えられ、長径は約6.40m、短径も現存値で5.00mを測る。土坑が多数切り合っている。

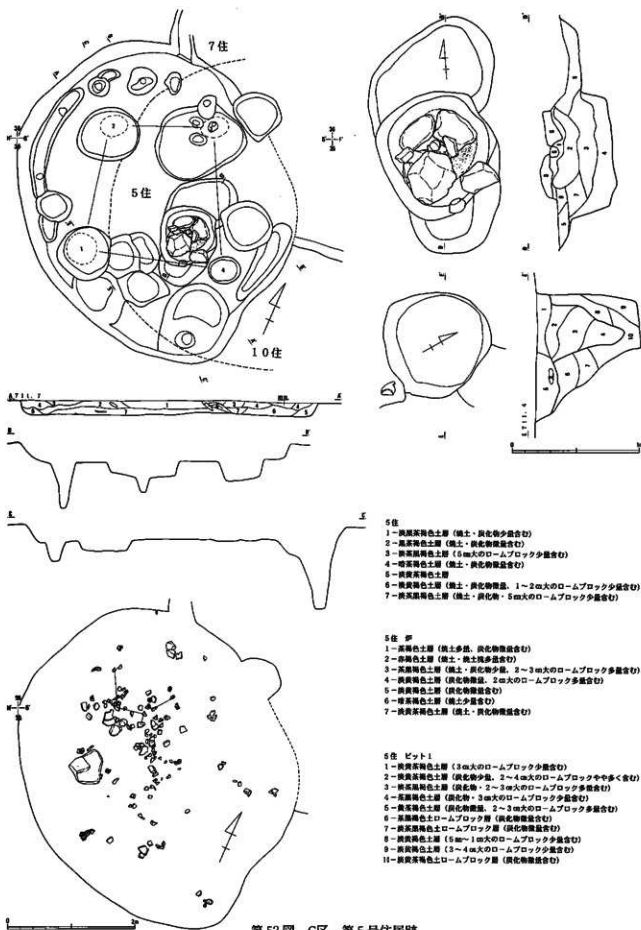
（壁・周溝）壁は西部で緩やかな立ち上がりを示し、約26cmを示し、約26cmを測る。周溝は西から南側にかけて存在し、幅20～40、深さ15cmを測る。

（柱穴）柱穴と考えられるものは4本で、ピット1は径85.0×75.0、深さ34.4cm、ピット2は径50.0×37.0、深さ30.8cm、ピット3は径59.0×50.0、深さ26.0cm、ピット4は径90.0×70.0、深さ43.3cmを測る。

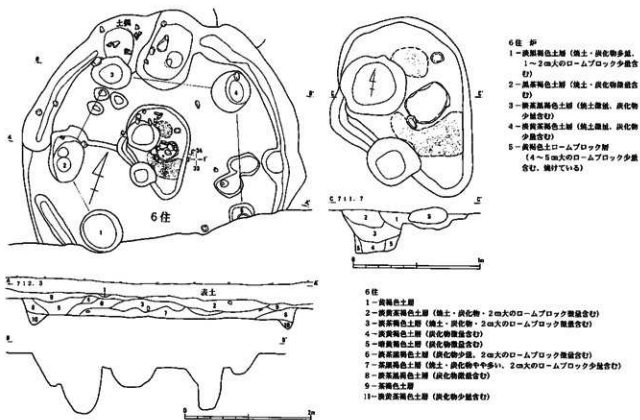
（炉）フラスコ土坑と重複して地床炉が存在する。規模は径163×115、深さは63.5cmを測る。

（時期）縄文時代中期後半の曾利Ⅴ式期。

（出土遺物）南側に集石土坑(I-I)が存在する。破片類が主体であるが、欠損したし垂飾未製品が出土した。



第52図 C区 第5号住居跡



第53図 C区 第6号住居跡

第8号住居跡 (第55図)

(位置) 調査区の南端、H'-33・34グリッドに位置している。

(重複・改築) なし。

(形態・規模) 住居跡の南側約1/2が、調査区外に位置する。形態は円形と推定、長径は3.00m、短径は現存値で1.60mを測る。

(壁・周溝) 壁はやや急で、10~20cmを測る。周溝なし。

(柱穴) 主柱穴と考えられるものは、2本存在する。ビット1は径50.0×43.0、深さ40.2cm、ビット2は径45.0×44.0、深さ28.1cmを測る。

(炉) 調査区外に存在するものと考えられる。

(時期) 縄文時代中期前半の藤内式期。

(出土遺物) 破片類のみ少量出土。

第9号住居跡 (第48・49図)

(位置) 調査区の東側の、A'・B'-36・37グリッドに位置している。

(重複・改築) 第19・85・109号住居跡と重複している。

(形態・規模) 住居跡の南側が1/2が調査区外。形態は円形と推定。径は推定で4.70mを測る。

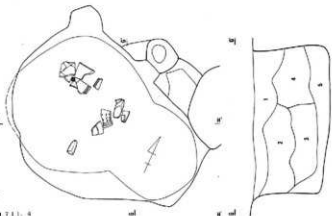
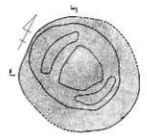
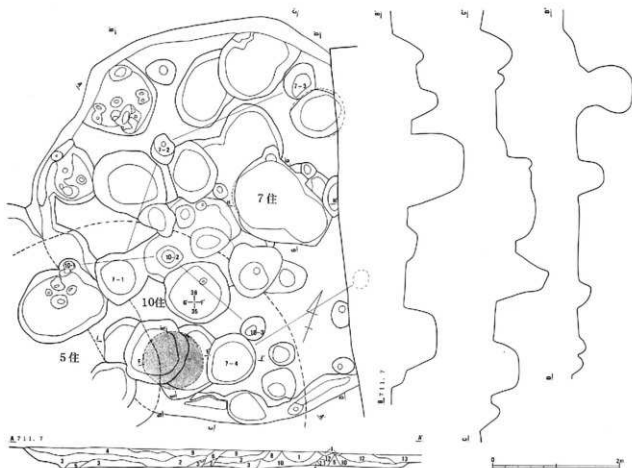
(壁・周溝) 壁はセクションで30cmを測る。周溝なし。

(柱穴) 確認した主柱穴は3本で、ビット1は径48.0×30.0、深さ51.6cm、ビット2は径50.0×45.0、深さ85.4cm、ビット3は径54.0×50.0、深さ54.0cmを測る。

(炉) 地床炉が存在し、規模は径85×64、深さは22cmを測る。焼土は内部のみに残る。

(時期) 縄文時代中期前半の藤内Ⅱ式期。

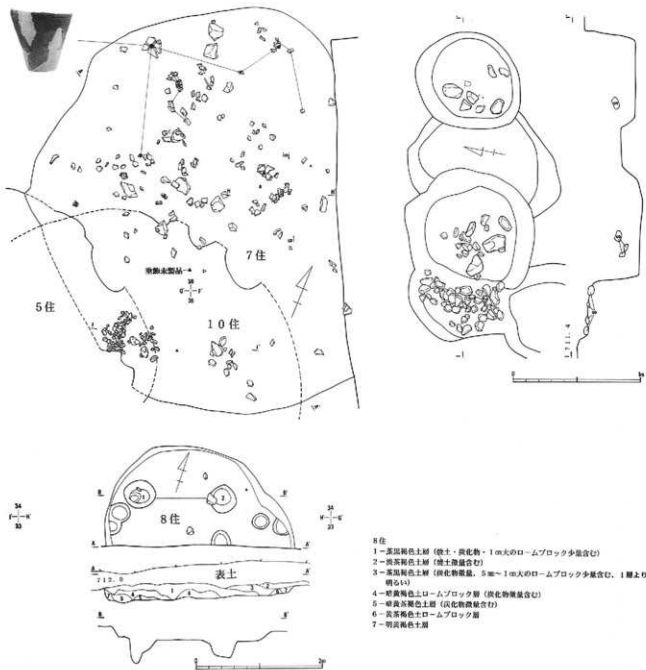
(出土遺物) 糜類と共に有孔鈔付土器のほか、3個体の深鉢土器が出土。また焼町類型の土器が伴出している。



- 7住
- 1-黒灰褐色土層 (粘土少量、炭化物やや多く含む)
 - 2-黄灰褐色土層 (炭化物微量、2~3m大のロームブロック少量含む、11住跡隣)
 - 3-黄灰褐色土層 (粘土、炭化物微量含む)
 - 4-黄灰褐色土層 (炭化物微量含む)
 - 5-黄灰褐色土層 (ロームブロック)
 - 6-黄灰褐色土層 (2層より明るい)
 - 7-黄灰褐色土層 (3層より明るい)
 - 8-黄灰褐色土層 (2層より暗い)
 - 9-黄灰褐色土層 (炭化物少量含む)
 - 11-黄灰褐色土層 (粘土微量、炭化物やや多い、3~4m大のロームブロック少量含む)
- 10住 跡
- 1-黄灰褐色土層 (粘土多量、炭化物少量)
 - 2-黄灰褐色土層 (粘土・焼土混、炭化物多量含む)
 - 3-黄灰褐色土層 (粘土、炭化物少量含む、灰白色粘土ブロック混入)
 - 4-黄灰褐色土層 (粘土、炭化物微量含む)
 - 5-黄灰褐色土層 (粘土、炭化物微量含む)
 - 6-黄灰褐色土層 (粘土、焼土混、炭化物少量含む)
 - 7-灰白色粘土ブロック層 (粘土、炭化物少量含む)

- 7住 跡
- 1-黄灰褐色土層 (炭化物少量、5m大のロームブロック多量含む)
 - 2-黄灰褐色土層 (粘土、炭化物多量、2m大のロームブロック少量含む)
 - 3-黄灰褐色土層 (粘土、炭化物多量、1m大のロームブロック少量含む)
 - 4-黄灰褐色土層 (炭化物少量含む)
 - 5-黄灰褐色土層 (炭化物微量、5m大のロームブロック少量含む)
 - 6-黄灰褐色土層 (炭化物微量含む)
 - 7-赤褐色土層 (粘土、炭化物多量含む)
 - 8-黄灰褐色土層 (粘土、炭化物多量含む)
 - 9-黄灰褐色土層 (粘土、炭化物、2m大のロームブロック少量含む)
 - 11-黄灰褐色土層 (ロームブロック少量含む)
 - 11-黄灰褐色土層 (2m大のロームブロック少量含む)
 - 11-黄灰褐色土層 (ローム粘土多量、2m大のロームブロック少量含む)

第54図 C区 第7・10号住居跡(1)



第55図 C区 第7・10号住居跡2) 第8号住居跡

第10号住居跡 (第54・55図)

(位置) 調査区の東側、F・G'-35・36グリッドに位置している。

(重複・改築) 第5・7・11号住居跡と重複。

(形態・規模) 形態は、円形を呈するものと考えられる。規模は、径が推定で4.90mを測るものと想定される。

(壁・周溝) 壁は不明。周溝は存在しない。

(柱穴) 主柱穴と考えられるものは3本存在し、ピット1は径35.0、深さ35.9cm、ピット2は径45.0×35.0、深さ20.8cm、ピット3は径45.0×35.0、深さ16.0cmを測る。

(炉) 地床炉が存在し、規模は径190×182cm、厚さは40cmを測り、マウンド状に残っている。

(時期) 縄文時代中期後半の葺利V式期か。

(出土遺物) 破片類のみ。

第11号住居跡（第56図）

（位置）調査区の南端、F・G-34・35グリッドに位置している。

（重複・改築）第10・16・18号住居跡と重複する。

（形態・規模）形態は円形を呈しており、規模は長径4.05m、短径は3.65mを測る。

（壁・周溝）壁はやや急に立ち上がり、深さは20cmを測る。周溝は存在しない。

（柱穴）土坑との切り合いが多く、柱穴の区別はできない。

（炉）地床炉と考えられるマウンド状のものが存在、規模は径が85×82cm、厚さが15cmを測る。また南側には70×45cmの範囲で焼土が分布している。

（時期）縄文時代中期前半の井戸尻Ⅱ式期。

（出土遺物）床面直上で4個体の土器が、壁沿いに出土している。また顔面把手も出土。

第12号住居跡（第57図）

（位置）調査区の東端、A-39・40グリッドに位置している。

（重複・改築）第15号住居跡と重複する。周溝の状態から2～3回の改築可能性あり。

（形態・規模）東西の両側が調査区外。形態は円形を呈するものと考えられ、規模は径が6.15mを測る。

（壁・周溝）壁は急な立ち上がりで、北側で20cm、南側で45cmを測る。周溝は南側で部分的に切れ、南で2本、北で3本が巡る。規模は幅7～25cm、深さ5～10cmを測ることができる。

（柱穴）主柱穴は不明。

（炉）不明。

（時期）縄文時代中期前半の新道式期。

（出土遺物）中央付近からサンショウウオの抽象文を持つ鉢形土器の他、6個体の土器が出土している。また南側の袋状土坑からは摘みを持つ土鈴の欠損品が出土している。

第13号住居跡（第58・59図）

（位置）調査区の東寄り、B'・C'-37・38グリッドに位置している。

（重複・改築）第4号住居跡と接触している。

（形態・規模）形態は円形で、長径は5.40m、短径は5.10mを測る。

（壁・周溝）壁は北が急で、南が緩やかな立ち上がり認められ、深さが15～30cmを測る。周溝はほぼ全周し、幅18～40cm、深さ10～23cmを測る。

（柱穴）主柱穴は6本で、ビット1は径65.0×47.0、深さ58.9cm、ビット2は径54.0×38.0、深さ64.3cm、ビット3は径55.0×43.0、深さ53.1cm、ビット4は径58.0×52.0、深さは不明、ビット5は径47.0×45.0、深さは不明。ビット6は径52.0×30.0、深さ45.9cmを測る。ビット6に接触する土坑は曾利V式期である。

（炉）石囲埋壺炉で、石囲の規模は径が123×92cmで、深さ48cm、埋壺は32×31cmを測る。

（時期）縄文時代中期前半の井戸尻Ⅲ式期。

（出土遺物）炉体土器の他、蛇体把手のついたカップ形土器、耳栓などが出土している。

第14・14'号住居跡（第60・61図）

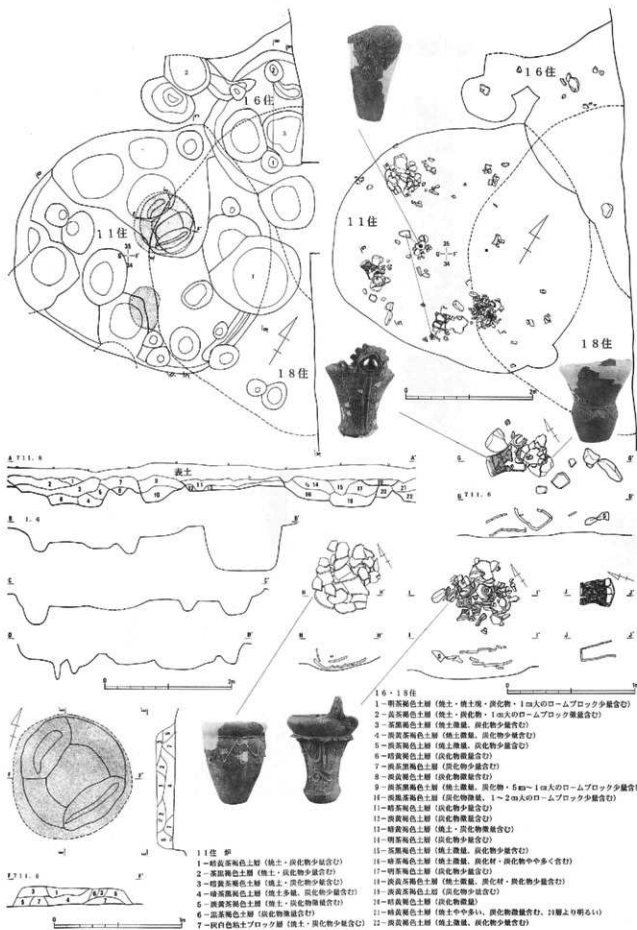
（位置）調査区の中央東寄り、D'・E'-37・38グリッドに位置している。

（重複・改築）第4号住居跡と接触。第14'号住居跡は、第14号住居跡の改築。

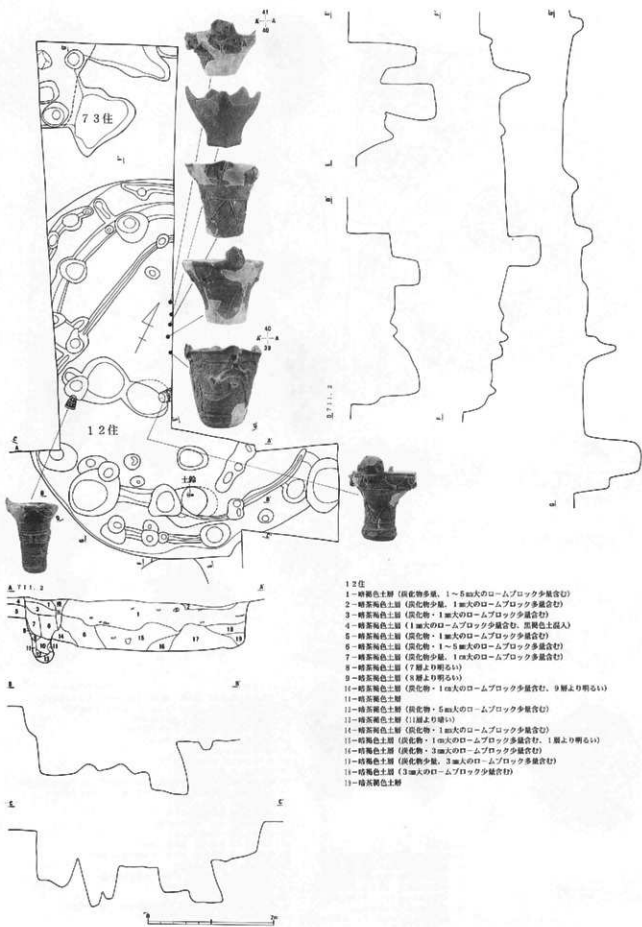
（形態・規模）ほぼ円形を呈する。規模は14住が推定で長径5.00m、短径4.30m、14'住は長径6.20m、短径5.85mを測る。

（壁・周溝）壁は確認できた14'住で、深さは30～60cmを測る。周溝は二重に巡り、内側は入口部分が切れ、幅14～45cm、深さ7～15cmを測る。外側は全周し、幅20～40cm、深さ10～25cmを測る。

（柱穴）14住に伴う主柱穴はビット1～6、14'住に伴うものはビット7～13である。ビット1は径60.0×38.0、深さ

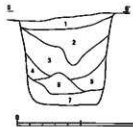
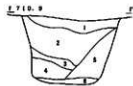
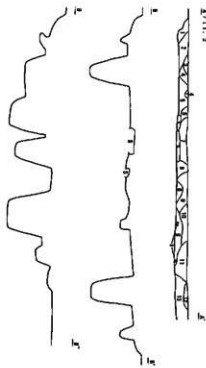


第56図 C区 第11-16号住居跡

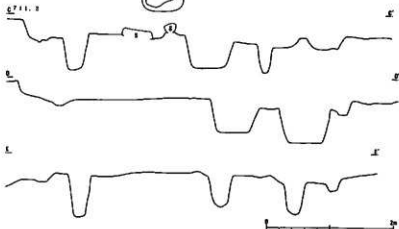
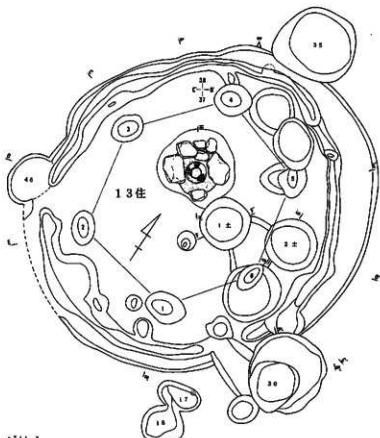


- 12住
- 1—暗褐色土層 (炭化物多量、1~5m大のロームブロック少量含む)
 - 2—暗褐色土層 (炭化物少量、1m大のロームブロック多量含む)
 - 3—暗褐色土層 (炭化物、1m大のロームブロック少量含む)
 - 4—暗褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む、赤褐色土混入)
 - 5—暗褐色土層 (炭化物、1m大のロームブロック少量含む)
 - 6—暗褐色土層 (炭化物、1~5m大のロームブロック多量含む)
 - 7—暗褐色土層 (炭化物少量、1m大のロームブロック多量含む)
 - 8—暗褐色土層 (7層より明るい)
 - 9—暗褐色土層 (9層より明るい)
 - 10—暗褐色土層 (炭化物、1m大のロームブロック少量含む、9層より明るい)
 - 11—暗褐色土層
 - 12—暗褐色土層 (炭化物、5m大のロームブロック少量含む)
 - 13—暗褐色土層 (11層より暗い)
 - 14—暗褐色土層 (炭化物、1m大のロームブロック少量含む)
 - 15—暗褐色土層 (炭化物、1m大のロームブロック多量含む、1層より明るい)
 - 16—暗褐色土層 (炭化物、3m大のロームブロック少量含む)
 - 17—暗褐色土層 (炭化物少量、3m大のロームブロック多量含む)
 - 18—暗褐色土層 (3m大のロームブロック少量含む)
 - 19—暗褐色土層

第57図 C区 第12・73号住居跡



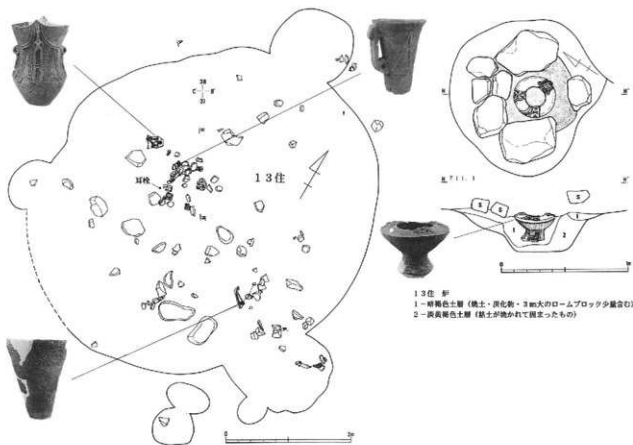
- 13住
- 1-暗茶褐色土層 (黒褐色土層入)
 - 2-暗褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
 - 3-茶褐色土層
 - 4-暗茶褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む)
 - 5-暗褐色土層 (炭化物・5m大のロームブロック少量含む)
 - 6-茶褐色土層
 - 7-暗茶褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む)
 - 8-暗褐色土層 (3m大のロームブロック少量含む)
 - 9-暗茶褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む、7層より薄い)
 - 10-暗茶褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
 - 11-暗褐色土層 (炭化物・1~5m大のロームブロック少量含む)
 - 12-暗茶褐色土層 (炭化物少量含む)
 - 13-暗褐色土層 (5m大のロームブロック少量含む)



- 13住 1層内土
- 1-暗茶褐色土層 (炭化物・1~5m大のロームブロック少量含む)
 - 2-暗褐色土層 (5m~10m大のロームブロック少量含む)
 - 3-暗褐色土層 (5m~10m大のロームブロック少量含む)
 - 4-暗褐色土層 (1m~10m大のロームブロック少量含む、2層より薄い)
 - 5-暗褐色土層 (1m~10m大のロームブロック少量含む)
 - 6-暗茶褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む)

- 13住 2層内土
- 1-暗茶褐色土層 (炭化物・1~2m大のロームブロック少量含む)
 - 2-暗褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
 - 3-暗褐色土層 (5m大のロームブロック少量含む)
 - 4-暗褐色土層 (5m大のロームブロック少量含む)
 - 5-暗褐色土層 (5m大のロームブロック少量含む)
 - 6-暗褐色土層 (3層より薄い)
 - 7-暗茶褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む)

第58図 C区 第13号住居跡(1)



第59図 C区 第13号住居跡(2)

65.4cm、ピット2は径61.0×38.0、深さ78.0cm、ピット3は径53.0×42.0、深さ55.8cm、ピット4は径53.0×38.0、深さ62.0cm、ピット5は径81.0×45.0、深さ45.8cm、ピット6は径57.0×40.0、深さ50.4cm、ピット7は径(50)×32.0、深さ83.0cm、ピット8は径83.0×72.0、深さ59.5cm、ピット9は径69.0×48.0、深さ81.7cm、ピット10は径54.0×53.0、深さ78.4cm、ピット11は径71.0×59.0、深さ67.2cm、ピット12は径96.0×61.0、深さ62.0cm、ピット13は径60.0×42.0、深さ67.6cmを測る。

(炉) 石囲炉で規模は径85×75cm、深さ36cmを測り、内部に焼土が存在する。

(時期) 縄文時代中期前半の井戸尻Ⅲ式期と考えられる。

(出土遺物) 土器2個体の他、土製管玉1点、石製鯨歯状垂飾1点、耳栓2点、土偶2点などが出土。

第15号住居跡 (第62・63図)

(位置) 調査区の東端、A・A'-38・39グリッドに位置している。

(重複・改築) 第12・27号住居跡と重複する。

(形態・規模) 北側約1/3が、調査区外に位置している。形態は円形を呈するものと考えられ、規模は径が推定で5.10mを測る。

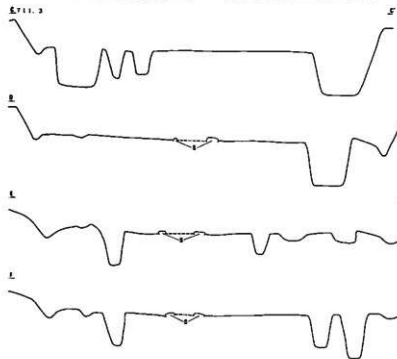
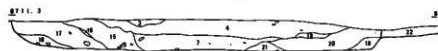
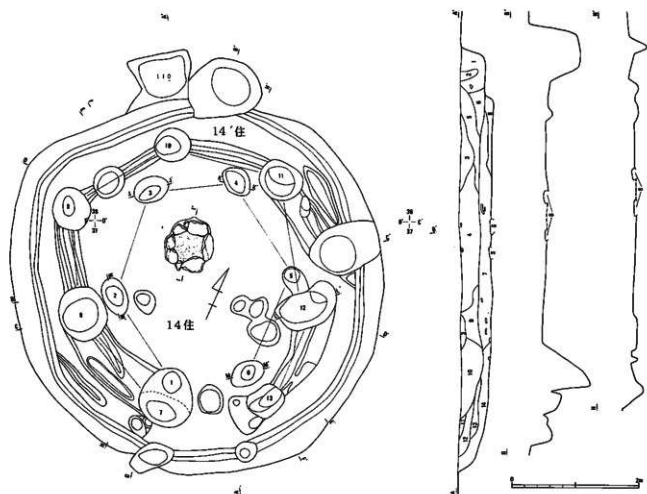
(壁・周溝) 壁は西側が急、南側が緩やかで、深さが40cmを測ることができる。周溝は存在しない。

(柱穴) 主柱穴は4本確認できた。ピット1は径43.0×33.0、深さ65.0cm、ピット2は径50.0×38.0、深さ58.6cm、ピット3は径46.0×35.0、深さ55.2cm、ピット4は径60.0×48.0、深さ74.6cmを測る。

(炉) 埋壺炉で、掘り方の規模は径が124×92cm、深さが27cmを測る。埋壺は深鉢の胴上部のみである。焼土は125×86cmの範囲に広がっている。

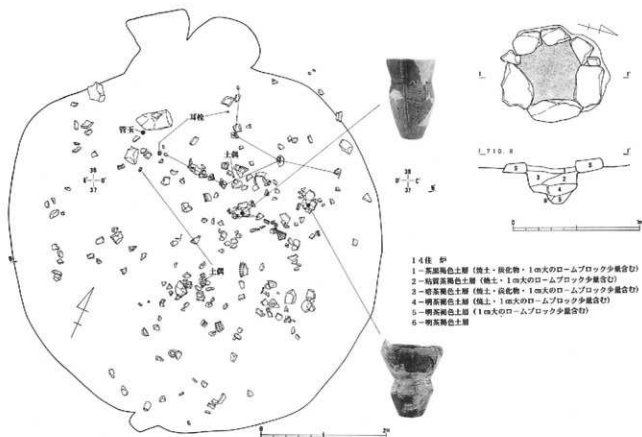
(時期) 縄文時代中期初頭の五領ヶ台Ⅱ式期。

(出土遺物) 集合沈線文系土器が5個体出土している。



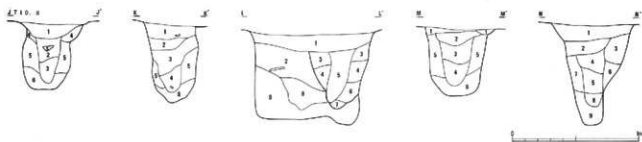
- 14住
- 1-暗茶褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック多量含む)
 - 2-黒褐色土層 (腐乱)
 - 3-暗茶褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
 - 4-暗褐色土層 (炭化物・2~5m大のロームブロック少量含む)
 - 5-暗茶褐色土層 (炭化物少量、1~5m大のロームブロック多量含む)
 - 6-暗茶褐色土層 (炭化物・1~5m大のロームブロック少量含む)
 - 7-暗褐色土層 (炭化物・1~5m大のロームブロック少量含む)
 - 8-暗茶褐色土層 (炭化物・1~3m大のロームブロック少量含む、8層より厚い)
 - 9-暗茶褐色土層 (炭化物少量、5m大のロームブロック少量含む)
 - 10-暗茶褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む、9層より厚い)
 - 11-暗茶褐色土層 (炭化物少量含む)
 - 12-暗茶褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む、11層より厚い)
 - 13-暗茶褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む、11層より厚い)
 - 14-暗茶褐色土層 (炭化物・1mロームブロック多量含む、10・11層より厚い)
 - 15-暗茶褐色土層 (炭化物・1~5m大のロームブロック多量含む)
 - 16-茶褐色土層 (炭化物少量、1m~2m大のロームブロック多量含む)
 - 17-暗茶褐色土層 (1m~5m大のロームブロック少量含む、11層より厚い)
 - 18-暗茶褐色土層 (炭化物・3m大のロームブロック少量含む)
 - 19-暗茶褐色土層 (炭化物少量、1~5m大のロームブロック多量含む)
 - 20-暗褐色土層 (炭化物・1~5m大のロームブロック少量含む)
 - 21-暗褐色土層 (炭化物少量含む)
 - 22-暗茶褐色土層 (炭化物少量含む)

第60図 C区 第14・14'号住居跡(1)



14住 跡

- 1-茶褐色土層 (焼土・炭化物・1cm大のロームブロック少量含む)
- 2-粘質黄褐色土層 (焼土・1cm大のロームブロック少量含む)
- 3-暗茶褐色土層 (焼土・炭化物・1cm大のロームブロック少量含む)
- 4-明茶褐色土層 (焼土・1cm大のロームブロック少量含む)
- 5-明茶褐色土層 (1cm大のロームブロック少量含む)
- 6-明茶褐色土層



14住 ビット3

- 1-暗褐色土層 (炭化物・1cm~1cm大のロームブロック少量含む)
- 2-暗褐色土層 (1cm大のロームブロック少量含む)
- 3-暗褐色土層 (1cm大のロームブロック少量含む、2層より明るい)
- 4-暗褐色土層 (炭化物・5cm大のロームブロック少量含む)
- 5-暗褐色土層 (1~3cm大のロームブロック少量含む)
- 6-暗褐色土層 (3~5層より明るい)

14住 ビット4

- 1-淡茶褐色土層 (炭化物・1cm大のロームブロック少量含む)
- 2-茶褐色土層 (炭化物・1cm大のロームブロック少量含む)
- 3-淡茶褐色土層 (1cm大のロームブロック少量含む、砂混入)
- 4-淡茶褐色土層 (炭化物少量含む、褐色土混入)
- 5-淡茶褐色土層 (焼土・炭化物・1cm大のロームブロック少量含む)
- 6-粘質淡黄褐色土層 (炭化物・1cm大のロームブロック少量含む)

14住 ビット12

- 1-茶褐色土層 (炭化物・1cm大のロームブロック少量含む)
- 2-淡黄褐色土層 (焼土・1~3cm大のロームブロック少量含む)
- 3-淡茶褐色土層 (1cm大のロームブロック少量含む)
- 4-黄褐色土層 (炭化物・1cm大のロームブロック少量含む)
- 5-褐色茶褐色土層 (焼土・炭化物・1cm大のロームブロック少量含む)
- 6-黄褐色土層 (焼土・炭化物・1cm大のロームブロック少量含む)
- 7-黄褐色土層
- 8-黄褐色土層 (焼土・炭化物少量含む)
- 9-明黄褐色土層 (炭化物・1cm大のロームブロック少量含む)

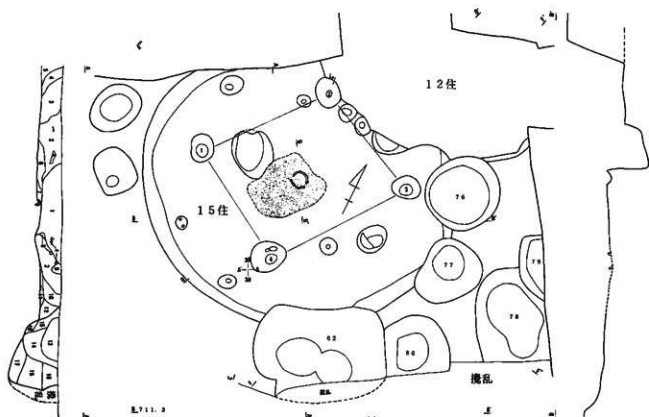
14住 ビット6

- 1-暗褐色土層 (炭化物少量、3cm大のロームブロック少量含む)
- 2-茶褐色土層 (1cm大のロームブロック少量含む、暗褐色土混入)
- 3-暗褐色土層 (炭化物・5cm大のロームブロック少量含む、茶褐色土混入)
- 4-暗褐色土層 (3~5cm大のロームブロック少量含む)
- 5-暗褐色土層 (1cm大のロームブロック少量含む)
- 6-暗褐色土層

14住 ビット2

- 1-黄褐色土層 (焼土少量、1~2cm大のロームブロック少量含む)
- 2-明茶褐色土層 (焼土・1~5cm大のロームブロック少量含む)
- 3-明茶褐色土層 (炭化物・1~2cm大のロームブロック少量含む)
- 4-明黄褐色土層 (炭化物少量、5cm大のロームブロック少量含む)
- 5-茶褐色土層 (1cm大のロームブロック少量含む、褐色土混入)
- 6-明黄褐色土層 (1cm大のロームブロック少量含む)
- 7-明黄褐色土層 (1cm大のロームブロック少量含む)
- 8-明黄褐色土層
- 9-明黄褐色土層 (焼土・炭化物少量含む)

第61図 C区 第14・14'号住居跡(2)



- 15住
- 1-暗褐色土層 (炭化物少量、1~3m大のロームブロック少量含む)
 - 2-暗褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む、1層より薄い)
 - 3-暗茶褐色土層 (炭化物・3m大のロームブロック少量含む)
 - 4-暗褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
 - 5-暗茶褐色土層
 - 6-暗茶褐色土層 (炭化物・3m大のロームブロック少量含む)
 - 7-暗褐色土層 (炭化物少量含む)
 - 8-茶褐色土層
 - 9-暗茶褐色土層 (炭化物少量含む)
 - 10-暗褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む、2層より薄い)
 - 11-暗褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
 - 12-暗茶褐色土層 (炭化物・8m大のロームブロック少量含む)
 - 13-茶褐色土層 (暗褐色土層入)
 - 14-暗褐色土層 (暗褐色土、暗茶褐色土層入)
 - 15-暗褐色土層 (茶褐色土層入)
 - 16-暗茶褐色土層
 - 17-暗褐色土層 (3m大のロームブロック少量含む)
 - 18-暗茶褐色土層
 - 19-暗褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
 - 20-暗茶褐色土層
 - 21-暗茶褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む)
 - 22-暗茶褐色土層 (茶褐色土層入)

第 62 図 C区 第 15 号住居跡(1)



第63図 C区 第15号住居跡(2)

第16号住居跡 (第56図)

(位置) 調査区の中央南側、F-34・35グリッドに位置している。

(重複・改築) 第18号住居跡と重複する。

(形態・規模) 東側1/2が調査区外。形態はほぼ円形を呈するものと考えられ、規模は径が3.90mを測る。

(壁・周溝) 壁は確認できなかつた。周溝は存在しない。

(柱穴) 主柱穴と考えられるものが2本で、ビット1は径37.0×34.0、深さ20.4cm、ビット2は径33.0×29.0、深さ19.5cmを測る。

(炉) 不明。

(時期) 縄文時代中期前半の井戸尻期。

(出土遺物) 北端から数点出土。

第18号住居跡 (第56図)

(位置) 調査区の中央南側、F-34・35グリッドに位置している。

(重複・改築) 第11・16号住居跡と重複している。

(形態・規模) 部分的に調査区外。形態は楕円形で、規模は推定で長径5.90m、短径5.17mを測る。

(壁・周溝) 壁は確認できなかつた。周溝は存在しない。

(柱穴) 主柱穴は不明で、壁沿いに深さ20~60cmの柱穴が8本確認できた。

(炉) 不明。

(時期) 縄文時代前期後半の諸磯b式期か。

(出土遺物) グリッド取り上げ遺物のみで破片類が主体。

第19号住居跡（第64・65図）

（位置）調査区の東寄り、B'・C'-38・39グリッドに位置している。

（重複・改築）第21・26・27・35号住居跡と重複。

（形態・規模）ほぼ円形を呈する。規模は長径6.55m、短径6.42mを測る。

（壁・周溝）壁は急に立ち上がり、深さが最大で42cmを測る。周溝は南東部の入口部と考えられる所が切れ、幅が10～30cm、深さ5～10cmを測る。

（柱穴）主柱穴は7本で、ビット1は径79.0×52.0、深さ58.5cm、ビット2は径78.0×58.0、深さ87.5cm、ビット3は径85.0×50.0、深さ72.0cm、ビット4は径57.0×55.0、深さ77.0cm、ビット5は径39.0×37.0、深さ73.0cm、ビット6は径61.0×58.0、深さ71.0cm、ビット7は径52.0×45.0、深さ64.0cmを測る。

（炉）石囲炉で、規模は径87×(85)cm、深さ30.5cmを測る。南側の石組みが外され、底に小ビットが見られる。焼土は132×127cm範囲で分布する。

（時期）縄文時代中期前半の井戸尻Ⅲ式期と考えられる。

（出土遺物）土器4個体の他、歯筒状垂飾、土偶、土鈴、石皿が出土。ビット5から土製匙が出土。

第20号住居跡（第64・67図）

（位置）調査区の中央東寄り、D'-38・39グリッドに位置している。

（重複・改築）第30号住居跡と重複する。

（形態・規模）形態は円形を呈するものと考えられ、規模は径が推定で4.15mを測る。

（壁・周溝）壁はセクション面でやや急な立ち上がりで、深さが15cmを測ることができる。周溝は存在しない。

（柱穴）主柱穴は6本確認できた。ビット1は径65.0×40.0、深さ56.5cm、ビット2は径52.0×34.0、深さ63.0cm、ビット3は径49.0×33.0、深さ47.0cm、ビット4は径33.0、深さ45.5cm、ビット5は径47.0×40.0、深さ42.0cm、ビット6は径53.0×33.0、深さ45.0cmを測る。

（炉）石囲埋燵炉で、規模が76×68cm、深さが26.5cmを測る。埋燵は深鉢の胴上部のみである。焼土は炉内のみ存在する。

（時期）縄文時代中期前半の井戸尻Ⅲ式期。

（出土遺物）全面に散在している。

第21号住居跡（第64・65図）

（位置）調査区の中央東側、A'・B'-38・39グリッドに位置している。

（重複・改築）第19・26・27号住居跡と重複している。

（形態・規模）形態は円形で、規模は推定で長径3.65m、短径3.35mを測る。

（壁・周溝）壁は、確認できなかった。周溝は、存在しない。

（柱穴）主柱穴は7本で、ビット1は径42.0×33.0、深さ53.0cm、ビット2は径37.0×32.0、深さ63.0cm、ビット3は径32.0×27.0、深さ51.0cm、ビット4は径28.0×26.0、深さ31.5cm、ビット5は径32.0×25.0、深さ50.0cm、ビット6は径30.0×20.0、深さ63.0cm、ビット7は径28.0×25.0、深さ129.5cmを測る。

（炉）埋燵炉で、掘り込みの規模は径89×63cm、深さ15cmを測る。炉体土器は胴部のみであるが、この土器は五領ケ台Ⅱ式期のもので、本跡と異なる時期の土器を利用している。

（時期）縄文時代中期前半の猪沢式期。

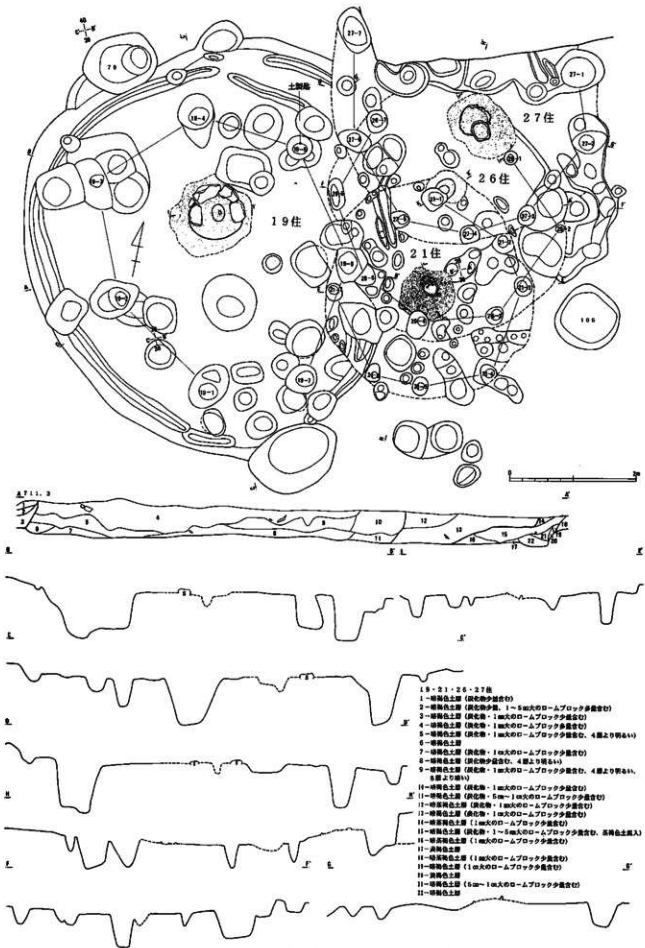
（出土遺物）破片類が主体であるが、土器が1個体出土している。

第22号住居跡（第68図）

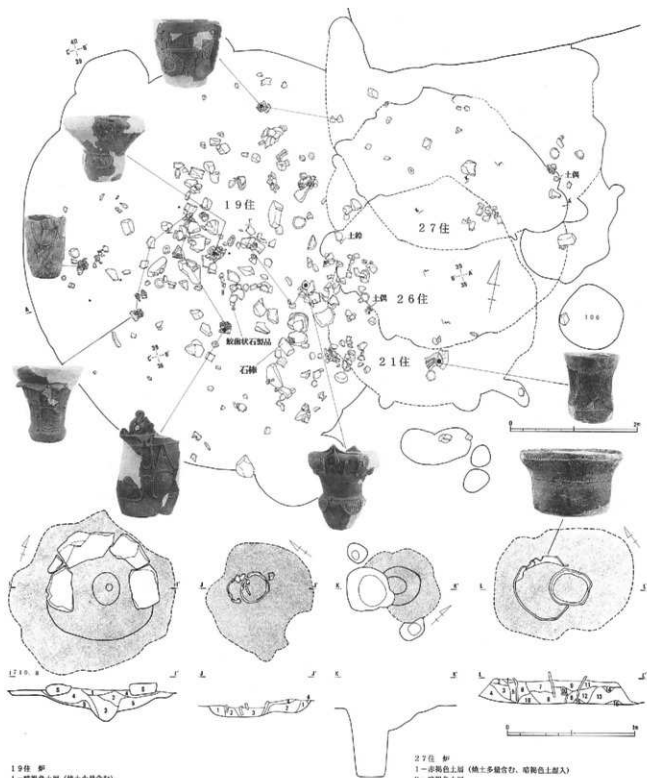
（位置）調査区の中央南寄り、D'・E'-36・37グリッドに位置している。

（重複・改築）第4'・14号住居跡と接触。

（形態・規模）南側1/2が調査区外。形態は、楕円形を呈するものと考えられる。規模は、径が現存値で6.64mを測る。



第64図 C区 第19-21・26-27号住居跡(1)

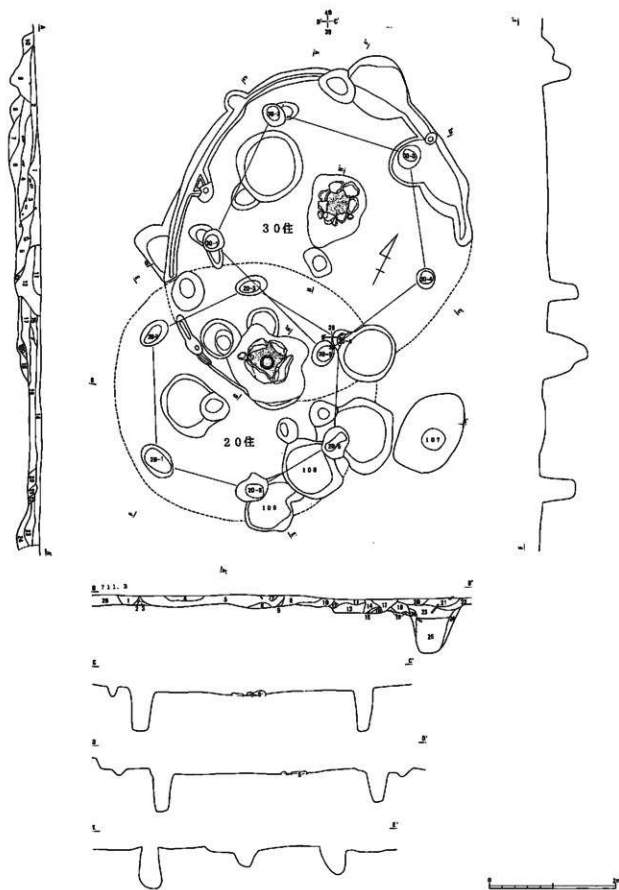


- 19住 竈
 1-暗褐色土層 (焼土少盛含む)
 2-暗褐色土層 (焼土・10cm大のロームブロック少盛含む、1層より明るい)
 3-暗茶褐色土層 (焼土少盛含む)
 4-暗褐色土層 (焼土少盛含む、1層より明るい)
 5-赤褐色土層 (焼土多盛含む)

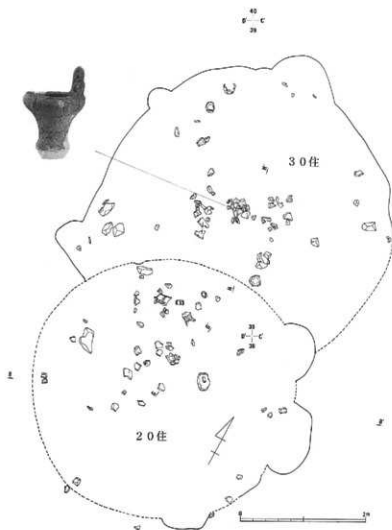
- 21住 竈
 1-赤褐色土層 (焼土多盛含む)
 2-暗褐色土層 (焼土少盛含む)
 3-暗褐色土層 (焼土少盛含む、2層より暗い)
 4-暗茶褐色土層 (焼土少盛含む)

- 27住 竈
 1-赤褐色土層 (焼土多盛含む、暗褐色土層入)
 2-暗褐色土層
 3-暗褐色土層 (10cm大のロームブロック少盛含む、2層より暗い)
 4-暗茶褐色土層 (20cm大のロームブロック少盛含む)
 5-暗褐色土層 (焼土少盛含む、2・3層より暗い)
 6-暗褐色土層 (炭化物・5cm大のロームブロック少盛含む)
 7-暗茶褐色土層 (焼土少盛含む)
 8-赤褐色土層 (焼土少盛含む、7層より暗い)
 9-暗褐色土層 (炭化物少盛含む)
 10-赤褐色土層 (炭化物少盛含む)
 11-暗褐色土層 (焼土少盛含む)
 12-暗茶褐色土層 (焼土・炭化物少盛含む)
 13-暗茶褐色土層 (炭化物・1~5cm大のロームブロック少盛含む)
 14-赤褐色土層
 15-赤褐色土層
 16-暗茶褐色土層 (1~5cm大のロームブロック少盛含む)

第65図 C区 第19・21・26・27号住居跡(2)



第66图 C区 第20·30号住居跡(1)



20・30住

- 1-暗褐色土層 (1~5m大のロームブロック少量含む)
- 2-暗褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む)
- 3-暗褐色土層 (1~5m大のロームブロック少量含む)
- 4-暗褐色土層 (炭化物少量, 1m~1m大のロームブロック少量含む)
- 5-暗褐色土層 (炭化物少量, 1m大のロームブロック少量含む)
- 6-暗褐色土層 (炭化物, 1m大のロームブロック少量含む)
- 7-暗褐色土層 (1~5m大のロームブロック少量含む)
- 8-暗褐色土層 (炭化物, 1m~1m大のロームブロック少量含む)
- 9-暗褐色土層 (炭化物, 5m大のロームブロック少量含む)
- 10-暗褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む)
- 11-茶褐色土層 (炭化物, 1m大のロームブロック少量含む)
- 12-茶褐色土層 (炭化物, 1m~1m大のロームブロック少量含む)
- 13-茶褐色土層 (炭化物, 1~5m大のロームブロック少量含む)
- 14-茶褐色土層 (炭化物, 1m大のロームブロック少量含む)
- 15-暗褐色土層 (炭化物少量, 1m大のロームブロック少量含む)
- 16-暗褐色土層 (炭化物, 1m大のロームブロック少量含む, 中々明るい)
- 17-茶褐色土層 (炭化物少量含む)
- 18-茶褐色土層 (炭化物少量含む)
- 19-暗褐色土層 (炭化物, 1m大のロームブロック少量含む)
- 20-暗褐色土層 (炭化物, 1m大のロームブロック少量含む)

20住

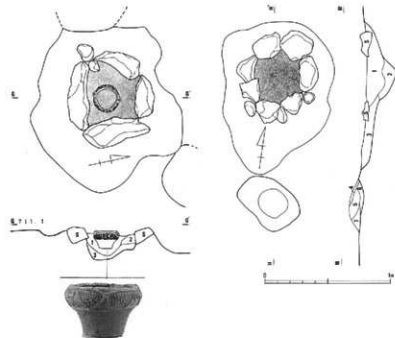
- 1-暗褐色土層 (炭化物, 5m大のロームブロック少量含む)
- 2-茶褐色土層
- 3-暗褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む)
- 4-暗褐色土層 (炭化物, 1m大のロームブロック少量含む)
- 5-暗褐色土層 (炭化物, 1m~1m大のロームブロック少量含む, 4層より暗い)
- 6-暗褐色土層 (炭化物少量含む, 5層より明るい)
- 7-暗褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む, 5層より明るい)
- 8-暗褐色土層 (炭化物, 1m大のロームブロック少量含む, 5層より明るい)
- 9-暗褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む)
- 10-暗褐色土層 (炭化物少量含む, 茶褐色土層入)
- 11-暗褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む)
- 12-茶褐色土層
- 13-暗褐色土層 (5m大のロームブロック少量含む)
- 14-暗褐色土層 (茶褐色土層入)
- 15-暗褐色土層
- 16-暗褐色土層 (炭化物, 5m大のロームブロック少量含む)
- 17-暗褐色土層 (5m大のロームブロック少量含む, 茶褐色土層入)
- 18-茶褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む)
- 19-暗褐色土層 (炭化物少量含む, 茶褐色土層入)
- 20-暗褐色土層 (炭化物, 5m大のロームブロック少量含む)
- 21-暗褐色土層 (2~5m大のロームブロック少量含む)
- 22-暗褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む)
- 23-暗褐色土層 (1~3m大のロームブロック少量含む)
- 24-暗褐色土層 (炭化物, 5m大のロームブロック少量含む)

20住 炉

- 1-暗褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む)
- 2-暗褐色土層 (焼土, 炭化物少量含む)
- 3-暗褐色土層 (5m~1m大のロームブロック少量含む)

30住 炉

- 1-暗褐色土層 (焼土, 炭化物, 1m大のロームブロック少量含む)
- 2-暗褐色土層 (炭化物, 1m大のロームブロック少量含む)
- 3-暗褐色土層 (炭化物少量, 1m大のロームブロック少量含む)
- 4-暗褐色土層
- 5-暗褐色土層 (焼土少量含む, 茶褐色土層入)
- 6-茶褐色土層
- 7-暗褐色土層



第 67 図 CIX 第 20・30 号住居跡 (2)

- (壁・周溝) 壁はやや急な立ち上がりで、深さは11cmを測る。周溝は西側部分に残り、幅20cm、深さ5cmを測る。
- (柱穴) 主柱穴は3本確認でき、ビット1は径51.0×40.0、深さ63.1cm、ビット2は径85.0×60.0、深さ72.4cm、ビット3は径85.0×59.0、深さ76.5cmを測る。
- (炉) 石囲炉が存在し、規模は径89×-cm、深さは11cmを測る。石組は、北から東部にかけて外されているが、焼土は炉内に残っている。
- (時期) 縄文時代中期前半の井戸尻Ⅱ式期。
- (出土遺物) 破片類のみ。

第23号住居跡 (第69図)

- (位置) 調査区の中央南寄り、E・F-37・38グリッドに位置している。
- (重複・改築) 第24・25号住居跡と重複する。
- (形態・規模) 形態は円形を呈しており、規模は推定で長径4.73m、短径は4.30mを測る。
- (壁・周溝) 壁は緩やかに立ち上がり、深さは北部で17cmを測る。周溝は入口部と考えられる南側が切れ、幅12~45cm、深さ3~12cmを測る。
- (柱穴) 主柱穴は5本確認でき、ビット1は径55.0×20.0、深さ54.7cm、ビット2は径48.0×32.0、深さ61.8cm、ビット3は径48.0×44.0、深さ58.5cm、ビット4は径58.0×43.0、深さ66.1cm、ビット5は径60.0×43.0、深さ61.3cmを測る。
- (炉) 長方形を呈した石囲炉型竈炉で、規模は径が96×63cm、厚さが30cmを測る。内部には、焼土が認められ炉体土器が炉のはほぼ中央に位置している。
- (時期) 縄文時代中期前半の井戸尻Ⅲ式期。
- (出土遺物) 炉体土器は無文である。その他、破片類が南東部で数点出土している。

第24号住居跡 (第69図)

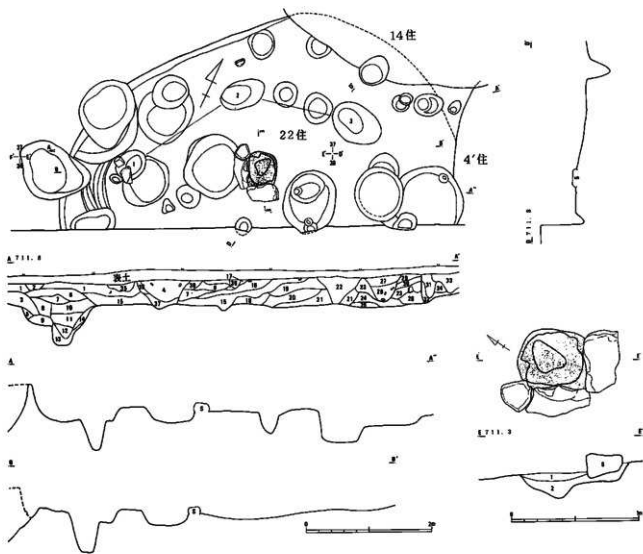
- (位置) 調査区の中央南寄り、E・F-37・38グリッドに位置している。
- (重複・改築) 第23号住居跡と重複する。
- (形態・規模) 形態は楕円形を呈するものと考えられ、規模は推定で長径が4.93m、短径が3.86mを測る。
- (壁・周溝) 壁は確認できない。周溝は存在しない。
- (柱穴) 主柱穴は不明。深さ10~40cmを測るビットが散在している。
- (炉) 不明。
- (時期) 縄文時代中期初頭の五領ヶ台Ⅱ式期。
- (出土遺物) 中央付近から数点出土。

第25号住居跡 (第69図)

- (位置) 調査区の中央南寄り、F・G-36・37グリッドに位置している。
- (重複・改築) 第23号住居跡と重複している。
- (形態・規模) 形態は楕円形と考えられ、規模は推定で長径は5.40m、短径は4.60mを測る。
- (壁・周溝) 壁は確認できない。周溝は存在しない。
- (柱穴) 主柱穴は不明。深さ10~40cmのビットが巡っている。
- (炉) 不明。
- (時期) 縄文時代中期。
- (出土遺物) 土器の破片類が少量。

第26号住居跡 (第64・65図)

- (位置) 調査区の中央東側、A・B-38・39グリッドに位置している。



22住

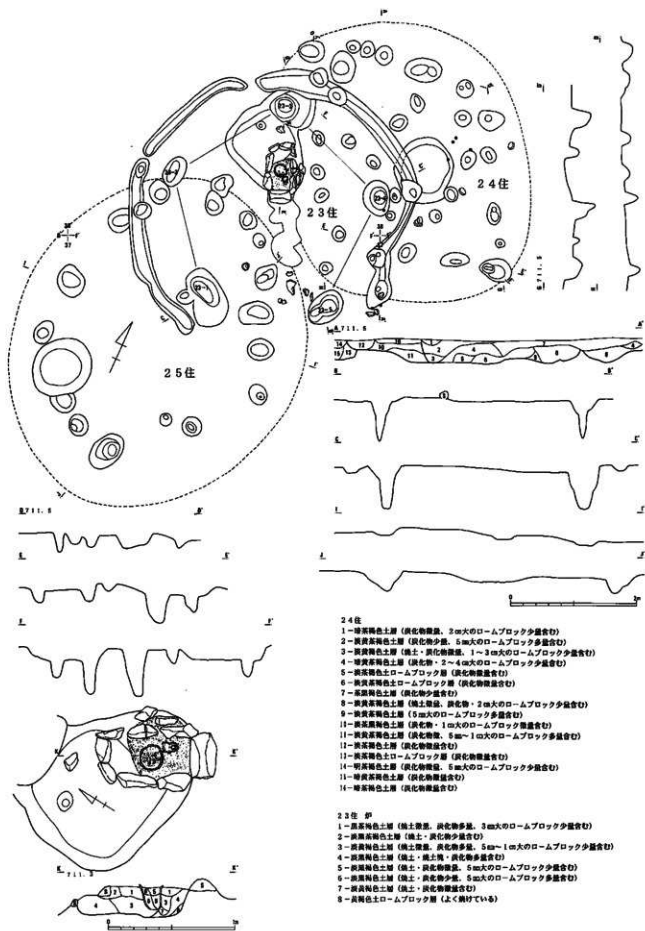
- 1-明茶褐色土層 (炭化物少量含む、砂層入)
- 2-灰質明茶褐色土層
- 3-灰質明茶褐色土層 (雑土・1m大のロームブロック少量含む)
- 4-暗茶褐色土層 (雑土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 5-茶褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む)
- 6-明茶褐色土層 (雑土・炭化物少量含む)
- 7-茶褐色土層 (雑土・1m大のロームブロック少量含む、6層より明らしい)
- 8-茶褐色土層 (炭化物少量、1m大のロームブロック少量含む)
- 9-灰質明茶褐色土層 (雑土少量含む)
- 10-茶褐色土層 (雑土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 11-暗茶褐色土層 (雑土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 12-茶褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む)
- 13-茶褐色土層 (5m大のロームブロック少量含む)
- 14-明茶褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む)
- 15-明茶褐色土層 (雑土・炭化物少量含む)
- 16-明茶褐色土層 (雑土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 17-暗茶褐色土層 (雑土・炭化物少量含む)
- 18-明茶褐色土層 (雑土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 19-暗茶褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む)
- 20-茶褐色土層 (雑土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む、明茶褐色土層入)
- 21-灰質明茶褐色土層
- 22-明茶褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む、灰褐色土層入)
- 23-暗茶褐色土層 (雑土・炭化物少量含む)
- 24-茶褐色土層 (雑土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 25-明茶褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む)

- 26-茶褐色土層 (雑土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 27-明茶褐色土層 (灰褐色土層入)
- 28-明茶褐色土層 (雑土・炭化物少量含む)
- 29-暗茶褐色土層
- 30-明茶褐色土層 (炭化物少量含む、21層よりやや暗い)
- 31-暗茶褐色土層 (雑土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 32-明茶褐色土層 (雑土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む、茶褐色土層入)
- 33-暗茶褐色土層 (炭化物少量含む)
- 34-明茶褐色土層 (雑土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 35-暗茶褐色土層
- 36-暗茶褐色土層 (雑土)
- 37-暗茶褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 38-暗茶褐色土層 (雑土少量含む、茶褐色土層入)
- 39-茶褐色土層 (雑土・炭化物少量含む、茶褐色土層入)

22住 断

- 1-茶褐色土層 (雑土・炭化物・1~2m大のロームブロック少量含む)
- 2-暗茶褐色土層 (雑土・炭化物・5m~1m大のロームブロック少量含む)

第 68 図 C区 第 22 号住居跡



第69図 C区 第23・24・25号住居跡

(重複・改築) 第19・21・27号住居跡と重複。

(形態・規模) やや楕円形を呈する。規模は推定で長径4.10m、短径3.60mを測る。入口は北側か。

(壁・周溝) 壁は確認できないが、深さはセクション面で40cmを測る。周溝は存在しない。

(柱穴) 主柱穴は6本で、ピット1は径31.0×27.0、深さ21.5cm、ピット2は径44.0×30.0、深さ35.0cm、ピット3は径35.0×25.0、深さ20.0cm、ピット4は径47.0×24.0、深さ13.5cm、ピット5は径36.0×33.0、深さ22.5cm、ピット6は径22.0×21.0、深さ11.5cm。

(炉) 地床炉で、規模は径63×38cm、深さ20cmを測り、焼土は65×47cmの範囲を分布する。

(時期) 縄文時代中期初頭の五領ヶ台Ⅱ式期と考えられる。

(出土遺物) 破片類が主体。

第27号住居跡 (第64・65図)

(位置) 調査区の中央東側、A'・B'-39グリッドに位置している。

(重複・改築) 第15・19・21・26・35号住居跡と重複する。

(形態・規模) 北側約1/3が調査区外に位置している。形態は円形を呈するものと考えられ、規模は径が推定で4.25mを測る。

(壁・周溝) 壁は確認できないが、深さはセクション面で17cmを測ることができる。周溝は存在しない。

(柱穴) 主柱穴は7本確認できた。ピット1は径73.0×66.0、深さ32.5cm、ピット2は径58.0×34.0、深さ39.0cm、ピット3は径31.0×30.0、深さ47.0cm、ピット4は径33.0×28.0、深さ54.0cm、ピット5は径30.0×26.0、深さ47.0cm、ピット6は径63.0×32.0、深さ55.5cm、ピット7は径72.0×42.0、深さ30.5cmを測る。

(炉) 埋壺炉で、掘り方の規模が109×89cm、深さが25cmを測る。埋壺は深鉢の胴上部のみであるが、2個体を重ね合わせている。平出皿類A系土器との伴出関係が窺える。

(時期) 縄文時代中期前半の猪沢式期。

(出土遺物) 遺物は全体的に散在しているが、その中から土偶が1点出土している。

第28号住居跡 (第70図)

(位置) 調査区の東端、A-37・38グリッドに位置している。

(重複・改築) 第2号住居跡と重複する。

(形態・規模) 東側1/3が調査区外。形態はほぼ円形を呈するものと考えられ、規模は径が4.05mを測る。南側が入口部と想定される。

(壁・周溝) 壁の立ち上がりは急で、深さはセクション面で17cmを測る。周溝は存在しない。

(柱穴) 主柱穴と考えられるものが5本で、ピット1は径40.0×33.0、深さ22.7cm、ピット2は径35.0×32.0、深さ29.5cm、ピット3は径47.0×43.0、深さ27.0cm、ピット4は径46.0×44.0、深さ24.5cm、ピット5は径49.0×44.0、深さ18.4cmを測る。

(炉) 埋壺炉で、掘り方の規模が62×49cm、深さが23cmを測る。埋壺は深鉢の胴上部のみである。

(時期) 縄文時代中期初頭の五領ヶ台Ⅱ式期。

(出土遺物) 炉の周辺から数点出土。

第29号住居跡 (第70図)

(位置) 調査区の東側、A-36グリッドに位置している。

(重複・改築) 第2号住居跡と重複している。

(形態・規模) 大部分が調査区外。形態は不明で、規模は現存値で長径2.75m、短径1.75mを測る。

(壁・周溝) 壁は確認できなかった。周溝は存在しない。

(柱穴) 柱穴は確認できなかった。

(炉) 埋壺炉で、掘り方の規模が49×44cm、深さが29cmを測る。埋壺は深鉢の胴上部のみ。

(時期) 縄文時代中期初頭の五領ヶ台Ⅱ式期。

(出土遺物) 炉体土器の他、グリット取り上げ遺物のみ。

第30号住居跡 (第66・67図)

(位置) 調査区の中央東寄り、C・D-38・39グリッドに位置している。

(重複・改築) 第20・34号住居跡と重複。

(形態・規模) 楕円形を呈する。規模は長径5.50m、短径は推定で4.65mを測る。入口は南側か。

(壁・周溝) 壁はやや急に立ち上がり、深さが30cmを測る。周溝は北西部に存在し、幅が12~30cm、深さ10~16cmを測る。

(炉) 石囲炉で、規模は径78×64cm、深さ29cmを測る。焼土は内部に分布する。また南側に位置する径50×34cm、深さ5cmの小ピットに焼土が集中する。

(時期) 縄文時代中期前半の井戸尻Ⅱ式期と考えられる。

(出土遺物) 全体的に少ない。土器1個体が出土。

第31号住居跡 (第71・72図)

(位置) 調査区の中央、E・F-39・40グリッドに位置している。

(重複・改築) 第32・110号住居跡と重複するが、新旧関係では、本住居が最も古い。

(形態・規模) 形態はほぼ円形を呈する。規模は長径6.80m、短径6.36mを測る。西側が入口か。

(壁・周溝) 壁は急な立ち上がりで、深さが25~55cmを測る。周溝は部分的に残り、幅10~25cm、深さ3~10cmを測る。

(柱穴) 主柱穴は7本確認できた。ピット1は径49.0×43.0、深さ45.5cm、ピット2は径49.0×35.0、深さ65.0cm、ピット3は径46.0×39.0、深さ74.2cm、ピット4は径53.0×50.0、深さ67.2cm、ピット5は径73.0×57.0、深さ63.4cm、ピット6は径67.0×56.0、深さ48.4cm、ピット7は径65.0×48.0、深さ76.3cmを測る。

(炉) 中央部に僅かに分布する焼土が炉の名残りか。

(その他の施設) 入口部と考えられる付近に存在するフラスコ土坑(径38cm、深さ84cm)は、本住居跡に属するものと思われ、内部から石皿が出土している。

(時期) 縄文時代中期前半の猪沢式期。

(出土遺物) 他の新しい遺構に切られているため、本住居に関連する遺物は少ない。グリット杭付近で深鉢形土器が出土している。

第32号住居跡 (第71・72図)

(位置) 調査区の中央、E-39・40グリッドに位置している。

(重複・改築) 第31・110号住居跡と重複している。

(形態・規模) 形態は円形で、規模は推定で長径4.70m、短径4.20mを測る。

(壁・周溝) 壁はセクション面でやや急に立ち上がり、深さが60cmを測る。周溝は南側で部分的に残り、幅7~20cm、深さ5~10cmを測る。

(柱穴) 主柱穴は5本で、ピット1は31住と共通。ピット7は径65.0×48.0、深さ76.3cm、ピット8は径33.0×27.0、深さ54.5cm、ピット9は径45.0×33.0、深さ53.1cm、ピット10は径76.0×60.0、深さ59.4cmを測る。

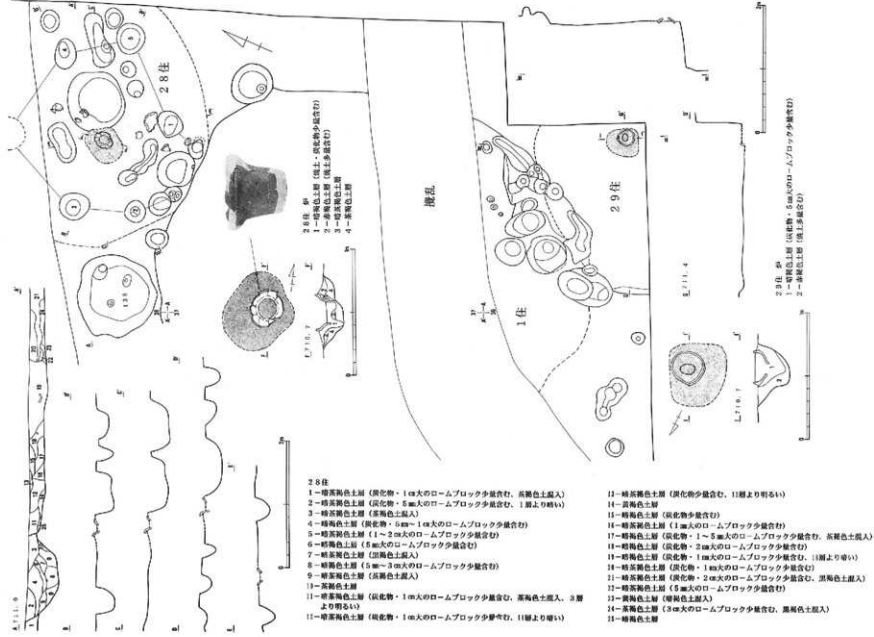
(炉) 石囲炉で、規模は径60×58cm、深さ16cmを測る。焼土は周辺に分布する。

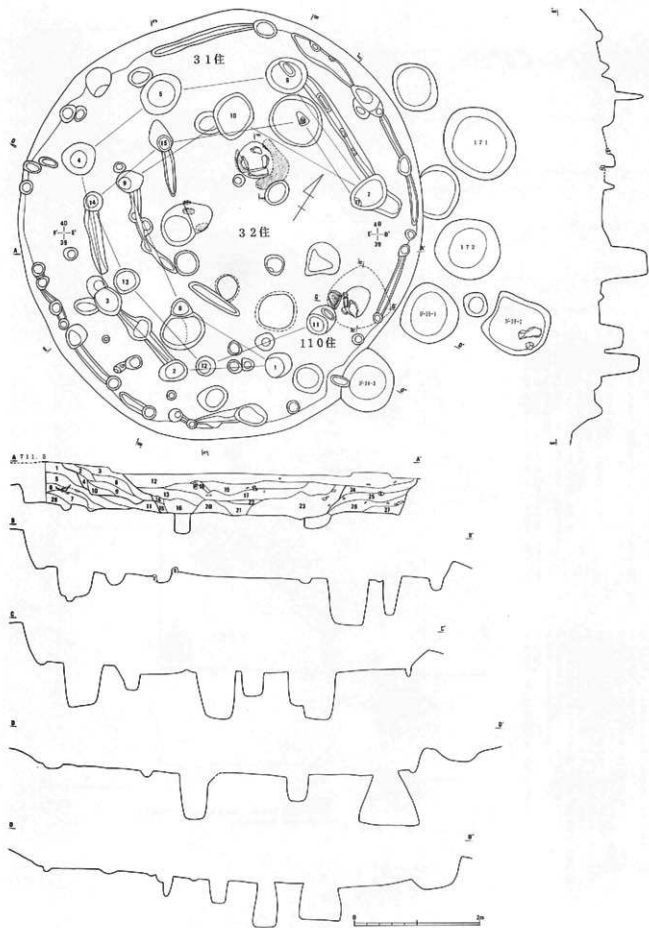
(その他の遺構) 炉付近に255×110cmの範囲で炭化物が集中し10~20cm大の礫を伴う。

(時期) 縄文時代中期前半の新道式期。

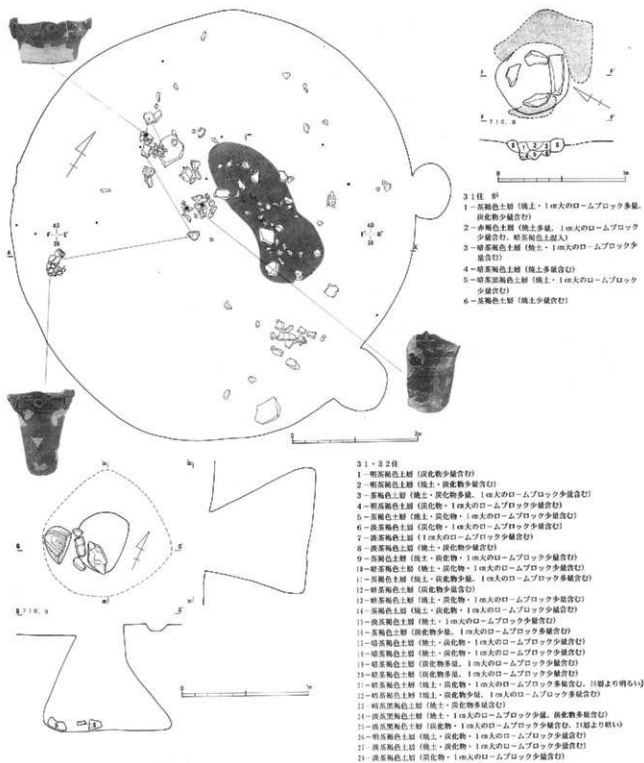
(出土遺物) ピット9付近で口縁部が出土。平出Ⅲ類A系土器と伴出関係が窺える。

第70図 C区 第28・29号住居跡





第71图 C区 第31·32·110号住居跡(1)



第72図 C区 第31・32・110号住居跡(2)

第34号住居跡（第72図）

（位置）調査区の中央東寄り、C・D'-39・40グリッドに位置している。

（重複・改築）第30号住居跡と重複。

（形態・規模）形態は、円形を呈するものと考えられる。規模は推定で長径5.70m、短径は5.60mを測る。入口は南側のピット1と7の間か。

（壁・周溝）壁は確認できない。周溝は西側部分に残り、幅25～30cm、深さ10cmを測る。

（柱穴）主柱穴は7本確認でき、ピット1は径43.0×36.0、深さ48.7cm、ピット2は径48.0×32.0、深さ39.5cm、ピット3は径53.0×31.0、深さ40.5cm、ピット4は径62.0×42.0、深さ46.3cm、ピット5は径42.0×41.0、深さ31.2cm、ピット6は径45.0×34.0、深さ41.6cm、ピット7は径60.0×46.0、深さ46.3cmを測る。

（炉）埋燬炉が存在し、掘り方の規模は径88×cm、深さ15cmを測る。炉は168土に切られる。

（時期）縄文時代中期前半の井戸尻Ⅲ式期。

（出土遺物）炉体土器の他は、破片類のみである。

第35号住居跡（第74図）

（位置）調査区の東寄り中央、B'・C'-39・40グリッドに位置している。

（重複・改築）第19・27・68号住居跡と重複する。

（形態・規模）形態は、円形を呈するものと考えられる。規模は、推定で径5.10mを測る。一部調査区外。

（壁・周溝）壁は確認できなかった。周溝は存在しない。

（柱穴）主柱穴は4本確認でき、ピット1は径50.0×44.0、深さ57.5cm、ピット2は径35.0×33.0、深さ49.5cm、ピット3は径45.0×38.0、深さ59.0cm、ピット4は径56.0×47.0、深さ43.5cmを測る。

（炉）埋燬炉で、掘り方の規模は径が90×80cm、深さが14cmを測る。

（時期）縄文時代中期前半の猪沢式期。

（出土遺物）炉に隣接する土坑から深鉢が出土しているが、大部分が破片類である。

第36号住居跡（第75図）

（位置）調査区の中央、G'-41・42グリッドに位置している。

（重複・改築）なし。

（形態・規模）形態は円形を呈し、規模は推定で長径が4.85m、短径が4.50mを測る。

（壁・周溝）壁は緩やかな立ち上がりで、深さが14cmを測る。周溝は北西部が切れるため、入口部と考えられ、幅15～40cm、深さ3～5cmを測る。

（柱穴）主柱穴は6本確認でき、ピット1は径62.0×43.0、深さ58.7cm、ピット2は径59.0×55.0、深さ56.5cm、ピット3は径62.0×52.0、深さ70.8cm、ピット4は径61.0×50.0、深さ62.5cm、ピット5は径142.0×104.0、深さ59.1cm、ピット6は径56.0×52.0、深さ63.9cmを測る。

（炉）添石炉で、規模は径が270×180、深さ13cmを測る。

（時期）縄文時代中期前半の井戸尻Ⅲ式期。

（出土遺物）遺物は中央付近に集中するが、点数はとも少くない。

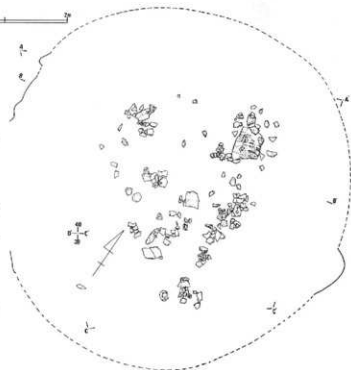
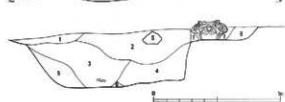
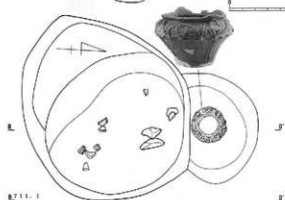
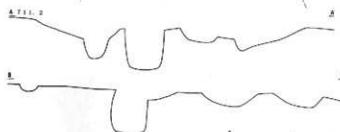
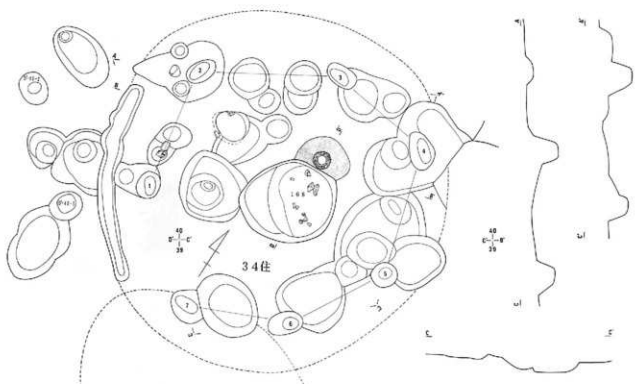
第37・37'号住居跡（第76～78図）

（位置）調査区の中央北寄り、H'-42・43グリッドに位置している。

（重複・改築）第39・98号住居跡と重複している。拡張・改築部分を第37号住居跡とする。

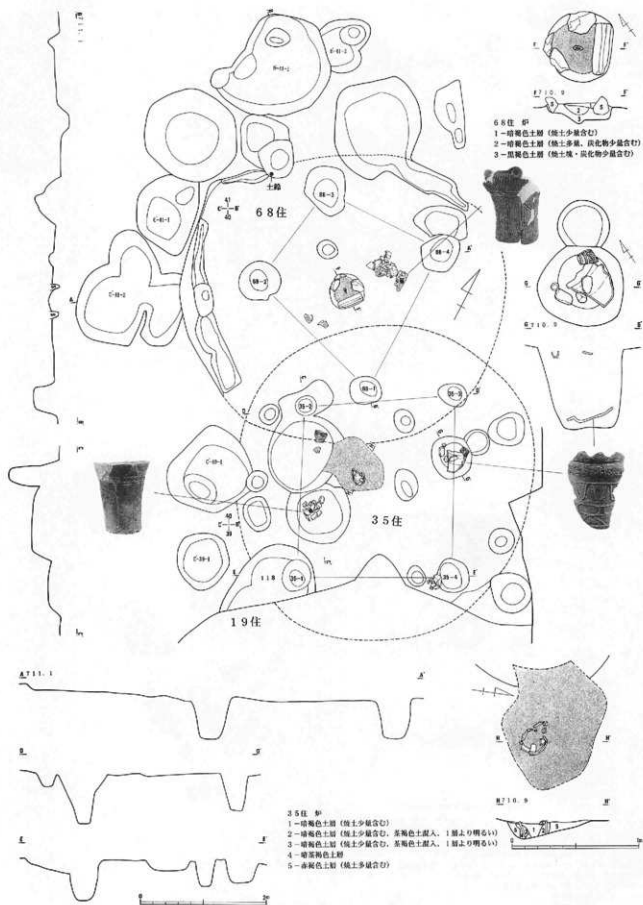
（形態・規模）形態は楕円形と考えられ、改築前（改築後）の規模は推定で長径5.30(5.70)m、短径は5.10(5.50)mを測る。

（壁・周溝）壁は急な立ち上がりを示し、深さは20～46cmを測る。周溝は部分的に二重に廻り、幅20～30cm、深さ5～10cmを測る。



- 34住 部
- 1-暗褐色土層 (5m大のロームブロック少量含む)
 - 2-暗褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む, 1層より破り)
 - 3-暗褐色土層 (炭化物・5m大のロームブロック少量含む)
 - 4-暗褐色土層 (炭化物・1~5m大のロームブロック少量含む, 3層より破り)
 - 5-暗茶褐色土層 (炭化物・5m大のロームブロック少量含む)
 - 6-暗茶褐色土層 (5m大のロームブロック少量含む)
 - 7-暗褐色土層 (粘土少量含む)
 - 8-黄褐色土層 (粘土少量含む)

第73図 C区 第34号住居跡



第74图 C区 第35-68号住居跡

(柱穴) 37住はビット1~5、37'住はビット6~11が属する。ビット1は径47.0×41.0、深さ64.8cm、ビット2は径52.0×44.0、深さ34.7cm、ビット3は径71.0×55.0、深さ34.2cm、ビット4は径55.0×35.0、深さ26.5cm、ビット5は径46.0×36.0、深さ56.7cm、ビット6は径56.0×42.0、深さ35.3cm、ビット7は径65.0×48.0、深さ48.0cm、ビット8は径56.0×47.0、深さ42.5cm、ビット9は径46.0×40.0、深さ44.0cm、ビット10は径89.0×76.0、深さ49.7cm、ビット11は径65.0×57.0、深さ61.0cmを測る。

(炉) 石囲炉(37住)と地床炉(37'住)が存在する。石囲炉は、石組が破壊され隣接する98住にまで石材が散乱するが、掘り方の規模は径が130×96、深さ35cmを測る。地床炉は石囲炉に隣接し、規模は110×90cmの範囲で焼土が分布する。

(時期) 縄文時代中期前半の井戸尻Ⅲ式期。98住より新しい。

(出土遺物) 炉の石材が散在する。破壊された石囲炉内からミニチュア土器と浅鉢が出土している。

第38号住居跡 (第79・80図)

(位置) 調査区の北端、B'・C'-43・44グリッドに位置している。

(重複・改築) 第42・45~47号住居跡と重複。

(形態・規模) 南側1/2が、攪乱を受けている。形態は円形を呈するものと考えられ、規模は推定で径4.75mを測る。

(壁・周溝) 壁は確認できず、周溝は存在しない。

(柱穴) 主柱穴は2本で、ビット3は径94.0×80.0、深さ64.6cm、ビット4は径90.0×70.0、深さ62.7cmを測る。

(炉) 石囲炉(G-G')で、規模は径100×70cm、深さ20cmを測り、攪乱で破壊されている。

(時期) 縄文時代中期初頭の五領ヶ台Ⅱ式期。

(出土遺物) 炉の周辺に集中するが、切り合いが多く遺物の量は少ない。

第39・39'号住居跡 (第76~78図)

(位置) 調査区の中央北寄り、G'・H'-42・43グリッドに位置している。

(重複・改築) 第37・97・98号住居跡と重複する。拡張・改築部分を第39号住居跡とする。

(形態・規模) 形態は円形を呈するものと考えられ、改築前(改築後)の規模は推定で長径4.00(5.80)m、短径は4.00(5.31)mを測る。

(壁・周溝) 壁はやや急な立ち上がりを示し、深さは38cmを測る。周溝は39住では部分的に存在し、幅10~20cm、深さ10cmを測る。39'住では幅10~25cm、深さ10cmを測り、小ビットを伴っている。

(柱穴) 39住はビット1~7、39'住はビット8~13が属する。ビット1は径45.0×36.0、深さ51.5cm、ビット2は径100.0×56.0、深さ46.2cm、ビット3は径65.0×37.0、深さ50.3cm、ビット4は径31.0×31.0、深さ50.8cm、ビット5は径53.0×50.0、深さ51.4cm、ビット6は径45.0×43.0、深さ51.2cm、ビット7は径45.0×41.0、深さ49.2cm、ビット8は径44.0×39.0、深さ47.1cm、ビット9は径41.0×25.0、深さ55.9cm、ビット10は径68.0×50.0、深さ37.1cm、ビット11は径67.0×47.0、深さ60.6cm、ビット12は径54.0×44.0、深さ51.8cm、ビット13は径105.0×50.0、深さ53.0cmを測る。

(炉) 石囲炉で、掘り方の規模が102×72cm、深さが20cmを測る。石組みは北から西にかけて存在する。

(時期) 縄文時代中期前半の新道式期。

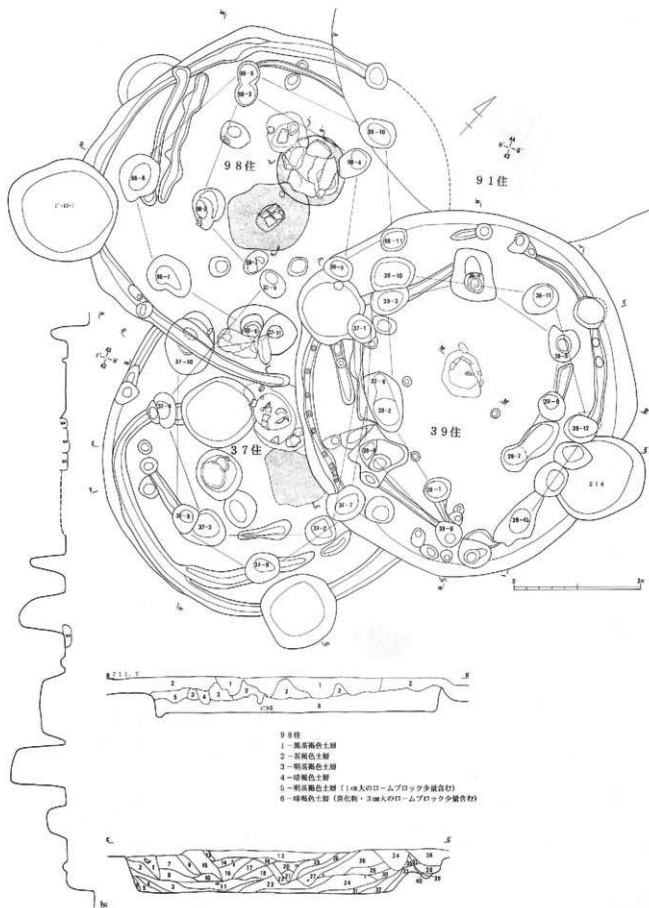
(出土遺物) 遺物は中央から北東部にかけて分布するが、全体的には少ないようである。炉付近から深鉢が、37'住側で浅鉢形土器が出土している。

第40号住居跡 (第80図)

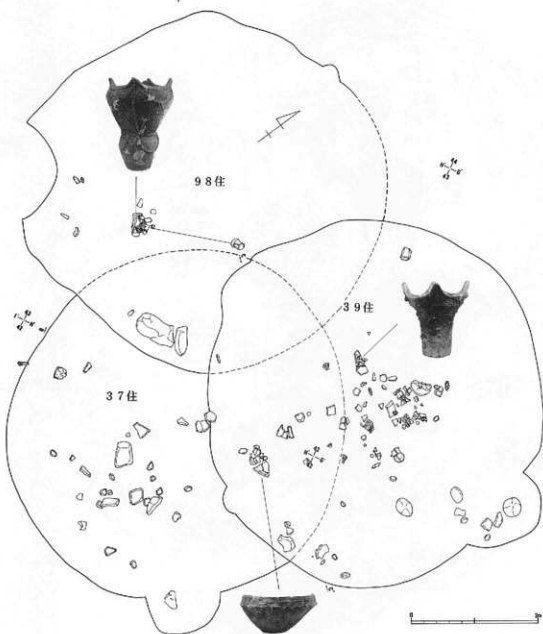
(位置) 調査区の北西端、K'-43グリッドに位置している。

(重複・改築) 第40'号住居跡と重複する。

(形態・規模) 形態は楕円形を呈するものと考えられ、規模は推定で長径4.40m、短径4.00mを測る。南側が入口部と想定される。



第76図 C区 第37・39・98号住居跡(1)

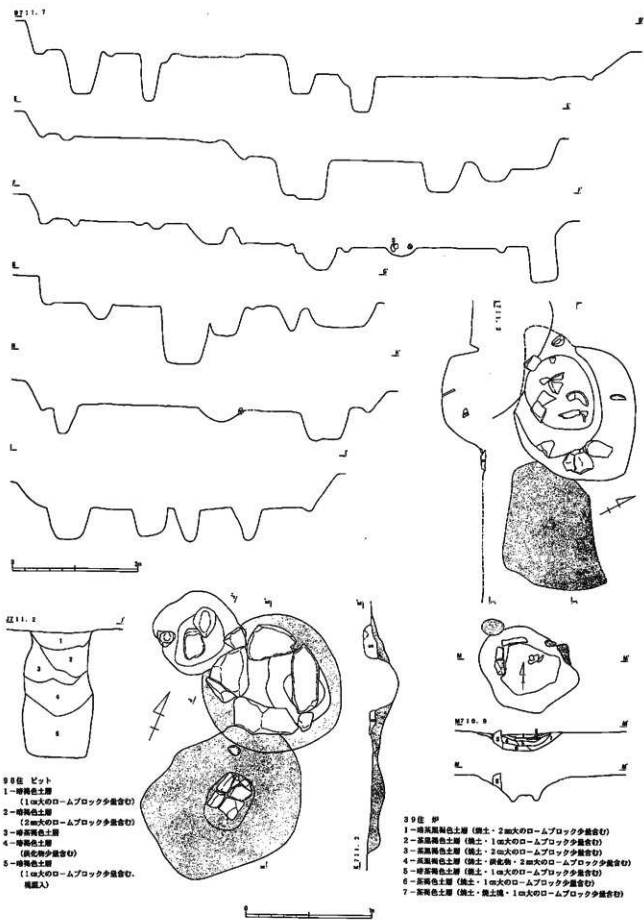


39住

- 1-赤褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 2-赤褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む、1層より厚)
- 3-赤褐色土層 (粘土・炭化物・2m大のロームブロック少量含む)
- 4-赤褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む、3層より厚)
- 5-明茶褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 6-赤褐色土ロームブロック層 (赤褐色土層入)
- 7-赤褐色土層 (粘土・炭化物・3m大のロームブロック少量含む)
- 8-赤褐色土層 (粘土・炭化物・3m大のロームブロック少量含む、7層より厚)
- 9-暗茶褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 10-赤褐色土層 (粘土・炭化物・2m大のロームブロック少量含む)
- 11-明茶褐色土層 (粘土・炭化物・2m-3m大のロームブロック少量含む)
- 12-赤褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む、11層より厚)
- 13-赤褐色土層 (粘土・炭化物・2m大のロームブロック少量含む)
- 14-赤褐色土層 (粘土・炭化物・2m大のロームブロック少量含む、11層より厚)
- 15-明茶褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 16-明茶褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 17-赤褐色土層 (粘土・炭化物・2m大のロームブロック少量含む)
- 18-赤褐色土層 (粘土・炭化物・2m大のロームブロック少量含む)
- 19-赤褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 20-暗茶褐色土層 (粘土・炭化物・2m-3m大のロームブロック少量含む、塊層入)

- 21-暗茶褐色土層 (粘土層・炭化物・2m大のロームブロック少量含む、11層より厚)
- 22-暗茶褐色土層 (粘土・炭化物・1m-1m大のロームブロック少量含む)
- 23-暗茶褐色土層 (粘土・炭化物・2m大のロームブロック少量含む)
- 24-暗茶褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 25-暗茶褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 26-暗茶褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 27-暗茶褐色土層 (粘土・炭化物・2m-2m大のロームブロック少量含む)
- 28-赤褐色土層 (粘土・炭化物・2m-2m大のロームブロック少量含む)
- 29-暗茶褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 30-暗茶褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む、11層より厚)
- 31-暗茶褐色土層 (粘土・炭化物・1m-1m大のロームブロック少量含む)
- 32-明茶褐色土層 (粘土・炭化物・1m-1m大のロームブロック少量含む、11層より厚)
- 33-赤褐色土ロームブロック層 (赤褐色土層入)
- 34-明茶褐色土層 (粘土・炭化物・2m大のロームブロック少量含む)
- 35-明茶褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 36-赤褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 37-明茶褐色土層 (粘土・炭化物少量含む)
- 38-明茶褐色土層 (粘土・炭化物少量含む、11層より厚)
- 39-赤褐色土ロームブロック層
- 40-明茶褐色土層 (3m大のロームブロック少量含む)

第77図 C区 第37・39-98号住居跡(2)



第78図 C区 第37-39-98号住居跡(3)

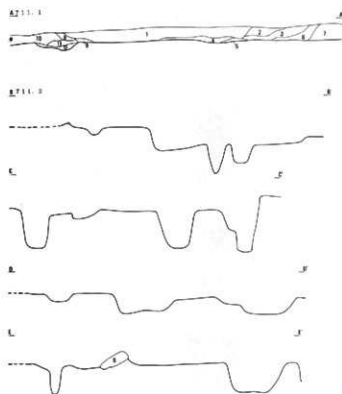
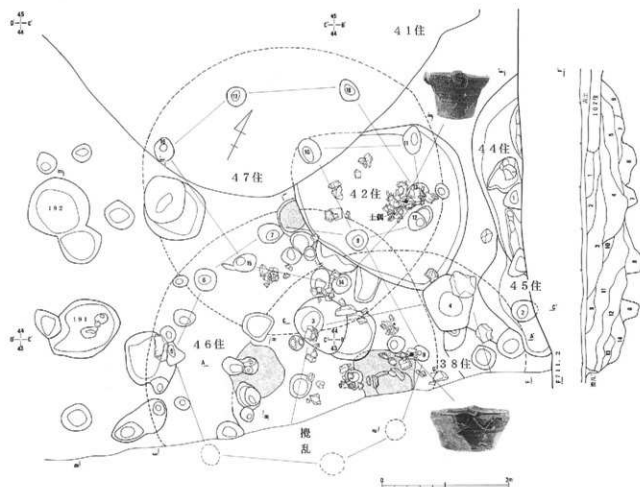
(壁・周溝) 壁の立ち上がりは急で段を持つ、深さはセクション面で最大で90cmを測る。周溝は存在しない。
(柱穴) 主柱穴と考えられるものが6本で、ビット1は径45.0×38.0、深さ41.6cm、ビット2は径38.0×30.0、深さ33.1cm、ビット3は径27.0×20.0、深さ30.2cm、ビット4は径32.0×30.0、深さ31.1cm、ビット5は径55.0×29.0、深さ32.5cm、ビット6は径32.0×30.0、深さ18.5cmを測る。小ビットが壁沿いに存在する。
(炉) 地床炉で、規模が85×79cm、深さが12cmを測る。焼土は炉の周辺に散在する。
(時期) 縄文時代中期前半の猪沢式期。
(出土遺物) 炉の上面に横位で深鉢形土器が出土した。これは底部が抜かれ、口縁部には補修孔が見られる。

第40号住居跡 (第80図)

(位置) 調査区の北西端、K'-43グリッドに位置している。
(重複・改築) 第40号住居跡と重複している。
(形態・規模) 形態は円形で、規模は長径3.51m、短径3.35mを測る。
(壁・周溝) 壁は急に立ち上がり、深さはセクション面で最大75cmを測る。周溝は存在しない。
(柱穴) 主柱穴と考えられるものが4本で、ビット7は径35.0×35.0、深さ41.9cm、ビット8は径40.0×30.0、深さ10.4cm、ビット9は径35.0×28.0、深さ67.4cm、ビット10は径35.0×32.0、深さ44.3cm、その他にビット11が径27.0×24.0、深さ39.2cmを測る。
(炉) 地床炉で、規模が56×41cm、深さが約10cmを測る。第10層がこれに該当する。
(時期) 縄文時代中期前半の藤内I式期。
(出土遺物) 炉付近より、横位で2対の蛇体把手を持つ深鉢形が、また西側壁付近でも深鉢形土器が出土。

第41号住居跡 (第81・82図)

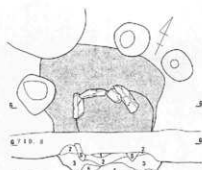
(位置) 調査区の北端、B'・C'・D'-44・45グリッドに位置している。
(重複・改築) 第42・47・51・53号住居跡と重複。4回程度の改築が行われているものと考えられる。
(形態・規模) 中央南側部分に、攪乱が見られる。最終的な形態は楕円形を呈し、規模は長径8.70m、短径は7.35mを測る。入口は南側か。
(壁・周溝) 壁は急に立ち上がり、深さが10~41cmを測る。周溝は断続的に三重に存在し、幅が18~32cm、深さ5~10cmを測る。
(柱穴) 主柱穴は合計28本確認でき、ビット1~4 (NO.1)、ビット5~11 (NO.2)、ビット12~20 (NO.3)、ビット21~28 (NO.4) と4回の増築を示す。ビット1は径41.0×33.0、深さ50.4cm、ビット2は径64.0×46.0、深さ39.0cm、ビット3は径76.0×45.0、深さ40.3cm、ビット4は径43.0×36.0、深さ31.1cm、ビット5は径41.0×20.0、深さ40.4cm、ビット6は径43.0×48.0、深さ44.4cm、ビット7は径51.0×47.0、深さ23.8cm、ビット8は径54.0×46.0、深さ67.0cm、ビット9は径50.0×50.0、深さ49.4cm、ビット10は径49.0×41.0、深さ55.8cm、ビット11は径58.0×40.0、深さ50.2cm、ビット12は径30.0×30.0、深さ28.2cm、ビット13は径48.0×35.0、深さ23.4cm、ビット14は径37.0×29.0、深さ20.5cm、ビット15は径43.0×35.0、深さ34.0cm、ビット16は径59.0×27.0、深さ49.8cm、ビット17は径17.0×13.0、深さ17.6cm、ビット18は径60.0×30.0、深さ64.9cm、ビット19は径65.0、深さ64.0cm、ビット20は径48.0×40.0、深さ71.0cm、ビット21は径53.0×36.0、深さ36.0cm、ビット22は径53.0×45.0、深さ61.2cm、ビット23は径50.0×45.0、深さ68.8cm、ビット24は径49.0×38.0、深さ61.2cm、ビット25は径45.0×33.0、深さ77.3cm、ビット26は径59.0×45.0、ビット27は径44.0×40.0、深さ24.7cm、ビット28は径43.0×41.0、深さ42.2cmを測る。
(炉) 地床炉はG-G'、H-H'の二カ所存在し、焼土の分布は径189×90cmを測る。炉の規模は径110×70、深さ45cmと、径90×50cm、深さ35cmを測る。また西側壁部にも焼土が集中する。
(時期) 縄文時代中期前半の藤内II式期と考えられる。
(出土遺物) 遺物出土状況が井戸尻パターンを示し、土器20個体の他、小型有孔銅付土器、土偶3点、土鈴、耳栓など多量の遺物が出土している。



- 38住
- 1-黒褐色土層 (粘土・炭化物少量、1~5mm大のロームブロック多量含む)
 - 2-暗褐色土層 (粘土多量、炭化物・1~5mm大のロームブロック少量含む)
 - 3-暗褐色土層 (炭化物・1~5cm大のロームブロック少量含む、2層より暗い)
 - 4-暗褐色土層 (炭化物・5mm~1cm大のロームブロック少量含む)
 - 5-暗茶褐色土層 (粘土・炭化物少量含む、高褐色土層入)
 - 6-暗褐色土層 (粘土・炭化物・5mm大のロームブロック少量含む)
 - 7-暗茶褐色土層 (炭化物・5mm~1cm大のロームブロック少量含む)
 - 8-暗褐色土層 (炭化物少量含む、8層より暗い)
 - 9-暗褐色土層 (炭化物少量含む、8層より暗い)
 - 10-暗茶褐色土層 (5mm~1cm大のロームブロック少量含む)
 - 11-暗茶褐色土層 (炭化物・1cm大のロームブロック少量含む、11層より暗い)
 - 12-暗褐色土層 (炭化物・1cm大のロームブロック少量含む)

- 44・45住
- 1-暗茶褐色土層 (炭化物少量、1mm大のロームブロック多量含む)
 - 2-暗褐色土層 (炭化物・1mm~1cm大のロームブロック少量含む、1層より暗い)
 - 3-暗褐色土層 (炭化物・1~5mm大のロームブロック少量含む)
 - 4-暗褐色土層 (炭化物・1~5mm大のロームブロック少量含む、3層より暗い)
 - 5-暗褐色土層 (炭化物・1~5mm大のロームブロック少量含む)
 - 6-暗褐色土層 (炭化物少量含む、高褐色土層入)
 - 7-暗茶褐色土層 (炭化物少量含む)
 - 8-暗褐色土層 (炭化物・1cm大のロームブロック少量含む、暗褐色土層入)
 - 9-暗茶褐色土層 (炭化物・1mm~1cm大のロームブロック少量含む)
 - 10-暗褐色土層 (炭化物・1~5mm大のロームブロック少量含む、4・5層より暗い)
 - 11-暗褐色土層 (炭化物・1mm~1cm大のロームブロック少量含む)
 - 12-暗褐色土層 (炭化物少量含む、高褐色土層入)
 - 13-暗茶褐色土層 (3cm大のロームブロック少量含む、暗褐色土層入)
 - 14-暗褐色土層 (炭化物・1cm大のロームブロック少量含む)

第79図 C区 第38・42・44~47号住居跡



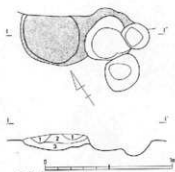
35住 跡

- 1-赤褐色土層 (焼土・炭化物少量含む)
- 2-黒褐色土層 (焼土多量、炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 3-暗褐色土層 (焼土・炭化物少量、1m~1m大のロームブロック多量含む)
- 4-赤褐色土層 (焼土多量、1m大のロームブロック少量含む)
- 5-暗黒褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む、暗褐色土層入)



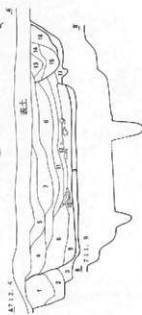
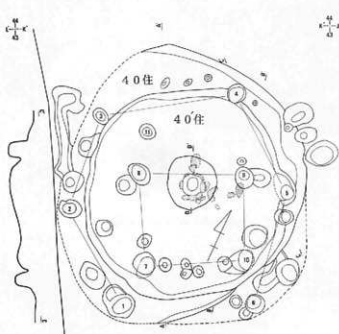
45住 跡

- 1-赤褐色土層 (焼土多量含む、暗褐色土層入)
- 2-黒褐色土層
- 3-暗褐色土層



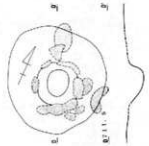
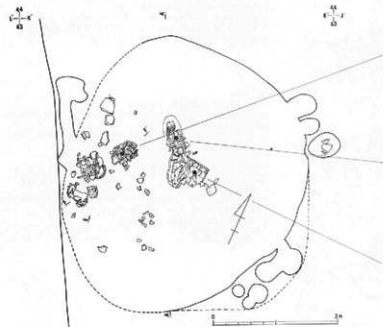
47住 跡

- 1-暗褐色土層 (焼土・炭化物少量含む)
- 2-赤褐色土層 (焼土多量含む)
- 3-暗黒褐色土層

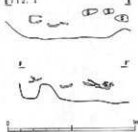


40・40' 住

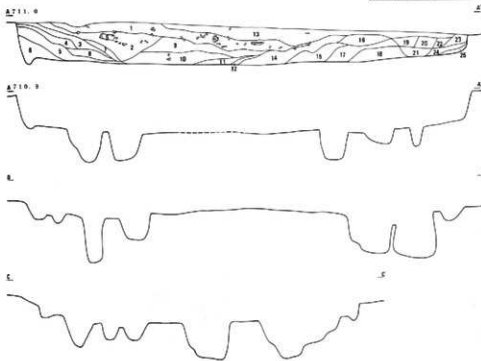
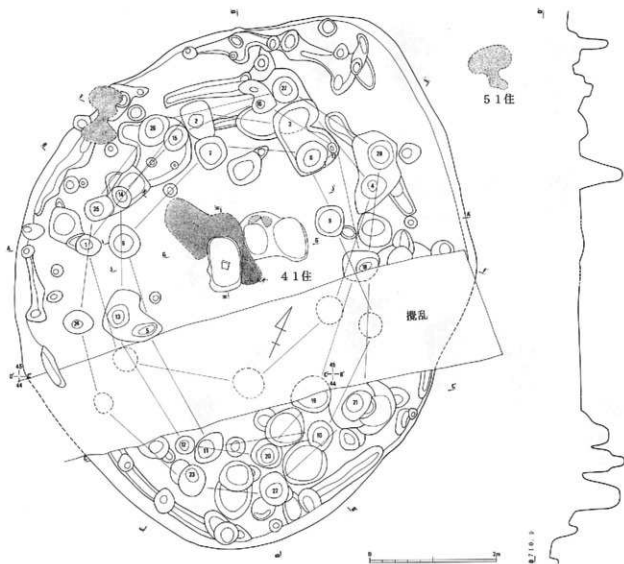
- 1-暗黒赤褐色土層 (暗褐色少量含む)
- 2-暗黒赤褐色土層 (焼土塊・炭化物少量含む)
- 3-暗黒赤褐色土層 (炭化物多量、1~2m大のロームブロック少量含む)
- 4-暗黒赤褐色土層 (炭化物・5m大のロームブロック少量含む)
- 5-暗黒赤褐色土層 (炭化物多量含む、4層より明るい)
- 6-赤褐色土層 (焼土塊・炭化物・3m大のロームブロック少量含む)
- 7-暗黒赤褐色土層 (2m大のロームブロック少量含む)
- 8-赤褐色土層 (焼土・炭化物、3m大のロームブロック少量含む)
- 9-暗黒赤褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む、4'住の炭層)
- 10-暗黒赤褐色土層 (焼土多量、炭化物・1m大のロームブロック少量含む、4'住跡)
- 11-暗黒赤褐色土層 (2m大のロームブロック少量含む)
- 12-暗黒赤褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む)
- 13-暗褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 14-暗褐色土層 (炭化物少量含む)
- 15-暗褐色土層 (炭化物少量含む)
- 16-暗褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 17-暗黒赤褐色土層



41住 跡



第80図 C区 第38・46・47号住居跡²・第40・40'号住居跡

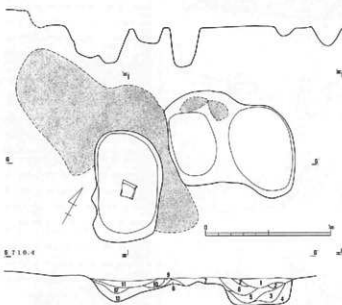


- 41住
- 1-低黄褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック少量)
 - 2-赤褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック少量、炭化物多量含む)
 - 3-赤褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む、2層より明瞭)
 - 4-赤褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
 - 5-赤褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
 - 6-低黄褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
 - 7-赤褐色土層 (粘土・炭化物多量、1m大のロームブロック少量含む)
 - 8-低黄褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
 - 9-赤褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む、高黄褐色土層)
 - 10-低黄褐色土層 (粘土・炭化物多量、1m大のロームブロック少量含む)
 - 11-低黄褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
 - 12-低黄褐色土層 (粘土・1m大のロームブロック少量含む)
 - 13-低黄褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
 - 14-赤褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
 - 15-低黄褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
 - 16-赤褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
 - 17-低黄褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
 - 18-低黄褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
 - 19-低黄褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
 - 20-低黄褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
 - 21-低黄褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
 - 22-低黄褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
 - 23-低黄褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
 - 24-低黄褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
 - 25-低黄褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
 - 26-低黄褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む)

第81図 C区 第41号住居跡(1)



E. 710.3



E. 710.4

41住 跡

- 1-茶褐色土層 (焼土・1㎡大のロームブロック少量、炭化物少量含む)
- 2-黄褐色土層 (炭化物・1㎡大のロームブロック少量含む)
- 3-黄褐色土層 (焼土・炭化物少量、1㎡大のロームブロック少量含む、2層より薄い)
- 4-明茶褐色土層 (1㎡大のロームブロック少量含む)
- 5-茶褐色土層 (焼土・炭化物・1㎡大のロームブロック少量含む)
- 6-黄褐色土層 (焼土・炭化物・1㎡大のロームブロック少量含む、5層より薄い)
- 7-明茶褐色土層 (焼土・1㎡大のロームブロック少量含む)
- 8-暗茶褐色土層 (焼土少量、1㎡大のロームブロック少量含む)
- 9-黄褐色土層
- 10-暗茶褐色土層 (焼土・炭化物・1㎡大のロームブロック少量含む)
- 11-暗茶褐色土層 (焼土・1㎡大のロームブロック少量含む)
- 12-暗茶褐色土層 (1㎡大のロームブロック少量含む)
- 13-茶褐色土層 (焼土・1㎡大のロームブロック少量含む)
- 14-黄褐色土層 (焼土・1㎡大のロームブロック少量含む)
- 15-茶褐色土層 (焼土・炭化物・1㎡大のロームブロック少量含む)
- 16-茶褐色土層

第82図 C区 第41号住居跡(2)

第42号住居跡（第79図）

（位置）調査区の北端、B'・C'-44グリッドに位置している。

（重複・改築）第38・41・46・47号住居跡と重複する。

（形態・規模）形態は不整形円形を呈し、規模は長径2.78m、短径2.36mを測る。小型である。

（壁・周溝）壁は急な立ち上がりで、深さ25cmを測る。周溝はない。

（柱穴）主柱穴は4本で、ビット8は46住と共通で径35.0×32.0、深さ30.5cm、ビット10は径40.0×30.0、深さ10.1cm、ビット11は径44.0×27.0、深さ24.3cm、ビット12は径30.0×29.0、深さ47.7cmを測る。

（炉）不明。

（時期）縄文時代中期前半の猪沢式期と考えられる。

（出土遺物）遺物は中央東寄りで分布し、深鉢の胴上部、土偶などが出土している。

第43号住居跡（第83図）

（位置）調査区の中央北寄り、D'・E'-42・43グリッドに位置している。

（重複・改築）第67号住居跡と重複。

（形態・規模）東部が一部攪乱を受けている。形態は楕円形を呈するものと考えられる。規模は長径5.84m、短径は4.65mを測る。入口は南側か。

（壁・周溝）壁は急に立ち上がり、深さは24cmを測る。周溝は北西側部分に存在し、幅25cm、深さ10cmを測る。

（柱穴）主柱穴と考えられるものが6本確認できた。ビット1は径50.0×48.0、深さ72.4cm、ビット2は径52.0×48.0、深さ47.5cm、ビット3は径43.0×38.0、深さ73.0cm、ビット4は径48.0×47.0、深さ45.3cm、ビット5は径51.0×51.0、深さ40.7cm、ビット6は径35.0×38.0、深さ60.3cmを測る。

（炉）埋燗炉(E-E')が存在し、掘り方の規模は径174×104cm、深さは26cmを測る。またその北側には地床炉(F-F')があり、径67×65cmの範囲に焼土が広がっている。

（時期）縄文時代中期前半の新道式期。

（出土遺物）埋燗炉周辺に深鉢形土器、椀形土器などが出土している。

第44号住居跡（第79図）

（位置）調査区の北端、B'-44グリッドに位置している。

（重複・改築）第45号住居跡と重複する。

（形態・規模）形態はプランの大部分が調査区外に位置するため不明で、規模は現存値で長径3.18m、短径は0.80mを測る。

（壁・周溝）壁は緩やかな立ち上がりを示し、セクション面で60cmを測る。周溝状のものが認められ、幅25cm、深さ10～20cmを測る。

（柱穴）主柱穴は1本確認でき、ビット1は径45.0×28.0、深さ26.9cmを測る。

（炉）不明。

（時期）縄文時代中期前半の井戸尻式期。

（出土遺物）破片類のみ。

第45号住居跡（第79図）

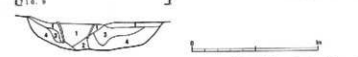
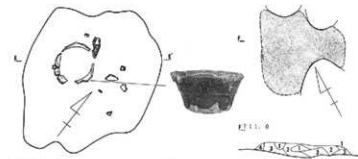
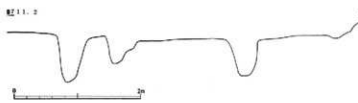
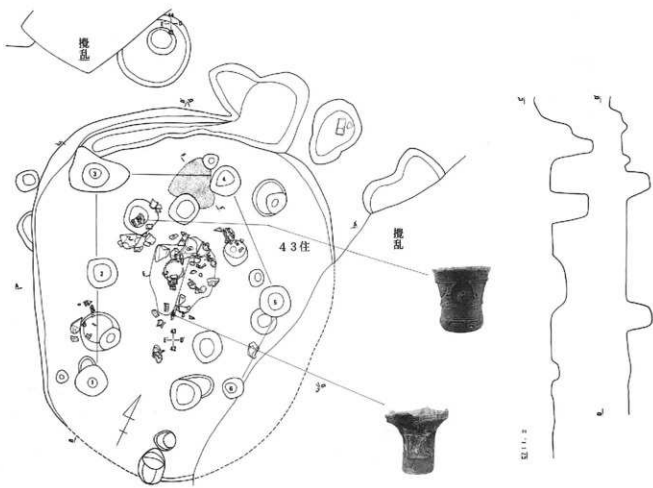
（位置）調査区の北端、B'-44グリッドに位置している。

（重複・改築）第38・44号住居跡と重複する。

（形態・規模）形態はプランの大部分が調査区外に位置するため不明で、規模は現存値で長径4.00m、短径は0.80mを測る。

（壁・周溝）壁は急な立ち上がりで、深さがセクション面で60cmを測る。周溝はない。

（柱穴）主柱穴は1本確認でき、ビット1は径41.0×36.0、深さ40.3cmを測る。



- 43住
- 1-暗茶褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む)
 - 2-淡暗茶褐色土層 (5m大のロームブロック少量含む)
 - 3-暗茶褐色土層 (2m大のロームブロック少量含む)
 - 4-黒褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
 - 5-暗褐色土層 (炭化物少量含む)
 - 6-暗褐色土層 (炭化物・5~10m大のロームブロック少量含む)
 - 7-暗褐色土層 (炭化物少量含む、6層より細かい)
 - 8-暗茶褐色土層 (1~5m大のロームブロック多量含む)
 - 9-暗褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む)
 - 10-黒褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック多量含む)
 - 11-暗褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む、7層より細かい)
 - 12-暗茶褐色土層
 - 13-暗褐色土層 (炭化物・1~5m大のロームブロック少量含む)
 - 14-暗褐色土層 (炭化物・5m大のロームブロック少量含む)
 - 15-暗茶褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
 - 16-暗褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
 - 17-暗褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む)
 - 18-暗褐色土層 (炭化物・5m大のロームブロック少量含む)
 - 19-暗茶褐色土層 (炭化物・5~10m大のロームブロック少量含む)
 - 20-暗茶褐色土層 (5m大のロームブロック少量含む、黒褐色土層入)
 - 21-暗褐色土層 (暗褐色土層入)
 - 22-暗茶褐色土層 (5m大のロームブロック少量含む、茶褐色土層入)
- 43住 跡
- 1-暗褐色土層 (炭化物・2~3m大のロームブロック少量含む)
 - 2-暗茶褐色土層 (茶褐色土層入)
 - 3-赤褐色土層 (粘土多量含む)
 - 4-淡茶褐色土層
- 43住 跡 1
- 1-赤褐色土層 (粘土少量含む)
 - 2-暗褐色土層 (炭化物少量含む)
 - 3-暗茶褐色土層
 - 4-暗茶褐色土層

第83図 C区 第43号住居跡

(炉) 不明。

(時期) 縄文時代中期初頭の五領ケ台Ⅱ式期。

(出土遺物) 破片類のみ。

第46号住居跡 (第79・80図)

(位置) 調査区の北端、B・C-43・44グリッドに位置している。

(重複・改築) 第38・42・47号住居跡と重複している。

(形態・規模) 形態は楕円形と考えられ、規模は推定で径4.65mを測る。南側が攪乱を受けている。

(壁・周溝) 壁は確認できず、周溝はない。

(柱穴) 主柱穴は5本確認でき、ピット5は径35.0×20.0、深さ56.9cm、ピット6は径37.0×36.0、深さ48.3cm、ピット7は径43.0×30.0、深さ58.8cm、ピット8は径36.0×34.0、深さ30.5cm、ピット9は径25.0×23.0、深さ19.1cmを測る。

(炉) 地床炉(H-H)が存在し、規模は径が90cmで、深さ11cmを測る。

(時期) 縄文時代中期前半の藤内Ⅰ式期。

(出土遺物) 第38号住居跡から出土した藤内式期の遺物は、本住居跡に関連するものと思われる。グラタン皿状の土器が出土している。

第47号住居跡 (第79・80図)

(位置) 調査区の北端、B・C-44グリッドに位置している。

(重複・改築) 第38・41・42・46号住居跡と重複。

(形態・規模) 形態は円形を呈するものと考えられ、規模は推定で径4.60mを測る。

(壁・周溝) 壁は確認できず、周溝はない。

(柱穴) 主柱穴は6本で、ピット13は径40.0×31.0、深さ29.7cm、ピット14は径32.0×26.0、深さ54.1cm、ピット15は径39.0×25.0、深さ30.3cm、ピット16は径40.0×33.0、深さ30.0cm、ピット17は径32.0×30.0、深さ15.3cm、ピット18は径39.0×30.0、深さ20.1cmを測る。

(炉) 地床炉(I-I)で、規模は径53×39cm、深さ14cmを測る。

(時期) 縄文時代中期前半の藤内Ⅰ式期。

(出土遺物) 破片類が主体で、量は少ない。

第48・97号住居跡 (第84・85図)

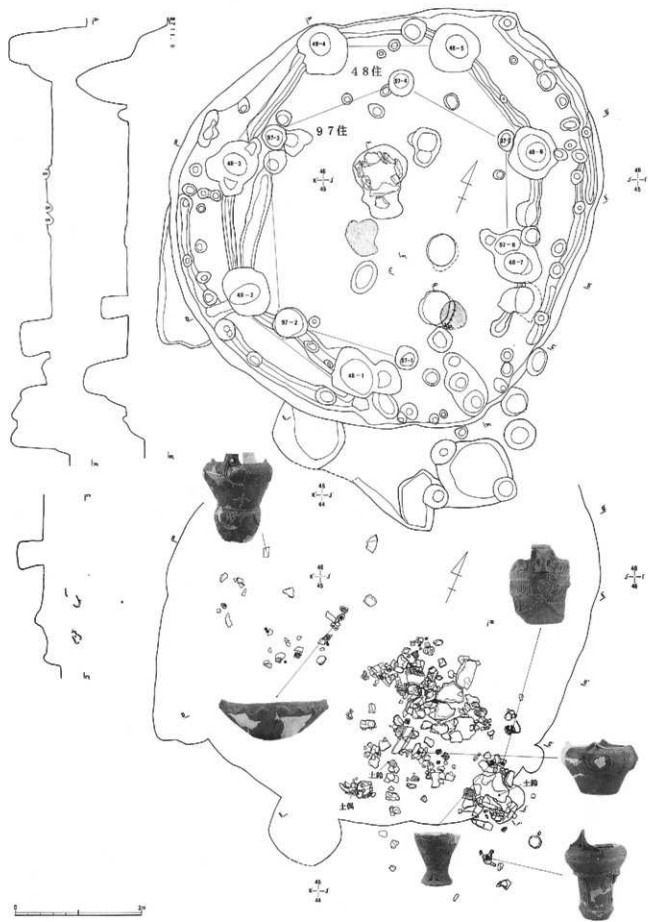
(位置) 調査区の西端、J・K-45・46グリッドに位置している。

(重複・改築) 当初はそれぞれ別の時期の遺構と考えていたが、第97号住居跡の改築後に第48号住居跡となった方が自然である。

(形態・規模) 形態は楕円形を呈するものと考えられ、改築前(改築後)の規模は推定で長径4.90(7.14)m、短径は4.90(6.43)mを測る。97住と48住の床面のレベル差は10cm程度あり、後者の方が低くなっている。東部の周溝の切れた部分が、入口部と考えられる。

(壁・周溝) 壁はやや急な立ち上がりを示し、深さは58cmを測る。周溝は97住は入口部以外は全周し、幅13~30cm、深さ5~30cmを測る。48住は部分的に存在し幅11~28cm、深さ8~23cmを測り、深さ10~20cmの小ピットを伴っている。

(柱穴) 主柱穴は97住では6本確認でき、ピット1は径39.0×37.0、深さ44.8cm、ピット2は径52.0×49.0、深さ56.1cm、ピット3は径40.0×36.0、深さ72.1cm、ピット4は径35.0×24.0、深さ82.8cm、ピット5は径35.0×25.0、深さ45.9cm、ピット6は径60.0×31.0、深さ45.9cmを測る。また48住では7本確認でき、ピット1は径90.0×72.0、深さ81.7cm、ピット2は径84.0×66.0、深さ92.3cm、ピット3は径76.0×63.0、深さ87.1cm、ピット4は径80.0、深さ71.2cm、ピット5は径80.0、深さ88.3cm、ピット6は径86.0×73.0、深さ76.8cm、ピット7は径77.0×54.0、深さ



第84图 C区 第48-97号住居跡(1)



第85图 C区 第48-97号住居迹(2)

67.7cmを測る。

(炉) 石囲炉で、掘り方の規模が115×87cm、深さが25cmで、石組みの規模は一辺が75cmを測る。またこの南側には、地床炉と考えられる焼土が60×50cmの範囲で分布している。

(配石) 入口部と考えられる付近に存在し、3×2.5mの範囲に10cm大の礫や110cmを測る板状の石、そして石椀などの石器類が重なるように集中し、付近および配石内から北陸系の土器などの他、ミニチュア土器、土偶、土鈴、顔面装飾土器破片が出土している。また配石下からは焼土が45×40cmの範囲で分布し、その下から径が55×47cm、深さが55cmを測る袋状土坑(G-G')が発見され、内部の中層付近に土器で蓋をするような状態が確認できた。ここでは、特に土偶や顔面装飾土器の出土状況がとて興味深い。

(時期) 縄文時代中期前半の井戸尻Ⅲ式期。

(出土遺物) 遺物は前述のように配石付近から集中しているが、他にも数個体の土器が出土している。この他、白色顔料が塗布された土偶が出土している。

第49号住居跡 (第86図)

(位置) 調査区の北端、D'-44・45グリッドに位置している。

(重複・改築) 第41・50号住居跡と重複する。

(形態・規模) 中央部が攪乱を受けている。形態は不整楕円形を呈し、規模は長径4.10m、短径4.0mを測る。

(壁・周溝) 壁のセクション面で緩やかな立ち上がりを示し、深さは13cmを測る。周溝はない。

(柱穴) 主柱穴は不明で、深さ20～60cm大のピットが並んでいる。

(炉) 地床炉で、規模が70×45cm、深さが17cmを測る。

(時期) 縄文時代中期前半の井戸尻Ⅰ式期。

(出土遺物) 器台が出土している。遺物は攪乱を受けているせいが少ない。

第50号住居跡 (第86図)

(位置) 調査区の北端、D'・E'-44・45グリッドに位置している。

(重複・改築) 第49・100・101号住居跡と重複している。

(形態・規模) 北側の一部が調査区外である。形態は楕円形で、規模は長径6.90m、短径6.00mを測る。

(壁・周溝) 壁は緩やかに立ち上がり、深さは8cmを測る。周溝は西部にみに存在し、幅26～33cm、深さ10～15cmを測る。

(柱穴) 主柱穴は7本中6本が確認できた。ピット1は径77.0×72.0、深さ65.2cm、ピット2は径60.0×43.0、深さ66.7cm、ピット3は径56.0×53.0、深さ68.8cm、ピット4は径70.0×45.0、深さ51.5cm、ピット5は径55.0×45.0、深さ60.2cm、ピット6が径68.0×66.0、深さ73.9cmを測る。

(炉) 石囲炉で、掘り方の規模が径113×110cm、深さが約26cmを測る。石組みは径が81×68cmで、焼土炉が中心に2.15×1.46cmの範囲に分布している。

(時期) 縄文時代中期前半の藤内Ⅱ式期。

(出土遺物) 遺物は少ない。ピット6付近から深鉢土器が出土している。

第52号住居跡 (第87図)

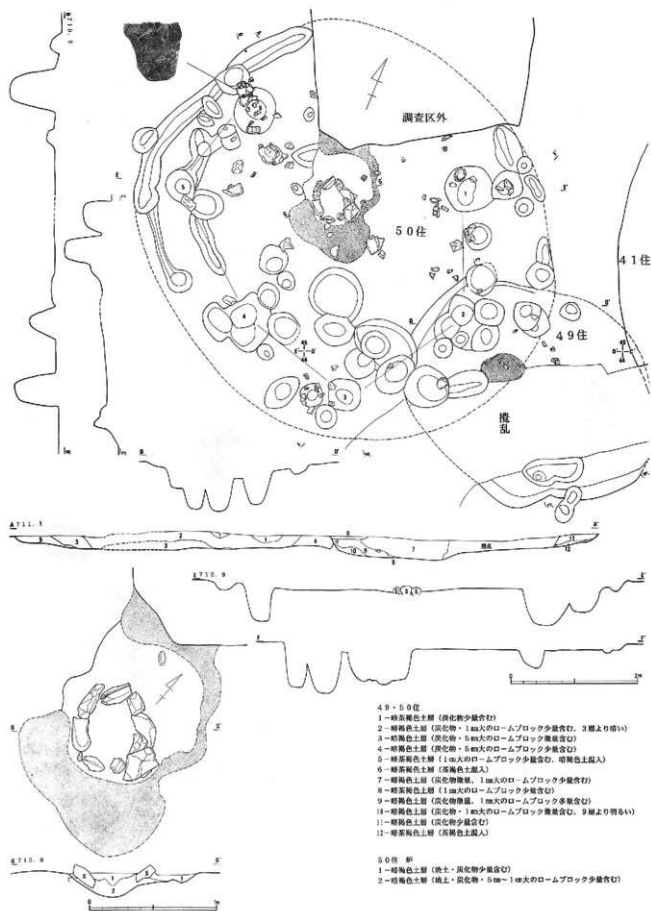
(位置) 調査区の北寄り、E'・F'-32グリッドに位置している。

(重複・改築) 第102号住居跡と重複。

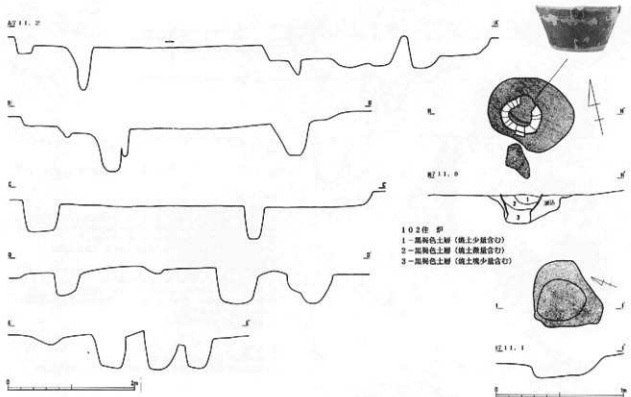
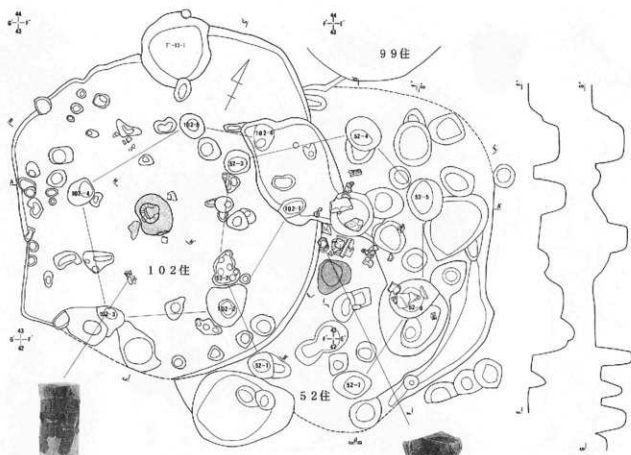
(形態・規模) 形態は楕円形を呈し、規模は推定で長径5.60m、短径は4.50mを測る。入口は南側か。

(壁・周溝) 壁は急に立ち上がり、深さが26cmを測る。周溝は東部のみに存在し、幅が25～70cm、深さ2～25cmを測る。

(柱穴) 主柱穴は7本確認でき、ピット1は径45.0×42.0、深さ59.3cm、ピット2は径36.0×28.0、深さ33.4cm、ピット3は径42.0×38.0、深さ18.4cm、ピット4は径60.0×50.0、深さ56.7cm、ピット5は径68.0×56.0、深さ51.5cm、ピ



第86図 C区 第49・50号住居跡



第87图 C区 第52·102号住居跡

ット6は径80.0×60.0、深さ45.6cm、ピット7は径61.0×53.0、深さ41.7cmを測る。

(炉) 地床炉 (I-I') で、規模が径63×47、深さ47cmを測る。

(時期) 縄文時代中期前半の井戸尻Ⅲ式期と考えられる。

(出土遺物) 炉の付近から深鉢形土器が出土。また、覆土から土偶が2点出土している。

第53号住居跡 (第88図)

(位置) 調査区の北端、C・D'-45・46グリッドに位置している。

(重複・改築) 第41号住居跡と重複する。

(形態・規模) 形態は隅丸長方形を呈する。規模は推定で長径7.35m、短径4.75mを測る。他の住居と比べて異形である。

(壁・周溝) 壁は急な立ち上がりで、深さが25cmを測る。周溝は西部のみに存在し、幅が40～55cm、深さ18～23cmを測る。

(柱穴) 主柱穴は8本中7本が確認でき、ピット1は径24.0×21.0、深さ33.8cm、ピット2は径25.0×20.0、深さ31.4cm、ピット3は径23.0×20.0、深さ37.0cm、ピット4は径60.0×54.0、深さ52.3cm、ピット5は径20.0×18.0、深さ74.9cm、ピット6は径30.0、深さ62.0cm、ピット7は径60.0×50.0、深さ55.8cmを測る。

(炉) 不明。

(時期) 縄文時代中期前半の猪沢式期と考えられる。

(出土遺物) 遺物は主に南部に集中している。西側コーナー付近から土偶の頭部が出土している。

第54号住居跡 (第89・90図)

(位置) 調査区の中央、E・F-41・42グリッドに位置している。

(重複・改築) 第55・56・59号住居跡と重複。

(形態・規模) 形態は楕円形を呈するものと考えられる。規模は長径6.45m、短径は5.85mを測る。入口は南東側か。

(壁・周溝) 壁は確認できない。周溝は西部に存在し、幅17～40cm、深さ15cmを測る。

(柱穴) 主柱穴と考えられるものが6本確認できた。ピット1は径62.0×55.0、深さ56.1cm、ピット2は径90.0×70.0、深さ73.6cm、ピット3は径80.0×65.0、深さ64.3cm、ピット4は径46.0×26.0、深さ48.7cm、ピット5は径57.0×38.0、深さ46.0cm、ピット6は径46.0×45.0、深さ58.1cmを測る。

(炉) 埋燵炉 (F-F') で、規模は径304×182cm、深さは27cmを測る。

(その他の遺構) 炉の北側と西側にフラスコ状土坑があり、前者が径95.0×85.0、深さ70.0cm、後者は径130.0×85.0、深さ75.0cmを測る。

(時期) 縄文時代中期前半の井戸尻Ⅲ式期。

(出土遺物) 主要なものは炉体土器である。

第55・56号住居跡 (第91図)

(位置) 調査区の中央北寄り、E・F-41・42グリッドに位置している。

(重複・改築) 第54・59・67号住居跡と重複する。第55号住居跡の改築の結果、第56号住居跡が構築されたと考えられることができる。

(形態・規模) 形態は不整楕円形を呈する。規模は改築前(改築後)の規模は推定で長径4.00(6.35)m、短径は3.75(5.80)mを測る。入口は北側と考えられる。

(壁・周溝) 壁は緩やかな立ち上がりを示し、深さは5～10cmを測る。周溝は二重に巡り、内側ではほぼ全周し、外側では南東部で切れている。幅は10～20cm、深さ10cm程度を測る。

(柱穴) 主柱穴は55住では7本確認でき、ピット1は径24.0×20.0、深さ33.0cm、ピット2は径30.0×27.0、深さ31.9cm、ピット3は径37.0×33.0、深さ28.4cm、ピット4は土坑と重複、ピット5は径57.0×35.0、深さ40.7cm、ピット6は土坑と重複、ピット7は径18.0×15.0、深さ63.5cmを測る。また56住では6本確認でき、ピット8は径

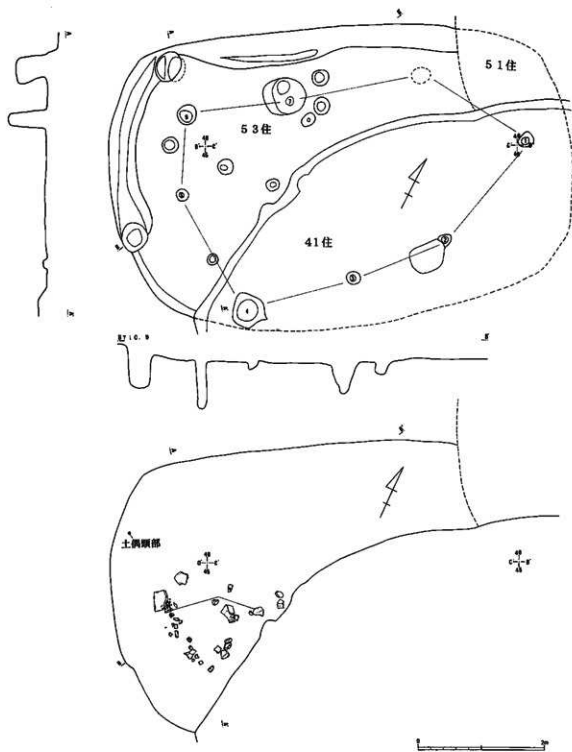
44.0×36.0、深さ64.8cm、ピット9は径48.0×47.0、深さ72.0cm、ピット10は径42.0、深さ62.5cm、ピット11は径48.0×45.0、深さ66.9cm、ピット12は径43.0×38.0、深さ64.8cm、ピット13は径57.0×一、深さ55.3cmを測る。

(炉) 派石炉で、規模は径156×95cm、深さは30cmを測る。

(その他の遺構) 径70~90cm大のフラスコ状土坑が北西部に5基存在する。

(時期) 縄文時代中期前半の井戸尻Ⅰ~Ⅱ式期。

(出土遺物) 炉周辺で深鉢形土器が2個体出土している。



第88図 C区 第53号住居跡

第57号住居跡（第92・93図）

（位置）調査区の北西端、F-45・46グリッドに位置している。

（重複・改築）第95号住居跡と重複する。

（形態・規模）南東部において部分的に攪乱されている。形態は、プランの大部分が95住に切られているため明確ではないが、長楕円形を呈しているものと想定される。規模は推定で長径4.30m、短径は3.90mを測る。

（壁・周溝）壁は不明だが、深さがセクション面で50cmを測る。周溝はない。

（柱穴）主柱穴は4本確認でき、ピット1は径41.0×35.0、深さ9.7cm、ピット2は径36.0×32.0、深さ17.3cm、ピット3は径56.0×(50)、深さ17.5cm、ピット4は径45.0×28.0、深さ6.7cmを測る。攪乱部でピットの存在が予想されるため、主柱穴の総数は5本と想定される。

（炉）不明。

（時期）縄文時代中期前半の新道式期。

（出土遺物）南寄りの部分で、破片資料が数点出土。

第58号住居跡（第94図）

（位置）調査区の北端、C・D'-43・44グリッドに位置している。

（重複・改築）なし。

（形態・規模）形態はほぼ円形と考えられ、規模は推定で径3.30mを測る。東部が入口か。

（壁・周溝）壁は確認できず。周溝はない。

（柱穴）主柱穴は4本確認でき、ピット1は径33.0×22.0、深さ40.6cm、ピット2は径75.0×70.0、深さ54.6cm、ピット3は径38.0×36.0、深さ53.5cm、ピット4は径35.0×26.0、深さ54.5cmを測る。

（炉）添石埋燗炉が存在し、規模は径が90×85cmで、深さ35cmを測る。炉体土器は胴部のみである。

（時期）縄文時代中期前半の藤内I式期。

（出土遺物）遺物は少ないが、土鈴1点の他、ピット3から小型深鉢が出土している。

第59号住居跡（第89・90図）

（位置）調査区の中央、F-40・41グリッドに位置している。

（重複・改築）第54・55・56号住居跡と重複。

（形態・規模）形態は楕円形を呈するものと考えられ、規模は推定で長径6.00m、短径7.0mを測る。入口は南東部と予想される。

（壁・周溝）壁ははっきりしないが、10cm程度の深さが部分的に確認できる。周溝は北部のみに認められ、幅13～26cm、深さ15cmを測る。

（柱穴）主柱穴は6本で、ピット1は径(52)×37.0、深さ26.1cm、ピット2は径54.0×46.0、深さ61.4cm、ピット3は径58.0×46.0、深さ36.0cm、ピット4は径58.0×46.0、深さ33.8cm、ピット5は径65.0×55.0、深さ26.4cm、ピット6は径71.0×67.0、深さ62.7cmを測る。

（炉）石囲炉(G-G)で、規模は径84×82cm、深さ24cmを測る。隣接する袋状土坑は炉より古いものである。

（時期）縄文時代中期前半の井戸尻Ⅲ式期。

（出土遺物）遺物は炉の周辺に集中するが、破片類が主体である。

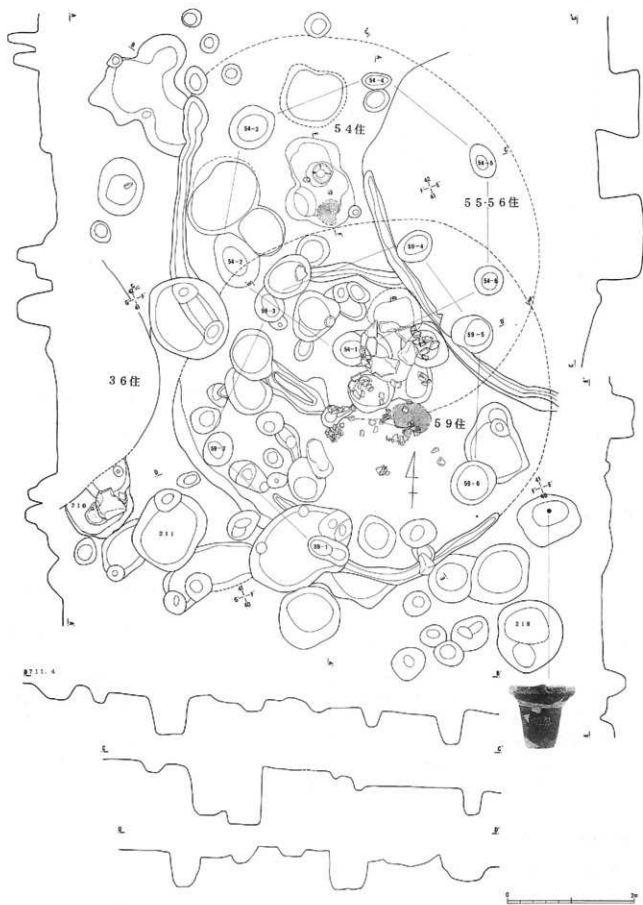
第60号住居跡（第95図）

（位置）調査区の中央北東寄り、D・E'-40・41グリッドに位置している。

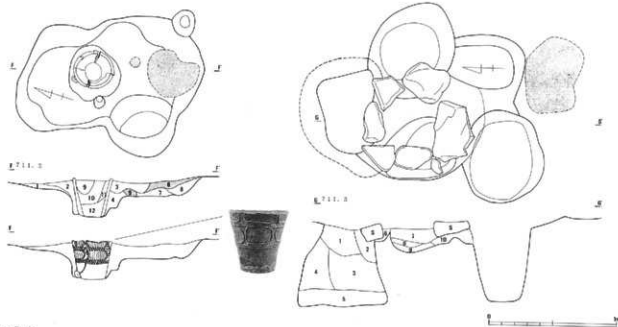
（重複・改築）第61号住居跡と重複。

（形態・規模）形態は円形を呈するものと考えられ、規模は推定で長径4.80m、短径は4.40mを測る。南側が入口か。

（壁・周溝）壁は緩やかな立ち上がりを示し、深さは10.5cmを測る。周溝は南東部の入口部と考えられる部分以外



第89图 C区 第54·59号住居跡(1)



54号 跡

- 1-粘質褐色土層
- 2-粘質高炭褐色土層（粘土多量、1m大のロームブロック多量含む）
- 3-粘質高炭褐色土層（粘土多量、5m大のロームブロック少量含む）
- 4-粘質高炭褐色土層（2m大のロームブロック多量含む）
- 5-高炭褐色土層（粘土多量含む）
- 6-高炭褐色土層（粘土・炭化物多量含む）
- 7-高炭褐色土層（粘土多量含む）
- 8-粘質明高炭褐色土層
- 9-高炭褐色土層（粘土多量、1m大のロームブロック少量含む）
- 10-粘質高炭褐色土層（1m大のロームブロック少量含む）
- 11-粘質高炭褐色土層（粘土・ローム粒子少量含む）
- 12-粘質明高炭褐色土層（ローム粒子少量含む、11層より薄い）

59号 跡

- 1-高炭褐色土層（炭化物少量含む）
- 2-高炭褐色土層（炭化物少量、ローム粒子少量含む）
- 3-粘質高炭褐色土層（粘土・炭化物少量、ローム粒子・5m大のロームブロック少量含む）
- 4-粘質高炭褐色土層（炭化物・炭化物少量、5m~1m大のロームブロック少量含む）
- 5-粘質高炭褐色土層（粘土・炭化物、1~2m大のロームブロック少量含む）
- 6-粘質高炭褐色土層（粘土・炭化物少量、5m大のロームブロック少量含む）
- 7-粘質高炭褐色土層（粘土・炭化物やや多い、1m大のロームブロック少量含む）
- 8-粘質高炭褐色土層（粘土多量、炭化物少量含む）
- 9-粘質高炭褐色土層（粘土・炭化物少量含む）
- 10-粘質高炭褐色土層（炭化物・2m大のロームブロック少量含む）

第90図 C区 第54・59号住居跡(2)

は全周し、幅17~25cm、深さ10~15cmを測る。

(柱穴) 主柱穴は4本確認でき、ビット1は径62.0×35.0、深さ70.0cm、ビット2は径44.0×37.0、深さ59.3cm、ビット3は径65.0×46.0、深さ50.0cm、ビット4は径65.0×55.0、深さ67.6cmを測る。

(竈) 周辺に散在する礎は竈に伴うものと考えられ、形態は石組みが東側のみしか確認できないが石間炉(G-G')と考えられ、掘り方の規模が108×74cm、深さが22cmで、石組みの規模は一辺が57cmを測る。

(その他の施設) 入口部と考えられる付近に袋状土坑が存在し、規模は径67×53cm、深さ95cmを測る。

(時期) 縄文時代中期前半の藤内Ⅱ式期。

(出土遺物) 遺物は竈の南側に集中し、深鉢形土器が4個体の他、竈の北側付近で石棒が出土している。また土坑より小型深鉢形土器が出土しているが、これは猪沢式期のもので本住居に伴うものではない。

第61号住居跡(第95図)

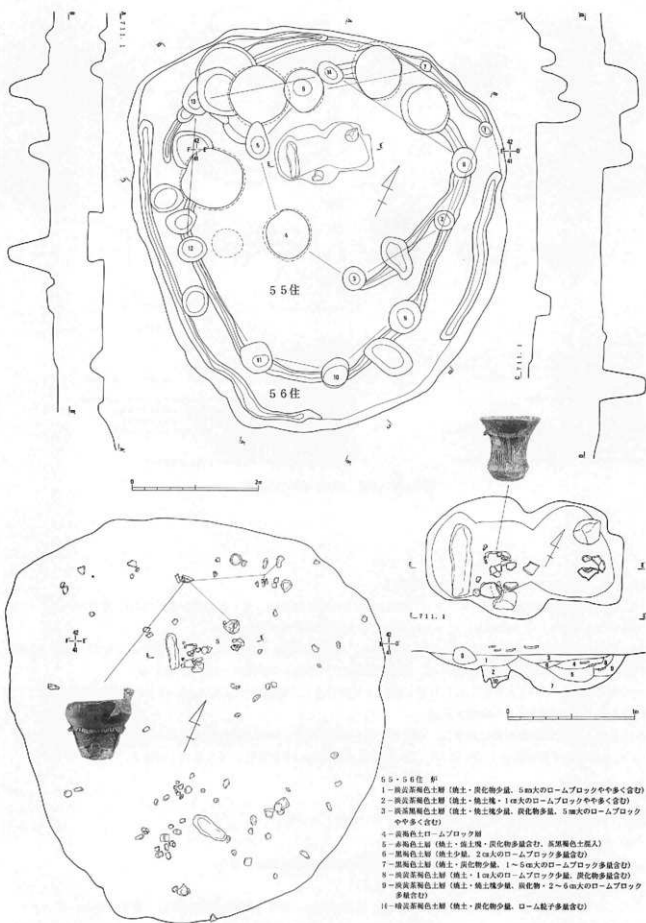
(位置) 調査区の中央北寄り、D'-41・42グリッドに位置している。

(重複・改築) 第60・67号住居跡と重複する。

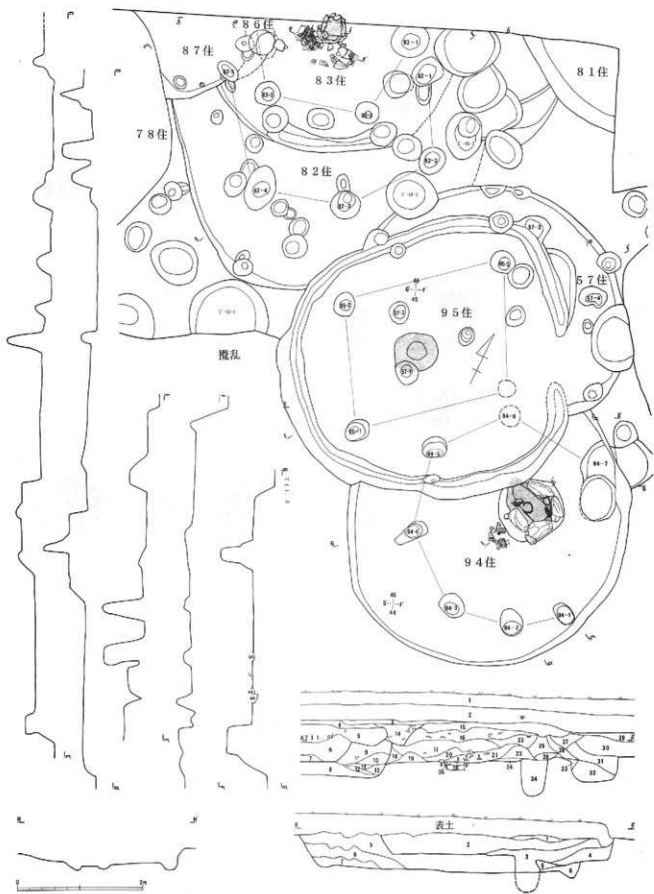
(形態・規模) 形態は円形を呈し、規模は推定で長径4.47m、短径4.40mを測る。

(壁・周溝) 壁は確認できなかった。周溝はない。

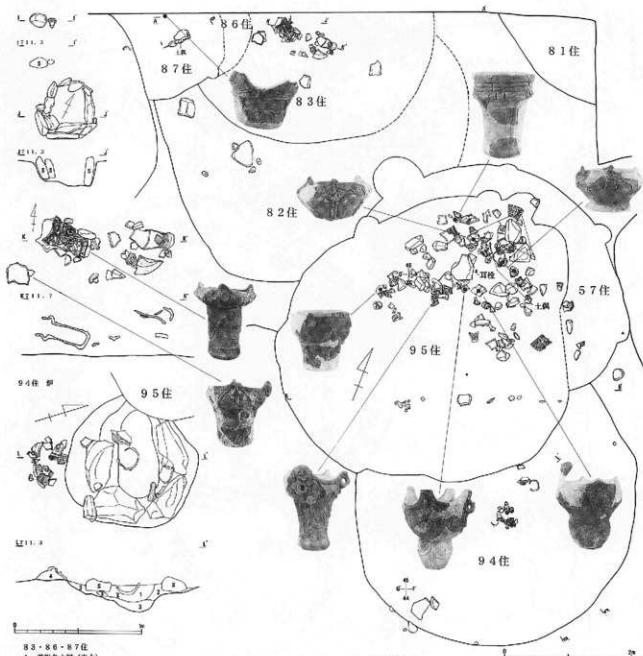
(柱穴) 主柱穴は4本で、ビット1は径90.0×65.0、深さ38.8cm、ビット2は径68.0×45.0、深さ35.9cm、ビット3は径55.0×31.0、深さ44.0cm、ビット4は径35.0×30.0、深さ40.0cmを測る。プラン内に215土や小ビットが多数存在する。



第91図 C区 第55・56号住居跡



第92图 C区 第57-81~83-86-87-94-95号住居跡(1)



83・86・87住

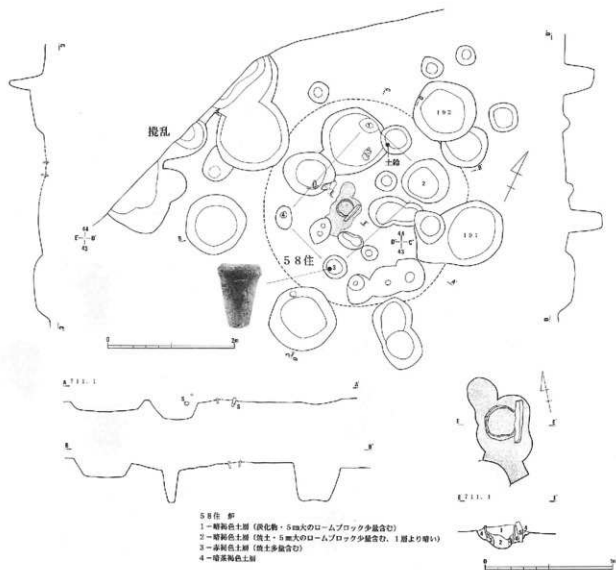
- 1-茶褐色土層(表土)
- 2-黒炭褐色土層
- 3-黒褐色土層
- 4-黒褐色土層(灰褐色土層入)
- 5-黒褐色土層(炭化物・1m大のローム粒子多量含む)
- 6-鉄黒褐色土層(焼土・炭化物・2m大のローム粒子多量含む)
- 7-鉄黒褐色土層(5m大のロームブロック少量含む)
- 8-鉄黒褐色土層(炭化物・2m大のローム粒子少量含む)
- 9-鉄黒褐色土層(炭化物・1m大のローム粒子少量含む)
- 10-鉄黒褐色土層(焼土・炭化物少量・5m大のローム粒子少量含む、暗茶褐色土層入)
- 11-鉄黒褐色土層(1m大のローム粒子少量含む)
- 12-鉄褐色土層
- 13-鉄黒褐色土層
- 14-鉄黒褐色土層(焼土・炭化物少量・3m大のローム粒子少量含む)
- 15-鉄黒褐色土層(1~2m大のローム粒子多量含む、1層より明るい)
- 16-鉄黒褐色土層(炭化物少量・1m大のローム粒子多量含む)
- 17-鉄黒褐色土層(焼土・炭化物・1~2m大のローム粒子多量含む)
- 18-鉄褐色土層(炭化物・1~2m大のローム粒子少量含む)
- 19-鉄褐色土層(5m大のロームブロック少量含む)
- 20-鉄褐色土層(炭化物・2m大のローム粒子少量含む)
- 21-鉄黒褐色土層(焼土・炭化物少量・2m大のローム粒子少量含む)
- 22-茶褐色土層(炭化物・5m大のロームブロック少量含む、暗茶褐色土層入)
- 23-茶褐色土層(炭化物少量・8m大のロームブロック少量含む)
- 24-鉄黒褐色土層(2m大のロームブロック少量含む)
- 25-鉄黒褐色土層(焼土・炭化物・1m大のローム粒子少量含む)
- 26-鉄黒褐色土層(3層より明るい)

- 27-茶褐色土層
- 28-暗茶褐色土層(5m大のロームブロック少量含む)
- 29-黒褐色土層(焼土多量含む)
- 30-茶褐色土層(炭化物・1m大のローム粒子少量含む、鉄褐色土層入)
- 31-暗茶褐色土層(2m大のロームブロック少量含む、暗茶褐色土層入)
- 32-暗茶褐色土層(炭化物少量含む)
- 33-明茶褐色土層
- 34-明茶褐色土層(焼土・炭化物少量・5m~2m大のロームブロック多量含む)
- 35-明茶褐色土層(焼土・炭化物少量含む)
- 36-暗茶褐色土層(炭化物・2~5m大のローム粒子少量含む)

94住・95住

- 1-暗茶褐色土層
- 2-暗褐色土層
- 3-暗褐色土層(暗茶褐色土層入り、2層より明るい)
- 4-暗褐色土層(1m大のロームブロック少量含む)
- 5-暗褐色土層
- 6-暗褐色土層(2層に暗部)
- 7-暗褐色土層(1m大のロームブロック少量含む、6層より明るい)

第93図 C区 第57・81~83・86・87・94・95号住居跡(2)



第92図 C区 第58号住居跡

(炉) 地床炉 (H-H) で、規模が126×100cm、深さが45cmを測る。焼上は50×45、45×32cmの範囲で二カ所に分布している。

(時期) 縄文時代中期前半の新道式期。

(出土遺物) 全体的に遺物は少ないが、215土とも切り合うビット2から土銅が出土している。

第62号住居跡 (第96図)

(位置) 調査区の北端、B'・C'-41・42グリッドに位置している。

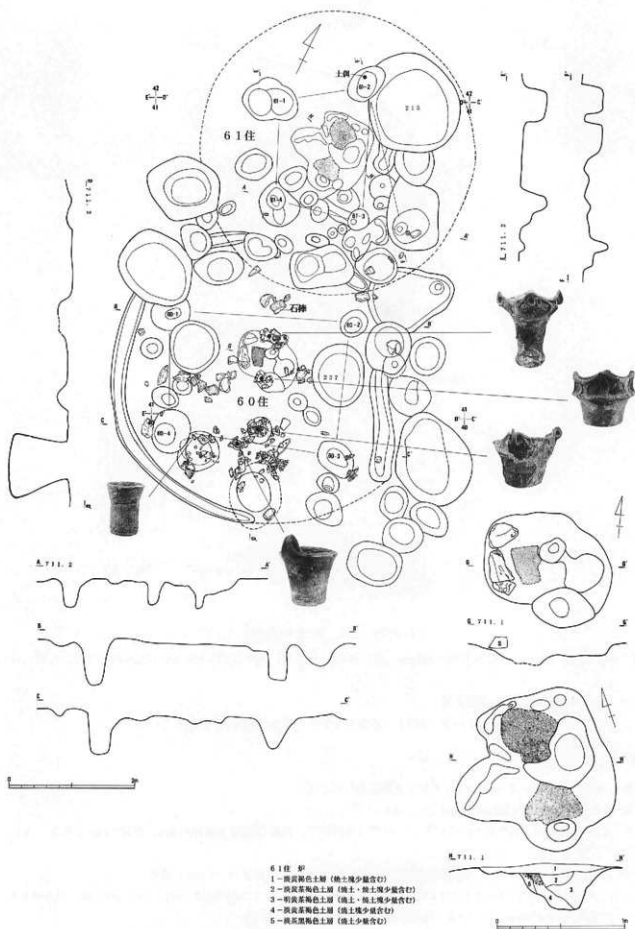
(重複・改築) 第65・69号住居跡と重複している。

(形態・規模) 北側の一部が調査区外である。形態は楕円形で、規模は推定で長径5.00m、短径4.30mを測る。入口は東側と推定される。

(壁・周溝) 壁は確認できない。周溝は南北に存在し、幅18～35cm、深さ10～15cmを測る。

(柱穴) 主柱穴は4本で、ビット1は径47.0×44.0、深さ68.2cm、ビット2は径48.0×47.0、深さ66.1cm、ビット3は径40.0×28.0、深さ57.0cm、ビット4は径42.0×39.0、深さ66.1cmを測る。

(炉) 地床炉 (I-I') で、2つの添石状のものを伴う。規模は径83×55cm、深さが約15cmを測る。



第95图 C区 第60·61号住居跡

(時代) 縄文時代中期前半の藤内Ⅱ式期。

(出土遺物) 遺物は少ないが、入口部に集中し、深鉢の胴上部のみが4個体出土している。また南西部から土偶が出土している。

第63号住居跡 (第97-98図)

(位置) 調査区の北端、A'・B'-42・43グリッドに位置している。

(重複・改築) 第38・64・65号住居跡と重複。

(形態・規模) 形態は円形を呈し、規模は長径6.05m、短径は推定で5.45mを測る。大部分が調査区外。

(壁・周溝) 壁は緩やかに立ち上がり、深さが4cmを測る。周溝と考えられるものが部分的に存在する。

(柱穴) 主柱穴は4本中3本確認でき、ビット1は径56.0×52.0、深さ88.3cm、ビット2は径52.0×50.0、深さ65.1cm、ビット3は径(58)×50.0、深さ42.7cmを測る。

(炉) 不明。

(時期) 縄文時代中期前半の藤内Ⅰ式期と考えられる。

(出土遺物) 64住との切り合い付近に遺物は集中している。深鉢土器や土偶が出土。

第64号住居跡 (第97-98図)

(位置) 調査区の北端、B'・C'-42・43グリッドに位置している。

(重複・改築) 第38・63・65号住居跡と重複する。

(形態・規模) 形態は円形を呈する。規模は現存値で長径4.40m、短径4.00mを測る。北側が攪乱を受け、東側1/3程度が調査区外に位置している。

(壁・周溝) 壁はやや急な立ち上がりで、深さが20cmを測る。周溝はない。

(柱穴) 主柱穴は4本中3本が確認でき、ビット1は径35.0×37.0、深さ68.2cm、ビット2は径50.0×24.0、深さ68.3cm、ビット3は径(65)×52.0、深さ47.1cmを測る。

(炉) 不明。

(時期) 縄文時代中期前半の新道式期。

(出土遺物) 遺物は少ない。

第65号住居跡 (第97-98図)

(位置) 調査区の北東端、B-42・43グリッドに位置している。

(重複・改築) 第63号住居跡と重複。

(形態・規模) 形態は推定で円形を呈するものと考えられる。規模は長径4.23m、短径は現存値で3.30mを測る。約1/4が調査区外。

(壁・周溝) 壁は緩やかに立ち上がり、深さが10cmを測る。周溝はない。

(柱穴) 主柱穴と考えられるものが4本中3本が確認できた。ビット1は径55.0×50.0、深さ58.5cm、ビット2は径60.0×51.0、深さ76.5cm、ビット3は径25.0×17.0、深さ20.0cmを測る。

(炉) 埋燵炉(H-H')で、規模は径105×80cm、深さは17cmを測る。焼土は153×79cmの範囲に広がる。

(時期) 縄文時代中期初頭の五領ヶ台Ⅱ式期。

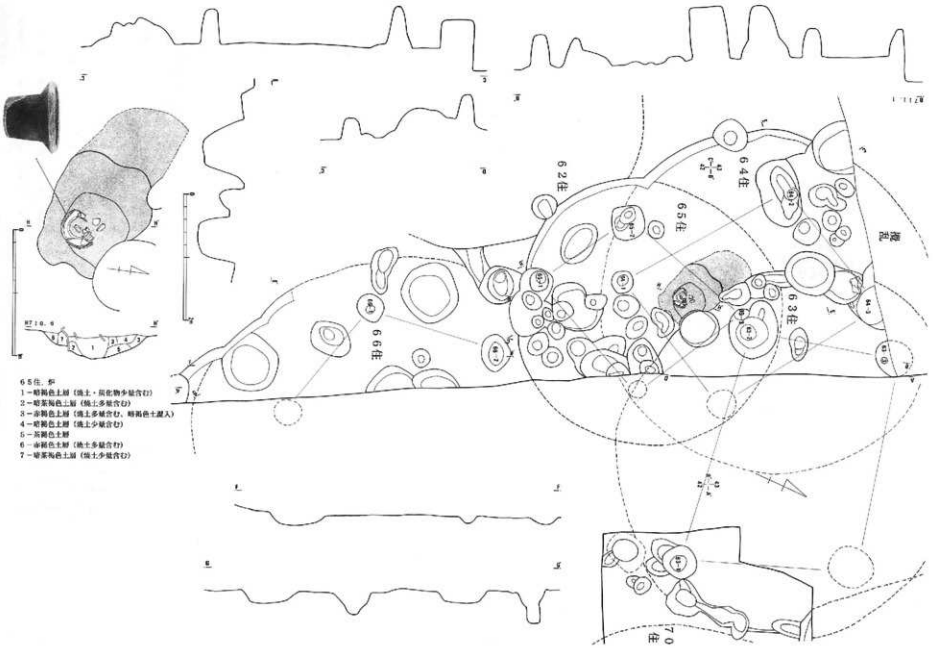
(出土遺物) 主要なものは炉体土器である。94住との境界付近に集中する。

第66号住居跡 (第97-98図)

(位置) 調査区の北東端、B'-41・42グリッドに位置している。

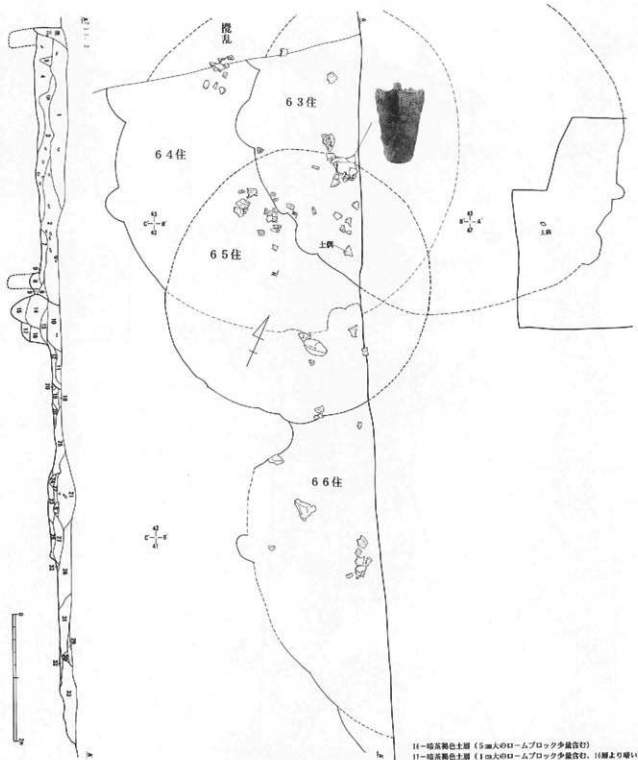
(重複・改築) 第65号住居跡と重複する。

(形態・規模) 形態は楕円形を呈するものと考えられる。規模は長径5.70m、短径は現存値で2.00mを測る。約2/3が調査区外。



- 6.5住、序
- 1—暗紫色土層（壤土・灰化物少量含む）
- 2—暗茶褐色土層（壤土多量含む）
- 3—赤褐色土層（壤土多量含む、暗褐色土層入）
- 4—暗褐色土層（壤土少量含む）
- 5—灰褐色土層
- 6—赤褐色土層（壤土多量含む）
- 7—暗茶褐色土層（壤土少量含む）

第97图 C区 第63—66号住居跡(1)



- 63・64・65・66住
- 1-暗褐色土層 (炭化物・5m~1m大のロームブロック少量含む)
 - 2-暗黒褐色土層 (焼土・5m大のロームブロック少量、炭化物多量含む)
 - 3-暗褐色土層 (炭化物多量、5m~1m大のロームブロック少量含む、1層より厚い)
 - 4-暗褐色土層 (炭化物・1m~1m大のロームブロック少量含む)
 - 5-黒褐色土層 (炭化物少量含む)
 - 6-暗褐色土層 (炭化物少量含む)
 - 7-暗褐色土層 (焼土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
 - 8-暗褐色土層 (5m大のロームブロック少量含む)
 - 9-暗茶褐色土層 (炭化物少量含む、黒褐色土層入)
 - 10-暗褐色土層 (炭化物・1~5m大のロームブロック少量含む)
 - 11-暗茶褐色土層 (炭化物少量含む)
 - 12-暗茶褐色土層 (炭化物少量含む、1層より薄い)
 - 13-暗茶褐色土層 (炭化物少量含む、1層より薄い)
 - 14-暗褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
 - 15-暗褐色土層 (5m大のロームブロック少量含む)
 - 11-暗茶褐色土層 (5m大のロームブロック少量含む)
 - 11-暗茶褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む、1層より薄い)
 - 11-暗茶褐色土層 (炭化物・5m大のロームブロック少量含む)
 - 11-暗茶褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む、1層より薄い)
 - 11-黒褐色土層
 - 21-暗茶褐色土層 (炭化物・5m~1m大のロームブロック少量含む)
 - 22-暗褐色土層 (焼土・炭化物少量含む)
 - 23-暗褐色土層 (焼土少量含む)
 - 24-暗褐色土層 (炭化物少量含む)
 - 25-暗褐色土層 (5m大のロームブロック少量含む)
 - 26-暗茶褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む)
 - 27-暗褐色土層 (焼土・炭化物少量含む)
 - 28-暗茶褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
 - 29-暗茶褐色土層
 - 30-暗褐色土層
 - 31-暗茶褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む、暗褐色土層入)
 - 32-暗褐色土層
 - 33-暗茶褐色土層 (炭化物・5m~1m大のロームブロック少量含む)

第98図 C区 第63～66号住居跡(2)

(壁・周溝) 壁は急に立ち上がり、深さが25cmを測る。周溝はない。
(柱穴) 主柱穴は2本確認でき、ビット1は径45.0×40.0、深さ14.5cm、ビット2は径60.0×45.0、深さ10.8cmを測る。
(炉) 不明。
(時期) 縄文時代中期初頭の五領ヶ台Ⅱ式期。
(出土遺物) 中央付近に遺物が集中するが、破片類が主体。

第67号住居跡 (第99図)

(位置) 調査区の中央北寄り、D'・E'-41・42グリッドに位置している。
(重複・改築) 第43・55・56・61号住居跡と重複する。
(形態・規模) 北部で一部攪乱が見られる。形態は不整形を呈し、規模は推定で長径4.65m、短径は4.30mを測る。
(壁・周溝) 壁は確認できなかつた。周溝はない。
(柱穴) 主柱穴は4本確認でき、ビット1は径50.0×46.0、深さ47.8cm、ビット2は径35.0×30.0、深さ37.0cm、ビット3は径48.0×45.0、深さ43.2cm、ビット4は径26.0×23.0、深さ19.1cmを測る。
(炉) ビットに囲まれた中央の土坑が地床炉と考えられ、径120×105cm、深さ10cmを測る。
(時期) 縄文時代中期初頭の五領ヶ台Ⅱ式期。
(出土遺物) 破片資料が数点出土。

第68号住居跡 (第74図)

(位置) 調査区の北東端、B'・C'-40・41グリッドに位置している。
(重複・改築) 第35号住居跡と重複する。
(形態・規模) 形態は楕円形と考えられ、規模は推定で長径5.20m、短径4.50mを測る。一部調査区外。
(壁・周溝) 壁は緩やかに立ち上がり、深さ18cmを測る。周溝は南西部に存在し、幅12～36cm、深さ5cmを測る。
(柱穴) 主柱穴は4本確認でき、ビット1は径55.0×45.0、深さ40.0cm、ビット2は径67.0×60.0、深さ64.5cm、ビット3は径80.0×68.0、深さ65.9cm、ビット4は径67.0×54.0、深さ63.1cmを測る。
(炉) 添石炉状の石囲炉が存在し、規模は径56×53cmで、深さ21cmを測る。焼土は42×28cmの範囲で分布。
(時期) 縄文時代中期前半の藤内Ⅰ式期。
(出土遺物) 炉付近で遺物がまとまって出土している。また、北西部のプランぎりぎりの所から土鈴が出土している。

第69号住居跡 (第96図)

(位置) 調査区の北寄り、B'・C'-41・42グリッドに位置している。
(重複・改築) 第62号住居跡と重複。
(形態・規模) 形態は楕円径を呈するものと考えられ、規模は推定で長径6.00m、短径5.30mを測る。
(壁・周溝) 壁は緩やかな立ち上がりを持ち、10cm程度の深さが部分的に確認できる。周溝はない。
(柱穴) 主柱穴は7本で、ビット1は径50.0×43.0、深さ65.9cm、ビット2は径43.0×30.0、深さ57.6cm、ビット3は径23.0×18.0、深さ62.4cm、ビット4は径27.0×27.0、深さ47.7cm、ビット5は径49.0×48.0、深さ51.4cm、ビット6は径38.0×37.0、深さ62.4cm、ビット7は径42.0×37.0、深さ48.7cmを測る。
(炉) 地床炉(H-H')で、規模は径118×72cm、深さ25cmを測る。焼土は112×96cmの範囲で分布している。
(時期) 縄文時代中期前半の猪沢式期。
(出土遺物) 大部分が62住に切られているため、本住居に伴う遺物はとても少ない。

第70号住居跡 (第100図)

(位置) 調査区の北端、A'・A'-42・43グリッドに位置している。
(重複・改築) 第72号住居跡と重複。

(形態・規模) 南北両サイドが調査区外に位置している。形態は円形を呈するものと考えられ、規模は長径が現存値で3.15m、短径は推定で4.65mを測る。

(壁・周溝) 壁は急な立ち上がりを示し、深さはセクション面で25cmを測る。周溝はない。

(柱穴) 主柱穴は5本中3本が確認でき、ビット1は径45.0×43.0、深さ57.4cm、ビット2は径80.0、深さ64.7cm、ビット3は径41.0×33.0、深さ51.6cmを測る。

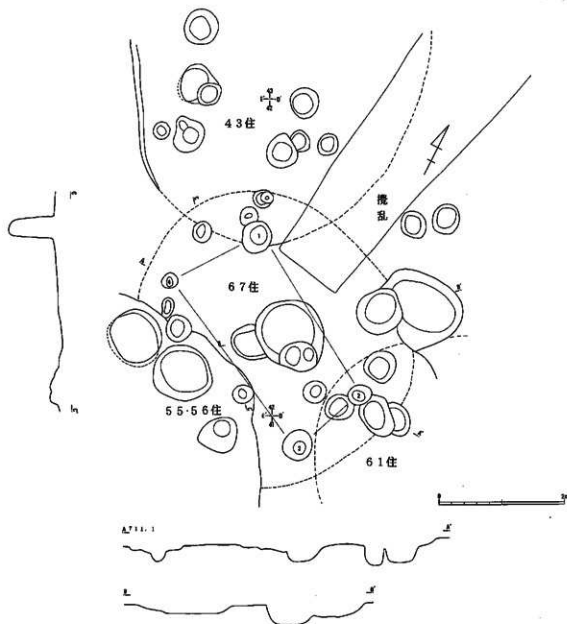
(炉) 地床炉と考えられる焼土が240×75cmの範囲で分布している。また北部に40×30cmの範囲に焼土が広がっている。

(時期) 縄文時代中期初頭の五領ヶ台Ⅱ式期。

(出土遺物) 遺物は少なく、グリッド一括出土資料が主体を占める。

第72号住居跡 (第100図)

(位置) 調査区の北端、A-42・43グリッドに位置している。



第99図 C区 第67号住居跡(2)

(重複・改築) 第70号住居跡と重複する。

(形態・規模) 約3/4が調査区外に位置している。形態は楕円形を呈するものと考えられ、規模は現存値で長径4.00m、短径3.05mを測る。

(壁・周溝) 壁は急な立ち上がりを示し、セクション面で深さ50cmを測る。周溝はない。

(柱穴) D-D'にかかる部分に、深さが55~70cmを測るピットが存在するが、主柱穴か否かは断定できない。

(炉) 不明。

(時期) 縄文時代中期前半の藤内式期。

(出土遺物) 全体的に遺物は少ない。

第73号住居跡 (第57図)

(位置) 調査区の北東端、A-40グリッドに位置している。

(重複・改築) なし。

(形態・規模) 大部分が調査区外である。形態は不明で、規模は現存値で長径1.50m、短径0.60mを測る。

(壁・周溝) 壁は明確ではないが、深さ3~5cmを測る。周溝はない。

(柱穴) 主柱穴は不明であるが、深さ20cm程度を測るピットが3本認められる。

(炉) 不明。

(時期) 縄文時代中期。

(出土遺物) 遺物はほとんどない。

第74号住居跡 (第101・102図)

(位置) 調査区の南東端、C・D'-32・33グリッドに位置している。

(重複・改築) なし。

(形態・規模) 形態は不整形円形を呈し、規模は長径4.83m、短径は4.60mを測る。

(壁・周溝) 壁は緩やかに立ち上がり、深さが両側で17cmを測る。周溝はない。

(柱穴) 主柱穴は4本確認でき、ピット1は径32.0×28.0、深さ48.6cm、ピット2は径30.0×28.0、深さ43.9cm、ピット3は径32.0×29.0、深さ37.2cmの掘り込みを持ち、上層部に土器片が集中していた。

(時期) 縄文時代中期前半の猪沢式期と考えられる。

(出土遺物) 土器片類が主体を占めるが、平出皿類A系土器との伴出関係が窺える。また、土偶1点のほか、重機による表土削除中に完形の石皿が出土した。また管玉片も1点出土している。

第75号住居跡 (第99・100図)

(位置) 調査区の南東端、B・C'-33グリッドに位置している。

(重複・改築) なし。

(形態・規模) 形態は円形を呈するものと考えられる。規模は現存値で長径5.20m、短径2.80mを測る。北側1/3程度が調査区外に位置している。

(壁・周溝) 壁は急な立ち上がりで、深さが37cmを測る。周溝は全周するものと考えられ、幅30cm、深さ10cmを測る。

(柱穴) 主柱穴は5本確認でき、ピット1は径58.0×46.0、深さ72.2cm、ピット2は径86.0×79.0、深さ46.9cm、ピット3は径47.0×43.0、深さ71.1cm、ピット4は径58.0×45.0、深さ73.9cm、ピット5は径52.0×45.0、深さ43.7cmを測る。

(炉) 地床炉で、径112.0×55.0cmの範囲に焼土が分布し、付近から深鉢の口辺部が出土。

(時期) 縄文時代中期前半の猪沢式期。

(出土遺物) 炉および調査区壁沿いに遺物が集中している。ピット2内部から土偶1点、また特殊なものに貝輪をモチーフにした土製品の破片が出土している。

第76号住居跡 (第103図)

(位置) 調査区の南東端、E-33・34グリッドに位置している。

(重複・改築) なし。

(形態・規模) 形態は円形を呈するものと考えられる。規模は現存値で長径4.00m、短径は1.25mを測る。大部分が調査区外に位置している。

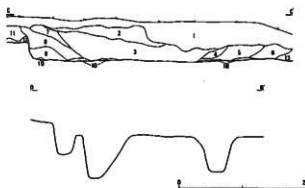
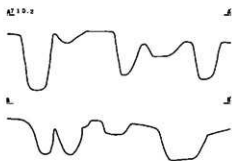
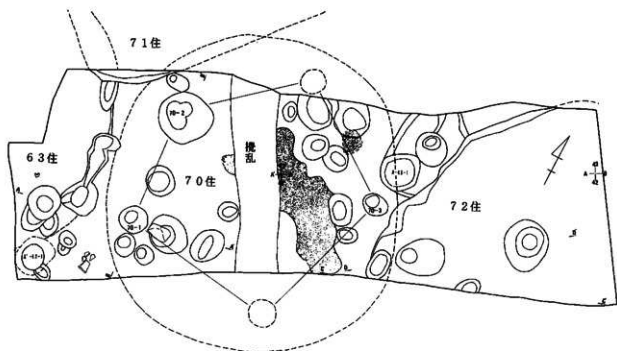
(壁・周溝) 壁は緩やかに立ち上がり、深さはセクション面で40cmを測る。周溝はない。

(柱穴) 主柱穴は1本確認できた。ピットIは径49.0×47.0、深さ42.8cmを測る。

(炉) 地床炉で、径57.0×(22)の範囲で焼土が分布している。E-34-5土と隣接している。

(時期) 縄文時代中期前半の竝沢式期と考えられる。

(出土遺物) 土器片類が主体を占めるが、土坑との切り合いが多く伴出関係はよくわからない。



72住

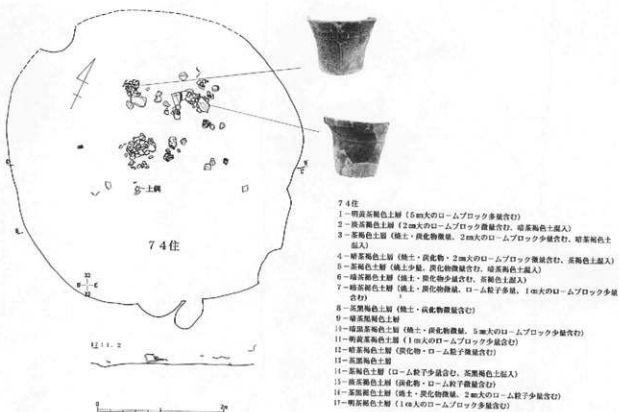
- 1-黒褐色土層 (黄土)
- 2-暗褐色土層 (炭化物・1~5mm大のロームブロック少量含む)
- 3-暗褐色土層 (炭化物・1m~1cm大のロームブロック少量含む)
- 4-暗褐色土層 (炭化物・5mm大のロームブロック少量含む)
- 5-暗褐色土層 (炭化物・1~5mm大のロームブロック少量含む)
- 6-暗褐色土層 (炭化物・5mm大のロームブロック少量含む、黒褐色土層入)
- 7-暗褐色土層 (炭化物・1~5mm大のロームブロック少量含む)

- 8-黒褐色土層 (炭化物多量、5m~1cm大のロームブロック少量含む)
- 9-暗褐色土層 (炭化物多量、1cm大のロームブロック少量含む)
- 10-黒褐色土層
- 11-暗褐色土層 (炭化物・1cm大のロームブロック少量含む)
- 12-暗褐色土層 (5mm大のロームブロック少量含む)
- 13-黒褐色土層 (炭化物少量含む)

第100図 C区 第70~72号住居跡(2)



第101图 C区 第74-75号住居跡(1)



第102図 C区 第74・75号住居跡(2)

第77号住居跡 (第103図)

(位置) 調査区の南東端、E-34・35グリッドに位置している。

(重複・改築) なし。

(形態・規模) 形態は円形を呈するものと考えられる。規模は現存値で長径4.00m、短径3.90mを測る。全体の3/4程度が調査区外に位置している。

(壁・周溝) 壁は不明だが、深さはセクション面で37cmを測る。周溝はない。

(柱穴) 主柱穴は3本が確認でき、ビット1は径47.0×(38)、深さ34.3cm、ビット2は径42.0×(18)、深さ52.6cm、ビット3は径60.0×54.0、深さ44.6cmを測る。

(炉) 地床炉で、径64.0×(25)cmの範囲に焼土が分布し、付近に礫が存在する。

(時期) 縄文時代中期後半の曾利V式期と考えられる。

(出土遺物) 土器片類が主体を占めるが、土坑との切り合いが多く伴出関係はよくわからない。

第78号住居跡 (第104・105図)

(位置) 調査区の北西端、G・H-46・47グリッドに位置している。

(重複・改築) 第80・82・86・87号住居跡と重複。

(形態・規模) 形態はほぼ円形を呈する。規模は長径6.03m、短径は5.06mを測る。

(壁・周溝) 壁はやや急に立ち上がり、深さが22~55cmを測る。周溝状の溝は西部に認められ、幅15~20cmを測る。

(柱穴) 主柱穴と考えられるものが5本確認できた。ビット1は径75.0×62.0、深さ65.2cm、ビット2は径72.0×58.0、深さ78.5cm、ビット3は径70.0×55.0、深さ92.4cm、ビット4は径51.0×32.0、深さ75.8cm、ビット5は径

72.0×50.0、深さ54.5cmを測る。

(炉) 地床炉(F-F)で、掘り込みの規模は径78×62cm、深さは14cmを測る。焼土は128×41cmの範囲に広がる。

(その他の遺構) 袋状土坑が5基認められる。規模は径50～65cm、深さ50～80cmを測る。

(時期) 縄文時代中期前半の藤内Ⅰ式期。

(出土遺物) 特殊器形の土器などが10個体以上出土しているほか、土偶と土匙が各一点出土している。

第79号住居跡 (第106図)

(位置) 調査区の北西端、H・I-46・47グリッドに位置している。

(重複・改築) 第92号住居跡と重複する。

(形態・規模) 形態は円形を呈する。規模は長径4.84m、短径は4.64mを測る。南東部が入口か。

(壁・周溝) 壁は急に立ち上がり、深さが24cmを測る。周溝は主柱穴に沿って存在し、幅20～40cm、深さ5～10cmを測る。

(柱穴) 主柱穴は6本確認でき、ビット1は径74.0×60.0、深さ69.4cm、ビット2は径77.0×65.0、深さ63.2cm、ビット3は径62.0×59.0、深さ63.4cm、ビット4は径63.0×56.0、深さ38.8cm、ビット5は径45.0×40.0、深さ53.9cm、ビット6は径50.0×45.0、深さ64.4cmを測る。また壁沿いには径15～30cmの小ビットが巡っている。

(炉) 地床炉(E-E)で、掘り込みの規模は径111×92cm、深さは12cmを測る。焼土は112×65cmの範囲に広がる。炉およびその周辺に遺物が集中しているが、中でも炉本体の覆土上層からは35cm大の枕状の石に挟まれた状態で土器が出土している。これは炉の機能が終了した段階における儀式的なものと考えられる。

(時期) 縄文時代中期前半の新道式期。

(出土遺物) 炉内部から出土した3個体の土器のほか、覆土中からも赤彩された有孔鈔付土器を含む2個体が出土している。これとは別に直接伴わないがビット4は256土と切り合い、漆塗の浅鉢形土器の破片が出土している。

第80号住居跡 (第105図)

(位置) 調査区の北西端、H・I-46・47グリッドに位置している。

(重複・改築) 第78号住居跡と重複する。

(形態・規模) 大部分が調査区外のため、形態は不明。規模は現存値で長径4.05m、短径は1.20mを測る。

(壁・周溝) 壁は急な立ち上りを示し、深さが15cmを測る。周溝はない。

(柱穴) 主柱穴は不明。

(炉) 不明。

(時期) 縄文時代中期前半の井戸尻Ⅱ～Ⅲ式期。

(出土遺物) 破片資料が数点出土。

第81号住居跡 (第92・93図)

(位置) 調査区の北西端、F-46グリッドに位置している。

(重複・改築) なし。

(形態・規模) 確認できたのは全体の1/5程度である。形態は円形と考えられ、規模は現存値で長径1.55m、短径1.30mを測る。

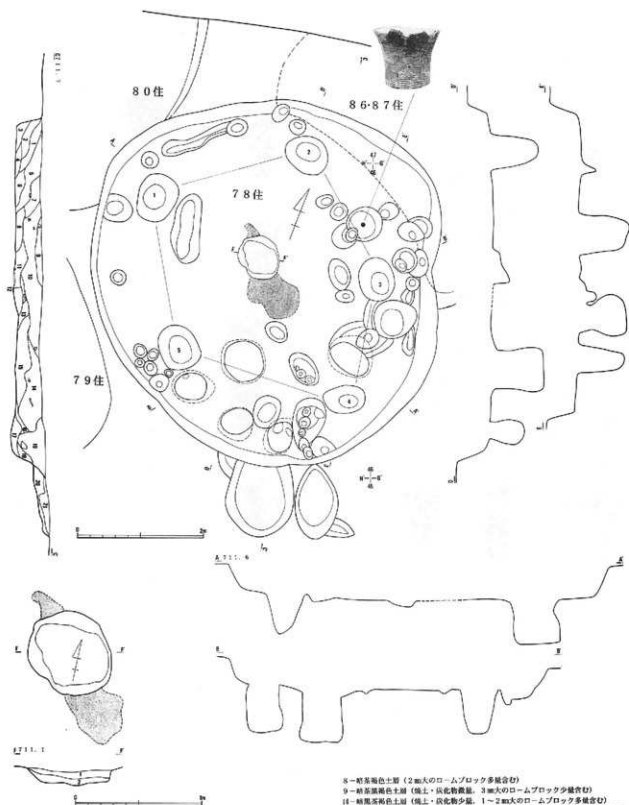
(壁・周溝) 壁はやや急に立ち上がり、深さ52cmを測る。周溝はなし。

(柱穴) 主柱穴は不明。

(炉) 不明。

(時期) 縄文時代中期前半の藤内Ⅱ式期。

(出土遺物) 破片資料が数点出土。



78号住

1-暗茶褐色土層 (炭化物微量, 1~2m大のロームブロック多量含む, 茶褐色土層入)

2-暗茶褐色土層 (1m大のロームブロック多量含む)

3-炭黒茶褐色土層 (炭化物少量, 1~2m大のロームブロック多量含む, 茶褐色土層入)

4-茶褐色土層 (炭化物・ローム若干・1m大のロームブロック少量含む)

5-炭黒茶褐色土層 (焼土・炭化物微量, 1m大のロームブロック多量含む)

6-暗黒茶褐色土層 (5m大のロームブロック少量含む)

7-暗黒茶褐色土層 (焼土・炭化物少量, 1~5m大のロームブロック多量含む, 6層より厚い)

8-暗茶褐色土層 (2m大のロームブロック多量含む)

9-暗黒茶褐色土層 (焼土・炭化物微量, 3m大のロームブロック少量含む)

10-暗黒茶褐色土層 (焼土・炭化物少量, 1~2m大のロームブロック多量含む)

11-茶褐色土層 (焼土・炭化物微量, 1m大のロームブロック少量含む, 暗茶褐色土層入)

12-暗黒茶褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む, 11層より厚い)

13-暗黒茶褐色土層 (5m大のロームブロック少量含む, 茶褐色土層入)

14-暗黒茶褐色土層 (炭化物・5m大のロームブロック少量含む)

15-暗黒茶褐色土層 (炭化物・3m大のロームブロック少量含む)

16-暗茶褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む)

17-茶褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む)

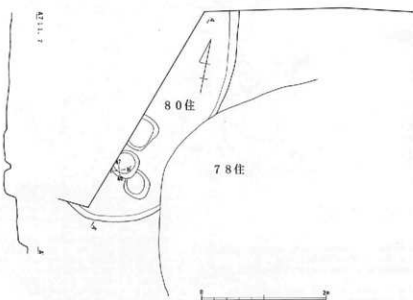
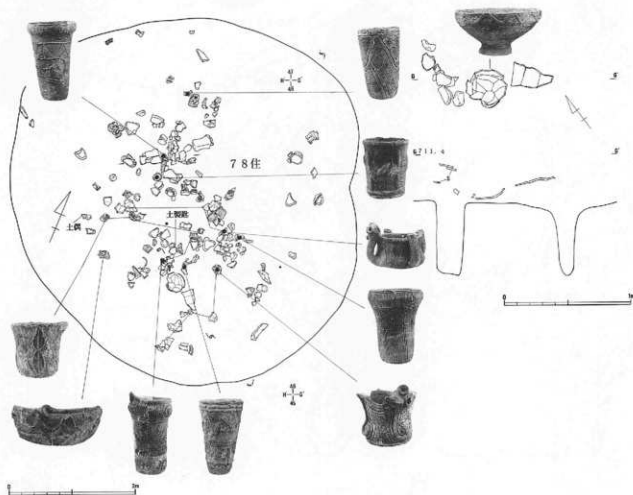
18-暗茶褐色土層 (ローム若干多量含む)

19-暗茶褐色土層 (焼土・炭化物・3m大のロームブロック少量含む, 暗茶褐色土層入)

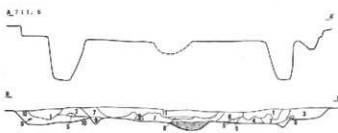
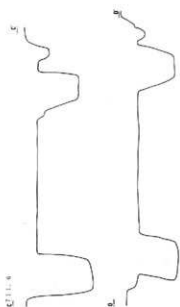
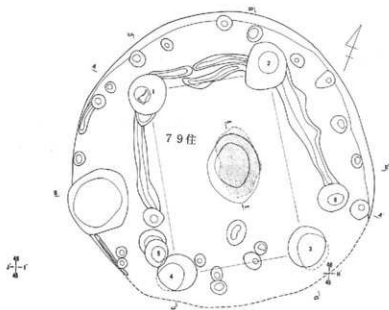
20-暗黒茶褐色土層 (1~2m大のロームブロック多量含む)

21-暗茶褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む, 暗茶褐色土層入)

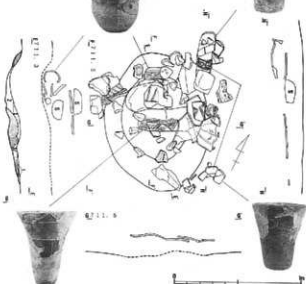
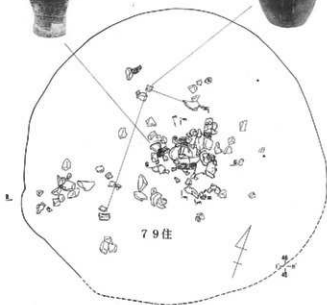
第104図 C区 第78号住居跡(1)



第105图 C区 第78号住居跡(2)·第80号住居跡



- 79住
- 1-灰黒褐色土層 (炭化物やや多い、1~3m大のロームブロック多量含む)
 - 2-灰赤褐色土層 (炭化物・2~3m大のロームブロック少量含む)
 - 3-灰黄褐色土層 (黄土・炭化物少量含む)
 - 4-灰黄褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
 - 5-灰黄褐色土層 (炭化物微細、5m大のロームブロック少量含む)
 - 6-灰褐色土層 (黄土・5m大のロームブロック少量、炭化物多量含む)
 - 7-灰黒褐色土層 (黄土やや多い、炭化物・5m大のロームブロック少量含む)
 - 8-灰褐色土層 (黄土少量、炭化物多量含む)
 - 9-灰褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
 - 10-灰黒褐色土層 (炭化物微細、5m大のロームブロック少量含む)
 - 11-灰黒褐色土層 (粘土・炭化物少量、炭化物多量、5m~1m大のロームブロックやや多く含む)



- 79住 伊
- 1-灰黄褐色土層 (黄土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
 - 2-灰赤褐色土層 (黄土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む)

第106图 C区 第79号住居跡

第82号住居跡（第92・93図）

（位置）調査区の北西端、F・G'-45・46グリッドに位置している。

（重複・改築）第57・78・83・86・87号住居跡と重複。

（形態・規模）北西端が一部調査区外。形態は隅丸方形を呈するものと考えられ、規模は推定で長径5.00m、短径4.30mを測る。

（壁・周溝）壁は急に立ち上がり、深さが13cm程度を測る。周溝はない。

（柱穴）主柱穴は7本中5本を確認し、ビット1は径42.0×38.0、深さ31.5cm、ビット2は径45.0×40.0、深さ14.9cm、ビット3は径49.0×44.0、深さ22.2cm、ビット4は径74.0×46.0、深さ30.0cm、ビット5は径40.0×24.0、深さ33.3cmを測る。

（炉）83住に破壊され不明。

（時期）縄文時代中期前半の竈沢式期。

（出土遺物）西側から破片資料が数点出土してのみ。

第83号住居跡（第92・93図）

（位置）調査区の北西端、F・G'-46グリッドに位置している。

（重複・改築）第82・86・87号住居跡と重複。

（形態・規模）北西側約1/2が調査区外。形態は円形を呈するものと考えられ、規模は推定で長径が現存値で4.10m、短径は1.90mを測る。

（壁・周溝）壁は急な立ち上りを示し、深さは22cmを測る。周溝は南側に部分的に存在し、幅30cm、深さ5cm程度を測る。

（柱穴）主柱穴は3本が確認できた。ビット1は径60.0×29.0、深さ58.5cm、ビット2は径37.0、深さ64.9cm、ビット3は径40.0×35.0、深さ51.6cmを測る。

（炉）石囲炉で、規模は52×45cmの石組みが認められ、深さは22cmを測る。

（時期）縄文時代中期前半の藤内Ⅱ式期。

（出土遺物）遺物は炉の西側から集中して発見され、2個体の土器が出土している。

第84・84'号住居跡（第107・108図）

（位置）調査区の南東端、A・A'-32・33グリッドに位置している。

（重複・改築）第88号住居跡と重複する。改築を1回行っている。

（形態・規模）約2/3が調査区外に位置している。形態は円形を呈するものと考えられ、84（84'）住の規模は現存値でそれぞれ長径4.70（6.60）m、短径1.30（2.05）mを測る。

（壁・周溝）壁はやや急な立ち上りを示し、セクション面で深さ40cmを測る。周溝は84住については、部分的に残っており、幅25cm、深さ15cmを測る。

（柱穴）主柱穴は84住では2本、84'住で3本確認した。84住のビット1は径62.0、深さ72.2cm、ビット2は径66.0×49.0、深さ74.1cmを測る。84'住のビット1は径37.0×32.0、深さ54.9cm、ビット2は径70.0×65.0、深さ47.3cm、ビット3は径60.0×53.0、深さ46.9cmを測る。

（炉）不明。

（時期）縄文時代中期前半の藤内Ⅰ式期。

（出土遺物）全体的に遺物は少ない。84住のビット1から小型の碗形土器が出土している。

第85号住居跡（第107・108図）

（位置）調査区の南東端、A・A'-33グリッドに位置している。

（重複・改築）なし。

（形態・規模）約2/3が調査区外である。形態は不明で、規模は現存値で長径5.86m、短径2.40mを測る。

(壁・周溝) 壁はやや急な立ち上がりを示し、深さ23cmを測る。周溝は断続的に存在し、幅20～38cm、深さ3～13cmを測る。

(柱穴) 主柱穴は2本確認でき、ビット1は径72.0×56.0、深さ63.8cm、ビット2は径80.0×73.0、深さ79.7cmを測る。

(炉) 不明。

(埋壘) 南側入口部と考えられる付近に存在し、掘り方の規模は径55.0×43.0、深さ34.0cmの中に、口縁部が欠失し、底部が穿孔され正位に配置された両耳壘 (E-E) がある。

(時期) 縄文時代中期後半の曾利Ⅳ式期。

(出土遺物) 遺物は埋壘を除くとほとんどない。

第86・87号住居跡 (第92・93図)

(位置) 調査区の北西端、G・H-46・47グリッドに位置している。

(重複・改築) 第78・82・83号住居跡と重複している。

(形態・規模) 大部分が調査区外。形態は楕円形を呈し、規模は径が推定で3mを測るものと考えられる。

(壁・周溝) 壁は急に立ち上がり、深さ30cmを測る。周溝はない。

(柱穴) 主柱穴は不明であるが、壁沿いに深さ10～50cmを測るビットが並んでいる。

(炉) 不明。

(時期) 縄文時代中期前半の猪沢式期と考えられる。

(出土遺物) 78住のグリッド杭南側のビットから出土した鉢形土器 (第91図) は、本住居に関連するものである。また、礫 (I-F) 下から土偶の頭部が出土している。

第88号住居跡 (第107・108図)

(位置) 調査区の南東端、A-32・33グリッドに位置している。

(重複・改築) 第84・90号住居跡と重複する。

(形態・規模) 全体の約1/2は調査区外に位置する。形態は不整形円形を呈するものと考えられる。規模は推定で長径4.80m、短径4.50mを測る。

(壁・周溝) 壁は急な立ち上がりを示し、深さが15cmを測る。周溝はない。

(柱穴) 主柱穴は3本が確認でき、ビット1は径65.0×25.0、深さ68.0cm、ビット2は径27.0×25.0、深さ65.0cm、ビット3は径50.0×49.0、深さ68.3cmを測る。

(炉) 地床炉で、径85.0×(45)cmの範囲に焼土が分布し、深さは17cmを測る。A-32-2土がこれに該当する。

(時期) 縄文時代前期前半の中越式期。

(出土遺物) 炉の南側から無文で繊維を含む丸底土器が出土している。

第89号住居跡 (第48・49図)

(位置) 調査区の南東部、B'-36・37グリッドに位置している。

(重複・改築) 第9号住居跡と重複している。

(形態・規模) 形態は不明。規模も不明。

(壁・周溝) 壁・周溝は不明。

(柱穴) 主柱穴は不明。

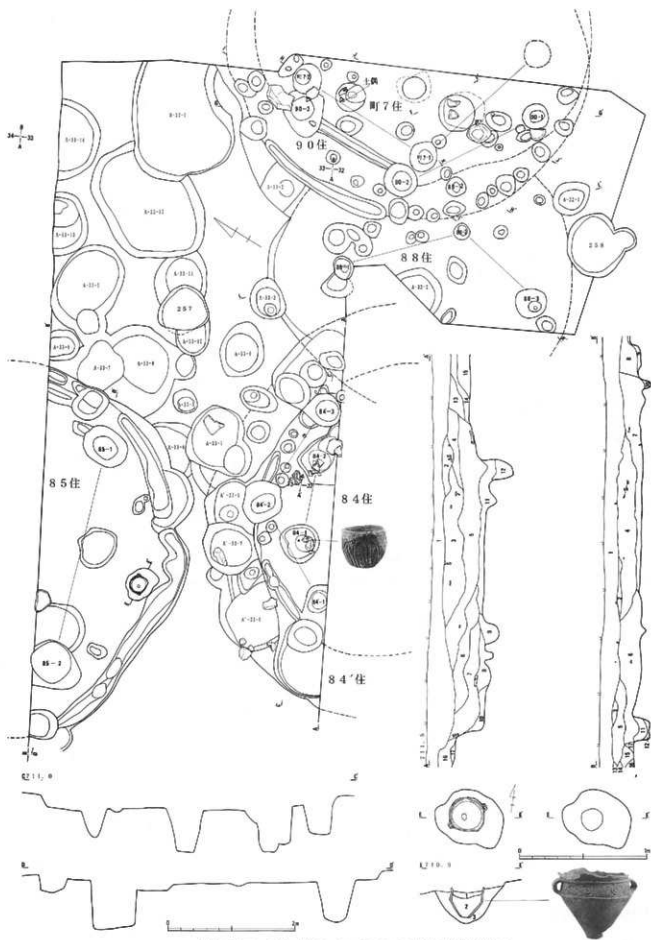
(炉) 地床炉で、径82×55cm、深さ10cmの範囲で焼土が分布している。

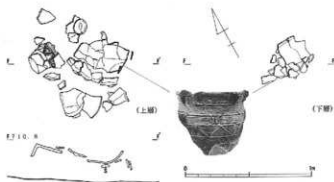
(時期) 縄文時代中期前半の井戸尻式期と考えられる。

(出土遺物) 炉内から土器片類が出土している。

第90号住居跡 (第107・108図)

(位置) 調査区の南東端、A・B-32・33グリッドに位置している。





84住

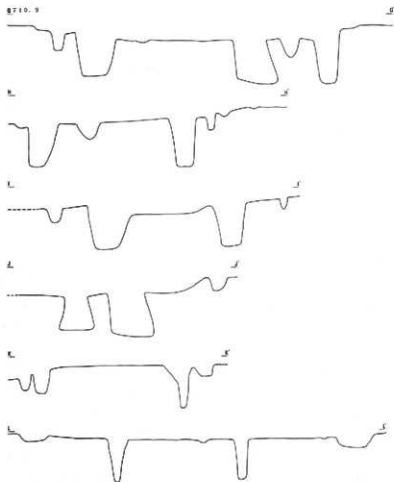
- 1-赤褐色土層 (表土)
- 2-黄褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 3-暗茶褐色土層 (炭褐色土層入)
- 4-暗茶褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む、暗茶褐色土層入)
- 5-暗茶褐色土層 (炭化物・5m大のロームブロック少量含む、暗茶褐色土層入)
- 6-暗茶褐色土層 (炭化物少量、5m大のロームブロック少量含む)
- 7-暗茶褐色土層 (炭化物・1~3m大のロームブロック少量含む、暗茶褐色土層入)
- 8-黄褐色土層 (炭化物少量含む)
- 9-赤褐色土層 (暗褐色土層入)
- 10-暗茶褐色土層 (5m大のロームブロック少量含む)
- 11-暗茶褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む)
- 12-暗茶褐色土層
- 13-黄褐色土層 (5m大のロームブロック少量含む)
- 14-暗茶褐色土層 (炭化物・5m大のロームブロック少量含む)
- 15-暗茶褐色土層 (炭化物・5m大のロームブロック少量含む)
- 16-暗茶褐色土層 (炭化物・5m大のロームブロック少量含む、暗褐色土層入)
- 17-黄褐色土層 (暗茶褐色土層入)

84住

- 1-赤褐色土層 (表土)
- 2-暗茶褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 3-赤褐色土層 (粘土・炭化物少量、1m大のロームブロック少量含む)
- 4-暗茶褐色土層 (炭化物・5m大のロームブロック少量含む)
- 5-暗茶褐色土層 (粘土・炭化物少量、1~3m大のロームブロック少量含む)
- 6-暗茶褐色土層 (粘土・炭化物・5m大のロームブロック少量含む)
- 7-暗茶褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む、暗茶褐色土層入)
- 8-暗茶褐色土層 (炭化物・5m大のロームブロック少量含む)
- 9-暗茶褐色土層 (炭化物・5m大のロームブロック少量含む)
- 10-暗茶褐色土層 (炭化物・5m大のロームブロック少量含む)
- 11-暗茶褐色土層 (粘土・炭化物・5m~1m大のロームブロック少量含む)
- 12-暗茶褐色土層 (炭化物・2m大のロームブロック少量含む)
- 13-暗茶褐色土層 (炭化物少量含む、暗褐色土層入)
- 14-暗茶褐色土層 (5m大のロームブロック少量含む、暗褐色土層入)
- 15-暗茶褐色土層 (暗褐色土層入)
- 16-暗茶褐色土層 (炭化物・5m大のロームブロック少量含む)
- 17-黄褐色土層 (暗茶褐色土層入)

85住 埋蔵

- 1-暗茶褐色土層
- 2-暗茶褐色土層 (5m大のロームブロック少量含む、赤褐色土層入)
- 3-暗茶褐色土層 (暗褐色土層入)



第108図 C区 第84・84'・85・88・89・町7号住居跡(2)

(重複・改築) 第88・町7号住居跡と重複。

(形態・規模) 形態は楕円形を呈するものと考えられる。規模は現存値で長径5.90m、短径は現存値で2.40mを測る。約2/3が調査区外。

(壁・周溝) 壁は緩やかに立ち上がり、深さが3～15cmを測る。周溝は西部に認められ、幅15～30cm、深さ10～30cmを測る。

(柱穴) 主柱穴と考えられるものが3本が確認できた。ピット1は径41.0×40.0、深さ86.9cm、ピット2は径55.0×50.0、深さ71.1cm、ピット3は径76.0×60.0、深さ67.6cmを測る。また径15～40cm、深さ10～20cmを測る小ピットが壁沿いに巡っている。

(炉) 不明。

(時期) 縄文時代中期前半の新道式期。

(出土遺物) 破片類が主体である。

第91号住居跡 (第109・110図)

(位置) 調査区の北西寄り、G・H-43・44グリッドに位置している。

(重複・改築) 第39・98号住居跡と重複する。

(形態・規模) 形態は円形を呈する。規模は長径6.30m、短径は6.15mを測る。南側が入口か。

(壁・周溝) 壁は急に立ち上がり、深さが28cmを測る。周溝は各ピット間を結ぶ内周のものと、壁沿いに全周する外周が存在し、幅20～25cmで、深さは10～20cmを測る。

(柱穴) 主柱穴は7本確認でき、ピット1は径60.0×50.0、深さ81.8cm、ピット2は径60.0×40.0、深さ72.7cm、ピット3は径55.0×53.0、深さ69.0cm、ピット4は径57.0×31.0、深さ71.6cm、ピット5は径43.0×37.0、深さ48.7cm、ピット6は径60.0×40.0、深さ75.5cm、ピット7は径50.0×45.0、深さ64.0cmを測る。また壁沿いに径30cm、深さ10cm大の小ピットが1.5m 間隔で巡っている。

(炉) 地床炉で、径182×112cm、深さ18cmの掘り込みを持ち、75×45cmの範囲に焼土が分布している。

(その他の遺構) 5基の土坑が存在する。この内、2土(F-F)としたものは、径115×80cm、深さ63cmを測り、内部から深鉢形土器が2個体出土している。

(壁内配石) 出入り口付近と考えられる南側に、80×65cmの範囲に板状の礫と石皿片、そして石棒が横位で出土し、下部には約35cmの掘り込みが見られる。また隣接して1土(E-E)が存在し、径80×73cm、深さ70cmを測り、底部が広がるフラスコ状を呈している。

(時期) 縄文時代中期前半の井戸尻Ⅲ式期。

(出土遺物) 蛇体把手付浅鉢のほか、深鉢が出土している。

第92・92'号住居跡 (第111・112図)

(位置) 調査区の中央北西寄り、H・I-44・45・46グリッドに位置している。

(重複・改築) 第79・93号住居跡と重複する。1ないし2回の改築あり。

(形態・規模) 形態は円形を呈する。92住(外側)の規模は長径6.20m、短径5.93m、92'住(内側)の規模は推定で長径4.00m、短径は3.70mを測る。

(壁・周溝) 壁は急な立ち上りを示し、深さが70～85cmを測る。周溝は92住に伴うもので、東側に当たる2/3の面積に当たる部分に存在し、幅10～35cm、深さ3～15cmを測る。

(柱穴) 主柱穴は92住に伴うものがピット1～7、92'住に伴うものはピット8～12で合計12本確認でき、ピット1は径68.0×50.0、深さ80.0cm、ピット2は径65.0×50.0、深さ56.7cm、ピット3は径65.0×42.0、深さ74.6cm、ピット4は径65.0×50.0、深さ61.1cm、ピット5は径50.0×45.0、深さ60.3cm、ピット6は径57.0×39.0、深さ73.7cm、ピット7は径58.0×50.0、深さ72.6cm、ピット8は径41.0×40.0、深さ57.7cm、ピット9は径52.0×38.0、深さ57.3cm、ピット10は径58.0×52.0、深さ61.3cm、ピット11は径50.0×45.0、深さ39.2cm、ピット12は径40.0×38.0、深さ32.8cmを測る。

(炉) 92住に伴うものが石囲炉(G-G)で南北の石が外されているが、径80×60cm、深さ35cmを測る。92住に伴うものは埋裏炉(F-F)と考えられ、推定径50cm、深さ18cmを測る。

(時期) 縄文時代中期前半の井戸尻Ⅱ～Ⅲ式期。

(出土遺物) 遺物は床面直上から覆土にかけて出土し、中でも土器は15個体以上ある。本住居と94住とで接合関係が見られる。

第93号住居跡 (第113図)

(位置) 調査区の北西寄り、F・J-44・45グリッドに位置している。

(重複・改築) 第92・96号住居跡と重複する。

(形態・規模) 形態は楕円形と考えられ、規模は長径7.00m、短径は推定5.50mを測る。一部調査区外。

(壁・周溝) 壁は急に立ち上がり、深さ20cmを測る。周溝はない。東部の床面にはベッド状に段差がみられ、比高差は4cm程度を測る。

(柱穴) 主柱穴は8本中7本が確認でき、ビット1は径76.0×51.0、深さ57.8cm、ビット2は径67.0×56.0、深さ64.2cm、ビット3は径70.0×60.0、深さ56.8cm、ビット4は径60.0×53.0、深さ67.8cm、ビット5は径70.0×50.0、深さ63.4cm、ビット6は径79.0×53.0、深さ80.3cm、ビット7は径69.0×60.0、深さ62.0cmを測る。

(炉) 石囲炉が存在し、規模は径95×70cmで、深さ15cmを測る。焼土は48×38cmの範囲で分布する。炉の南側に37×25cmの範囲で焼土が存在する。

(時期) 縄文時代中期前半の井戸尻Ⅱ式期。

(出土遺物) 破片類が主体で、全体的に少ない。

第94号住居跡 (第92・93図)

(位置) 調査区の北西寄り、F・G-44・45グリッドに位置している。

(重複・改築) 第57・95号住居跡と重複。

(形態・規模) 形態は円形を呈するものと考えられ、規模は長径4.73m、短径4.45mを測る。

(壁・周溝) 壁は急な立ち上りを示し、35cm程度の深さを持つ。周溝はない。

(柱穴) 主柱穴は7本で、ビット1は径40.0×25.0、深さ20.6cm、ビット2は径43.0×35.0、深さ57.7cm、ビット3は径41.0×32.0、深さ17.9cm、ビット4は径53.0×22.0、深さ53.0cm、ビット5は径40.0×32.0、深さ39.8cm、ビット6は径36.0×35.0、深さ66.8cm、ビット7は径(80)×(55)、深さ18.7cmを測る。

(炉) 石囲埋裏炉で、規模は径105×100cm、深さ28cmを測るが、西部の石材が外されている。焼土は20×5cmの範囲で分布している。埋裏は土器の底部である。

(時期) 縄文時代中期前半の井戸尻Ⅲ式期。

(出土遺物) 遺物はとても少ないが、炉の南側からまとまって出土している。

第95号住居跡 (第92・93図)

(位置) 調査区の北西寄り、F・G-45・46グリッドに位置している。

(重複・改築) 第57・82・94号住居跡と重複。

(形態・規模) 形態は円形を呈し、規模は長径が4.40m、短径は推定で4.42mを測る。部分的に乱流を受ける。

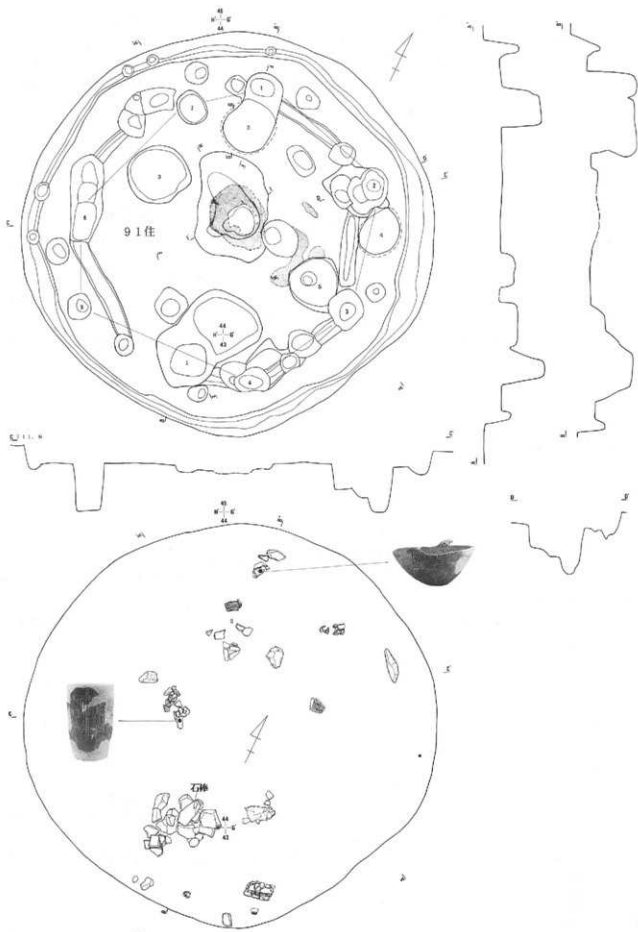
(壁・周溝) 壁は急な立ち上りを示し、深さはセクション面で25cmを測る。周溝は北東部が切れ、幅20～25cm、深さ8～30cmを測る。

(柱穴) 主柱穴は4本中3本が確認でき、ビット1は径42.0×32.0、深さ46.5cm、ビット2は径38.0×34.0、深さ57.8cm、ビット3は径39.0×34.0、深さ48.5cmを測る。

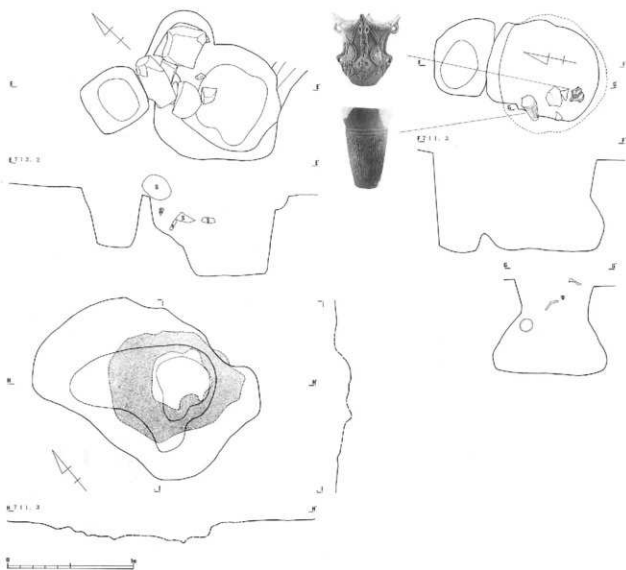
(炉) 地床炉で、規模は径70×65cm、深さ12cmを測り、焼土は中央部に残る。

(時期) 縄文時代中期前半の井戸尻Ⅲ式期。

(出土遺物) 遺物は多く6個体の土器のほか、耳栓や土偶が出土している。



第109图 C区 第91号住居跡(1)



第110図 C区 第91号住居跡(2)

第96号住居跡 (第113図)

(位置) 調査区の西端、I・J-43・44グリッドに位置している。

(重複・改築) 第93号住居跡と重複する。

(形態・規模) 形態は円形を呈するものと考えられ、規模は長径6.22m、短径5.92mを測る。

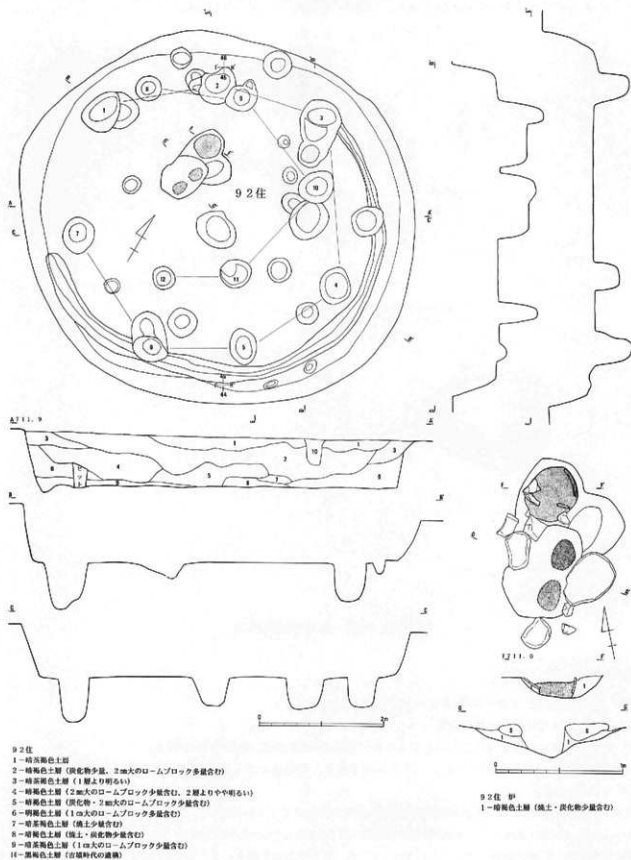
(壁・周溝) 壁は急な立ち上がりを示し、深さ36cmを測る。周溝は北から南西部にかけて分布し、幅12～32cm、深さ4～17cmを測る。

(柱穴) 主柱穴は7本で、ビット1は径60.0×46.0、深さ59.7cm、ビット2は径70.0×65.0、深さ53.4cm、ビット3は径75.0×70.0、深さ63.2cm、ビット4は径85.0×60.0、深さ62.7cm、ビット5は径70.0×56.0、深さ59.4cm、ビット6は径83.0×71.0、深さ55.1cm、ビット7は径84.0×72.0、深さ64.2cmを測る。また壁沿いには、径20～50cm、深さ7～54cmを測る小ビットが17本存在する。

(炉) 石間炉で、規模は径105×82cm、深さ26cmを測る。またこの炉の西側には、90×70cmの範囲で焼土が分布し、地床炉の様相を呈している。

(時期) 縄文時代中期前半の井戸尻Ⅱ式期。

(出土遺物) 全体的に遺物は少ないが、石皿などの石器類が主体を示している。



第111図 C区 第92号住居跡(1)

第98・98'号住居跡 (第76~78図)

(位置) 調査区の北西寄り、H・I-43・44グリッドに位置している。

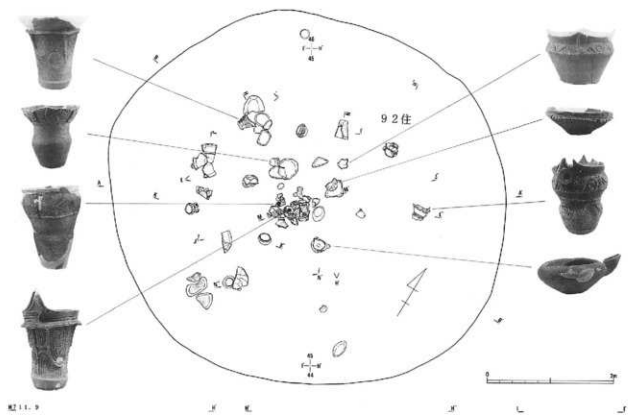
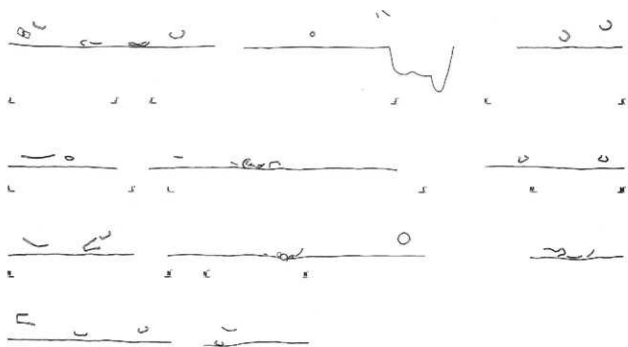
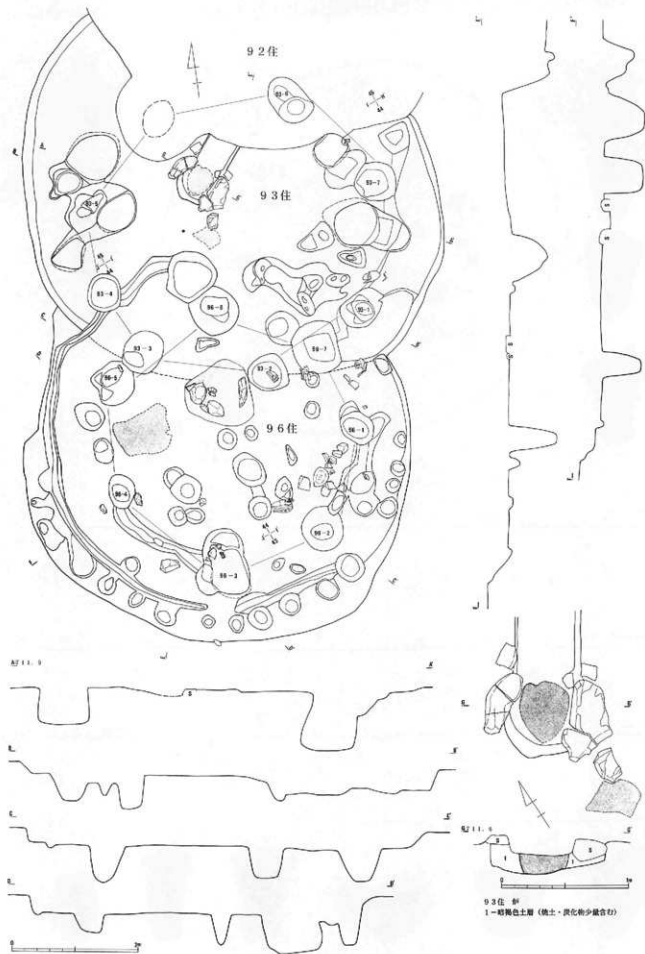


图 112



第 112 图 C区 第 92 号住居跡(2)



第113图 C区 第93-96号住居跡

(重複・改築) 第37・39・91住居跡と重複する。拡張している。

(形態・規模) 形態は楕円形を呈している。規模は98住(拡張前)径3.50m程度と想定され、98住(拡張後)長径は推定で5.85m、短径5.27mを測る。

(壁・周溝) 壁は急な立ち上がりを示し、深さ2~50cmを測る。周溝は98住では西側のみに残り、幅15~25cm、深さ50cmを測る。98住ではほぼ全周し、幅10~25cm、深さ5~30cmを測る。

(柱穴) 主柱穴は98住に伴うものがビット1~5で、98住に伴うものはビット6~11の合計11本である。ビット1は径45.0×31.0、深さ60.5cm、ビット2は径65.0×50.0、深さ75.0cm、ビット3は径42.0×35.0、深さ54.1cm、ビット4は径55.0×40.0、深さ59.8cm、ビット5は径46.0×34.0、深さ59.8cm、ビット6は径83.0×66.0、深さ76.5cm、ビット7は径73.0×60.0、深さ64.4cm、ビット8は径76.0×62.0、深さ68.4cm、ビット9は径42.0×37.0、深さ65.8cm、ビット10は径55.0×45.0、深さ60.9cm、ビット11は径41.0×38.0、深さ35.2cmを測る。

(炉) 98住に伴うものが地床炉で、径127×120cm、深さ15cmを測る。98住に伴うものは石囲炉で、径89×86cm、深さ28cmを測る。

(時期) 縄文時代中期前半の井戸尻Ⅲ式期。

(出土遺物) 南東部に散在しているほか、ビット2付近から深鉢形土器が出土している。

第99号住居跡(第114・115図)

(位置) 調査区の北寄り、E・F-43・44グリッドに位置している。

(重複・改築) 第100・101号住居跡と重複する。

(形態・規模) 形態は円形を呈し、規模は長径5.94m、短径は推定で5.50mを測る。

(壁・周溝) 壁は急に立ち上がり、深さが20~30cmを測る。周溝は二重に巡り、外周は幅86~55cm、深さ75cmを測る。内周は幅15~20cm、深さ5~20cmを測る。

(柱穴) 主柱穴は7本確認でき、ビット1は径86.0×55.0、深さ75.3cm、ビット2は径70.0×55.0、深さ92.8cm、ビット3は径70.0×60.0、深さ46.7cm、ビット4は径53.0×45.0、深さ70.6cm、ビット5は径70.0×55.0、深さ62.0cm、ビット6は径65.0×50.0、深さ82.6cm、ビット7は径(55)×43.0、深さ79.6cmを測る。

(炉) 石囲炉であるが、101住のビット4付近に外された石材が散在する。規模は径89×77cm、深さ22.5cmを測る。

(時期) 縄文時代中期前半の井戸尻Ⅲ式期と考えられる。

(出土遺物) 南部から2個体の土器が出土している。このほか特筆すべきものに翡翠の原石がある。

第100号住居跡(第114・115図)

(位置) 調査区の北寄り、E-44グリッドに位置している。

(重複・改築) 第101・103号住居跡と重複。

(形態・規模) 形態は円形を呈するものと考えられる。規模は推定で長径4.04m、短径は3.72mを測る。

(壁・周溝) 壁は緩やかに立ち上がり、深さが10cmを測る。周溝はない。

(柱穴) 主柱穴と考えられるものが6本が確認できた。ビット1は径45.0×35.0、深さ53.9cm、ビット2は径50.0×36.0、深さ52.8cm、ビット3は径(47)×40.0、深さは不明、ビット4は径50.0×36.0、深さ55.5cm、ビット5は径60.0×38.0、深さ44.0cm、ビット6は径34.0×24.0、深さ49.5cmを測る。

(炉) 石囲炉で、規模は径56×54、深さ24cmを測る。

(時期) 縄文時代中期前半の井戸尻Ⅰ式期。

(出土遺物) 破片類が主体である。

第101号住居跡(第112・113図)

(位置) 調査区の北寄り、E・F-44・45グリッドに位置している。

(重複・改築) 第50・99・100号住居跡と重複する。

(形態・規模) 形態はほぼ円形を呈する。規模は長径5.03m、短径は推定5.00mを測る。南側が入口か。

(壁・周溝) 壁はやや急に立ち上がり、深さが31cmを測る。周溝はない。

(柱穴) 主柱穴は6本確認でき、ピット1は径63.0×(50)、深さ45.5cm、ピット2は径(60)×31.0、深さ38.0cm、ピット3は径(45)×35.0、深さ39.0cm、ピット4は径(40)×35.0、深さ37.5cm、ピット5は径43.0×33.0、深さ44.0cm、ピット6は径55.0×38.0、深さ47.0cmを測る。壁沿いに径20×50、深さ10~20cmを測る。小ピットが巡る。

(炉) 埋壺炉で、径50×45 28cm、深さ27cmの掘り込みを持ち、75×55cmの範囲に焼土が分布している。埋壺は深鉢の胴部である。炉の上には、土器の底部と径30cm大の板状の礫が置かれており、炉の機能を封じた祭祀的な行為の可能性がある。

(時期) 縄文時代中期前半の猪沢式期。

(出土遺物) 炉の周辺からの遺物が主体を占める。ちなみに炉体土器は、平出Ⅲ類A系である。

第102号住居跡 (第87図)

(位置) 調査区の中央北西寄り、F・G'-42・43グリッドに位置している。

(重複・改築) 第52号住居跡と重複する。

(形態・規模) 形態は不整形を呈する。規模は長径5.65m、短径は4.80mを測る。

(壁・周溝) 壁は急な立ち上がりを示し、深さが22cmを測る。周溝はない。

(柱穴) 主柱穴は6本確認でき、ピット1は径46.0×28.0、深さ52.2cm、ピット2は径31.0×25.0、深さ50.8cm、ピット3は径50.0×32.0、深さ54.9cm、ピット4は径40.0×35.0、深さ68.9cm、ピット5は径43.0×35.0、深さ47.2cm、ピット6は径42.0×38.0、深さ51.2cmを測る。

(炉) 埋壺炉で、掘り方の規模は径68×58cm、深さ24cmを測る。炉体土器は深鉢の胴上半部が利用されている。

(時期) 縄文時代中期前半の猪沢式期。

(出土遺物) 遺物は炉体土器以外は、破片類が主体であるが、猪沢式土器と平出Ⅲ類A系土器との伴出関係が窺える。

第109号住居跡 (第48・49図)

(位置) 調査区の東端、A'-36・37グリッドに位置している。

(重複・改築) 第1・2・3・9号住居跡と重複する。

(形態・規模) 形態は円形と考えられ、規模は推定で径3.50mを測る。東側は攪乱を受け、南側は調査区外。

(壁・周溝) 壁は不明。周溝はない。

(柱穴) 主柱穴は2本が確認でき、ピット1は径45.0×32.0、深さ18.2cm、ピット2は径45.0×41.0、深さ35.8cmを測る。

(炉) 地床炉が存在し、規模は径77×54cmで、深さ41cmを測る。焼土は49×45cmの範囲で分布する。

(時期) 縄文時代中期。

(出土遺物) 伴出する遺物は不明で、したがって時期決定ができなかった。

第110号住居跡 (第71・72図)

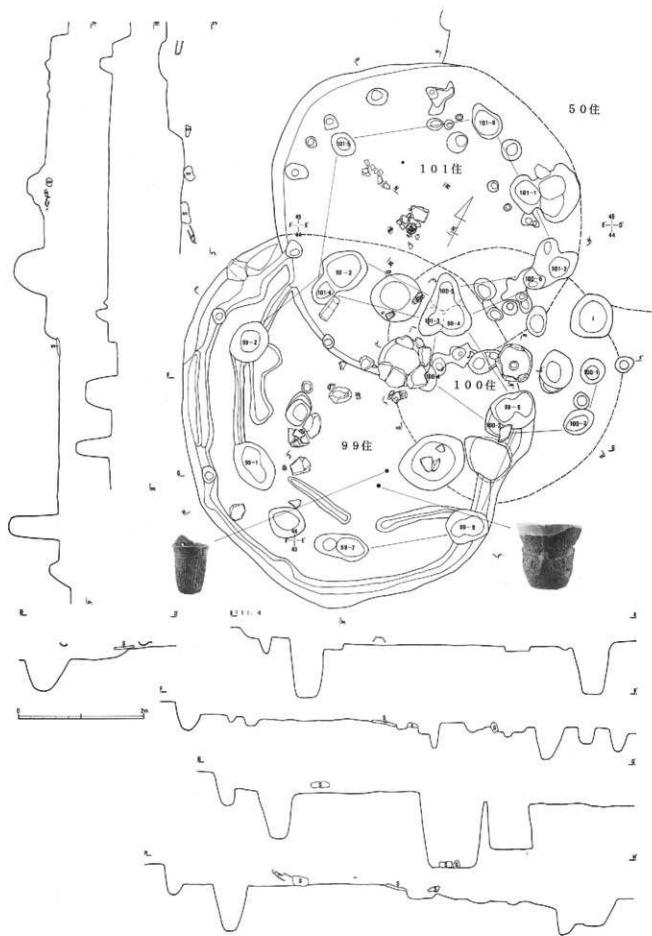
(位置) 調査区の中央、E・F-39・40グリッドに位置している。

(重複・改築) 第31・32号住居跡と重複。外側の31住を切り、内側の32住に切られる。

(形態・規模) 形態は円形を呈するものと考えられ、規模は推定で径4.80mを測る。

(壁・周溝) 壁はセクション面で急な立ち上がりを示し、45cm程度の深さを持つ。周溝は南北の両端に断続的に確認でき、幅10~25cm、深さ10cmを測る。

(柱穴) 主柱穴は7本で、ピット11は径50.0×40.0、深さ47.8cm、ピット12は径32.0×30.0、深さ46.0cm、ピット13は径41.0×38.0、深さ40.9cm、ピット14は径32.0×30.0、深さ53.1cm、ピット15は径26.0×22.0、深さ38.9cm、ピット16は径25.0×17.0、深さ70.2cm、ピット17は径28.0×25.0、深さ87.6cmを測る。



第114图 C区 第99~101号住居跡(1)

(炉) 地床炉の可能性があり、ピット9の東側に55×25cmの範囲に焼土が分布している。

(時期) 縄文時代中期前半の撈沢式期。

(出土遺物) 遺物はとても少ないが、土器の破片類が出土している。

町第7号住居跡 (第107・108図)

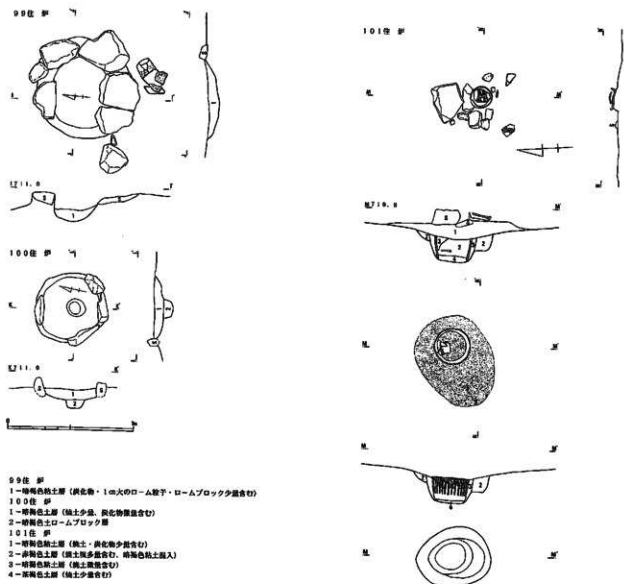
(位置) 調査区の南東端、B-32・33グリッドに位置している。

(重複・改築) 第90号住居跡と重複。

(形態・規模) 形態は円形を呈するものと考えられ、規模は現存値で長径が5.10m、短径は1.85mを測る。東側の約2/3は調査区外。

(壁・周溝) 壁はやや急な立ち上がりを示し、深さは3～15cmを測る。周溝は東部にのみ存在し、幅20cm、深さ5cmを測る。

(柱穴) 主柱穴は2本が確認でき、ピット1は径45.0×44.0、深さ81.0cm、ピット2は径47.0、深さ70.6cmを測る。



第115図 C区 第99～101号住居跡(2)

第17号住居跡（第117・118図）

（位置）調査区の中央、B'・C'-42・43グリッドに位置している。

（重複・改築）なし。縄文時代の遺構と切り合う。

（形態・規模）形態は隅丸方形を呈している。規模は長径6.45m、短径6.25mを測る。覆土中には多量の焼土および炭・炭化材が放射状に分布し、焼失家屋と考えられる。

（壁・周溝）壁には焼土が集中し塊をもって分布しているが、立ち上がりは急で、16～37cmの深さを測る。周溝は存在しない。

（柱穴）4本認められた。ピット1は径23.0×22.0、深さ82.0cm、ピット2は径27.0、深さ83.0cm、ピット3は径45.0×35.0、深さ85.0cm、ピット4は径30.0×27.0、深さ76.0cmを測り、主柱穴と考えられる。

（貯蔵穴）南部に方形を呈し、径78×76、深さ57cmを測る貯蔵穴が存在する。内部から土器片が少量出土した。

（炉）地床炉（F-F）が認められる。掘り方の規模は径99×86cm、深さ21cmを測り、内部から焼けた糠が出土している。

（時期）前期初頭。

（出土遺物）遺物は主に壁に沿った部分で発見されており、坏・高坏・器台・鉢・瓶などの土器類のほか、砥石などの石器も出土している。

第33号住居跡（第117図）

（位置）調査区の北東側、B'・C'-39・40グリッドに位置している。

（重複・改築）なし

（形態・規模）形態は隅丸長方形を呈している。規模は長径で4.74m、短径は3.90mを測る。焼失家屋と考えられる。

（壁・周溝）壁は急に立ち上がり、深さが約20cmを測る。南の壁部に径63×46cmの焼土集中箇所が見られる。周溝は存在しない。

（柱穴）確認できなかった。

（炉）住居跡の中央南寄りに、地床炉が認められる。焼土の広がりは径65×46cmで、深さが10cmを測る。

（貯蔵穴）南東コーナーに円形を呈し、径60×50、深さ32cmを測る貯蔵穴が存在する。周辺から甕の底部が出土している。

（時期）前期初頭。

（出土遺物）壁沿いに集中して、坏などの土器類が出土した。構築材は、コナラである。

第51号住居跡（第81図）

（位置）調査区の北端、B'・C'-45・46グリッドに位置している。

（重複・改築）なし。

（形態・規模）形態は推定で隅丸方形と考えられるが、約1/2が調査区外に位置しており規模は不明である。

（壁・周溝）壁・周溝は確認できなかった。

（柱穴）確認できなかった。

（炉）地床炉が認められ、径約72×69cmを測る。

（時期）前期初頭。

（出土遺物）覆土と考えられる部分から、破片が若干出土している。

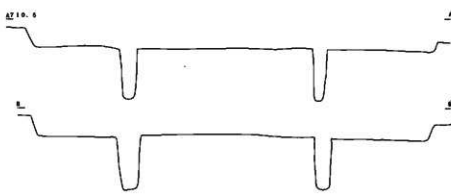
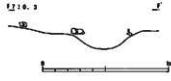
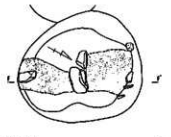
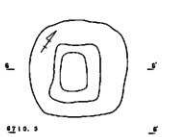
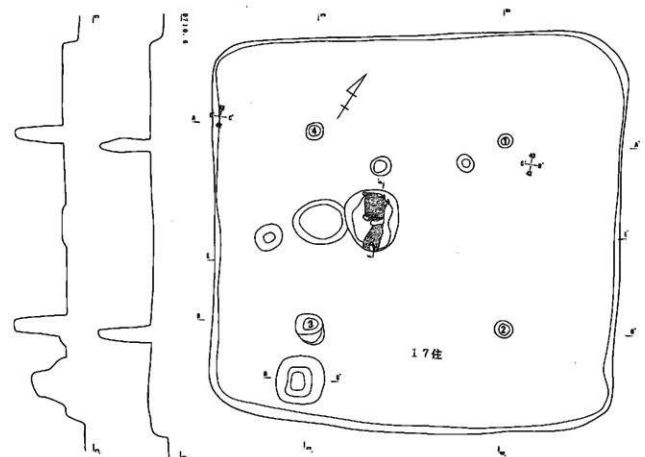
第71号住居跡（第100図）

（位置）調査区の東端、A'-43グリッドに位置している。

（重複・改築）なし。

（形態・規模）南側コーナー付近のみを確認した。形態は方形を呈するものと考えられる。規模は不明。

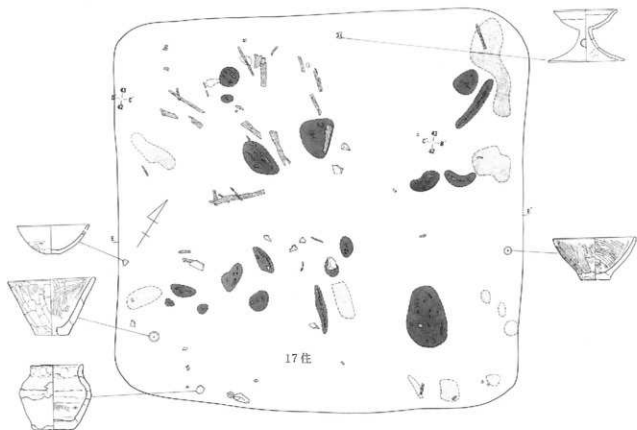
（壁・周溝）壁は急に立ち上がり、深さが17.1cmを測る。周溝は不明。



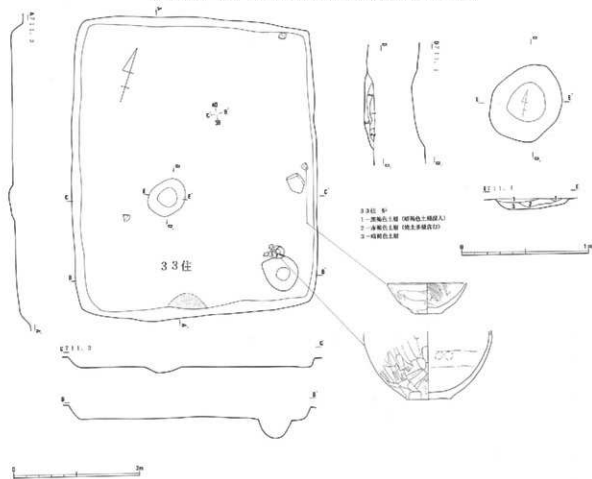
- 17住
- 1-黒砂色土層 (黒色角礫層含む)
 - 2-黒砂色土層 (黒土層・50cmのロームブロック多量含む)
 - 3-黒砂色土層 (黒土層多量・10cmのロームブロック多量含む)
 - 4-黒砂色土層 (50cmのロームブロック多量含む)
 - 5-黒砂色土層 (黒土層多量含む)
 - 6-黒砂色土層 (黒土層多量含む)
 - 7-黒砂色土層 (黒土層多量含む)
 - 8-黒砂色土層 (黒土層多量含む)
 - 9-黒砂色土層 (黒土層多量含む)
 - 10-黒砂色土層 (50cmのロームブロック多量含む)
 - 11-黒砂色土層 (10m大のロームブロック多量含む)
 - 12-黒砂色土層



第117図 C区 第17号住居跡



第116图 C区 第17号住居跡遺物及び炭化材出土状況



第119图 C区 第33号住居跡

(柱穴) 確認できなかった。
(炉) 調査区外に存在するものと考えられる。
(時期) 古墳時代前期初頭。
(出土遺物) 土器小破片が出土。

第103号住居跡 (第120図)

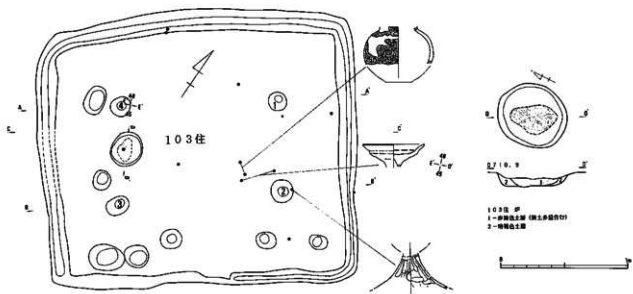
(位置) 調査区の北側、E・F-45・46グリッドに位置している。
(重複・改築) なし。
(形態・規模) 形態は長方形を呈するものと考えられ、長径は5.04m、短径は4.30mを測る。周溝の切れた南部が入口部か。
(壁・周溝) 壁は急に立ち上がり、深さが44cmを測る。周溝は南側が切れるが、幅15～25cm、深さ5～10cmを測る。覆土中に焼土・炭化物を多量に含むため焼失家屋と考えられる。北西部の床面にはロームブロックによる貼床が認められた。
(柱穴) 4本確認した。ピット1は径29.0×30.0、深さ54.4cm、ピット2は径35.0×36.0、深さ58.5cm、ピット3は径33.0×30.0、深さ50.5cm、ピット4は径36.0×27.0、深さ45.1cmを測り、これらは主柱穴と考えられる。
(炉) 住居の南東部の中央付近に、地床炉 (D-D') が認められる。規模は径58×49cm、深さ4cmを測る。
(時期) 前期初頭。
(出土遺物) 遺物は土器が住居の中央付近から、少量出土したにすぎない。

第104号住居跡 (第120図)

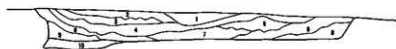
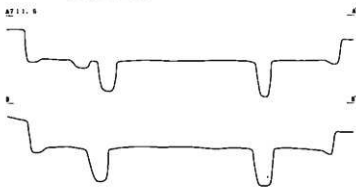
(位置) 調査区の北西端、H'-45・46グリッドに位置している。
(重複・改築) 小堅穴と重複。
(形態・規模) 形態は隅丸長方形に呈するは。規模は長径3.50m、短径は2.70mを測る。
(壁・周溝) 壁は緩やかに立ち上がり、深さが15cm程度を測る。周溝はない。
(柱穴) 4本確認した。ピット1は径40.0×30.0、深さ35.0cm、ピット2は径30.0×27.0、深さ40.0cm、ピット3は径30.0×28.0、深さ30.0cm、ピット4は径30.0×27.0、深さ25.0cmを測り、これらは主柱穴と考えられる。
(炉) 住居の中央南寄りに地床炉が認められ、規模は径50×40cm、深さ10cmを測る。
(小堅穴) 住居の南側に位置し、形態は長方形を呈し、規模は径180×125cm、深さ65cmを測る。また坑底部にピットが1本認められ、径40.0×27.0、深さ71.1cmを測る。本遺構の性格は不明。
(その他の遺構) 北西コーナー付近に土坑状の落ち込みが存在し、規模が径40(×27)cm、深さ71cmを測る。
(時期) 前期初頭。
(出土遺物) 遺物は少ないが、埴や高坏の破片類が出土している。

第105号住居跡 (第121図)

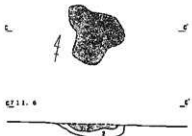
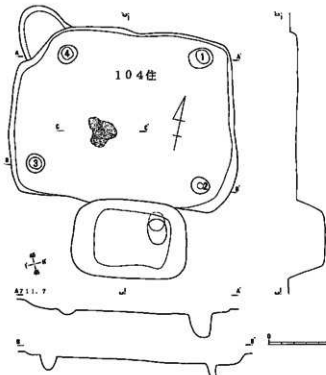
(位置) 調査区の中央、E・F-40・41グリッドに位置している。
(重複・改築) 第106号住居跡と重複している。
(形態・規模) 形態は隅丸長方形を呈し、長径4.11m、短径3.15mを測る。覆土中から多量の焼土・炭化材・炭化物が出土しているため、焼失家屋と考えられる。
(壁・周溝) 壁は緩やかに立ち上がり、深さが5～20cmを測る。周溝はない。
(柱穴) 柱穴と考えられるものは6本である。このうちピット1は径30.0×20.0、深さ4.7cm、ピット2は径42.0×40.0、深さ8.1cm、ピット3は径35.0×21.0、深さ4.2cm、ピット4は径22.0×20.0、深さ5.6cmを測り、この4本が主柱穴と考えられる。
(炉) 住居の北側に、地床炉が認められ、規模は径56×34cmを測る。
(時期) 前期初頭。
(出土遺物) 遺物は台付甕の台部などの破片資料が少量、また北壁から鐵と考えられる鉄製品が出土している。



103住 跡
1—多層赤土層 (出土少遺物付)
2—単層赤土層



- 103住
1—多層赤土層
2—多層赤土層 (出土少遺物付)
3—多層赤土層 (出土少遺物付、1層より中半部を削)
4—多層赤土層 (出土少遺物入)
5—多層赤土層 (D—A層より多層付)
6—多層赤土層 (出土、赤土層、1m大のD—A層より多層付、2層より削)
7—多層赤土層 (出土、赤土層、同様に多層、1m大のD—A層より多層付、多層赤土層入)
8—多層赤土層 (出土、赤土層、赤土層多層付、多層赤土層入)
9—多層赤土層 (出土、赤土層、赤土層多層付、同様に多層、2層より削)
10—多層赤土層—A層より多層 (同様に)



104住 跡
1—多層赤土層 (出土少遺物付)
2—単層赤土層

第120図 C区 第103-104号住居跡

第106号住居跡（第121図）

（位置）調査区の中央北寄り、D・E-41・42グリッドに位置している。

（重複・改築）第105号住居跡と重複している。

（形態・規模）形態は長方形を呈し、長径は7.50m、短径6.70mを測りかなり大型である。南側コーナー付近からは広範囲に多量の焼土・炭化材・炭化物が出土したため、焼失家屋と考えられる。

（壁・周溝）壁は急に立ち上がり、深さが15～50cmを測る。周溝は存在しない。

（柱穴）主柱穴は4本で、ビット1は径49.0×43.0、深さ41.3cm、ビット2は径65.0×57.0、深さ69.9cm、ビット3は径65.0×58.0、深さ36.0cm、ビット4は径41.0×31.0、深さ35.9cmを測る。

（炉）東部に地床炉が認められ、規模は径90×58cmを測る。

（貯蔵穴）東部コーナー付近のビット1の隣から、径75×73cm、深さ52cmを測る貯蔵穴状の施設が存在する。

（時期）前期初頭。

（出土遺物）西側コーナー付近からS字状口縁台付甕が、また105住との接触部である南側コーナー付近からは鐵と考えられる鉄製品が発見された。このほか坏や壺の破片類も出土している。

第107号住居跡（第122図）

（位置）調査区の北端、B・C-44・45グリッドに位置している。

（重複・改築）なし。

（形態・規模）北側約1/2が攪乱を受け、また西部の1/5程度が調査区外に位置している。形態は長方形を呈しているものと考えられ、規模は長径が現存値で3.70m、短径が推定で3.17mを測る。住居の中央付近には多量の焼土・炭化材・炭化物が認められ、特に焼土については炭化材の上に4cmもの厚さで堆積している状況が確認された。焼失家屋と考えられる。

（壁・周溝）壁は急に立ち上がり、深さが27cmを測る。周溝は存在しない。

（柱穴）主柱穴は不明である。

（炉）不明。

（時期）前期初頭。

（出土遺物）とても少ないが、南側コーナー付近から高坏の脚部が出土している。

第108号住居跡（第122図）

（位置）調査区の中央北寄り、D・E-42・43グリッドに位置している。

（重複・改築）なし。

（形態・規模）形態は隅丸方形を呈し、長径は5.15m、短径5.07mを測る。覆土中から多量の焼土・炭化材・炭化物が出土したため、焼失家屋と考えられる。

（壁・周溝）壁は急に立ち上がり、深さが44～57cmを測る。周溝は存在しない。住居中心の床は非常に固く、貼床が残っている。

（柱穴）主柱穴は4本で、ビット1は径36.0×32.0、深さ43.3cm、ビット2は径30.0×32.0、深さ41.3cm、ビット3は径32.0×26.0、深さ30.9cm、ビット4は径38.0×37.0、深さ38.4cmを測る。

（炉）南西部に地床炉が認められ、規模は径68×60cm、深さは約10cmを測る。

（時期）前期初頭。

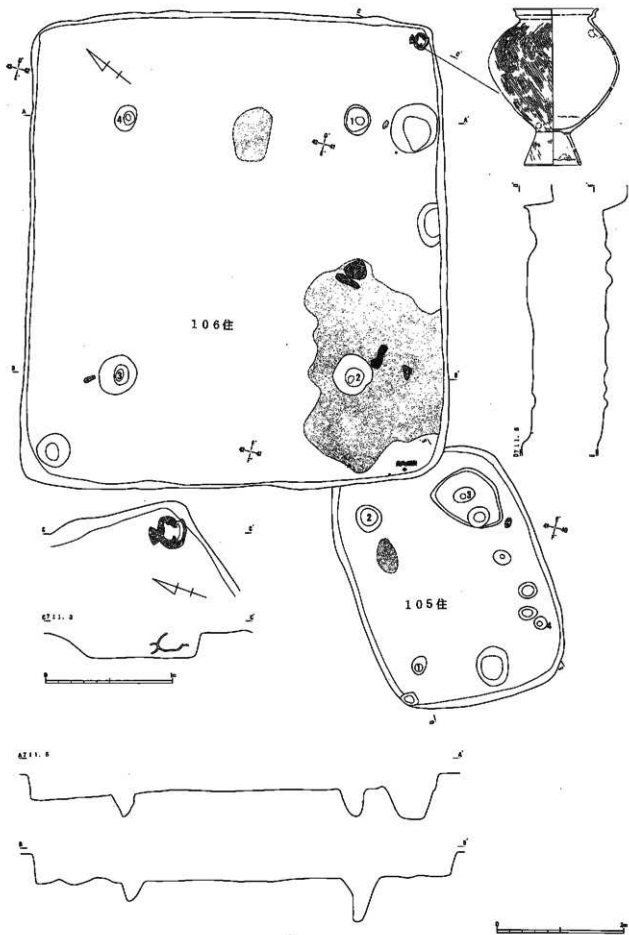
（出土遺物）塔・S字状口縁台付甕などの破片類のほか、ミニチュア土器が3点出土している。

第111号住居跡

（位置）調査区の北西端、I・J-46グリッドに位置している。

（重複・改築）なし。

（形態・規模）形態は方形を呈しているものと考えられる。規模は不明。



第121图 C区 第105-106号住居跡

(壁・周溝) 壁・周溝は存在しない。

(柱穴) 柱穴は確認できなかった。

(炉) 地床炉と考えられる焼土の集中箇所が、48住との接点で確認された。

(時期) 前期初頭。

(出土遺物) なし。

第7表 C区住居跡一覧表

() は現存値および推定値

図版番号	図割	位置	重複・改築	平面形	長径(m)	短径(m)	深さ(cm)	炉	柱穴	時代・時期	備	考
第46-47図	1	A・A'-37	2住跡4軒と重複	楕円	(6.00)	(4.50)	33.0	石囲	4/7	縄文中期藤Ⅱ	土器3点と土器が20個体以上出土している。	
第46-47図	2	A・A'-37	1住跡4軒と重複	楕円	6.86	6.19	32.5	不明	5/7	縄文中期藤Ⅱ	1住の方が新しい。一部覆瓦。	
第48-49図	3	A'・B'-37	1住跡5軒と重複	円	(4.65)	(4.60)	25.0	地床	4	縄文中期裕	土器が4個体出土。一部覆瓦。	
第50-51図	4	C'・D'-37	4'住と重複	不整形	4.93	4.02	33.0	地床	5	縄文中期藤Ⅱ	野外埋蔵が存在する。	
第50-51図	4'	C'・D'-37	4住と重複	円	(5.40)	4.75	30.0	埋燹	5	縄文中期藤Ⅱ	伊の上部から深鉢が横位で出土。	
第52図	5	G'-35-36	7・10住と重複	楕円	5.20	(4.10)	27.0	石囲	4	縄文中期曾Ⅳ	台石が出土。	
第53図	6	I'・J'-33-34	なし	円	4.45	(1.55)	17.0	地床	5	縄文中期曾Ⅰ	一部調査区外。台石状のものが出土。	
第54-55図	7	F'・G'-36	5-10住と重複	円	6.40	(5.00)	26.0	地床	4	縄文中期曾Ⅴ	一部調査区外。垂飾未製品が出土。	
第55図	8	H'-33-34	なし	円	(3.00)	(1.60)	20.0	不明	2	縄文中期藤	1/2が調査区外。	
第48-49図	9	A'・B'-36-37	なし	円?	4.70	(2.30)	30.0	地床	3	縄文中期藤Ⅱ	焼町型土器と伴出関係が窺える。	
第54-55図	10	F'・G'-35-36	5住跡4軒と重複	円	(4.90)	—	—	地床	3	縄文中期曾Ⅴ		
第56図	11	F'・G'-34-35	18住跡4軒と重複	円	4.05	3.65	20.0	地床	不明	縄文中期井Ⅱ	土器が4個体出土している。	
第57図	12	A-39-40	16住と重複、委縮	円	6.15	—	20-45	不明	不明	縄文中期新	一部調査区外。土器を支持する土器など確認。土	
第58-59図	13	B'・C'-37-38	13住と重複	円	5.40	5.10	15-30	石圍埋燹	6	縄文中期井Ⅲ	蛇体把手付土器などが出土している。	
第60-61図	14	D'・E'-37-38	4'住と重複	円	(5.00)	(4.30)	30-60	不明	6	縄文中期井Ⅲ		
第60-61図	14'	D'・E'-37-38	14住の改築	円	6.20	5.85	30-60	石圍埋燹	7	縄文中期井Ⅲ	土器2個体の他、土俵、耳杯、管玉片などが出土。	
第62-63図	15	A'・A'-38-39	12-27住と重複	円	5.10	(4.20)	40.0	埋燹	4	縄文中期五Ⅱ	5個体の土器が出土。一部調査区外。	
第56図	16	F'-34-35	18住と重複	円	3.90	(1.60)	—	不明	2	縄文中期井		
第117図ほか	17	B'・C'-42-43	なし	隅丸方	6.45	6.25	16-37	地床	4	古墳前期初頭	焼失家屋。	
第56図	18	F'-34-35	11-16住と重複	楕円	(5.90)	(5.17)	—	不明	不明	縄文前期明盛		
第64-65図	19	B'・C'-38-39	35住跡4軒と重複	円	6.55	6.42	42.0	石囲	7	縄文中期井Ⅲ	土器2個体の他、土俵、土鏡、土鏡蓋、土鏡蓋が出土。	
第66-67図	20	D'-38-39	30住と重複	円	(4.15)	—	15.0	石圍埋燹	6	縄文中期井Ⅲ		
第64-65図	21	A'・B'-38-39	26住跡4軒と重複	円	(3.65)	(3.35)	—	埋燹	7	縄文中期裕	伊体土器は五箇ヶ台Ⅱ式期のものを利用。	
第68図	22	D'・E'-36-37	なし	楕円	(6.64)	(3.40)	11.0	石囲	3	縄文中期井Ⅱ		
第69図	23	E'・F'-37-38	24-25住と重複	円	(4.73)	(4.30)	17.0	石圍埋燹	5	縄文中期井Ⅲ		
第69図	24	E'・F'-37-38	23住と重複	楕円	(4.93)	(3.86)	—	不明	不明	縄文中期五Ⅱ		
第69図	25	F'・G'-36-37	23住と重複	楕円	(5.40)	(4.60)	—	不明	不明	縄文中期		
第64-65図	26	A'・B'-38-39	21住跡4軒と重複	楕円	(4.10)	(3.60)	40.0	地床	6	縄文中期五Ⅱ		
第64-67図	27	A'・B'-39	26住跡4軒と重複	円	(4.25)	(4.20)	17.0	埋燹	7	縄文中期裕	平出目型A系土器と伴出関係。一部調査区外。	
第70図	28	A-37-38	2住と重複	円	4.05	(2.70)	17.0	埋燹	5/6	縄文中期五Ⅱ	一部調査区外。	
第70図	29	A-36	2住と重複	不明	(2.75)	(1.75)	—	埋燹	不明	縄文中期五Ⅱ	大部分が調査区外。	

図版番号	住所	位 置	重複・改築	平面形状	長径(m)	短径(m)	深さ(cm)	炉	柱状	時代・時期	備 考
第66-67図	30	C'・D'-38-39	20-34住と重複	楕円	5.50	(4.65)	30.0	石囲	5	縄文中期井Ⅱ	
第71-72図	31	E'・F'-39-40	32-110住と重複	円	6.80	6.36	25-55	地床?	7	縄文中期築	重複住居が後から造られている。
第71-72図	32	E'-39-40	31-110住と重複	円	4.70	4.20	60.0	石囲	5	縄文中期新	平出Ⅲ系A土器と伴出関係。
第119図	33	B'・C'-39-40	なし	隅丸長方	4.74	3.90	20.0	地床	不明	古墳前期初顔	佚失家屋。
第73図	34	C'・D'-39-40	30住と重複	円?	(5.70)	(5.60)	—	埋変	7	縄文中期井Ⅱ	
第74図	35	B'・C'-39-40	19住地跡と重複	円	(5.10)	—	—	埋変	4	縄文中期築	一部調査区外。
第75図	36	G'-41-42	なし	円	(4.85)	(4.50)	14.0	派石	6	縄文中期井Ⅲ	
第76-78図	37	H'-42-43	39-98住と重複	楕円	5.30	5.10	20-46	石囲	5	縄文中期井Ⅱ	ミニチュア土器と浅鉢が内内から出土。
第76-78図	37	H'-42-43	37住を改築	楕円	(5.70)	(5.50)	20-46	地床	6	縄文中期井Ⅱ	約1/2が覆土を受けている。
第79-80図	38	B'・C'-43-44	42住地跡と重複	円	(4.75)	—	—	石囲	2	縄文中期Ⅴ	
第76-78図	39	G'・H'-42-43	37住地跡と重複	円	4.00	4.00	38.0	—	7	縄文中期新	浅鉢と深鉢が出土。
第76-78図	39	G'・H'-42-43	39住の改築	円	(5.80)	(5.31)	38.0	石囲	6	縄文中期新	炉の上面から深鉢が横位で出土。壁に段あり。
第80図	40	K'-43	40住と重複	楕円	(4.40)	(4.00)	90.0	地床	6	縄文中期築	惣鉢肥手の付く深鉢が出土している。
第80図	40	K'-43	40住と重複	円	3.51	3.35	75.0	地床	4	縄文中期藤Ⅰ	土器20個体の他、小形孔厨付土器、土
第81-82図	41-1	B'・C'・D'-44-45	42住地跡と重複	楕円	—	—	—	不明	4/7	縄文中期藤Ⅱ	隅、土、土粒など多量の遺物が井戸内
第81-82図	41-2		41住の改築	楕円	—	—	—	不明	7/8	縄文中期藤Ⅱ	パターンで出土している。
第81-82図	41-3		41住の改築	楕円	—	—	—	不明	9	縄文中期藤Ⅱ	
第81-82図	41-4		41住の改築	楕円	8.70	7.35	10-41	地床	8/9	縄文中期藤Ⅱ	小型の住居であるが、土器が出土している。
第79図	42	B'・C'-44	38住地跡と重複	不整形円	2.78	2.36	25.0	不明	4	縄文中期築	炉周辺から深鉢と焼酎土器が出土している。
第83図	43	D'・E'-42-43	67住と重複	楕円	5.84	4.65	24.0	埋変	6	縄文中期新	大部分が調査区外。
第79図	44	B'-44	45住と重複	不明	(3.18)	(0.80)	60.0	不明	1	縄文中期井	大部分が調査区外。
第79図	45	B'-44	44住と重複	不明	(4.00)	(0.80)	60.0	不明	1	縄文中期Ⅴ	一部覆土。
第79図	46	B'・C'-43-44	38住と重複	楕円	(4.65)	—	—	地床	5	縄文中期藤Ⅰ	
第79図	47	B'・C'-44	38住地跡と重複	円	(4.60)	—	—	地床	6	縄文中期藤Ⅰ	屋内配石がみられ、付近から多量の遺物が出土。
第84-85図	48	J'・K'-45-46	97住の改築	楕円	7.14	6.43	58.0	石囲	7	縄文中期井Ⅱ	竈台などが出土。中央部が覆土を受ける。
第86図	49	D'-44-45	41-50住と重複	不整形楕円	4.10	3.40	13.0	地床	不明	縄文中期井Ⅰ	
第86図	50	D'・E'-44-45	49住地跡と重複	楕円	6.90	6.00	8.0	石囲	6/7	縄文中期藤Ⅱ	約1/2が調査区外。
第84図	51	B'・C'-45-46	なし	隅丸方	—	—	—	地床	不明	古墳前期初顔	炉付近から深鉢が、墓土からは土器が出土。
第87図	52	E'・F'-32	102住と重複	楕円	(5.60)	(4.50)	26.0	地床	7	縄文中期井Ⅱ	土器が出土している。
第88図	53	C'・D'-45-46	41住と重複	隅丸長方	(7.35)	(4.75)	25.0	不明	7/8	縄文中期築	フラスコ状土塊を2基伴う。
第89-90図	54	E'・F'-41-42	55住地跡と重複	楕円	6.45	5.85	—	埋変	6	縄文中期井Ⅱ	
第91図	55	E'・F'-41-42	54住地跡と重複	不整形楕円	(4.00)	(3.75)	—	不明	7	縄文中期井Ⅰ-Ⅱ	フラスコ状土塊を5個伴う。炉付近から深鉢が。
第91図	56	E'・F'-41-42	55住の改築	不整形楕円	6.35	5.80	5-10	派石	6	縄文中期井Ⅰ-Ⅱ	部分的に覆土を受ける。
第92-93図	57	F'-45-46	95住と重複	長楕円	(4.30)	(3.90)	50.0	不明	4/5	縄文中期新	土師の土、ビツトから小深鉢が出土している。
第94図	58	C'・D'-43-44	なし	円	(3.30)	—	—	派石埋変	4	縄文中期藤Ⅰ	
第89-90図	59	F'-40-41	54住地跡と重複	楕円	(6.00)	(5.70)	10.0	石囲	6	縄文中期井Ⅱ	深鉢・深鉢の他、炉の北側で石罫が出土している。
第95図	60	D'・E'-40-41	61住と重複	円	(4.80)	(4.40)	10.5	石囲	4	縄文中期藤Ⅱ	ビツト内から土器出土。
第95図	61	D'-41-42	60-67住と重複	円	(4.47)	(4.40)	—	地床	4	縄文中期新	深鉢・明土師の土器と土器が出土している。
第96図	62	B'・C'-41-42	65-69住と重複	楕円	(5.00)	(4.30)	—	地床	4	縄文中期藤Ⅱ	大部分が調査区外。土器が出土。
第97-98図	63	A'・B'-42-43	38住地跡と重複	円	6.05	(5.45)	4.0	不明	3/4	縄文中期藤Ⅰ	約1/3が調査区外。
第97-98図	64	B'・C'-42-43	38住地跡と重複	円	(4.40)	(4.00)	20.0	不明	3/4	縄文中期新	約1/4が調査区外。
第97-98図	65	B'-42-43	63住と重複	円	4.23	(3.30)	10.0	石囲	3/4	縄文中期Ⅴ	約2/3が調査区外。
第97-98図	66	B'-41-42	65住と重複	楕円	5.70	(3.30)	25.0	不明	2/3	縄文中期Ⅴ	一部覆土。
第99図	67	E'・F'-41-42	43住地跡と重複	不整形円	(4.65)	(4.30)	—	地床	4	縄文中期Ⅴ	一部調査区外。土師が出土。
第74図	68	B'・C'-40-41	35住と重複	楕円	(5.20)	(4.50)	18.0	派石?	4	縄文中期藤Ⅰ	
第96図	69	B'・C'-41-42	62住と重複	楕円	(6.00)	(5.30)	10.0	地床	7	縄文中期築	南北両側が調査区外。

図版番号	住居別	位置	重複・改築	平面形	長さ(m)	短径(m)	高さ(cm)	炉	柱穴	時代・時期	備	考
第100図	70	A-A'-42-43	72住と重複	円	(3.15)	(4.65)	25.0	地床	3/5	縄文中期ⅤⅡ		大部分が調査区外。
第100図	71	A'-43	なし	方	—	—	17.0	不明	不明	古墳前期初頭		大形の住居と考えられるが、大部分が調査区外。
第100図	72	A-42-43	70住と重複	楕円	(4.00)	(3.05)	50.0	不明	不明	縄文中期Ⅴ		大部分が調査区外。
第57図	73	A-40	なし	不明	(1.50)	(0.60)	5.0	不明	不明	縄文中期Ⅴ		平山遺跡A土器との伴出関係あり、土俵出土。
第101-102図	74	C'-D'-32-33	なし	不整円	4.83	4.60	17.0	地床	4	縄文中期Ⅴ		
第101-102図	75	B'-C'-33	なし	円	(5.20)	(2.80)	37.0	地床	5	縄文中期Ⅴ		土俵・貝輪状土製品が出土、約1/3が調査区外。
第103図	76	E'-33-34	なし	円	(4.00)	(1.25)	40.0	地床	1	縄文中期Ⅴ		大部分が調査区外。
第103図	77	E'-34-35	なし	円	(4.00)	(3.90)	37.0	地床	3	縄文中期Ⅴ		大部分が調査区外。
第104図ほか	78	G'-H'-46-47	80住地3軒と重複	円	6.03	5.06	22-55	地床	5	縄文中期ⅤⅠ		特殊器形の土器など10種出土、土俵・土器が出土。
第106図	79	H'-I'-46-47	92住と重複	円	4.84	4.64	24.0	地床	6	縄文中期Ⅴ		有孔器類など3個体が出土、炉の築造が行な。
第105図	80	H'-I'-46-47	78住と重複	不明	(4.05)	(1.20)	15.0	不明	不明	縄文中期ⅤⅡ-Ⅲ		大部分が調査区外。
第92-93図	81	F'-46	なし	円	(1.55)	(1.30)	52.0	不明	不明	縄文中期ⅤⅡ		大部分が調査区外。
第92-93図	82	F'-G'-45-46	57住地軒と重複	隅丸方	(5.00)	(4.30)	13.0	不明	5/7	縄文中期Ⅴ		一部調査区外。
第92-93図	83	F'-G'-46	82住地軒と重複	円	(4.10)	(1.90)	22.0	石囲	3	縄文中期ⅤⅡ		土器が2個体出土、約1/2が調査区外。
第107図ほか	84	A-A'-32-33	88住と重複	円	4.70	1.30	—	不明	2	縄文中期ⅤⅠ		
第107図ほか	84'	A-A'-32-33	84住の改築	円	6.60	2.05	40.0	不明	3	縄文中期ⅤⅠ		ピット内から小型器類出土、約2/3が調査区外。
第107図ほか	85	A-A'-33	なし	不明	(5.86)	(2.40)	23.0	不明	2	縄文中期ⅤⅠ		人口部付近に埋蔵品を保存する。
第92-93図	86	G'-H'-46-47	80住地3軒と重複	楕円	(3.00)	—	30.0	不明	不明	縄文中期Ⅴ		ピットから葺が、扉まで土器も出土している。
第92-93図	87	G'-H'-46-47	86住地軒と重複	楕円	(3.00)	—	30.0	不明	不明	縄文中期Ⅴ		大部分が調査区外。
第107図ほか	88	A-32-33	84-90住と重複	不整円	(4.80)	(4.50)	15.0	地床	3	縄文中期Ⅴ		伊持近から丸底土器が出土、約1/3が調査区外。
第48-49図	89	B'-36-37	9住と重複	不明	—	—	—	地床	不明	縄文中期Ⅴ		大部分が調査区外。
第107図ほか	90	A-B-32-33	町住地軒と重複	楕円	(5.90)	(2.40)	3-15	不明	3	縄文中期Ⅴ		約2/3が調査区外。
第109図ほか	91	G'-H'-43-44	39-98住と重複	円	6.30	6.15	28.0	地床	7	縄文中期ⅤⅡ		屋内配石が認められ、石柵を伴う。
第111図ほか	92	H'-I'-44-45	92住の改築	円	6.20	5.93	70-85	石囲	7	縄文中期ⅤⅡ		土器が15個体以上出土している。
第111図ほか	92'	45	79-93住と重複	円	(4.00)	(3.70)	—	埋蔵	5	縄文中期ⅤⅡ		
第113図	93	I'-J'-44-45	92-96住と重複	楕円	7.00	(5.50)	20.0	石囲	7/8	縄文中期ⅤⅡ		
第92-93図	94	F'-G'-44-45	57-95住と重複	円	4.73	4.45	35.0	石囲埋蔵	7	縄文中期ⅤⅡ		が体土器は底部。
第92-93図	95	F'-G'-45-46	57住地軒と重複	円	4.70	(4.45)	25.0	地床	3/4	縄文中期ⅤⅡ		6個体の土器の他、耳栓・土俵が出土。
第113図	96	I'-J'-43-44	93住と重複	円	6.22	5.92	36.0	石囲と地床	7	縄文中期ⅤⅡ		
第84-85図	97	J'-K'-45-46	48住の改築	円	(4.90)	(4.90)	48.0	地床?	6	縄文中期ⅤⅡ		
第76-78図	98	H'-I'-43-44	37住地軒と重複	楕円	(3.50)	—	—	地床	5	縄文中期ⅤⅡ		
第76-78図	98'	H'-I'-43-44	98住の改築	楕円	(5.85)	(5.27)	2-50	石囲	6	縄文中期ⅤⅡ		
第114図ほか	99	E'-F'-43-44	100住地軒と重複	円	5.94	(5.50)	20-30	石囲	7	縄文中期ⅤⅡ		
第114図ほか	100	E'-44	99-101住と重複	円	(4.04)	(3.72)	10.0	石囲	6	縄文中期ⅤⅠ		
第114図ほか	101	E'-F'-44-45	99住地軒と重複	円	5.03	(5.00)	31.0	埋蔵	6	縄文中期Ⅴ		伊の埋蔵品に似た器類が行な、平山遺跡と伴出。
第87図	102	F'-G'-42-43	52住と重複	不整円	5.65	4.80	22.0	埋蔵	6	縄文中期Ⅴ		平山遺跡A土器との伴出関係あり。
第120図	103	E'-F'-45-46	なし	長方	5.04	4.30	44.0	地床	4	古墳前期初頭		焼失家屋か。
第120図	104	H'-45-46	なし	隅丸長方	3.50	2.70	15.0	地床	4	古墳前期初頭		小竪穴と隣接している。
第121図	105	E'-F'-40-41	106住と重複	隅丸長方	4.11	3.15	5-20	地床	4	古墳前期初頭		北壁付近から鉄線が出土、焼失家屋か。
第121図	106	D'-E'-41-42	105住と重複	長方	7.50	6.70	15-50	地床	4	古墳前期初頭		鉄線・S字状口縁台付甕が出土、焼失家屋か。
第122図	107	B'-C'-44-45	なし	長方	(3.70)	(3.17)	27.0	不明	不明	古墳前期初頭		焼失家屋か、舟形が甕。全体の1/5が調査区外。
第122図	108	D'-E'-42-43	なし	隅丸方	5.15	5.07	44-57	地床	4	古墳前期初頭		焼失家屋か。
第48-49図	109	A'-36-37	1住地3軒と重複	円	(3.50)	—	—	地床	2	縄文中期		礎石を受け、約1/3が調査区外。
第21-22図	110	E'-F'-39-40	31-32住と重複	円	(4.80)	—	—	地床	7	縄文中期Ⅴ		31住と同時期だが、内側に造られている。
なし	111	I'-J'-46	なし	方	—	—	—	地床	不明	古墳前期初頭		遺跡の切り合いが多く、プラン確認できない。
第107図ほか	117	B-32-33	90住と重複	円	(5.10)	(1.85)	3-15	不明	2	縄文中期Ⅴ		土俵が出土、約2/3が調査区外。

第2項 掘立柱建物跡

確認できたのは3軒である。これらのものは、柱穴内から出土した少量の土器破片と覆土の状態から、古墳時代前期初頭期の所産と考えられ、建物の主軸の関係から第1・2号掘立柱建物跡と第3号掘立柱建物跡の2時期に分類できるようである。

第1号掘立柱建物跡（第121図）

（位置）調査区の北西部、F・G'-44・45グリッドに位置している。

（重複・改築）なし。

（形態・規模）形態は長方形を呈し、規模は長径5.80m、短径が3.80mを測る。

（柱穴）6本のピットが存在した。ピット1は径45.0×38.0、深さ55.0cm、ピット2は径46.0×40.0、深さ63.0cm、ピット3は径42.0×40.0、深さ45.0cm、ピット4は径40.0×37.0、深さ50.0cm、ピット5は径35.0×30.0、深さ50.0cm、ピット6は径35.0×30.0、深さ48.0cmを測る。

（その他の遺構）北西部に小ピットが2基存在するが、本遺構との関連性は不明である。規模は径130×50cm、深さ28cmを測る。

（時期）古墳時代前期初頭。

（出土遺物）ピット内から土器小破片が出土。

第2号掘立柱建物跡（第123図）

（位置）調査区北西部、C・D'-44グリッドに位置している。

（重複・改築）なし。

（形態・規模）形態は長方形を呈し、規模は長径4.10m、短径が3.45mを測る。

（柱穴）6本のピットが存在した。ピット1は径35.0×30.0、深さ26.6cm、ピット2は径33.0×30.0、深さ22.2cm、ピット3は径33.0×30.0、深さ32.8cm、ピット4は径27.0×25.0、深さ21.0cm、ピット5は径45.0×40.0、深さ20.4cm、ピット6は径46.0×42.0、深さ10.4cmを測る。

（その他の遺構）南東部にピットが3基基本遺構に並行して存在するが、本遺構との関連性は不明である。規模はピット7は径45.0×40.0、深さ32.7cm、ピット8は径35.0×32.0、深さ22.0cm、ピット9は径50.0×45.0、深さ19.8cmを測る。

（時期）古墳時代前期初頭。

（出土遺物）ピット内から土器小破片が出土。

第3号掘立柱建物跡（第121図）

（位置）調査区の中央部、D'-40グリッドに位置している。

（重複・改築）なし。

（形態・規模）形態は長方形を呈し、規模は長径3.90m、短径が3.10mを測る。

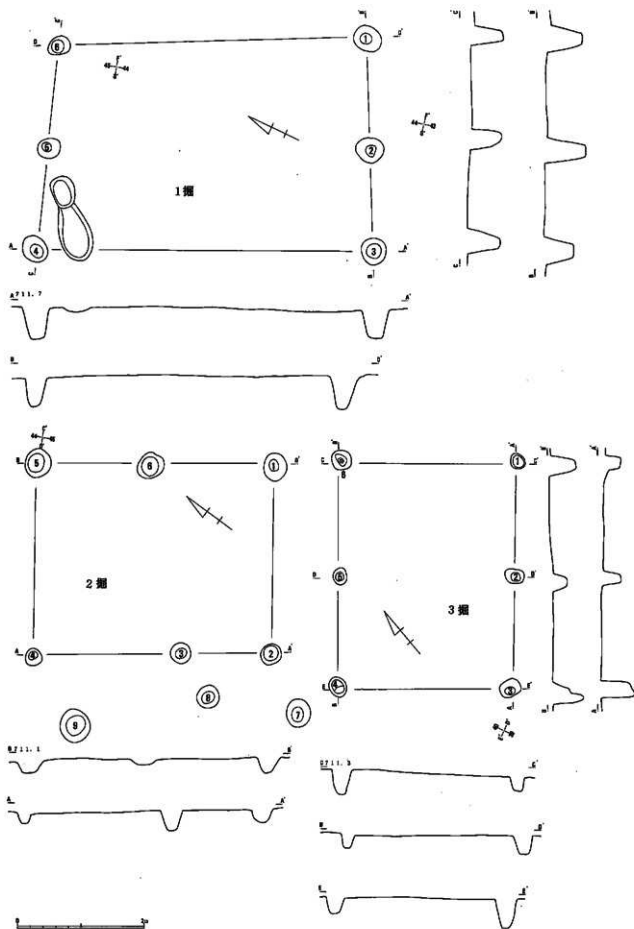
（柱穴）6本のピットが存在した。ピット1は径23.0、深さ25.0cm、ピット2は径30.0×23.0、深さ30.0cm、ピット3は径33.0×26.0、深さ53.0cm、ピット4は径33.0×28.0、深さ45.0cm、ピット5は径26.0×22.0、深さ22.0cm、ピット6は径31.0、深さ40.0cmを測る。

（時期）古墳時代前期初頭。

（出土遺物）ピット内から土器小破片が出土。

第8表 C区掘立柱建物跡一覧表

図版番号	図例	位置	重複・改築	平面形	長径(m)	短径(m)	主柱	その他の遺構	時代・時期	備考
第123図	1	F・G'-44・45	なし	長方	5.80	3.80	6	土坑2基	古墳前期初頭	2壘と主軸方向が同じ。
第123図	2	C・D'-44	なし	長方	4.10	3.45	6	ピット3本	古墳前期初頭	1壘と主軸方向が同じ。
第123図	3	D'-40	なし	長方	3.90	3.10	6		古墳前期初頭	



第 123 图 C区 第 1~3 号掘立柱建物跡

第3項 土坑・グリッド土坑・ピット群 (第122～130図)

土坑・柱穴として認識できるものは前述のとおり約2400基である。凡例でも述べたが、遺構の取り上げミスを防ぐ目的から特徴のあるものを土坑として取り上げ、その他のものはグリッド単位で土坑番号を付けて遺物を取り上げ区別した。時期的には大多数のものが縄文時代中期前半に属するものであるが、南側に隣接する曾利式期の集落との関係から該期のものも南部を中心に分布する。土坑群は台地縁辺に行くにしたがってその密度が高くなるが、全体的に掘り込みが浅いものが多くなり、装飾品や土器などの個体を伴った墓と考えられるようなものが増加してくる。そして集落の中心部に向かうに従ってその密度は低くなり広場状の空間が広がり、土坑は小型化して、柱穴状のピット群が規則性もなく分布している。

特筆すべきものを以下に挙げる。遺物に関する詳細な点については次編に譲るが、ここでは事実に関する記載を優先させたこととした。まず土器の個体資料で深鉢が出土したものは、35・53・85・111・120・122・129・132・157・164・176・179・181・184・186・187・188・202・215・218・251土で、浅鉢が出土したものは48・135・226・248土、ミニチュア土器などでは37・57・101・146・224土から出土している。その他、特殊なものとして深鉢が逆位で出土した野外埋 壺状の96土、横位の深鉢が壊れて破壊されたような出土を示す148土などがある。16・81・168・200・237土から土偶が、14・45・56土から耳飾りなどの装飾品が、140土から小型磨製石斧が、20・71・203・215・245土からは石棒が出土している。異系統の土器と伴出関係が窺えるものに39・170・185・200・224・247土を挙げることができる。特筆すべきものに、256土から前期諸磯b式期の漆塗り土器が出土している。

次に遺構の性格についてであるが、断面形が所謂食料用の貯蔵穴として捉えられるものに59・153・154・155土などを挙げることで、またこれとは別に173・191土のように覆土から粘土が認められるものもあり、こうしたものは食料用以外の貯蔵穴の用途が考えられる。ゴミ穴に転用されたようなものに集石が認められる88・171土がある。野外炉的なものに25土がある。墓と考えられるものに前述のような14土などといった装飾品を伴ったものや、石棒と土器を伴った215土、また大型の礫を伴う22・40・42・72・82・90・97・100・103・105・152・210・208土、9・27・39・65・66・83・104・149・169・149・253・H・35・7・H・36・3・H・40・1・H・40・7土などから石匙が出土しており、これらのものが該当するものと考えられる。また、3・8・14・18・45・91・92・95・97・159・184・192・193・205・257土から石皿の破片を伴って出土しており、土坑り性格を考える上で興味深いものである。

第9表 C区土坑一覧表

() は現存値および推定値

1坑群位	置	長さ(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形 態	立ち上がり	時 期	備 考
1 G-34		127.0	126.0	50.0	円	急	新	105土と切り合う。
2 G-34		104.0	80.0	38.0	円	急	五Ⅱ	1土と接触。
3 F-34	(180)	(100)	22.0	楕円	急	急	新	4土を切り、5土に切られる。
4 F-34	(80)	(70)	37.0	円	急	急	五Ⅱ	3土に切られる。
5 F-34	(120)	(80)	22.0	不整円	急	急	加EⅢ	3・6土を切る。
6 F-34	(70)	(70)	42.0	円	急	急	五Ⅱ	18土と接触、5土に切られる。
7 F-34	100.0	(80)	19.0	円	やや急	急	中期	
8 H-33-34	166.0	110.0	36.0	楕円	やや急	急	五Ⅱ	8住内。
9 H-34	150.0	125.0	37.0	楕円	やや急	急	藤Ⅱ	坑底部より石匙2点出土。墓か？
10 C-36	40.0	(28)	63.0	円	緩やか	急	新	約半分が調査区外。
11 C-36	63.0	(22)	62.0	楕円	緩やか	急	中期	約半分が調査区外。
12 J-36	164.0	152.0	45.0	不整	やや急	急	五Ⅱ	7土と切り合う。20・40cm大の礫が出土。
13 F-36	169.0	157.0	40.0	楕円	急	急	中期	7土と切り合う。70cm大の礫が出土。
14 J-35	83.0	53.0	30.0	楕円	緩やか	急	五Ⅱ	ペンダント転用の耳飾りが出土。墓か？
15 H-36-37	70.0	58.0	30.0	不整円	急	急	新	凹石、打岸出土。
16 B-37	135.0	110.0	65.0	不整	急	急	新	3住内。土偶2点と凹石、石鉢が出土。
17 C-37	70.0	40.0	12.0	楕円	急	急	中期	18土と切り合う。
18 C-36-37	69.0	58.0	20.0	円	急	急	中期	17土と切り合う。
19 B-37	90.0	80.0	57.0	円	急	急	五Ⅱ	3住内、16住に切られる。凹石、石皿が出土。
20 H-35	235.0	190.0	43.0	円	緩やか	急	新	石棒先端が出土。覆土に焼土・炭化物多量混入。
21 K-35	234.0	135.0	31.0	楕円	緩やか	急	五Ⅱ	楕状把手を残す土器片あり。
22 F-37	160.0	160.0	20.0	円	緩やか	急	曾Ⅰ	80cm大の板状の石が出土。墓か？
23 J-38	180.0	160.0	83.0	不整円	急	急	五Ⅱ	24土と切り合う。
24 J-38	105.0	100.0	33.0	円	急	急	中期	23土と切り合う。
25 F-34	128.0	115.0	36.0	楕円	やや急	急	曾Ⅲ	西側に添石があり、焼土が集中し、野外炉状。
26 J-34	115.0	110.0	42.0	楕円	緩やか	急	新	6住内。
27 J-37	140.0	94.0	31.0	長楕円	やや急	急	曾？	坑底部から石匙出土。

採掘位	置長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形態	立ち上がり	時期	備考
28	G'-34	110.0	110.0	50.0	円急	井Ⅱ	29土に切られる。
29	G'-34	120.0	115.0	38.0	円緩やか	井Ⅱ	28土を切る。
30	B'-37	125.0	118.0	70.0	円急	井Ⅱ	2基の土坑から構成。
31	A'-37	145.0	70.0	16.0	長方急	中期	3付内、34土と切り合う。
32	B'-37	110.0	110.0	—	円不明	中期	3付と切り合う。
33	B'-37	210.0	160.0	34.0	不整円緩やか	井Ⅱ	3付と切り合う。
34	A'-37・38	(150)	135.0	—	不整楕円不明	井Ⅱ	31・36土と切り合う。
35	B'-38	120.0	103.0	60.0	楕円急	井Ⅱ	深鉢形土器が出土。
36	A'-38	100.0	100.0	61.0	円急	井Ⅱ	34土と切り合う。
37	F'-J'-34	106.0	95.0	35.0	円やや急	井Ⅰ	小型土器出土。
38	H'-34	150.0	115.0	27.0	長楕円緩やか	井Ⅱ	
39	H'-I'-34	85.0	75.0	63.0	円急	宮Ⅴ	加曽利E系土器、凹石、石皿、石匙が出土。
40	H'-34	110.0	100.0	30.0	楕円急	讀C	41土に切られる。坑底部から50cm大の礫出土。
41	H'-34	183.0	110.0	19.0	不整楕円緩やか	井Ⅱ	38土と切り合い、40土と切り合う。ビット2。
42	G'-H'-34	130.0	83.0	26.0	楕円緩やか	井Ⅰ	47土と切り合う。40cm大の礫出土。
43	B'-38	150.0	140.0	35.0	円急	新	北東部で段あり。
44	H'-I'-35	138.0	136.0	55.0	不整円北急、南緩やか	井Ⅱ	
45	C'-D'-37	118.0	102.0	35.0	円緩やか	井Ⅱ	4付内、朱彩の土製耳飾り出土。
46	C'-37	85.0	(65)	33.0	楕円急	井Ⅱ	13付と切り合う。
47	G'-34	120.0	90.0	62.0	円急	井Ⅱ	42土を切る。
48	G'-34	68.0	57.0	51.0	円急	猪	浅鉢が出土。
49	H'-34・35	114.0	88.0	48.0	円急	宮Ⅴ	20cm大の礫出土。
50	H'-34	90.0	87.0	33.0	円やや急	井Ⅱ	
51	H'-35	140.0	105.0	48.0	円緩やか	井Ⅱ	52土を切る。中央部に深さ28cmのビット。
52	H'-35	115.0	90.0	26.0	円緩やか	井Ⅱ	51土に切られる。
53	H'-34	120.0	105.0	29.0	不整楕円緩やか	井Ⅰ	54土に切られる。フラスコ状。深鉢形土器出土。
54	H'-34	93.0	64.0	28.0	不整楕円緩やか	井Ⅴ	53土を切る。
55	H'-35	85.0	83.0	49.0	円急	猪	集石土坑で、袋状を呈している。
56	G'-36	86.0	81.0	20.0	円やや急	前末?	57土に切られる。耳飾りが出土。
57	G'-36	143.0	95.0	46.0	長楕円急	井Ⅱ	56土を切る。南西部から小型深鉢出土。
58	I'-38	185.0	163.0	26.0	不整円やや急	井?	
59	H'-36・37	121.0	121.0	54.0	円急	猪	フラスコ状。
60	H'-37	210.0	125.0	34.0	不整楕円急	猪	
61	F'-G'-34	95.0	80.0	60.0	楕円急	宮Ⅴ	
62	A'-A'-38	210.0	140.0	80.0	長方緩やか	中期	71・73土と切り合う。
63	H'-38	94.0	90.0	30.0	円緩やか	猪	15付・80土と切り合う。南側掘乱。
64	H'-38	155.0	121.0	43.0	円急	猪	64土と切り合い、66土に切られる。
65	H'-I'-38	58.0	51.0	20.0	円急	猪	63土と切り合い、66土に切られる。集石土坑。
66	H'-I'-38	150.0	125.0	24.0	楕円緩やか	宮Ⅴ	63・66土を切り、東部に深さ23cmのビット。
67	I'-38	200.0	(140)	27.0	不整	井?	63・64土を切り、65土に切られる。
68	I'-38	(140)	(130)	44.0	円やや急	新	64・66・68土と切り合う。
69	J'-39	172.0	146.0	73.0	円やや急	五	67土と切り合う。小ビットあり。
70	G'-34	90.0	85.0	33.0	円急	井Ⅱ	貯蔵穴状。西側掘乱。
71	F'-C'-34	93.0	65.0	53.0	円やや急	井?	11付に切られる。40cm大の礫混入。
72	G'-34	60.0	57.0	14.0	円緩やか	井?	11付、61・73土と切り合う。石椀片出土。
73	G'-34	85.0	83.0	33.0	円急	宮Ⅴ	70・73土と切り合う。
74	G'-34	178.0	120.0	41.0	不整緩やか	井Ⅱ	71・70土と切り合う。4基の土坑の重複か。
75	G'-39	173.0	114.0	34.0	長楕円やや急	猪	東側が掘乱。礫集中。
76	A'-39	119.0	112.0	35.0	円急	井Ⅱ	15付に切られる。
77	A'-38・39	93.0	77.0	44.0	円緩やか	井Ⅱ	15付と切り合う。2基の土坑の重複か?
78	A'-38	(170)	115.0	—	方不明	井Ⅱ	79土に切られる。南側が掘乱。
79	A'-39	107.0	(80)	25.0	楕円急	井Ⅱ	79土と切り合う。南側が掘乱。
80	A'-38	(130)	100.0	30.0	円急	井Ⅱ	62土と切り合う。南側が掘乱。
81	A'-38	150.0	(100)	12.0	楕円緩やか	新	106土と切り合う。南側が掘乱。土偶が出土。
82	I'-36	142.0	118.0	66.0	楕円急	宮Ⅴ	40cm大の礫が出土。2基の土坑が重複か?
83	J'-39	115.0	114.0	24.0	円急	井Ⅱ	
84	G'-37	170.0	160.0	35.0	不整東は緩く、西は急	井Ⅱ	50~30cm大の礫出土。
85	G'-37	143.0	121.0	26.0	楕円やや急	井Ⅱ	86土と切り合う。小型深鉢出土。
86	G'-37	125.0	115.0	37.0	不整円急	井Ⅱ	85土と切り合う。東側に小ビット。
87	G'-37・38	111.0	92.0	45.0	不整円やや緩やか	井Ⅱ	
88	G'-37・38	245.0	142.0	23.0	不整楕円緩やか	井?	5cm大の礫多数。
89	G'-37	167.0	120.0	23.0	不整楕円緩やか	猪	90土と切り合う。西側で小型深鉢が出土。
90	G'-37	100.0	77.0	28.0	不整楕円緩やか	猪	80土に切られる。40cm大の礫と土器片集中。
91	H'-37	147.0	126.0	61.0	円急	猪	50~30cm大の礫と土器片多数出土。
92	G'-H'-37	123.0	120.0	17.0	不整円緩やか	井?	小ビットが付属。石皿が出土。
93	H'-37	118.0	99.0	40.0	円緩やか	猪	
94	H'-37	129.0	126.0	46.0	円緩やか	猪	
95	C'-36	50.0	50.0	26.7	円やや急	猪	
96	I'-39	113.0	75.0	25.0	楕円急	井Ⅰ	18土に切られる。
97	I'-40	165.0	70.0	27.0	楕円不明	井Ⅱ	97・98土と切り合う。逆位の埋甕が出土。
98	I'-39	135.0	122.0	98.0	円急	井Ⅱ	12付、96土に切られる。板状の礫が出土。
99	G'-39・40	71.0	65.0	17.0	円急	宮Ⅴ	96土を切る。両耳蓋が坑底部から出土。
100	J'-40	85.0	130.0	17.0	不整楕円緩やか	井Ⅱ	100土と切り合う。
101	J'-40	90.0	86.0	17.0	円緩やか	井Ⅱ	99土と切り合う。40cm大の板状礫とが出土。
102	H'-39	112.0	107.0	40.0	円急	井Ⅲ	100土と切り合う。有孔円鉢形土器出土。
103	H'-38	170.0	85.0	25.0	楕円緩やか	猪	深鉢形土器胴下半部出土。
104	H'-38	115.0	114.0	38.0	円北急、南は緩い	井Ⅱ	30cm大の礫出土。 石匙が出土。

説明位	位置長(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形態	立ち上がり	時期	備	考
105 F・G-34	170.0	110.0	42.0	長楕円	緩やか			1土と切り合う。板状の石を伴う。
106 A-38	55.0	54.0	24.0	円	緩やか	第		81土と切り合う。
107 C-38	130.0	97.0	92.0	楕円	急	曾V		
108 D-38	104.0	85.0	48.0	楕円	急	第		20f、109土と切り合う。
109 D-38	(110)	(80)	10.0	不整円	急	第		20f、108土と切り合う。
110 D-38	95.0	82.0	—	円	不明	曾V		
111 F-37	94.0	87.0	26.0	円	緩やか	第		112土に切られる。深鉢形土器が2個体出土。
112 F-37	115.0	102.0	22.0	円	緩やか	罐I		111土を切る。
113 F-37	(200)	(87)	12.0	長楕円	緩やか	五I・II		115土に切られる。西側に板状の石が集中。
114 C-38	65.0	62.0	17.0	円	急	第		
115 F-37	(117)	(93)	—	不整	不明	曾?		113土を切る。
116 G-38	119.0	115.0	24.0	双円	急	五II		86土と切り合う。2基の土坑と重複か?
117 F-37	89.0	61.0	17.0	長楕円	緩やか	五II		深鉢形土器の胴上都出土。
118 B・C-39	108.0	88.0	24.0	不整	緩やか	罐II		35住内。
119 E-37	160.0	97.0	29.0	不整	緩やか	罐I		
120 C-38・39	123.0	106.0	82.0	楕円	やや急	曾V		121土と切り合う。小型深鉢形土器出土。
121 C-38・39	71.0	68.0	44.0	円	緩やか	曾V		120土と切り合う。
122 G-38	77.0	56.0	5.0	円	緩やか	井I・II		123土と切り合う。深鉢形土器が出土。
123 G-38	82.0	51.0	14.0	円	急	曾?		122土を切る。
124 G-38	—	—	—	不整	不明			125・127・130・132土と切り合う。
125 G-38・39	(100)	(90)	35.0	円	急			131・133土と切り合う。
126 G-38	120.0	118.0	49.0	円	急	第		123・127・129土と切り合う。
127 G-38	125.0	(110)	37.0	楕円	急			124・126・129土と切り合う。
128 G-38	113.0	100.0	—	円	不明	五II		129土と切り合う。
129 G-38	66.0	60.0	56.0	不整	緩やか	五II		127・128土と切り合う。深鉢形土器出土。
130 G-39	136.0	(125)	45.0	楕円	緩やか	井III		131・133土と切り合う。
131 G-39	153.0	110.0	36.0	楕円	急			125・132・133土と切り合う。
132 G-39	76.0	51.0	28.0	楕円	急	井III		131土を切る。深鉢形土器が横位で出土。
133 G-39	100.0	70.0	3.0	楕円	急	曾V		125・130・132土と切り合う。
134 E-37	105.0	120.0	34.0	不整	双円	井III		145土と切り合う。
135 H・G-38	130.0	104.0	31.0	楕円	緩やか	五I		楕形把手を持つ浅鉢が正位で出土。
136 C-38	93.0	79.0	50.0	楕円	急	井I・II		
137 G-39	90.0	67.0	32.0	不整	円	井I・II		20cm大の罐が出土。坑底に小ビット3基。
138 A-38	130.0	121.0	53.0	不整	緩やか	曾IV		新
139 A-38	75.0	50.0	35.0	楕円	急			141土と切り合う。
140 A-38・37	110.0	80.0	21.0	不整	円	五II		141土と切り合う。小型磨製石斧出土。
141 A-38	120.0	75.0	16.0	長楕円	緩やか	五II		139・140土と切り合う。北側に復旧。
142 F-38	99.0	62.0	27.0	楕円	緩やか	井?		24住内。143土を切る。
143 E・F-38	95.0	85.0	3.0	円	緩やか	罐II		142土に切られる。
144 A・A'-37	175.0	200.0	77.5	円	緩やか	井I・II		1住内。
145 F・F'-37	135.0	121.0	24.0	不整	円	井?		134土と切り合う。罐多数出土。
146 C-38	40.0	35.0	43.0	円	急	井?		小型両耳脚付鉢が出土。
147 F-39	120.0	103.0	31.0	不整	円	罐II		50cm大の罐の上に深鉢形土器が正位で出土。
148 F-39	185.0	105.0	28.0	双円	緩やか	井?		深鉢形土器30cm大の罐で破壊された状況。
149 F-39	70.0	58.0	32.0	円	緩やか	五II		
150 F-39	85.0	80.0	21.0	円	緩やか	五II		151土に切られる。
151 F-39	118.0	98.0	35.0	円	急	罐II		有孔釣付土器の口縁が出土。
152 F-38・39	15.0	96.0	21.0	円	緩やか			30~40cm大の罐が出土。
153 F-40	175.0	156.0	75.0	円	急	井II		大型の土坑で、貯蔵穴状。
154 K-33・34	102.0	94.0	60.0	円	急	曾		フラスコ状。貯蔵穴状。
155 K-33	82.0	77.0	66.0	円	急	曾III		オーバーハンク。貯蔵穴状。
156 F-40	113.0	70.0	25.0	円	緩やか	新		157土に切られる。深鉢形土器の胴部が出土。
157 F-39	112.0	90.0	47.0	不整	楕円	罐II		156土を切られる。深鉢形土器が出土。
158 D-38	82.0	54.0	17.0	不整	楕円	曾?		159土と切り合う。
159 E-38	92.0	90.0	20.0	円	急	五II		158土と切り合う。
160 E-38	76.0	74.0	13.0	円	緩やか			161土と切り合う。
161 E-38	105.0	75.0	—	円	不明	罐II		160土と切り合い。162土を切る。
162 E-38・39	195.0	80.0	17.0	長楕円	緩やか	第		161・163土と切り合う。石匙出土。
163 E-39	118.0	65.0	—	楕円	不明	井II		162土を切る。
164 E-39	115.0	85.0	20.0	楕円	北側、西側	井II		深鉢形土器が横位で出土。
165 D-39	100.0	44.0	—	不整	楕円	不明		
166 G-40	100.0	72.0	36.0	楕円	急	五II		
167 G-40	46.0	36.0	15.0	楕円	緩やか	井II・III		167土と切り合う。深鉢形土器が半個体出土。
168 C-40	154.0	113.0	47.0	円	急			166土と切り合う。
169 L-40	150.0	120.0	35.7	円	急	罐II		34住内。土偶の脚部が出土。
170 L-40	80.0	67.0	47.6	楕円	急	第		累系の土器が出土。
171 D-40	124.0	115.0	46.0	円	急	曾IV		集石・土器溜土坑。
172 D-39・40	100.0	100.0	56.0	円	急	第		
173 J-40	112.0	100.0	(188)	円	急	五II		東に向けて斜めに掘り込まれる。坑底から粘土。
174 J-41	90.0	86.0	35.0	円	急	井III-曾II		梨久保B式土器が北東部で横位で出土。
175 J・K-41	160.0	110.0	4.0	不整	長円	第		176土に切られる。
176 K-41	116.0	109.0	48.0	円	北は急、南は緩	井III-曾II		175土を切る。深鉢形土器が横位で出土。
177 J-41	160.0	55.0	51.0	長楕円	急	井II?		181・182土と切り合う。
178 J・K-41	89.0	80.0	54.0	楕円	急	井I-II		罐が集中。
179 J-41	60.0	45.0	11.0	円	緩やか	井I		182土と切り合う。深鉢形土器が横位で出土。
180 G・H-40	127.0	122.0	43.0	楕円	急	五		西側から土器が出土。
181 J-41	90.0	68.0	43.0	楕円	急	井III		177・182土と切り合う。土器2個体出土。

試坑位	置長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形態	立ち上がり	時期	備	考
182 J-41	70.0	65.0	40.0	円	緩やか	曾 I	177・179・181土を切る。	
183 J-41	111.0	110.0	50.0	楕円	急	藤 I	坑底部から土器が出土。	
184 J-41	108.0	90.0	57.0	楕円	急	井Ⅲ-井 I	石皿の下から深鉢形土器が横位で出土。袋状土坑。	
185 J・K-42	109.0	107.0	42.0	円	急	井Ⅲ-井 I	馬式系と考えられる深鉢形土器の胴上部出土。	
186 J-42	110.0	107.0	26.0	円	急	井Ⅱ	南側から横位で深鉢形土器が出土。	
187 J-42	112.0	103.0	52.0	双円	緩やか	井Ⅲ	南側から埋没。北側の土器は188土と接合関係。	
188 J-42	90.0	45.0	25.0	不整楕円	緩やか	井Ⅲ	187土と接合関係。小ピットが5基存在する。	
189 J-42	102.0	96.0	80.0	円	急	井Ⅱ	礫が集中。	
190 F-42	109.0	106.0	31.0	不整円	緩やか	井?	板状の礫が集中し、粘土詰められた状態。	
191 C-43・44	116.0	90.0	30.0	楕円	急	井?	58土と切り合う。敷土が出土。	
192 C-44	93.0	90.0	29.0	円	急	井?	58土と切り合う。15-30cm大の礫が集中。	
193 J-43	162.0	134.0	70.0	楕円	急	猪	96土と切り合う。石皿片出土。	
194 K-44	98.0	55.0	40.0	円	急	井Ⅱ	約半分が調査区外。	
195 J-44	97.0	42.0	35.0	長楕円	やや急	藤?	凹石などの石器が出土。	
196 J-43	154.0	88.0	53.0	瓢箪	緩やか	新・井Ⅲ	2基の土坑と重複。大が猪、小が井Ⅲ。	
197 J-43	56.0	51.0	56.0	円	急	藤?	フラスコ状。石皿などの石器が出土。	
198 J-43	93.0	82.0	55.0	円	急	井Ⅱ	石皿片などが出土。	
199 F-41・42	120.0	105.0	23.0	楕円	緩やか	曾 I		
200 F-41	141.0	74.0	26.0	長楕円	緩やか	猪	土偶1点。平出Ⅲ類A型土器と伴出。	
201 J-44	151.0	116.0	29.0	不整楕円	北は急、南は緩い	井Ⅱ	96土と接触。	
202 H-42	126.0	121.0	67.0	円	やや急	曾Ⅳ	横位の深鉢形土器が出土。	
203 F-42	55.0	50.0	28.0	円	緩やか	中期	10-30cm大の礫集中。石棒出土。	
204 F-41・42	98.0	70.0	50.0	長楕円	緩やか	井Ⅱ	坑底部にピット。	
205 G-43	78.0	78.0	17.0	不整楕円	緩やか	井Ⅱ		
206 H-41	113.0	110.0	34.0	不整円	緩やか	猪	台石状のものが出土。	
207 E・F-46	117.0	105.0	24.0	円	やや急	井Ⅱ	一部調査区外。	
208 G-42	55.0	50.0	15.0	円	急	藤 I	209土に切られる。5-30cm大の礫多数。	
209 G・F-42	118.0	114.0	40.0	円	急	井?	208土を切る。	
210 G-41	100.0	81.0	25.0	円	緩やか	井?	36土と切り合う。30-40cm大の礫混入。	
211 G-41	111.0	89.0	35.0	長方	急	井Ⅱ	212土と切り合う。5-15cm大の礫多数。	
212 G-41	77.0	75.0	29.0	不整楕円	緩やか	曾?	211・222土を切る。	
213 G-42	122.0	90.0	21.7	楕円	緩やか	藤Ⅱ		
214 G-42	142.0	135.0	49.0	円	急		39土と切り合う。	
215 D-41・42	141.0	126.0	27.0	不整円	急	井Ⅱ	西側に礫。北東に土器が配置され、中央に石棒。	
216 C-41	87.0	70.0	20.0	不整円	緩やか	猪	60土内。217土と切り合う。	
217 C-41	120.0	80.0	12.0	楕円	緩やか	猪	60土内。216土と切り合う。周辺にピット。	
218 F-40	113.0	110.0	30.0	不整円	北は急、南は緩い	井Ⅱ	深鉢形土器が横位で出土。	
219 G-40	96.0	84.0	28.0	円	緩やか	井Ⅰ・Ⅱ	深鉢形土器の胴上部が出土。	
220 C-41	117.0	104.0	40.0	不整楕円	緩やか	曾?	5-20cm大の礫が集中。	
221 E-40・41	127.0	100.0	23.0	不整円	緩やか	井Ⅱ	集合沈積文系土器出土。	
222 F-41	150.0	130.0	45.0	不整楕円	急	井Ⅲ	59土内。212土に切られる。	
223 C-41	78.0	60.0	53.0	不整円	やや急	加EⅣ	224土を切る。小型脚付鉢が20cm大礫と伴出。	
224 C-40・41	118.0	97.0	43.0	楕円	緩やか	井Ⅱ	223土に切られる。深鉢の胴下部分が出土。	
225 E-40	80.0	70.0	115.0	楕円	急	藤?	226土に切られる。ピット状。	
226 E-40	65.0	52.0	54.0	楕円	やや急	井Ⅱ-猪	225土を切る。小型浅鉢が出土。	
227 D-41	85.0	78.0	58.0	円	急	新	60土内。小礫を伴う。	
228 C-42	124.0	85.0	13.0	不整円	緩やか	井Ⅱ	深鉢形土器が横位で出土。小ピットが隣接。	
229 欠番								
230 K-41	(125)	130.0	38.0	瓢箪	急	藤 I	2基の土坑が重複。	
231 K-42	185.0	112.0	28.0	不整円	緩やか	新		
232 K-44	85.0	62.0	30.0	楕円	凸凹	井Ⅱ		
233 K-45	(90)	65.0	27.0	楕円	やや急	猪		
234 K-45	82.0	53.0	20.0	楕円	急	猪		
235 K-45	75.0	59.0	11.0	楕円	緩やか	猪		
236 K-46	84.0	78.0	18.0	円	急	猪		
237 K-46	180.0	125.0	27.0	不整円	緩やか	井Ⅱ	土偶の脚部が出土。	
238 K-45	45.0	35.0	19.0	楕円	緩やか	猪		
239 K-45	44.0 (43)			円	不明	猪		
240 K-41	(150)	100.0	40.0	不整	急	藤 I		
241 J-41	181.0	(130)	30.0	不整円	やや急	猪	79住に接触。242土に切られる。	
242 J-46	(180)	(130)		円	不明	藤?	241土を切る。一部調査区外。	
243 J-46	(120)	90.0	10.0	楕円	緩やか	井Ⅱ・Ⅲ		
244 K-46	230.0	140.0	13.0	円	緩やか			
245 J-46	(36)	(24)	20.0	円	やや急	井Ⅱ	石棒欠損品出土。	
246 J-46	53.0	(40)	18.0	楕円	急	新	一部調査区外。	
247 U-34	159.0	137.0	37.0	不整方	急	猪	異系統土器が出土。	
248 E-35	80.0	62.0	38.0	不整楕円	緩やか	新	浅鉢形土器が逆位で出土。	
249 D-33	118.0	97.0	74.0	不整円	緩やか	猪	坑底部に小ピット。	
250 E-32・33	117.0	98.0	38.0	不整楕円	緩やか	藤Ⅱ	小ピットが隣接。	
251 E-34	90.0	82.0	34.0	不整楕円	緩やか	藤Ⅱ	76土内。15cm大の礫多数、深鉢系土器が出土。	
252 E-32	94.0	72.0	46.0	不整楕円	緩やか	塔	251土に切られる。	
253 E-34	95.0	72.0	55.0	不整円	急	曾Ⅳ		
254 E-33	96.0	88.0	80.0	円	急	井Ⅲ・Ⅳ	76土と接触。深鉢系土器の胴上部が出土する。	
255 E-34	60.0	55.0	12.0	円	急	猪		
256 F-46	58.0	57.0	104.0	円	急	諸b	79住の柱穴と重複。袋状土坑で、漆塗土器出土。	
257 A-33	132.0	105.0	52.0	不整円	急	井Ⅱ	フラスコ状土坑。石皿片など混入。	
258 A-32	100.0	107.0	24.0	不整	急	諸b	諸cに近い深鉢形土器が出土。	



- 17 2区
 1-溝状黒色土層 (炭化物少量、2~3m大のロームブロック少量含む)
 2-暗灰黒色土層 (炭化物少量、4~8m大のロームブロック少量含む)
 3-暗灰黒色土層 (炭化物中々多い、2~3m大のロームブロック少量含む)
 4-高灰黒色土層 (炭化物豊富、1m大のロームブロック少量含む)
 5-暗灰黒色土層 (炭土・炭化物中々多量含む)
 6-暗灰黒色土層 (1~2m大のロームブロック少量含む)
 7-暗灰黒色土層 (2層より多い)
- 18 2区
 1-高灰黒色土層 (炭土・炭化物少量含む)
 2-暗灰黒色土層 (炭土・炭化物中々多量含む)
 3-暗灰黒色土層 (炭土・炭化物中々多量含む)
 4-高灰黒色土層 (炭化物豊富、1m大のロームブロック少量含む)
 5-暗灰黒色土層 (炭土・炭化物中々多量含む)
 6-暗灰黒色土層 (炭土・炭化物中々多量含む)
 7-暗灰黒色土層 (炭土・炭化物中々多量含む)
 8-暗灰黒色土層 (炭土・炭化物中々多量含む)
 9-暗灰黒色土層 (炭土・炭化物中々多量含む)

- 19 2区
 1-高灰黒色土層 (炭土少量、炭化物少量含む)
 2-暗灰黒色土層 (炭土少量、炭化物少量含む)
 3-暗灰黒色土層 (炭土・炭化物中々多量含む)
 4-暗灰黒色土層 (炭土・炭化物中々多量含む)
 5-暗灰黒色土層 (炭土・炭化物中々多量含む、1~2m大のロームブロック少量含む)
 6-暗灰黒色土層 (炭土・炭化物豊富、5m大のロームブロック少量含む)
 7-暗灰黒色土層 (5m~20m大のロームブロック少量含む)
 8-高灰黒色土層 (炭土・炭化物豊富)
 9-高灰黒色土層 (炭土・炭化物豊富)
 10-暗灰黒色土層 (炭土・炭化物豊富)
- 20 2区
 1-高灰黒色土層 (炭土少量、炭化物少量含む)
 2-暗灰黒色土層 (炭土少量、炭化物少量含む)
 3-暗灰黒色土層 (炭土・炭化物中々多量含む)
 4-暗灰黒色土層 (炭土・炭化物中々多量含む)
 5-暗灰黒色土層 (炭土・炭化物中々多量含む、1~2m大のロームブロック少量含む)
 6-暗灰黒色土層 (炭土・炭化物豊富、5m大のロームブロック少量含む)
 7-暗灰黒色土層 (5m~20m大のロームブロック少量含む)
 8-高灰黒色土層 (炭土・炭化物豊富)
 9-高灰黒色土層 (炭土・炭化物豊富)
 10-暗灰黒色土層 (炭土・炭化物豊富)

- 21 2区
 1-高灰黒色土層 (炭土少量、炭化物少量含む)
 2-暗灰黒色土層 (炭土・炭化物少量含む)
 3-暗灰黒色土層 (炭土・炭化物少量含む)
 4-暗灰黒色土層 (炭土・炭化物少量含む)
 5-暗灰黒色土層 (炭土・炭化物少量含む)
 6-暗灰黒色土層 (炭土・炭化物少量含む)
 7-暗灰黒色土層 (炭土・炭化物少量含む)
 8-暗灰黒色土層 (炭土・炭化物少量含む)
 9-暗灰黒色土層 (炭土・炭化物少量含む)
- 22 2区
 1-高灰黒色土層 (炭土少量、炭化物少量含む)
 2-暗灰黒色土層 (炭土・炭化物少量含む)
 3-暗灰黒色土層 (炭土・炭化物少量含む)
 4-暗灰黒色土層 (炭土・炭化物少量含む)
 5-暗灰黒色土層 (炭土・炭化物少量含む)
 6-暗灰黒色土層 (炭土・炭化物少量含む)
 7-暗灰黒色土層 (炭土・炭化物少量含む)
 8-暗灰黒色土層 (炭土・炭化物少量含む)
 9-暗灰黒色土層 (炭土・炭化物少量含む)

第124図 C区 土坑(1)



202

- 1- 砂質土層 (炭化物・1~2cm大のロームブロック多量含む)
- 2- 砂質土層 (1~5cm大のロームブロック少量含む)
- 3- 砂質土層 (炭化物・1~2cm大のロームブロック少量含む。3層より薄い)
- 4- 砂質土層 (1cm大のロームブロック少量含む。3層より薄い)
- 5- 砂質土層 (1~2cm大のロームブロック少量含む。3層より薄い)
- 6- 砂質土層 (1cm大のロームブロック少量含む。3層より薄い)
- 7- 砂質土層 (2cm大のロームブロック少量含む)
- 8- 砂質土層 (3~5cm大のロームブロック少量含む)
- 9- 砂質土層 (1cm大のロームブロック少量含む。3層より薄い)
- 10- 砂質土層 (1cm大のロームブロック少量含む。3層より薄い)

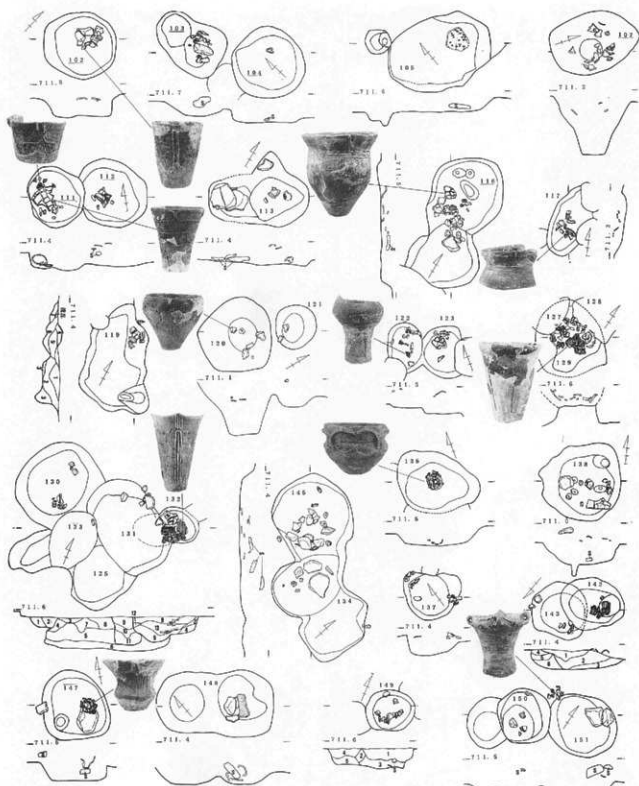
322

- 1- 砂質土層 (炭化物・炭化物少量含む)
- 2- 砂質土層 (炭化物・5cm大のロームブロック少量含む)
- 3- 砂質土層 (炭化物・5cm大のロームブロック少量含む。炭化物少含む)
- 4- 砂質土層 (炭化物・5cm大のロームブロック少量含む)
- 5- 砂質土層 (ロームブロック)

822

- 1- 砂質土層 (炭化物・炭化物少量含む)
- 2- 砂質土層 (炭化物・1cm大のロームブロック少量含む)
- 3- 砂質土層 (炭化物・1cm大のロームブロック少量。ローム粒子多量含む)
- 4- 砂質土層 (炭化物少量。ローム粒子・1cm大のロームブロック少量含む)
- 5- 砂質土層 (ロームブロック)
- 6- 砂質土層 (炭化物少量。ローム粒子多量含む)
- 7- 砂質土層 (炭化物少量。1cm大のロームブロック少量含む)
- 8- 砂質土層 (炭化物少量。ローム粒子多量含む)

第125図 Ck 土坑(2)



119号土

- 1-灰黄褐色土層 (灰化物少量含む)
- 2-黄褐色土層 (灰化物少量, 50~100cmのロームブロック少量含む)
- 3-黄褐色土層 (灰土・灰化物, 100cmのロームブロック少量含む)
- 4-暗黄褐色土層 (灰化物少量, ロームほとんど含まず)
- 5-黄褐色土層 (灰化物少量, 100cmのロームブロック少量含む)
- 6-黄褐色土層 (灰化物, 100cmのロームブロック少量含む)
- 7-黄褐色土層 (灰化物少量, 100cmのロームブロック少量含む)

131・132・133号土

- 1-黄褐色土層
- 2-黄褐色土層 (灰化物少量含む)
- 3-黄褐色土層 (灰化物少量含む)
- 4-暗黄褐色土層 (灰化物少量含む)
- 5-黄褐色土層 (灰化物少量, 1~2mのロームブロック少量含む)
- 6-黄褐色土層 (灰化物少量, 3~4mのロームブロック少量含む)
- 7-黄褐色土層 (灰化物少量含む)
- 8-黄褐色土層 (粘土少量, 灰化物少量含む)
- 9-黄褐色土層 (灰化物少量含む)
- 10-黄褐色土層 (灰化物, 200cmのロームブロック少量含む)
- 11-黄褐色土層 (灰化物少量含む)
- 12-暗黄褐色土層 (粘土少量含む)

142・143号土

- 1-暗黄褐色土層 (粘土・灰化物少量含む)
- 2-黄褐色土層 (粘土少量, 0~1m以下, 100cmのロームブロック少量含む)
- 3-黄褐色土層 (粘土少量, 2~3mのロームブロック少量含む)
- 4-黄褐色土層 (粘土・灰化物少量含む)
- 5-黄褐色土層 (粘土・灰化物少量, 3~3mのロームブロック少量含む)
- 6-黄褐色土層 (灰化物, 200cmのロームブロック少量含む)

149号土

- 1-暗黄褐色土層 (粘土・灰化物少量含む)
- 2-黄褐色土層 (粘土少量含む)
- 3-黄褐色土層 (粘土少量, 灰化物少量含む)
- 4-黄褐色土層 (灰化物, 200cmのロームブロック少量含む)
- 5-黄褐色土層 (ローム少量, 100cmのロームブロック少量含む)

第127図 C区 土坑(4)



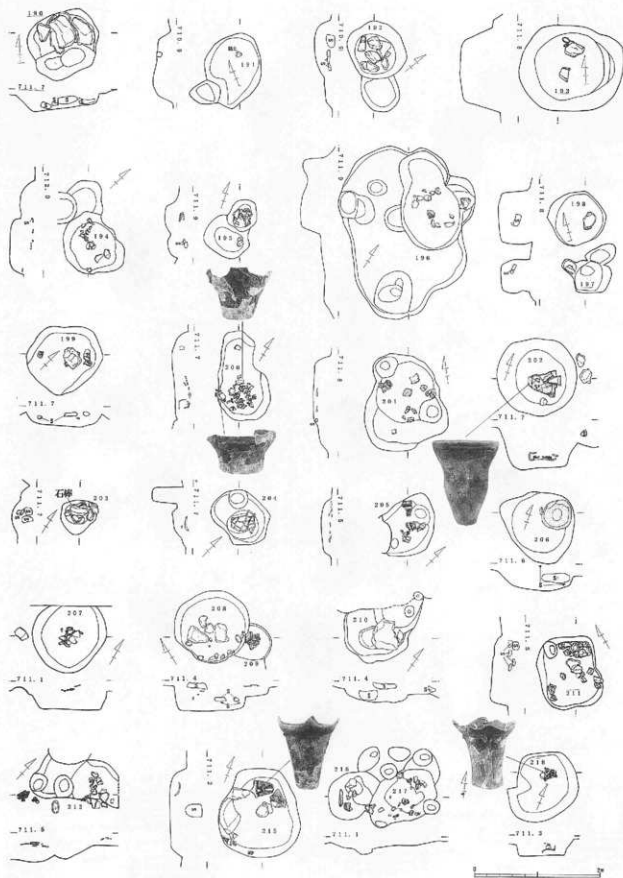
- 153上
 1-赤黒褐色土層 (粘土・炭化物混雜, ローム粒子多量, 10cmのロームブロック少量含む)
 2-赤黒褐色土層 (粘土少量, 炭化物混雜含む)
 3-赤黒褐色土層 (粘土層, 炭化物: 10cmのロームブロック少量含む)
 4-赤黒褐色土層 (10cmのロームブロック少量含む)
 5-赤黒褐色土層 (炭化物: 1~2cmのロームブロック少量含む)
 6-赤黒褐色土層 (炭化物: 5cmのロームブロック少量含む)
 7-赤黒褐色土層 (炭化物混雜, 1~2cmのロームブロック少量含む)
 8-赤黒褐色土層 (炭化物少量含む)
 9-赤黒褐色土層 (炭化物混雜, 10~15cm粒子多量含む)
 10-赤黒褐色土層 (ロームブロック)

- 154上
 1-赤黒褐色土層 (粘土・30cmのロームブロック少量含む)
 2-赤黒褐色土層 (粘土・1~2cmのロームブロック少量, 炭化物混雜含む)
 3-赤黒褐色土層 (炭化物混雜含む)
 4-赤黒褐色土層 (粘土・30cmのロームブロック少量含む)
 5-赤黒褐色土層 (粘土・炭化物少量含む)
 6-赤黒褐色土層 (粘土・炭化物・10cmのロームブロック少量含む)
 7-赤黒褐色土層 (粘土・炭化物少量含む)
 8-赤黒褐色土層 (粘土・粘土多量, 10cmのロームブロック少量含む)
 9-赤黒褐色土層 (炭化物少量含む)
 10-赤黒褐色土層 (炭化物混雜含む)

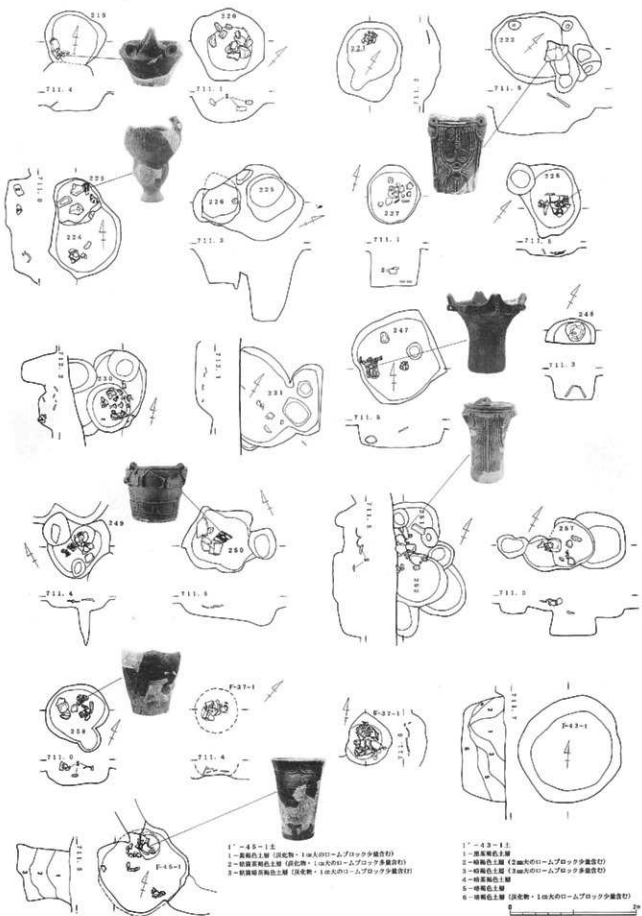
- 157上
 1-赤黒褐色土層 (粘土少量, 炭化物混雜含む)
 2-赤黒褐色土層 (粘土・炭化物少量含む)
 3-赤黒褐色土層 (粘土・炭化物混雜含む)
 4-赤黒褐色土層 (粘土・炭化物少量含む)
 5-赤黒褐色土層 (粘土混雜, 炭化物多量, 5cmのロームブロック少量含む)
 6-赤黒褐色土層 (炭化物, ローム粒子多量, 5cmのロームブロック少量含む)
 7-赤黒褐色土層 (炭化物・ローム粒子混雜含む)
 8-赤黒褐色土層 (炭化物混雜含む)
 9-赤黒褐色土層 (土層より抽出)



第128図 C区 土坑(5)



第129圖 C区 土坑(6)



1'-45-1土
 1-黄褐色土層 (図説物・100大のロームブロック少量含む)
 2-暗黒茶褐色土層 (図説物・100大のロームブロック少量含む)
 3-暗黒腐植褐色土層 (図説物・100大のロームブロック少量含む)

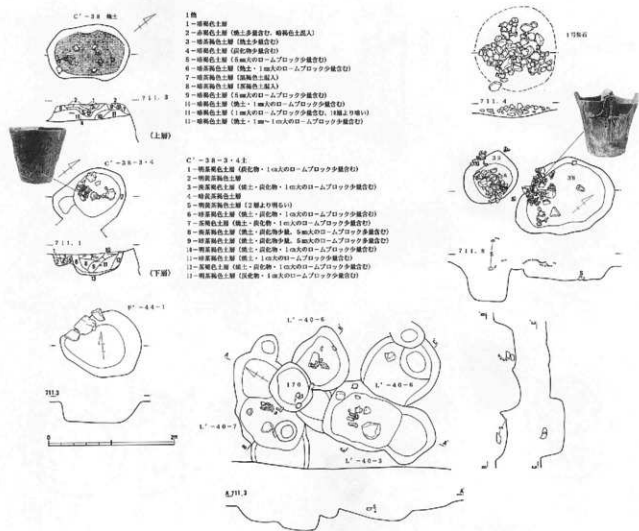
1'-43-1土
 1-黄褐色土層
 2-暗褐色土層 (200大のロームブロック少量含む)
 3-暗褐色土層 (200大のロームブロック少量含む)
 4-暗褐色土層
 5-暗褐色土層 (図説物・100大のロームブロック少量含む)
 6-暗褐色土層

第130図 C区 土坑(7)

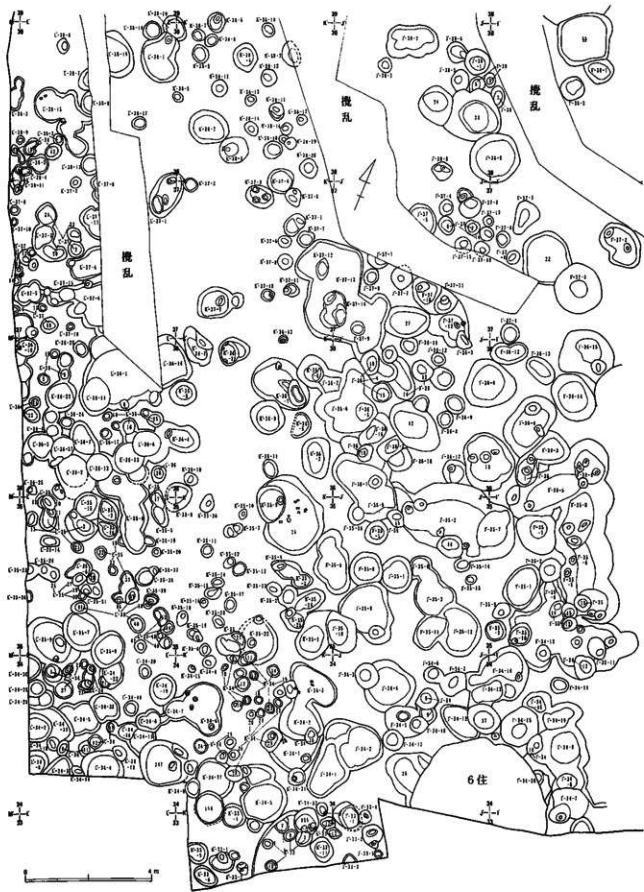
第4項 集石遺構・野外炉 (第131図)

集石遺構はE-38グリッドに位置し、第14号住居跡に隣接して存在する。石の広がりには 黒色土層中に存在したためプラン確認は推定の域を越えない。規模は推定で径が133×130、深さは約10cmを測る。覆土内には5~25cm大の礫と共に土器片類が混在し、礫の中には 焼けたものも存在した。時期は縄文時代中期後半の曾利IV-V式と考えられる。

野外炉 (焼土跡)はC'-38グリッドに位置し、焼土の範囲は径110×70cm、深さは最大厚で約20cmを測る。この焼土の下にはC'-38-3・4グリッド土坑が存在し、覆土から土器が出土している。时期的には、縄文時代中期後半の曾利IV式と考えられる。



第131図 C区 土坑(8)・グリッド土坑ほか



第 132 図 C区 グリッド土坑 (集落中心部)

第4節 D区の調査概要

本区はC区の南東側、台地縁辺部に位置している。調査面積は約700㎡である。

発見された遺構は、住居跡が縄文時代前期後半の諸磯b式期4軒、中期前半五領ヶ台Ⅱ式期5軒、同格沢式期1軒、古墳時代前期初頭3軒の合計12軒である。このほか古墳時代前期初頭の掘立柱建物跡1軒、土坑は縄文時代前期後半の諸磯b式期から中期後半の曾利Ⅴ式期に属するものが34基、中期後半の加曾利EⅣ式期に属する野外埋壘1基、近世の所産と考えられる溝1条が認められる。時期的に大別すると縄文時代前期後半の諸磯期、中期前半の格沢期、五領ヶ台期、そして古墳時代前期の4期にわたって、集落が営まれていることが理解できる。このほか、戦時遺構とかがえられるものが2基認められる。

第1項 住居跡

縄文時代前期後半の諸磯期と古墳時代前期初頭の住居跡は、プランがはっきりしていた。しかし大多数のものは他の遺構との切り合いなどで、施設やプランが破壊されており不明な点が多い。全体的に重複関係にあるものは約半数である。特筆すべきものとして、第1号住居跡から諸磯期特有の丸玉が出土している。第3・5・7・8・11・12号住居跡といった中期初頭段階に属するものが、台地の縁辺部に集中する点である。古墳時代の第9・10号住居跡では、覆土から多量の焼土や炭化物が認められ、焼失家屋と考えられる。

第1号住居跡（第134図）

（位置）調査区の南側、E-28・29グリッドに位置している。
（重複・改築）第1号住居跡と重複あり、第1号住居跡の方が新しい。

（形態・規模）住居跡の北側約1/5程度が、戦時中のドラム罐埋設遺構によって攪乱されている。形態は楕円形を呈するものと考えられ、長径は推定で5.3m、短径は4.1mを測る。

（壁・周溝）壁は、西側で約25cmを測るが、その他の部分では残っていない。周溝は全周するものと考えられるが、西側部分が切れているので、ここが入口部と想定される。深さは10cm程度である。

（柱穴）壁に沿って巡っている。このうちピット1は径50.0×32.0、深さ34.9cm、ピット2は径40.0、深さ54.0cm、ピット3は径39.0×35.0、深さ41.0cm、ピット4は径59.0×58.0、深さ69.0cm、ピット7は径45.0×40.0、深さ48.5cm、ピット9は径45.0×30.0、深さ51.0cmを測り、これらは主柱穴と考えられる。その他のピットは補助柱穴などといった用途が考えられる。

（炉）住居跡の西側に、地床炉と考えられる焼土の広がりがか所認められる。規模は約径110×70と80×52cmで、深さが5～10cmを測る。

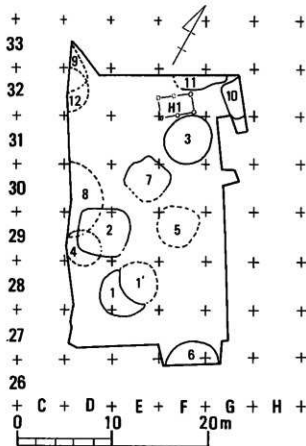
（時期）縄文時代前期後半の諸磯b式期。

（出土遺物）遺物は主に炉の周辺に集中しており、この炉付近から滑石製の丸玉が出土している。

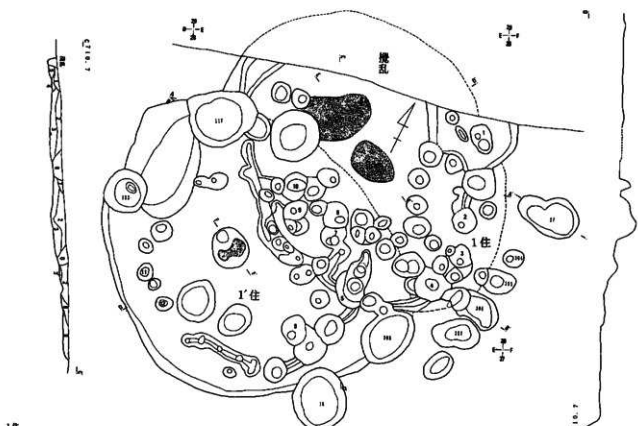
第1号住居跡（第132図）

（位置）調査区の南側、D・E-27・28グリッドに位置している。

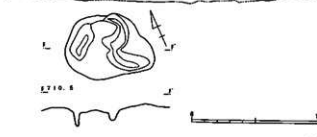
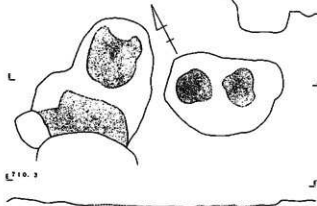
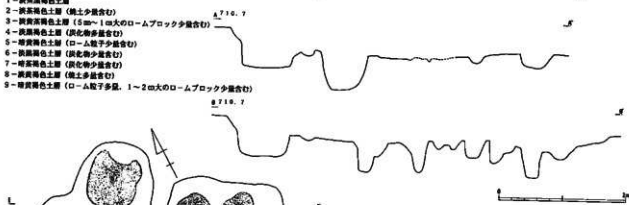
（重複・改築）第1号住居跡と重複あり、第1号住居跡の方が古い。



第131図 D区 住居跡位置図



- 1住
 1- 灰黒褐色土層 (機土少量含む)
 2- 灰黒褐色土層 (機土少量含む)
 3- 灰黒褐色土層 (200-100大のロ-ムブロック少量含む)
 4- 灰黒褐色土層 (灰化物多量含む)
 5- 暗灰褐色土層 (ロ-ム粒子少量含む)
 6- 灰黒褐色土層 (灰化物少量含む)
 7- 暗灰褐色土層 (灰化物少量含む)
 8- 暗灰褐色土層 (機土多量含む)
 9- 暗灰褐色土層 (ロ-ム粒子多量、1-20大のロ-ムブロック少量含む)



第134図 D区 第1・1'号住居跡

(形態・規模) 形態は楕円形を呈するものと考えられ、長径は推定で5.10m、短径は4.25mを測るが、若干小さいかもしれない。

(壁・周溝) 壁は、西側で10~20cmを測る。周溝は東側部分のみに存在し、溝内にも小ピットが認められる。深さは10~20cm程度である。

(柱穴) 壁に沿って巡っている。このうちピット5は径60.0×45.0、深さ57.7cm、ピット6は径50.0×40.0、深さ50.8cm、ピット8は径45.×41.0、深さ55.0cm、ピット10は径56.0×35.0、深さ45.0cm、ピット11は径約30.0×25.0、深さ41.6cm、ピット12は径27.0×22.0、深さ41.1cmを測り、これらは主柱穴と考えられる。その他のピットは補助柱穴などといった用途が考えられる。

(炉) 住居跡の西寄りに、地床炉が認められる。規模は径約71×51cmで、深さが18cmを測る。

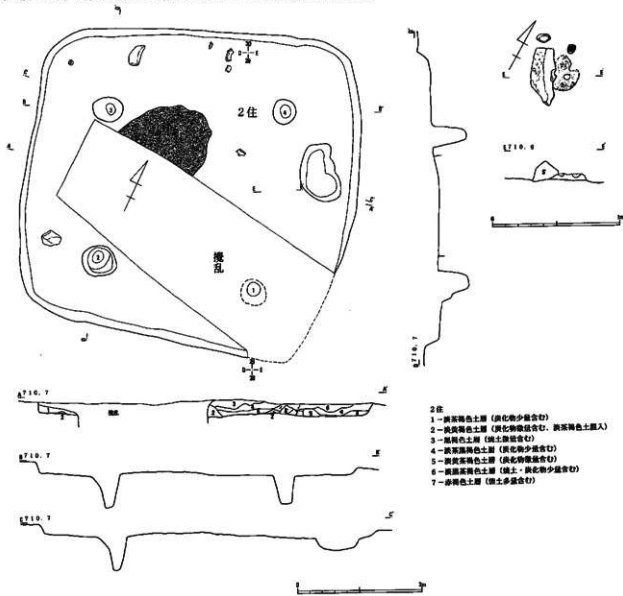
(時期) 縄文時代前期後半の諸磯b式期。

(出土遺物) 遺物は全体的に散在し、壺大の礫を伴っている。

第2号住居跡 (第135図)

(位置) 調査区の西側、D・E-29・30グリッドに位置している。

(重複・改築) 縄文時代の住居跡である第4・8号住居跡と切り合う。



第135図 D区 第2号住居跡

(形態・規模) 中央部分が、戦時中の遺構によって攪乱されている。形態は方形を呈している。規模は長径5.30m、短径5.11mを測る。西寄りの部分で、白色粘土による貼床が確認できた。

(壁・周溝) 壁は直に立ち上がり、5~30cmを測る。周溝は存在しない。

(柱穴) 3基認められた。ピット1は推定位置で、ピット2は径55.0×50.0、深さ47.7cm、ピット3は径62.0×60.0、深さ54.8cm、ピット4は径40.0×36.0、深さ46.4cmを測り、主柱穴と考えられる。東部に径95×60、深さ17.6cmのピットがあるが、不整形で掘り込みも浅く貯蔵穴とも考えにくく、用途は不明である。

(炉) 住居跡の東寄りに、地床炉が認められる。規模は径45.0×42.0、深さ16cmで周囲に炭化材が分布する。西寄りに50cm大の焼けた礫を伴っているが、炉としての機能が終了後に配されたようである。

(時期) 古墳時代前期初頭と考えられる。

(出土遺物) 高坏の脚部など、少量の土器が出土したのみである。

第3号住居跡 (第136図)

(位置) 調査区の北側、F-30-31グリッドに位置している。

(重複・改築) なし。

(形態・規模) 形態は楕円形を呈するものと考えられ、規模は長径で5.90m、短径は4.96mを測る。

(壁・周溝) 壁は、西側で15~20cmを測る。周溝は存在しない。

(柱穴) 不規則であるが、このうちピット1は径45.0×30.0、深さ53.0cm、ピット2は径52.0×45.0、深さ26.5cm、ピット3は径57.0×51.0、深さ40.4cm、ピット4は径33.0×32.0、深さ57.5cmを測り、これらは主柱穴と考えられる。その他のピットは補助柱穴などといった用途が考えられる。

(炉) 住居跡のほぼ中央に、埋壺炉が認められる。焼土の広がり径約170×110cmで、深さが28cmを測る。埋壺は深鉢の胴部で、幅23×深さ19cmを測る。

(時期) 縄文時代中期初頭の五領ヶ台Ⅱ式期。

(出土遺物) 炉の周辺に集中しており、やや大型の礫や石皿片が存在する。異形土器が出土している。

(土層説明)

- | | |
|----------------------------------|------------------------------------|
| 1 - 茶黒褐色土層 (焼土少量・炭化物微量含む) | 6 - 黒褐色土層 (焼土・焼土塊少量・炭化物微量含む) |
| 2 - 淡黒褐色土層 (炭化物・1cm大ロームブロック少量含む) | 7 - 暗茶褐色土層 (炭化物微量含む) |
| 3 - 黒茶褐色土層 (炭化物微量含む) | 8 - 黒茶褐色土層 (焼土・焼土塊やや多量・炭化物炭化材少量含む) |
| 4 - 淡茶褐色土層 (炭化物・1cm大ロームブロック微量含む) | 9 - 黒茶褐色土層 (焼土・焼土塊、多量含む) |
| 5 - 淡黒褐色土層 (炭化物微量含む) | 10 - 茶褐色土層 (炭化物微量含む) |

第4号住居跡 (第137図)

(位置) 調査区の西側、D-28-29グリッドに位置している。

(重複・改築) 第2・8号住居跡と重複あり、第2号住居跡より古く、第8号住居跡より新しい。

(形態・規模) 住居跡の北側1/5程度が、戦時中の遺構によって攪乱を受けている。形態は円形を呈するものと考えられ、長径は推定で3.80m、短径は3.37mを測り、周辺の住居跡よりやや小型である。

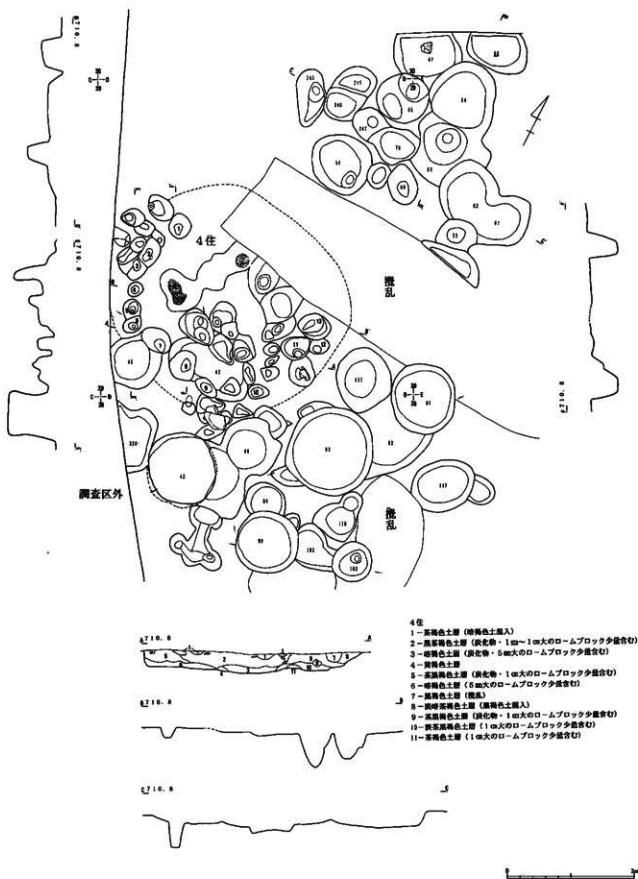
(壁・周溝) 壁は土坑に切られほとんど残っていないが、トレンチ設定時に緩やかな立ち上がりが確認でき、30cm程度の掘り込みが存在したようである。周溝は存在しない。

(柱穴) 壁に沿って巡っている。このうちピット1・2・8・9は、深さが45cm以上を測り、これらは主柱穴と考えられる。その他のピットは補助柱穴などといった用途が考えられる。

(炉) 住居跡の西寄りに、地床炉が認められる。焼けた硬化面は南北に広がり、径約150×73cmを測る。焼土は二カ所で認められ、43×19cmと22×21cmの範囲で分布し、深さが3cm程度を測る。

(時期) 縄文時代前期後半の諸磯b式期。

(出土遺物) 覆土がほとんど残っていないため、炉周辺から土器片が少量出土したのみである。



第137図 D区 第4号住居跡

第5号住居跡（第138図）

（位置）調査区の中央、E-29、F-29・30グリッドに位置している。

（重複・改築）重複なし。

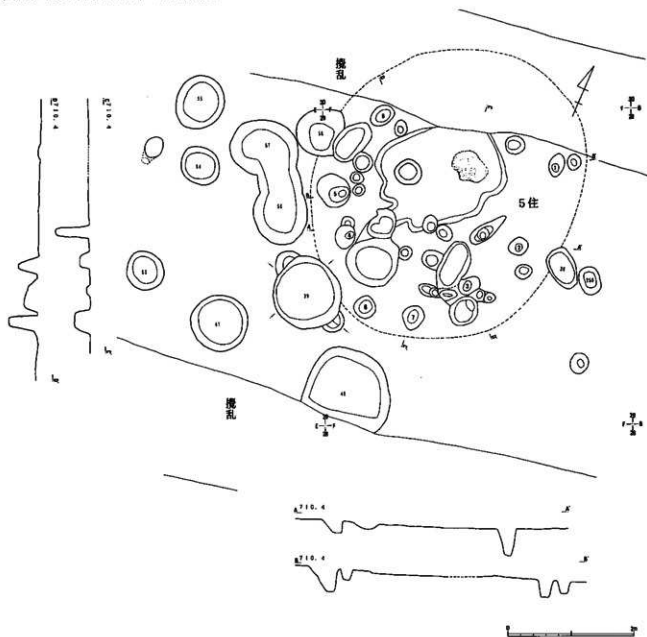
（形態・規模）住居跡の北側1/5程度が擾乱されている。形態は不整形円形を呈するものと考えられ、長径は4.87m、短径は4.02mを測る。

（壁・周溝）壁は残っていない。周溝も存在しない。

（柱穴）配列は不規則であるが、壁に並ぶ8つのピットの内ピット1は径47.0×23.0、深さ35.0cm、ピット2は径31.0×28.0、深さ44.0cm、ピット3は径38.0×24.0、深さ50.0cm、ピット4は径38.0×32.0、深さ27.0cm、ピット5は径約55.0×48.0、深さ44.0cm、ピット6は径41.0×28.0、深さ19.0cmを測り、これらは主柱穴と考えられる。ピット7・8は入口部分で、その他のピットは補助柱穴などといった用途が考えられる。

（炉）住居跡の北寄りの一段低くなった部分に、地床炉が認められる。規模は径約58.0×41.0cmを測る。

（時期）縄文時代中期前半の格沢式期。



第138図 D区 第5号住居跡

(出土遺物) 土器が炉の周辺から、少量出土したにすぎない。

第6号住居跡 (第139図)

(位置) 調査区の南端、F-26-27グリッドに位置している。

(重複・改築) 重複なし。

(形態・規模) 住居跡の南側2/3程度が調査区外。形態は円形を呈するものと考えられ、長径は現状で5.60mを測る。

(壁・周溝) 壁は緩やかな立ち上がりで、深さが10cm程度を測ることができる。周溝も存在しない。

(柱穴) 配列は不規則であるが、壁沿いに並ぶ8つのピットの内、ピット2・3・5・6・7の5本については深さが40cm以上を測ることができ支柱穴と考えることができる。その他のピットは補助柱穴などといった用途が考えられる。

(炉) 住居跡の中央付近に、地床炉と考えられる焼土の広がり認められ、規模は径約170.0×60.0cmを測る。

(時期) 縄文時代前期後半の諸磯b式期。

(出土遺物) 遺物は全体的に散在しており、遺物は少ない。異形石器が出土している。

第7号住居跡 (第140図)

(位置) 調査区の中央北寄り、E・F-30グリッドに位置している。

(重複・改築) 重複なし。

(形態・規模) 住居跡の南側1/3程度が戦時遺構によって攪乱されている。形態は不整形円形を呈するものと考えられ、長径は4.55m、短径は推定で4.30mを測る。

(壁・周溝) 壁は20～30cmを測る。周溝は北壁に部分的に存在し、掘り込みが10cm程度を測る。

(柱穴) 柱穴と考えられるものは8本である。ピット1は径35.0×33.0、深さ51.6cm、ピット2は径45.0×33.0、深さ43.1cm、ピット3は径45.0×30.0、深さ65.0cm、ピット4は径32.0×28.0、深さ47.8cm、ピット5は径約60.0×45.0、深さ65.0cm、ピット6は径54.0×33.0、深さ40.8cmを測る。

(炉) 住居跡のほぼ中央に、地床炉が認められる。規模は径90.0×62.0cm、深さ5.0cmを測る。西側に埋甕が存在するが、土層の断面を観察すると住居の廃絶後に埋設された可能性があり、炉との関連性は無いものと思われる。径約40cmで、底部が穿孔されている。ピット4付近には、95×15cmの範囲で焼土の広がりが認められるが、その正確については不明である。

(時期) 縄文時代中期初頭の五領ヶ台Ⅱ式期。

(出土遺物) 土器が少量出土したにすぎない。

第8号住居跡 (第141図)

(位置) 調査区の中央北寄り、D-29・30グリッドに位置している。

(重複・改築) 重複なし。

(形態・規模) 住居跡の西側2/3程度が、調査区外に位置している。形態は円形を呈するものと考えられ、長径は現状で、7.60mを測りやや大型である。多数の土坑が混在している。

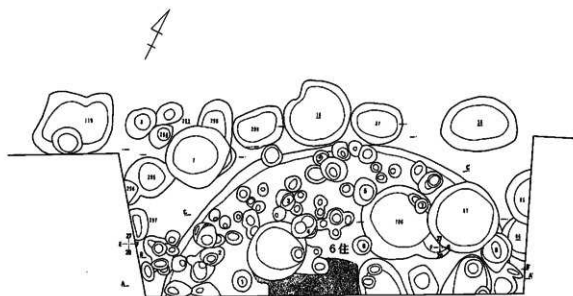
(壁・周溝) 壁は残っていない。周溝は存在しない。

(柱穴) 柱穴と考えられるものは、壁沿いに13本存在する。このうちピット1は径50.0×30.0、深さ54.8cm、ピット2は径35.0×30.0、深さ39.5cm、ピット3は径27.0×23.0、深さ31.4cm、ピット4は径35.0×30.0、深さ61.4cm、ピット5は径約45.0×40.0、深さ54.9cm、ピット6は径45.0×30.0、深さ71.8cmを測り、支柱穴と考えられる。

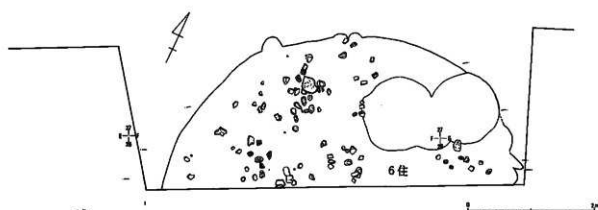
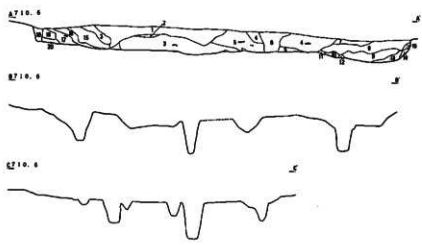
(炉) 調査区外に存在するものと思われる。

(時期) 縄文時代中期初頭の五領ヶ台Ⅱ式期。

(出土遺物) 多数の土坑と切り合い、そのため住居の覆土がほとんど確認できず、伴出関係にある遺物と考えられるのはとても少なかった。



調査区外



- | | |
|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 6住 | 11-黄褐色土層 |
| 1-黒茶褐色土層 (粘土・炭化物少量含む) | 12-黄褐色土層 (炭化物・5cm大のロームブロック少量含む) |
| 2-黄褐色土層 (粘土・炭化物少量含む) | 13-黒茶褐色土層 (粘土・炭化物少量含む) |
| 3-暗褐色土層 (粘土・5cm大のロームブロック少量含む) | 14-黒茶褐色土層 |
| 4-暗褐色土層 (粘土・炭化物・2cm大のロームブロック少量含む) | 15-黒茶褐色土層 (粘土少量含む) |
| 5-暗褐色土層 (粘土少量含む) | 16-黒茶褐色土層 (粘土・炭化物・1cm大のロームブロック少量含む) |
| 6-黒茶褐色土層 (粘土・炭化物・1cm大のロームブロック少量含む) | 17-黒茶褐色土層 (炭化物・1cm大のロームブロック少量含む) |
| 7-黒茶褐色土層 (粘土・炭化物少量含む) | 18-黒茶褐色土層 (炭化物) |
| 8-黒茶褐色土層 (炭化物少量・1~5cm大のロームブロック少量含む) | 19-暗褐色土層 (炭化物・1cm大のロームブロック少量含む) |
| 9-暗褐色土層 (粘土・炭化物・5cm大のロームブロック少量含む) | 20-暗褐色土層 (1cm大のロームブロック少量含む) |
| 10-暗褐色土層 (粘土・炭化物少量含む) | |

第139図 D区 第6号住居跡



第140図 D区 第7号住居跡

第9号住居跡 (第142図)

(位置) 調査区の北西端、D-32-33グリッドに位置している。

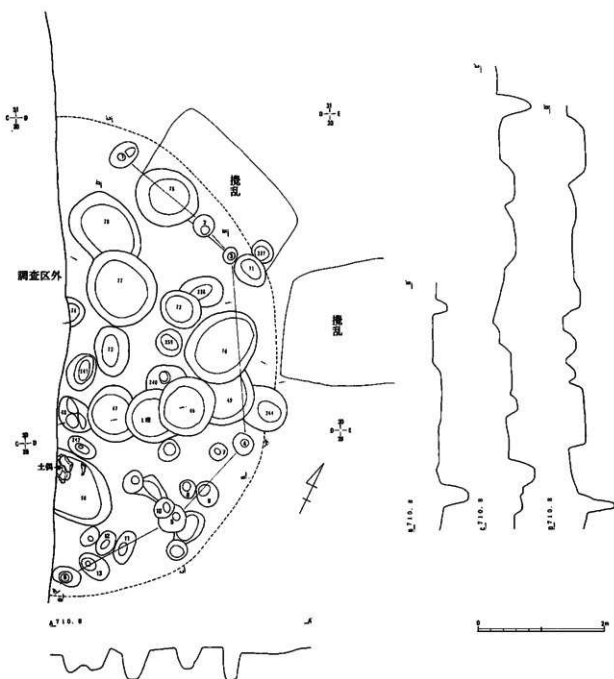
(重複・改築) 縄文時代の第12号住居跡と重複あり。

(形態・規模) 住居跡の西側約1/2程度が、調査区外に位置している。また東側は第1号溝によって破壊されており遺存状態は悪い。覆土には焼土・炭化材が含まれており、焼失家屋の可能性が示唆される。形態は方形を呈し、長径は推定で4.1mを測る。

(壁・周溝) 壁は、西側のセクション面で約22cmを測ることができる。周溝は西側のセクション面で、僅かな窪みが確認できる程度である。

(柱穴) ビット1は径45.0×35.0、深さ67.0cm、ビット2は径44.0×43.0、深さは推定で130.0cmを測る。

(炉) 調査区外に存在するものと考えられる。



第141図 D区 第8号住居跡

(時期) 古墳時代前期初頭。

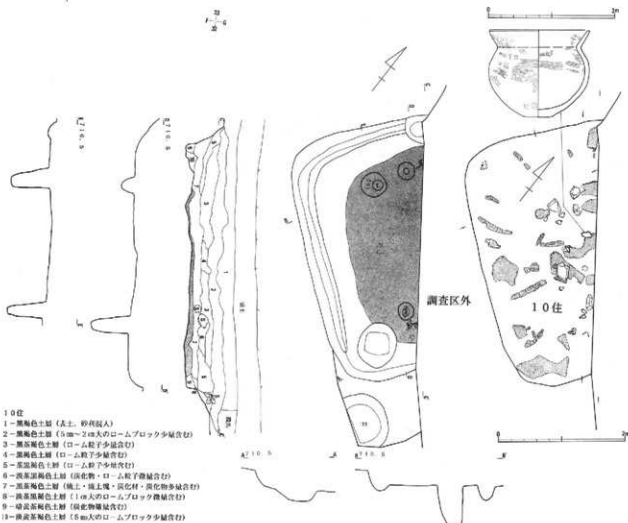
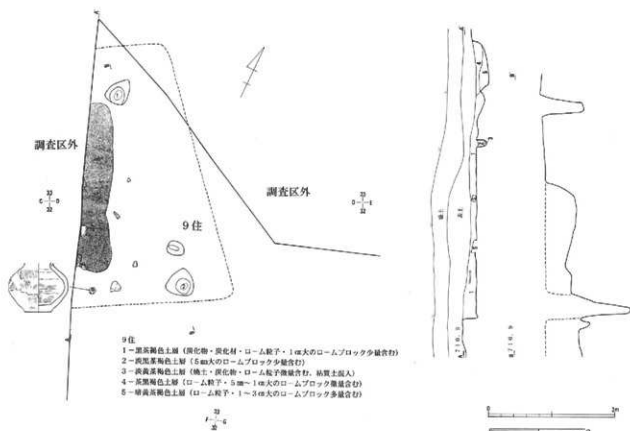
(出土遺物) 小型の壺形土器が出土している。

第10号住居跡 (第142図)

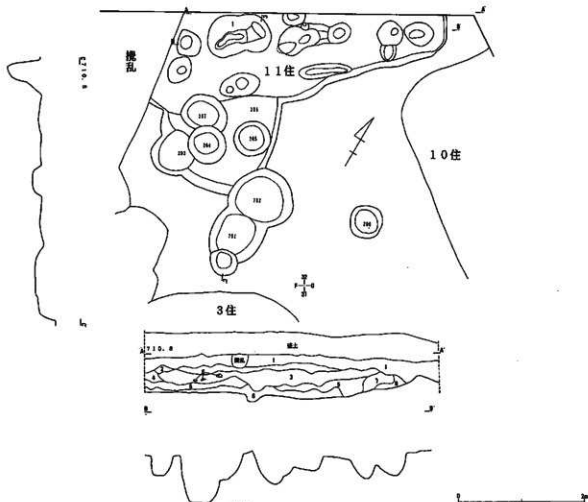
(位置) 調査区の北東端、G-31・32グリッドに位置している。

(重複・改築) なし。

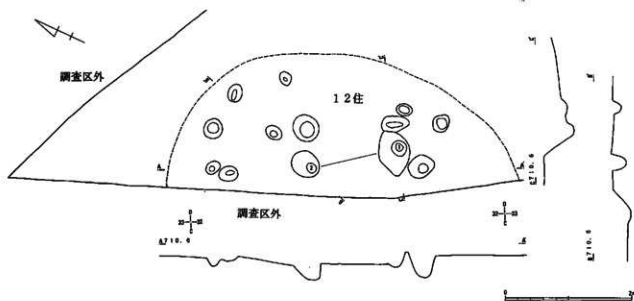
(形態・規模) 全体の1/2以上が、調査区外に位置している。形態は方形を呈するものと考えられ、長径は3.95m、短径は現存値で2.15mを測る。覆土および床のほぼ全面に多量の炭化材と焼土が存在したため、焼失家屋と考えることができる。



第142図 D区 第9・10号住居跡



- 11住
- 1-黄褐色土層 (ローム層子層を含む)
 - 2-暗赤褐色土層 (炭化物層を含む)
 - 3-明赤褐色土層 (焼土・炭化物少量含む)
 - 4-黄赤褐色土層 (焼土・炭化物層を含む)
 - 5-黄赤褐色土層 (焼土・炭化物・5cm大のロームブロックや多く含む)
 - 6-黄褐色土層 (焼土・炭化物・5~7cm大のロームブロック少量含む)
 - 7-黄赤褐色土層 (焼土・炭化物層を含む。4層と類似)
 - 8-暗赤褐色土層 (焼土・炭化物層を含む)



第143図 D区 第11・12号住居跡

(壁・周溝) 壁は、最大で20cmを測る。周溝は北から西側部分にかけて存在し、10cm程度の掘り込みが認められる。

(柱穴) ビット1は径43.0×39.0、深さ64.7cm、ビット2は径28.0×25.0、深さ50.8cmを測り、これらは主柱穴と考えられる。その他のビットは補助柱穴などといった用途が考えられる。

(炉) 調査区外に存在するものと考えられる。

(その他の遺構) 南端に位置する円形のビットは当初貯蔵穴と考えたが、径が約70cm、深さが29cm程度と浅いことと遺物が皆無であった点から、その用途は不明である。

(時期) 古墳時代前期初頭。

(出土遺物) S字状口縁台付臺などの破片が出土している。構築材は、コナラとハンノキである。

第11号住居跡 (第143図)

(位置) 調査区の北端、F・G-32グリッドに位置している。

(重複・改築) なし。

(形態・規模) 住居跡の北側2/3以上が調査区外に位置し、また西側部分が攪乱されており詳細なことはわからないが、形態は隅丸方形を呈しているものと考えられる。規模は現存値の長径が5.00mを測る。

(壁・周溝) 壁は直に立ち上がり、最大で約30cmを測る。周溝は存在しない。

(柱穴) ビット1は径102.0×66.0、深さ86.8cmを測り、主柱穴と考えられる。その他のものは、補助柱穴などといった用途が考えられる。

(炉) 調査区外に存在するものと考えられる。

(時期) 縄文時代中期初頭の五領ヶ台Ⅱ式期と考えられる。

(出土遺物) 少量の土器が出土したのみである。

第12号住居跡 (第144図)

(位置) 調査区の北西端し、D-32・33グリッドに位置している。

(重複・改築) 古墳時代の第9号住居跡と重複している。

(形態・規模) 西側の1/2以上が調査区外に位置し、東側は第1号溝によって破壊されている。形態は円形を呈するものと考えられ、規模は現存値で長径が5.60m、短径は2.25mを測る。

(壁・周溝) 壁は残っていない。周溝は存在しない。

(柱穴) 不規則な配列であるが、このうちビット1は径72.0×50.0、深さ48.2cm、ビット2は径48.0×42.0、深さ39.5cmを測り、これらは主柱穴と考えられる。その他のビットは補助柱穴などといった用途が考えられる。

(炉) 調査区外に存在するものと考えられる。

(時期) 縄文時代中期初頭の五領ヶ台Ⅱ式期。

(出土遺物) 少量の土器が出土しているに過ぎない。

第10表 D区住居跡一覧表

() は現存値および推定値

図版番号	図例	位置	重複・改築	平面形	長径(m)	短径(m)	深さ(cm)	炉	柱穴	時代・時期	備	考
第134図	1	E-28・29	1住と重複	楕円	(5.30)	4.10	10.0	地床	6	縄文前期 諸b	丸玉が出土している。	一部攪乱。
第134図	1'	D-E-27・28	1住と重複	楕円	(5.10)	4.25	20.0	地床	6	縄文前期 諸b		
第135図	2	D-E-29・30	4・8住と重複	方	5.30	5.11	30.0	地床	4	古墳前期 初頭		
第136図	3	F-30・31	なし	楕円	5.90	4.96	20.0	埋燬	4	縄文中期 五Ⅱ	異形石器が出土している。	
第137図	4	D-28・29	2・8住と重複	円	3.80	3.37	(30.0)	地床	4	縄文前期 諸b		
第138図	5	E-29、F-29・30	なし	不整円	4.87	4.02	—	地床	6	縄文中期 諸	一部攪乱。	
第139図	6	F-26・27	なし	円	(5.60)	—	—	地床	5	縄文前期 諸b	一部調査区外。	
第140図	7	E-F-30	なし	不整円	4.55	4.30	10.0	地床	6	縄文中期 五Ⅱ	一部攪乱。	
第141図	8	D-29・30	なし	円	(7.60)	—	—	—	6	縄文中期 五Ⅱ	一部調査区外	
第142図	9	D-32・33	12住と重複	方	(4.10)	—	—	—	2	古墳前期 初頭	一部調査区外	

図版番号	図位	置	重複・改築	平面形	長径(m)	短径(m)	深さ(cm)	炉	柱穴	時代・時期	備	考
第142図	10	G-31-32	なし	方	3.95	(2.15)	10.0	—	2	古墳前期初頭	一部調査区外	
第143図	11	F-G-32	なし	隅丸方	(5.00)	—	30.0	—	1	縄文中期五Ⅱ	一部調査区外	
第143図	12	D-32-33	9柱と重複	円	(5.60)	(2.25)	—	—	2	縄文中期五Ⅱ	一部調査区外	

第2項 掘立柱建物跡

柱穴内から出土した少量の土器片と、覆土の状態から古墳時代前期の遺構と類似することから住居跡とはほぼ同時期の所産と考えられる。確認できたのは1軒であるが、一部攪乱を受けているものの良好な状態で確認することができた。

第1号掘立柱建物跡 (第142図)

(位置) 調査区の北側、F-30-31グリッドに位置している。

(重複・改築) なし。

(形態・規模) 北西部が攪乱を受けている。形態は長方形を呈するものと考えられ、規模は長径4.00m、短径が3.70mを測る。

(柱穴) 6本のピットが存在したものと考えられるが、確認できたのは4本である。ピット1は径42.0×41.0、深さ48.2cm、ピット2は径48.0×42.0、深さ39.5cm、ピット3は径47.0×46.0、深さ47.4cm、ピット4は径52.0×42.0、深さ45.6cmを測る。

(その他の遺構) 北西部に小ピットが2基存在するが、本遺構との関連性は不明である。掘り込みは深い方が30cm、浅い方が15cmを測る。梯子受けなどの施設かもしれない。

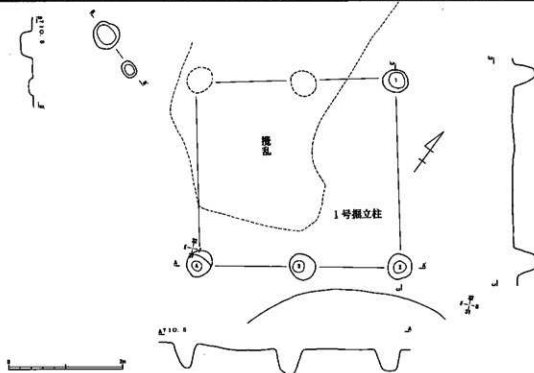
(時期) 古墳時代前期初頭。

(出土遺物) なし。

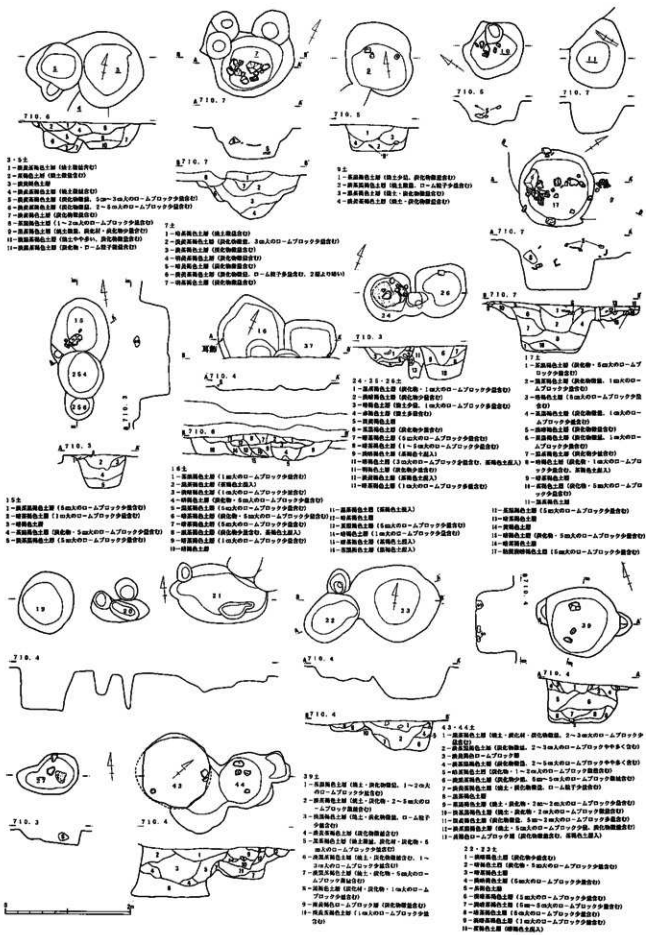
第11表 D区掘立柱建物跡一覧表

() は推定値

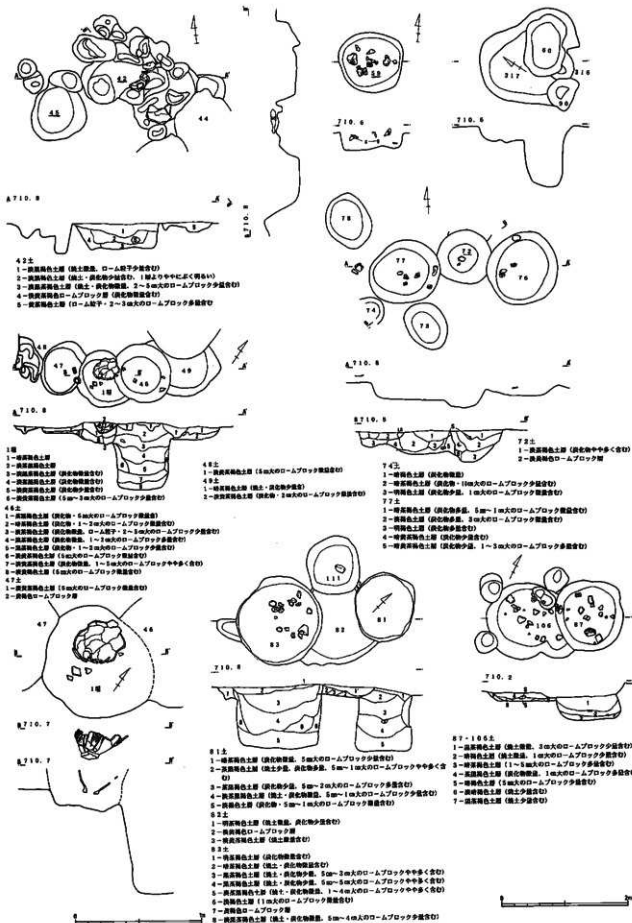
図版番号	図位	置	重複・改築	平面形	長径(m)	短径(m)	柱穴	その他の遺構	時代・時期	備	考
第144図	1	F-30-31	なし	長方	(4.00)	3.70	4	ピット2基	古墳前期初頭	一部攪乱。	



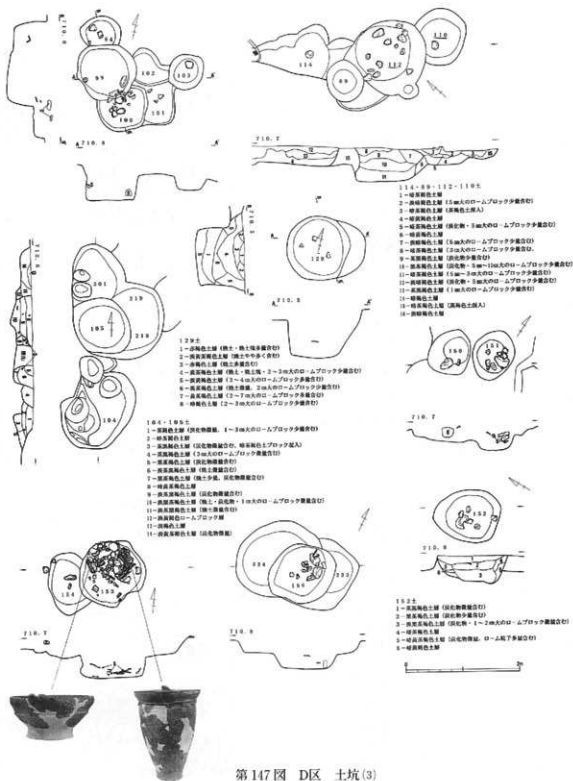
第144図 D区 第1号掘立柱建物跡



第145図 D区 土坑(1)



第146図 D区 土坑(2)



第147図 D区 土坑(3)

第3項 土坑 (第145~147図)

土坑として認識できるものは334基で、時的に不明なもの約60%を占めるが、覆土の状態から縄文時代前期の諸磯期ないし中期の五領ヶ台期に属するものと考えられる。ちなみに時期が判明しているものの内、35%に当たるものが前述の同時期に該当している。

特筆すべきものを以下に挙げる。諸磯b式期の16土(第145図)から耳飾りが出土している。また17土(第145図)では内面に赤彩された小型深鉢の底部が出土したが、これはベンガラなどを入れた容器の可能性もある。五領ヶ台Ⅱ式期では150・152土などから石皿が半分欠損した状態で出土している。また153土からは、蛇体把手が施された深鉢と浅鉢がセットで出土しているが、個体ではなくバラバラの状態で見つかった。ちなみに浅鉢の方は底部の大部分が欠失しているが意図的に破壊した可能性があり、これらは祭祀的行為の結果かもしれない。

第12表 D区土坑一覧表

() は現存値および推定値

坑群	位置	置長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形	態	立ち上がり	時	期	備	考
1	E-27	(110)	(83)	26.4	楕円	円	やや急	曾	V	120上と切られる。	
2	E-27	42.0	(28)	11.9	楕円	急				楕円が調査区外。	
3	E-27	102.0	98.0	37.0	円	急				4土を切る。	
4	E-27	(110)	68.0	26.7	楕円	円	やや急			31土に切られる。	
5	E-27	45.7	70.0	43.5	楕円	円	やや急			31土を切る。	諸b
6	E-27	132.0	125.0	25.4	楕円	円	やや急			11・17・310土に切られる。	諸b
7	F-27	100.0	98.0	50.0	不整	円	緩やか			298土を切る。	諸b
8	F-27	55.0	42.0	16.5	楕円	緩やか				272土を切る。	曾II
9	F-27	125.0	110.0	25.0	楕円	急				275土を切る。278土を切る。	諸b
10	F-27	(105)	88.0	37.0	楕円	円	やや急			290土と切り合い、291土を切る。	諸b
11	D-27	92.0	75.0	48.0	楕円	円	やや急			6土を切る。	諸b
12	E-27	80.0	(60)	57.2	楕円	急				290土と切り合い、14土を切る。	諸c
13	F-27	84.0	65.0	32.6	楕円	円	やや急			282・283土を切る。	諸b
14	E-27	(130)	105.0	9.0	楕円	急	やや急			121・291土に切られる。	諸b
15	F-26	98.0	94.0	53.0	楕円	急				254土を切る。	諸b
16	F-27	105.0	103.0	15.2	楕円	緩やか				塊状豆腐が出土している。	諸b
17	D・E-27	130.0	125.0	78.0	楕円	急				6・302・309土を切る。	諸b
18	E-27	100.0	78.0	25.0	楕円	緩やか				14土と切り合う。	諸b
19	F-27	100.0	98.0	65.0	楕円	急				280土を切る。	諸b
20	F-27	84.0	56.0	42.0	不整	円	急			円状を呈する。	諸b
21	G-27	90.0	75.0	37.0	長楕円	緩やか				268・269・278土を切る。	曾IV
22	F-27	90.0	70.0	25.0	楕円	急				13・281土と切り合う。	曾V
23	E-27	135.0	125.0	37.0	円	やや急				37・281土と切り合う。	曾V
24	G-28	80.0	(78)	32.0	楕円	緩やか				25土を切る。	曾IV
25	G-28	46.0	38.0	48.0	隅丸長方形	急				円状を呈する。	諸b
26	G-28	80.0	80.0	54.0	長楕円	急				25土を切る。	曾IV
27	F-28	67.0	63.0	21.0	長楕円	急	やや急			252土を切る。	曾IV
28	F-28	65.0	34.0	37.7	長楕円	急	やや急			255土を切る。	諸b
29	F-28	58.0	45.0	39.2	楕円	急					諸b
30	F-28	50.0	43.0	35.6	楕円	急					諸b
31	F-28	62.0	50.0	58.8	楕円	急				258土を切る。	諸b
32	F-27	50.0	50.0	27.0	円	やや急				274土を切る。	諸b
33	G-28	54.0	45.0	10.2	楕円	急	やや急			276・277土を切る。	諸b
34	G-27	40.0	36.0	40.6	円	急					曾
35	G-27	(92)	62.0	34.4	不整	円	緩やか			264土と切り合う。	諸b
36	G-27	120.0	84.0	23.3	長楕円	緩やか					諸b
37	F-27	80.0	65.0	62.0	楕円	急					諸b
38	F-29	65.0	43.0	9.7	楕円	緩やか					五II
39	E・F-29	110.0	105.0	63.0	楕円	急					曾IV
40	E・F-29	(145)	135.0	24.0	円	急				南側部分が攪乱を受けている。	五II
41	E-29	90.0	90.0	32.4	円	急				57土と切り合う。	五II
42	D-29	(125)	(87)	65.0	不整	円	急			4区内に存在せず。	曾V
43	D-28	110.0	100.0	83.0	楕円	急				107・328土と切り合う。オーバーハング	諸b
44	D-28	93.0	90.0	52.0	円	急				107・329土と切り合う。	諸b
45	D-29	90.0	80.0	70.0	不整	円	急			4区と切り合う。	諸b
46	D-29-30	95.0	90.0	106.0	楕円	急				134・40・240土を切る。	曾V
47	D-30	82.0	77.0	18.0	楕円	急				48土を切り、1層に切られる。	五II
48	D-30	84.0	75.0	19.0	円	急				47土に切られる。	五II
49	D-30	150.0	150.0	27.0	楕円	緩やか				46・76・244土と切り合う。	五II
50	D-29	(100)	100.0	33.8	長楕円	急				西側の約部分が調査区外。	諸b
51	D-29	120.0	90.0	53.3	楕円	急	やや急				諸b
52	E-29	55.0	50.0	26.8	楕円	緩やか					新
53	E-29	60.0	58.0	23.4	円	急				61・62・68土と切り合う。	諸b
54	E-29	62.0	57.0	7.7	楕円	急					諸b
55	E-29-30	85.0	74.0	14.2	楕円	緩やか					五II
56	E-29	107.0	95.0	19.8	不整	円	緩やか			57土と切り合う。	五II
57	E-29	145.0	80.0	19.7	不整	円	緩やか			56土と切り合う。	五II
58	E・F-29	85.0	70.0	14.5	楕円	緩やか				57土と切り合う。	五II
59	D-28	170.0	95.0	29.0	楕円	急				325・326土と切り合う。	五II
60	D-27	95.0	75.0	97.0	楕円	急				302・316・317土を切る。	諸b
61	E-29	85.0	72.0	25.0	不整	円	緩やか			62土と切り合う。	諸b
62	E-29	150.0	95.0	18.8	不整	円	緩やか			61土と切り合う。	諸b
63	E-29	125.0	100.0	34.0	円	急				64土と切り合う。	諸b
64	E-29-30	150.0	125.0	13.7	楕円	緩やか				63土と切り合う。	諸b
65	D・E-29	77.0	75.0	29.2	楕円	緩やか					諸b
66	E-30	95.0	(65)	36.6	楕円	急				北側部分が攪乱を受けている。	諸b
67	D・E-30	90.0	108.0	21.3	円	急				64・65土に切られ、北側部分が攪乱。	諸b
68	E-29	110.0	(37)	76.5	長楕円	緩やか				52土と切り合い、南側部分が攪乱を受けている。	諸b
69	D-29	65.0	45.0	25.0	不整	円	緩やか				諸b
70	D-29	75.0	60.0	47.2	不整	円	やや急			247土と切り合う。	諸b
71	D-30	55.0	44.0	24.0	楕円	緩やか				237土を切る。8区内に存在する。	諸b
72	D-30	65.0	55.0	40.0	円	緩やか				238土を切る。	曾V
73	D-30	80.0	55.0	38.0	楕円	緩やか				241土と切り合う。	曾V
74	D-30	45.0	(15)	12.0	楕円	急				西側部分が調査区外。	五II
75	D-30	103.0	90.0	54.5	円	急					諸b
76	D-30	124.0	100.0	26.0	楕円	緩やか				49土を切る。	五II
77	D-30	120.0	55.0	29.0	楕円	緩やか				78土を切る。	五II
78	D-30	130.0	90.0	29.0	楕円	緩やか					五II
79	D-31	155.0	115.0	11.5	楕円	緩やか				104・213・223・226土に切られる。	諸b
80	D-30-31	113.0	80.0	14.0	楕円	緩やか				東側に小ビット(深さ24cm)	五II
81	D・E-28-29	110.0	100.0	99.2	楕円	急				82土に切られる。	諸b
82	D・E-28	160.0	115.0	16.0	不整	円	緩やか			81土を切り、83土に切られる。	諸b
83	D-28	140.0	137.0	96.2	楕円	急				82土を切る。	諸b
84	D-28	62.0	60.0	61.8	楕円	急				99土に切られる。	諸b
85	G-27	88.0	(30)	57.6	楕円	円	やや急			86土を切る。東側半分が調査区外。	諸b
86	G-26-27	(40)	70.0	17.1	円	急				85土に切られる。東側半分が調査区外。	諸b
87	G-26-27	114.0	110.0	59.0	楕円	急				6区内、106土と切り合う。オーバーハング	諸b
88	D-27	75.0	(45)	88.0	楕円	急				南側が調査区外。	五II
89	D-27	132.0	115.0	58.2	円	急				112・114土に切り合う。	諸b
90	D-27	55.0	90.0	23.2	円	緩やか				317土と切り合う。	五II
91	D-32	125.0	120.0	44.7	楕円	緩やか				121区に伴うビットと切り合っている。	五II
92	D-32	75.0	45.0	45.2	楕円	急				122区の小ビット	五II
93	D-31-32	158.0	(50)	17.4	楕円	急				122土と切り合う。	五II
94	D-32	90.0	80.0	18.8	円	緩やか				120土と切り合う。	五II
95	D-32	42.0	40.0	28.2	円	緩やか				122区の小ビットか?	五II
96	D-32-33	245.0	(127)	31.5	不整	円	緩やか			121区と切り合う。小ビットが混在する。	五II

調査号	位置	置径(cm)	掘径(cm)	深さ(cm)	形態	立ち上がり	時期	備考
97	D-32-33	80.0	(61)	19.1	楕円	緩やか		196土に切られている。
98	D-33	(70)	90.0	19.1	楕円	緩やか		194土に切られ、北側部分が調査区外。
99	D-28	98.0	97.0	63.5	楕円	急	Ⅴ	84・100・102土を切る。
100	D-28	90.0	85.0	20.8	楕円	急	Ⅴ	99土に切られ、101土を切る。
101	D-28	110.0	75.0	17.2	楕円	急	Ⅴ	99・100・102土に切られる。
102	D-28	102.0	70.0	25.4	不整	急	Ⅴ	101土を切り、99・103土に切られる。
103	D-28	63.0	61.0	46.1	楕円	やや急		101・102土を切る。
104	D-31	141.0	110.0	19.5	楕円	急	Ⅴ	北側が小ビットで切られる。
105	D-31	105.0	98.0	34.0	楕円	やや急	Ⅴ	218・219・301土を切る。
106	F-26-27	131.0	120.0	19.2	楕円	緩やか	Ⅴ	67土に切られる。
107	D-28	150.0	95.0	60.0	不整	楕円	緩やか	43・44土を切る。
108	D-28	83.0	80.0	102.0	円	急		109土に切られる。
109	D-28	80.0	(50)	48.2	楕円	急	Ⅴ	106土を切り、西側が調査区外。
110	D-27	120.0	96.0	21.1	円	緩やか	Ⅴ	98土を切る。
111	D-28-29	95.0	19.4		楕円	緩やか	Ⅴ	112土を切り合う。
112	D-27	143.0	120.0	39.1	楕円	緩やか	Ⅴ	114土を切る。
113	D-27-28	54.0	43.0	46.2	楕円	急	Ⅴ	89・321土と切り合う。
114	D-27-28	140.0	(80)	34.9	楕円	急	Ⅴ	317・319土と切り合う。
115	D-27-28	110.0	85.0	30.4	楕円	急	Ⅴ	815土を切る。
116	D-27	100.0	93.0	24.8	楕円	緩やか	Ⅴ	117土と切り合う。
117	E-28	105.0	85.0	57.4	楕円	やや急	Ⅴ	102土と切り合う。
118	D-28	70.0	57.0	12.8	楕円	やや急		102土と切り合う。北側に小ビット。
119	E-27	120.0	90.0	36.2	不整	緩やか		南側部分が調査区外。
120	E-27	125.0	90.0	20.7	楕円	急		120土と切り合う。
121	E-27	128.0	96.0	31.0	長楕円	緩やか		120土と切り合う。
122	F-30-31	115.0	90.0	61.0	不整	急	Ⅴ	3土と切り合う。小ビットを2基伴う。
123	F-30	64.0	48.0	18.1	楕円	急	Ⅴ	2層以上の土坑と切り合う可能性あり。
124	F-30	63.0	60.0	5.5	円	急		
125	F-30-31	113.0	70.0	9.8	楕円	急	Ⅴ	3注と切り合う。
126	F-30-31	100.0	55.0	19.5	長円	急	Ⅴ	3注と切り合う。
127	F-G-30	85.0	72.0	25.0	楕円	緩やか	Ⅴ	249土と切り合う。
128	G-30-31	120.0	100.0	53.3	楕円	緩やか	Ⅴ	小ビットと249土に切られる。
129	G-30	135.0	115.0	88.2	不整	急	Ⅴ	楕円
130	G-30	(120)	85.0	24.8	楕円	急	Ⅴ	北側が調査区外。
131	G-30	(100)	(40)	36.4	楕円	急	Ⅴ	東側が調査区外。
132	G-30	45.0	40.0	40.6	楕円	急		
133	F-30	130.0	100.0	18.5	楕円	急		134土に切られる。
134	F-30	70.0	43.0	18.5	楕円	緩やか		133土を切る。
135	F-30	75.0	60.0	13.3	楕円	急		
136	E-30	(120)	112.0	29.0	楕円	緩やか		7注。235土に切られる。
137	D-30	(82)	85.0	25.6	不整	緩やか		138・139土と切り合う。
138	D-E-30	120.0	80.0	26.0	楕円	緩やか	Ⅴ	137・139土と切り合う。
139	D-30	135.0	82.0	35.0	不整	急	Ⅴ	137・138土と切り合う。
140	D-30	85.0	53.0	66.0	楕円	緩やか	Ⅴ	80土を切る。
141	D-31	85.0	67.0	16.5	不整	急		西側に小ビット。
142	E-31	110.0	105.0	47.8	円	急		144・214・331土と切り合う。
143	E-31	(57)	8.7		楕円	緩やか		144土と切り合う。
144	E-31	(105)	(60)	21.1	不整	やや急	Ⅴ	142・146土と切り合う。
145	E-31	(95)	(65)	36.0	不整	急	Ⅴ	144・214土を切る。
146	E-30-31	90.0	70.0	22.0	不整	急	Ⅴ	144・7注と切り合う。
147	D-E-30-31	155.0	85.0	15.2	楕円	やや急	Ⅴ	150・251・231土と切り合う。
148	E-31	90.0	70.0	24.0	楕円	急	Ⅴ	149土と切り合う。
149	E-31	95.0	70.0	24.6	楕円	急	Ⅴ	148土と切り合う。149土と同時期か?
150	D-31	82.0	78.0	21.0	不整	急	Ⅴ	151土に切られる。
151	E-31	80.0	62.0	25.0	不整	急	Ⅴ	150・147・222・331土を切る。
152	D-31-32	120.0	110.0	48.9	楕円	やや急	Ⅴ	189・190土を切る。
153	E-31	122.0	110.0	44.0	不整	急	Ⅴ	154・221土を切る。西側でオーバーハング
154	D-E-31	105.0	75.0	10.2	不整	急	Ⅴ	153土に切られ、332土を切る。
155	D-31	170.0	87.0	41.2	楕円	緩やか	Ⅴ	141・216土を切る。
156	E-31	120.0	110.0	28.0	不整	急	Ⅴ	333・334土を切る。
157	E-31	130.0	60.0	19.4	楕円	急		148・166土に切られ、158土を切る。
158	E-31	70.0	(80)	27.6	楕円	急		148・149・157・159土に切られる。
159	E-31	60.0	50.0	19.4	楕円	急		158・160土を切る。
160	E-F-31	(110)	(100)	18.0	不整	緩やか		210・211土・3注に切られる。
161	E-F-31	135.0	110.0	32.5	楕円	緩やか		162土に切られる。南北に小ビットが存在する
162	F-31-32	75.0	65.0	58.6	楕円	やや急		北側が覆土を受け、161土を切る。
163	F-32	48.0	40.0	38.2	楕円	やや急		164土を切る。
164	F-32	(120)	100.0	52.8	不整	緩やか	Ⅴ	163・165土を切る。
165	F-32	(115)	(90)	60.2	不整	急	Ⅴ	164土を切る。
166	E-31	115.0	56.7	7.0	楕円	やや急	Ⅴ	167土を切る。
167	E-31-32	105.0	96.70.7		楕円	急	Ⅴ	167・177土と切り合う。北西部が覆土。
168	E-F-32	100.0	96.0	23.1	楕円	急		169土を切る。
169	E-32	(115)	95.0	32.8	楕円	急		168土に切られる。南部が覆土。
170	E-31-32	160.0	130.0	36.8	楕円	緩やか	Ⅴ	171・177土と切り合う。
171	E-31-32	77.0	65.0	46.4	円	緩やか	Ⅴ	170土を切る。
172	E-32	87.0	84.0	37.3	円	緩やか	Ⅴ	171・188土を切る。
173	E-32	113.0	110.0	26.1	楕円	やや急	Ⅴ	
174	E-32	105.0	84.0	47.3	楕円	やや急		
175	E-32	(150)	70.0	22.2	楕円	緩やか		北側が調査区外。
176	E-32	(30)	45.0	22.5	楕円	緩やか		北側が調査区外。
177	E-31	(70)	(100)	26.0	円	急		166・167・170土に切られる。
178	E-32	125.0	120.0	63.0	楕円	急		179・182土と切り合う。
179	E-32	110.0	100.0	37.9	楕円	急		178・180・182土と切り合う。
180	D-E-32	100.0	90.0	39.3	楕円	急	Ⅴ	179・182土と切り合う。
181	E-32	94.0	75.0	34.4	楕円	やや急	Ⅴ	179土と切り合う。
182	E-32	120.0	(40)	38.4	楕円	急		西側に小ビット。178・180土に切られる。
183	E-32	70.0	70.0	25.4	円	緩やか		182・184・185土に切られる。
184	E-32	53.0	40.0	25.2	楕円	緩やか		183・185土に切られる。
185	E-32	52.0	33.1		楕円	急		183・184・186土を切る。
186	D-32	140.0	115.0	30.4	長楕円	緩やか	Ⅴ	185・189・192土に切られる。
187	D-32	70.0	60.0	28.5	楕円	急		172・188土に切られる。
188	E-32	(65)	62.0	28.8	楕円	やや急		172・189土に切られる。
189	D-E-32	(150)	144.0		不整	急		182・190土に切られる。188土を切る。
190	D-31	(100)	86.0	25.6	楕円	やや急		152・217土と切り合う。
191	D-32	(145)	(105)	8.2	楕円	急		152・192・301土と切り合う。
192	D-32	105.0	100.0	33.4	不整	急	Ⅴ	186・191土を切る。

地号	位置	調査長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形態	立ち上がり	時期	備考
193	D-32	125.0	115.0	32.2	楕円	緩やか	ⅤⅡ	東側半分が調査区外。 3位、196土と切り合う。
194	G-31	30.0	(15)	20.1	円	急		
195	G-31	75.0	55.0	46.2	楕円	緩やか	ⅤⅡ	3位、195土・197土と切り合う。 3位、198土・198土と切り合う。
196	G-31	65.0	55.0	22.0	楕円	緩やか		
197	G-31	(110)	120.0	25.0	楕円	緩やか	ⅤⅡ	198土を切る。 西側半分が調査区外。
198	G-31	125.0	92.0	36.4	楕円	やや急		
199	G-31	(70)	(60)	23.2	楕円	急	ⅤⅡ	堀立柱遺物跡と202土に切られる。 201土を切る。
200	G-32	54.0	50.0	31.3	円	やや急		
201	F-32	(90)	82.0	32.6	楕円	緩やか	ⅤⅡ	206土内に存在し、204土と切り合う。 205土内に存在し、203・207土を切る。 206土内に存在する。
202	F-32	106.0	94.0	31.5	楕円	緩やか		
203	F-32	82.0	80.0	12.6	円	緩やか	ⅤⅡ	11位、202・205土と切り合う。 11位、204・206土と切り合う。 3位、209・210土と切り合う。 3位、208土と切り合う。 208・211土に切られる。
204	F-32	60.0	55.0	57.0	円	急		
205	F-32	56.0	55.0	38.0	円	やや急	ⅤⅡ	190・210土を切る。
206	F-32	(156)	185.0	26.0	楕円	緩やか		
207	F-32	70.0	62.0	37.1	楕円	緩やか	ⅤⅡ	208・211土に切られる。
208	F-30-31	102.0	(95)	39.0	楕円	緩やか		
209	F-31	115.0	105.0	19.4	楕円	緩やか	ⅤⅡ	145・149・213土と切り合う。 北西部が攪乱。148・149土などと切り合う。 142・145・213土などと切り合う。 79・80・215土に切られる。
210	E・F-31	(120)	(96)	5.6	楕円	急		
211	E・F-31	120.0	107.0	59.5	楕円	緩やか	ⅤⅡ	190・216・218・219土と切り合う。 105土に切られ、217・219土と切り合う。 東部が攪乱。 東西が攪乱。153土に切られる。 150・151土と切り合う。 104土に切られる。
212	E-31	(95)	70.0	20.5	楕円	緩やか		
213	E-31	90.0	(70)	23.5	楕円	緩やか	ⅤⅡ	190・216・218・219土と切り合う。 105土に切られ、217・219土と切り合う。 東部が攪乱。 東西が攪乱。153土に切られる。 150・151土と切り合う。 104土に切られる。
214	E-31	(120)	(90)	30.0	不整	急		
215	D-31	125.0	80.0	15.5	楕円	緩やか	ⅤⅡ	190・216・218・219土と切り合う。 105土に切られ、217・219土と切り合う。 東部が攪乱。 東西が攪乱。153土に切られる。 150・151土と切り合う。 104土に切られる。
216	D-31	(115)	70.0	14.4	長楕円	緩やか		
217	D-31	(110)	75.0	22.5	楕円	急	ⅤⅡ	190・216・218・219土と切り合う。 105土に切られ、217・219土と切り合う。 東部が攪乱。 東西が攪乱。153土に切られる。 150・151土と切り合う。 104土に切られる。
218	D-31	90.0	(50)	5.5	楕円	急		
219	D-31	(82)	80.0	28.5	楕円	緩やか	ⅤⅡ	190・216・218・219土と切り合う。 105土に切られ、217・219土と切り合う。 東部が攪乱。 東西が攪乱。153土に切られる。 150・151土と切り合う。 104土に切られる。
220	E-31	(65)	57.0	25.0	楕円	緩やか		
221	E-31	(82)	(65)	38.2	楕円	緩やか	ⅤⅡ	190・216・218・219土と切り合う。 105土に切られ、217・219土と切り合う。 東部が攪乱。 東西が攪乱。153土に切られる。 150・151土と切り合う。 104土に切られる。
222	D・E-31	(125)	(85)	26.0	楕円	緩やか		
223	D-31	60.0	(28)	13.5	楕円	緩やか	ⅤⅡ	190・216・218・219土と切り合う。 105土に切られ、217・219土と切り合う。 東部が攪乱。 東西が攪乱。153土に切られる。 150・151土と切り合う。 104土に切られる。
224	D-31	35.0	32.0	16.5	円	普通急		
225	D-31	58.0	50.0	16.5	不整	急	ⅤⅡ	190・216・218・219土と切り合う。 105土に切られ、217・219土と切り合う。 東部が攪乱。 東西が攪乱。153土に切られる。 150・151土と切り合う。 104土に切られる。
226	D-31	45.0	37.0	8.0	楕円	急		
227	D-31	35.0	33.0	10.7	円	緩やか	ⅤⅡ	190・216・218・219土と切り合う。 105土に切られ、217・219土と切り合う。 東部が攪乱。 東西が攪乱。153土に切られる。 150・151土と切り合う。 104土に切られる。
228	D-31	47.0	45.0	36.5	円	急		
229	D-31	28.0	25.0	46.5	円	急	ⅤⅡ	190・216・218・219土と切り合う。 105土に切られ、217・219土と切り合う。 東部が攪乱。 東西が攪乱。153土に切られる。 150・151土と切り合う。 104土に切られる。
230	D-30-31	130.0	130.0	7.2	碇楕円	緩やか		
231	D-30	56.0	48.0	28.5	楕円	急	ⅤⅡ	190・216・218・219土と切り合う。 105土に切られ、217・219土と切り合う。 東部が攪乱。 東西が攪乱。153土に切られる。 150・151土と切り合う。 104土に切られる。
232	E-30	(120)	(90)	26.1	円	緩やか		
233	E-30	98.0	(60)	26.5	不整	緩やか	ⅤⅡ	190・216・218・219土と切り合う。 105土に切られ、217・219土と切り合う。 東部が攪乱。 東西が攪乱。153土に切られる。 150・151土と切り合う。 104土に切られる。
234	D-30	115.0	110.0	23.5	不整	緩やか		
235	D-30	60.0	50.0	18.9	不整	緩やか	ⅤⅡ	190・216・218・219土と切り合う。 105土に切られ、217・219土と切り合う。 東部が攪乱。 東西が攪乱。153土に切られる。 150・151土と切り合う。 104土に切られる。
236	E-30	57.0	56.0	33.3	円	やや急		
237	D-30	37.0	35.0	34.1	円	やや急	ⅤⅡ	190・216・218・219土と切り合う。 105土に切られ、217・219土と切り合う。 東部が攪乱。 東西が攪乱。153土に切られる。 150・151土と切り合う。 104土に切られる。
238	D-30	(70)	48.0	43.6	楕円	やや急		
239	D-30	40.0	44.0	11.4	楕円	急	ⅤⅡ	190・216・218・219土と切り合う。 105土に切られ、217・219土と切り合う。 東部が攪乱。 東西が攪乱。153土に切られる。 150・151土と切り合う。 104土に切られる。
240	D-30	(65)	(35)	23.8	不整	緩やか		
241	D-30	60.0	42.0	28.9	楕円	やや急	ⅤⅡ	190・216・218・219土と切り合う。 105土に切られ、217・219土と切り合う。 東部が攪乱。 東西が攪乱。153土に切られる。 150・151土と切り合う。 104土に切られる。
242	D-29	50.0	27.0	25.1	楕円	やや急		
243	D-29	32.0	45.0	52.3	楕円	急	ⅤⅡ	190・216・218・219土と切り合う。 105土に切られ、217・219土と切り合う。 東部が攪乱。 東西が攪乱。153土に切られる。 150・151土と切り合う。 104土に切られる。
244	D-30	77.0	75.0	18.0	不整	緩やか		
245	D-29-30	57.0	42.0	10.0	不整	緩やか	ⅤⅡ	190・216・218・219土と切り合う。 105土に切られ、217・219土と切り合う。 東部が攪乱。 東西が攪乱。153土に切られる。 150・151土と切り合う。 104土に切られる。
246	D-29	58.0	50.0	15.1	不整	緩やか		
247	D-29	80.0	53.0	21.1	楕円	緩やか	ⅤⅡ	190・216・218・219土と切り合う。 105土に切られ、217・219土と切り合う。 東部が攪乱。 東西が攪乱。153土に切られる。 150・151土と切り合う。 104土に切られる。
248	E-29	35.0	28.0	59.8	楕円	急		
249	F・G-30	77.0	72.0	6.8	楕円	急	ⅤⅡ	190・216・218・219土と切り合う。 105土に切られ、217・219土と切り合う。 東部が攪乱。 東西が攪乱。153土に切られる。 150・151土と切り合う。 104土に切られる。
250	F-29	45.0	42.0	17.4	楕円	緩やか		
251	F-28	70.0	(45)	23.5	不整	緩やか	ⅤⅡ	190・216・218・219土と切り合う。 105土に切られ、217・219土と切り合う。 東部が攪乱。 東西が攪乱。153土に切られる。 150・151土と切り合う。 104土に切られる。
252	F-28	57.0	45.0	17.9	楕円	緩やか		
253	F-28	67.0	55.0	4.3	不整	急	ⅤⅡ	190・216・218・219土と切り合う。 105土に切られ、217・219土と切り合う。 東部が攪乱。 東西が攪乱。153土に切られる。 150・151土と切り合う。 104土に切られる。
254	F-28	80.0	74.0	60.9	円	急		
255	F-28	50.0	27.0	7.5	不整	緩やか	ⅤⅡ	190・216・218・219土と切り合う。 105土に切られ、217・219土と切り合う。 東部が攪乱。 東西が攪乱。153土に切られる。 150・151土と切り合う。 104土に切られる。
256	F-28	38.0	35.0	12.7	楕円	緩やか		
257	F-28	27.0	24.0	17.5	円	やや急	ⅤⅡ	190・216・218・219土と切り合う。 105土に切られ、217・219土と切り合う。 東部が攪乱。 東西が攪乱。153土に切られる。 150・151土と切り合う。 104土に切られる。
258	F-28	32.0	48.0	33.3	楕円	緩やか		
259	G-28	30.0	25.0	51.7	楕円	急	ⅤⅡ	190・216・218・219土と切り合う。 105土に切られ、217・219土と切り合う。 東部が攪乱。 東西が攪乱。153土に切られる。 150・151土と切り合う。 104土に切られる。
260	G-28	35.0	35.0	17.7	円	緩やか		
261	G-28	50.0	45.0	13.7	楕円	緩やか	ⅤⅡ	190・216・218・219土と切り合う。 105土に切られ、217・219土と切り合う。 東部が攪乱。 東西が攪乱。153土に切られる。 150・151土と切り合う。 104土に切られる。
262	G-28	(35)	35.0	28.5	楕円	急		
263	G-27-28	40.0	27.0	10.8	楕円	急	ⅤⅡ	190・216・218・219土と切り合う。 105土に切られ、217・219土と切り合う。 東部が攪乱。 東西が攪乱。153土に切られる。 150・151土と切り合う。 104土に切られる。
264	G-27	42.0	40.0	19.2	円	やや急		
265	G-27	25.0	25.0	17.2	円	緩やか	ⅤⅡ	190・216・218・219土と切り合う。 105土に切られ、217・219土と切り合う。 東部が攪乱。 東西が攪乱。153土に切られる。 150・151土と切り合う。 104土に切られる。
266	G-27	55.0	45.0	22.3	楕円	緩やか		
267	G-27	70.0	37.0	29.9	楕円	急	ⅤⅡ	190・216・218・219土と切り合う。 105土に切られ、217・219土と切り合う。 東部が攪乱。 東西が攪乱。153土に切られる。 150・151土と切り合う。 104土に切られる。
268	G-27	80.0	65.0	41.3	楕円	緩やか		
269	G-27	(30)	30.0	44.3	楕円	急	ⅤⅡ	190・216・218・219土と切り合う。 105土に切られ、217・219土と切り合う。 東部が攪乱。 東西が攪乱。153土に切られる。 150・151土と切り合う。 104土に切られる。
270	G-28	38.0	28.0	13.7	楕円	緩やか		
271	G-27-28	40.0	40.0	21.5	不整	オーバーハン	ⅤⅡ	190・216・218・219土と切り合う。 105土に切られ、217・219土と切り合う。 東部が攪乱。 東西が攪乱。153土に切られる。 150・151土と切り合う。 104土に切られる。
272	G-27	40.0	40.0	16.6	円	緩やか		
273	F・G-27	65.0	37.0	8.0	楕円	緩やか	ⅤⅡ	190・216・218・219土と切り合う。 105土に切られ、217・219土と切り合う。 東部が攪乱。 東西が攪乱。153土に切られる。 150・151土と切り合う。 104土に切られる。
274	F-27-28	42.0	(20)	21.8	不整	緩やか		
275	E-27-28	40.0	25.0	15.0	楕円	緩やか	ⅤⅡ	190・216・218・219土と切り合う。 105土に切られ、217・219土と切り合う。 東部が攪乱。 東西が攪乱。153土に切られる。 150・151土と切り合う。 104土に切られる。
276	G-28	45.0	34.0	6.7	不整	急		
277	F・G-28	65.0	40.0	22.3	不整	緩やか	ⅤⅡ	190・216・218・219土と切り合う。 105土に切られ、217・219土と切り合う。 東部が攪乱。 東西が攪乱。153土に切られる。 150・151土と切り合う。 104土に切られる。
278	G-27	30.0	(20)	22.1	不整	緩やか		
279	F-27	45.0	35.0	10.4	不整	緩やか	ⅤⅡ	190・216・218・219土と切り合う。 105土に切られ、217・219土と切り合う。 東部が攪乱。 東西が攪乱。153土に切られる。 150・151土と切り合う。 104土に切られる。
280	F-27	74.0	32.0	41.5	不整	やや急		
281	F-27	50.0	45.0	27.5	円	緩やか	ⅤⅡ	190・216・218・219土と切り合う。 105土に切られ、217・219土と切り合う。 東部が攪乱。 東西が攪乱。153土に切られる。 150・151土と切り合う。 104土に切られる。
282	F-27	70.0	40.0	11.4	楕円	緩やか		
283	F-27	42.0	32.0	17.5	不整	緩やか	ⅤⅡ	190・216・218・219土と切り合う。 105土に切られ、217・219土と切り合う。 東部が攪乱。 東西が攪乱。153土に切られる。 150・151土と切り合う。 104土に切られる。
284	F-27	55.0	35.0	6.7	不整	やや急		
285	F-28	45.0	41.0	15.9	不整	急	ⅤⅡ	190・216・218・219土と切り合う。 105土に切られ、217・219土と切り合う。 東部が攪乱。 東西が攪乱。153土に切られる。 150・151土と切り合う。 104土に切られる。
286	F-28	84.0	45.0	46.7	不整	急		
287	F-27-28	47.0	40.0	15.8	楕円	急	ⅤⅡ	190・216・218・219土と切り合う。 105土に切られ、217・219土と切り合う。 東部が攪乱。 東西が攪乱。153土に切られる。 150・151土と切り合う。 104土に切られる。
288	F-27	55.0	40.0	23.5	楕円	急		

坑番号	位置	置長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形態	立ち上がり	時期	備	考
289	E-27	53.0	35.0	16.2	柘門	緩やか			
290	E-F-27	(80)	(70)	24.2	不整柘門	緩やか			
291	E-F-27	(70)	67.0	15.4	不整	緩やか			10・12・291土と切り合う。
292	E-F-27	62.0	60.0	15.9	不整	緩やか			10・12・290土と切り合う。
293	F-27	45.0	35.0	20.1	柘門	緩やか			291土と切り合う。
294	F-27	40.0	30.0	29.2	柘門	緩やか			294土に切られる。
295	F-27	80.0	64.0	17.2	不整	やや急			293土を切る。
296	E-F-27	42.0	(22)	13.8	不整	急			296土と切り合う。
297	F-27	50.0	(26)	12.4	不整	急			295土と切り合う。
298	F-27	80.0	57.0	32.0	柘門	やや急			西側が調査区外。
299	F-27	80.0	60.0	9.8	柘門	緩やか			7土に切られる。
300	D-31	68.0	65.0	21.0	柘門	緩やか			
301	D-31-32	140.0	110.0	8.0	柘門?	緩やか			105・191・219土に切られる。
302	D-E-27	(140)	90.0	14.9	柘門	やや急			17・60・309土に切られる。
303	F-28	68.0	50.0	32.4	柘門	緩やか			南側に小ビット。
304	F-28	34.0	28.0	24.6	隅丸長方	やや急			
305	E-F-28	75.0	35.0	21.2	柘門	緩やか			西側に小ビット。
306	E-28	70.0	60.0	13.9	不整	急			西側に小ビット。
307	E-28	75.0	48.0	20.9	不整柘門	急			
308	E-28-29	100.0	70.0	26.2	不整柘門	急			1'住と切り合う。
309	E-27	92.0	75.0	20.4	柘門	やや急			17・302土に切られる。
310	E-27	(162)	119.0	24.0	不整柘門	やや急			小ビットあり。4-6, 311土と切り合う。
311	E-27	(60)	90.0	24.2	不整	緩やか			310土を切り、西側が調査区外。
312	D-27	57.0	52.0	9.6	川	やや急			
313	D-27	50.0	50.0	18.6	川	緩やか			6土に切られる。
314	D-27	(53)	(47)	16.9	不整柘門	緩やか			南西側が調査区外。
315	D-27	79.0	57.0	2.9	不整	緩やか			119・116土に切られる。
316	D-27	40.0	(23)	29.9	柘門	やや急			60・90・317土と切り合う。
317	D-27	120.0	75.0	28.2	柘門	緩やか			60・90・115土と切り合う。
318	D-27-28	90.0	(50)	17.9	柘門	急			115・317・319土と切り合う。
319	D-28	62.0	(27)	27.0	柘門	やや急			115・318土と切り合う。
320	D-27	63.0	60.0	16.2	柘門	緩やか			139土に切られる。
321	D-28	60.0	48.0	35.4	柘門	急			
322	D-28	25.0	25.0	22.8	円	急			柱穴状。
323	D-28	(40)	(37)	18.7	不整	やや急			109土に切られ、西側が調査区外。
324	D-28	55.0	30.0	9.1	柘門	急			108・109土に切られる。
325	D-28	95.0	65.0	11.6	柘門	緩やか			59・100・326土と切り合う。
326	D-28	(50)	45.0	19.0	柘門	やや急			59・326土に切られる。
327	D-28	95.0	25.0	38.4	不整	やや急			小ビットが3箇所あり。
328	D-28	115.0	(60)	6.5	不整	やや急			43土と切り合い、西側が調査区外。
329	D-28	55.0	30.0	6.7	隅丸方	やや急			44土と切り合う。
330	D-31	85.0	63.0	27.3	不整	急			142・214・221土に切られる。
331	E-31	(100)	95.0	27.0	不整	やや急			15・142・222土と切り合う。
332	D-E-31	(70)	(120)	23.0	柘門?	やや急			153-155・222土に切られる。
333	G-31	117.0	(70)	24.5	隅丸方	やや急			156・334土に切られる。
334	E-31	145.0	85.0	31.0	不整	やや急			156土に切られる。

第4項 野外埋藏 (第146区)

第8号住居跡内から発見されたが、本遺構の方があとに造られている。埋藏の上部は表土削除中に重機で破壊してしまったが、下部は良好な状態で確認することができた。

第13表 D区野外埋藏観察表一覧

調査区	西	南	東	北	深	層	立ち上がり	時期	備	考
1	E-30	南の方	90.0	60.0	36.0	柘門?	急	前期		60・90土と切り合う。153・155土に切られる。

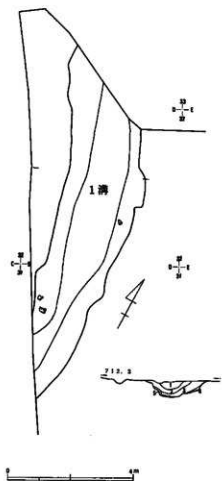
第5項 溝

確認されたのは1条である。

第1号溝 (第146区)

(位置) 調査区の北西端、D-31-32グリッドに位置している。
(形態・規模) 本溝はG区の溝と同一のものと考えられ、南北に流れを持ち、調査区外に抜けてしまう。幅は最大で2.50m、深さは0.50mを測る。

(時期) 覆土は黒褐色土を基調とし、近世以降と考えられる。
(出土遺物) なし。



- 1号溝
 1-黒褐色土層
 2-暗茶褐色土層 (粘土層を含む)
 3-暗茶褐色土層 (3m大のロームブロック少量含む)
 4-暗茶褐色土層
 5-暗茶褐色土層 (粘土物少量含む)

第146区 D区 溝

第5節 E区の調査概要

本区はB区とD区の間位置している。調査面積は約230㎡である。

発見された遺構は、住居跡が古墳時代初頭1軒である。土坑は縄文時代前期後半の諸磯b式期から中期後半の曾利V式期に属するものが546基、中期初頭の五領ヶ台Ⅱ式期の野外埋壘1基が認められる。このほか戦時遺構も認められる。時期的に大別すると縄文時代前期後半の諸磯期、中期初頭の五領ヶ台期、古墳時代前期初頭の3期にわたって、生活が営まれていることが理解できる。

第1項 住居跡

古墳時代前期のものが1軒発見された。酒呑場遺跡全体では、最南端に位置づけられるものである。遺存状況は良好であった。

第1号住居跡（第150図）

（位置）調査区の北端中央、E-21・22グリッドに位置している。

（重複・改築）なし

（形態・規模）北側が調査区外に位置しており、プランの上場が明確ではない。形態はほぼ方形を呈しており、長径は推定で4.30m、現存値で長径3.95mを測る。北側半分の覆土および床面から炭化物や焼土が集中して検出されたため、焼失住居と考えられよう。遺物の量が少ない点などから廃絶後の焼失の可能性が想定される。

（壁・周溝）北壁30.5cm、東壁31.7cm、南壁25.3cm、西壁22.1cmを測る。周溝はない。

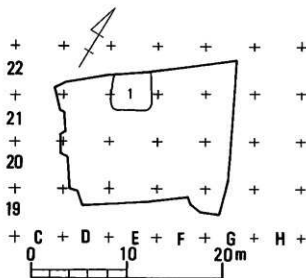
（柱穴）4基認められた。ピット1は長径24.0×短径23.0×深さ38.3cm、ピット2は長径20.0×短径24.0×深さ76.0cm、ピット3は長径26.0×短径18.0×深さ42.8cm、ピット4は長径27.0×短径24.0×深さ39.9cmを測り、主柱穴と考えられる。

（炉）住居跡の中央より北東部に焼土が見られ、これが地床炉と考えられる。範囲は長径62.0×短径57.0×深さ30.0cmを測る。炉内に30cm大の礫が存在した。

（その他の施設）南西コーナーに貯蔵穴と考えられる施設が存在する。規模は長径78.0×短径50.0×深さ46.5cmを測る。

（時期）古墳時代前期初頭。

（出土遺物）壺、坏などの破片類、20cm大の礫類が数点。



第149図 E区 住居跡位置図

第14表 E区住居跡一覧表

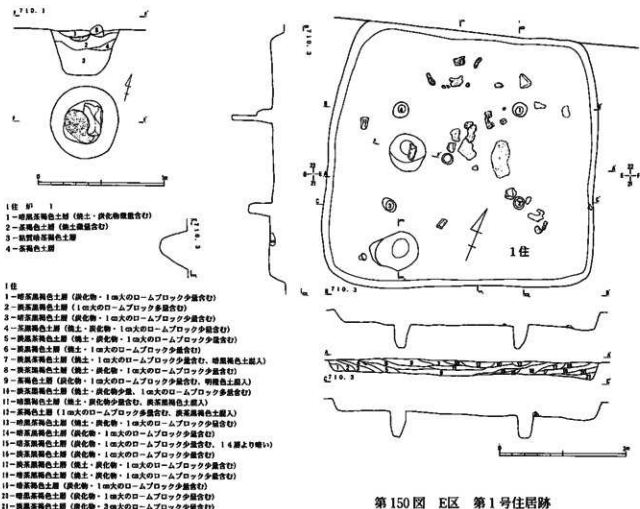
() は現存値

図版番号	図割	位置	重複・改築	平面形	長径(m)	短径(m)	深さ(cm)	炉	主柱穴	時代・時期	備考
第150図	1	E-21・22	なし	方	(4.30)	3.95	31.7	地床	4	古墳前期 初頭	焼失家屋。貯蔵穴あり。

第2項 土坑（第151～152図）

557基中11基が整理作業段階で欠番となったため、土坑として認識できるものは546基である。時期的には約80%に当たるものは不明で、判明しているものの大部分が縄文時代前期の諸磯b式基に属するものである。時期が判明しないものについても覆土の状態などから、そのほとんどが諸磯期の所産と考えられる。

特徴的なものを以下に挙げる。1・103・104・149・249・250・251・314土などは主に礫を伴ったもので、15・16・60・100土は礫と土器類が伴出するものがあり、これらはいずれも諸磯b式期に属している。2土からは小型壺と浅鉢



第15表 E区土坑一覧表

() は現存値および推定値

採掘位	位置(北緯)	置長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形態	立ち上がり	時期	備	考
1	D-21	87.0	80.0	28.0	柵門	急	諸 b	礎が出土。	
2	D-22	(80)	(40)	20.0	円	緩やか	五 II	柵下半分が調査区外。圓状。浅鉢と小型鉢が出土。	
3	C-22	(87)	(31)	22.0	柵門	緩やか		3上と切り合う。	
4	C-22	(75)	70.0	14.7	柵門	緩やか		3上と切られる。	
5	D-22	52.0	50.0	22.3	円	緩やか			
6	D-21	(50)	40.0	11.9	柵門	急		7上と切り合う。	
7	D-21	77.0	45.0	17.1	柵門	急		6上と切り合う。	
8	D-21	(110)	80.0	18.2	不整	急		一部調査区外。	
9	D-21	51.0	50.0	26.8	円	急	諸 7		
10	D-21	110.0	100.0	24.0	柵門	緩やか	諸 b	礎が出土。	
11	D-20	85.0	(60)	24.0	柵門	急	諸 b	143土と切り合う。小ピット。	
12	D-20-21	(87)	(31)	22.0	柵門	急	五 II	452土と切り合う。	
13	U-20	(85)	(35)	79.0	長門	緩やか	諸 b	半分が調査区外。圓状。	
14	D-20	(50)	(83)	88.0	長門	急	諸 b	半分が調査区外。	
15	D-20	85.0	77.0	16.0	柵門	緩やか	諸 b	圓状。土層片多数出土。	
16	D-20	108.0	94.0	22.0	長門	緩やか	諸 b	圓状。礎が出土。	
17	D-20	104.0	94.0	15.9	柵門	急			
18	D-20	60.0	50.0	20.0	円	急	諸 b	455土と切り合う。	
19	D-20	72.0	47.0	13.5	長門	急		446土と切り合う。	
20	D-21	42.0	37.0	13.4	円	急		21土と切り合う。	
21	D-21	94.0	82.0	23.3	柵門	緩やか	新	20土と切り合う。	
22	D-21	(45)	(42)	17.3	柵門	急		21・25土と切り合う。	
23	D-21	108.0	85.0	24.8	柵門	急		438・440・441土と切り合う。	
24	D-20	(81)	(74)	17.8	不整	急		75・452・456土と切り合う。	
25	D-21	(100)	(85)	53.0	柵門	緩やか	諸 b	26・27土と切り合う。	
26	D-E-21	85.0	(50)	17.9	柵門	急	諸 b	25・27土と切り合う。	
27	D-E-21	84.0	80.0	37.0	柵門	急	諸 b		
28	D-21	48.0	40.0	22.4	柵門	緩やか			
29	E-F-20	(110)	(87)	14.0	不整長門	緩やか	諸 b	耳飾りが出土。	
30	D-22	32.0	31.0	13.2	円	急	諸 b		
31	D-21-22	63.0	60.0	15.8	柵門	緩やか		445土と切り合う。	
32	D-21-22	(65)	60.0	17.6	円	急		33・34土と切り合う。	
33	D-21-22	(80)	(77)	32.0	柵門	急	諸 b	32・34土と切り合う。	
34	D-21-22	(65)	42.0	23.1	柵門	急			
35	E-20	(85)	86.0	33.0	不整	急	五 II	36土と切り合う。	
36	E-F-20	(90)	(88)	32.0	円	急	諸 b	35・37土と切り合う。	
37	E-F-20	103.0	94.0	60.0	柵門	緩やか	諸 b	36・37土と切り合う。	
38	F-19	(90)	(77)	39.0	円	緩やか	諸 b	大部分が調査区外。	
39	F-20	63.0	54.0	29.0	柵門	緩やか		37土に切られる。	
40	E-21	92.0	83.0	37.0	柵門	急	諸 b		

区画番号	位置	置長(m)	幅(m)	深さ(m)	形態	立ち上がり	時期	備考
41	E-20	53.0	40.0	24.2	楕円	緩やか	讀b	42・232土と切り合う。
42	E-20	(70)	65.0	16.0	楕円	緩やか	讀b	41・232・233土と切り合う。
43	E-20	111.0	108.0	36.0	円	緩やか	五II	232土と切り合う。
44	D-21	65.0	53.0	23.0	楕円	主は緩く、南は急		25・27土と切り合う。
45	D-21	56.0	32.0	14.3	楕円	円		25・27土と切り合う。
46	D-22	74.0	70.0	4.8	不整	緩やか	管V	47土と切り合う。半分調査区外。
47	D-22	27.0	25.0	23.0	円	急		46土と切り合う。
48	D-22	(50)	(50)	26.8	不整	緩やか		49土と切り合う。
49	D-22	(100)	(90)	44.8	円	急		48土と切り合う。
50	D-22	54.0	48.0	47.7	楕円	急	管IV	51土と切り合う。
51	D・E-22	(70)	(40)	15.0	楕円	急		30土と切り合う。大部分が調査区外。
52	D・E-21	(95)	57.0	24.3	楕円	急		63土と切り合う。
53	D-21	(78)	65.0	31.2	楕円	急	新	54土と切り合う。
54	D-21	161.0	120.0	34.4	不整	緩やか	第	53-56土と切り合う。
55	D-21	58.0	51.0	18.0	円	緩やか		
56	D・E-21	66.0	54.0	12.1	円	緩やか		114土と切り合う。
57	D-21	40.0	38.0	14.0	円	緩やか		
58	E-20	82.0	(68)	20.0	円	緩やか		121土と切り合う。皿状。
59	E-20-21	(110)	(80)	13.0	楕円	急	讀b	半分既見。
60	F-20	164.0	128.0	70.0	楕円	急	讀b	東側小ビット。壁が出土。
61	E-21	120.0	98.0	46.0	楕円	急	讀b	段を有する。
62	E-21	90.0	80.0	31.0	楕円	急	讀b	91-93土と切り合う。
63	E-21	(95)	59.0	13.0	楕円	緩やか	讀b	52・91・92土と切り合う。皿状。
64	D-19	123.0	120.0	27.0	楕円	急	讀b	80・83土と切り合う。板状。
65	D-20	(85)	82.0	27.0	楕円	急	讀b	108・111・112土と切り合う。
66	D-20	(127)	100.0	31.0	楕円	急	讀b	67・68・472土と切り合う。
67	D-20	58.0	40.0	14.0	楕円	緩やか		66土と切り合う。
68	D-20	50.0	40.0	17.0	不整	主は緩く、南は急		66・472・475土と切り合う。
69	D-20	34.0	34.0	14.0	円	急		555土と切り合う。楕円状。
70	D-20	42.0	42.0	31.0	円	急		555土と切り合う。
71	D-21	(80)	70.0	27.0	不整	段		18・73・455土と切り合う。
72	D-20	15.0	14.0	15.7	円	急		555土と切り合う。
73	D-20	(65)	60.0	28.0	楕円	急		13・71・554土と切り合う。
74	D-21	40.0	34.0	7.7	円	急		
75	D-20	(30)	(25)	—	不整	不明		17・24・27土と切り合う。
76	D-20	(34)	32.0	13.8	円	緩やか		
77	D-20	35.0	32.0	24.0	円	緩やか		474土と切り合う。
78	D-20	41.0	39.0	16.0	円	急		
79	D-20	57.0	57.0	10.0	円	緩やか		すり鉢状。
80	D・E-19	80.0	73.0	43.0	楕円	緩やか		64土と切り合う。
81	F・G-19	139.0	(134)	132.0	楕円	急	讀b	
82	D-19	(60)	56.0	27.5	楕円	急		64土と切り合う。
83	E-19-20	(111)	(90)	41.0	楕円	急		64土と切り合う。
84	E・F-22	122.0	(92)	37.0	楕円	急	讀b	
85	F-22	(120)	(90)	33.0	楕円	急		
86	F-22	(130)	(126)	—	楕円	緩やか		262土と切り合う。皿状。
87	F-22	70.0	50.0	7.0	楕円	急		
88	F-22	96.0	(42)	23.0	楕円	凸凹		
89	E・F-22	(75)	63.0	55.0	楕円	急	讀b	90・106土と切り合う。
90	E・F-22	156.0	64.0	49.0	不整	円	讀b	106土と切り合う。楕円状。
91	E-21	52.0	50.0	20.7	楕円	急		62・63・92土と切り合う。
92	E-21	(88)	(80)	—	不整	不明		62・63・91・92土と切り合う。
93	E-21	65.0	(59)	23.1	楕円	急		62・92土と切り合う。
94	E-21	25.0	24.0	17.6	円	急		316土と切り合う。
95	E-22	102.0	100.0	41.0	円	急		
96	E-21	84.0	80.0	49.5	楕円	急	讀b	
97	F-20	92.0	73.0	89.0	楕円	急	管IV	19・98土と切り合う。
98	F・G-20	(75)	54.0	18.0	長円	緩やか		97・191土と切り合う。双円状。
99	G-20	38.0	(35)	11.7	円	急	讀b	100・489土と切り合う。
100	G-20	123.0	120.0	47.3	楕円	凸凹	讀b	
101	E-22	98.0	76.0	21.0	楕円	緩やか	讀b	376土と切り合う。
102	E-22	65.0	55.0	37.4	楕円	急	讀b	504土と切り合う。
103	E-21	85.0	73.0	40.0	楕円	急	讀b	104土と切り合う。
104	E-21	83.0	75.0	66.0	長円	急	讀b	103・146・169土と切り合う。
105	E-21	(40)	30.0	18.0	円	緩やか		391土と切り合う。
106	E・F-20	137.0	103.0	75.0	楕円	急		231土と切り合う。
107	E-20	125.0	75.0	21.6	楕円	急	讀b	234土と切り合う。
108	D-20	(65)	(62)	—	円	急		65・112土と切り合う。
109	D-20-21	(90)	72.0	29.3	長円	急		112土と切り合う。
110	D-20	(55)	(55)	—	—	—		109・111・112土と切り合う。
111	D-20	(90)	(75)	30.1	円	急		65・110・112土と切り合う。
112	D-20	(77)	(60)	9.5	楕円	不明		65・108-111土と切り合う。
113	D-20	38.0	30.0	15.0	楕円	急		463土と切り合う。
114	D・E-20	28.0	27.0	1.9	円	急		56土を切っている。
115	D・E-20	(70)	(65)	28.1	円	急		116土と切り合う。
116	E-21	(55)	(52)	26.4	円	急		115・117土と切り合う。
117	D・E-21	(60)	(52)	—	不整	急		116土と切り合う。
118	欠番							
119	E-20	(67)	(60)	22.8	長円	急		119・123・487土と切り合う。
120	E-20	(87)	(85)	29.5	円	急	讀b	121・123土と切り合う。
121	E-20	(113)	(85)	26.4	楕円	円	急	120・124土と切り合う。
122	D-20	20.0	20.0	12.0	円	急		24土と切り合う。
123	E-20	(63)	(40)	5.5	楕円	緩やか		119・120・122・317土と切り合う。
124	E-20	(70)	(70)	6.5	楕円	緩やか		121土と切り合う。
125	D・E-20	(93)	(84)	31.9	楕円	急		64・84土と切り合う。
126	D-19	(90)	60.0	29.4	楕円	急		約半分が調査区外。
127	D-19	70.0	64.0	29.3	楕円	急		
128	D-19	84.0	(80)	19.8	楕円	急		129土と切り合う。
129	D-19	(60)	64.0	34.0	楕円	急		128土と切り合う。一部調査区外。
130	D-19	17.0	15.0	12.9	円	急		127・128土と切り合う。
131	D-20	34.0	32.0	67.5	円	急		ビット状。
132	D-20	38.0	32.0	18.0	楕円	急		481-483土と切り合う。
133	E-20	48.0	48.0	14.8	楕円	急	讀b	134・486土と切り合う。
134	E-20	37.0	(32)	12.7	楕円	急		133・135・137土と切り合う。
135	E-20	31.0	25.0	14.9	楕円	急	讀b	134-137土と切り合う。
136	E-20	(40)	(30)	11.1	楕円	急		135・137土と切り合う。

土質	位置	長さ(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形態	立ち上がり	時期	備考
137	E-20	20.0	17.0	12.4	楕円	急		134・136土と切り合う。
138	D-E-20	48.0	30.0	16.1	不整	急	諸	480土と切り合う。
139	E-20	(165)	(95)	(15)	不整	やや急		58・120・121土と切り合う。
140	D-20	(90)	(73)	22.4	楕円	急	諸	13・142土と切り合う。一部調査区外。
141	D-20	(44)	(30)	22.4	楕円	急		142・460土と切り合う。
142	D-20	(100)	(80)	20.6	楕円	急		13・140土と切り合う。
143	D-20	(62)	32.0	12.3	楕円	急		11土と切り合う。
144	D-21	(65)	44.0	12.7	円	やや急		145土と切り合う。
145	D-21	(90)	47.0	10.2	楕円	急		144土と切り合う。
146	E-F-21	(110)	(70)	(37)	楕円	急	諸	104土と切り合う。匪状。
147	F-21	143.0	120.0	77.0	不整形	急	諸	148土と切り合う。
148	F-21	85.0	(60)	10.0	長円	緩やか	諸	147土と切り合う。
149	F-21	97.0	75.0	33.0	楕円	急	諸	296土と切り合う。
150	F-21	127.0	125.0	70.0	円	急	諸	
151	F-21	42.0	40.0	36.0	円	急	諸	149土と切り合う。
152	F-21-22	(80)	65.0	15.0	長円	急		153・154土と切り合う。
153	F-21-22	(55)	(47)	—	楕円	急		152・154・264土と切り合う。
154	F-22	(78)	52.0	9.1	楕円	急		153・256と切り合う。
155	F-19	40.0	30.0	4.0	楕円	緩やか	諸	
156	E-F-21	105.0	85.0	57.0	長円	緩やか	五	157土と切り合う。
157	E-F-21	96.0	60.0	34.0	不整形	急	諸	104・156土と切り合う。
158	G-20	38.0	(27)	—	楕円	緩やか		100土と切り合う。
159	F-22	(67)	42.0	17.0	楕円	急		157・276土と切り合う。
160	F-22	(80)	60.0	14.2	楕円	急	諸	181土と切り合う。双円状。
161	F-22	(78)	(55)	14.8	楕円	緩やか	諸	160・165土と切り合う。双円状。
162	F-22	86.6	17.0	24.0	楕円	緩やか	諸	267土と切り合う。
163	F-G-22	43.0	44.0	31.0	楕円	急		217土と切り合う。ビット状。
164	F-G-22	148.0	(110)	55.0	楕円	急	諸	257土と切り合う。
165	G-20	(33)	(19)	47.0	円	急	五	178・179土と切り合う。約半分が調査区外
166	G-20	67.0	80.0	12.0	円	急	四	167土内。
167	G-20	109.0	107.0	17.0	円	緩やか	五	517・518土と切り合う。
168	F-20	97.0	94.0	60.0	楕円	緩やか	五	2次的に穴を受けた深鉢が出土。
169	E-20	(75)	(50)	—	円	不明		大部分が104土と切り合う。
170	G-21	80.0	65.0	44.4	楕円	緩やか		408土と切り合う。
171	G-21	50.0	48.0	14.4	円	急		408土と切り合う。
172	G-21	50.0	42.0	21.0	楕円	急		
173	F-20	50.0	35.0	8.0	楕円	やや緩やか		540・542土と切り合う。
174	F-20	35.0	30.0	13.0	楕円	急		
175	F-20	(50)	(30)	40.0	楕円	緩やか		174・176土と切り合う。
176	F-20	(50)	(43)	45.0	円	緩やか		175・177土と切り合う。
177	F-20	(50)	(30)	18.0	楕円	緩やか		176・205土と切り合う。
178	G-20	(93)	(64)	—	楕円	緩やか	新	165・179土と切り合う。大部分が調査区外。
179	G-20	(90)	(87)	—	楕円	急		100・165・198土と切り合う。調査区外。
180	G-19	(80)	70.0	—	長楕円	急		80土に切られる。
181	G-19	(75)	(40)	—	長楕円	急		183土に切られる。大部分が調査区外。
182	G-19	60.0	35.0	—	長楕円	急		183土に切られる。
183	G-19	(110)	85.0	23.5	楕円	急		181・182土に切られる。一部調査区外。
184	F-19	(35)	(20)	—	楕円	急		183土が調査区外。
185	F-19	(45)	40.0	19.0	楕円	緩やか		155・186土と切り合う。
186	F-19	30.0	20.0	—	楕円	緩やか		155・185土と切り合う。
187	F-19	58.0	35.0	14.0	長楕円	急		155・186土に切られる。
188	F-19	(40)	(40)	—	円	急		189土に切られる。
189	F-19	(65)	50.0	8.7	円	急		188・190土を切る。
190	F-20	(50)	40.0	—	楕円	急		189土と切り合う。
191	G-20	(45)	42.0	—	楕円	急		198土と切り合う。
192	F-20	(50)	45.0	—	楕円	急		97・455土と切り合う。
193	F-20	(45)	38.0	18.1	長楕円	急		194・493土と切り合う。
194	F-20	70.0	(60)	12.0	円	緩やか		193・492土と切り合う。
195	F-20	(50)	43.0	13.1	円	急		197土に切られる。
196	F-20	65.0	54.0	—	楕円	不明		557土と切り合い、527土を切る。
197	F-20	40.0	35.0	7.7	楕円	急		196土と切り合い、527土を切る。
198	F-20	(45)	38.0	2.4	楕円	緩やか	諸	527土を切る。
199	F-20	78.0	67.0	10.8	楕円	緩やか	第	200土と切り合う。
200	F-20	(110)	82.0	26.0	長楕円	緩やか		199・201・202土と切り合う。
201	F-20	(45)	33.0	6.2	長楕円	急	五	200・202土と切り合う。
202	F-20	46.0	38.0	8.3	楕円	急		200・201土と切り合う。
203	E-20	(125)	50.0	28.0	長楕円	急		204土と切り合う。一部攪乱。
204	E-20	(95)	(90)	—	楕円	不明		203・205土と切り合う。一部攪乱。
205	E-20	85.0	(50)	37.4	楕円	急		204土と切り合う。
206	E-20	32.0	25.0	6.1	楕円	急	五	
207	E-19-20	52.0	30.0	12.3	長楕円	やや急		206・210土と切り合う。
208	E-19-20	47.0	43.0	9.7	円	急		201土を切る。
209	E-20	55.0	28.0	2.2	長楕円	緩やか		207土と切り合い、210土を切る。
210	E-20	(110)	90.0	—	円	不明		208・209・211土を切る。
211	E-20	52.0	45.0	23.7	楕円	緩やか	五	
212	E-20	(68)	(50)	—	楕円	急	五	211・213土と切り合う。
213	E-20	(55)	34.0	16.1	楕円	やや急	五	205土と切り合う。
214	E-20	35.0	(32)	18.7	円	急	諸	214・215土と切り合う。
215	E-20	(43)	43.0	—	楕円	急	諸	215土と切り合う。
216	E-20	43.0	(40)	24.2	円	急		215土と切り合う。
217	E-20	37.0	30.0	13.3	楕円	緩やか		
218	E-20	57.0	(50)	—	不整	不明		211・212土と切り合う。
219	E-20	60.0	50.0	15.6	楕円	急		
220	E-20	(53)	45.0	7.1	楕円	不明		211土と切り合う。
221	E-20	64.0	46.0	21.0	楕円	急		220土と切り合う。
222	E-20	65.0	55.0	66.8	楕円	やや急		
223	E-20	68.0	47.0	26.2	楕円	緩やか		
224	E-20	23.0	18.0	9.1	楕円	急		
225	E-20	(55)	(48)	—	不整	急		107土と切り合う。
226	E-20	53.0	45.0	10.6	楕円	やや急		107・228土と切り合う。
227	E-20	58.0	(47)	52.1	円	やや急		225・227土と切り合う。
228	E-20	(85)	15.0	—	不整	急		227土と切り合う。
229	D-20-21	18.0	—	—	楕円	不明		右土に切られる。
230	F-20	52.0	(50)	—	楕円	不明		231土と切り合う。
231	E-F-20	132.0	(76)	—	楕円	緩やか		90・230土と切り合う。
232	E-20	(65)	(55)	13.0	楕円	緩やか		41-43土と切り合う。

採掘位	置	長さ(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形態	立ち上がり	時	期	備	考
233	E-20	55.0	40.0	11.0	円	緩やか			42土と切り合う。	
234	F-19-20	(76)	(65)	11.0	楕円	急			235・248土と切り合う。	
235	F-19	70.0	60.0	19.8	楕円	緩やか			234・235土と切り合う。	
236	F-19	63.0	45.0	11.1	長楕円	緩やか			240土と切り合う。	
237	F-19	(40)	(30)	—	楕円	不明			約半分が調査区外。	
238	F-19	(32)	30.0	—	楕円	不明			約半分が調査区外。	
239	F-19	(60)	(56)	21.7	楕円	急			38土と切り合う。一部調査区外。	
240	F-19-20	42.0	(40)	—	円	不明			241土と切り合う。	
241	F-19-20	35.0	34.0	23.0	楕円	急			240土と切り合う。	
242	F-19-20	54.0	12.0	6.0	不整	緩やか			243・246土と切り合う。	
243	F-19-20	20.0	18.0	21.0	円	急			242・245土と切り合う。	
244	F-19	21.0	18.0	15.1	楕円	急				
245	F-19-20	34.0	32.0	43.6	楕円	急				
246	F-20	23.0	20.0	28.4	円	急				
247	F-19	24.0	22.0	13.1	円	緩やか			242土と切り合う。	
248	F-21	40.0	40.0	13.6	円	急			81土と切り合う。	
249	F-21	97.0	70.0	36.0	楕円	急	請	b	塵が出土。	
250	F-20-21	72.0	65.0	34.5	楕円	急	請	b	塵が出土。	
251	F-21	(50)	47.0	11.9	楕円	緩やか			塵が出土。	
252	D-21	70.0	50.0	21.6	不整	緩やか				
253	F-22	58.0	48.0	30.0	楕円	緩やか			85土と切り合う。	
254	F-22	67.0	53.0	25.3	楕円	急				
255	F-22	65.0	53.0	7.0	楕円	急			154・256土と切り合う。	
256	F-22	(46)	(40)	—	不明	不明			154・255土と切り合う。	
257	F-22	90.0	84.0	24.7	楕円	やや急			159・259土と切り合う。	
258	F-22	53.0	43.0	30.7	楕円	やや急	請	b	262土と切り合う。	
259	F-22	43.0	40.0	17.5	楕円	急			257土と切り合う。	
260	F-22	45.0	38.0	27.6	楕円	急			ピット状。	
261	E-20	50.0	40.0	9.6	円	急				
262	F-22	46.0	(30)	19.3	楕円	急			86・258土と切り合う。	
263	F-22	32.0	30.0	17.7	楕円	急			259土と切り合う。	
264	F-22	41.0	36.0	13.3	楕円	急				
265	F-21	—	66.0	17.0	楕円	緩やか			147土と切り合う。	
266	F-22	53.0	50.0	11.8	円	急				
267	F・G-22	(100)	(75)	—	楕円	急			162-164・267土と切り合う。	
268	F-22	63.0	60.0	10.6	楕円	急			269土と切り合う。	
269	F-22	30.0	24.0	18.0	楕円	急			268土と切り合う。	
270	F-21	42.0	35.0	21.1	円	急			271土と切り合う。	
271	F-21-22	(50)	(40)	—	楕円	不明			270・272土と切り合う。	
272	F-21-22	(50)	40.0	15.7	楕円	やや急			271土と切り合う。	
273	F-21-22	96.0	55.0	19.6	円	やや急			272土と切り合う。	
274	F-21	72.0	65.0	18.4	円	急			301・305土と切り合う。	
275	F-21	63.0	(50)	23.2	楕円	急			303・405土と切り合う。	
276	F-22	60.0	(50)	26.0	円	急			159土と切り合う。約半分が調査区外。	
277	F-21	63.0	60.0	15.7	楕円	やや急				
278	F-21	90.0	75.0	17.7	楕円	急			279土と切り合う。	
279	F-21	48.0	37.0	14.3	楕円	急	五	口	278土と切り合う。	
280	F-21	(58)	53.0	11.9	円	急			280・281土と切り合う。	
281	F-21	(64)	40.0	9.1	長楕円	緩やか			280土と切り合う。	
282	F-21	58.0	54.0	12.8	円	急			147土と切り合う。	
283	E・F-21	(66)	(66)	1.8	楕円	急			387・388土と切り合う。	
284	E・F-21	(45)	43.0	23.1	円	急			397土と切り合う。	
285	F-21	(55)	53.0	—	円	不明			148・186土と切り合う。	
286	F-21	—	(76)	(15)	不明	不明			149・150土と切り合う。	
287	F-21	60.0	37.0	16.1	楕円	緩やか				
288	F-21	(30)	(24)	—	不明	不明			288-291土と切り合う。	
289	F-21	(45)	(30)	—	楕円	急			288・290・291土と切り合う。	
290	F-21	(50)	(47)	—	円	不明			150・289・291土と切り合う。	
291	F-21	(50)	(42)	—	楕円	不明			288-290土と切り合う。	
292	G-21	30.0	22.0	—	円	不明			404土を切る。	
293	F-21	(63)	(52)	—	楕円	急			294-297土と切り合う。	
294	F-21	26.0	25.0	13.6	円	不明	請	b	293土を切る。	
295	F・G-21	58.0	45.0	22.7	楕円	緩やか			293・297土と切り合う。	
296	F-21	(95)	60.0	—	楕円	不明			149・293・294土と切り合う。	
297	F-21	(70)	(60)	—	不明	急			293・295土と切り合う。	
298	欠番	—	—	—	—	—				
299	F-22	60.0	50.0	12.6	円	急				
300	F-22	47.0	36.0	18.7	楕円	急			300土と切り合う。	
301	F-22	50.0	(48)	13.6	不明	急			274・300・305土と切り合う。	
302	F-22	(58)	(45)	10.0	楕円	緩やか			303土と切り合う。	
303	F-21	(44)	(40)	—	不整	不明			275・302土と切り合う。	
304	欠番	—	—	—	—	—				
305	F-21	36.0	(25)	19.0	楕円	急			274・301土と切り合う。	
306	F-21	74.0	60.0	27.6	楕円	やや急				
307	F-21	97.0	75.0	34.9	楕円	急				
308	F-22	80.0	60.0	5.7	楕円	やや急			161・162・309土と切り合う。	
309	F-22	70.0	55.0	5.6	楕円	やや急			160・161・308土と切り合う。	
310	G-22	(130)	(100)	—	楕円	急	請	b	約半分が調査区外。	
311	G-22	(85)	(72)	—	楕円	不明	請	b	310・312・417土と切り合う。	
312	G-22	60.0	59.0	16.3	不整	急	請	b	311土と切り合う。	
313	G-22	48.0	45.0	31.3	不整	緩やか	請	b	326土と切り合う。	
314	G-22	113.0	110.0	58.8	不整	やや急	請	b		
315	E-21	(35)	30.0	14.4	不整	急			94・316・322土と切り合う。	
316	E-21	(35)	(28)	9.2	不整	急			94・315・332土と切り合う。	
317	E-20	(97)	68.0	—	不整	緩やか			318・319土と切り合う。	
318	E-20	45.0	21.0	10.0	不整	急			317・319土と切り合う。	
319	E-20	34.0	33.0	—	円	急			317・318土と切り合う。	
320	F-21	45.0	40.0	21.3	楕円	やや急				
321	E-20	(70)	30.0	12.3	不整	急			58・317土と切り合う。	
322	E-21	(27)	25.0	3.3	円	不明				
323	E-21	(30)	24.0	6.1	楕円	急			324土と切り合う。	
324	E-21	57.0	45.0	12.5	不整	やや急			323土と切り合う。	
325	E-21	(60)	48.0	5.2	不整	急			324土と切り合う。	
326	G-22	(57)	48.0	34.0	不整	急	請	b	313土と切り合う。	
327	E-20-21	70.0	60.0	7.4	不整	やや急			59土と切り合う。	
328	E-20	(68)	60.0	—	楕円	急			124・329土と切り合う。	

採石位	置長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形態	立ち上がり	時 期	備 考
329 E-20	(80)	(65)	—	不整円	急		50土と切り合う。
330 E-20	76.0	(70)	20.6	楕円	急		336土と切り合う。
331 E-20	(50)	32.0	10.0	不整円	急		330土と切り合う。
332 E-20	32.0	30.0	9.3	不整円	急		333・335土と切り合う。
333 E-20	(35)	32.0	8.7	不整円	急		332・334土と切り合う。
334 E-20	30.0	27.0	6.2	楕円	急		
335 E-20	(30)	(27)	—	円	急		332・333土と切り合う。
336 E-20	35.0	30.0	9.9	不整	緩やか		329土と切り合う。
337 E-20	40.0	36.0	9.9	不整	緩やか		
338 E-20	(74)	65.0	—	不整円	急		36・339土と切り合う。
339 F-20	(76)	(60)	—	不整円	急		340・338土と切られる。
340 F-20	(45)	35.0	—	不整円	急		339土と切り合う。
341 F-20	60.0	55.0	10.1	円	急		
342 F-20	(60)	(40)	13.9	不整円	急		
343 F-19	26.0	23.0	—	不整円	急		37土と切り合う。
344 F-19	(95)	(50)	—	楕円	不明		39土と切り合う。
345 E-19	63.0	58.0	—	円	不明		29・345土と切り合う。一部調査区外。
346 E-19	(50)	43.0	—	楕円	不明		344・346土と切り合う。
347 E-19	(40)	35.0	20.6	長楕円	急		345土と切り合う。
348 E-19	38.0	37.0	19.8	円	急		約半分が調査区外。
349 E-19	(50)	(48)	—	円	不明		大部分が攪乱を受けている。
350 F-19-20	47.0	38.0	—	円	急		
351 F-19	45.0	—	17.1	円	急		38・352土と切り合う。
352 F-19	(32)	30.0	10.7	円	急		351土と切り合う。
353 F-20	43.0	40.0	14.6	円	急		354・355土と切り合う。
354 F-20	(20)	(19)	—	円	不明		355土と切り合う。
355 F-21	(79)	56.0	24.8	楕円	急		150土と切り合う。
356 E-22	50.0	(39)	10.8	楕円	急		357・358土と切り合う。
357 E-22	40.0	38.0	8.2	円	急		356土と切り合う。
358 E-22	(60)	55.0	9.6	円	緩やか		356土と切り合う。
359 E-22	45.0	40.0	11.5	円	急		
360 E-22	60.0	45.0	97.7	円	急		358・361土と切り合う。
361 E-22	63.0	54.0	10.5	楕円	緩やか		360・362土と切り合う。
362 E-22	(60)	(42)	—	楕円	不明		361土と切られる。
363 E-22	(50)	37.0	13.9	楕円	急		361土と切り合う。
364 E-22	70.0	(48)	8.2	楕円	急		366土と切り合う。
365 E-22	45.0	45.0	—	楕円	不明		364・365土と切り合う。
366 E-22	63.0	(52)	19.0	楕円	急		364・365・367土と切り合う。
367 E-22	(60)	(55)	—	円	不明		
368 E-22	(65)	(60)	—	円	不明		369土と切り合う。
369 E-21-22	70.0	50.0	15.9	楕円	緩やか		368・370土と切り合う。
370 E-21	(50)	32.0	5.8	楕円	急		369土と切り合う。
371 E-21	55.0	52.0	10.8	不整円	急		
372 E-21	60.0	58.0	—	円	不明		373土と切られる。
373 E-21	27.0	20.0	9.8	円	急		372土を切る。ビット状
374 E-22	(30)	(20)	—	円	不明		約半分が調査区外。
375 E-22	(40)	(28)	—	楕円	不明		374土と切り合う。約半分が調査区外。
376 E-22	34.0	28.0	15.7	円	緩やか		101土と切り合う。
377 E-21	85.0	72.0	18.3	楕円	急		378土と切り合う。
378 E-21	(48)	35.0	7.8	楕円	急		377土と切り合う。
379 E-21	75.0	64.0	8.4	楕円	急		
380 E-21	55.0	50.0	16.9	円	緩やか		
381 E-21	85.0	75.0	9.3	楕円	緩やか		
382 E-21	58.0	50.0	—	円	急		383土を切る。
383 E-21	12.0	8.0	41.7	楕円	急		382土と切られる。ビット状。
384 E-21	67.0	54.0	—	楕円	不明		385土と切られる。
385 E-21	20.0	18.0	—	円	不明		384土を切る。
386 E-21	63.0	46.0	13.2	楕円	急		387・393土と切り合う。
387 E-21	(62)	48.0	20.5	楕円	急		386・388・392土と切り合う。
388 E-21	78.0	(65)	21.9	楕円	急		387・389土と切り合う。
389 E-21	56.0	(53)	43.0	円	急		390土と切り合う。
390 E-21	(53)	(40)	—	楕円	急		389・390土と切り合う。
391 E-21	50.0	47.0	17.7	円	急		105・390・392土と切り合う。
392 E-21	(80)	(62)	7.1	楕円	緩やか		105・391土と切り合う。
393 E-21	62.0	55.0	9.1	円	緩やか		387土と切り合う。
394 E-21	62.0	(35)	2.7	楕円	急		攪乱を受けている。
395 E-21	50.0	46.0	—	円	急		156・394・396土と切り合う。
396 E-21	23.0	20.0	—	円	急		395土と切り合う。
397 E-F-21	(60)	48.0	—	不整	急		283・284土と切り合う。
398 G-21-22	70.0	58.0	21.8	楕円	急		
399 G-22	67.0	65.0	31.3	円	急		400土と切り合う。
400 G-22	(55)	46.0	9.1	円	急		399・401土と切り合う。
401 G-21-22	47.0	45.0	—	円	急		
402 G-21	85.0	57.0	37.0	楕円	急		418・422土と切り合う。
403 F-22	(57)	42.0	14.2	楕円	急		161土と切り合う。
404 G-21	53.0	40.0	3.7	楕円	急		292・419土と切り合う。
405 F-G-21	(87)	(60)	—	楕円	急		275土と切り合う。
406 F-G-21	68.0	50.0	12.5	楕円	急		
407 F-G-21	58.0	52.0	31.8	不整楕円	急		
408 G-21	(74)	65.0	42.9	楕円	急		170・171・409土と切り合う。
409 G-21	(62)	47.0	—	楕円	不明		408土と切り合う。
410 G-21	73.0	72.0	12.6	円	急		412土と切り合う。
411 G-21	70.0	45.0	—	楕円	不明		412・413土と切られる。
412 G-21	27.0	20.0	(34)	不整	急		411土と切り合う。
413 G-21	23.0	14.0	—	楕円	不明		411・412土と切り合う。
414 G-21	(56)	(34)	—	楕円	不明		415土と切り合う。大部分が調査区外。
415 G-21	90.0	70.0	—	楕円	不明		414・416土と切り合う。約半分が調査区外。
416 G-21	(60)	(56)	—	円	不明		415土と切り合う。一部調査区外。
417 G-22	46.0	35.0	14.7	楕円	急		311土と切り合う。
418 G-21	(56)	(47)	—	不整	急		402・420土と切り合う。
419 G-21	(55)	(43)	—	楕円	急		420土と切り合う。
420 G-21	70.0	(55)	9.9	楕円	緩やか		418・419・421土と切り合う。
421 G-21	50.0	45.0	18.7	楕円	急		
422 G-21	(106)	—	—	楕円	不明		402・423土と切り合う。小ビットが付属。
423 G-21	70.0	60.0	—	楕円	不明		422・424土と切り合う。
424 G-21	22.0	20.0	—	円	不明		423土と切り合う。

採掘位置	置長(m)	延長(m)	深さ(m)	形態	立ち上がり	時期	備考
425 F-22	(35)	33.0	14.3	円	緩やか		403土と切り合う。
426 G-21	95.0	80.0	38.4	楕円	やや急		
427 G-21	(38)	30.0	30.7	円	急		ビット状。
428 G-21-22	(73)	80.0	29.5	長楕円	急		430・431土と切り合う。
429 G-21	32.0	46.0	19.3	楕円	急		
430 G-21-22	(65)	(42)	—	不整	急		428・429・431土と切り合う。
431 G-21	48.0	35.0	29.4	楕円	急		428・430土と切り合う。
432 G-21-22	53.0	65.0	—	楕円	急		約半分が調査区外。
433 G-22	(80)	(80)	15.7	楕円	急		434土と切り合う。約半分が調査区外。
434 G-22	(90)	(80)	17.4	楕円	急		433・435土と切り合う。約半分が調査区外。
435 G-22	(75)	(72)	11.6	楕円	急		434・436土と切り合う。
436 G-22	(40)	(38)	—	円	急		435・437土と切り合う。
437 G-21	(73)	(68)	—	円	不明		大部分が調査区外。
438 D-21	72.0	70.0	71.3	円	急		23土と切り合う。
439 G-22	—	116.0	23.9	楕円	やや急		435・436土と切り合う。一部調査区外。
440 D-21	(73)	52.0	19.6	楕円	急		23土と切り合う。
441 D-21	85.0	67.0	18.4	楕円	急		23土と切り合う。
442 D-21	60.0	50.0	15.5	楕円	急		
443 D-21	50.0	47.0	20.3	円	急		
444 D-21	58.0	55.0	18.3	円	急		
445 D-22	(56)	42.0	20.3	円	急		31土と切り合う。
446 D-22	56.0	54.0	30.5	円	急		18土と切り合う。
447 D-22	68.0	(60)	28.0	円	急		2土と切り合う。
448 D-21	(56)	(40)	18.1	楕円	急		8・10土と切り合う。
449 D-21	38.0	(30)	9.5	円	急		10土と切り合う。
450 D-21	55.0	39.0	16.0	楕円	急		53土と切り合う。
451 D-21	(65)	(50)	11.0	楕円	急		13土と切り合う。
452 D-21	58.0	(50)	16.0	円	やや急		12・24土と切り合う。
453 D-21	(50)	(40)	18.0	円	急		109土と切り合う。
454 D-20	(60)	35.0	25.0	楕円	やや急		108・109土と切り合う。
455 D-21	40.0	30.0	14.0	円	急		18・71土と切り合う。
456 D-20	55.0	(50)	23.0	楕円	急		76土と切り合う。
457 D-20	60.0	56.0	14.0	円	急		456土と切り合う。
458 欠番							
459 D-20	65.0	55.0	14.0	円	急		141土と切り合う。
460 D-20	—	—	—	円	急		140~141・459土と切り合う。
461 D-20	40.0	35.0	10.0	円	急		
462 D-20	25.0	22.0	28.0	円	急		18土と切り合う。ビット状。
463 D-20	45.0	40.0	21.0	円	急		
464 D-20	49.0	42.0	15.0	円	急		
465 D-20	58.0	50.0	17.0	楕円	急		
466 D-20	64.0	(55)	23.0	円	急		15・456土と切り合う。
467 D-20	(90)	60.0	15.0	長楕円	急		15・142土と切り合う。
468 E-20	50.0	40.0	13.0	楕円	急		
469 D-20	—	—	16.0	不明	不明		15・468・476・470土と切り合う。
470 D-20	45.0	35.0	16.0	楕円	急		
471 D-20	(40)	35.0	19.5	円	緩やか		56土と切り合う。
472 D-20	40.0	40.0	11.0	円	急		66・68土と切り合う。
473 D-20	(100)	55.0	10.0	楕円	急		470・474・475土と切り合う。
474 D-20	60.0	(50)	12.0	楕円	急		77・470・475土と切り合う。
475 D-20	103.0	(75)	12.0	楕円	急		468・469・472・476土と切り合う。
476 D-20	35.0	25.0	7.0	楕円	急		
477 D-20	55.0	40.0	29.0	楕円	急		
478 D-20	27.0	20.0	50.0	円	急		
479 D-20	66.0	48.0	33.0	楕円	急		
480 D-20	50.0	43.0	18.0	円	急		
481 D-20	35.0	(30)	26.0	円	緩やか		132・480土と切り合う。
482 D-20	(35)	(35)	26.0	円	急		132・480土と切り合う。
483 E-20	(75)	(70)	23.0	楕円	急		135土の他5基の土坑と切り合う。
484 D E-20	47.0	42.0	16.0	円	急		
485 D-20	50.0	45.0	13.0	円	緩やか		
486 E-20	35.0	30.0	25.0	円	やや急		
487 E-20	55.0	50.0	12.0	円	やや急		133・487土と切り合う。
488 E-20	33.0	33.0	14.0	円	緩やか		117土と切り合う。
489 E-20	55.0	33.0	15.0	楕円	急		
490 E-19	40.0	30.0	17.0	楕円	急		
491 F-20	(65)	35.0	7.7	楕円	緩やか		540・542土と切り合う。
492 F-20	(80)	50.0	10.0	長楕円	急		
493 F-20	68.0	60.0	6.0	楕円	急		193土と切り合う。
494 F-20	(55)	43.0	10.0	楕円	急		193土と切り合う。
495 F-20	70.0	43.0	14.0	楕円	急		97・192土と切り合う。
496 F-20	55.0	30.0	9.0	楕円	急		
497 E F-20	58.0	29.0	24.0	楕円	急		99土と切り合う。
498 E-20	55.0	28.0	20.0	楕円	急		100土と切り合う。
499 E-20	(90)	88.0	7.0	円	急		
500 E-19	55.0	35.0	25.0	楕円	急		
501 F-19	57.0	48.0	30.0	円	急		
502 F-19	(100)	(100)	35.0	長楕円	急		約半分が調査区外。
503 F-19	(70)	(70)	13.0	楕円	急		501・502土と切り合う。
504 F-21	100.0	75.0	21.0	楕円	急		102土と切り合う。
505 F-20	106.0	63.0	28.0	楕円	やや緩やか		90土と切り合う。
506 F-19	(70)	58.0	22.0	楕円	急		一部調査区外。
507 E-20	50.0	50.0	18.0	楕円	急		188・189土と切り合う。
508 E-20	40.0	30.0	35.0	楕円	急		60土と切り合う。
509 E-20	46.0	45.0	15.0	円	急		
510 F-19	(40)	40.0	12.0	円	急		506土と切り合う。
511 F-19	(80)	45.0	—	楕円	やや緩やか		39・506・512土と切り合う。
512 F-19	45.0	43.0	9.0	円	急		
513 E F-19-20	55.0	40.0	13.0	楕円	急		
514 G-20	36.0	36.0	16.0	円	緩やか		
515 G-20	(90)	70.0	25.0	楕円	やや緩やか		
516 欠番							
517 G-20	28.0	25.0	12.0	円	急		167土と切り合う。
518 G-20	35.0	23.0	21.0	円	急		167土と切り合う。
519 G-20	67.0	52.0	15.0	楕円	急		167・515土と切り合う。
520 欠番							

遺跡別位	置	長さ(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形態	立ち上がり	時	期	備	考
521	G-20	(80)	60.0	13.0	楕円	急				522土と切り合う。
522	G-21	(70)	57.0	26.0	楕円	急				521土と切り合う。
523	G-21	50.0	45.0	20.0	円	急				522・534土と切り合う。
524	G-21	65.0	60.0	28.0	円	急				523土と切り合う。
525	G-20	60.0	50.0	24.0	楕円	急				
526	G-21	45.0	40.0	11.0	楕円	急				
527	F G-20 21	105.0	80.0	34.0	楕円	急				
528	G-21	43.0	30.0	21.0	楕円	急				
529	G-21	43.0	38.0	12.0	円	急				
530	G-21	52.0	50.0	21.0	円	急				
531	G-21	(65)	35.0	22.0	長楕円	急				170・172土と切り合う。
532	F-21	50.0	40.0	5.0	円	急				251土と切り合う。
533	穴番									
534	穴番									
535	穴番									
536	穴番									
537	F-20	45.0	35.0	15.0	楕円	急				538土と切り合う。
538	F-20	35.0	(35)	20.0	円	急				538土と切り合う。
539	穴番									
540	F-20	75.0	55.0	18.0	長楕円	急				541・542土と切り合う。
541	穴番									
542	F-20	62.0	36.0	21.0	楕円	急				540・541土と切り合う。
543	F-20	50.0	25.0	9.0	長楕円	緩やか				
544	F-20 21	(65)	30.0	—	長楕円	やや緩やか				543・545土と切り合う。
545	F-21	90.0	88.0	29.0	円	急				544土と切り合う。
546	F-21	(45)	35.0	18.0	楕円	急				547土と切り合う。
547	F-21	50.0	43.0	18.0	円	急				546土と切り合う。
548	F-21	38.0	35.0	9.0	円	急				
549	F-21	50.0	45.0	15.0	円	急				
550	D-21	(48)	35.0	18.4	円	急				56土と切り合う。
551	F-19	38.0	(30)	4.0	円	急				185-187土と切り合う。
552	G-22	(80)	(80)	16.0	円	急				439土と切り合う。
553	D-21	57.0	50.0	10.0	円	急				451・73土と切り合う。
554	D-21	80.0	75.0	20.0	楕円	急				69・70土と切り合う。
555	D-21	(60)	25.0	8.0	不整楕円	急				
556	F-20	72.0	63.0	10.0	円	急				
557	F-20	(200)	113.0	9.0	不整	急				195-198土と切り合う。

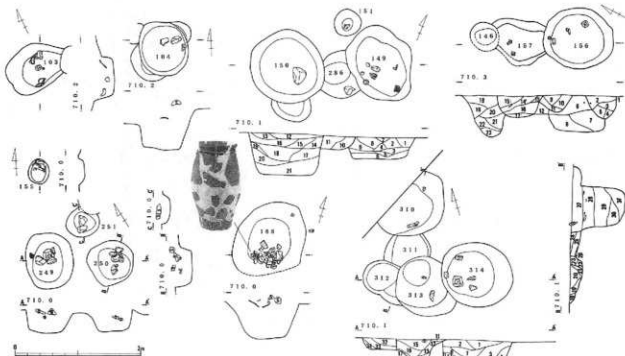
がセットで出土し、火を受けた痕跡が認められ、それぞれ1/3程度が欠失している。また168土では、覆土上層から、やはり火を受けた痕跡が認められる深鉢形土器が出土しており、これらは五領ヶ台Ⅱ式期に属している。

第3項 野外埋壺 (第153図)

調査区の東側で1基認められた。土器は伏せられた状態で発見されたが、掘り込みは確認できなかった。

第16表 E区野外埋壺一覧表

遺構番号	位	置	長さ(m)	短径(m)	深さ(m)	形態	立ち上がり	時	期	備	考
1	G-20		93.0	78.0	0	楕円	なし		ⅤⅡ		逆位で深鉢形土器が出土した。



149・150土

- 1-暗茶褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック多量含む、暗茶褐色土層入)
- 2-暗茶褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック多量含む)
- 3-暗茶褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック多量含む、2層より明い)
- 4-暗茶褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む、2層より暗く3層より明い)
- 5-暗茶褐色土層 (炭化物多量、1m大のロームブロック少量含む)
- 6-暗茶褐色土層 (炭化物多量、1m大のロームブロック少量含む、5層より明い)
- 7-茶褐色土層 (粘土・1m大のロームブロック少量含む)
- 8-暗茶褐色土層 (粘土・炭化物多量、1m大のロームブロック少量含む)
- 9-暗茶褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む、8層より明い)
- 10-暗茶褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 11-暗茶褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む、茶褐色土層入)
- 12-茶褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む、暗茶褐色土層入)
- 13-暗茶褐色土層 (粘土多量、炭化物・1m大のロームブロック少量含む)

146・156・157土

- 1-暗茶褐色土層 (1m大のロームブロック多量含む)
- 2-暗茶褐色土層
- 3-暗茶褐色土層 (1m大のロームブロック多量含む、茶褐色土層入)
- 4-茶褐色土層 (1m大のロームブロック多量含む)
- 5-暗茶褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 6-暗茶褐色土層 (粘土多量、炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 7-暗茶褐色土層 (粘土少量、炭化物・1m大のロームブロック多量含む)
- 8-暗茶褐色土層 (粘土・炭化物多量、1m大のロームブロック多量含む、茶褐色土層入)
- 9-暗茶褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック多量含む)
- 10-暗茶褐色土層 (粘土・炭化物多量、1m大のロームブロック少量含む)
- 11-暗茶褐色土層 (粘土多量、1m大のロームブロック少量含む)
- 12-茶褐色土層 (粘土多量、1m大のロームブロック少量含む)
- 13-暗茶褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック多量含む、茶褐色土層入)
- 14-暗茶褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック多量含む)
- 15-暗茶褐色土層 (粘土・炭化物多量、1m大のロームブロック少量含む)
- 16-暗茶褐色土層 (粘土・炭化物多量、1m大のロームブロック少量含む)
- 17-暗茶褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む、11層より明い)
- 18-暗茶褐色土層 (粘土・炭化物多量、1m大のロームブロック多量含む)
- 19-暗茶褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 20-暗茶褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 21-暗茶褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック多量含む)
- 22-茶褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む)

310・311・312・313・314・326土

- 1-暗茶褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む、暗茶褐色土層入)
- 2-暗茶褐色土層 (炭化物多量、1m大のロームブロック少量含む、茶褐色土層入)
- 3-暗茶褐色土層 (粘土・炭化物多量、1m大のロームブロック少量含む、暗茶褐色土層入)
- 4-暗茶褐色土層 (炭化物多量、1m大のロームブロック多量含む)
- 5-茶褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 6-暗茶褐色土層 (1m大のロームブロック多量含む)
- 7-暗茶褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む、暗茶褐色土層入)
- 8-暗茶褐色土層 (炭化物多量、1m大のロームブロック少量含む)
- 9-暗茶褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック多量含む、暗茶褐色土層入)
- 10-暗茶褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック多量含む)
- 11-暗茶褐色土層 (1m大のロームブロック多量含む)
- 12-暗茶褐色土層 (1m大のロームブロック多量含む、11層より明い)
- 13-暗茶褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 14-暗茶褐色土層 (1m大のロームブロック少量含む)
- 15-暗茶褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック多量含む)
- 16-暗茶褐色土層 (1m大のロームブロック多量含む)
- 17-暗茶褐色土層 (1m大のロームブロック多量含む)
- 18-暗茶褐色土層 (1m大のロームブロック多量含む)
- 19-暗茶褐色土層 (1m大のロームブロック多量含む)
- 20-暗茶褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 21-暗茶褐色土層 (1m大のロームブロック多量含む)
- 22-茶褐色土層 (1m大のロームブロック多量含む、暗茶褐色土層入)
- 23-暗茶褐色土層 (炭化物多量、1m大のロームブロック少量含む)
- 24-暗茶褐色土層 (1m大のロームブロック多量含む、11層より明い)
- 25-暗茶褐色土層 (1m大のロームブロック多量含む、茶褐色土層入)
- 26-暗茶褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む、暗茶褐色土層入)
- 27-暗茶褐色土層 (粘土・炭化物・1m大のロームブロック少量含む)
- 28-暗茶褐色土層 (粘土多量、炭化物・1m大のロームブロック多量含む)
- 29-暗茶褐色土層 (粘土多量、炭化物・1m大のロームブロック多量含む)
- 30-暗茶褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック多量含む)
- 31-暗茶褐色土層 (炭化物・1m大のロームブロック少量含む)

第152図 E区 土坑(2)

第6節 F区の調査概要

本区はB区の東側の台地縁辺部に位置しており、面積は約30㎡である。

発見された遺構は、住居跡が縄文時代前期後半の諸磯b式期1軒である。土坑では、縄文時代前期後半の諸磯b式期と中期後半の曾利式期に属するものが31基認められる。また諸磯式期に属するであろうピットが14基認められ、これらをピット群とした。

第1項 住居跡

住居跡は縄文時代前期後半の諸磯b式期1軒であるが、その大部分が調査区外に位置しており施設などについて不明な点が多い。

第1号住居跡（第154図）

（位置）調査区の南端、I-10グリッドに位置している。

（重複・改築）なし。

（形態・規模）調査区では、全体の約1/5程度しか確認することができなかった。形態はほぼ円形を呈しているものと考えられ、長径は推定で3.10m、現存値で長径2.40mを測る。

（壁・周溝）壁は最深部で15.7cmを測る。

（柱穴）5基認められた。ピット1は径50.0×40.0、深さ57.4cmを測り、支柱穴と考えられる。ピット2～5は補助柱穴と考えられる。

（炉）調査区外に存在する模様。

（時期）縄文時代前期後半の諸磯b式期。

（出土遺物）遺物は極僅かである。

第17表 F区住居跡一覧表

() は現存値

図版番号	座標	位置	重複・改築	平面形	長径(m)	短径(m)	深さ(cm)	炉	柱穴	時代・時期	備考
第154図	1	I-10	なし	円	(3.10)	不明	15.7	不明	1	縄文中期 曾	

第2項 土坑・ピット群・集石遺構（第154図）

32基中1基は住居跡の柱穴に変更したため、土坑として認識できるものは31基である。時期的には諸磯式期に属するものと、曾利式期に属するものがほぼ半数ずつ存在する。

特筆すべきものを以下に挙げる。2土から深鉢形土器の胴上半部が出土している。12土からは多数の礫と共に大型の土器片、そして小型の両耳壺が出土している。この両耳壺は口縁部の約1/3が欠失している。19土は坑底部から礫が集中して分布する。

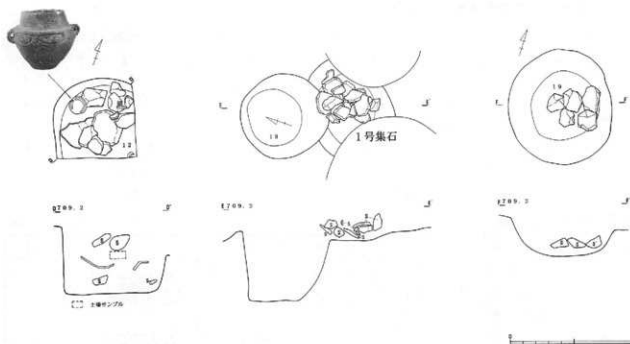
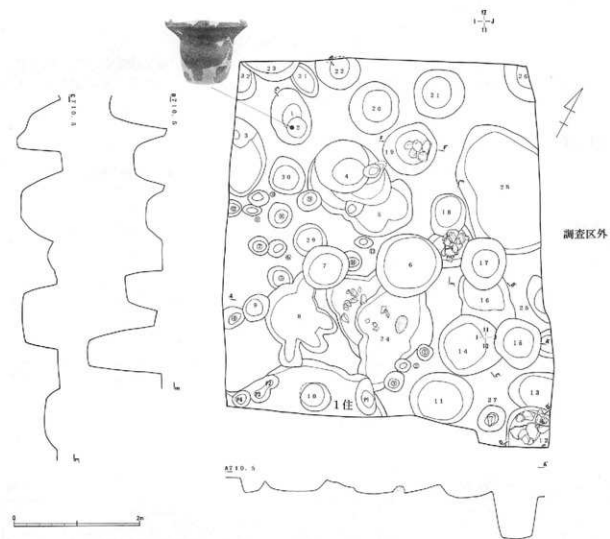
ピット群は第1号住居跡周辺に分布している。規模は径が30～40cm、深さは10～70cmとバラエティーにとんでいる。性格については良くわからない。

集石遺構は調査区中央付近に存在する。礫は円形や板状のもので構成されている。

第18表 F区土坑一覧表

() は現存値および推定値

坑群	位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形態	立ち上がり	時期	備考
1	I-11	(68)	58.0	57.3	楕円	やや緩やか	諸b	2土に切られる。
2	I-11	(57)	50.0	69.6	円	やや急	諸b	1土に切られる。底部の無い、深鉢が出土。
3	I-11	54.0	(43)	40.9	楕円	急	曾V	北側に小ピットあり、西側半分は調査区外。
4	I-11	136.0	118.0	88.8	楕円	やや急	曾V	底部が西側に傾斜し、他の遺溝と切り合う。
5	I-11	108.0	65.0	25.8	隅丸方	急	曾IV	4土に切られる。
6	I-11	102.0	98.0	59.2	円	急	諸b	1集と24土に切られる。
7	I-11	75.0	67.0	65.4	楕円	急	諸b	8・24・29土、ピットに切られる。
8	I-10-11	160.0	126.0	19.1	不整	急	諸b	7・9土、ピットに切られる。
9	I-11	43.0	38.0	21.2	楕円	急	諸b	8土とピットに切られる。
10	欠番							第1号住居跡の柱穴に変更。



第154図 F1区 遺構配置図及び主な遺構

坑跡番号	位置	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	形態	立ち上がり	時期	備考
11	I-10	95.0	76.0	27.8	楕円	急	曾IV	
12	J-10	(107)	(100)	51.5	楕円?	急	曾V	
13	J-10	(94)	(65)	18.0	楕円?	急	諸b	
14	I-J-10-11	100.0	95.0	27.5	楕円	やや急	曾V	東・南部分が調査区外。13土を切る。東側部分が調査区外。12土に切られる。15土に切られ、16土を切る。
15	J-10-11	75.0	75.0	88.1	楕円	急	曾V	14・16土を切る。
16	I-J-11	80.0	75.0	22.2	楕円	急	諸b	14・15・16土に切られる。
17	I-J-11	80.0	70.0	11.0	楕円	急	曾	17・28土・1集を切る。
18	I-11	67.0	55.0	50.2	楕円	急(直線?緩やか)	曾b	1集に切られる。
19	I-11	82.0	80.0	30.4	円	やや急	曾	
20	I-11	80.0	77.0	70.3	円	やや急	曾IV	
21	I-11	78.0	75.0	74.4	円	やや急	曾IV	
22	I-11	(73)	69.0	92.1	円?	やや急	諸b	
23	I-11	(85)	(54)	69.3	楕円?	急	諸b	
24	I-10-11	200.0	185.0	22.7	不整	やや急	曾V	北側が調査区外。31・32土に切られる。北側が調査区外。6・7土を切る。坑内に焼土あり。
25	J-11	85.0	(38)	46.9	楕円	やや緩やか	諸b	東側が調査区外。
26	J-11	(90)	(86)	54.5	楕円	緩やか	曾	北・東側部分が調査区外。
27	I-J-10	42.0	40.0	50.6	円	やや急	曾	
28	I-J-11	220.0	(130)	13.3	不整	やや急	曾	17土に切られる。東側が調査区外。
29	I-11	55.0	50.0	18.0	円	急	諸b	7土に切られる。
30	I-11	65.0	57.0	11.5	円	急	諸b	
31	I-11	62.0	32.0	9.8	長楕円	急	諸b	23土に切られる。
32	I-11	60.0	(27)	23.4	楕円	緩やか	諸b	23土に切られる。西側が調査区外。

第19表 F区ピット一覧表

() は現存値および推定値

番号	位置	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	形態	立ち上がり	時期	備考
1	I-10	25.0	25.0	13.8	円	急	諸	24土に切られる。
2	I-10	27.0	20.0	69.6	楕円	急	諸	24土に切られる。
3	I-10	35.0	30.0	24.4	円	急	諸	24土に切られる。
4	I-11	35.0	32.0	8.3	円	急	諸	9土に切られる。
5	I-11	40.0	35.0	11.4	楕円	急	諸	8土に切られる。
6	I-11	32.0	28.0	11.6	円	急	諸	7ピットに隣接。
7	I-11	32.0	31.0	10.0	円	急	諸	6ピットに隣接。
8	I-11	45.0	40.0	26.5	円	やや緩やか	諸	
9	I-11	40.0	32.0	15.8	円	急	諸	4土に切られる。
10	I-11	32.0	26.0	13.2	楕円	やや緩やか	諸	11ピットに隣接。
11	I-11	30.0	12.0	9.1	楕円	急	諸	10ピットに隣接。
12	I-11	27.0	(19)	9.7	円?	急	諸	西側が調査区外。
13	I-11	30.0	20.0	12.7	楕円	やや急	諸	
14	I-11	32.0	31.0	14.7	円	やや急	諸	7土に切られる。

第20表 F区集石遺構一覧表

() は現存値

遺構番号	位置	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	形態	立ち上がり	時期	備考
1	I-11	(78)	(63)	10.8	楕円	やや急	曾	17-18 6土に切られる。

第7節 G区の調査概要

本区はD区の西側に位置しており、調査面積は約160m²である。

発見された遺構は、住居跡が縄文時代前期後半の諸磯b式期1軒、中期後半曾利式期3軒の合計4軒である。土坑は縄文時代前期後半の諸磯b式期と中期後半の曾利IV・V式期に属するものが84基、近世の所産と考えられる溝1条が認められる。時期的に大別すると縄文時代前期後半の諸磯期、中期後半の曾利期の2期に、生活が営まれていることが理解できる。

第1項 住居跡

トレンチ状の調査区のため、プランの一部分しか確認することができなかった。よって不明な点が多い。特筆すべきものとしては、このような調査でも第1号住居跡から石囲炉が確認できたことである。

第1号住居跡 (第156図)

(位置) 調査区の南端、B-C-25グリッドに位置している。

(重複・改築) なし。

(形態・規模) 調査区では、中央の炉の部分を含む全体の約1/3程度しか確認することができなかった。形態はほぼ円形を呈しているものと考えられ、長径は推定で5.80mを測る。

(壁・周溝) 壁および周溝は存在しない。

(柱穴) 8基認められた。このうちピット1は径73.0×56.0、深さ59.9cm、ピット2は径74.0×69.0、深さ55.8cmを測り、主柱穴と考えられる。ピット3～8は補助柱穴などといった用途が考えられる。

(炉) 石囲炉で、径177.0×170.0、深さ40.0cmを測り、焼土が125.0×70.0cmの範囲で分布する。

(時期) 縄文時代中期末の曾利V時期。

(出土遺物) 覆土がほとんど確認できず、炉内から僅かに出土した資料が主体である。

第2号住居跡 (第155図)

(位置) 調査区の北側、町教委第7号住居跡の外側B-32・33グリッドに位置している。

(重複・改築) 町教委第7号住居跡に切られて、重複している。C区の90住と共通の可能性がある。

(形態・規模) 調査区では、町教委第7号住居跡に切られており、全体の約1/5程度しか確認することができなかった。形態はほぼ円形を呈しているものと考えられ、長径は推定で4.60mを測る。部分的に焼土が存在する。

(壁・周溝) 壁は南東部において僅かに確認することができ、最大で12.6cmを測る。周溝は存在しない。

(柱穴) 壁沿いに6基認められた。機能的な違いについては、不明である。

(炉) 不明。

(時期) 縄文時代中期前半の猪沢式期と考えられる。

(出土遺物) 遺物はほとんど存在しなかった。

町教委第3号住居跡 (第155図)

(位置) 調査区の北側、C-31・32グリッドに位置している。

(重複・改築) なし。

(形態・規模) 調査区では、大部分が町教委の調査区内に位置しており、確認したのは西側の極僅かな部分にすぎなかった。形態は円形を呈するものと考えられ、長径は推定で4m以上を測るものと想定される。

(壁・周溝) 壁は、最大で18.5cmを測る。周溝は存在しない。

(柱穴) 8基認められた。このうちピットは径約40.0×深さ63.8cm、ピット6は径40.0、深さ73.0cmを測り、主柱穴と考えられる。ピット1～3、5、7は補助柱穴などといった用途が考えられる。

(炉) 調査区外に位置するものと考えられる。

(時期) 縄文時代。

(出土遺物) 少量出土したにすぎない。

町教委第8号住居跡 (第154図)

(位置) 調査区の中央、B-31グリッドに位置している。

(重複・改築) なし。

(形態・規模) 調査区では、西側の大部分が調査区外に位置しており、全体の焼く1/5程度しか確認することができなかった。形態はほぼ円形を呈しているものと考えられ、長径は確認できた部分で5.70mを測る。

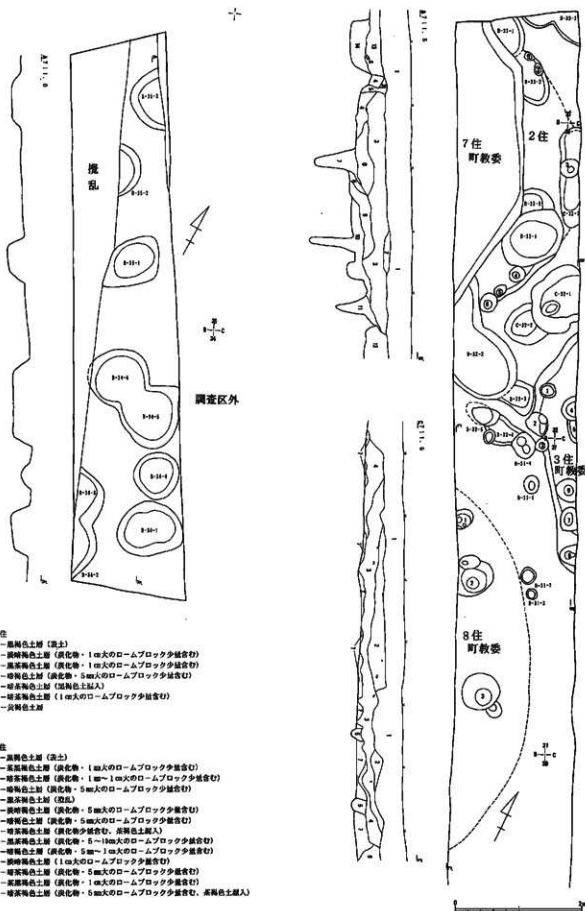
(壁・周溝) 壁は土層断面において確認することができ、最大で20cmを測る。周溝は存在しない。

(柱穴) 3基認められた。このうちピット2は径65.0×57.0、深さ58.5cmで、北側に深さ35.9cmの小ピットが付属する。ピット3は径62.0×60.0、深さ65.6cmを測り、主柱穴と考えられる。ピット1は補助柱穴と考えられる。

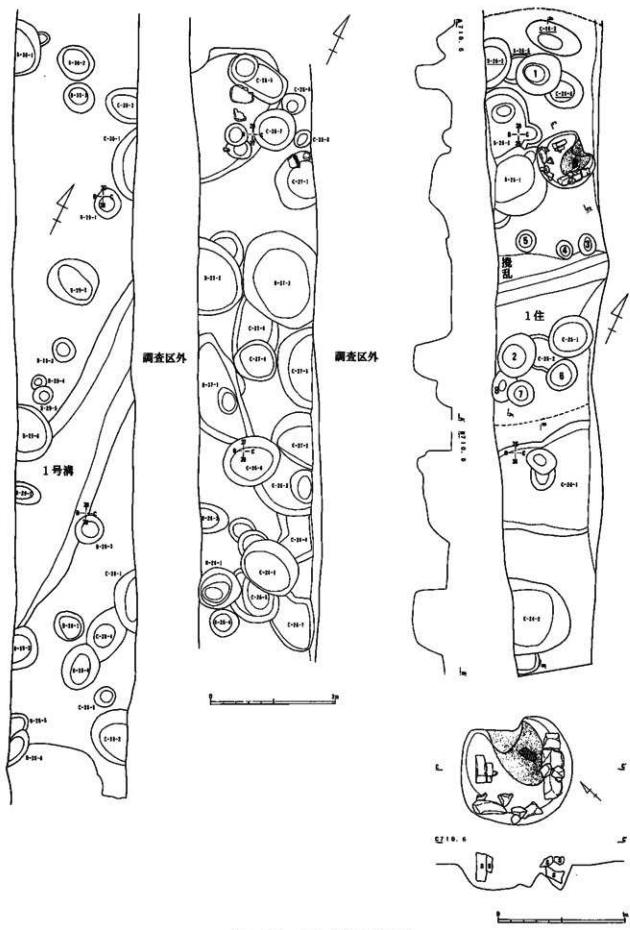
第21表 G区住居跡一覧表

() は現存値

図版番号	階級	位 置	重複・改築	平面形	長径(m)	短径(m)	深さ(cm)	炉	柱穴	時代・時期	備 考
第156図	1	B・C-25	なし	円	(5.80)	不明	不明	石囲	2	縄文中期 曾V	
第155図	2	B-32・33	あり	円	(4.60)	不明	12.6	不明	—	縄文前期 諸b	
第155図	町3	C-31・32	なし	円	(4.00)	不明	18.5	不明	2	縄文	
第155図	町8	B-31	なし	円	(5.70)	不明	20.0	不明	2	縄文中期 曾	



第155図 G区 遺構配置図(1)



第156图 G区 遗构配置图(2)

(炉) 不明。

(時期) 縄文時代中期後半と考えられる。

(出土遺物) 少量出土したにすぎない。

第2項 土坑 (第153~154区)

土坑として認識できるもの84基中、時間的に不明なものが約60%に当たるが、覆土の状態から縄文時代前期の諸磯期に属するものが大半と考えられる。ちなみに時期が判明しているものの内、諸磯式期と首利式期がほぼ半数ずつである。

第22表 G区グリッド土坑一覧表

() は現存値および推定値

土坑番号	直径(cm)	深さ(cm)	形状	立ち上がり	時期	備考
1 C-24-1	180.0	145.0	楕円	なし	Jb	中央に楕形のピットを穿つ。
2 C-24-2	120.0	90.0	楕円	緩やか	Jb	C-24-3土を切る。
3 C-24-3	97.0	30.0	楕円	なし	Jb	C-24-6土に切られる。
4 B-25-1	110.0	80.0	楕円	緩やか	VV	B-26-6・B-25-2土を切る。
5 B-25-2	82.0	52.0	楕円	なし	VV	B-25-1土に切られる。
6 C-25-1	75.0	65.0	円	なし	VV	
7 C-25-2	43.0	43.0	円	なし	Jb	
8 B-26-1	70.0	68.0	楕円	緩やか	Jb	11位のピットとC-25-1土に切られる。
9 B-26-2	43.0	43.0	円	なし	Jb	オラスが残り、中央で落ち込む。
10 B-26-3	48.0	43.0	楕円	緩やか	Jb	B-26-5土を切る。
11 B-26-4	43.0	43.0	円	なし	Jb	
12 B-26-5	47.0	40.0	楕円	緩やか	VV	11位ピット、B-26-3土に切られる。
13 B-26-6	112.0	98.0	円	なし	VV	B-25-1土に切られ、11位のピットを切る。
14 B-26-7	140.0	111.0	楕円	なし	VV	C-26-6土に切られる。
15 C-26-1	100.0	78.0	楕円	なし	Jb	C-26-4・5・9土を切る。
16 C-26-2	47.0	35.0	楕円	緩やか	VV	
17 C-26-3	110.0	110.0	楕円	緩やか	VV	
18 C-26-4	70.0	65.0	楕円	なし	Jb	C-26-6、C-27-3土に切られる。
19 C-26-5	90.0	78.0	楕円	なし	VV	C-26-1・3土に切られる。
20 C-26-6	100.0	78.0	楕円	緩やか	VV	C-26-1・7土、B-26-1土と切り合う。
21 C-26-7	90.0	75.0	楕円	なし	VV	C-26-3、B-27-1土を切る。
22 C-26-8	70.0	57.0	楕円	緩やか	VV	11位のピットに切られる。
23 C-26-9	90.0	90.0	楕円	なし	VV	C-26-1土に切られ、C-26-7土を切る。
24 B-27-1	117.0	77.0	楕円	なし	VV	中央の小ピット、C-26-6土に切られる。
25 B-27-2	125.0	74.0	楕円	なし	Jb	B-27-3土を切る。
26 B-27-3	65.0	30.0	楕円	緩やか	Jb	
27 C-27-1	95.0	63.0	楕円	緩やか	Jb	
28 C-27-2	90.0	57.0	楕円	緩やか	Jb	
29 C-27-3	107.0	130.0	楕円	緩やか	Jb	
30 C-27-4	107.0	62.0	楕円	緩やか	Jb	
31 C-27-5	127.0	55.0	楕円	緩やか	VV	
32 C-27-6	100.0	72.0	楕円	緩やか	VV	
33 C-27-7	93.0	64.0	楕円	緩やか	VV	
34 B-28-1	50.0	45.0	楕円	なし	Jb	
35 B-28-2	40.0	37.0	楕円	なし	Jb	
36 B-28-3	115.0	170.0	楕円	なし	Jb	
37 B-28-4	58.0	45.0	楕円	なし	Jb	
38 B-28-5	42.0	32.0	楕円	なし	Jb	
39 B-28-6	40.0	32.0	楕円	なし	Jb	
40 C-28-1	102.0	53.0	楕円	緩やか	Jb	C-28-5・6土に切られる。
41 C-28-2	87.0	58.0	楕円	緩やか	Jb	C-28-4土を切る。
42 C-28-3	47.0	46.0	楕円	緩やか	Jb	C-28-5土に切られる。
43 C-28-4	90.0	57.0	楕円	緩やか	Jb	C-28-5土を切る。
44 C-28-5	40.0	33.0	楕円	なし	Jb	C-28-5土に切られる。
45 C-28-6	37.0	32.0	楕円	なし	Jb	C-28-5土を切る。
46 C-28-7	70.0	66.0	楕円	緩やか	Jb	C-28-5土を切る。
47 C-28-8	35.0	32.0	楕円	なし	Jb	C-28-5土を切る。
48 B-29-1	48.0	42.0	楕円	緩やか	Jb	
49 B-29-2	90.0	68.0	楕円	緩やか	Jb	
50 B-29-3	38.0	37.0	楕円	なし	Jb	
51 B-29-4	44.0	35.0	楕円	なし	Jb	
52 B-29-5	32.0	28.0	楕円	なし	Jb	
53 B-29-6	92.0	55.0	楕円	緩やか	Jb	B-29-4土を切る。溝に切られる。
54 B-29-7	42.0	34.0	楕円	なし	Jb	溝に切られる。
55 B-30-1	87.0	60.0	楕円	なし	Jb	北側に小ピット。
56 B-30-2	60.0	54.0	楕円	なし	Jb	
57 C-30-1	48.0	48.0	楕円	なし	Jb	
58 C-30-2	110.0	70.0	楕円	緩やか	Jb	
59 C-30-3	52.0	57.0	楕円	緩やか	Jb	
60 B-31-1	30.0	25.0	楕円	なし	Jb	
61 B-31-2	47.0	35.0	楕円	なし	Jb	
62 B-31-3	18.0	17.0	楕円	なし	Jb	
63 B-31-4	38.0	35.0	楕円	緩やか	Jb	
64 B-32-1	110.0	80.0	楕円	緩やか	Jb	B-32-4土を切る。
65 B-32-2	110.0	100.0	楕円	緩やか	Jb	B-32-5土を切る。
66 B-32-3	90.0	52.0	楕円	緩やか	Jb	B-32-2土を切る。
67 B-32-4	50.0	50.0	楕円	なし	Jb	B-32-4土を切る。
68 B-32-5	55.0	30.0	楕円	なし	Jb	B-32-5土、B-31-4土に切られる。オーバーhang。
69 B-32-6	51.0	30.0	楕円	なし	Jb	B-32-4土を切る。
70 C-32-1	90.0	70.0	楕円	緩やか	Jb	C-32-1土に切られる。
71 C-32-2	70.0	60.0	楕円	緩やか	Jb	C-32-2土に切られる。
72 C-32-3	150.0	90.0	楕円	なし	Jb	C-32-1土に切られる。
73 B-33-1	67.0	42.0	楕円	なし	Jb	
74 B-33-2	42.0	42.0	楕円	なし	Jb	
75 B-33-3	69.0	44.0	楕円	なし	Jb	
76 B-33-4	59.0	47.0	楕円	なし	Jb	
77 B-34-1	103.0	85.0	楕円	緩やか	Jb	B-33-2土を切る。町5区に隣接か?
78 B-34-2	110.0	40.0	楕円	緩やか	Jb	B-33-1土に切られる。
79 B-34-3	110.0	45.0	楕円	緩やか	Jb	B-34-3土を切る。
80 B-34-4	74.0	72.0	楕円	緩やか	Jb	B-34-2土に切られる。
81 B-34-5	110.0	100.0	楕円	緩やか	Jb	B-34-6土に切られる。
82 B-34-6	85.0	85.0	楕円	なし	Jb	B-34-5土を切る。
83 B-35-1	110.0	75.0	楕円	緩やか	Jb	
84 B-35-2	110.0	50.0	楕円	なし	Jb	南西傾斜地。

第3項 溝 (第156区)

確認されたのは1条である。

(位置) 調査区の南端、B・C-28-29グリッドに存在する。

(形態・規模) 本溝はD区で確認されたものと同じ溝と考えられる。北東から南西方向に流れを持ち、調査区外に抜けている。規模は幅が最大で約2m、深さは現存値で20~30cmを測る。

(時期) 覆土は黒褐色を基調としており、近世以降と考えられる。

(出土遺物) なし。

第8節 H区の調査概要

本区はE区の北側の台地縁辺部に位置し、面積は約30m²である。

発見された遺構は、住居跡が縄文時代前期後半の諸磯b式期1軒である。土坑は縄文時代前期後半の諸磯b式期に属するものが4基認められる。調査区の大部分が、攪乱によって破壊されている。

第1項 住居跡

住居跡は縄文時代前期後半の諸磯b式期1軒であるが、確認された大部分が攪乱を受けている。

第1号住居跡（第155図）

（位置）調査区の西端、L-23・24グリッドに位置している。

（重複・改築）なし。

（形態・規模）調査区では南側の大部分が攪乱されており、全体の約1/2程度しか確認することができなかった。形態はほぼ円形を呈しているものと考えられ、長径は推定で3.40m、現存値で長径3.15mを測るものと考えられ、小型である。

（壁・周溝）壁は最深部で29.2cmを測る。周溝は東側で認められ、最深部で16.7cmを測る。

（柱穴）不規則であるが、12基認められた。ピット10は長径47.0×短径27.0×深さ45.3cmを測り、主柱穴と考えられる。ピット5・6・11は深さが25cm弱を測り、それに次ぐ規模を持つ。その他のものは20cm未満である。

（炉）攪乱部分に存在する模様。

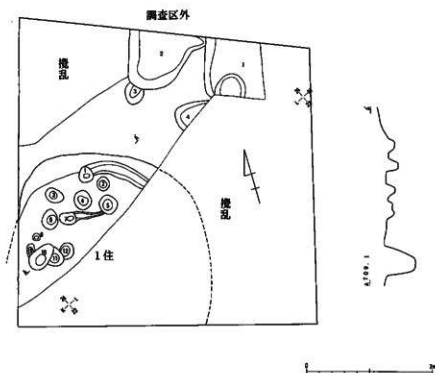
（時期）縄文時代前期後半の諸磯b式期。

（出土遺物）少量の遺物が出土したにすぎない。

第23表 H区住居跡一覧表

（ ）は現存値

図版番号	部割	位置	重複・改築	平面形	長径(m)	短径(m)	深さ(cm)	炉	主柱穴	時代・時期	備考
第157図	1	L-23・24	なし	円	(3.15)	不明	29.2	不明	1	縄文前期・諸b	



第157図 H区 遺構配置図

第2項 土坑（第157図）

発見された4基はすべて攪乱や重複のため、原形を留めていない。時期的にはすべて諸磯b式期に属している。

第24表 H区土坑一覧表

() は現存値および推定値

坑跡位置	置長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形態	立ち上がり	時期	備考
1 L・M-24	(95)	(88)	21.4	不明	急	諸b	西側にピット。大部分が攪乱で破壊されている。
2 L-24	(120)	(90)	23.8	不整	緩やか	諸b	3土に切られる。北側が攪乱されている。
3 L-24	33.0	30.0	10.9		円や緩やか	諸b	2土を切る。
4 L-24	62.0	32.0	14.0	不明	急	諸b	南側が攪乱されている。

第Ⅳ章 酒呑場遺跡の概観と集落変遷

第1節 集落と住居の特徴

酒呑場遺跡は、南側に馬蹄形に張り出す舌状地上（第5図）に幾つかの環状集落が分布するものと考えられる。2次にわたる発掘調査から縄文時代堅穴住居跡177軒（町教育委調査分10軒を含む・改築分11軒を除く）、土坑約4100基などが発見された。縄文時代のものが9割以上を占め、中でも中期に位置づけられるものが大半であり、五領ヶ台期～井戸尻期の前半段階と曾利期後半段階とでは集落の分布が大きく南北に二分される。中期前半段階では主にC区に分布しており、第158図に示した第Ⅱ期以降に住居跡が集中化している。さらに細分化した第159図を見ると五領ヶ台式期ではC区からD区にかけての東側台地縁部に集中する傾向が認められるが、次の沼沢式期になると北西側台地縁部に展開する状況が確認でき、この段階から集落が環状化するものと考えられ、以降井戸尻式期で最盛期を迎える。以後北側のC・D区から南側のA・B区に集落は移動してしまいが、集落の中心部に至る部分の調査を行っていないので確証はないが、立会い調査などの結果から恐らく該期の集落も環状化するものと考えられる。C区ではちょうど環状集落の縁辺に位置する居住域、その内側に土坑群、そして中心部には小ピット群が存在し広場的な様相を示しており、典型的な在り方を示していることがわかる。また調査は行っていないが、東側の台地斜面部にはゴミ捨て場遺構が存在するものと考えられる。

中期以外では、早期の遺物が出土しているが遺構は認められない。前期では、東側の台地縁部C区の南東部からA区にかけて住居跡が南北に分布している。後期ではA区で僅かに1軒のみであるが、初頭段階の住居跡が認められ、縄文時代前期から後期にかけての長期的な定住が見て取ることができる。ちなみに後期後半以降については、長坂上条遺跡の発掘調査結果から、更に台地南側の低地部に移動しているようである。

再び地上に人々の営みが見られるのは古墳時代前期であり、C・D・E区の台地東側縁部から住居跡と共に掘立柱建物跡が発見されている。以後の時代では、台地の南側斜面部で中世の五輪等などが分布するほか、近世と考えられる溝、そして太平洋戦争に伴う遺構と続いている。

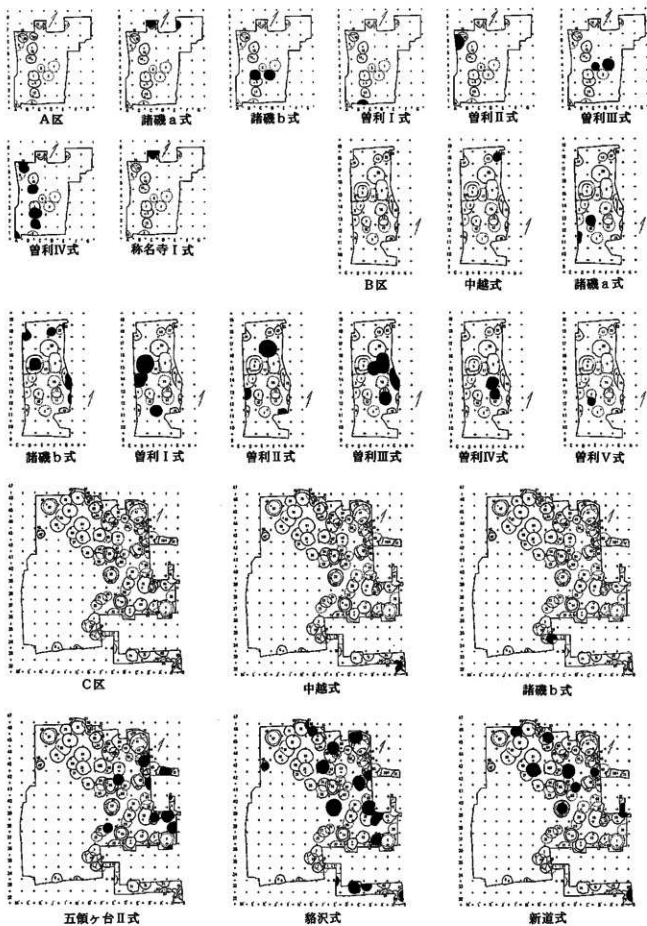
○住居跡の概要

発見された住居跡は177軒の内、162軒が縄文時代のもので、その内訳は前期22軒、中期134軒、後期1軒、時期不明5軒である。このほか立会い調査などによる遺構確認などでも10数件確認している。また、黒色土層中に形成された遺構については、表土削除段階で破壊してしまった可能性もあるが、床床炉と考えられるものが遺構確認中に3地点認められた。

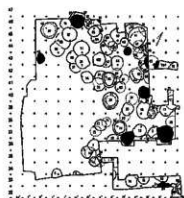
○時期別住居跡軒数

縄文時代の住居跡は台地の縁部に多くの住居跡が分布しており、土坑群を中心にして環状に住居跡が巡り居住域を形成している。中期前半段階では、遺構の切り合い関係を見ると、井戸尻式期でほぼ同時期と考えられるものと重複するものがあった。

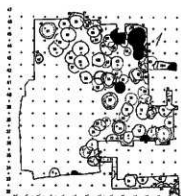
時期別では、第158・159図を参考にすると前期前半の中越式期に集落化した後、前期後半の諸磯a・b式期に大規模化し、前期末業段階で土坑しなくなってしまう。中期初頭から中葉にかけては五領ヶ台Ⅱ・沼沢・新道・藤内Ⅰ・Ⅱ・井戸尻Ⅰ～Ⅲ式期で爆発的に増大する。中期後葉以降後期初頭段階にかけては減少傾向に向かってしまう。



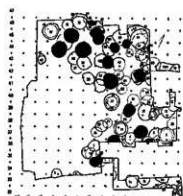
第158图 酒吞場遺跡A区·B区·C区住居跡分布图



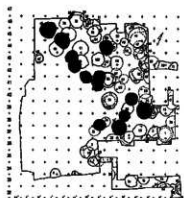
藤内Ⅰ式



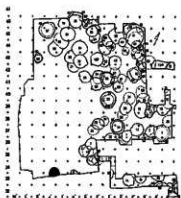
藤内Ⅱ式



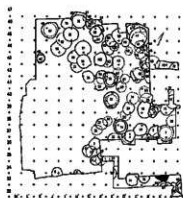
井戸尻Ⅰ・Ⅱ式



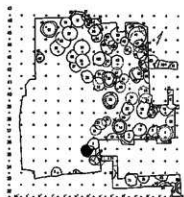
井戸尻Ⅲ~曾利Ⅰ式



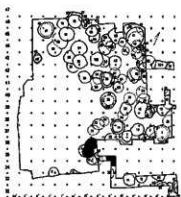
曾利Ⅰ式



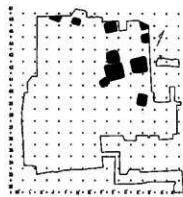
曾利Ⅲ式



曾利Ⅳ式



曾利Ⅴ式



古墳時代前期初頭



D区



踏碓b式



五領ヶ台Ⅱ式



船沢式



古墳時代前期初頭

第159图 酒呑場遺跡C区・D区住居跡分布图

ちなみに増築が著しいのは中期中葉の井戸尻式期である。

○住居跡の分布

縄文時代の住居跡162軒の分布状況を概観すると、北側の台地上に構築された住居群と南側の舌状に張り出した台地上に構築された住居群から構成され、これらは環状化した集落構造を持つ。これとは別に東側の台地縁部には環状化される以前の集落が構築されており、大きく三群から構成されている。

また、古墳時代の集落は前述のとおり、北側台地縁部から東部にかけて15軒の居住跡が分布している。

○住居跡の出入り口について

縄文時代のものである、炉や埋壺の位置関係から「八ヶ岳おろし」を避けるかのように、全体的に南を意識した構造となっているように感じられる。

第2節 住居の時期変遷

遺構の所属時期については、住居跡の場合、埋壺や埋壺炉など直接伴う施設や、覆土の下層など床面に近い遺物で主体的な土器型式により、その帰属を決定した。しかし例外的なものとして、C区では猪沢期の住居跡で、埋壺炉の炉体土器に五領ケ台式のものをもちいた特殊な例もあるが、こういったものを除いては、基本的に住居が使用されていた時期にそう大差ないものとして考えたことを付け加えておく。

第160図に示したように、ここでは縄文時代から古墳時代にかけての住居跡の変遷を便宜上、以下のように大別した。対象としたのは、当センターで調査を実施した171軒分（不明4軒は除く）について述べることにする。

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| I 期 縄文時代前期（中越・諸磯式期） | II 期 縄文時代中期前葉（五領ケ台～新道式期） |
| III 期 縄文時代中期中葉（藤内・井戸尻式期） | IV 期 縄文時代中期後葉（曾利式期） |
| V 期 縄文時代後期前葉（称名寺式期） | VI 期 古墳時代前期初頭 |

[I 期] 本遺跡で住居跡が発見される最も古い時期は前期前半の中越式期で、B・C区に各1軒認ずつめられる。以後、後半の諸磯a式ではA・B区から合計4軒、諸磯b式ではE区を除いた全ての区から合計15軒、それと該期のもので諸磯式と考えられるが細分できないものが1軒で、合計20軒を数えることができる。ちなみに諸磯c式では、土坑しか発見されていない。

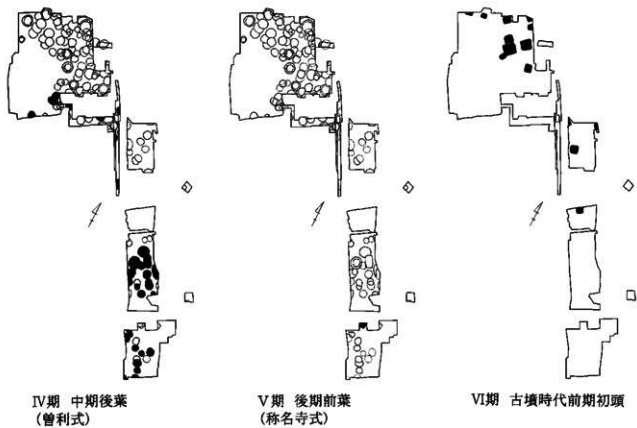
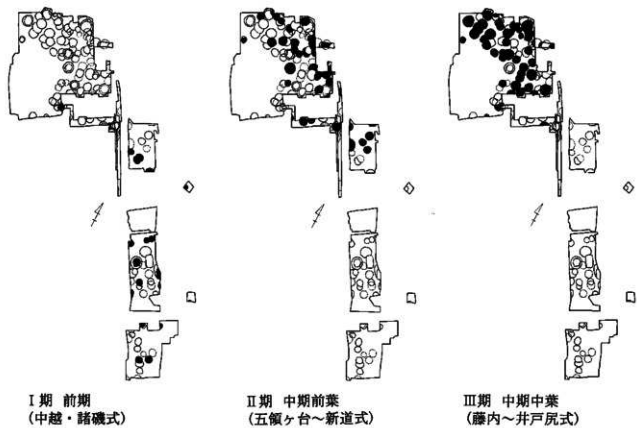
[II 期] C・D・G区の台地北側縁部に集中して見られる。五領ケ台Ⅱ式では16軒存在するが、第160図に示したように、主に北東側縁部に集中することがわかる。後に続く猪沢式では20軒、新道式では9軒存在し、前述のように猪沢式期から北側の集落が環状化し始める状況が、第159図から把握することができる。

[III 期] 該期のもは合計で51軒で、C区のみ分布する特徴がある。その内訳は、藤内Ⅰ式11軒、藤内Ⅱ式8軒、該型式の細分不明2軒、井戸尻Ⅰ式2軒、井戸尻Ⅱ式6軒、井戸尻Ⅲ式19軒、該型式の細分不明3軒となり、井戸尻式の終末段階で最盛期を迎えている。

[IV 期] 本期では、全体的に台地の南側に移動する傾向がある。E区で住居が認められないため、場合によるとC・G区の南側を中心とした小集落と、A・B区を中心とするやや大きめの集落とに分割することができるかもしれない。該期のもは合計で33軒で、その内訳は、曾利Ⅰ式6軒、曾利Ⅱ式4軒、曾利Ⅲ式6軒、曾利Ⅳ式9軒、曾利Ⅳ～Ⅴ式1軒、曾利Ⅴ式5軒、該型式の細分不明2軒で、曾利Ⅵ式に最盛期を示していることが分かり、以後の時期では減少傾向となる。

[V 期] 南端に位置するA区から、称名寺Ⅰ式期の住居跡が1軒発見された。後期以降では、主に長坂上条遺跡に代表されるように台地下の低地部へ移動しているようであるが、加曾利B式期と考えられる集石遺構も存在することから、周辺に該期の住居跡の存在も示唆される。遺物では、称名寺式土器以外の後期や晩期の土器も確認されている。

[VI 期] 本期的ものは、C・D・E区から住居跡が合計15軒発見されている。またそれ以外にも掘立柱建物跡が4棟存在する。遺構は台地北側から北東側縁部にかけて分布し、住居跡の主軸方向から同時期でもⅢ～Ⅳ期程度に分類できるようである。



第 160 図 酒呑場遺跡時期別住居跡分布図

第V章 まとめ

調査面積は約6000㎡と多くはないが、遺構の密度が非常に高く、その結果は前章で述べたとおりである。遺物は二次にわたる調査で、40ℓ入りのプラ箱で700箱分におよび現在整理作業に追われている。今回の報告は紙面の都合上、遺構についてのみであり、遺物については土器の概要程度しか紹介できなかったが残念であるが、今回の報告に期待して頂きたい。

酒呑場遺跡は、縄文時代前期と中期を中心に人々が生活を営んだ割合と大きな集落で、特に台地北側のC区に見られる集落は、直径約200mを越える中期前半代に長期的に営まれた環状を呈する大集落で、調査できたのは全体の約6分の1程度であり、その全体の規模は今回の調査から想像すると、この前半代の集落のみで住居跡が約600軒にも達することがわかる。馬蹄形に張り出した台地上には今回確認された集落以外に、西側部分にも存在することが予想され、未調査部分を含めた酒呑場遺跡全体では住居跡が数千軒存在するものと想定される。住居跡と貯蔵・墓域、そして広場といった規格性を持ったムラ造り、継続性を持った営み、そして周辺地域との交流や生活の豊かさが窺えるような多種多様な遺物から、甲斐と信濃を結ぶ物流拠点と考えられ、八ヶ岳山麓地域の拠点集落間における位置付けを考える上でとても興味深いものである。多くの課題や問題点が山積しているが、次編以降で遺物についての報告が完了次第考察して行こうと考えている。今年、平成8年度には第3次調査としてC区の南側に位置するI区の発掘調査を行っており、今後多くの新発見事項が増大していくものと考えられる。

現在、遺物圃に向けて細々と整理作業を進めており、刊行していく方向で努力しております。今回はここに遺構編の報告書を刊行する運びとなり、末筆ではありますが、いろいろ苦しい事情の中で発掘調査に従事して下さった方々、そして整理作業にあたって下さった方々にお礼を申し上げますと共に、関係諸機関の方々には多大なるご協力・ご指導を賜ったことを厚く御礼申し上げます次第であります。



附編1 酒呑場遺跡から出土した配石遺構に残存する脂肪の分析

帯広畜産大学生物資源化学科
(株)ズコーシャ総合科学研究所

中野益男
中野寛子、長田正宏

動物物を構成している主要な生体成分にタンパク質、核酸、糖質（炭水化物）および脂質（脂肪・油脂）がある。これらの生体成分は環境の変化に対して不安定で、圧力、水分などの物理的作用を受けて崩壊してゆくだけでなく、土の中に住んでいる微生物による生物的作用によっても分解してゆく。これまで生体成分を構成している有機質が完全な状態で遺存するのは、地下水位の高い低地遺跡、泥炭遺跡、貝塚などごく限られた場所に過ぎないと考えられてきた。

最近、ドイツ新石器時代後期にバター脂肪が存在していたこと¹、古代遺跡から出土した約2千年前のトウモロコシ種子²、約5千年前のハーゼルナッツ種子³に残存する脂肪の脂肪酸は安定した状態で保持されていることがわかった。このように脂肪は微量ながら比較的安定した状態で千年・万年という長い年月を経過しても変化しないで遺存することが判明した⁴。

脂質は有機溶媒に溶けて、水に溶けない成分を指している。脂質はさらに構造的な違いによって誘導脂質、単純脂質および複合脂質に大別される。これらの脂質を構成している主要なクラス（種）が脂肪酸であり、その種類、含量ともに脂肪中では最も多い。脂肪酸には炭素の鎖がまっすぐに延びた飽和型と鎖の途中に二重結合をもつ不飽和型がある。動物は炭素数の多い飽和型の脂肪酸、植物は不飽和型の脂肪酸を多く持つというように、動植物の種ごとに固有の脂肪酸を持っている。ステロールについても、動物性のものはコレステロール、植物性のものはシトステロール、微生物はエルゴステロールというように動植物に固有の特徴がある。従って出土遺物の脂質の種類およびそれらを構成している脂肪酸組成と現生動植物のそれと比較することによって、目に見える形では遺存しない原始古代の動植物を判定することが可能である。

このような出土遺構・遺物に残存する脂肪を分析する方法を「残存脂肪分析法」という。この「残存脂肪分析法」を用いて、酒呑場遺跡から出土した配石遺構の性格を解明しようとした。

1. 土壌試料

山梨県北巨摩郡長坂町に所在する酒呑場遺跡は縄文時代前期～後期の長期に渡って生活が営まれていたものと推定されている。この遺跡の調査区A区から出土した8基の配石遺構のうちの2基の遺構内の土壌試料を分析した。遺跡内での遺構の配置状況と各遺構内での試料採取地点を附図及び第25・26図などに示す。第2号配石遺構の上層から下層の順に試料No1～No6を、第3号配石遺構の上層から下層の順にNo7～No9を、それぞれ採取した。

2. 残存脂肪の抽出

土壌試料196～455gに3倍量のクロロホルム-メタノール（2：1）混液を加え、超音波浴槽中で30分間処理し残存脂肪を抽出した。処理液を濾過後、残渣に再度クロロホルム-メタノール混液を加え、再び30分間超音波処理をする。この操作をさらに2回繰り返して残存脂肪を抽出した。得られた全抽出溶媒に1%塩化バリウムを全抽出溶媒の4分の1容量加え、クロロホルム層と水層に分配し、下層のクロロホルム層を濃縮して残存脂肪を分離した。

残存脂肪の抽出量を表1に示す。抽出率は0.0010～0.0050%、平均0.0033%であった。この値は全国各地の遺跡から出土した土壌、石器、土器等の試料の平均抽出率0.0010～0.0100%の範囲内のものであった。

残存脂肪をケイ酸薄層クロマトグラフィーで分析した結果、脂肪は単純脂質から構成されていた。このうち遊離脂肪酸が最も多く、次いでグリセロールと脂肪酸の結合したトリアシルグリセロール（トリグリセリド）、ステロールエステル、ステロールの順に多く、微量の長鎖炭化水素も存在していた。

3. 残存脂肪の脂肪酸組成

分離した残存脂肪の遊離脂肪酸とトリアシルグリセロールに5%メタノール性塩酸を加え、125℃封管中で2時間分解し、メタノール分解によって生成した脂肪酸メチルエステルを含む画分をクロロホルムで分離し、さらにジアゾメタンで遊離脂肪酸を完全にエステルメチル化してから、ヘキササン-エチルエーテル-酢酸(80:30:1)またはヘキササン-エーテル(85:15)を展開溶媒とするケイ酸薄層クロマトグラフィーで精製後、ガスクロマトグラフィーで分析した。

残存脂肪の脂肪酸組成を図2に示す。残存脂肪から10種類の脂肪酸を検出した。このうちパルミチン酸(C16:0)、ステアリン酸(C18:0)、オレイン酸(C18:1)、リノール酸(C18:2)、アラキジン酸(C20:0)、エイコサモノエン酸(C20:1)、ペベン酸(C22:0)、リグノセリン酸(C24:0)の8種類の脂肪酸をガスクロマトグラフィー—質量分析により同定した。

各試料中での脂肪酸組成パターンを見ると、第2号配石遺構の試料No5を除くすべての試料がほぼ同一パターンを示した。このうち炭素数18までの中級脂肪酸の分布状況は、主要な脂肪酸がオレイン酸で、次いでパルミチン酸が多いものであった。試料No5では主要な脂肪酸がパルミチン酸で次いでオレイン酸が多かった。一般に考古遺物にはパルミチン酸が多く含まれている。これは長い年月の間にオレイン酸、リノール酸といった不飽和脂肪酸の一部が分解し、パルミチン酸が生成するため、主として植物遺体の土壌化に伴う腐植体から来していると推定される。オレイン酸の分布割合の高いものとしては、動物性脂肪と植物性脂肪の両方が考えられ、植物性脂肪では特に根、茎、種子に多く分布するが、動物性脂肪の方が分布割合は高い。ステアリン酸は動物脂肪や植物の根に比較的多く分布している。リノール酸は主として植物種子・葉に多く分布する。

一方高等動物、特に高等動物の臓器、脳、神経組織、血液、胎盤に特徴的にみられる炭素数20以上のアラキジン酸、ペベン酸、リグノセリン酸などのそれら3つの合計含有率が試料No1とNo5で約14%と20%、他のすべての試料中で約6~11%であった。通常の遺跡出土土壌中の高級脂肪酸含有率は約4~10%であるので、試料No1とNo5での高級脂肪酸含有量はやや多く、他のすべての試料中でのそれは通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並であった。高級脂肪酸含有量が多い場合としては、試料中に高等動物の血液、脳、神経組織、臓器等の特殊な部分が含まれている場合と、植物の種子・葉などの植物体の表面を覆うワックスの構成成分が含まれている場合がある。

以上、酒呑場遺跡の試料中では第2号配石遺構の試料No5を除くすべての試料中で主要な脂肪酸はオレイン酸で、次いでパルミチン酸が多いパターンを示すことがわかった。試料No5では主要な脂肪酸がパルミチン酸で、次いでオレイン酸が多かった。高級脂肪酸は試料No1とNo5にやや多かった他は、すべて通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並であることがわかった。

4. 残存脂肪のステロール組成

残存脂肪のステロールをヘキササン-エチルエーテル-酢酸(80:30:1)を展開溶媒とするケイ酸薄層クロマトグラフィーで分離・精製後、ピリジン-無水酢酸(1:1)を窒素気流下で反応させてアセテート誘導体にしてから、もう1度同じ展開溶媒で精製し、ガスクロマトグラフィーにより分析した。残存脂肪の主なステロール組成を図3に示す。残存脂肪から8~19種類のステロールを検出した。このうちコプロスタノール、コレステロール、エルゴステロール、カンベステロール、スチグマステロール、シトステロールなど8種類のステロールをガスクロマトグラフィー—質量分析により同定した。

各試料中のステロール組成をみると、動物由来のコレステロールはすべての試料中に約3~5%分布していた。通常一般的な植物腐植土中にはコレステロールは2~6%分布している。従って、すべての試料中でのコレステロール含有量は通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並であった。

植物由来のシトステロールはすべての試料中に約24~42%分布していた。通常の遺跡出土土壌中にはシトステロールは30~40%もしくはそれ以上に分布しているため、すべての試料中でのシトステロール含有量は通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並か少なめであった。

クリ、クルミ等の堅果植物由来のカンベステロール、スチグマステロールは、カンベステロールがすべての試

料中に約4～6%、スチグマステロールが試料No6で検出されず、他のすべての試料中に約4～6%分布していた。通常の遺跡出土土壌中にはカンベステロール、スチグマステロールは1～10%分布している。従って、試料中のカンベステロール、スチグマステロール含有量は通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並みであった。

微生物由来のエルゴステロールは検出されない試料もあったが、検出されるものには約0.4～1.7%分布していた。これは単に土壤微生物が増殖したものと考えられる。

哺乳動物の腸および糞便中に特異的に分布するコプロスタノールは、試料No6で検出されず、他のすべての試料中に約1～3%分布していた。コプロスタノールは一般的な遺跡出土土壌中では分布していても約1%くらいで、通常はほとんど検出されない。また、コプロスタノールの分布により試料中での哺乳動物の存在を確認することができる他に、通常コプロスタノールが10%以上含まれていると、コプロスタノールとコレステロールの分布比から試料中に残存している脂肪の動物種や性別、また遺体の配置状況などが特定できる場合がある。今回の含有量は試料No5とNo9で若干多いが、ほぼ植物腐植土中に含まれている程度のものであった。

一般に動物遺体の存在を示唆するコレステロールとシトステロールの分布比の指標値は土壌で0.6以上、土器・石器・石製品で0.8～23.5をとる¹⁾。試料中のコレステロールとシトステロールの分布比を表2に示す。表からわかるように、分布比はすべて0.6以下で、最も高い試料でも試料No7が0.2を示す程度であった。このことは試料中に動物もしくは植物由来の脂肪が少ないことを示唆している。

以上、酒呑場遺跡の試料中に含まれている各種のステロール類はすべて少なめで、通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並みにしか含まれていないことがわかった。コレステロールとシトステロールの分布比もすべて0.6以下で、試料中に動物遺体もしくは植物由来の脂肪が少ないことを示唆していた。このことから脂肪酸分析でや多く含まれていた高級脂肪酸は、植物体の表面を覆うワックス由来のものと考えられる。

5. 脂肪酸組成の数理解析

残存脂肪の脂肪酸組成をパターン化し、重回帰分析により各試料間の相関係数を求め、この相関係数を基礎にしてクラスター分析を行って各試料の類似度を調べた。同時に静岡県内の遺跡で出土土器を幼児埋葬用甕棺と判定した原川遺跡²⁾、出土土壌を土壌墓と判定した初音ヶ原B遺跡³⁾、出土した土器棺や土壌にヒト遺体を直接埋葬した場合と類似の脂肪が残存していると判定した角江遺跡⁴⁾、出土土器に残存する脂肪はヒトの骨のみを埋葬した場合に残存する脂肪と類似していると判定した下滝遺跡⁵⁾、出土土壌を土壌墓と判定した兵庫県寺田遺跡⁶⁾、出土土壌を再葬墓と判定した宮城県摺藪遺跡⁷⁾、ヒトの体脂肪、ヒトの骨油、イノシシ、ニホンジカのような動物試料などに残存する脂肪酸の類似度も比較した。予めデータベースの脂肪酸組成と試料中のそれとクラスター分析を行い、その中から類似度の高い試料を選び出し、再びクライスター分析によりパターン間距離にして表したのが図4である。

図からわかるように、酒呑場遺跡の試料No5を除くすべての試料はヒトの骨油試料や下滝遺跡、摺藪遺跡の資料と共に相関行列距離0.1以内でA群を形成し、よく類似していた。試料No5は単独でB群を形成した。他の対照試料はC、D、E群を形成した。これらの群の内A群とB群は相関行列距離0.15以内の所にあり、互いに類似しており、樹状図全体から見ても同じ系統樹に属することがわかる。

以上、酒呑場遺跡の試料中に残存する脂肪は、ヒトの骨のみを埋葬したことに関わる遺跡の試料やヒトの骨油試料に残存する脂肪と類似していることがわかった。

6. 脂肪酸組成による種特異性相関

残存脂肪の脂肪酸組成から種を特定するために、中級脂肪酸（炭素数16のバルミチン酸から炭素数18のステアリン酸、オレイン酸、リノール酸まで）と高級脂肪酸（炭素数20のアラキジン酸以上）との比をX軸に、飽和脂肪酸と不飽和脂肪酸との比をY軸にとり種特異性相関を求めた。この比列配分により第1象限の原点から離れた位置に高等動物の血液、脳、神経組織、臓器等に由来する脂肪、第1象限から第2象限の原点から離れた位置にヒトの胎盤、第2象限の原点から離れた位置に高等動物の体脂肪、骨油に由来する脂肪がそれぞれ分布する。第2象限から第3象限にかけての原点付近に植物と微生物、原点から離れた位置に植物腐植、第3象限から第4象限にかけての原点から離れた位置に海産動物に由来する脂肪が分布する。

土壌試料に残存脂肪から求めた相関図を図5に示す。図から分かるように試料No5を除くすべての試料が第2象限から第3象限にかけての、主として第3象限内に分布し、A群を形成した。試料No5は第2象限内に分布し、単独でB群を形成した。A群の分布位置は試料中に残存する脂肪が植物腐植土に由来し、B群の分布位置は試料中に残存する脂肪が高等動物の体脂肪や骨油に由来することを示唆している。

以上、酒呑場遺跡の試料中に残存する脂肪は、殆どが植物腐植土由来である脂肪の中にわずかの骨油に類する脂肪が混ざっているものであることがわかった。

7. 総括

酒呑場遺跡から出土した配石遺構の性格を判定するために、遺構内の土壌試料の残存脂肪分析を行った。残存する脂肪酸分析の結果、第2号配石遺構の試料No5を除くすべての試料中で主要な脂肪酸はオレイン酸で、次いでパルミチン酸が多いパターンを示すことがわかった。試料No5では主要な脂肪酸がパルミチン酸で、次いでオレイン酸が多かった。高級脂肪酸は試料No1とNo5にやや多かった他は、すべて通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並みであることがわかった。試料No1とNo5にやや多かった高級脂肪酸は、ステロール分析の結果も考え合わせると植物体の表面を覆うワックスの構成成分由来のものである可能性が高い。

脂肪酸組成の分布に基づく数理解析の結果クラスター分析からは、試料中に残存する脂肪はヒトの骨のみを埋葬したことに関わる遺跡の試料やヒトの骨油試料に残存する脂肪と類似していることがわかった。種特異性相関からは、試料中に残存する脂肪が、大半が植物腐植土由来の脂肪の中にわずかの骨油に類する脂肪が混ざっているものであることがわかった。

残存するステロール分析の結果、試料中に含まれている各種ステロール類はすべて少なめで、通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並みにしか含まれていないことがわかった。コレステロールとシトステロールの分布比もすべて0.6以下で、試料中に動物遺体もしくは動物由来の脂肪が少ないことを示唆していた。

以上の成績から、酒呑場遺跡の第2号と第3号配石遺構には大半が植物腐植土である中に高等動物の骨油に類する脂肪がわずかに残存していたと推定される。この骨油がヒトの骨に由来するかどうかについては、植物腐植土由来の脂肪が多く混ざっているために脂肪酸とステロールの分析だけでは正確に判定できなかった。ヒトの骨の判定にはヒトの血液型決定因子である脂質群について、抗原抗体反応を用いて免疫学的手法により精査する必要がある。

参考文献

- (1) R.C.A.Rottl and H.Schlichtherle: 「Food identification of samples from archaeological sites」, 『Archaeo Physika』, 10巻,1979,pp260.
- (2) D.A.Priestley,W.C.Gakinat and A.C.Leopld: 「Preservation of polyunsaturated fatty ancient Anasazi maize seed」, 『Nature』, 292巻,1981,pp146.
- (3) R.C.A.Rottl and H.Schlichtherle: 「Analyse fr uhgeschichtlicher Gef aB-inhalte」, 『Naturwissenschaften』, 70巻,1983,pp33.
- (4) 中野益男: 「残存脂肪分析の現状」, 『歴史公論』, 第10巻(6), 1984, pp 124.
- (5) M.Nakano and W.Fischer: 「The Glycolipids of Lactobacillus casei DSM 20021」, 『Hoppe-Seyler's Z.Physiol.Chem.』, 358巻,1977,pp1439.
- (6) 中野益男: 「残留脂肪酸による古代復元」, 『新しい研究法は考古学に何をたらしたか』, 田中 琢、佐原真編,クナブプロ,1995,pp148.
- (7) 中野益男、伊賀 啓、根岸 孝、安本教博、畑 宏明、矢吹俊男、佐原 眞、田中 琢: 「古代遺跡に残存する脂質の分析」, 『脂質生化学研究』 第26巻, 1984,pp40.
- (8) 中野益男: 「真臘遺跡出土土器に残存する動物油脂」, 『真臘遺跡—農村基盤総合設備事業能都東地区真臘工区に係る発掘調査報告書』, 石川県鳳至郡能都町教育委員会・真臘遺跡発掘調査団 1986 pp401.
- (9) 中野益男、根岸 孝、長田正宏、福島広広、中野寛子: 「ヘロカルウス遺跡の石器製品に残存する脂肪の分析」, 『ヘロカルウス遺跡』, 北海道文化財研究所調査報告書 第3集,1987,pp191.

(10) 中野益男, 輻口 剛, 福島道広, 中野寛子, 長田正宏: 「原川遺跡の土器棺に残存する脂肪の分析」, 『原川遺跡I—昭和62年度袋井バイパス(掛川地区)埋蔵文化財発掘調査報告書』, 第17集, (財)静岡県埋蔵文化財調査研究所, 1988, pp79.

(11) 福島道広, 中野寛子, 長田正宏, 中野益男: 「初音ヶ原B遺跡の土坑に残存する脂肪の分析」, 『未発表』, 静岡県三島市教育委員会.

(12) 中野寛子, 明瀬雅子, 長田正宏, 中野益男: 「角江遺跡の土器棺および土坑に残存する脂肪の分析」, 『未発表』, (財)静岡県埋蔵文化財調査研究所.

(13) 中野益男, 中野寛子, 長田正宏: 「半田地区埋蔵文化財発掘調査に係る出土土器内土壌の残存脂肪分析及び解析」, 『未発表』, 静岡県浜松市埋蔵文化財調査事務所.

(14) 中野益男, 中野寛子, 福島道広, 長田正宏: 「寺田遺跡土坑墓状遺構に残存する脂肪の分析」, 『未発表』, 兵庫県芦屋市教育委員会.

(15) 中野益男, 福島道広, 中野寛子, 長田正宏: 「摺藪遺跡の遺構に残存する脂肪の分析」, 『未発表』, 宮城県教育委員会.

表1 土壌試料の残存脂肪抽出量

試料No	採取地点	産量(g)	全脂質(mg)	抽出率(%)
1	2号配石-1	432.0	20.5	0.0047
2	" 2	411.6	19.0	0.0046
3	" 3	436.4	16.0	0.0037
4	" 4	270.2	6.6	0.0024
5	" 5	455.0	7.8	0.0017
6	" 6	401.6	4.2	0.0010
7	3号配石-1	196.1	9.9	0.0050
8	" 2	202.2	8.7	0.0043
9	" 3	297.0	5.5	0.0019

表2 試料中に分布するコレステロールとシステロールの割合

試料No	コレステロール(%)	システロール(%)	フィトステロール
1	3.48	24.38	0.14
2	2.85	30.28	0.09
3	3.28	30.06	0.11
4	4.27	34.00	0.13
5	4.48	25.77	0.17
6	4.45	38.29	0.12
7	5.01	24.30	0.21
8	4.59	25.30	0.18
9	4.29	41.71	0.10

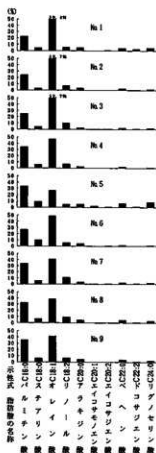


図1 試験中に残存する脂肪の脂肪酸組成

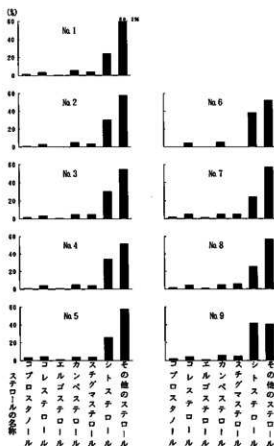


図2 試験中に残存する脂肪のステロール組成

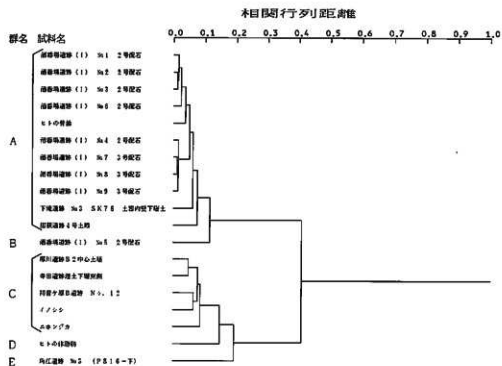


図3 試験中に残存する脂肪の脂肪酸組成樹状構造図

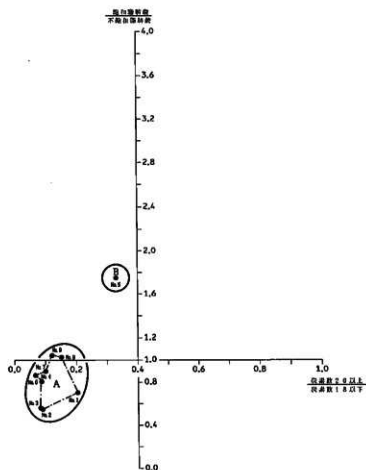


図4 試験中に残存する脂肪の脂肪酸組成による種特異性相関

附編2 酒呑場遺跡から出土した遺物・遺構に残存する脂肪の分析

帯広畜産大学生物資源化学科 中野益男
(株)ズコーシャ総合科学研究所 中野寛子、長田正宏

1. 土壌試料

山梨県北巨摩郡長坂町に所在する酒呑場遺跡は縄文時代前期～後期の長期に渡って生活が営まれていた大規模集落跡と推定されている。この遺跡の調査区C区・D区・F区から出土した埋壘や土坑内の土壌試料を分析した。遺跡内での遺構の配置状況と各遺構内での試料採取地点を附図及び第107・108・128・129・146・154図に示す。試料No1をC区第85号住居中期後半の埋壘内から、No2をC区第187号土坑の中期前半の埋壘内から、No3をC区中期初頭の第215号土坑内から、No4とNo5をD区中期前半の第1号埋壘内上部層と最下層から、No6をF区中期後半の第12号土坑内から、それぞれ採取した。

2. 残存脂肪の抽出

土壌試料81～844gに3倍量のクロロホルム—メタノール(2:1)混液を加え、超音波浴槽中で30分間処理し残存脂肪を抽出した。処理液を濾過後、残渣に再度クロロホルム—メタノール混液を加え、再び30分間超音波処理をする。この操作をさらに2回繰り返して残存脂肪を抽出した。得られた全抽出溶媒に1%塩化バリウムを全抽出溶媒の4分の1容量加え、クロロホルム層と水層に分配し、下層のクロロホルム層を濃縮して残存脂肪を分離した。

残存脂肪の抽出量を表1に示す。抽出率は0.0033～0.0136%、平均0.0083%であった。この値は全国各地の遺跡から出土した土壌、石器、土器等の試料の平均抽出率0.0010～0.0100%の範囲内のものであった。

残存脂肪をケイ酸薄層クロマトグラフィーで分析した結果、脂肪は単純脂質から構成されていた。このうち遊離脂肪酸が最も多く、次いでグリセロールと脂肪酸の結合したトリアシルグリセロール(トリグリセリド)、ステロールエステル、ステロールの順に多く、微量の長鎖炭化水素も存在していた。

3. 残存脂肪の脂肪酸組成

分離した残存脂肪の遊離脂肪酸とトリアシルグリセロールに5%メタノール性塩酸を加え、125℃封管中で2時間分解し、メタノール分解によって生成した脂肪酸メチルエステルを含む画分をクロロホルムで分離し、さらにジアゾメタンで遊離脂肪酸を完全にエステルメチル化してから、ヘキサノール—エチルエーテル—酢酸(80:30:1)またはヘキサノール—エーテル(85:15)を展開溶媒とするケイ酸薄層クロマトグラフィーで精製後、ガスクロマトグラフィーで分析した。

残存脂肪の脂肪酸組成を図2に示す。残存脂肪から10種類の脂肪酸を検出した。このうちパルチン酸(C16:0)、ステアリン酸(C18:0)、オレイン酸(C18:1)、リノール酸(C18:2)、アラキジン酸(C20:0)、エイコサモノエン酸(C20:1)、ペベン酸(C22:0)、エルシン酸(C22:0)、リグノセリン酸(C24:0)の9種類の脂肪酸をガスクロマトグラフィー—質量分析により同定した。

各試料中での脂肪酸組成パターンを見ると3つのパターンに分かれた。1つめは炭素数18までの中級脂肪酸のうち主要な脂肪酸はパルチン酸で、次いでオレイン酸、ステアリン酸の順に多いもので、試料No1、No2がこれにあたる。2つめは主要な脂肪酸がオレイン酸で、次いでパルチン酸、ステアリン酸の順に多いもので、試料No3、No4、No6がこれにあたる。3つめは主要な脂肪酸がパルチン酸で、次いでステアリン酸、オレイン酸の順に多いもので、試料No5がこれにあたる。一般に考古遺物にはパルチン酸が多く含まれている。これは長い年月の間にオレイン酸、リノール酸といった不飽和脂肪酸の一部が分解し、パルチン酸が生成するため、主として植物遺体の土壌化に伴う腐植物から来ていると推定される。オレイン酸の分布割合の高いものとしては、動物性脂肪と植物性脂肪の両方が考えられ、植物性脂肪は特に根、莖、種子に多く分布するが、動物性脂肪の方が分布割合は高い。ステアリン酸は動物脂肪や植物の根に比較的多く分布している。リノール酸は主として植物種子・葉に多く分布する。

一方高等動物、特に高等動物の臓器、脳、神経組織、血液、胎盤に特徴的にみられる炭素数20以上のアラキジ

ン酸、ペヘン酸、リグノセリン酸など的高级脂肪酸はそれら3つの合計含有率が試料No5で約31%、他のすべての試料中で約12~21%であった。通常の遺跡出土土壌中の高级脂肪酸含有率は約4~10%であるので、すべての試料中で高级脂肪酸は多めに含まれているが、特にNo5では多かった。高级脂肪酸含有量が多い場合としては、試料中に高等動物の血液、脳、神経組織、臓器等の特殊な部分が含まれている場合と、植物の種子・葉などの植物体の表面を覆うワックスの構成成分が含まれている場合とがある。高级脂肪酸が動物、植物のどちらに由来するかはコレステロールの分布割合によって決めることができる。

以上、酒呑場遺跡の試料中の脂肪酸組成パターンにはC区第85号住居試料No1、C区第187土坑試料No2、D区第1号埋壘下層試料No5のように主要な脂肪酸がパルミチン酸であるものと、C区第215号土坑試料No3、D区第1号埋壘上層試料No4、F区第12号土坑試料No6のようにオレイン酸であるものがあり、前者の中でも次に多いのがステアリン酸かオレイン酸かによって違いが見られた。高级脂肪酸はすべての試料中で多めであったが、特に試料No5には多かった。

4. 残存脂肪のステロール組成

残存脂肪のステロールをヘキササン-エチルエーテル-酢酸(80:30:1)を展開溶媒とするケイ酸薄層クロマトグラフィーで分離・精製後、ピリジン-無水酢酸(1:1)を窒素気流下で反応させてアセテート誘導体にする。得られた誘導体をもう一度同じ展開溶媒で精製してから、ガスクロマトグラフィーにより分析した。残存脂肪の主なステロール組成を図3に示す。残存脂肪から15~18種類のステロールを検出した。このうちコプロスタノール、コレステロール、エルゴステロール、カンバステロール、スチグマステロール、シトステロールなど8種類のステロールをガスクロマトグラフィー質量分析により同定した。

各試料中のステロール組成をみると、動物由来のコレステロールは試料No5に約9%、他のすべての試料中に約4~7%分布していた。通常一般的な植物腐植土中にはコレステロールは2~6%分布している。従って、試料No5のコレステロール含有量は通常の遺跡出土土壌の植物腐植土中よりも若干多く、他のすべての試料中でのコレステロール含有量は植物腐植土並みであった。

植物由来のシトステロールはすべての試料中に18~33%分布していた。通常の遺跡出土土壌中にはシトステロールは30~40%もしくはそれ以上に分布しているので、すべての試料中でのシトステロール含有量は通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並みか少なめであった。

クリ、クルミ等の堅果植物由来のカンバステロール、スチグマステロールは、すべての試料中にカンバステロールが約5~7%、スチグマステロールが約4~10%分布していた。通常の遺跡出土土壌中にはカンバステロール、スチグマステロールは1~10%分布している。従って、試料中のカンバステロール、スチグマステロール含有量は通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並みであった。

微生物由来のエルゴステロールはすべての試料中に約1~3%分布していた。この程度の含有量は単に土壌微生物が増殖した結果と考えられる。

哺乳動物の腸および糞便中に特異的に分布するコプロスタノールは、すべての試料中に約1~2%分布していた。コプロスタノールは一般的な遺跡出土土壌中では分布していても約1%くらいで、通常は殆ど検出されない。また、コプロスタノールの分布により試料中での哺乳動物の存在を確認することができる他に、通常コプロスタノールが10%以上含まれていると、コプロスタノールとコレステロールの分布比から試料中に残存している脂肪の動物種や性別、また遺体の配置状況などが特定できる場合がある。今回の含有量は通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並みであった。

一般に動物遺体の存在を示唆するコレステロールとシトステロールの分布比の指標値は土壌で0.6以上、土器・石器・石製品で0.8~23.5をとる¹⁾。試料中のコレステロールとシトステロールの分布比を表2に示す。表からわかるように、分布比はすべての試料中で0.6以下であった。このことは試料中に動物遺体もしくは動物由来の脂肪が少ないことを示唆している。

以上、酒呑場遺跡の試料中に含まれている各種のステロール類はすべて少なめで、通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並みにしか含まれていないことがわかった。コレステロールとシトステロールの分布比もすべて0.6以下で、試料中に動物遺体もしくは植物由来の脂肪が少ないことを示唆していた。このことから脂肪酸分析でややく含まれていた高级脂肪酸は、植物体の表面を覆うワックス由来のものと考えられる。

5. 脂肪酸組成の数理解析

残存脂肪の脂肪酸組成をパターン化し、重回帰分析により各試料間の相関係数を求め、この相関係数を基礎にしてクラスター分析を行って各試料の類似度を調べた。同時に同じ酒呑場遺跡で異なる時期に分析した配石遺構試料、静岡県内の遺跡で出土土器を幼児埋葬用甕棺と判定した原川遺跡、出土土壌を土壌墓と判定した初音ヶ原B遺跡、出土した土器棺や土壌にヒト遺体を直接埋葬した場合と類似の脂肪が残存していると判定した角江遺跡、出土土器に残存する脂肪はヒトの骨のみを埋葬した場合に残存する脂肪と類似していると判定した下滝遺跡、出土土壌を土壌墓と判定した兵庫県寺田遺跡、出土土壌を再葬墓と判定した宮城県指搦遺跡、ヒトの体脂肪、ヒトの骨油、ヒトの胎盤、イノシシ、ニホンジカのような動物試料などに残存する脂肪酸の類似度とも比較した。予めデータベースの脂肪酸組成と試料中のそれとクラスター分析を行い、その中から類似度の高い試料を選び出し、再びクライスター分析によりパターン間距離にして表したのが図4である。

図からわかるように、酒呑場遺跡の試料No1、No2は前回分析した酒呑場遺跡A区の試料No5と共に相関行列距離0.05以内でA群を形成し、非常によく類似していた。酒呑場遺跡の試料No3、No4、No6は前回の酒呑場遺跡A区の試料No9、下滝遺跡、指搦遺跡、ヒトの骨油試料と共に相関行列距離0.1以内でB群を形成し、よく類似していた。酒呑場遺跡の試料5は原川遺跡、寺田遺跡の試料と共に相関行列距離0.1以内でC群を形成し、よく類似していた。他の対照試料はD～G群を形成した。これらの群の内A群とB群は相関行列距離0.15以内の所にあり、互いに類似していた。C群は他のD～G群とは相関行列距離0.2以内の所にあり、互いに類似していた。A、B群とC～G群は樹状図全体からすれば別の系統樹に属し、あまり類似していなかった。

以上、酒呑場遺跡のD区第1号埋壙下層試料No5に残存する脂肪はヒト遺体を直接埋葬したことに関わる遺跡の試料と、試料No5を除く他のすべての試料はヒトの骨のみを埋葬したことに関わる遺跡の試料と、それぞれ類似していることがわかった。

6. 脂肪酸組成による種特異性相関

残存脂肪の脂肪酸組成から種を特定するために、中級脂肪酸（炭素数16のバルミチン酸から炭素数18のステアリン酸、オレイン酸、リノール酸まで）と高級脂肪酸（炭素数20のアラキジン酸以上）との比をX軸に、飽和脂肪酸と不飽和脂肪酸との比をY軸にとり種特異性相関を求めた。この比列配分により第1象限の原点から離れた位置に高等動物の血液、脳、神経組織、臓器等に由来する脂肪、第1象限から第2象限の原点から離れた位置にヒトの胎盤、第2象限の原点から離れた位置に高等動物の体脂肪、骨油に由来する脂肪がそれぞれ分布する。第2象限から第3象限にかけての原点付近に植物と微生物、原点から離れた位置に植物腐植、第3象限から第4象限にかけての原点から離れた位置に海産動物に由来する脂肪が分布する。

土壌試料に残存脂肪から求めた相関図を図5に示す。図からわかるように、試料No1とNo2は第2象限内の原点に近い位置でA群を、No3、No4、No6はほぼ第2象限内のX軸に近い位置でB群を、No5は単独で第1象限内の原点から離れたY軸に沿った位置でC群を、それぞれ形成した。これらの分布位置はA、B群の試料が高等動物の体脂肪や骨油に、C群の試料が高等動物の血液、脳、神経組織、臓器、ヒト胎盤等の特殊な部分に由来することを示唆している。

以上、酒呑場遺跡のD区第1号埋壙下層試料No5に残存する脂肪は、高等動物の血液、脳、神経組織、臓器、ヒト胎盤等の特殊な部分に、他のすべての試料に残存する脂肪は高等動物の体脂肪や骨油に、それぞれ由来することがわかった。

7. 総括

酒呑場遺跡から出土した埋壙、土坑の性格を判定するために、埋壙や土坑内の土壌試料の残存脂肪分析を行った。残存する脂肪酸分析の結果、酒呑場遺跡のC区第85号住居試料No1、第187号土坑試料No2、D区第1号埋壙下層試料No5は主要な脂肪酸がバルミチン酸で、C区第215号土坑試料No3、D区第1号埋壙上層試料No4、F区第12号土坑試料No6は主要な脂肪酸がオレイン酸であることがわかった。高級脂肪酸はすべての試料中で多めで、特に試料No5に多いこともわかった。

脂肪酸組成の分布に基づく数理解析の結果クラスター分析からは、D区第1号埋壙下層試料No5に残存する脂肪はヒト遺体を直接埋葬したことに関わる遺跡の試料と、他のすべての試料はヒトの骨のみを埋葬したことに関わる遺跡の試料と類似していることがわかった。種特異性相関からは、D区第1号埋壙下層試料No5に残存

する脂肪は高等動物の血液、脳、神経組織、臓器、ヒト胎盤等の特殊な部分に、他のすべての試料に残存する脂肪は高等動物の体脂肪や骨油に由来することがわかった。

残存するステロール分析の結果、試料中に含まれている各種のステロール類はすべて少なめで、通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並みにしか含まれていないことがわかった。コレステロールとシトステロールの分布比もすべて0.6以下で、試料中に動物遺体もしくは動物由来の脂肪が少ないことを示唆していた。

以上の成績から、酒呑場遺跡のD区第1号埋蔵に残存する脂肪はヒト遺体を直接埋葬したことに関わる遺跡の試料と類似していることがわかった。埋蔵の大きさから考えるとヒト遺体であるならば幼児である可能性が考えられ、他にヒトの胎盤を入れた可能性も考えられる。しかし、この埋蔵の上層試料に残存する脂肪がヒトの骨のみを埋葬したことに関わる遺跡の試料と類似していることを考え合わせると胎盤を納めた可能性は少なくなる。他のすべての埋蔵や土坑に残存する脂肪はヒトの骨のみを埋葬したことに関わる遺跡の試料と類似していることがわかった。今回は埋蔵や土坑の外の対照試料がなかったため、正確な判定には対照試料があることが望ましい。また、高等動物がヒトであることの正確な判定にはヒトの血液型決定因子である糖脂質群について、抗原抗体反応を用いて免疫学的手法により精査する必要がある。

参考文献

- (1) M.Nakano and W.Fischer:「The Glycolipids of *Lactobacillus casei* DSM 20021」,『Hoppe-Seyler's Z.Physiol.Chem.』,358巻,1977,pp1439.
- (2) 中野益男:「残留脂肪酸による古代復元」『新しい研究法は考古学に何をもたらしたか』田中 琢、佐原眞編,クパプロ,1995,pp148.
- (3) 中野益男、伊賀 啓、根岸 孝、安本教博、畑 宏明、矢吹俊男、佐原 眞、田中 琢:「古代遺跡に残存する脂質の分析」,『脂質生化学研究』第26巻,1984,pp40.
- (4) 中野益男:「真脇遺跡出土土器に残存する動物油脂」,『真脇遺跡—農村基盤総合設備事業能都東地区真脇工区に係わる発掘調査報告書』,石川県鳳至郡能都町教育委員会・真脇遺跡発掘調査団,1986,pp401.
- (5) 中野益男、根岸 孝、長田正宏、福島道広、中野寛子:「ヘロカルウス遺跡の石器製品に残存する脂肪の分析」,『ヘロカルウス遺跡』,北海道文化財研究所調査報告書第3集,1987,pp191.
- (6) 中野益男、中野寛子、長田正宏:「酒呑場遺跡から出土した配石遺構の残存する脂肪の分析」,『未発表』,山梨県埋蔵文化財センター.
- (7) 中野益男、幅口 剛、福島道広、中野寛子、長田正宏:「原川遺跡の土器棺に残存する脂肪の分析」,『原川遺跡—昭和62年度袋井バイパス(掛川地区)埋蔵文化財発掘調査報告書』第17集,(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所,1988,pp79.
- (8) 福島道広、中野寛子、長田正宏、中野益男:「初音ヶ原B遺跡の土坑に残存する脂肪の分析」,『未発表』,静岡県三島市教育委員会.
- (9) 中野益男、明瀬雅子、長田正宏、中野益男:「角江遺跡の土器棺および土坑に残存する脂肪の分析」,『未発表』,(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所.
- (10) 中野益男、中野寛子、長田正宏:「半田地区埋蔵文化財発掘調査に係る出土土器内土壌の残存脂肪分析及び解析」,『未発表』,静岡県浜松市埋蔵文化財調査事務所.
- (11) 中野益男、中野寛子、福島道広、長田正宏:「寺田遺跡土壇基状遺構に残存する脂肪の分析」,『未発表』,兵庫県芦屋市教育委員会.
- (12) 中野益男、福島道広、中野寛子、長田正宏:「摺森遺跡の遺構に残存する脂肪の分析」,『未発表』,宮城県教育委員会.

試料No	採取地点	湿重量(g)	全脂質(mg)	抽出率(%)
1	C区・85住居跡内	843.5	27.5	0.0033
2	C区・187土坑埋戻土2内	81.2	10.4	0.0128
3	C区・215土坑石礫下層	308.0	42.0	0.0136
4	D区・1号埋戻土層	835.5	55.7	0.0667
5	D区・1号埋戻土下層	143.1	12.5	0.0087
6	F区・12号土坑内	838.7	37.6	0.0045

表1 土壌試料の残存脂肪抽出量

試料No	コレステロール(%)	シトステロール(%)	その他のステロール(%)
1	3.70	24.18	0.15
2	5.86	31.12	0.19
3	6.50	18.09	0.36
4	4.90	28.83	0.17
5	8.82	33.01	0.27
6	6.81	27.01	0.25

表2 試料中に分布するコレステロールとシトステロールの割合

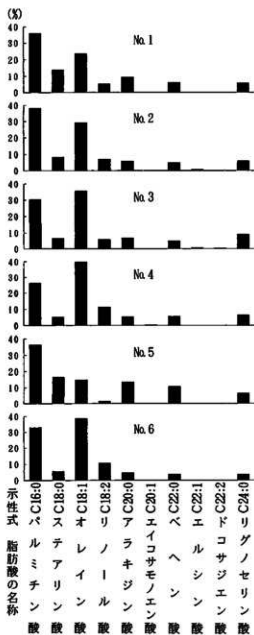


図1 試験中に残存する脂肪の脂肪酸組成

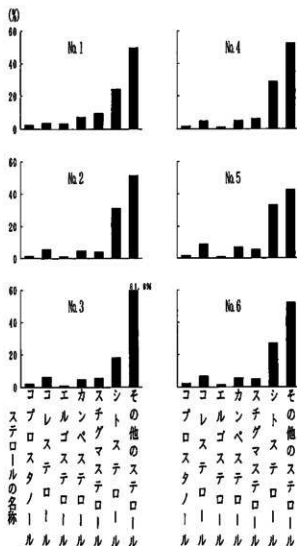


図2 試験中に残存する脂肪のステロール組成

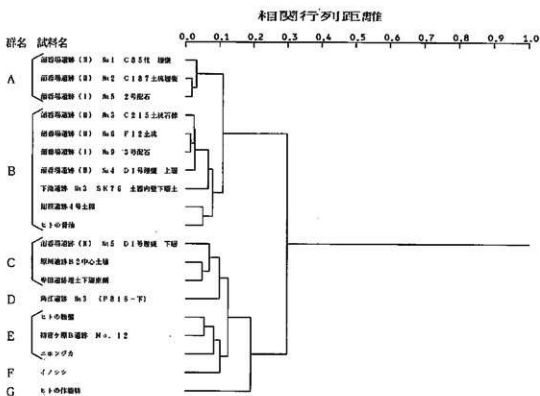


図3 試験中に残存する脂肪の脂肪酸組成樹状構造図

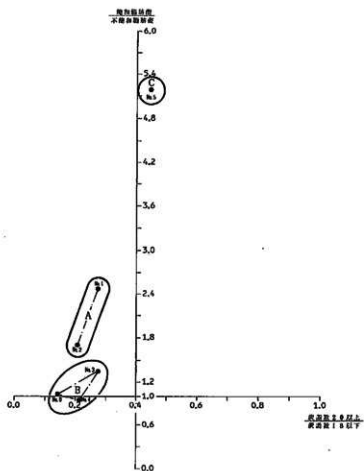


図4 試験中に残存する脂肪の脂肪酸組成による種特異性相関

附編3 酒呑場遺跡土壌可給態リン酸測定結果について

酪農試験場 小泉 伊津夫

1. 検査材料：酒呑場遺跡土壌11点

- ・A区第2号配石1～6（上層～下層）、A区第3号配石1～3（上層～下層）、A区第4号配石1上層～2下層

2. 分析方法：Truog法（変法）

- ・風乾細土1gを500mlの三角フラスコにとり、抽出用硫酸液（0.002N硫酸液）200mlを加えて30分間振とう。
- ・振とう後直ちに東洋ろ紙No.6でろ過し、供試液とする。
- ・供試液25mlを50ml定容フラスコにとり、蒸留水を加えて45mlとする。
- ・モリブデン酸アンモニウム硫酸液2mlを加え攪拌後、塩化第一すず塩酸液V滴を加えて標線まで満たし、よく混和する。
- ・今回は発色液を加えて正確に8分後に波長703.2 μ sの吸光度を測定した。

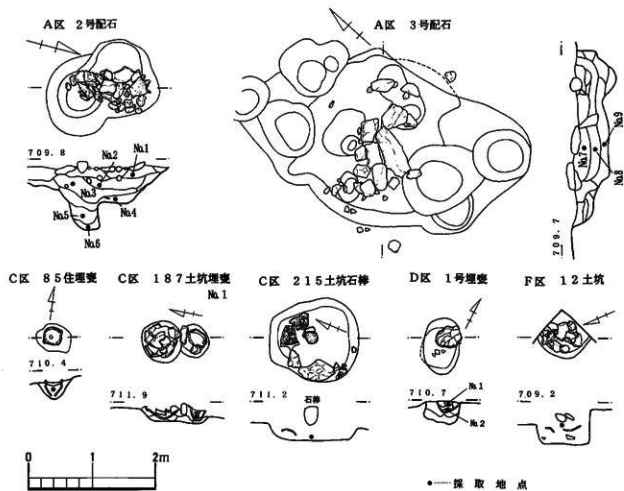
3. 分析結果及び考察：

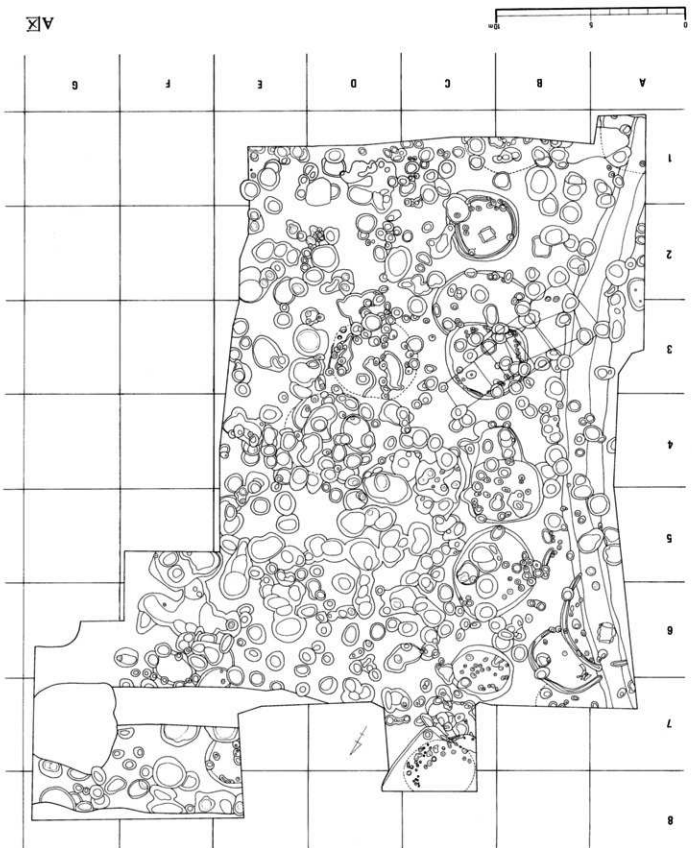
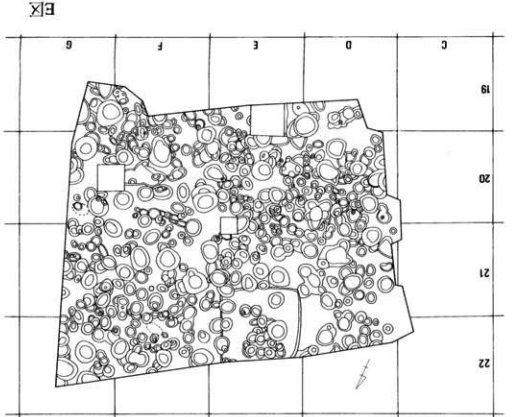
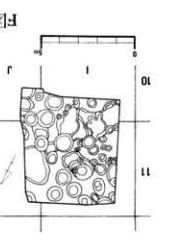
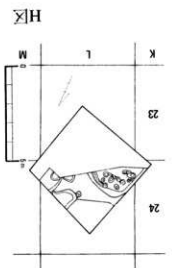
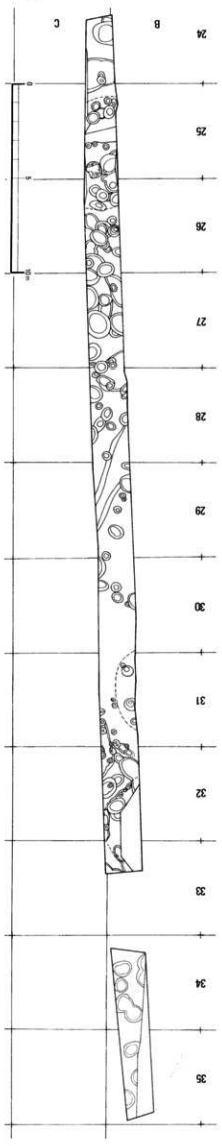
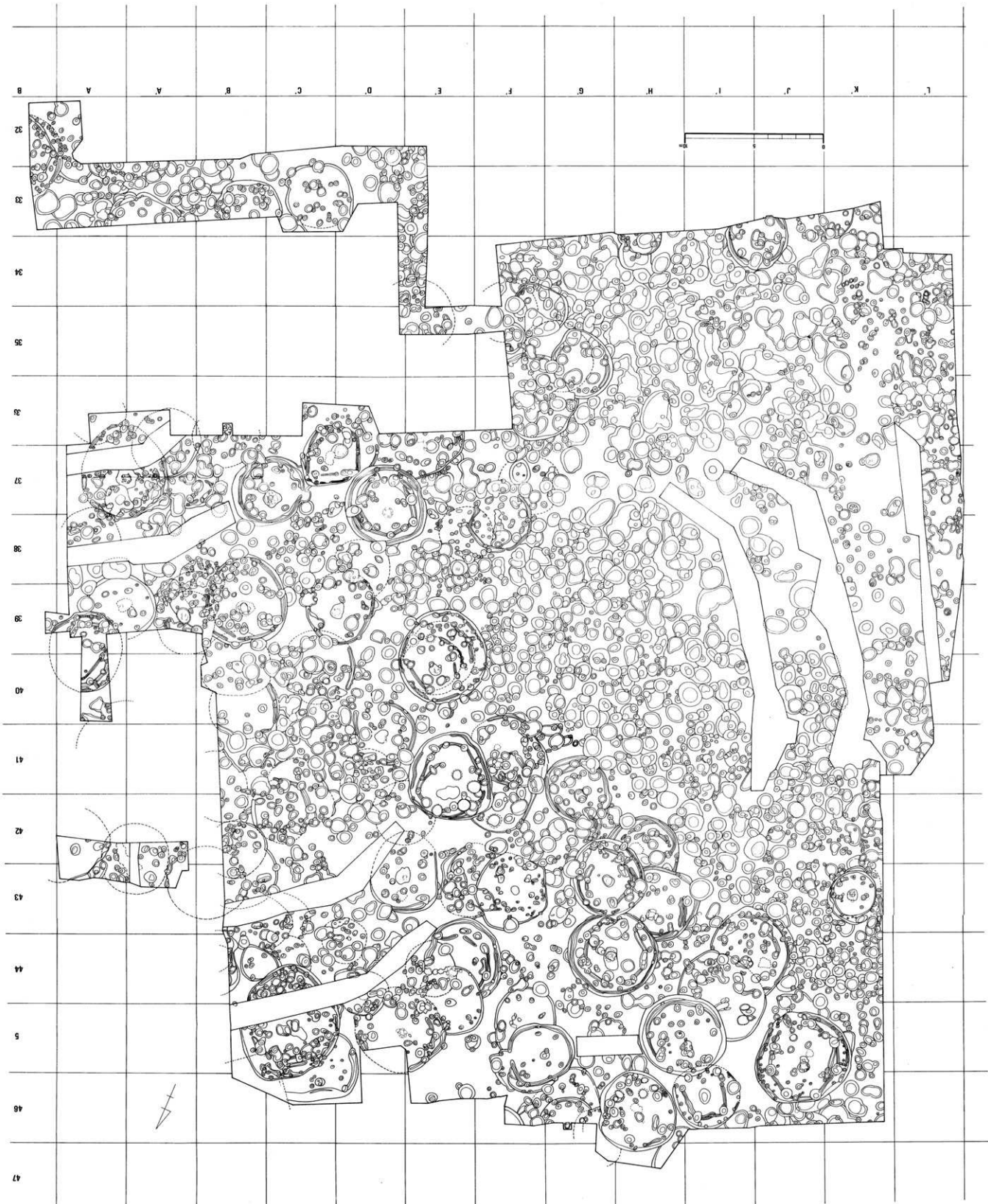
- ・可給態リン酸の分析結果を表1に示した。
- ・表中数値は2反復平均である。
- ・2号配石ではNo5、3号配石及び4号配石ではNo2が他の土壌に比べ高い値を示したが、全体に可給態リン酸の値が極めて低く、この可給態リン酸の測定値から全リン酸を論議することは、（専門家本当のところは解らないが、一応の目安になるもの）かなり難しいと思われる。
- ・ちなみに、酪農試験場飼料畑の可給態リン酸値では30～60mg/100g乾土で、一般的な普通畑では10mg/100g乾土以上あれば良いとされている。

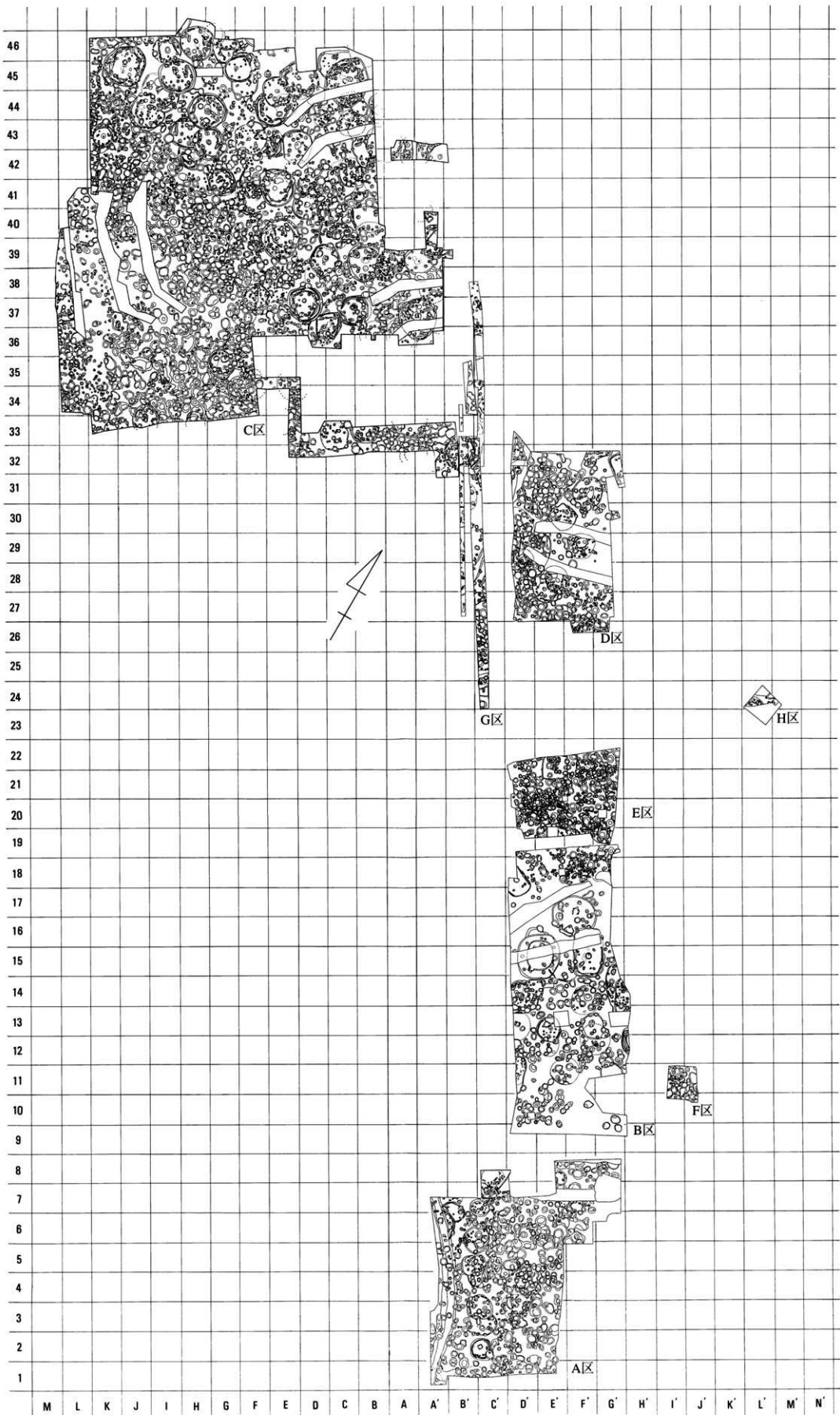
表1. 可給態リン酸測定値

区 分	P ₂ O ₅
2号配石-1	0.15
-2	0.71
-3	0.83
-4	0.86
-5	2.27
-6	1.15
3号配石-1	0.19
-2	1.43
-3	0.99
4号配石-1	0.24
-2	2.63

注) 単位はmg/100g乾土







酒呑場遺跡(第1・2次調査)全体図 付図2

0 10 20m

図 版



酒呑場遺跡から八ヶ岳を望む（12月）



A区 調査区全景



A区 第1号住居跡完掘状況



A区 第1号住居跡遺物出土状況



A区 第1号住居跡遺物出土状況



A区 第1号住居跡埋甕出土状況

图版2



A区 第2号住居跡完掘状況



A区 第3・12号住居跡完掘状況



A区 第4号住居跡完掘状況



A区 第4号住居跡炉出土状況



A区 第5・17号住居跡完掘状況



A区 第8号住居跡完掘狀況



A区 第9・10号住居跡完掘狀況



A区 第9号住居跡炉出土狀況



A区 第9号住居跡遺物出土狀況



A区 第10号住居跡炉出土狀況



A区 第10号住居跡埋遺物出土狀況



A区 第11号住居跡完掘狀況



A区 第11号住居跡遺物出土狀況



A区 第13号住居跡完掘状況



A区 第13号住居跡遺物出土状況



A区 第13号住居跡遺物出土状況



A区 第13号住居跡遺物出土状況



A区 第13号住居跡遺物出土状況



A区 第14号住居跡完掘狀況



A区 竪穴状遺構完掘狀況



A区 第20号土坑遺物出土狀況



A区 第25号土坑遺物出土狀況



A区 第29号土坑遺物出土狀況



A区 第67号土坑遺物出土狀況



A区 第69号土坑遺物出土狀況



A区 第108号土坑遺物出土狀況

図版6



A区 第120号土坑遺物出土状況



A区 第114~116・159号土坑遺物出土状況



A区 第114号土坑遺物出土状況



A区 第115号土坑遺物出土状況



A区 第128~129・165号土坑遺物出土状況



A区 第147号土坑遺物出土状況



A区 第214号土坑遺物出土状況



A区 調査状況



A区 第215号土坑遗物出土状况



A区 第215号翡翠大珠出土状况



A区 第239号土坑遗物出土状况



A区 第254号土坑遗物出土状况



A区 第271号土坑遗物出土状况



A区 第294号土坑遗物出土状况



A区 第311号土坑遗物出土状况



A区 第352号土坑遗物出土状况



A区 C-17'リット第10号ヒット石棒出土状況 (横から)



A区 C-17'リット第10号ヒット石棒出土状況 (上から)



A区 第1号配石遺構確認状況



A区 第1号配石遺構掘り下げ状況



A区 第1号配石遺構 (1土)



A区 第1号配石遺構 (1土) 遺物出土状況



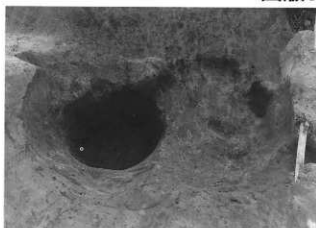
A区 第1号配石遺構遺物出土状況



A区 第1号配石遺構完掘状況



A区 第2号配石遺構確認狀況



A区 第2号配石遺構完掘狀況



A区 第2号配石遺構(断面)



A区 第3号配石遺構確認狀況



A区 第3号配石遺構(断面)



A区 第3号配石遺構完掘狀況



A区 第4号配石遺構確認狀況



A区 第4号配石遺構完掘狀況

図版10



A区 第5号配石遺構遺物出土状況



A区 第5号配石遺構（断面）



A区 第5号配石遺構遺物出土状況



A区 調査状況



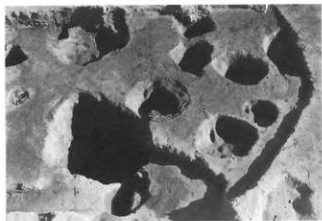
A区 第1号溝完掘状況



A区 戦時遺構完掘状況



B区 調査区全景



B区 第1号住居跡完掘状況



B区 第2号住居跡完掘状況



B区 第2号住居跡遺物出土状況



B区 調査状況



B区 第3・7号住居跡完掘状況



B区 第3号住居跡遺物出土状況



B区 調査状況



A区 第3号住居跡遺物出土状況



B区 第4号住居跡炉出土状況



B区 第5·21号住居跡完掘狀況



B区 第6号住居跡完掘狀況



B区 第8·15号住居跡遺物出土狀況



B区 第9号住居跡完掘狀況



B区 第10号住居跡遺物出土狀況

图版14



B区 第11号住居跡遺物出土狀況



B区 第13号住居跡遺物出土狀況



B区 第14号住居跡完掘狀況



B区 第15号住居跡埋壺確認狀況



B区 第16号住居跡埋壺確認狀況



A区 第16号住居跡遺物出土狀況



B区 第16号住居跡埋壺確認狀況



B区 第17号住居跡埋壺確認狀況



B区 第18号住居跡完掘狀況



B区 第19号住居跡完掘狀況



B区 第37号土坑完掘狀況



B区 第60・61号土坑遺物出土狀況



B区 第74号土坑(白色顔料塗布土偶) 遺物出土狀況



B区 第77~78号土坑遺物出土狀況



B区 第119号土坑遺物出土狀況



B区 第120号土坑遺物出土狀況

图版16



B区 第128号土坑遗物出土状况



B区 第130号土坑遗物出土状况



B区 第132号土坑遗物出土状况



B区 第155号土坑遗物出土状况



B区 第184号土坑遗物出土状况



B区 第227号土坑遗物出土状况



B区 第247号土坑遗物出土状况



B区 第247号土坑遗物出土状况



C区 第1·2·28号住居跡完掘狀況



C区 第1号住居跡炉完掘狀況



C区 第1号住居跡遺物出土狀況



C区 第4号住居跡炉周辺遺物出土狀況



C区 第4号住居跡遺物出土狀況



C区 第4·4'·14号住居跡完掘狀況



C区 第5·7·10·11·16·18号住居跡完掘狀況



C区 調査状況



C区 第5・7・10号住居跡完掘状況



C区 第6号住居跡完掘状況



C区 第7号住居跡内集石土坑遺物出土状況



C区 第8号住居跡完掘状況



B区 第9・89号住居跡土層断面



C区 第9号住居跡遺物出土状況



C区 第12号住居跡ビット内遺物(土鈴)出土状況



C区 第13号住居跡炉出土狀況



C区 第13号住居跡炉半截狀況



C区 第13号住居跡完掘狀況



C区 第13号住居跡遺物出土狀況



C区 第14号住居跡完掘狀況



C区 第14号住居跡調査狀況



C区 第15号住居跡完掘狀況



C区 第15号住居跡炉出土狀況



C区 第19·21·25~27号住居跡完掘状况



C区 第19号住居跡完掘状况



C区 第26·27号住居跡炉出土状况



C区 第26·27号住居跡半截状况



C区 第19号住居跡土偶出土状况



C区 第19号住居跡土偶出土状况



C区 第20号住居跡炉出土状况



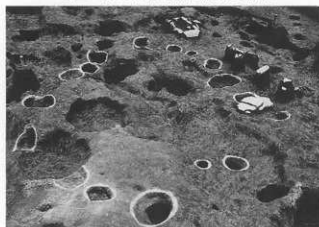
C区 第20·30号住居跡完掘状况



C区 第23号住居跡遺物出土狀況



C区 第23号住居跡炉出土狀況



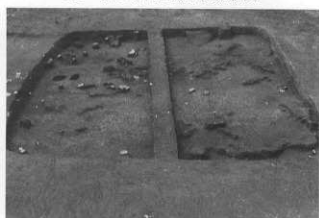
C区 第25号住居跡遺物完掘狀況



C区 第30号住居跡炉完掘狀況



C区 第27号住居跡炉出土狀況



C区 第33号住居跡遺物出土狀況



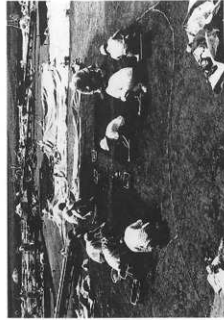
C区 第33号住居跡遺物出土狀況



C区 第33号住居跡炉遺物出土狀況



C区 第31・32号住居跡完掘状況



C区 第33号住居跡調査状況



C区 第32号住居跡炉完掘状況



C区 第35号住居跡ピット内遺物出土状況



C区 第35号住居跡ピット内遺物出土状況

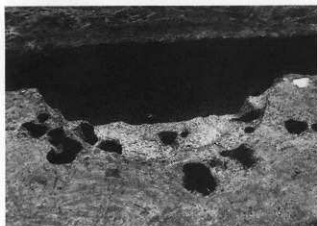
図版24



C区 第36号住居跡完掘状況



C区 第39号住居跡完掘状況



C区 第40号住居跡完掘状況



C区 第40号住居跡遺物出土状況



C区 第41号住居跡完掘状況



C区 第41号住居跡遺物出土状況



C区 第41号住居跡ピット内遺物出土状況



C区 第41号住居跡遺物出土状況



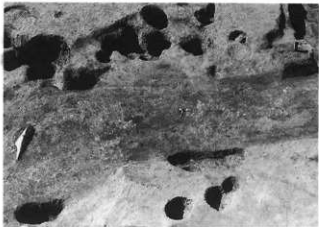
C区 第41号住居跡遺物出土狀況



C区 第41号住居跡炉出土狀況



C区 第43号住居跡完掘狀況



C区 第49号住居跡完掘狀況



C区 第50号住居跡完掘狀況



C区 第50号住居跡炉完掘狀況



C区 第55・56号住居跡完掘狀況



C区 第55号住居跡炉遺物出土狀況



C区 第55・56号住居跡炉完掘状況



C区 第58号住居跡完掘状況



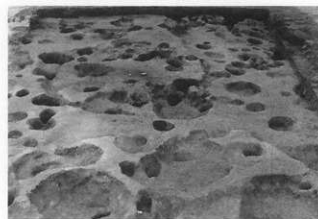
C区 第58号住居跡炉出土状況



C区 第60号住居跡完掘状況



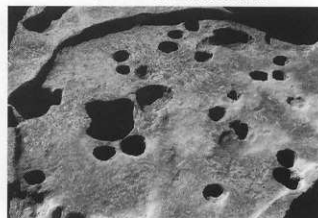
C区 第60号住居跡ビット内遺物出土状況



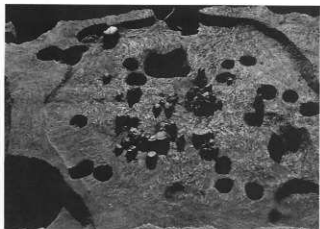
C区 第63~66号住居跡完掘状況



C区 第62号住居跡完掘状況



C区 第74号住居跡完掘状況



C区 第74号住居跡遺物出土状況



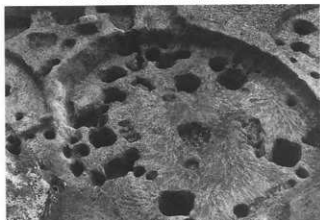
C区 第74号住居跡遺物出土状況



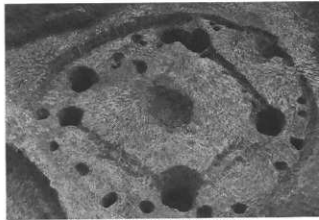
C区 第74・75号住居跡完掘状況



C区 第75号住居跡遺物出土状況



C区 第78号住居跡完掘状況



C区 第79号住居跡完掘状況



C区 第79号住居遺物出土状況



C区 第79号住居跡遺物出土状況

图版28



C区 第78·79号住居跡調査状況



C区 第85号住居跡完掘状況



C区 第85号住居跡埋甕出土状況



C区 第91号住居跡遺物出土状況



C区 第91号住居跡内土坑遺物出土状況



C区 第92号住居跡(第2号土坑)遺物出土状況



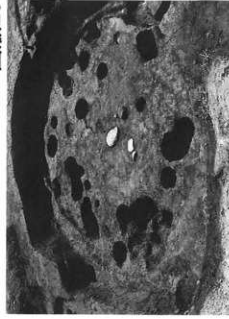
C区 第91~93号住居跡完掘状況



C区 第92号住居跡遺物出土状況



C区 第92号住居跡遺物出土状況



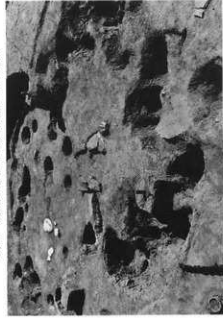
C区 第92号住居跡完掘状況



C区 第92号住居跡遺物出土状況



C区 第96号住居跡遺物出土状況



C区 第93・96号住居跡完掘状況



C区 第94号住居跡炉出土状況



C区 第97号住居跡完掘状況



C区 第97号住居跡炉完掘状況

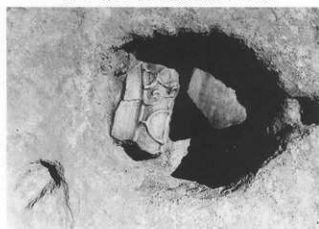
図版30



C区 第97号住居跡遺物出土状況



C区 第97号住居跡出土状況



C区 第97号住居跡ピット1遺物出土状況



C区 調査状況



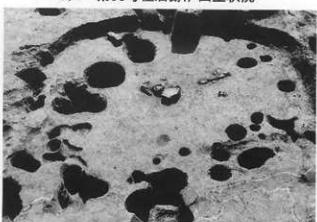
C区 第98号住居跡遺物出土状況



C区 第98号住居跡炉出土状況



C区 第100号住居跡遺物出土状況



C区 第101号住居跡遺物出土状況



C区 第52·102号住居跡完掘狀況



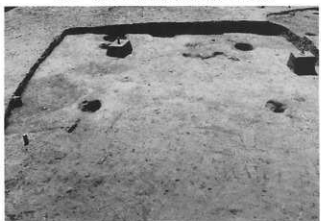
C区 第103号住居跡完掘狀況



C区 第104号住居跡遺物出土狀況



C区 第106号住居跡遺物出土狀況



C区 第106号住居跡完掘狀況



C区 町第7号住居跡完掘狀況



C区 町第7号住居跡遺物出土狀況



C区 町第7号住居跡遺物出土狀況



C区 第13号土坑完掘状况



C区 第22号土坑完掘状况



C区 第20号土坑遗物出土状况



C区 第20号土坑遗物出土状况



C区 第25号土坑遗物出土状况



C区 第25号土坑半截出土状况



C区 第27号土坑遗物出土状况



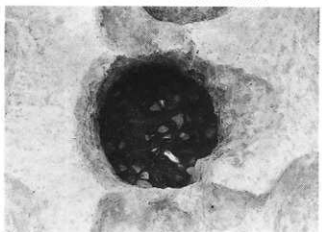
C区 第28~29号土坑遗物出土状况



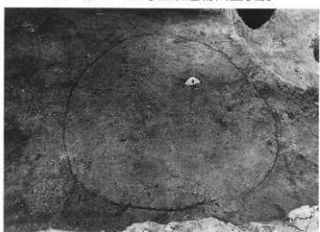
C区 第35号土坑遗物出土状况



C区 第38·39号土坑遗物出土状况



C区 第55号土坑遗物出土状况



C区 第56号土坑遗物出土状况



C区 第63·64号土坑遗物出土状况



C区 第82号土坑遗物出土状况



C区 第92~94号土坑遗物出土状况



C区 第96·97号土坑遗物出土状况



C区 第97号土坑遺物出土状況



C区 第98号土坑遺物出土状況



C区 第98号土坑遺物出土状況



C区 調査状況



C区 第101号土坑遺物出土状況



C区 第111～112号土坑遺物出土状況



C区 第129号土坑遺物出土状況



C区 第135号土坑遺物出土状況



C区 第142·143号土坑遗物出土状况



C区 第146号土坑遗物出土状况



C区 第147号土坑遗物出土状况



C区 第153号土坑遗物出土状况



C区 第164号土坑遗物出土状况



C区 第171号土坑遗物出土状况



C区 第174~179号土坑遗物出土状况



C区 第174~179号土坑遗物出土状况



C区 第174~179号土坑遗物出土状况



C区 第174~179号土坑遗物出土状况



C区 第174~179号土坑遗物出土状况



C区 第180号土坑遗物出土状况



C区 第187·188号土坑遗物出土状况



C区 第179·181·182号土坑遗物出土状况



C区 第181·182号土坑遗物出土状况



C区 第185号土坑遗物出土状况



C区 第187号土坑遗物出土状况



C区 第190号土坑遗物出土状况



C区 第192号土坑遗物出土状况



C区 第193号土坑遗物出土状况



C区 第195号土坑遗物出土状况



C区 第196号土坑遗物出土状况



C区 第199号土坑遗物出土状况



C区 第199号土坑遗物出土状况



C区 第202号土坑遗物出土状况



C区 第203号土坑遗物出土状况



C区 第204号土坑遗物出土状况



C区 第205号土坑遗物出土状况



C区 第206号土坑遗物出土状况



C区 第208·209号土坑遗物出土状况



C区 第215号土坑遗物出土状况



C区 第215号土坑遗物出土状况



C区 第218号土坑遗物出土状况



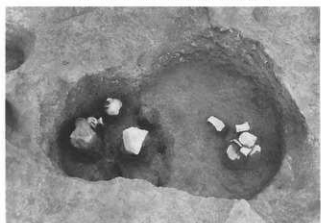
C区 第220号土坑遗物出土状况



C区 第221号土坑遗物出土状况



C区 第231号土坑遗物出土状况



C区 第223·224号土坑遗物出土状况



C区 第223号土坑遗物出土状况



C区 第241·242号土坑遗物出土状况



C区 第244号土坑遗物出土状况

図版40



C区 第247号土坑遺物出土状況



C区 第247号土坑遺物出土状況



C区 第248号土坑遺物出土状況



C区 第253号土坑遺物出土状況



C区 第1号集石出土状況



C区 集落中央部分遺構分布状況



C区 調査状況



D区 第1·1'号住居跡完掘狀況



D区 第1号住居跡遺物出土狀況



D区 第2号住居跡調査狀況



D区 第2号住居跡完掘狀況



D区 第2号住居跡炉出土狀況



D区 第3号住居跡完掘狀況



D区 第3号住居跡遺物出土狀況



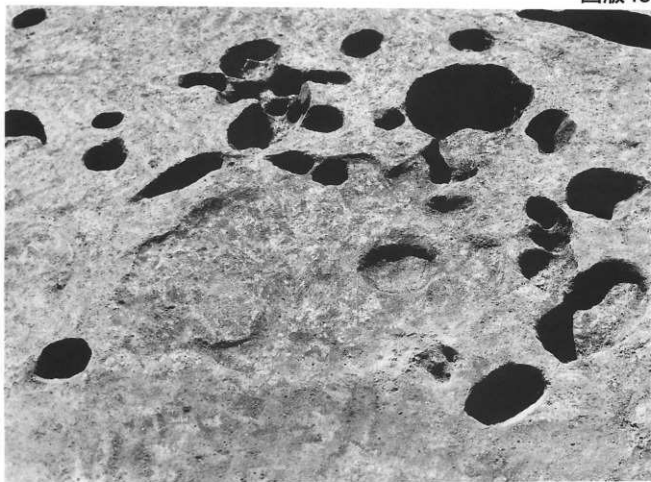
D区 第3号住居跡遺物出土狀況



D区 第3号住居跡炉出土狀況



D区 第4号住居跡完掘狀況



D区 第5号住居跡完掘状況



D区 第9号住居跡遺物出土状況



D区 第9号住居跡遺物出土状況



D区 第11号住居跡完掘状況



D区 調査状況



D区 第10号住居遺物出土状況（焼失家屋）



D区 第10号住居跡遺物出土状況



D区 第10号住居跡完掘状況



D区 調査状況



D区 調査状況



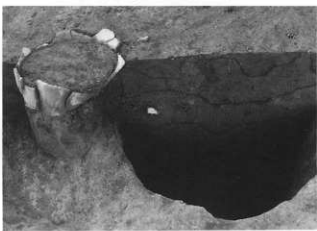
D区 第7号土坑遗物出土状况



D区 第17号土坑遗物出土状况



D区 第27号土坑遗物出土状况



D区 第1号埋葬出土状况



D区 第59号土坑遗物出土状况



D区 第83号土坑遗物出土状况



D区 第87·90·106·107号土坑遗物出土状况



C区 第149~151号土坑遗物出土状况



D区 第153号土坑遗物出土状况



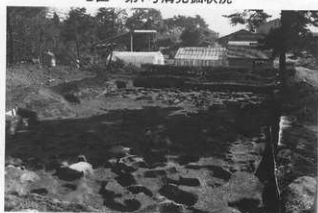
D区 第156号土坑遗物出土状况



D区 第1号溝完掘状况



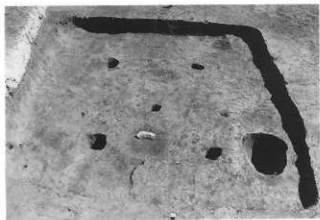
D区 第152号土坑遗物出土状况



D区 調査区全景



E区 調査区全景



E区 第1号住居跡完掘状況



E区 第1号住居跡炉半載状況



E区 第1号土坑遺物出土状況



E区 第2号土坑遺物出土状況



E区 第168号土坑遺物出土状況



E区 第81号土坑完掘状況



E区 調査状況



E区 第1号埋甕出土状況



F区 調査区全景



F区 第1号住居跡炉(トレンチ)



F区 第12号土坑遺物出土状況



F区 第19号土坑遺物出土状況



G区 調査区全景



G区 第2号住居跡完掘状況



G区 第1~2号土坑遺物出土状況



G区 第1号土坑遺物出土状況



G区 調査区全景



G区 第1号住居跡炉出土状況



H区 第1号住居跡完掘状況



現地説明会



酒呑場遺跡全景（航空写真）



地主小尾庄四郎宅に存在する発掘記念額



石器類を基礎にした記念碑跡（穂見諏訪十五所神社）

酒呑場遺跡 (1・2次) 報告書抄録

ふりがな	さけのみばいせき											
書名	酒呑場遺跡 (第1・2次) 一遺構編一											
副題	酪農試験場新・改築工事に伴う発掘調査報告書											
シリーズ	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第135集											
編著者名	野代幸和											
発行者	山梨県教育委員会											
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター											
住所・電話番号	山梨県東八代郡中道町下曾根923 ☎0552-66-3016											
印刷日・発行所	1997年3月24日・1997年3月31日											
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因				
		市	町						村	遺跡番号		
酒呑場	山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条621-2外	1	9	4	0	5	全国遺跡地図 山梨県 山梨5-20 県番号 48-12	35度 48分 58秒	138度 22分 16秒	第1次調査 199409101 -19950110 試掘調査 19950414 -19950418 第2次調査 19950425 -19951207	1,500 120 5,400	酪農試験場新 ・改築工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺跡	主な遺物		特記事項						
酒呑場 (A区～H区)	集落跡・墓	縄文	住居跡 土坑 配石墓 溝 その他、野外埋甕、 焼土跡、ピット群など	土器 (深鉢形・浅鉢形・ ミニチュア・器台・特殊 異形・彩色など)、石 器 (各種)、土偶 (白 色顔料が塗布されたもの など)、土製品 (装 飾品・円盤・鈴など)、 石製品 (装飾品など)、 炭化物 (クリ、ドン グリ、クルミなど)、 骨片など		前期 (諸磯a・b式期)、中 期(五領ヶ台式・曾利式期)、 後期 (称名寺式期) の各 期における住居跡を確認。 特に中期では前半期と後半 期における環状集落が認め られ、大規模な拠点集落 遺跡と考えられる。						
			古墳	竪穴住居跡 掘立柱建物跡 土坑	土師器、炭化材、石製 品 (磨石など)、鉄製 品 (刀子、鏃) など		前期の集落を確認。 大部分の住居跡が焼失家屋 である。					
	近世	溝										
	太平洋戦争関連	現代 (昭和)	ドラム罐埋設坑	木片		アルコール類を保管か						

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第135集

酒呑場遺跡—遺構編—

(第1・2次調査)

—酪農試験場・改築工事に伴う発掘調査報告書—

印刷日 1997年3月24日

発行日 1997年3月31日

編集 山梨県埋蔵文化財センター

発行 山梨県教育委員会

印刷 株峽南堂印刷

題字 大塚初重所長

